

第183図 A区58・59号住居跡

A区 60号住居跡 (第184・185図 PL73・153)

位置 2R-10グリッド

重複 近世の耕作痕が3条、本住居の東西方向に掘り込んである。

形状 東西2.42m、南北3.93m。長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 11.17㎡

方位 N-117°-E

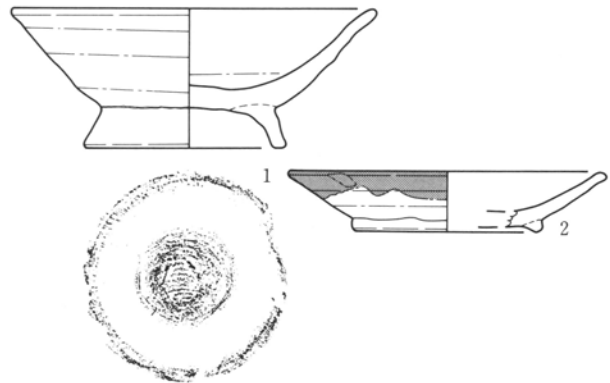
床面 残りの良いところで遺構確認面から34cm掘り込んで床面になる。床高は79.19mを測る。床面は黒褐色土に砂質の灰黄褐色土を多く含んだ土でできている。硬く踏み固められた床面が竈の前から住居の中央部に広がって検出された。焼土や粘質土も少量含まれていた。また、この硬い床面下から土坑状のものが2基検出された。床下土坑1は平面形が楕円形で、長径74cm・短径58cm、深さ8cmを測る。床下土坑2は径36cm、深さ12cmを測る。覆土はどちらも暗褐色土で焼土、粘質土が混入していた。

貯蔵穴 本住居の南西コーナー付近に貯蔵穴1が検出された。径78cm、深さ38cmを測る。覆土は黒褐色に砂質の灰黄褐色土が多く混入した土であった。また、東壁付近に貯蔵穴2が検出された。径62cm、深さ8cmを測る。覆土は同じく、黒褐色に砂質の灰黄

褐色土が多く混入した土であった。

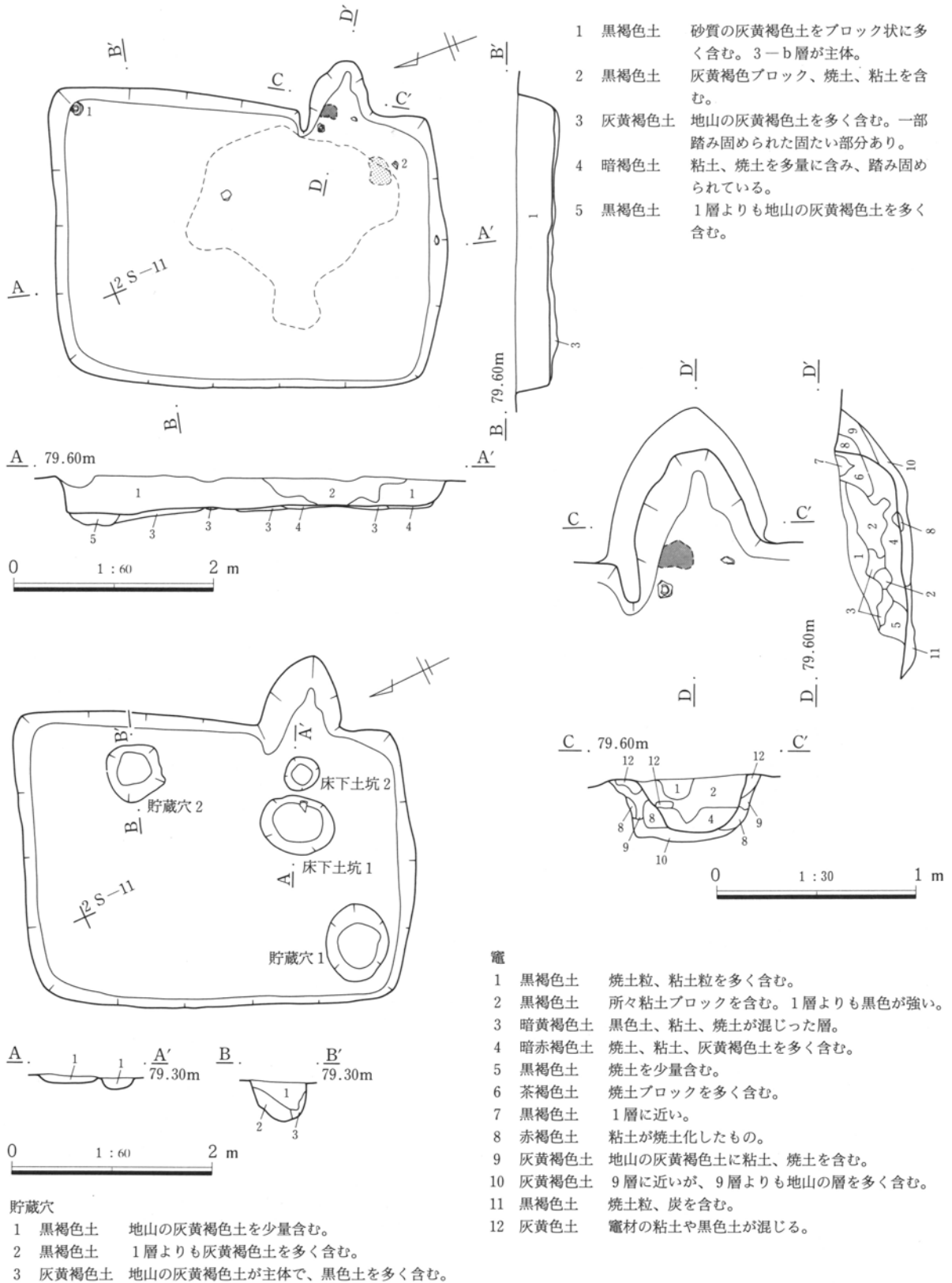
竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。左袖部から煙道部にかけて黄褐色粘質土が検出された。右袖部分からは検出されなかった。支脚石などに使用されたと思われる石材は検出されなかった。焼土は燃烧部内の左壁面、底面及び煙道部に集中して検出された。また、竈の覆土を見ると竈の天井材として使われた暗黄褐色粘質土の焼土粒が混入したものがあつた。更に、燃烧部内から土器片も出土した。燃烧部は両袖方向51cm、煙道方向68cmを測る。

遺物 須恵器碗、灰釉陶器皿が出土している。



第184図 A区60号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第185図 A区60号住居跡、掘り方、竈

A区 60号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 埴	2/3 口径(14.3) 器高5.5 底径 7.7	床直	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部、体部ともに直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。高台部は内外面ともに外傾。付け高台 左回転ロクロ成形。
2	灰釉陶 器 高 台付皿	口~底部 1/5 口径(12.4) 器高2.4 底径 (7.2)	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	やや丸みを帯びて緩やかに立ち上がる。口縁に輪花と思われるへこみあり。高台の外面は弧状。内面は外傾。右回転ロクロ成形。 施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。

A区 61号住居跡 (第186図 PL74)

位置 2 T-11グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区14号方形周溝墓を掘り込んで造られている。そのためか、住居覆土が平安時代の他の竪穴住居跡に比べて黒色が強い。

形状 東西2.54m、南北3.35m。長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。

面積 8.35m²

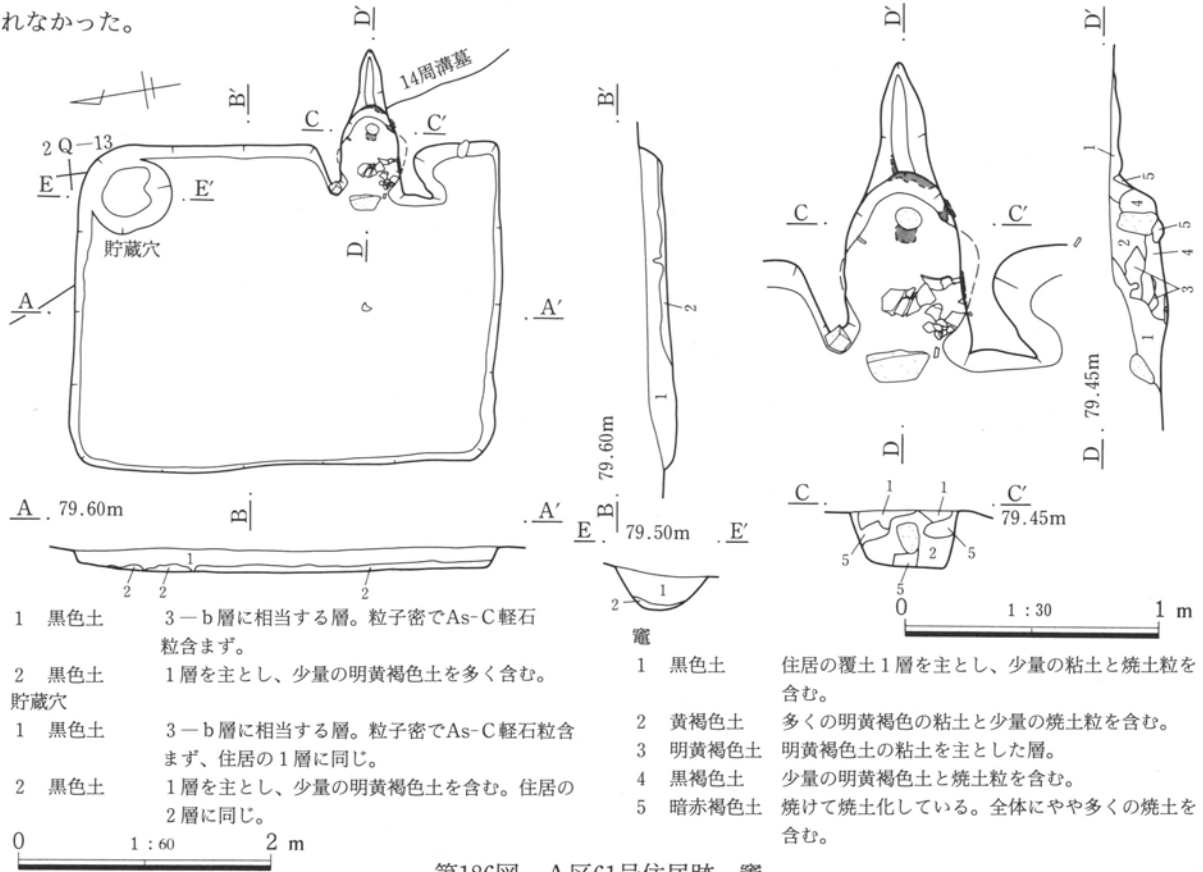
方位 N-97°-E

床面 残りの良いところで遺構確認面から16cm掘り込んで床面になる。床高は79.20mを測る。床面は軽石粒をあまり含まない黒色土に明黄褐色土を含んだ土でできている。硬く踏み固められた床面は検出されなかった。

貯蔵穴 本住居の北東コーナー付近に貯蔵穴が検出された。径65cm、深さ28cmを測る。覆土は黒色土に明黄褐色土が混入した土であった。

竈 東壁面の南寄り掘り込んで造られていた。両袖部から煙道部にかけて黄褐色粘質土が検出された。特に右袖部分の前には大量の粘質土が検出された。この粘質土は右袖部分が手前に壊されて移動したと思われる。燃烧部内の壁面及び底面には焼土が廻っていた。また、支脚石として使用した17.4cm×10.1cm×8.6cm、重さ1,750g、粗粒輝石安山岩が検出された。燃烧部内から土器片も出土した。燃烧部は両袖方向46cm、煙道方向104cmを測る。

遺物 須恵器坏の破片が出土している。



第186図 A区61号住居跡、竈

A区 62号住居跡 (第187・188図 PL74・75・153・154)

位置 2 T-11グリッド

形状 攪乱土坑に北東コーナー部を掘り込まれているが、長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。東西2.97m、南北3.83m。

面積 11.01m²

方位 N-110°-E

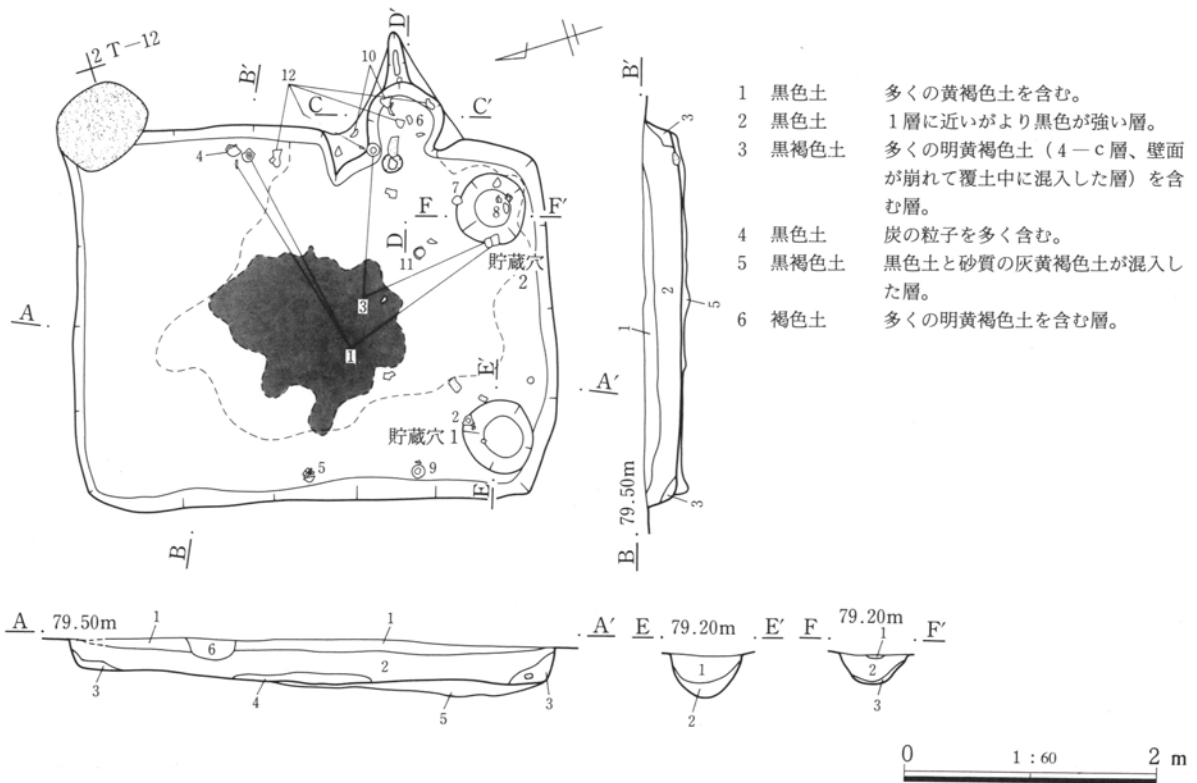
床面 残りの良いところで遺構確認面から28cm掘り込んで床面になる。床高は79.16mを測る。床面は多くの黄褐色土を含んだ黒色土でできている。硬い床面は竈の前から住居の中央部にかけて検出された。更にその真ん中に炭の粒子を多く含む箇所も検出された。

貯蔵穴 本住居の南西コーナー付近に貯蔵穴1が検出された。径60cm、深さ31cmを測る。覆土は黒褐色土に砂質の灰黄褐色土が混入した土であった。また、

竈の近くの住居南東部付近の床下から径55cm、深さ22cmを測る貯蔵穴2が検出された。覆土は焼土粒、粘質土、黒色土、地山の灰黄褐色土の混入した土であった。中から土器片も出土した。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。遺構確認面の状態では竈全面を黄褐色粘質土が覆っていた。断面を確認して行くとこれらの粘質土はこの竈の天井材が崩れたものであることがわかった。燃焼部内の焼土はあまり残りが良くなかった。また、支脚石として使用した19.4cm×8.3cm×4.9cm、重さ1,100gの粗粒輝石安山岩が検出された。燃焼部内から土器片も出土した。燃焼部は両袖方向33cm、煙道方向100cmを測る。

遺物 須恵器坏のほぼ完形のもの、埴のほぼ完形のもの、土釜が出土している。



貯蔵穴1

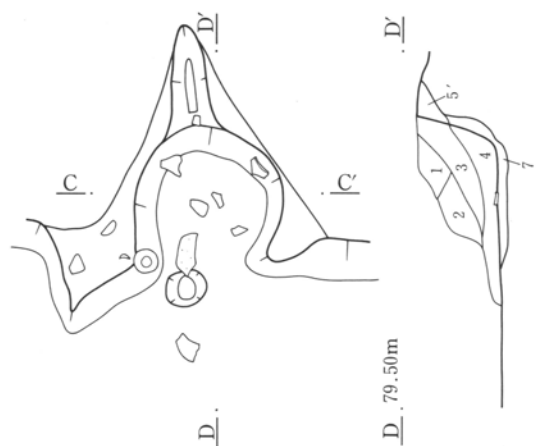
- 1 灰黒褐色土 住居覆土に近い黒褐色土層中に多くの灰黄褐色土(4-d層)を含む。
- 2 灰褐色土 灰黄褐色土(4-d層)を主とし、少量の黒褐色土を含む。

貯蔵穴2

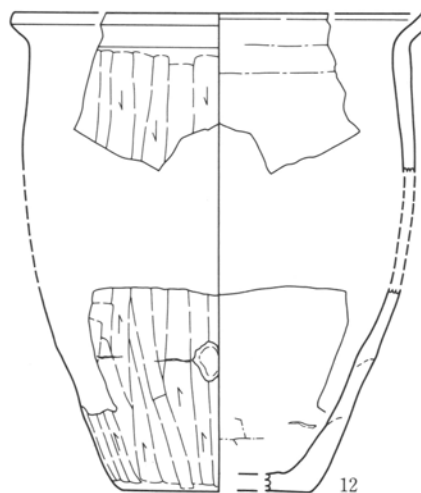
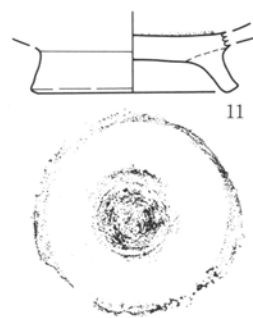
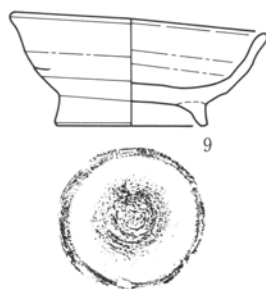
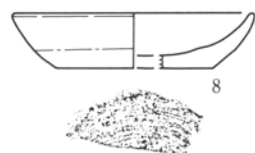
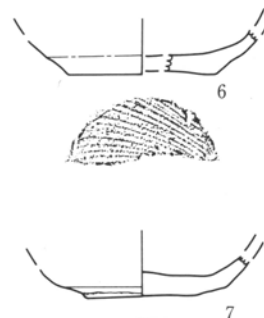
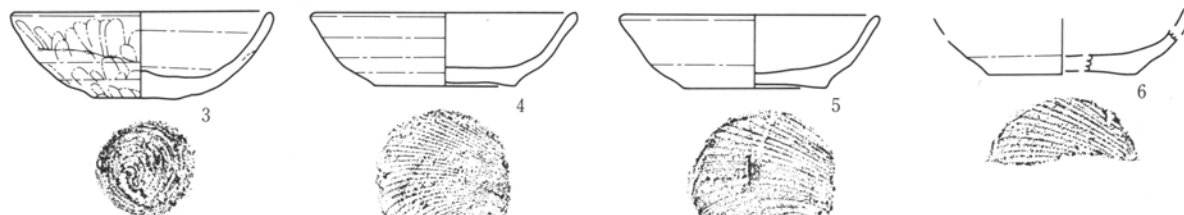
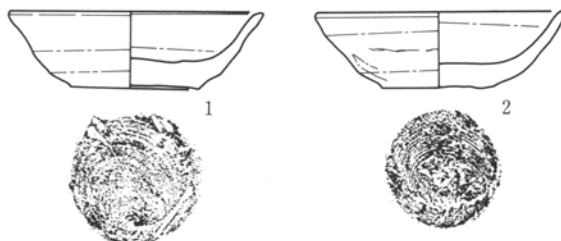
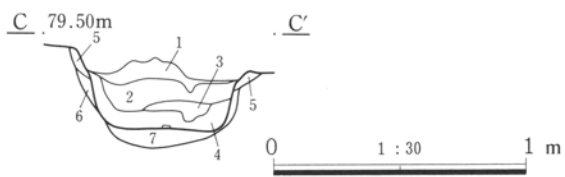
- 1 黒褐色土 固まっていて床面である。
- 2 灰黄褐色土 焼土粒地山の灰黄褐色土を多く含む。粘質土も含む。
- 3 灰黄褐色土 砂質で細かい粒。地山。

第187図 A区62号住居跡

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物



- 竈
- 1 黒褐色土 黒色土に少量の黄褐色粘質土を含む。
 - 2 暗黄褐色土 粘質土を主とした層。
 - 3 赤褐色土 粘質土が主体で焼土化した部分を含む。
 - 4 黒褐色土 少量の炭、焼土粒を含む。
 - 5 黒褐色土 1層よりも粘質土を含む。
 - 5' 黒褐色土 5層に近いが焼土粒を多く含む。
 - 6 赤褐色土 粘質土が焼土化した部分。
 - 7 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土に粘質土粒、焼土粒が混じる。



第188図 A区62号住居跡竈、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

A区 62号住居

番号	器種	残存 法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	ほぼ完形 口径10.0 器高3.0 底径 5.0	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部が張り、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	須恵器 坏	2/5 口径(9.7) 器高3.0 底径 4.5	貯蔵穴	①輝石 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	腰部が張り、体部からは直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
3	須恵器 坏	3/4 口径10.3 器高3.4 底径 3.8	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。体部外面はロクロ成形後ナデ。底部は右回転 糸切り。
4	須恵器 坏	ほぼ完形 口径10.5 器高2.9 底径 5.6	床直	①軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③赤色	腰部が張り、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。底部は静止糸切り。
5	須恵器 坏	1/3 口径(10.2) 器高 2.9 底径 5.7	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 やや軟質 ③にぶい赤褐色	腰部が張り、口縁部はやや外反する。 右回転ロクロ成形。底部は静止糸切り。
6	須恵器 坏	体下位～底部 1/3 口径— 器高(1.8) 底径 5.8	竈	①輝石 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明褐色	腰部が張る。 ロクロ成形。底部は静止糸切り。
7	須恵器 坏	底部 口径— 器高(1.5) 底径 4.4	床直	①輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
8	須恵器 坏	1/4 口径(9.5) 器高2.2 底径(6.2)	貯蔵穴	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
9	須恵器 埴	ほぼ完形 口径10.0 器高3.6～ 4.5 底径 5.8	床直	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部が張り、口縁部は外反する。高台部は内外面ともに外傾。付 け高台 右回転ロクロ成形。
10	須恵器 埴	ほぼ完形 口径10.4 器高4.0 底径 5.5	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③赤色	丸みを帯びて立ち上がる。高台部は内外面ともに外傾。付け高台 右回転ロクロ成形。内面に黒色の付着物あり。
11	須恵器 埴	底～高台部 口径— 器高(2.3) 底径 8.0	+15	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	高台部は内外面ともに外傾。付け高台 ロクロ成形。内面は黒色処理、篋磨き。
12	土師器 土釜	口縁部片、胴下位 ～底部片 口径(21.6) 器高(25.3)底径(10)	竈	①軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外反する口縁。端部は外側に面をもつ。底部から直線的に立ち上 がる胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデか。

A区 63号住居跡 (第189・190図 PL75・76・154)

位置 3A-11グリッド

形状 長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。

東西3.09m、南北3.94m。

面積 (12.42)m²

方位 N-115°-E

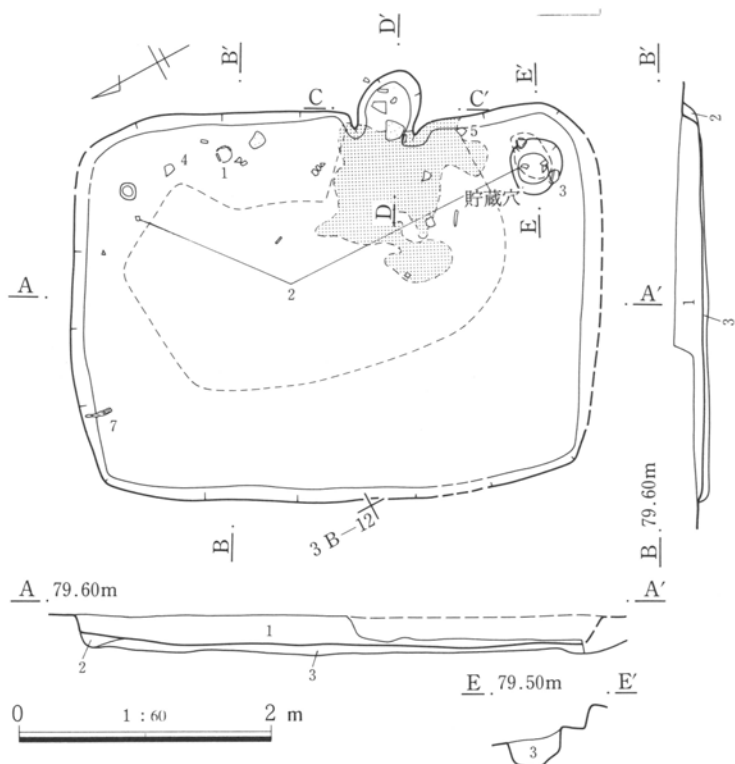
床面 住居の南西部が削平されていて残りが悪かった。残りの良いところで遺構確認面から14cm掘り込んで床面になる。床高は79.23mを測る。床面は多くの明黄褐色土に黒褐色土を含んでいる。硬い床面は竈の前から住居の中央部にかけて検出された。

貯蔵穴 本住居の南東コーナー付近に貯蔵穴が検出された。径45cm、深さ22cmを測る。覆土は多くの明

黄褐色土に黒褐色土を含んでいる土であった。この貯蔵穴の中から「白米」と墨書された須恵器埴(内黒磨き)が出土した。

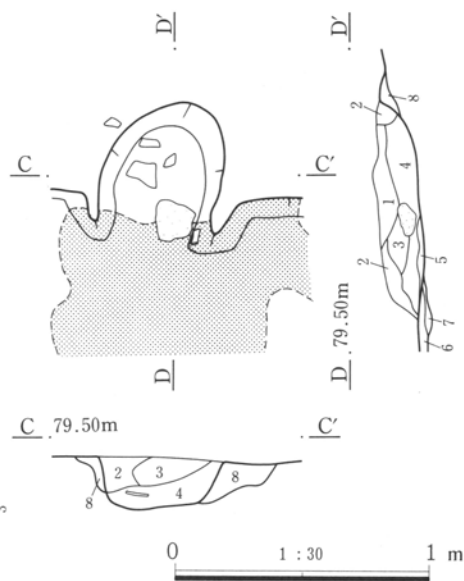
竈 東壁面の南寄り掘り込んで造られていた。削平されていて残りが悪かった。遺構確認面の状態では竈全面を黄褐色粘質土が覆っていると思われたが、地山の明黄褐色土であった。この住居は他の同時期の住居と異なり、黄褐色の粘質土を使用しないで地山の土を使用していることがわかった。燃焼部内の壁面に焼土が廻っていた。煙道部は削平されていた。また、支脚石として使用した15.0cm×16.0cm×6.4cm、重さ890g、軽石が検出された。燃焼部は両袖方向31cm、煙道方向57cmを測る。

遺物 前述した通り、須恵器塚で「白米」と墨書された内黒磨きの土器片が出土した。これ以外にも須恵器坏、羽釜、土釜、灰釉陶器塚が出土している。また、住居北壁付近から刀子も出土している。



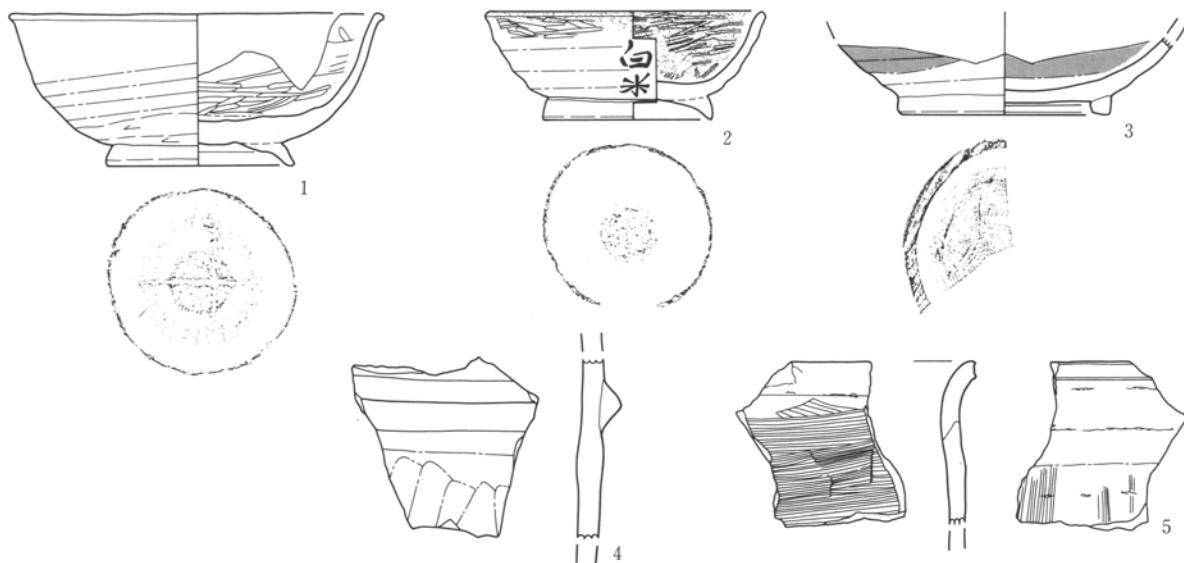
A区 63号住居・貯蔵穴

- 1 黒褐色土 3-b層を主体として、焼土粒、粘土粒も含む。
- 2 明黄褐色土 地山の明黄褐色土と黒色土の混入。
- 3 黒褐色土 砂質。2層にやや近い。2mm程の黄褐色土のブロックを少量含む。

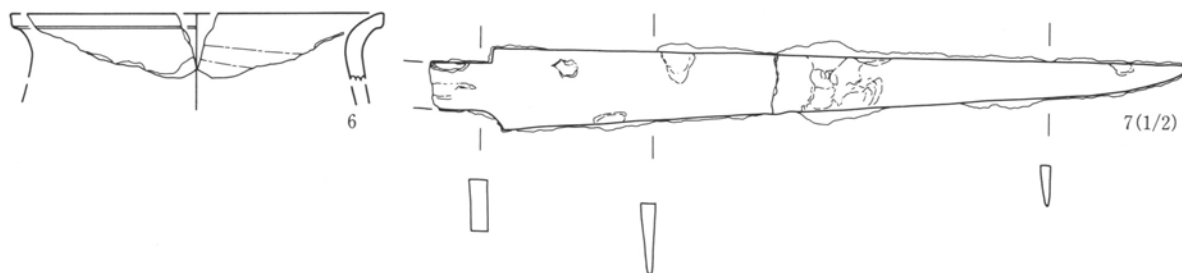


竈

- 1 黒褐色土 少量の焼土粒と焼土ブロックを含む。
- 2 明黄褐色土 4-c層を主とした層（他の住居と異なり、粘土は持ち込んでいない。地山の4-c層をとって作っていると思われる）。
- 3 赤褐色土 多くの焼土粒と焼土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 多くの明黄褐色土と少量の焼土粒を含む。
- 5 黒色土 多くの炭の粒子を含む。
- 6 明黄褐色土 明黄褐色土を主とした層。床面として使用されており固い。
- 7 暗褐色土 少量の焼土粒と炭を含む。
- 8 明黄褐色土 少量の焼土粒を含む。



第189図 A区63号住居跡、竈、出土遺物(1)



第190図 A区63号住居跡出土遺物(2)

A区 63号住居

番号	器種	残存法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 壺	3/5 口径(14.6) 器高6.0 底径 7.4	+10	①赤色細粒 ②酸化焰 やや軟質 ③橙色	腰部が張り、口縁部は外反する。高台部は内外面ともに外傾。付け高台。右回転ロクロ成形。体部下位外面に回転篋削り調整。底部外面に刻字あり。内面は篋磨き調整。
2	須恵器 壺	1/3 口径(10.5) 器高 4.3 底径 6.7	貯蔵穴	①輝石 1～3mmの明褐色粒 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁部はやや外反する。高台部の断面は三角形に近い。付け高台。右回転ロクロ成形。体部に「白米」の墨書あり。内面は黒色処理、篋磨き。
3	灰釉陶器 壺	体～底部 1/4 口径— 器高(3.0) 底径(8.2)	貯蔵穴	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	丸み帯びて立ち上がる。高台は直立気味。右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
4	羽釜	鏝部片 口径— 器高— 底径—	+6	①細砂 石英 ②酸化焰 軟質 ③灰黄褐色	鏝の断面は三角形でやや下方へ垂れる。 外面 鏝は横ナデ。以下はナデ。 内面 ナデ。
5	土師器 土釜	口縁部片 口径— 器高— 底径—	床直	①石英 輝石 2～3mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	緩やかに外反する口縁。端部は外側に面をもつ。底部から直線的に立ち上がる胴部。 外面 ハケメ。 内面 ハケメ。
6	土師器 土釜	口縁部片 口径(19.7) 器高(3.5) 底径—	覆土	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	丸みをもって外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
7	鉄製品 刀子	全長(22.0) 刃長18.5 最大幅2.3 最大厚さ0.5 重さ55	床直		身の部分の残りは良かったが、茎の残りは良くなかった。

A区 64号住居跡 (第191・192図 PL76・77・154)

位置 3A-16グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区1号道路を掘り込んで造られている。

形状 長軸を南北方向に持ち、隅丸長方形を呈する。東西2.39m、南北3.34m。

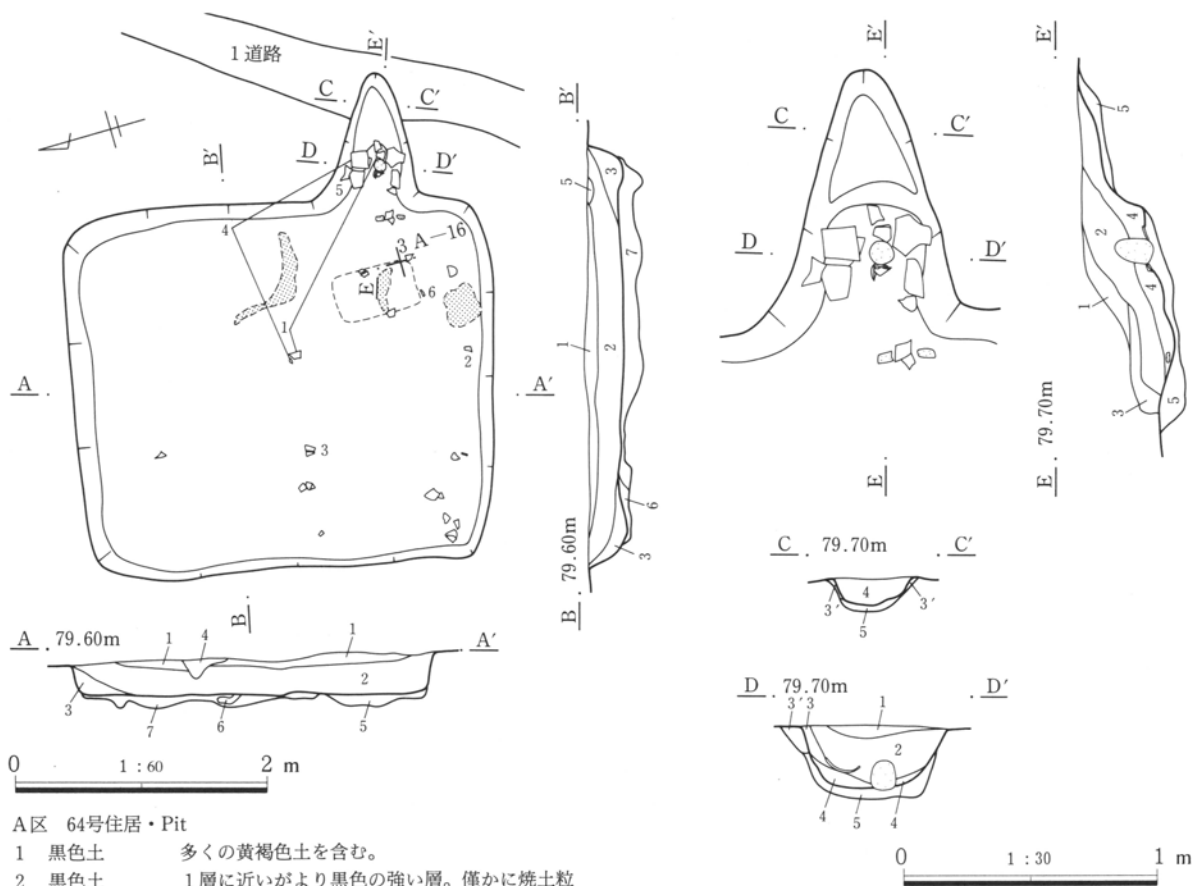
面積 9.73m²

方位 N-103°-E

床面 残りの良いところで遺構確認面から26cm掘り込んで床面になる。床高は79.26mを測る。床面は黒褐色土に多くの明黄褐色土を含んだ土できている。硬い床面は竈の前で検出された。竈の前の床面から竈の構築材と思われる粘質土が検出された。

ピット 本住居の南西コーナー付近に検出された。径40cm、深さ8cmを測る。貯蔵穴にしては浅いので、

ピットとして掲載した。覆土は明黄褐色土を主としていて砂質である。僅かに黒褐色土を含んでいる土であった。このピットの中から土器片が出土した。竈 東壁面の南寄り掘り込んで造られていた。燃焼部内の壁面、底面及び煙道部に焼土が残っていた。竈の覆土に黄褐色粘質土が混入しており、竈の天井材の崩れたものと思われる。また、竈の前にも同じ粘質土が検出されている。燃焼部内に支脚石として使用した13.8cm×9.6cm×9.1cm、重さ1,750g、粗粒輝石安山岩、及び数多くの土器片が出土した。燃焼部は両袖方向41cm、煙道方向106cmを測る。遺物 須恵器坏、羽釜、灰釉陶器壺、土釜が出土している。

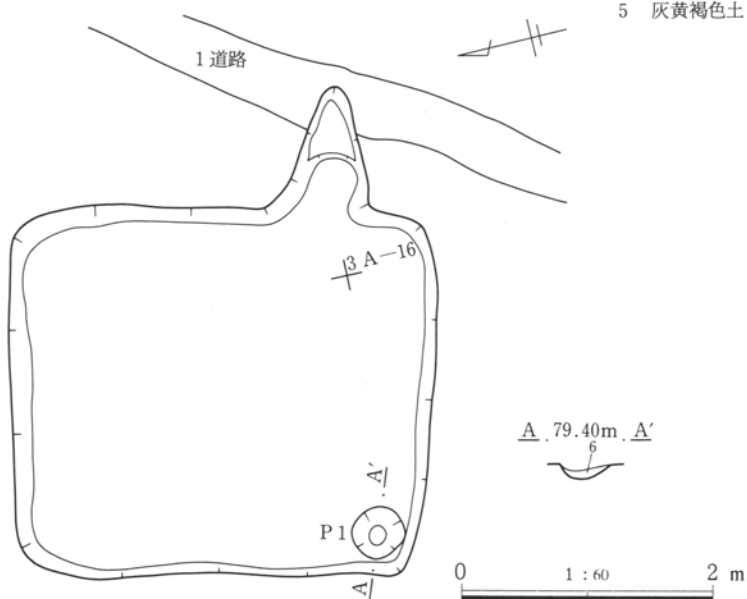


A区 64号住居・Pit

- 1 黒色土 多くの黄褐色土を含む。
- 2 黒色土 1層に近いがより黒色の強い層。僅かに焼土粒を含む。
- 3 黒褐色土 多くの明黄褐色土（4-c層）を含む。
- 4 暗褐色土 褐色土を主とし、少量の暗褐色土を含む。軟質。砂質。
- 5 暗黄褐色土 1~2cmの黄褐色のブロックを多く、黒色土を少量含む。
- 6 黒褐色土 少量の黄褐色土を含む。
- 7 暗黄褐色土 1cm内外の黄褐色のブロックを多く含む。

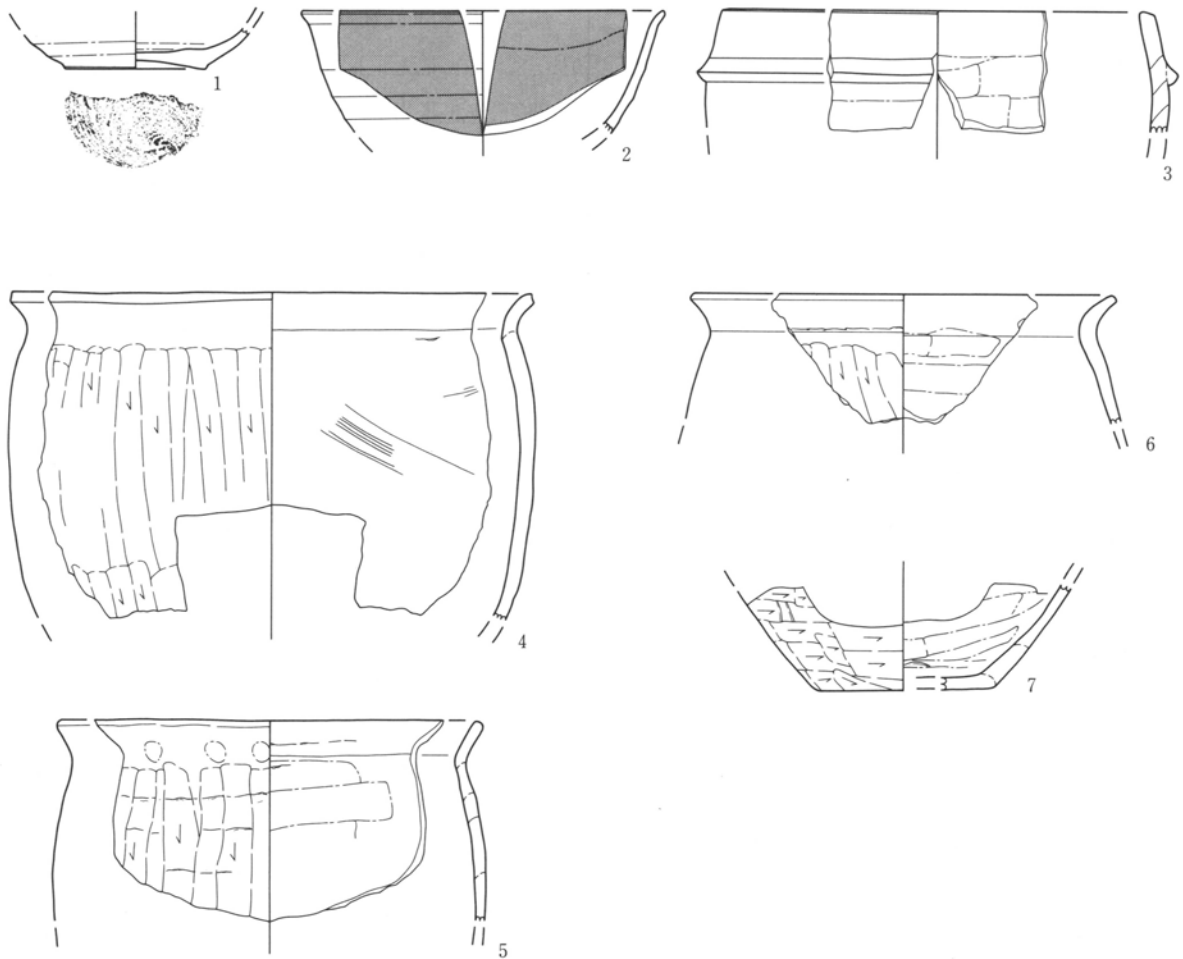
竈

- 1 黒褐色土 黒色土に粘質土を含む。
- 2 黒褐色土 黒色が強く、焼土粒が少ない。
- 3 暗黄褐色土 粘質土を主とした層で焼土化しているものもある。
- 3' 暗黄褐色土 3層と同じ粘質土主体の層であるが、特に焼土化したもの。
- 4 赤褐色土 黒褐色土の中に多くの焼土ブロックを含む。
- 5 灰黄褐色土 黒褐色土に地山の明黄褐色土、焼土粒が混じる。



第191図 A区64号住居跡、掘り方、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第192図 A区64号住居跡出土遺物

A区 64号住居

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	底部 1/2 口径— 器高(1.6) 底径(5.6)	竈	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	腰部が張る。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	灰釉陶 器 塊	口～体部 1/6 口径(14.3) 器高(5.3) 底径—	+6	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	腰部が張り、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
3	羽釜	口縁部片 口径(23.0) 器高(6.2) 底径—	+6	①細砂 石英 ②酸化焰 軟質 ③にぶい黄橙色	鐏の断面は三角形でやや下方へ垂れる。口縁は内湾する。 外面 口縁～鐏は横ナデ。 内面 ナデ。
4	土師器 土釜	口～胴部上半 1/4 口径(27.6) 器高(17.3) 底径—	竈	①輝石 1～2mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みをもって外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下ハケメカ。
5	土師器 土釜	口～胴部上半 1/4 口径(27.6) 器高(17.3) 底径—	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に外反する口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
6	土師器 土釜	口縁部片 口径(22.3) 器高(6.4) 底径—	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③灰黄褐色	くの字に外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 篋削り。 内面 ナデ。
7	土師器 土釜	胴下部～底部 口径— 器高(5.4) 底径(9.2)	覆土	①粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	底部から直線的に立ち上がる胴部。 外面 篋削り。 内面 ナデ。

A区 65号住居跡 (第193・194図 PL77・78・154)

位置 2T-13グリッド

形状 長軸を南北方向に持ち、隅丸長方形を呈する。東西2.47m、南北3.38m。幅20cm、深さ4cmの周溝が住居の内壁に沿って廻る。

面積 7.70㎡

方位 N-105°-E

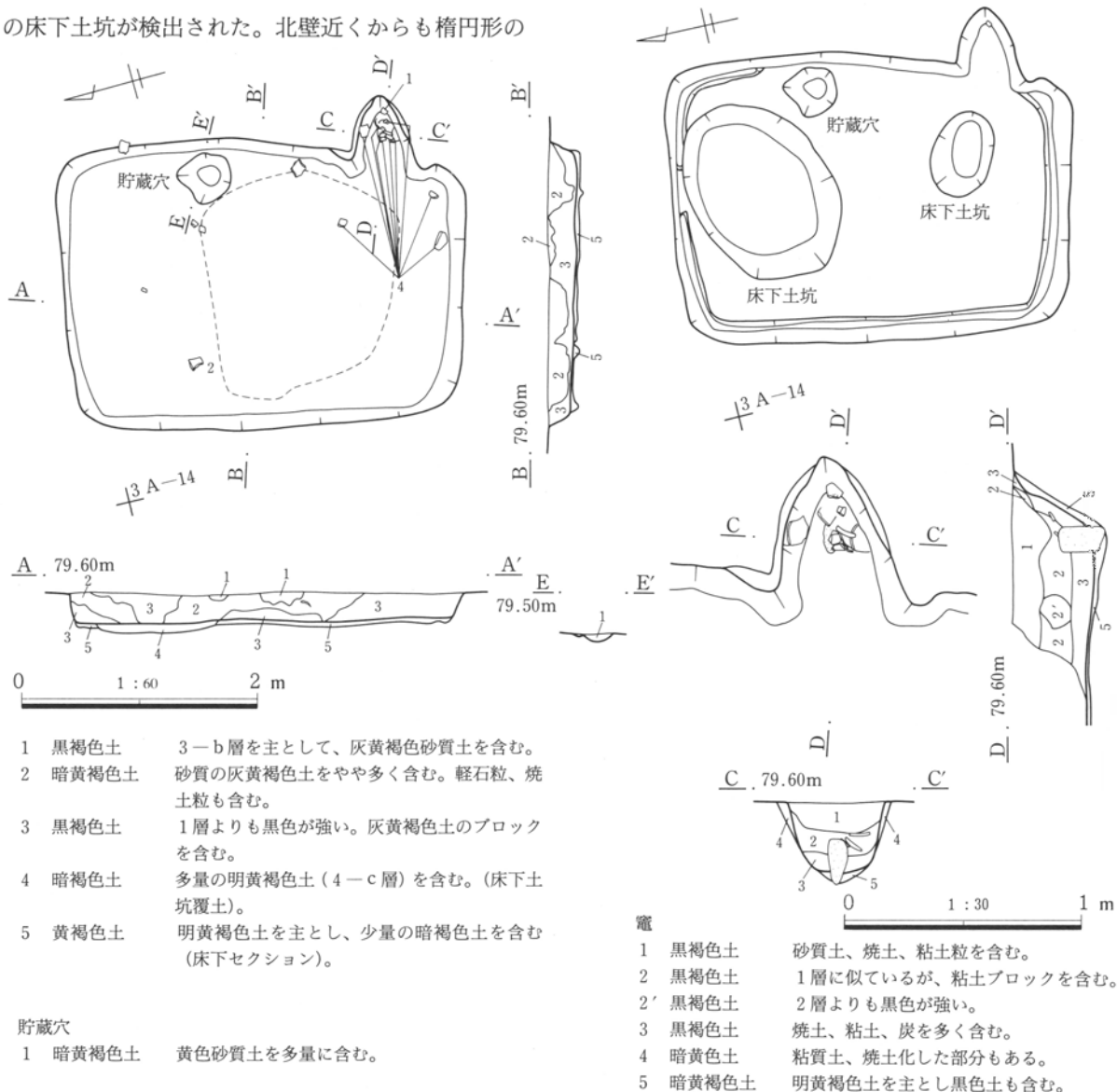
床面 残りのよいところで遺構確認面から23cm掘り込んで床面になる。床高は79.14mを測る。床面は明黄褐色土を主にした土でできている。踏み固められた硬い床面は竈の前で検出された。床下の竈前から平面形が楕円形で、長径72cm・短径52cm、深さ10cmの床下土坑が検出された。北壁近くからも楕円形の

長径165cm・短径69cm、深さ14cmの床下土坑が検出された。

貯蔵穴 本住居の東壁の北より付近に検出された。径45cm、深さ6cmを測る。覆土は明黄褐色土を主としていて砂質である。

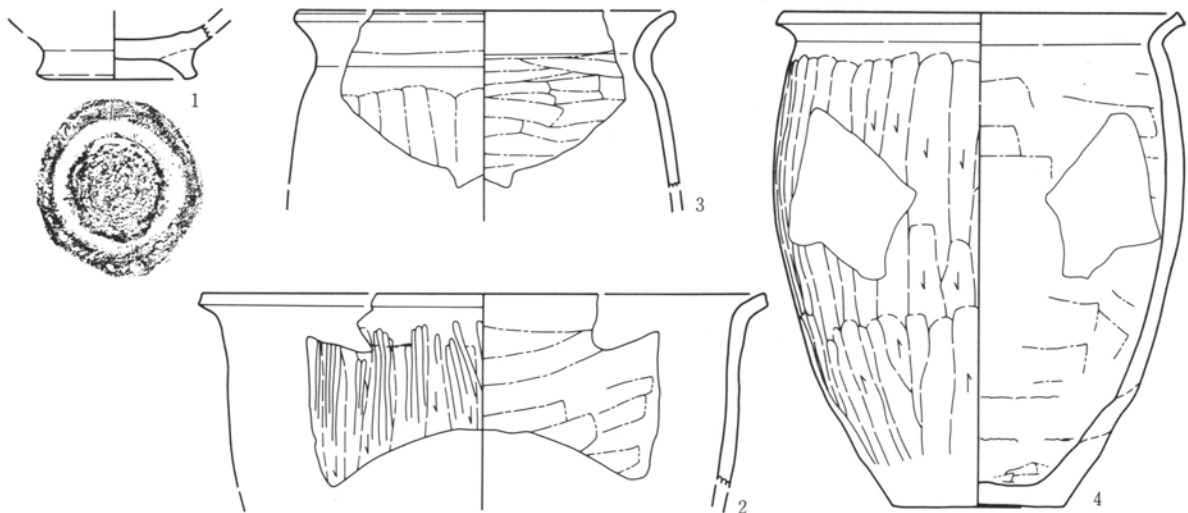
竈 東壁面の南寄り掘り込んで造られていた。燃焼部内の底面に焼土、粘土、炭が良く残っていた。燃焼部内に支脚石として使用した20.6cm×11.0cm×6.7cm、重さ2,250g、石英閃緑岩、及び土器片が出土した。燃焼部は両袖方向43cm、煙道方向67cmを測る。

遺物 須恵器壺、土釜が出土している。



第193図 A区65号住居跡、掘り方、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第194図 A区65号住居跡出土遺物

A区 65号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 埴	底部 口径— 器高(2.2) 底径 5.8	竈	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	高台は内外面ともに外傾。付け高台。 ロクロ成形。
2	土師器 土釜	口縁部片 口径(30.0) 器高(10.3) 底径—	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
3	土師器 土釜	口縁部片 口径(20.0) 器高(9.4) 底径—	覆土	①輝石 軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	くの字に屈曲する。口縁端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
4	土師器 土釜	1/2 口径 21.0 器高(26.4) 底径9.0	床直 竈	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字に外反する口縁。やや丸みのある胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下篋ナデ。

A区 66号住居跡 (第195・196図 PL78・155)

位置 70-1 グリッド

重複 本住居は古墳時代のA区36号住居を掘り込んで造られている。

形状 長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。東西2.71m、南北3.50m。

面積 9.58㎡

方位 N-67°-E

床面 残りの良いところで遺構確認面から12cm掘り込んで床面になる。床高は78.30mを測る。床面は多くの灰黄褐色土を含む暗黄褐色土できている。踏み固められた硬い床面は検出されなかった。

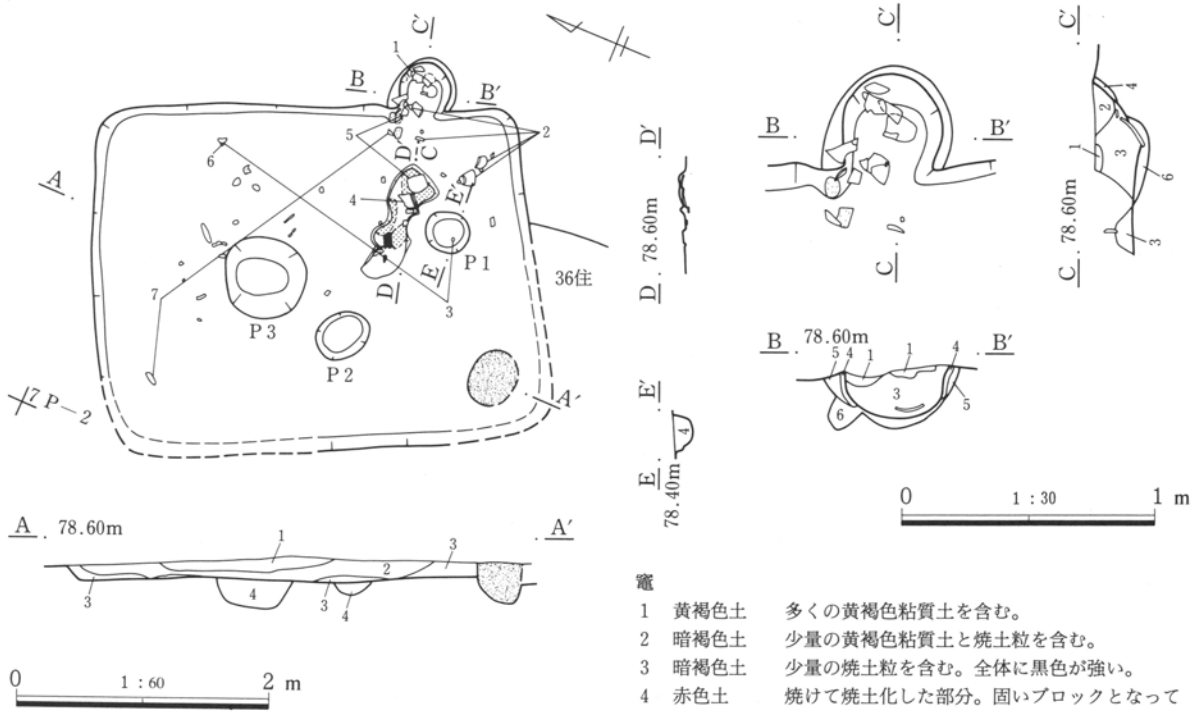
ピット 本住居の南壁付近からピット1、中央部よりピット2、中央部北壁寄りからピット3が検出された。ピット1は径39cm、深さ15cmを測る。ピット2は径43cm、深さ2cmを測る。ピット3は径68cm、

深さ3cmを測る。覆土は粘質で硬い暗黄褐色土である。床下より検出された。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。燃焼部内の壁面に焼土が良く残っていた。燃焼部はほぼ円形で、煙道部が検出できなかった。燃焼部内から土器片が出土した。燃焼部は両袖方向25cm、煙道方向48cmを測る。竈前に竈の構築材の粘土と思われる黄褐色粘質土が帯状に堆積していた。おそらく、竈が崩れた残骸と思われる。その下から羽釜と土釜の口縁部分が出土した。

遺物 須恵器坏、埴、羽釜、小型甕、土釜が出土している。

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物

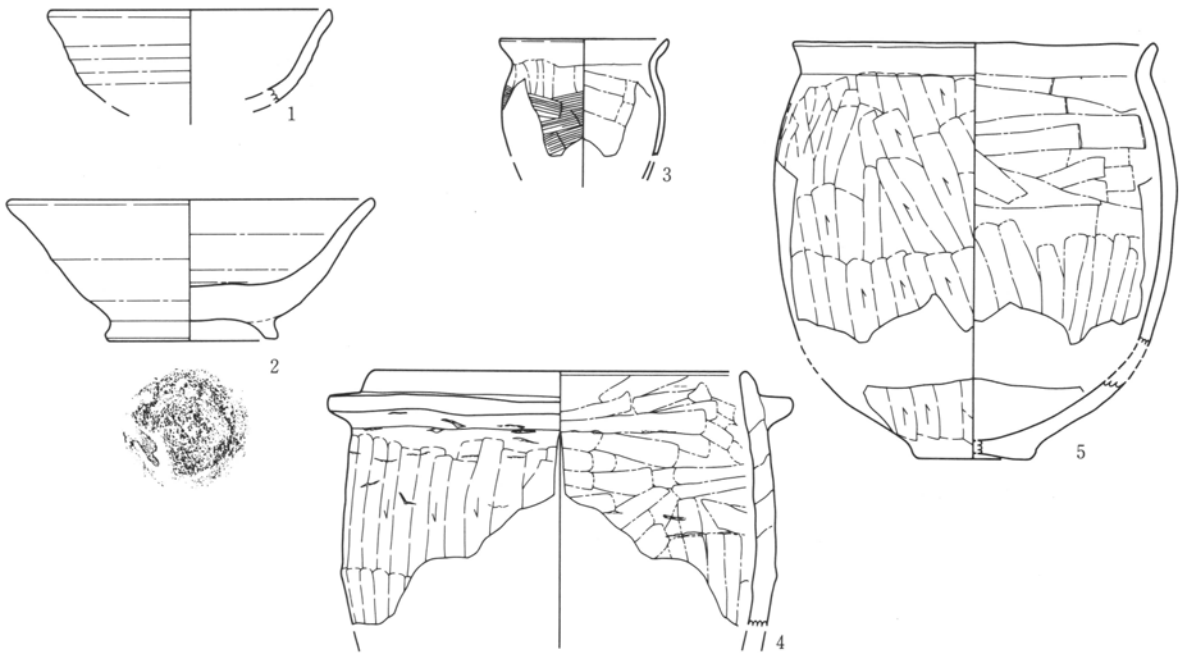


A区 66号住居・Pit

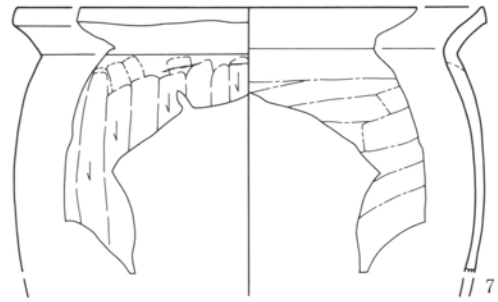
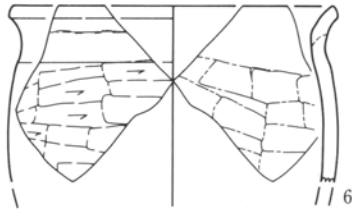
- 1 暗褐色土 3-b層を主とし、少量の灰黄褐色土粒と小ブロック（1～3mm）を含む。
- 2 暗褐色土 3-b層を主とする。1mm内外のやや褐色を帯びた灰白色軽石粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 3-b層を主とする。多くの灰黄褐色土粒と小ブロック（5～10mm内外）を含む。
- 4 暗褐色土 粘質で固い。1mm内外のやや褐色を帯びた灰白色軽石粒を多く含む。やや灰白を帯びている5mm内外の黄褐色ブロックを全体に含む。

竈

- 1 黄褐色土 多くの黄褐色粘質土を含む。
- 2 暗褐色土 少量の黄褐色粘質土と焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土 少量の焼土粒を含む。全体に黒色が強い。
- 4 赤色土 焼けて焼土化した部分。固いブロックとなっている。
- 5 暗灰褐色土 黄褐色粘質土を主とし、少量の焼土粒を含む。
- 6 暗灰褐色土 4-d層に相当する層を主とし、焼土粒を含む。



第195図 A区66号住居跡、竈、出土遺物(1)



第196図 A区66号住居跡出土遺物(2)

A区 66号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	口縁部 1/4 口径(11.0) 器高(3.7) 底径—	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	腰部が張り、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。
2	須恵器 塊	ほぼ完形 口径14.3 器高5.6 底径 7.7	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 軟質 ③黄橙色	腰部、体部は直線的に立ち上がり口縁部は外反する。高台は内外面ともに外傾。付け高台。 右回転ロクロ成形。
3	土師器 小型甕	口～胴部 1/5 口径(8.8) 器高(6.3) 底径—	床直	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部にやや直立する部分がある。口縁は外反し、端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。頸部はナデ。以下ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
4	羽釜	口～胴上半 口径(19.8) 器高(13.5) 底径—	床直	①粗砂 石英 輝石 ②還元焰 硬質 ③赤褐色	大きめな罫。口縁は内湾し、短い。 外面 口縁～罫は横ナデ。以下篋削り。 内面 ナデ。
5	土師器 土釜	口～胴上半 1/4 口径(19.0) 器高(22) 底径(6.0)	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字に屈曲する口縁。丸みのある胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。底部はナデか。 内面 口縁は横ナデ。以下篋ナデ。
6	土師器 土釜	口縁部片 口径(17.0) 器高(9.4) 底径—	+9	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	緩やかに屈曲する口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下篋ナデ。
7	土師器 土釜	口～胴上半部片 口径(24.8) 器高(14.1) 底径—	床直	①粗砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に屈曲する。口縁端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下篋ナデ。

A区 69号住居跡 (第197・198図 PL79・155)

位置 7L-0グリッド

重複 本住居は縄文時代のA区71号住居を掘り込んで造られている。また、奈良・平安時代のA区7号溝の上に造られている。

形状 長軸を東西方向にもち、隅丸長方形を呈する。東西3.95m、南北3.03m。

面積 11.47㎡

方位 N-15°-W

床面 残りの良いところで遺構確認面から21cm掘り込んで床面になる。床高は78.42mを測る。床面は砂質の灰黄褐色土を含む黒褐色土でできている。踏み固められた硬い床面は7号溝の上部を除く、ほぼ全面で検出されている。

貯蔵穴 本住居の北東コーナー付近から貯蔵穴1、南東コーナーより貯蔵穴2が検出された。どちらも

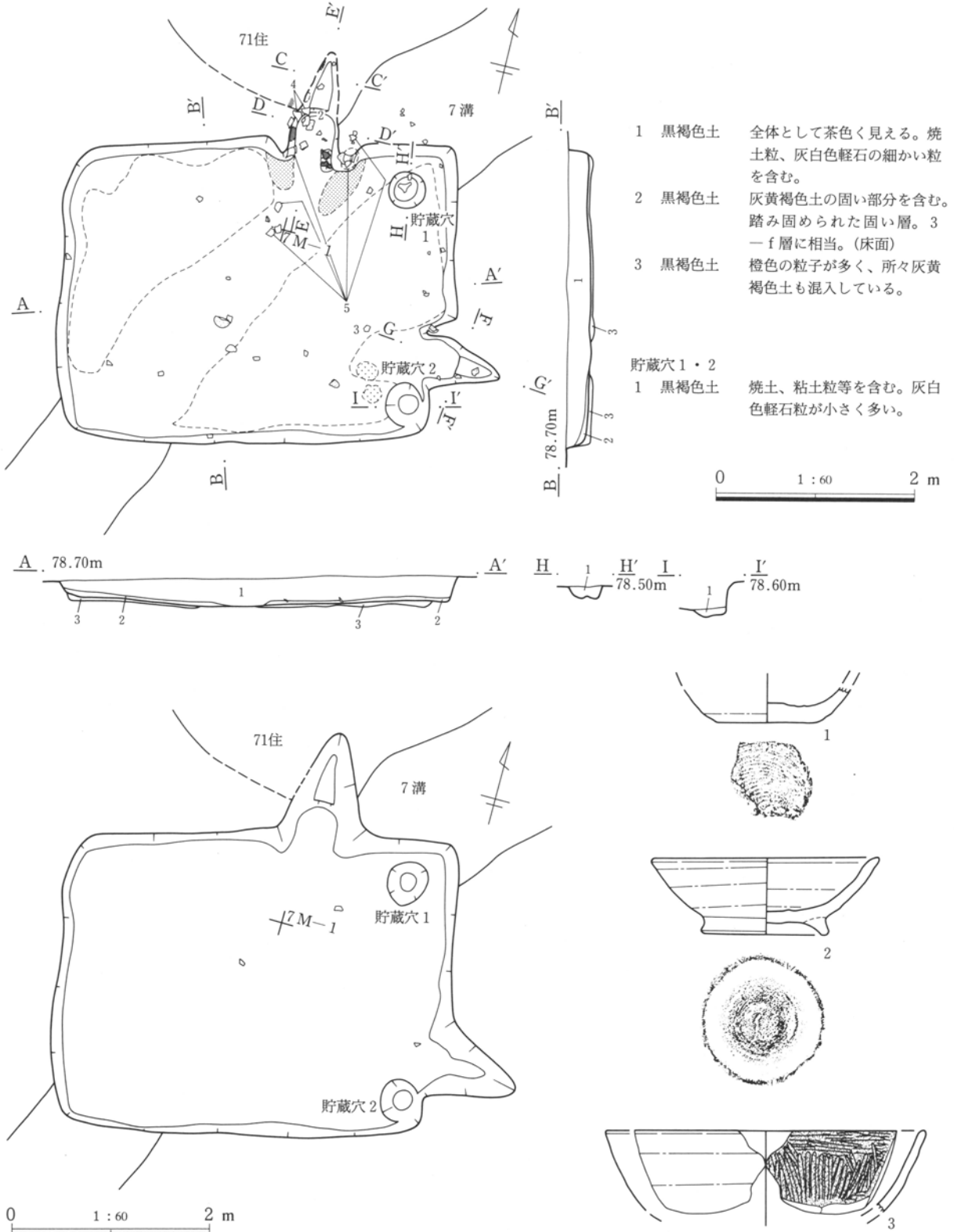
新旧竈の右袖前にあたる。貯蔵穴1は径36cm、深さ14cmを測る。貯蔵穴2は径43cm、深さ10cmを測る。覆土は黒褐色土で、焼土粒、粘土粒を含む。

竈 2基の新旧の竈が検出された。旧竈は東壁面の南寄り掘り込んで造られていた。燃焼部内の壁面に焼土が良く残っていた。燃焼部内から支脚石と思われる16.1cm×11.2cm×9.3cm、重さ2,100g粗粒輝石安山岩。右袖石17.3cm×11.8cm×8.3cm、重さ2,850g、粗粒輝石安山岩。そして、土器片が出土した。燃焼部は両袖方向37cm、煙道方向117cmを測る。新竈は北壁面の東寄りを掘り込んで造られていた。縄文時代のA区71号住居と奈良・平安時代のA区7号溝と直接切り合っている箇所であるため、トレンチ調査をおこなった。その調査中に検出した竈であるため、残りがあまり良くなかった。また、両袖部は長く竈

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物

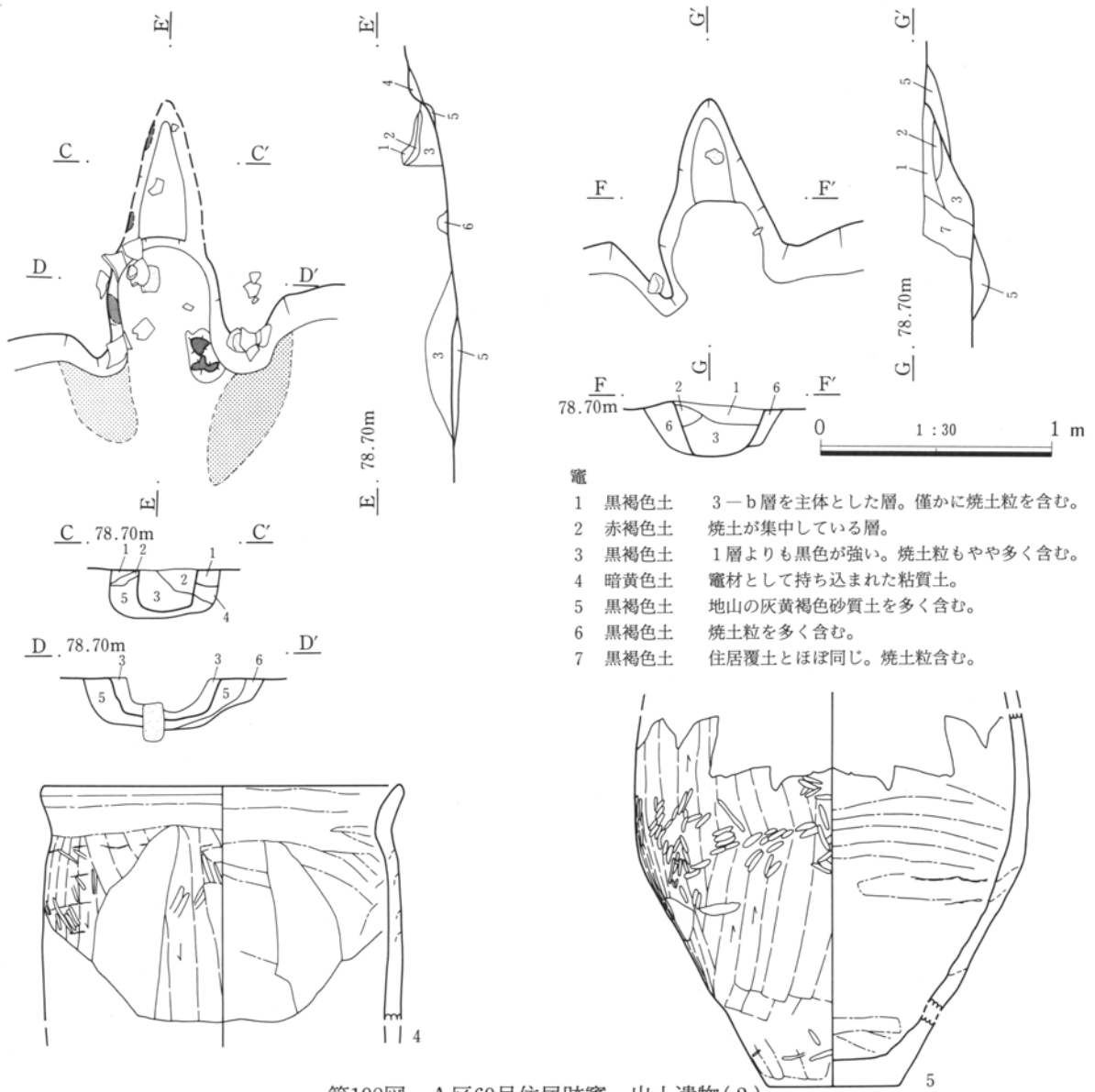
の前に崩れ落ちていた。燃焼部はほぼ円形であった。燃焼部内から支脚石と思われる石材や土器片が出土した。燃焼部は両袖方向37cm、煙道方向117cmを測る。

遺物 須恵器坏、碗、土釜が出土している。



第197図 A区69号住居跡、掘り方、出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



- 竈
- 1 黒褐色土 3-b層を主体とした層。僅かに焼土粒を含む。
 - 2 赤褐色土 焼土が集中している層。
 - 3 黒褐色土 1層よりも黒色が強い。焼土粒もやや多く含む。
 - 4 暗黄色土 竈材として持ち込まれた粘質土。
 - 5 黒褐色土 地山の灰黄褐色砂質土を多く含む。
 - 6 黒褐色土 焼土粒を多く含む。
 - 7 黒褐色土 住居覆土とほぼ同じ。焼土粒含む。

第198図 A区69号住居跡竈、出土遺物(2)

A区 69号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	底部 2/3 口径— 器高(1.7) 底径(2.5)	覆土	①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。右回転糸切り。
2	須恵器 埴	2/3 口径10.8 器高3.9 底径 6.2	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。高台は内外面ともに外傾。付け高台。 右回転ロクロ成形。
3	須恵器 埴	口縁部片 口径(16.0) 器高(4.2) 底径—	+23	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	腰部が張り、体部、口縁部は直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。内面は黒色処理、篋磨き。
4	土師器 土釜	口~胴部上半片 口径(10.5) 器高(13.6) 底径—	竈	①軽石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	緩やかに屈曲する口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。以下ナデ。
5	土師器 土釜	胴部下半~底部 口径— 器高(21.5) 底径7.6	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	底部に近づくにつれてすぼまる胴部。 外面 胴部は篋削り後篋磨き。底部は篋削り。 内面 ナデ。

B区 1号住居跡 (第199・200図 PL80・155)

位置 2K-15グリッド

重複 本住居は古墳時代のB区4号方形周溝墓の周溝を掘り込んで造られている。

形状 長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。東西2.67m、南北3.15m。

面積 (9.27)㎡

方位 N-10°-E

床面 圃場整備のための削平により残りが良くなく、いきなり床面になる。床高は79.36mを測る。床面は下層に方形周溝墓があるせいか、全般に黒色が強い土でできている。

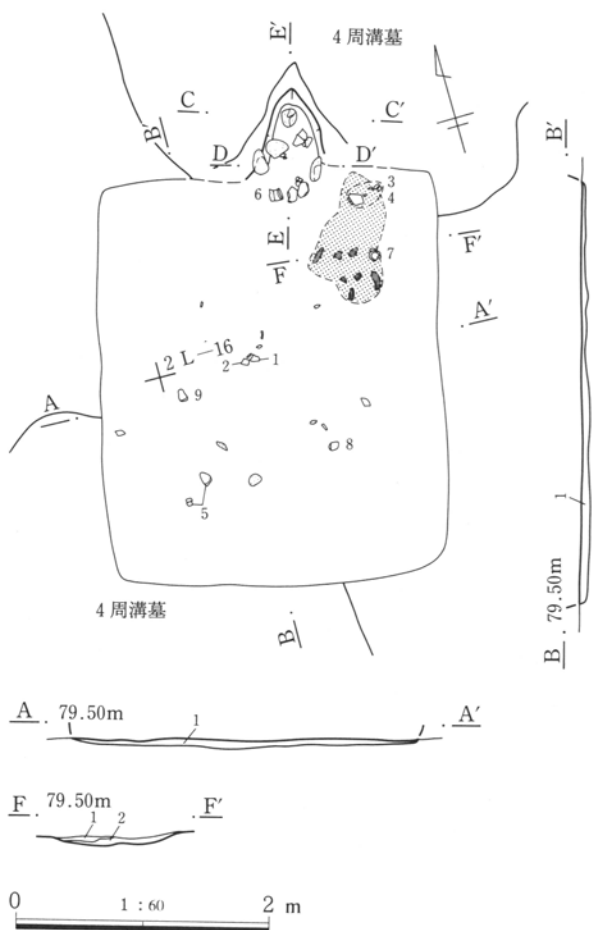
貯蔵穴 検出されなかった。

竈 北壁面の東寄りを掘り込んで造られていた。煙道部に粘質のあまりない黄色土が竈の形に良く残っ

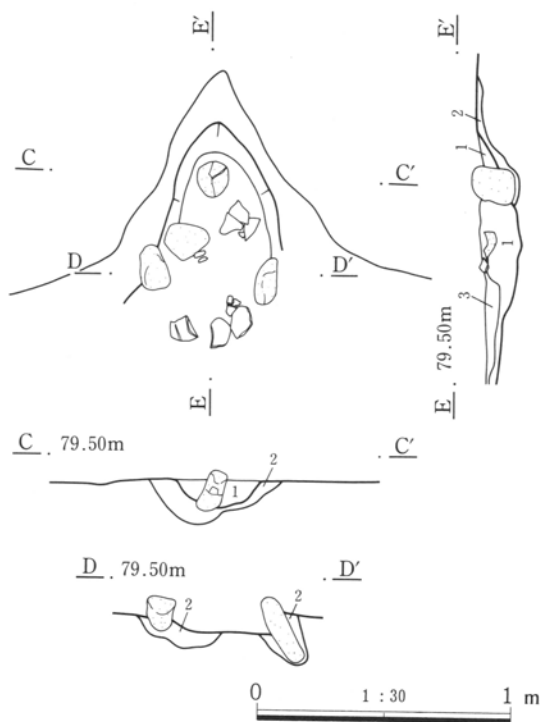
ていた。また、燃烧部内の壁面に焼土が良く残っていた。燃烧部内に支脚石や両袖石として使用した石材及び土器片が出土した。竈内から出土した石はいずれも、火を受けて脆くなっていた。支脚石に19.1cm×13.3cm×4.7cm、重さ2,900g、ひん岩。右袖石に29.6cm×13.2cm×7.0cm、重さ4,950g、石英斑岩。左袖石に24.1cm×12.2cm×9.5cm、重さ3,750g、石英閃緑岩を使用し、黄色土で固定をしていた。燃烧部は両袖方向(45)cm、煙道方向(82)cmを測る。

竈の右袖前に焼土が分布している箇所があり、断ち割って覆土を確認したところ、竈の構築材に使用された黄色土と焼土粒、焼土ブロックの混入した土であった。

遺物 須恵器杯、埴が出土している。



1 黒色土 2mm程の軽石粒を含む(3-b層)。

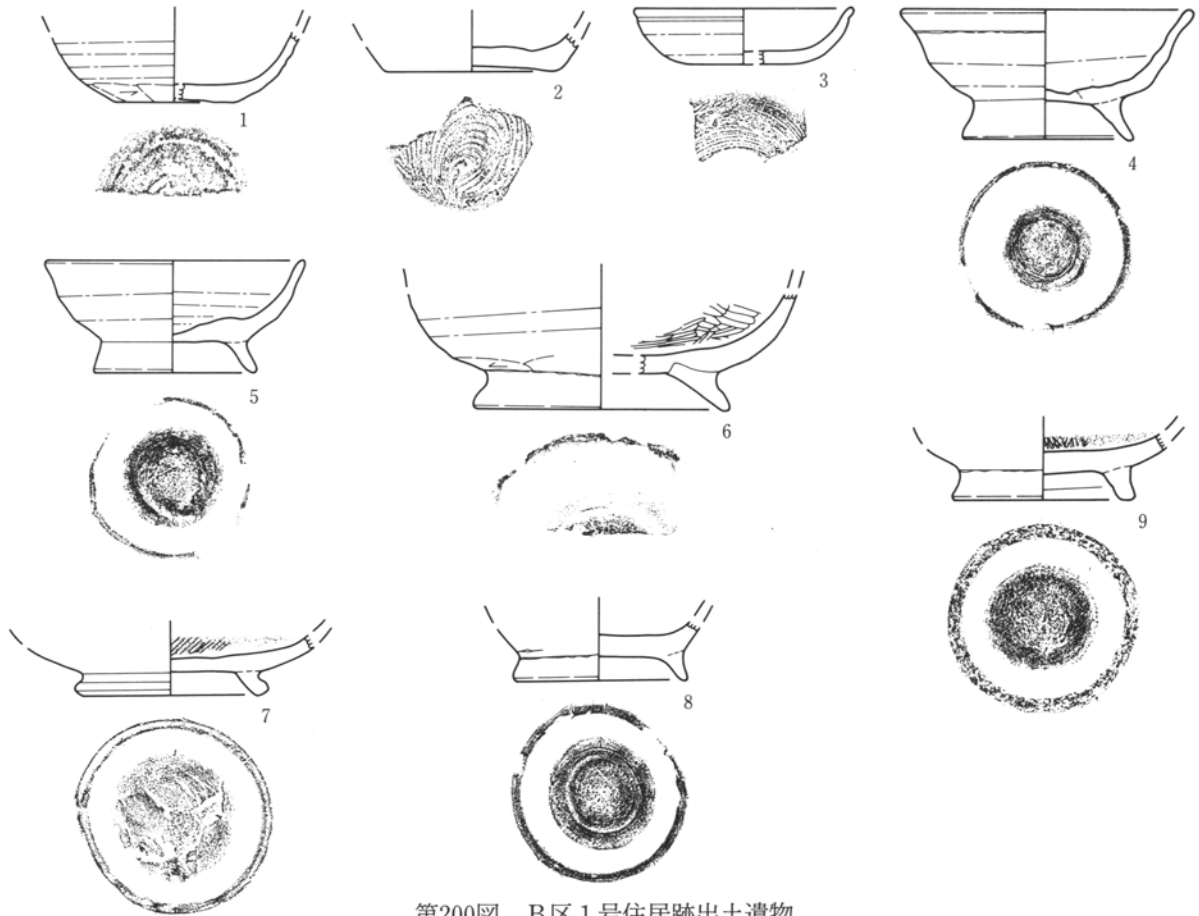


- 竈
- 1 赤褐色土 多くの焼土粒と焼土ブロックを含む。
 - 2 暗黄色土 竈造りのために持ち込まれた粘土。一部焼土化している。
 - 3 黒褐色土 粒子密。軟質。細かい白色粒子が多く混入。

- 焼土
- 1 赤褐色土 黄色土を主とし、多くの焼土粒と焼土ブロック(3~10mm)を多く含む。
 - 2 黒色土 3-b層に相当すると思われる層。白色軽石粒は殆ど含まない。

第199図 B区1号住居跡、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第200図 B区1号住居跡出土遺物

B区 1号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	体下半～底部1/4 口径— 器高(3.5) 底径(4.6)	床直	①軽石 赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。右回転糸切り。底部は手持ち篋削り調整。
2	須恵器 坏	底部1/3 口径— 器高(1.4) 底径(6.6)	床直	①軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。右回転糸切り。
3	須恵器 坏	口～底部片 口径(8.6) 器高2.2 底径(4.0)	床直	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。右回転糸切り。
4	須恵器 碗	口～底部1/2 口径(11.4) 器高 5.1 底径 6.7	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。高台は内外面ともに外傾する。長めの付け高台。 左回転ロクロ成形。
5	須恵器 碗	1/3 口径10.0 器高 4.4 底径 6.3	+7	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	腰部は張り、口縁部はやや外反する。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。 右回転ロクロ成形。
6	須恵器 碗	体下部～底部1/3 口径— 器高(4.5) 底径(10.0)	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 やや軟質 ③明赤褐色	腰部が張り、丸みを帯びて立ち上がる。高台の外表面は外湾。内面は外傾する。付け高台。底部外面は手持ち篋削り調整。内面は篋磨き調整。右回転ロクロ成形。
7	須恵器 碗	底部2/3 口径— 器高(2.3) 底径 6.9	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	丸みを帯びて立ち上がる。高台の外表面は外湾。内面は外傾する。付け高台。底部内面は黒色処理、篋磨き。 ロクロ成形。
8	須恵器 碗	底部 口径— 器高(2.3) 底径 6.7	床直	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	直線的に立ち上がる。高台の内外面ともに外傾する。付け高台。 ロクロ成形。
9	須恵器 碗	底部 口径— 器高(2.6) 底径 7.0	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みを帯びて立ち上がる。高台の外表面はやや外湾。内面は外傾する。付け高台。底部内面は黒色処理、篋磨き。 ロクロ成形。

B区 2号住居跡 (第201・202図 PL80・81・156)

位置 2J-14グリッド

形状 本住居の北東壁、東壁は地域住民の生活道路に面していたため発掘調査が難しかったが、可能な限り実施した。調査できた範囲から長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈するものとする。東西3.20m、南北3.62m。

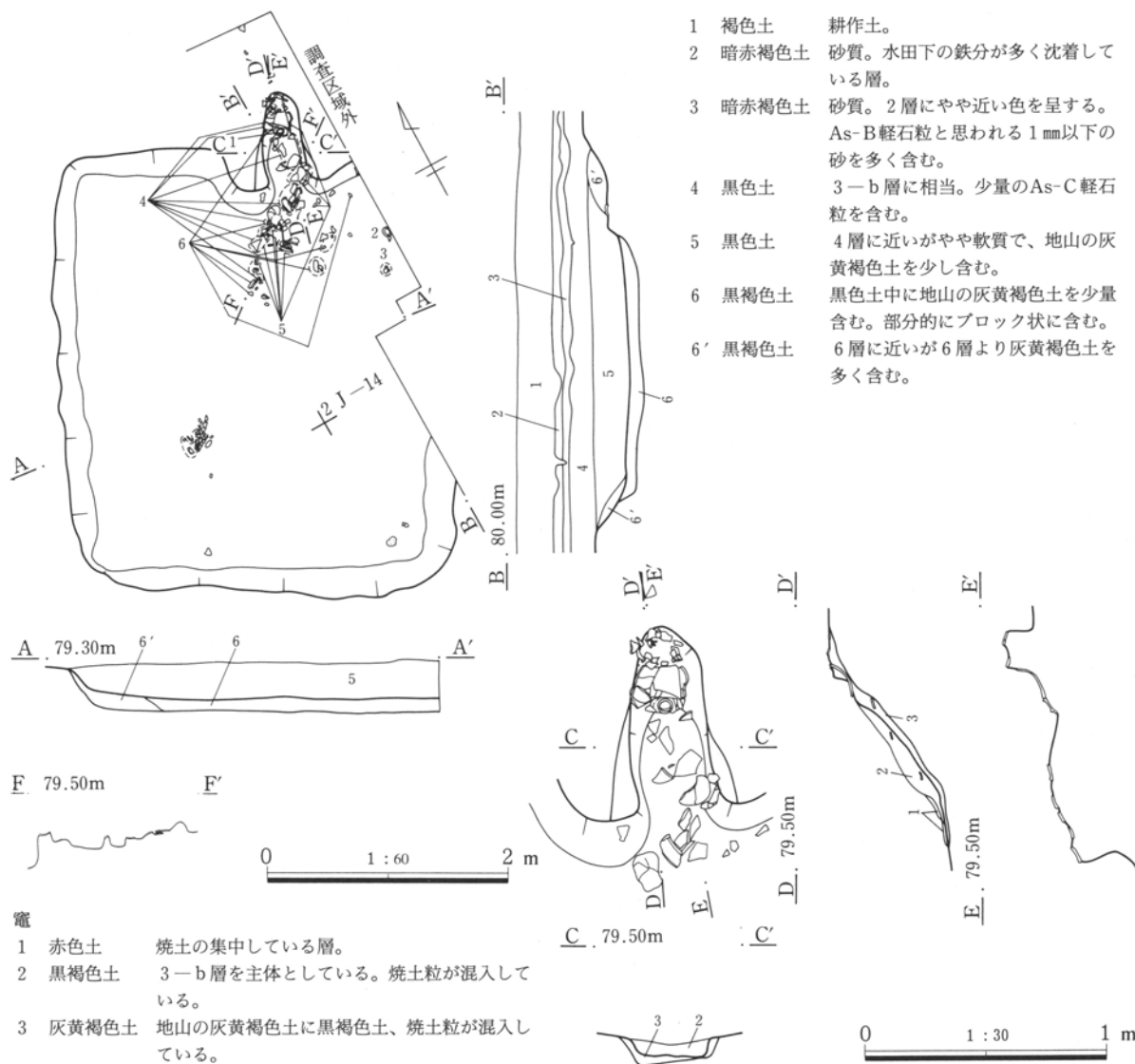
面積 (11.44)m²

方位 N-24°-E

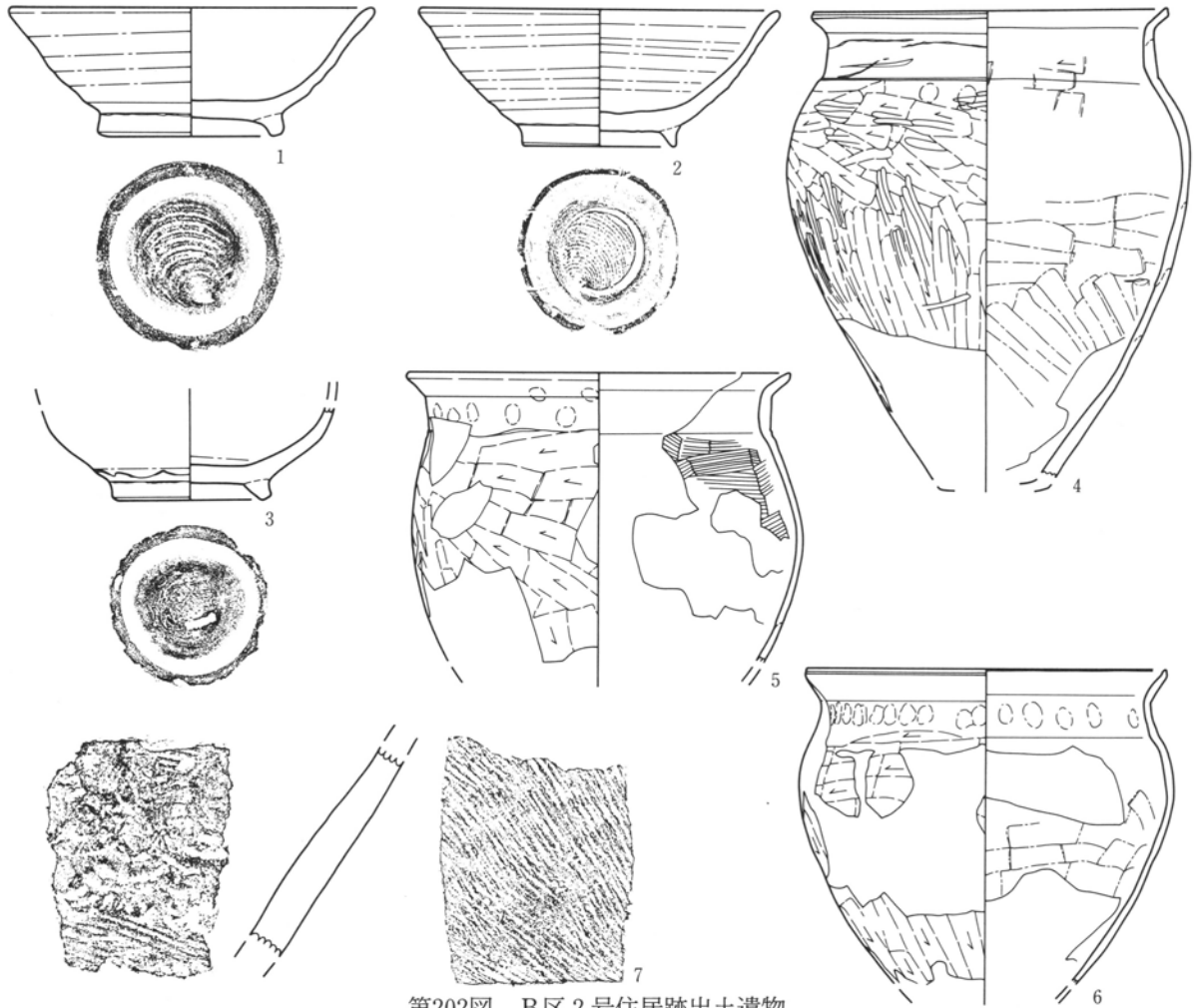
床面 遺構確認面から32cm掘り込んで床面になる。床高は78.87mを測る。床面は黒色土に地山の灰黄褐色土が多く混入した土でできている。

貯蔵穴 検出されなかった。

竈 北壁面の東寄りを掘り込んで造られていた。生活用道路に竈が接していたため、道路ぎりぎりまで発掘し、調査を進めた。検出時より竈の煙道方向に沿って大量の土器片が出土したため、慎重に調査を進めた。その結果あまり残りは良くなかったが、煙道部に土器を並べて使用したものと思われる。また、両袖部にぽっかりと土坑状のものが検出された。これは袖石が抜けた跡か、竈の手前から検出された粘質土の塊を詰め込んで両袖を構築した跡と思われる。燃烧部は両袖方向37cm、煙道方向93cmを測る。
遺物 須恵器碗、甕や土師器甕が出土している。



第201図 B区2号住居跡、竈



第202図 B区2号住居跡出土遺物

B区 2号住居

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 壺	2/3 口径(14.5) 器高 5.1 底径7.4	竈	①雲母 赤色細粒 ②還元焰 硬質 ③にぶい橙色	腰部が張り、口縁部は外反する。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。 右回転クロコ成形。
2	須恵器 壺	2/3 口径(13.0) 器高 5.1 底径6.0	床直	①軽石 石英 輝石 ②還元焰 やや軟質 ③灰色	腰部が張り、口縁部は外反する。高台の断面は三角形に近い。付け高台。 右回転クロコ成形。底部は右回転糸切り。
3	須恵器 壺	体部～底部 1/3 口径— 器高(3.5) 底径5.8	床直	①細砂 ②還元焰 軟質 ③灰黄色	直線的に立ち上がる。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。 右回転クロコ成形。
4	土師器 甕	口～胴部 5/6 口径 18.9 器高(24.9) 底径—	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	コの字状の口縁。肩が張り、底部に近づくほどすぼまる胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部上半は横篋削り後篋磨き。以下縦篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。肩部は篋削り後横ナデ。以下横篋ナデ。
5	土師器 甕	口～胴部上半 2/3 口径 22.0 器高(15.3) 底径—	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	コの字状の口縁。肩が張らず、底部に近づくほどすぼまる胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部上半は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。肩部はハケメ。
6	土師器 甕	口～胴部片 口径(19.2) 器高(17.7) 底径—	+15 竈	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	コの字状の口縁。肩が張り、底部に近づくほどすぼまる胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部に指頭痕あり。肩部は横ナデ。胴部上半は横篋削り。下半は縦篋削り。 内面 口縁は横ナデ。頸部に指頭痕あり。以下は篋ナデ。
7	須恵器 甕	胴部片 口径— 器高— 底径—	竈	①軽石 ②還元焰 硬質 ③灰色	外面 平行叩き目痕あり。 内面 青海波文で磨り面あり。

C区 1号住居跡 (第203・204図 PL81・82・156)

位置 1B-14グリッド

重複 本住居の東壁北寄り付近を近世のC区6号井戸が掘り込んでいる。

形状 長軸を南北方向に持ち、隅丸長方形を呈するものとする。東西2.86m、南北3.40m。

面積 9.47m²

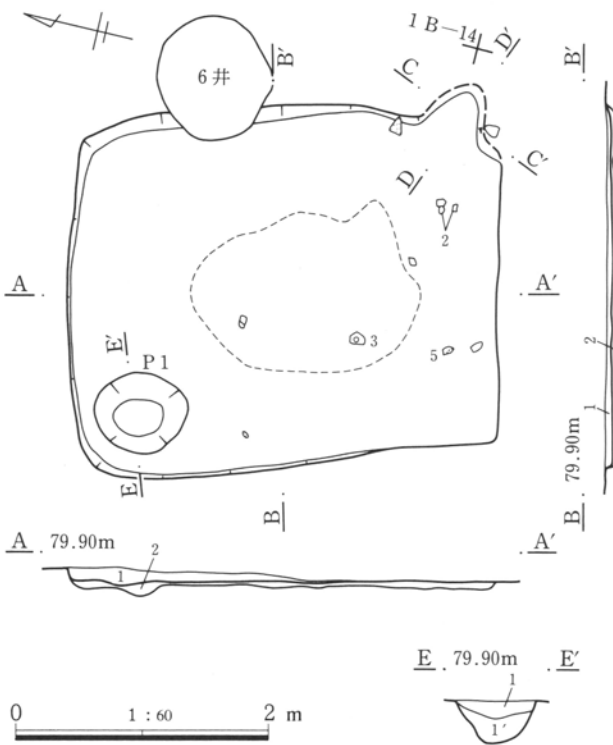
方位 N-70°-E

床面 圃場整備のために削平され、住居の残りがあまり良くない。残りが良いところで遺構確認面から10cm掘り込んで床面になるが、竈前などはいきなり床面であった。床高は79.67mを測る。床面は黄褐色土に少量の黒褐色土がブロック状に混入した土できている。床面中央部に踏み固められた硬い床面が

検出された。床下から土坑状のものが検出された。覆土は床面の土とほぼ同じである。竈前の小穴からは須恵器壺が出土している。

ピット 住居の北西コーナー部分よりピット1が、竈近くからピット2が検出された。ピット1は径74cm、深さ50cm。ピット2は径58cm、深さ10cmを測る。覆土はやや褐色系の軽石粒を含む黒色土であった。竈 東壁面の南寄り、ほとんど南東コーナー部分を掘り込んで造られていた。竈も削平がはなはだしく、焼土の残りも悪かった。すぐに掘り方の状態になってしまった。焼土部内から土器片が出土した。焼土部は両袖方向44cm、煙道方向(66)cmを測る。

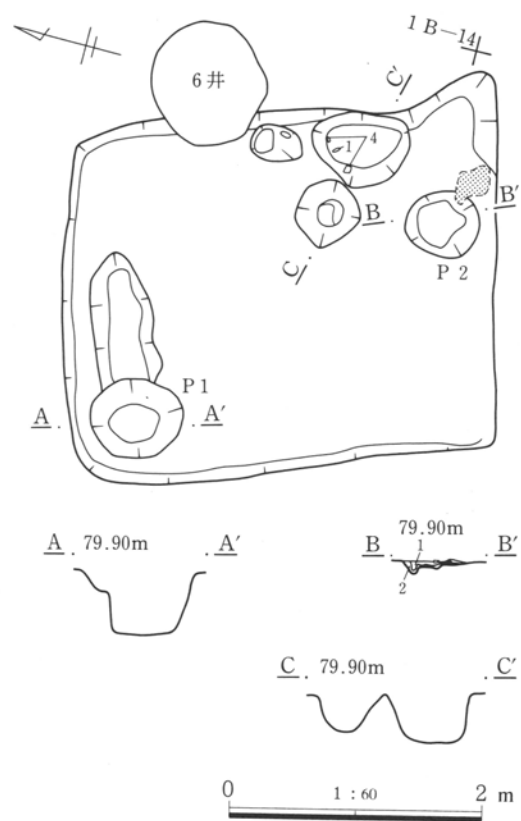
遺物 須恵器坏、壺や灰釉陶器壺が出土している。



- 1 黒褐色土 2mm程の軽石粒混入。3-b層が主体。
- 2 黄褐色土 地山の4-a層に近い。少量の黒褐色土をブロック状に混入している。

Pit1

- 1 黒色土 1mm以下の白色(やや褐色系)の粒子を多く含む。3-b層と思われる。
- 1' 黒色土 1層に近い。1層よりやや黒色を帯びている。

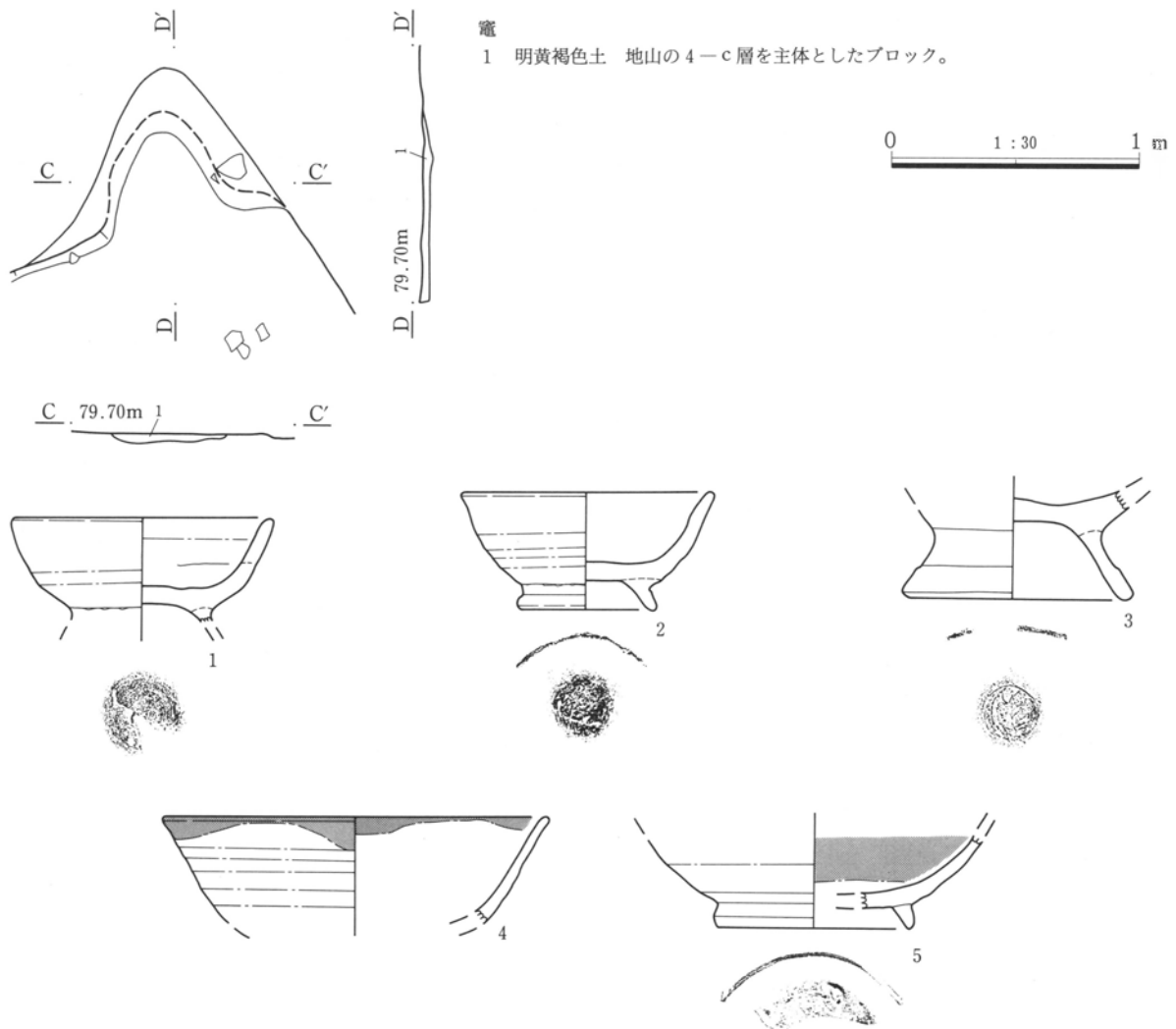


Pit2

- 1 黒色土 3-b層。1mm内外の白色(やや褐色)軽石粒を多く含む。
- 2 褐色土 4-a層。粒子密。

第203図 C区1号住居跡、掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



竈

1 明黄褐色土 地山の4-c層を主体としたブロック。

0 1:30 1 m

第204図 C区1号住居跡竈、出土遺物

C区 1号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 埴	1/3 口径(10.5) 器高(4.1) 底径—	掘り方	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	腰部が張り、体部、口縁部は直線的に立ち上がる。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。 右回転ロクロ成形。
2	須恵器 埴	1/5 口径(10.0) 器高 4.7 底径(5.3)	床直	①輝石 細砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部が張り、口縁部はやや外反する。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。 右回転ロクロ成形。
3	須恵器 埴	底部～高台部 1/4 口径— 器高(4.1) 底径(8.7)	床直	①輝石 石英 赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	高台は内外面ともに外傾する。外面は高台部上半が扶れる。付け高台。 ロクロ成形。
4	灰釉陶 器 埴	口～体部 1/4 口径(15.5) 器高(4.3) 底径—	掘り方	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	腰部が張り、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
5	灰釉陶 器 埴	体下半～底部 1/3 口径— 器高(3.8) 底径(7.7)	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰色	腰部が張る。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。 右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。

C区 3号住居跡 (第205・206図 PL82・83・156)

位置 1K-18グリッド

形状 長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。東西3.58m、南北4.20m。幅40cm、深さ7cmを測る周溝が北東コーナー部から北壁、西壁、南西コーナー部に廻っている。

面積 15.18m²

方位 N-89°-E

覆土 覆土全般に焼土粒や焼土ブロック、炭、灰が多く混入している。また床面近くになると焼土の集中している土層も見られる。

床面 残りが良いところで遺構確認面から42cm掘り込んで床面になる。床高は78.93mを測る。床面は粘性の強い黒褐色土に焼土や炭が混入した土でできている。

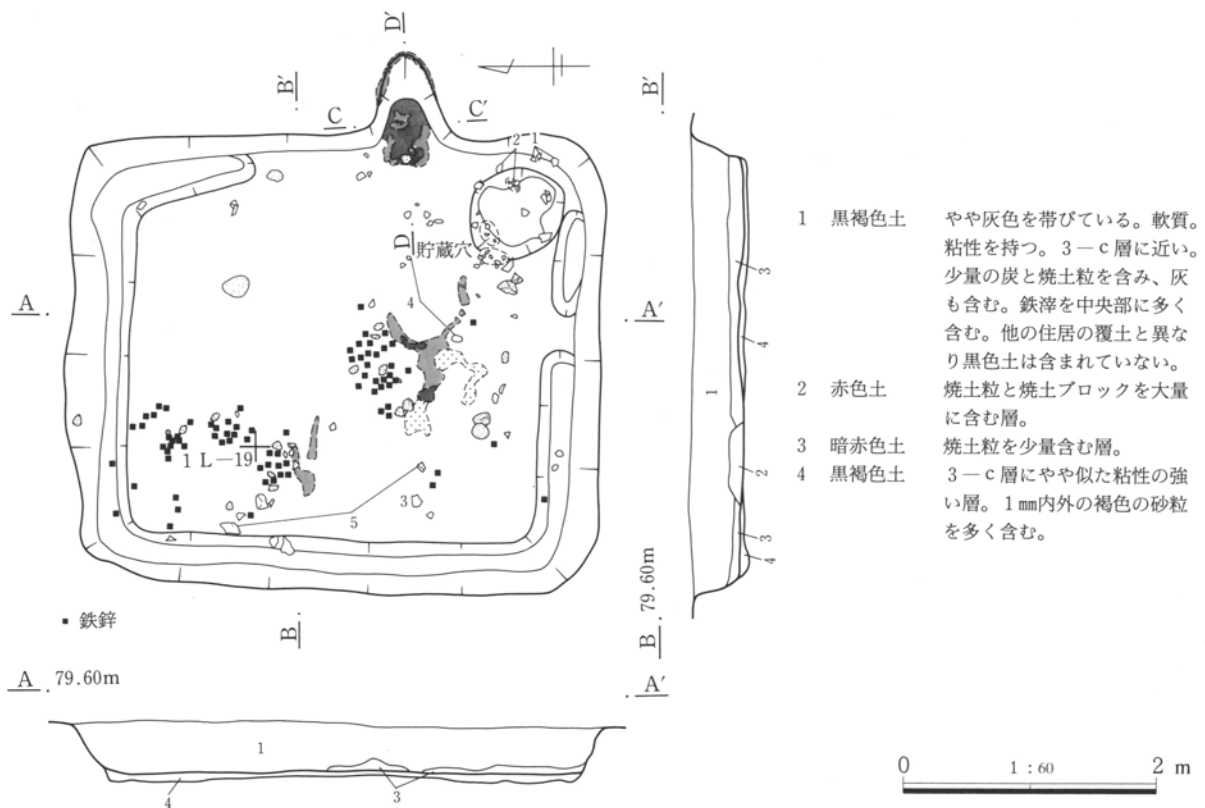
貯蔵穴 住居の南東コーナー部分より検出された。径81cm、深さ8cmを測る。覆土は床面の土と同じような黒褐色土であった。中から土師器の坏の破片が

出土した。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。全体に小振りで、煙道部に焼土が燃烧部底面からは、炭が出土した。燃烧部内から粘質土、支脚石、袖石など検出されなかった。燃烧部は両袖方向39cm、煙道方向71cmを測る。

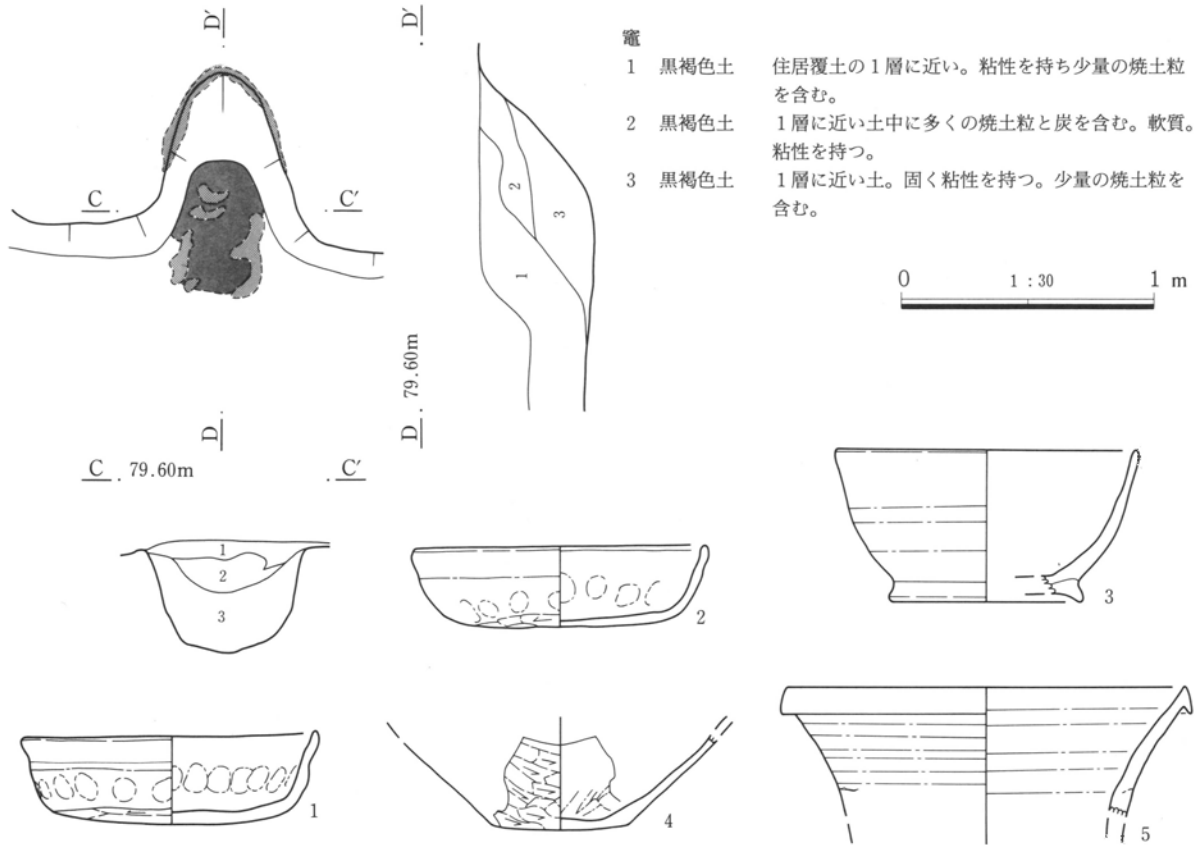
遺物 住居中央部に鉄滓が集中して出土した。総重量12,046gの鉄滓が出土した。このうち最大の鉄滓は11.4cm×8.1cm×5.8cm、重さ440gであった。その他にも土師器坏、甕、須恵器埴、甕が出土している。

備考 鉄滓、焼土、炭、灰が大量に出土している状況から鍛冶屋の住居跡と思われるが、羽口など鍛冶遺構に伴う物が出土していない。また、調査期に本住居跡が周辺の水位が上がるに伴い、水浸しになり、調査不能になってしまった。そのため、チップ等の検出もできなかった。



第205図 C区3号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 竈
- 1 黒褐色土 住居覆土の1層に近い。粘性を持ち少量の焼土粒を含む。
 - 2 黒褐色土 1層に近い土中に多くの焼土粒と炭を含む。軟質。粘性を持つ。
 - 3 黒褐色土 1層に近い土。固く粘性を持つ。少量の焼土粒を含む。

0 1:30 1 m

第206図 C区3号住居跡竈、出土遺物

C区 3号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 坏	2/3 口径(11.8) 器高3.5 丸底	+15	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	体部は歪みもちながら、立ち上がる。口縁は外反する。 外面 口縁は横ナデ。体部は無調整。底部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ
2	土師器 坏	1/6 口径(10.5) 器高3.2 丸底	+15	①輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	体部は直線的に立ち上がる。口縁は短く内湾する。 外面 口縁は横ナデ。体部は無調整。底部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ
3	須恵器 埴	1/5 口径(11.8) 器高6.0 底径(7.3)	+18	①細砂 白色細粒 ②還元焰 やや軟質 ③灰色	体部、口縁部は直線的に立ち上がる。高台の断面は三角形に近い。 付け高台。 右回転ロクロ成形。
4	土師器 甕	胴下位～底部 1/4 口径— 器高(4.9) 底径(7.2)	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	底部から直線的に立ち上がる胴部。 外面 篋削り。 内面 篋ナデ。
5	須恵器 甕	口縁部 1/6 口径(21.2) 器高(6.8) 底径—	+16	①緻密 ②還元焰 硬質 ③暗赤灰色	外反する口縁。端部は折り返す。 左回転ロクロ成形。口縁部に自然釉が見られる。

C区 4号住居跡 (第207・208図 PL83・84・156・157)

位置 5T-0グリッド

重複 本住居の中央部を近世のC区17号井戸が掘り込んでいます。

形状 本住居の北東コーナー部は用水路にかかるため、発掘調査を実施せず。長軸を南北方向に持ち、隅丸長方形を呈するものと考え。東西2.80m、南

北3.17m。

面積 (8.47) m²

方位 N-109°-E

床面 残りがよいところで遺構確認面から20cm掘り込んで床面になる。床高は79.27mを測る。本住居の南半分は風倒木の上に造られていて、床面の土層は

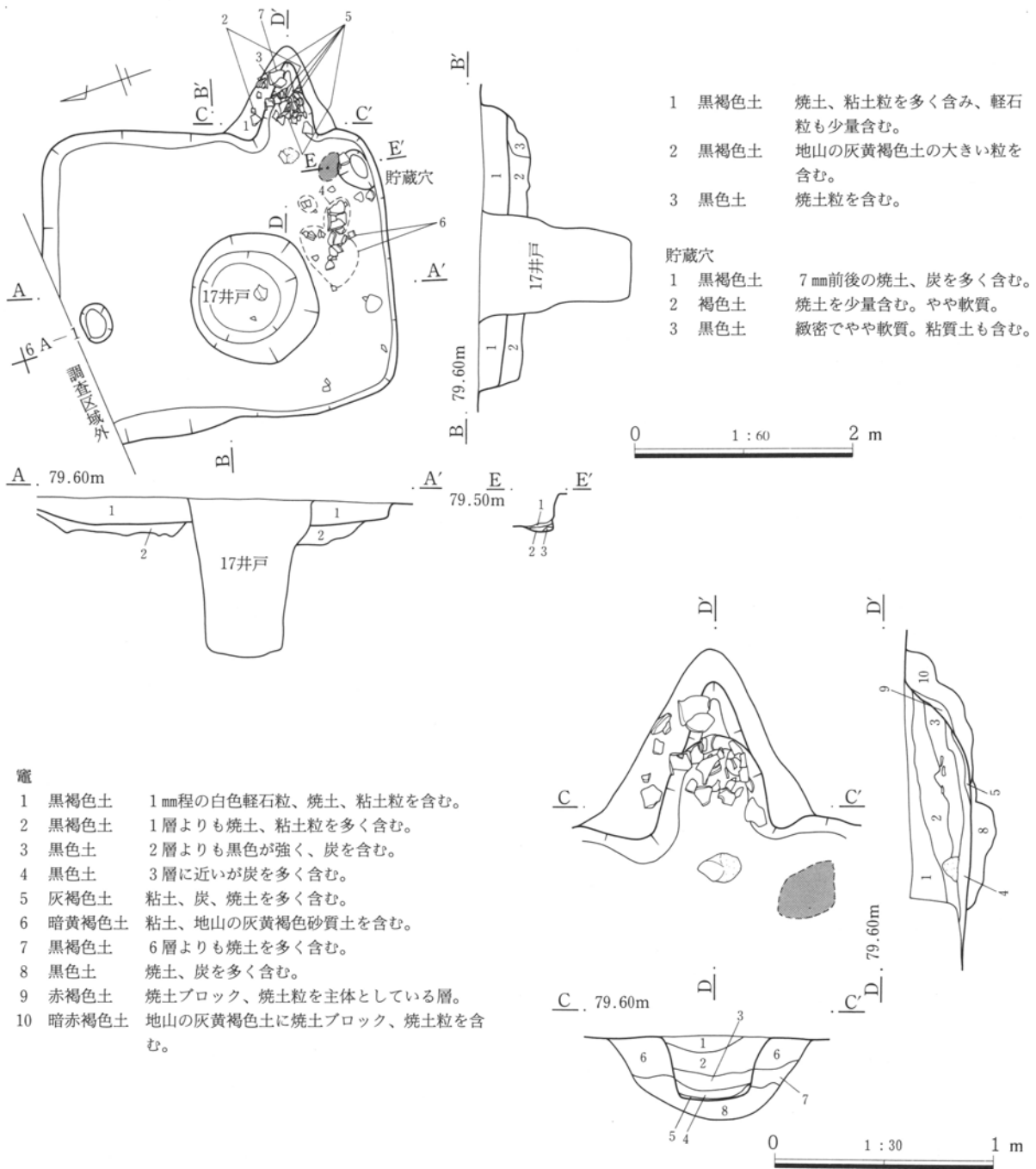
均一ではない。竈の両袖前は炭と焼土の混合した土が残っていた。他の箇所は砂質の灰黄褐色土が混入した黒褐色土できている。

貯蔵穴 住居の南東コーナー部分より検出された。長径40cm・短径28cm、深さ8cmを測る。覆土は焼土粒や炭を含む黒色土であった。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。竈の外形は灰褐色粘質土で形づくっている。燃烧部内

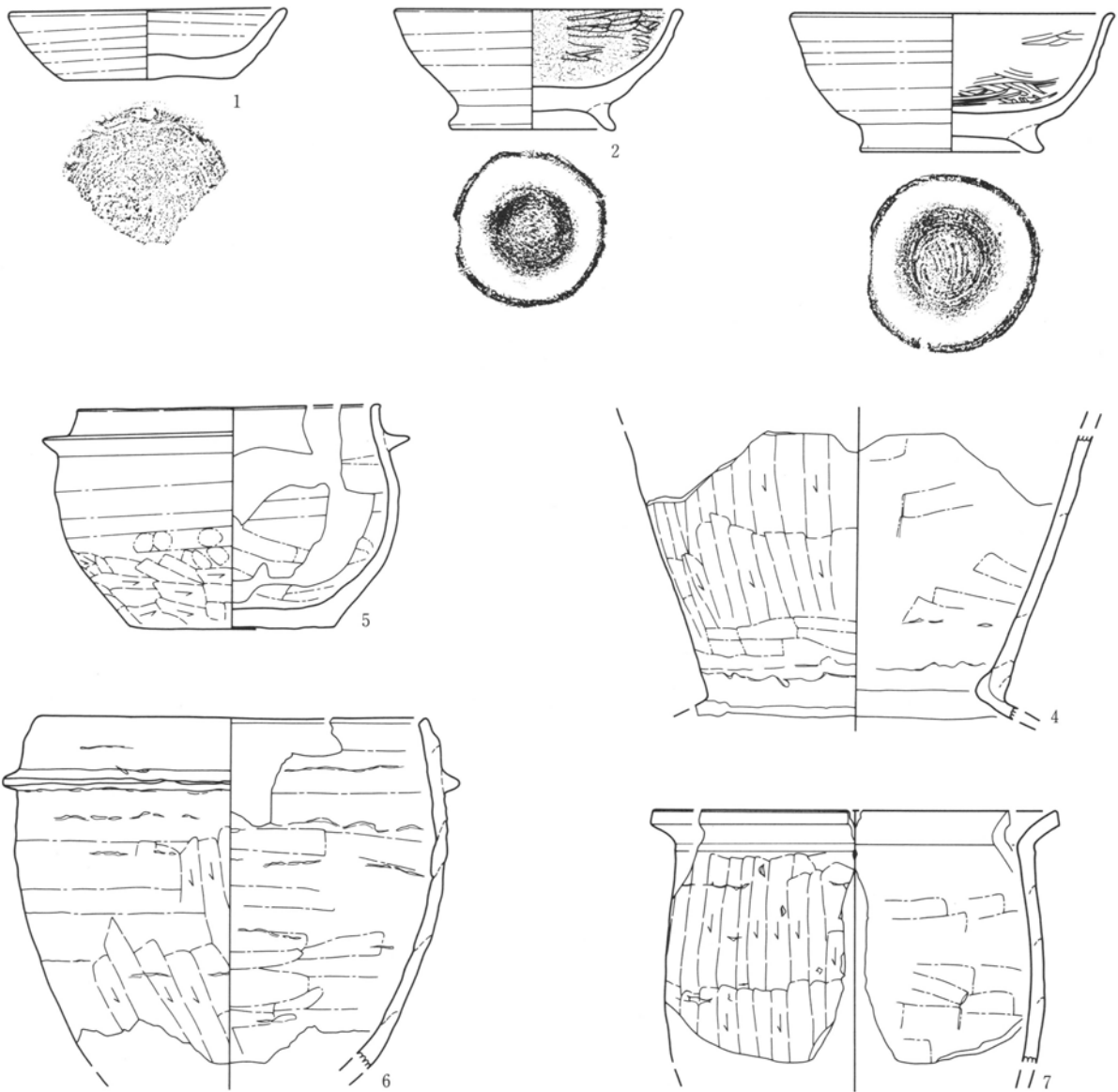
から支脚石に使用されたと考えられる15.2cm×9.3cm×9.5cm、重さ1,500g、粗粒輝石安山岩が出土した。更に、燃烧部内から焼土化した粘質土の塊と土器片が多数出土した。これらの粘質土も竈の構築材として使われたものと思われる。燃烧部は両袖方向36cm、煙道方向92cmを測る。

遺物 須恵器坏、埴、羽釜や土師器甗、土釜が出土している。



第207図 C区4号住居跡、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第208図 C区4号住居跡出土遺物

C区4号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	2/5 口径(11.8) 器高2.9 底径(7.2)	竈	①2~4mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。右回転糸切り。
2	須恵器 壺	1/4 口径(11.8) 器高 5.1 底径 6.8	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みを帯びて立ち上がる。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。体部内面は黒色処理をしたと思われる。また、そのあとで篋磨き調整を施している。 右回転ロクロ成形。
3	須恵器 壺	1/3 口径(13.7) 器高 5.9 底径7.8	竈	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁はやや外反する。高台の断面は三角形に近い。付け高台。体部内面は篋磨き調整を施している。 右回転ロクロ成形。
4	土師器 甕	胴下位~底部1/3、 端部欠損 口径— 器高(16.0) 底径—	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	底部から直線的に立ち上がる胴部。底部は水平に開く。 外面 胴部下位は篋削り。底部に近づくにつれ、ナデ。 内面 胴部は篋ナデ。底部は横ナデ。

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
5	須恵器 羽釜	1/2 口径(19.8) 器高(13.5) 底径—	竈	①輝石 2～4mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	大きめな罫。罫の断面は三角形。口縁は内湾する。丸みを帯びた胴部外面 ロクロ成形。口縁～罫は横ナデ。胴下位は篋削り。底部は砂が目立つ。 内面 ナデ。
6	羽釜	口～胴部1/3 口径(22.0) 器高(19.8) 底径—	床直	①2～4mmの石 赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	罫は下方に垂れる。口縁は内湾する。丸みを帯びた胴部。 外面 口縁～罫は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下篋ナデ。
7	土師器 土釜	口～胴部上半片 口径(23.0) 器高(14.2) 底径—	竈	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反する口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下篋ナデ。

C区 5号住居跡 (第209・210図 PL84・85・157)

位置 2A-19グリッド

形状 長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。

東西2.50m、南北3.18m。

面積 8.25m²

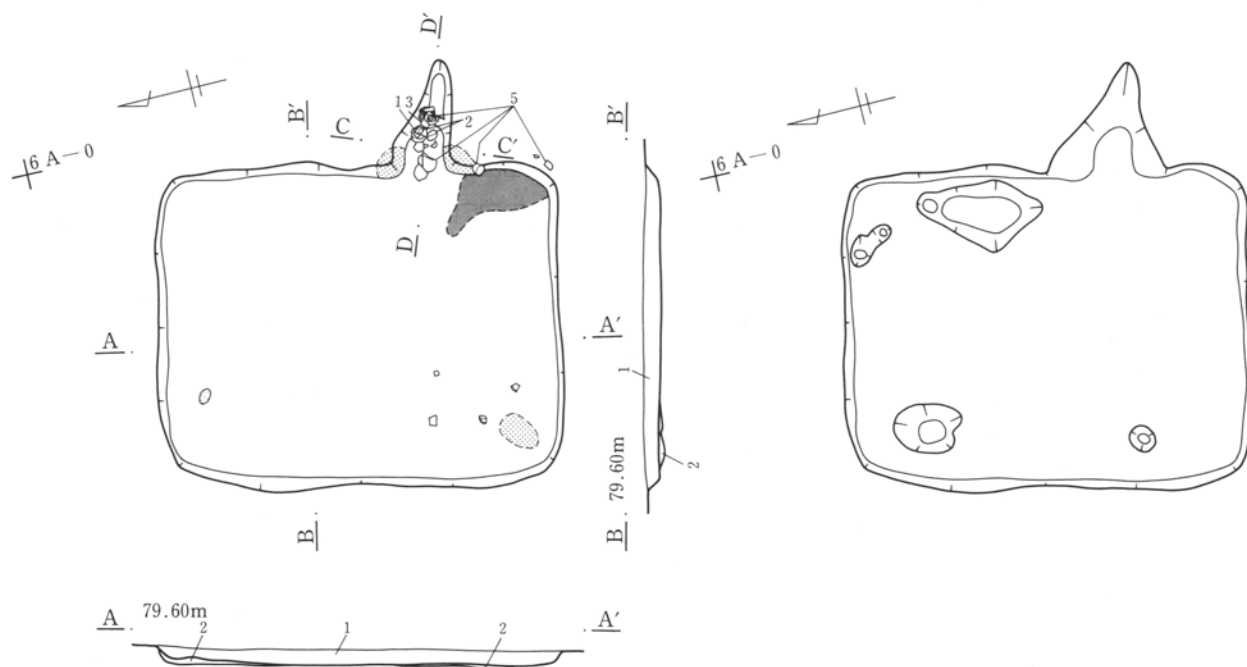
方位 N-102°-E

床面 残りが良いところで遺構確認面から15cm掘り込んで床面になる。床高は79.33mを測る。床面は砂質の灰黄褐色土を含む黒褐色土できている。竈の右袖前の床面上に竈の構築材として使われた粘質

土及び焼土、炭が広がって検出された。床下から、様々な形状の土坑状のものが検出された。

竈 東壁面の南寄りを掘り込んで造られていた。両袖及び煙道部には暗黄褐色粘質土が残っていた。燃烧部内から完形の須恵器壺が出土した。その下部から支脚石と思われる石材も検出された。燃烧部は両袖方向31cm、煙道方向92cmを測る。

遺物 ほぼ完形の須恵器壺、壺や灰釉陶器壺、土釜が出土している。

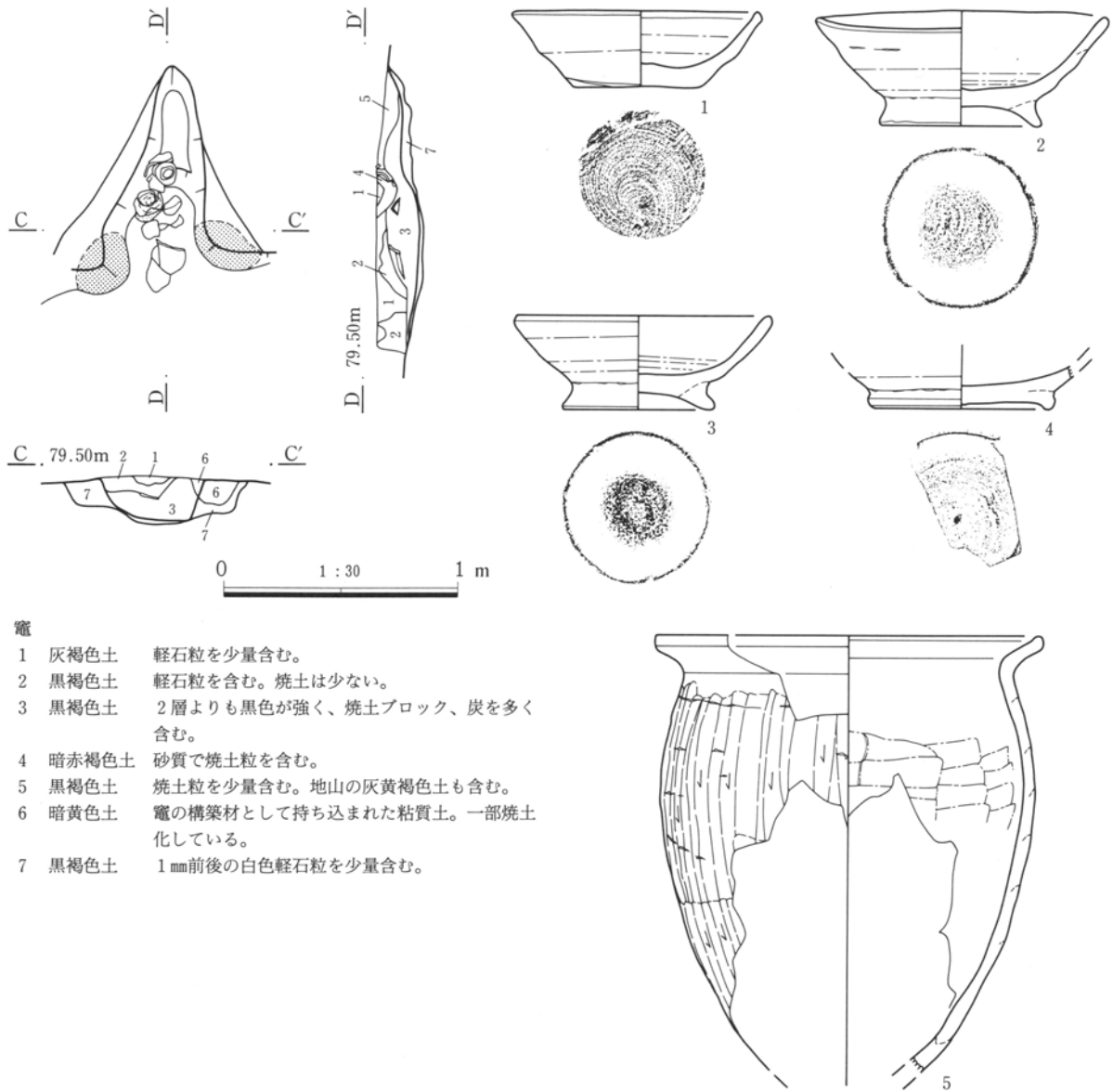


- 1 黒褐色土 軽石粒をやや多く含み、焼土、粘土を少量含む。(3-b層)。
- 2 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土に黒色土、焼土粒を少量含む。

0 1 : 60 2 m

第209図 C区5号住居跡、掘り方

第3章 検出された遺構と遺物



竈

- 1 灰褐色土 軽石粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 軽石粒を含む。焼土は少ない。
- 3 黒褐色土 2層よりも黒色が強く、焼土ブロック、炭を多く含む。
- 4 暗赤褐色土 砂質で焼土粒を含む。
- 5 黒褐色土 焼土粒を少量含む。地山の灰黄褐色土も含む。
- 6 暗黄色土 竈の構築材として持ち込まれた粘質土。一部焼土化している。
- 7 黒褐色土 1mm前後の白色軽石粒を少量含む。

第210図 C区5号住居跡竈、出土遺物

C区 5号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	ほぼ完形 口径10.6 器高3.3 底径 5.4	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	腰部は直線的に立ち上がり、体部でやや丸みを帯びる。 右回転ロクロ成形。右回転糸切り。
2	須恵器 埴	完形 口径 12.2 器高 4.9 底径6.7	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直線的に立ち上がる。口縁端部は丸い。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。 右回転ロクロ成形。
3	須恵器 埴	1/3 口径(10.8) 器高 4.0 底径6.6	竈	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	腰部にやや歪みがあるが、直線的に立ち上がる。口縁端部は丸い。高台は内外面ともに外傾する。付け高台。 右回転ロクロ成形。
4	灰釉陶 器 埴	底部～高台部 1/6 口径一 器高 (1.9) 底径(5.4)	覆土	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	高台の外縁は内湾し、内面は外傾する。付け高台。 右回転ロクロ成形。
5	土師器 土釜	口～胴部 1/3 口径(19.1) 器高(24.8) 底径一	竈	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	外反する口縁。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。以下篔削り。 内面 口縁は横ナデ。以下篔ナデ。

C区 7号住居跡 (第211・212図 PL85・157)

位置 2G-19グリッド

重複 本住居は古墳時代のC区6号住居を掘り込んで造られている。また、南壁付近は攪乱によって掘り込まれている。

形状 長軸を東西方向に持ち、隅丸長方形を呈する。東西3.47m、南北(2.79)m。幅26cm、深さ7cmを測る周溝が住居周囲を廻る。

面積 10.04m²

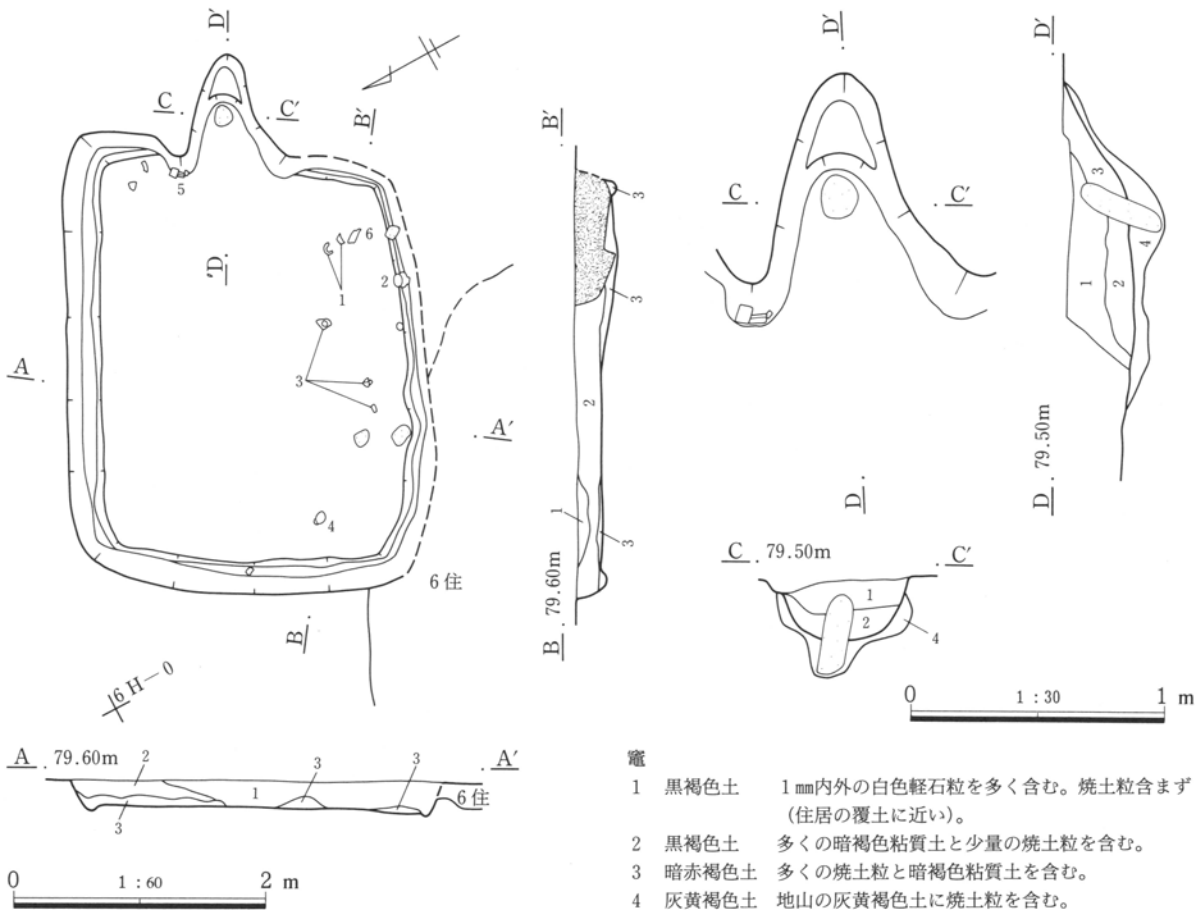
方位 N-127°-E

床面 残りがよいところで遺構確認面から20cm掘り

込んで床面になる。床高は79.30mを測る。砂質の灰黄褐色土が混入した黒褐色土でできている。

竈 東壁面のほぼ中央部を掘り込んで造られていた。竈の外形を暗褐色粘質土で形づくっていた。燃烧部内から36.0cm×11.7cm×10.0cm、重さ7,700g、石英閃緑岩の支脚石が検出された。支脚石を取り除いた跡をみると、支脚石固定のために暗褐色粘質土を使用したことがわかった。燃烧部は両袖方向50cm、煙道方向99cmを測る。

遺物 須恵器坏、埴や土師器甕が出土している。

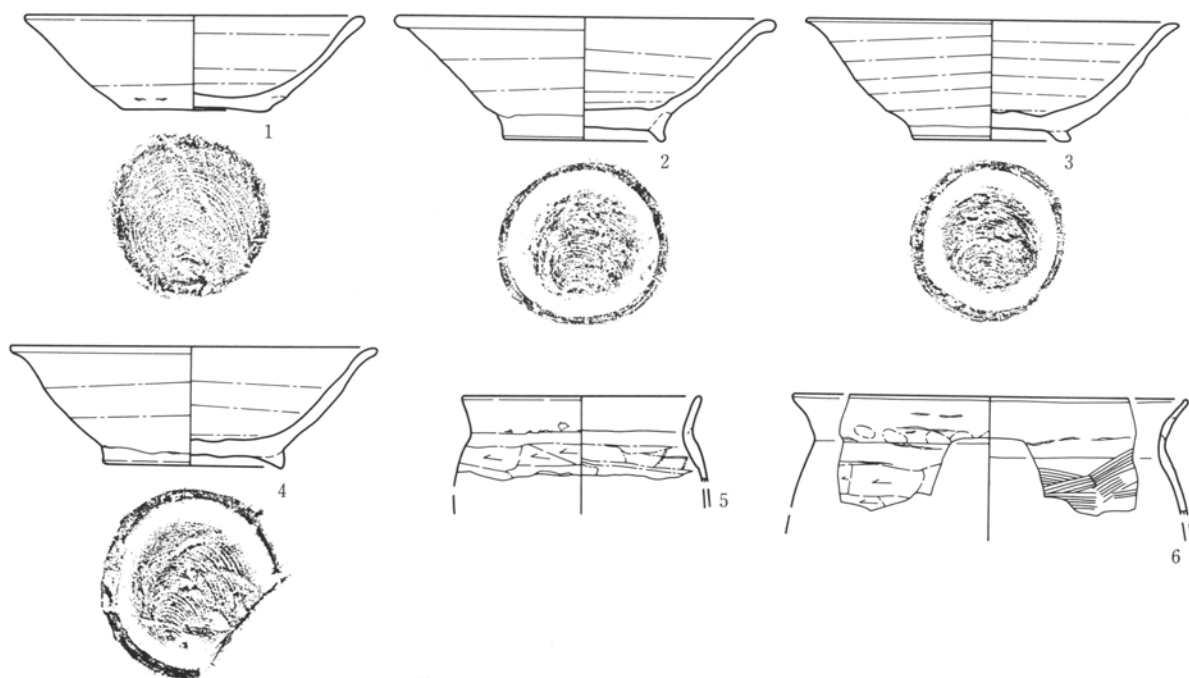


- 1 暗褐色土 砂質の褐色粒を含む。
- 2 黒褐色土 細かい灰白色軽石粒を含む。1層の褐色粒も含む。(3-b層)。
- 3 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土に黒色土を少し含む。

- 竈
- 1 黒褐色土 1mm内外の白色軽石粒を多く含む。焼土粒含まず(住居の覆土に近い)。
 - 2 黒褐色土 多くの暗褐色粘質土と少量の焼土粒を含む。
 - 3 暗赤褐色土 多くの焼土粒と暗褐色粘質土を含む。
 - 4 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土に焼土粒を含む。

第211図 C区7号住居跡、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第212図 C区7号住居跡出土遺物

C区 7号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	2/5 口径(13.2) 器高3.8 底径 5.8	床直	①1~4mmの石 ②還元焰 硬質 ③黄灰色	直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。端部は丸い。 右回転ロクロ成形。右回転糸切り。
2	須恵器 壺	1/3 口径(14.7) 器高 4.9 底径6.5	+7	①1~4mmの石 ②還元焰 硬質 ③灰黄色	直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。端部は丸い。高台は内 外面ともに外傾する。付け高台。 右回転ロクロ成形。
3	須恵器 壺	2/5 口径(14.4) 器高 5.7 底径6.3	床直	①輝石 細砂 ②還元焰 硬質 ③灰白色	腰部が張り、口縁部は外反する。高台は内外面ともに外傾する。 付け高台。 右回転ロクロ成形。
4	須恵器 壺	1/4 口径(14.4) 器高 4.7 底径6.8	床直	①1~4mmの石 ②還元焰 やや軟質 ③灰白色	やや直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。高台の断面は三角 形に近い。付け高台。 右回転ロクロ成形。
5	土師器 小型甕	口~肩部 1/4 口径(12.5) 器高(4.5) 底径—	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	頸部から直立気味に立ち上がる口縁。 外面 口縁は横ナデ。肩部以下は篔削り。 内面 口縁は横ナデ。肩部以下は篔ナデ。
6	土師器 甕	口~肩部片 口径(20.8) 器高(6.2) 底径—	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	頸部からくの字に屈曲する。口縁はやや内湾する。 外面 口縁は横ナデ。肩部以下は篔削り。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。

C区 8号住居跡(第213図 PL86)

位置 5L-4グリッド

重複 本住居は古墳時代のC区13号溝を掘り込んで造られている。

形状 長軸を東西方向にもち、隅丸長方形を呈する。東西2.54m、南北2.08m。

面積 6.02m²

方位 N-71°-E

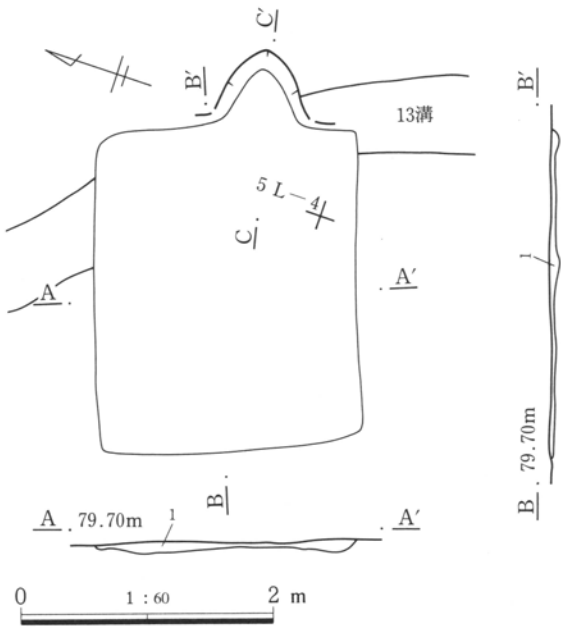
床面 圃場整備による削平を受けていて住居の残り

が悪かった。いきなり床面が検出された。床高は79.50mを測る。床面は黒色に近い黒褐色土で褐色の粒が混入していた。

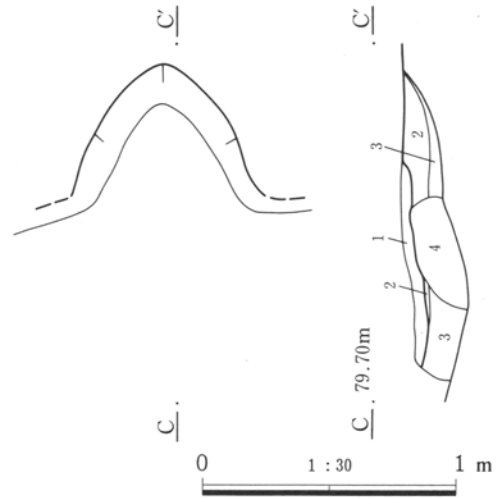
竈 東壁面のやや南寄りを掘り込んで造られていた。竈の残りも悪く、右袖前に竈構築材と思われる粘質土が崩れて残っていた。燃焼部は両袖方向(55)cm、煙道方向58cmを測る。

遺物 土師器甕の破片が出土している。

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物

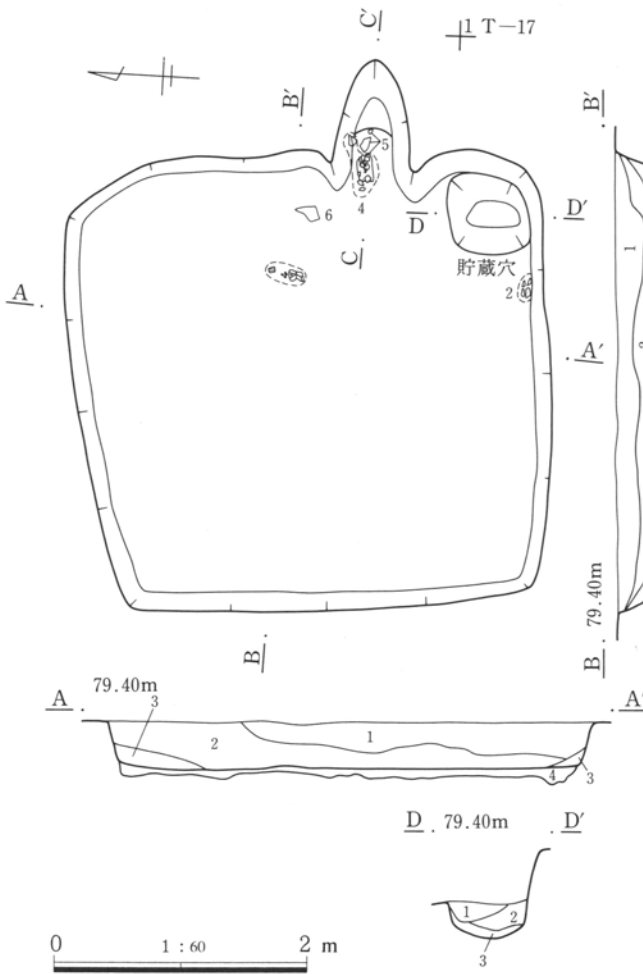


1 暗灰黄褐色土 3-b層主体の黒褐色土に地山の灰黄褐色土が多く含まれている。



竈
 1 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土と焼土粒を含む。
 2 黒褐色土 粘土粒、焼土粒を含む。
 3 褐色土 褐色粒、粘土粒を含む。
 4 暗黄色土 竈材として持ち込まれた粘質土を主とした層。

第213図 C区8号住居跡、竈



C区 9号住居跡(第214・215図 PL86・157・158)

位置 1 T-17グリッド

形状 長軸を南北方向にもち、隅丸長方形を呈する。東西3.58m、南北3.80m。

面積 13.37㎡

方位 N-84°-E

床面 残りがよいところで遺構確認面から32cm掘り込んで床面になる。床高は78.94mを測る。床面は粒子が密な灰褐色土が混入した黒褐色土でできている。

貯蔵穴 住居の南東コーナー部分より検出された。径77cm、深さ28cmを測る。覆土はやや焼土粒や地山の灰褐色土を含む黒褐色土であった。

1 灰褐色土 粘質土ブロック、焼土粒が混入。
 2 黒褐色土 3-b層を主として焼土粒、粘土粒が混入。
 3 黒褐色土 2層に近いが2層よりも黒色が強い。
 4 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土に黒色土が混入。

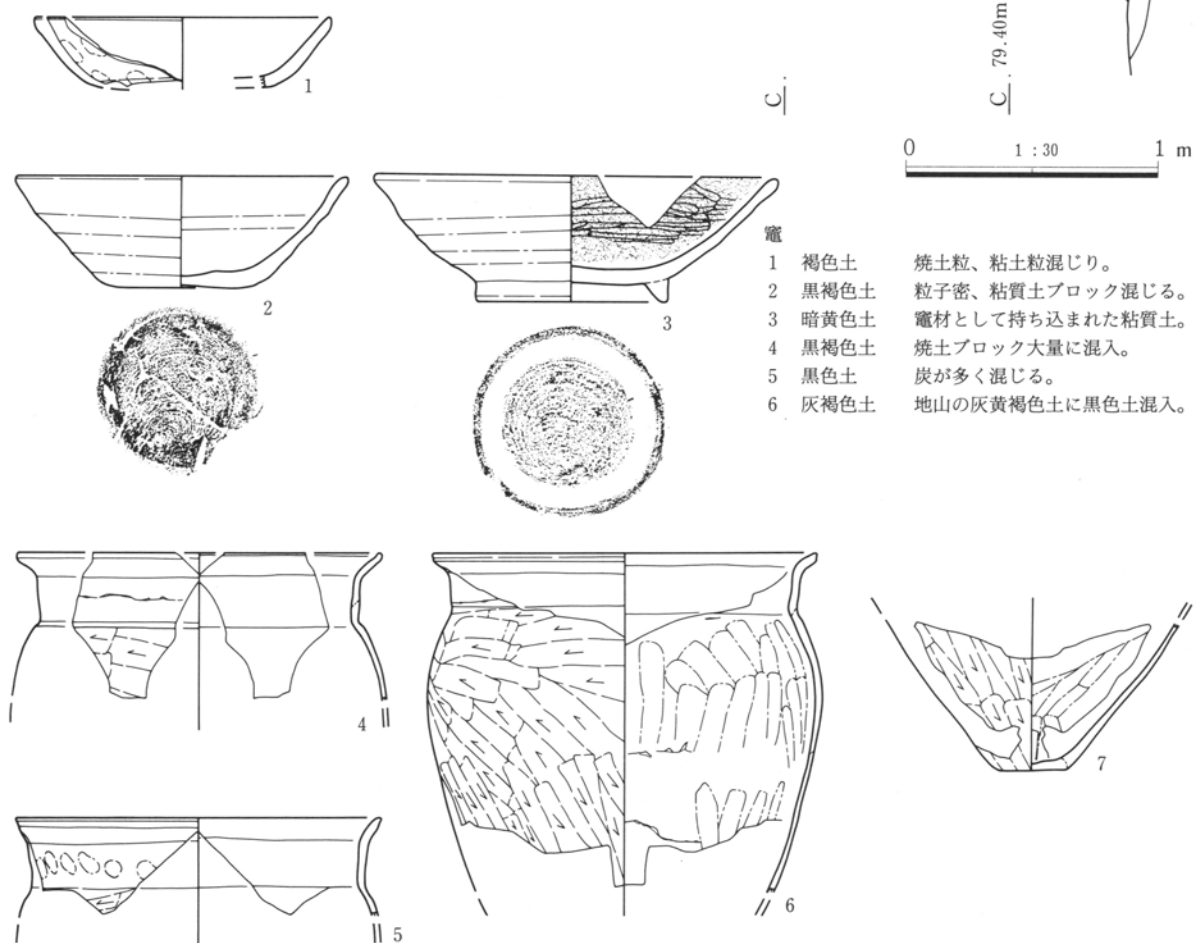
貯蔵穴

1 灰褐色土 粘土ブロック、灰白色軽石粒を含む。
 2 黒褐色土 粒子密、焼土粒を含む。
 3 黒褐色土 2層に近いがやや黒色が強い。

第214図 C区9号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

竈 東壁面のやや南寄りを掘り込んで造られていた。竈の外形を暗褐色粘質土で形づくっていた。燃焼部内から20.8cm×12.6cm×6.9cm、重さ2,750g、粗粒輝石安山岩の支脚石が検出された。燃焼部から煙道部にかけて焼土ブロックや焼土粒が多く出土した。燃焼部は両袖方向33cm、煙道方向107cmを測る。
遺物 土師器坏、土釜、須恵器坏、埴が出土している。



- 竈
- 1 褐色土 焼土粒、粘土粒混じり。
 - 2 黒褐色土 粒子密、粘質土ブロック混じる。
 - 3 暗黄色土 竈材として持ち込まれた粘質土。
 - 4 黒褐色土 焼土ブロック大量に混入。
 - 5 黒色土 炭が多く混じる。
 - 6 灰褐色土 地山の灰黄褐色土に黒色土混入。

第215図 C区9号住居跡竈、出土遺物

C区 9号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 坏	口～体部片 口径(11.6) 器高(2.8) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。口縁端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。体部は無調整。底部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ
2	須恵器 坏	1/3 口径(13.1) 器高 4.4 底径5.2	床直	①1～4mmの石 雲母 ②還元焰 やや軟質 ③灰黄色	直線的に立ち上がる。口縁端部は丸い。 左回転ロクロ成形。
3	須恵器 埴	一部欠損 口径15.9 器高 5.0 底径7.5	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	やや直線的に立ち上がる。口縁端部は丸い。高台の断面は三角形に近い。付け高台。体部内面は黒色処理、篋磨き。 右回転ロクロ成形。
4	土師器 甕	口～肩部片 口径(19.4) 器高(7.8) 底径—	竈	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	肩部から直立する部分があるコの字状の口縁。 外面 口縁は横ナデ。肩部以下は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
5	土師器 甕	口縁部片 口径(19.3) 器高(5.2)底径—	竈	①輝石 雲母 ②酸化焰 硬質 ③橙色	肩部から直立する部分があるコの字状の口縁。口縁もやや直立気味 外面 口縁は横ナデ。肩部以下は篔削り。 内面 口縁は横ナデ。
6	土師器 甕	口~胴上半 1/4 口径(20.3) 器高(18.0) 底径—	床直	①輝石 粗砂 雲母 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	肩部から直立する部分があるコの字状の口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下は篔削り。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。
7	土師器 甕	胴下位~底部 1/2 口径— 器高(7.8) 底径3.7	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	胴部から急にすぼまる底部。 外面 篔削り。 内面 篔ナデ。

C区 10号住居跡 (第216・217図 PL87・158)

位置 2C-16グリッド

形状 東西方向3.53m、南北方向3.63mを測り、隅丸正方形を呈する。

面積 12.69m²

方位 N-139°-E

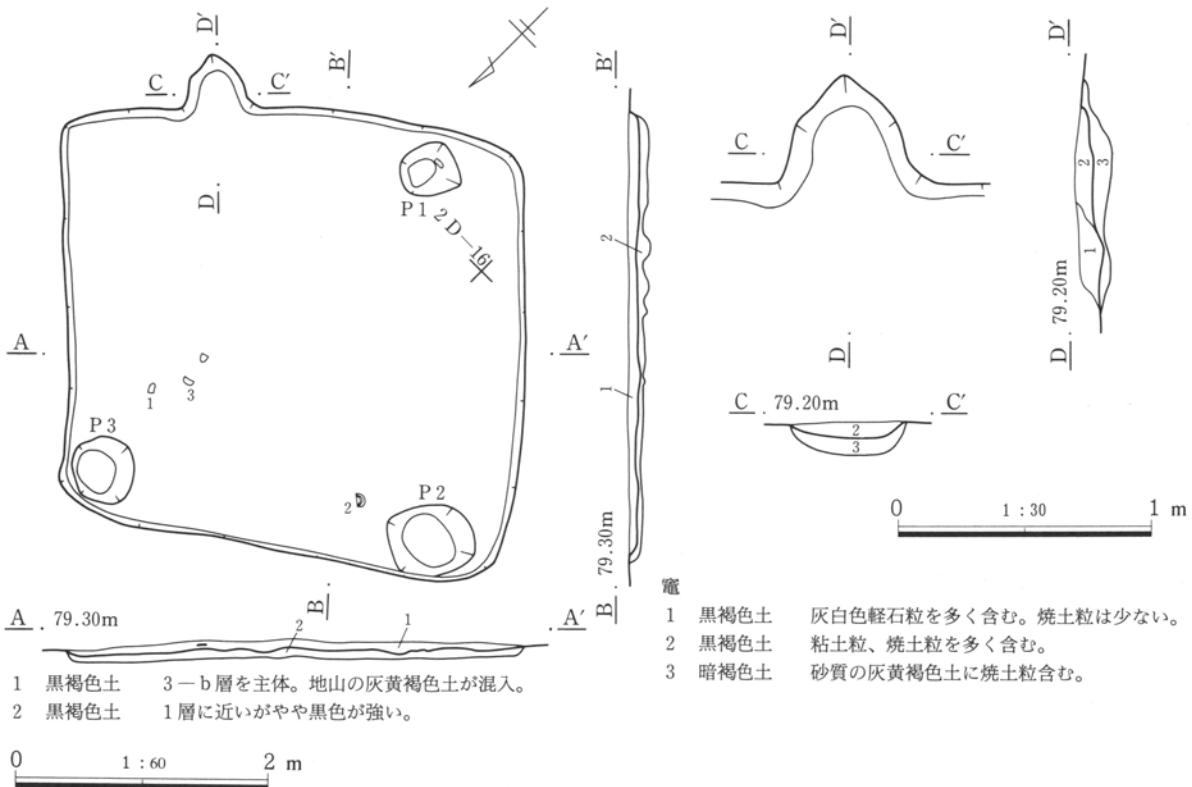
床面 住居の残りが悪かった。遺構確認面から9cm掘り込んで床面になる。床高は79.09mを測る。床面は砂質の灰黄褐色土を多く含む黒褐色土である。床下面から3基のピットが検出された。

ピット 東壁付近にピット1が検出された。径50cm、

深さ25cmを測る。南西コーナー部に径71cm、深さ14cmのピット2が、北西コーナー部に径55cm、深さ7cmのピット3が検出された。覆土はいずれも砂質の灰黄褐色土を多く含む黒褐色土であった。

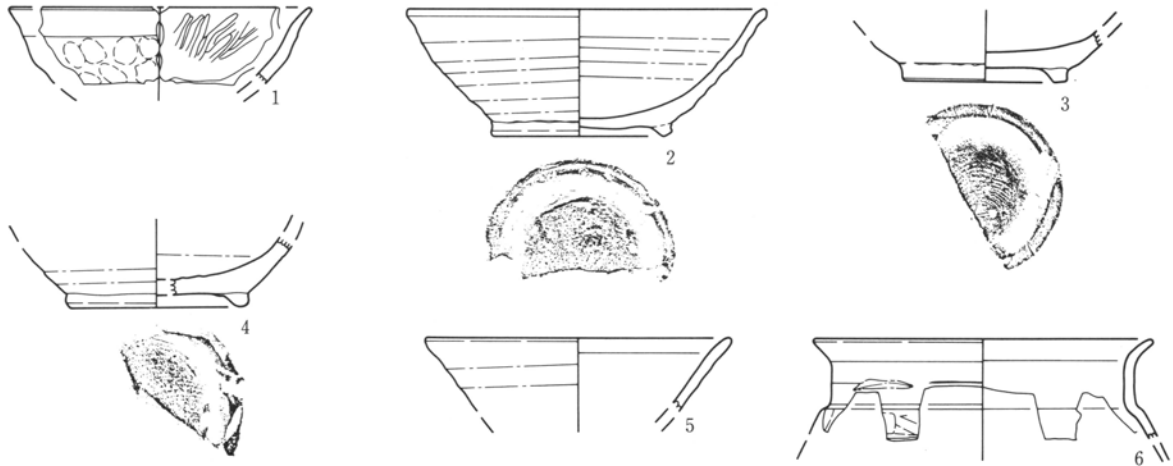
竈 東壁面のやや北寄りを掘り込んで造られていた。煙道部に焼土ブロックが良く残っていた。燃焼部は両袖方向39cm、煙道方向51cmを測る。

遺物 土師器坏、須恵器碗や土釜が出土している。



第216図 C区10号住居跡、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第217図 C区10号住居跡出土遺物

C区 10号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 坏	口縁部片 口径(12.0) 器高(3.0) 底径—	床直	①輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	体部が歪みをもって立ち上がる。口縁は外反する。 外面 口縁は横ナデ。体部は無調整。 内面 横ナデ後篋磨き。
2	須恵器 碗	1/2 口径14.2 器高5.0 底径6.8	床直	①白色細粒 ②還元焰 軟質 ③黄灰色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁は外反する。高台部は内外面ともに外傾する。短めな付け高台。 右回転ロクロ成形。
3	須恵器 碗	底～高台部1/2 口径— 器高(2.1) 底径6.5	床直	①輝石 細砂 ②還元焰 軟質 ③浅黄橙色	やや丸みを帯びて立ち上がる体部。高台部は内外面ともに外傾する。短めな付け高台。 右回転ロクロ成形。
4	須恵器 碗	底～高台部2/5 口径— 器高(2.7) 底径(6.7)	掘り方	①輝石 細砂 ②還元焰 軟質 ③灰白色	丸みを帯びて立ち上がる体部。高台部は内外面ともに外傾する。短めな付け高台。 右回転ロクロ成形。
5	須恵器 碗	口縁部片 口径(12.0) 器高(2.5) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②還元焰 軟質 ③灰白色	直線的に立ち上がる体部。口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。
6	土師器 甕	口縁部片 口径(17.8) 器高(5.2) 底径—	覆土	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	肩部から直立する部分があるコの字状の口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。

C区 11号住居跡 (第218図 PL87・88・158)

位置 2E-13グリッド

形状 東西方向を長軸にした隅丸長方形を呈する。

東西方向3.80m、南北方向2.86mを測る。

面積 11.27㎡

方位 N-98°-E

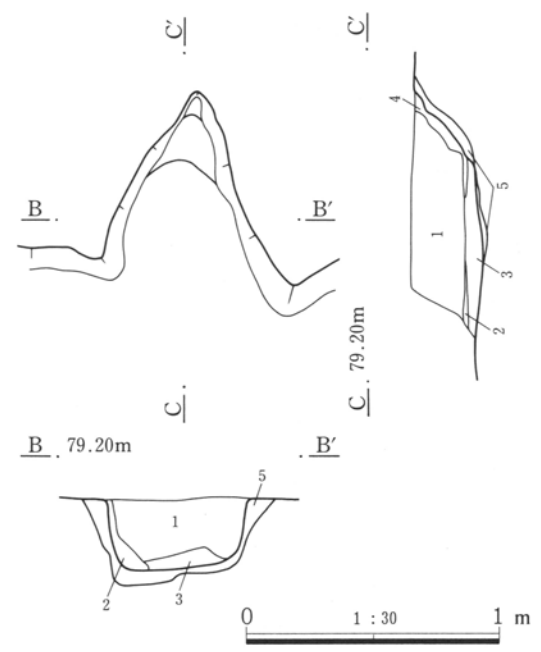
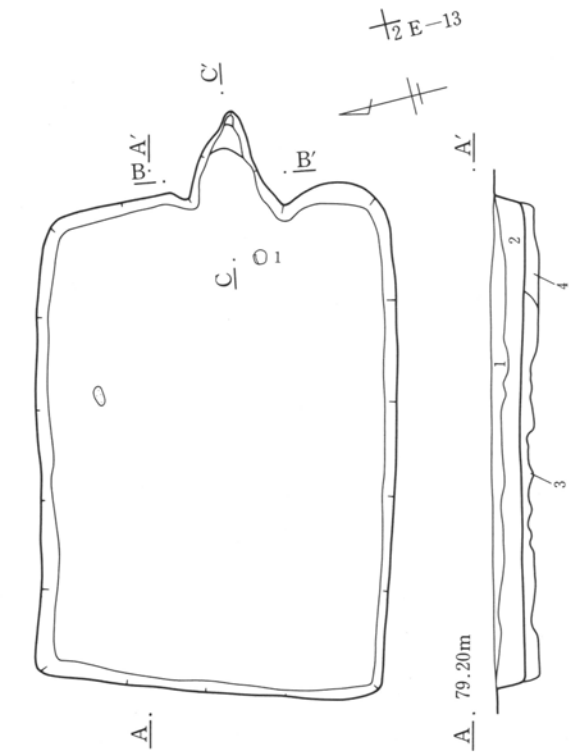
床面 遺構確認面から23cm掘り込んで床面になる。

床高は78.78mを測る。床面は砂質の灰黄褐色土を多く含む黒褐色土である。踏み固められた特に硬い箇所は確認できなかった。

竈 東壁面のほぼ中央部を掘り込んで造られていた。両袖は粘質土で構築されていた。支脚石や袖石は検出されなかった。燃焼部底面から壁面にかけて

灰が良く残っていた。焼土も燃焼部壁面から煙道部にかけて良く残っていた。炭を含む灰は両袖の前から住居床面にも広がっていた。燃焼部は両袖方向52cm、煙道方向81cmを測る。

遺物 土師器坏が出土している。

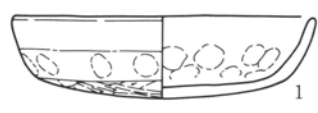


0 1:60 2 m

- 1 灰褐色土 1mm程の白色軽石褐色粒を多く含む。
- 2 黒褐色土 1層に比べ黒色が強く、軽石の混入が少ない。
- 3 黒色土 粘性のある黒色土、褐色粒を多く含む。
- 4 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土を多く含む。

竈

- 1 黒褐色土 1mm程の白色軽石褐色粒を多く含む。焼土も少し含む。
- 2 暗赤褐色土 灰、焼土ブロック、粘土を多く含む。
- 3 暗灰色土 焼土ブロックを含む灰、炭の混じった層。
- 4 暗赤褐色土 硬質な焼土ブロックを多く含む。
- 5 黒褐色土 白色軽石粒を多く焼土粒も含む。



第218図 C区11号住居跡、竈、出土遺物

C区 11号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徵
1	土師器 坏	2/3 口径11.8 器高3.2 丸底	床直	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。口縁部はやや内湾する。 外面 口縁は横ナデ。体部は無調整。底部は篋削り。 内面 口縁～体部は横ナデ。底部は篋ナデ。

(2) 掘立柱建物跡

A区 1号掘立柱建物跡 (第219図 PL88)

位置 3Q-17グリッド

重複 重複なし

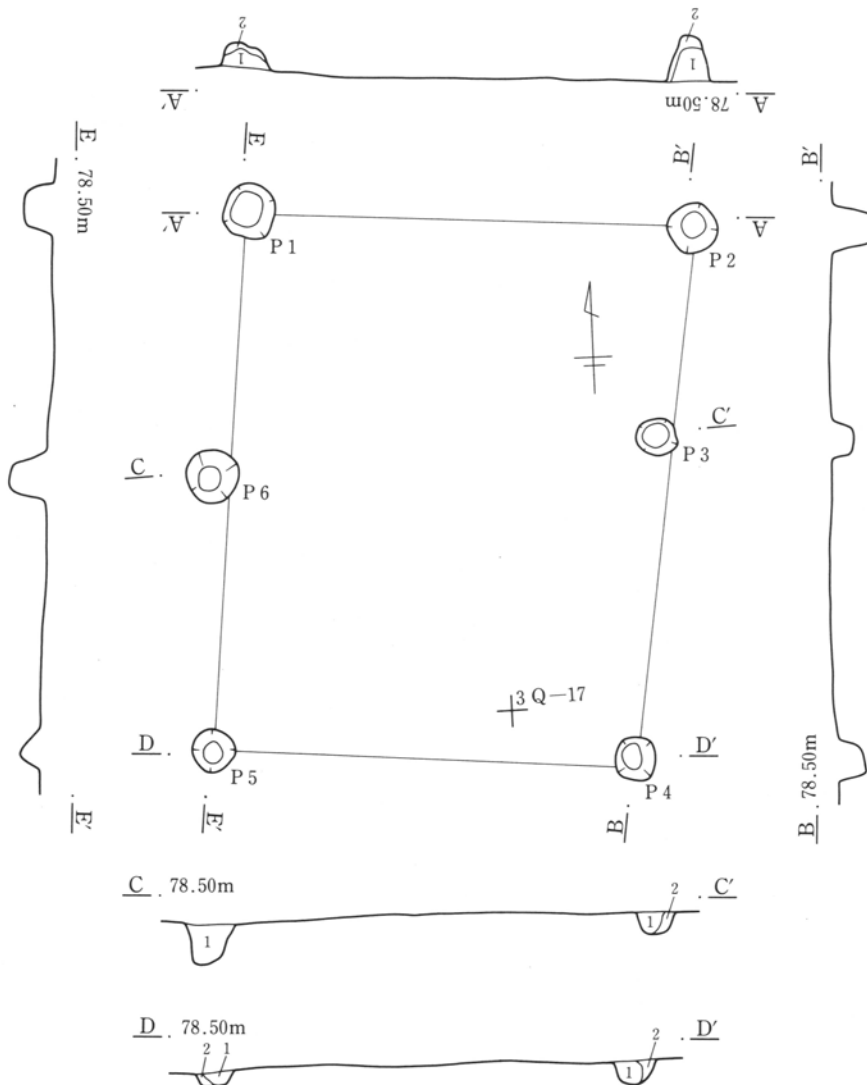
方位 N-10°-E

形態 1×2間(東西3.36~3.56m×南北4.23~4.28m)の南北棟。桁行の柱間は1.66~2.52mを測る。東辺・西辺ともほぼ等間隔である。P2, P3は柱軸から北東に、P6は西に外れる。

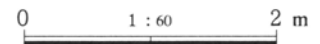
柱穴 柱穴の平面形はほぼ円形である。柱穴の規模は径30~42cm、深さ12~36cmを測る。柱痕跡は確認できなかった。

内部施設 なし

遺物 遺物なし



- 1 黒褐色土 3-b層を主とした層。
- 2 黒褐色土 3-b層中に4-d層を多く含む。



第219図 A区1号掘立柱建物跡

A区 2号掘立柱建物跡 (第220図 PL89)

位置 4B-14グリッド

重複 近世の2号溝にP3の上層を掘り込まれている。

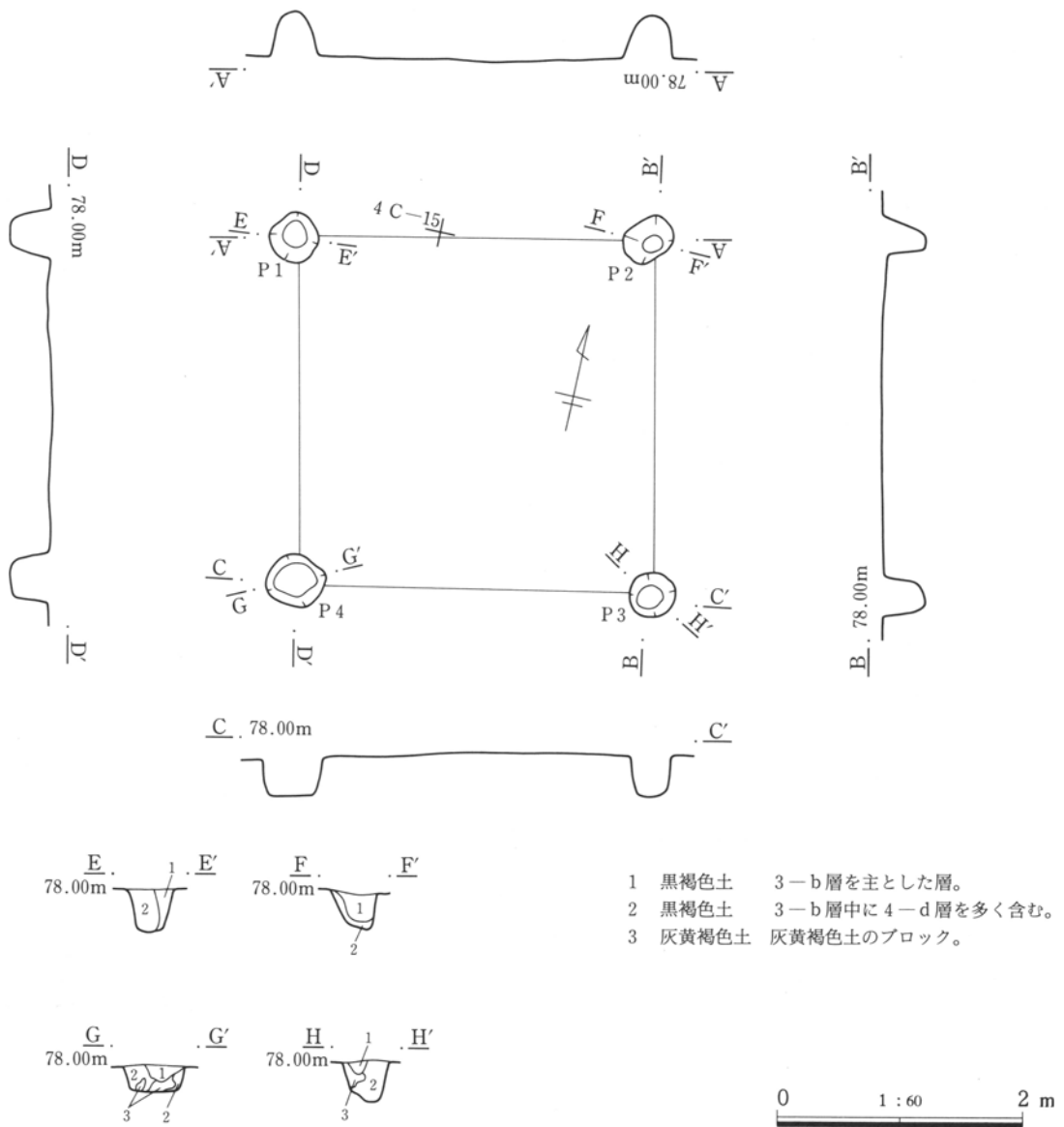
方位 N-80°-E (東西棟と考えた場合)

形態 1×1間 (東西2.90~2.92m×南北2.85~2.87m) のほぼ正方形で、棟方向は確定できない。

柱穴 柱穴の平面形はほぼ円形である。柱穴の規模は径37~50cm、深さ30~37cmを測る。柱痕跡は確認できなかった。

内部施設 なし

遺物 遺物なし



第220図 A区 2号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物

A区 3号掘立柱建物跡 (第221図 PL89)

位置 3S-17グリッド

重複 重複なし

方位 N-65°-E

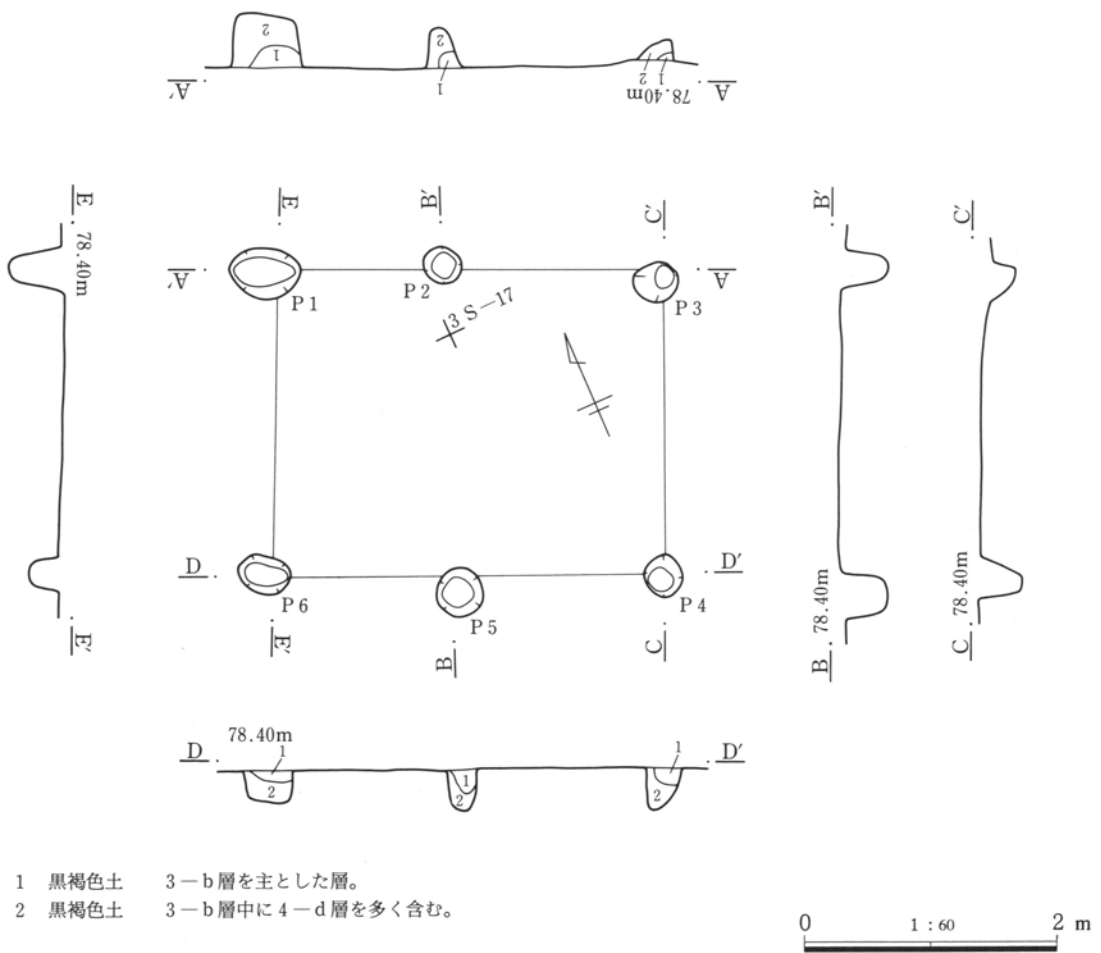
形態 1×2間(東西3.05~3.10m×南北2.40~2.42m)の東西棟。桁行の柱間は1.42~1.75m。北辺・南辺はほぼ等間隔であるが、P5は柱軸からわ

ずか南に外れる。

柱穴 柱穴の平面形は円形や楕円形である。柱穴の規模は径30~58cm、深さ16~43cmを測る。柱痕跡は確認できなかった。

内部施設 なし

遺物 遺物なし



第221図 A区3号掘立柱建物跡

C区 1号掘立柱建物跡 (第222図 PL90・158)

位置 2B-17グリッド

重複 重複なし

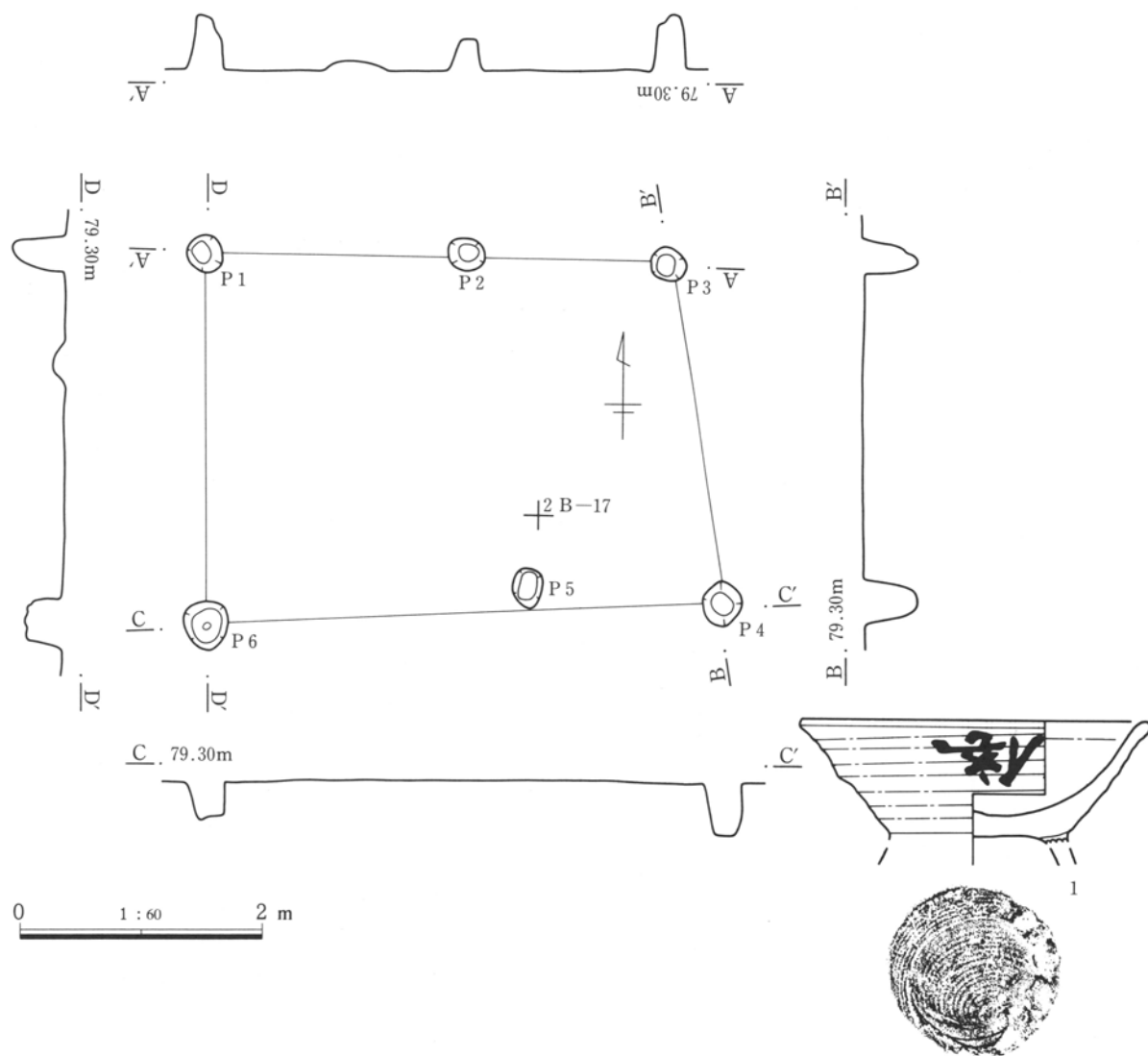
方位 N-90°

形態 1×2間(東西3.86~4.30m×南北2.82~3.02m)の東西棟で、桁行の柱間は1.63~2.66mを測る。北辺に比べ南辺がやや長い。P4は柱軸から東に、P5は北東に外れる。

柱穴 柱穴の平面形は円形や楕円形である。柱穴の規模は径24~40cm、深さ26~45cmを測る。柱痕跡は確認できなかった。

内部施設 なし

遺物 P6からほぼ完形の須恵器の墨書土器壺が出土している。



第222図 C区1号掘立柱建物跡、出土遺物

C区 1号掘立柱建物跡

番号	器種	残存法 存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 壺	高台部欠 口径14.2 器高(5.0) 底径—	柱穴	①輝石 石英 1~3mm の石 ②還元焰 硬質 ③浅黄橙色	腰部が張り、口縁部は外反する。付け高台。体部に「倍」と思われる墨書あり。 右回転クロコ成形。

第3章 検出された遺構と遺物

C区 2号掘立柱建物跡 (第223図 PL90)

位置 2A-15グリッド

重複 重複なし

方位 N-83°-E (東西棟と考えた場合)

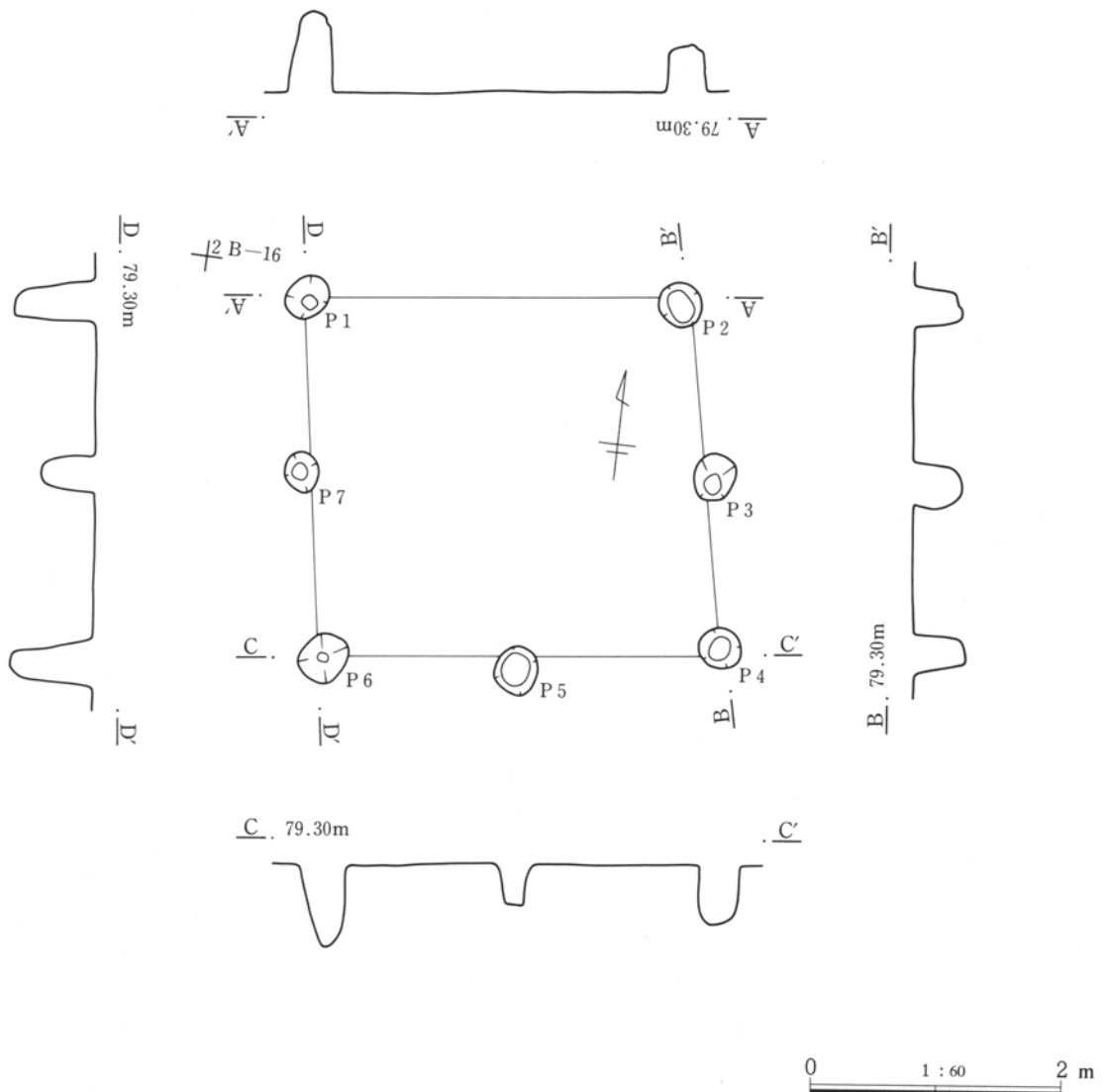
形態 2×2間 (東西3.03~3.25m×南北2.86~2.88m)。ほぼ方形に近い。P1とP2の間に柱穴を検出することができなかった。桁行の柱間は1.58~2.98mで梁間は1.30~1.50mを測る。棟方向は

確定できない。

柱穴 柱穴の平面形はほぼ円形である。柱穴の規模は径27~38cm、深さ33~65cmを測る。柱痕跡は確認できなかった。

内部施設 なし

遺物 遺物なし



第223図 C区2号掘立柱建物跡

C区 3号掘立柱建物跡 (第224図 PL90・158)

位置 2B-14グリッド

重複 重複なし

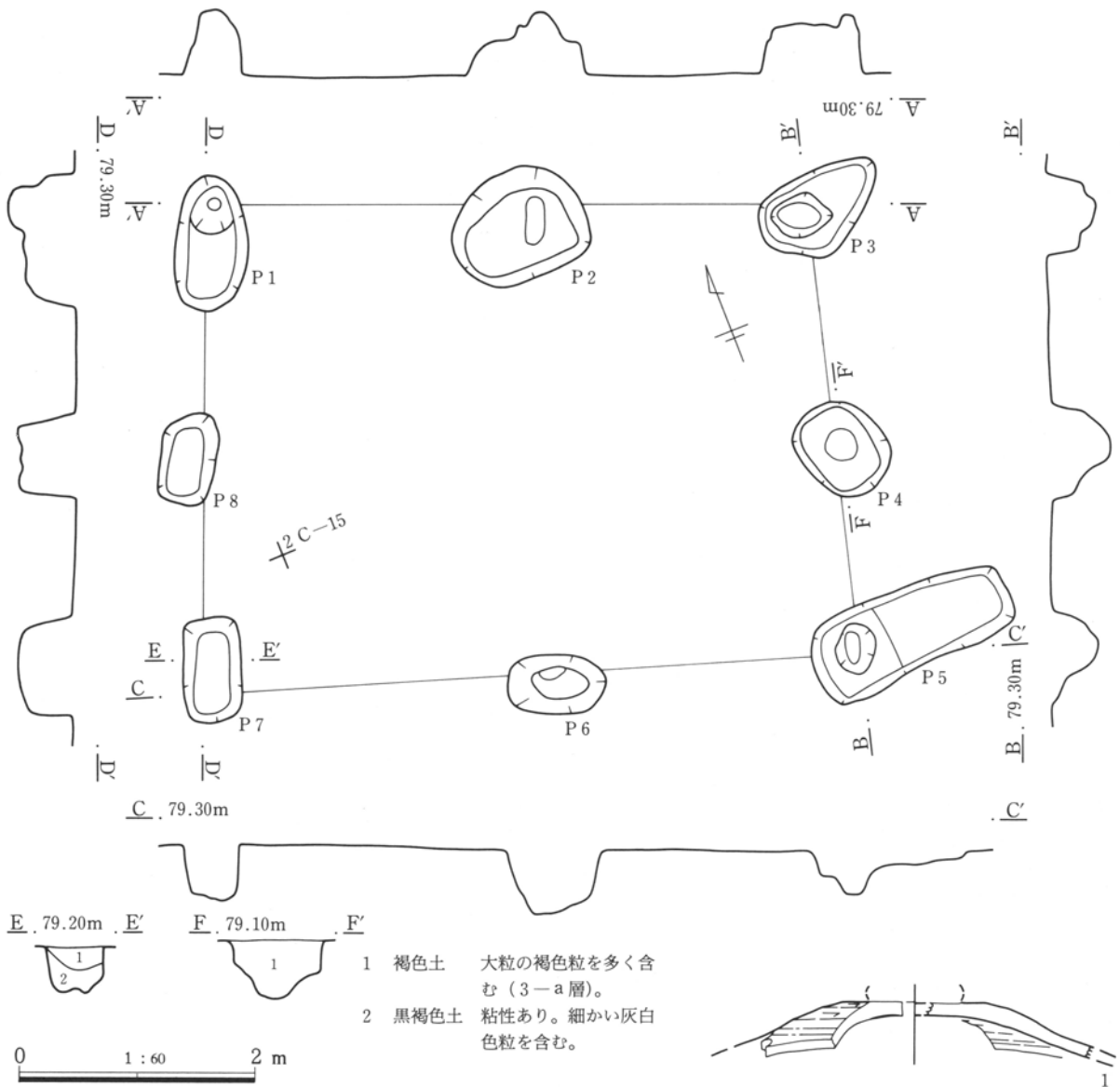
方位 N-68°-W

形態 2×2間(東西5.10~5.60m×南北3.80~4.15m)の東西棟である。形状は長方形である。桁行の柱間は2.30~2.92m。梁間は1.71~2.18mを測る。

柱穴 柱穴は、当初土坑と考えて検出していたので、様々な形状で、楕円や方形のものもある。柱穴の規模は径35~118cm、深さ36~56cmを測る。柱痕跡は確認できなかった。

内部施設 なし

遺物 P6より須恵器坏の破片が出土している。



第224図 C区3号掘立柱建物跡、出土遺物

C区 3号掘立柱建物跡

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 蓋	天井部 1/4 口径— 器高(2.3) 底径—	柱穴 覆土	①白色細粒 ②還元焰 硬質 ③灰白色	右回転クロコ成形。つまみは張り付け。天井部上半は回転篋削り調整。

(3) 井戸

C区 1号井戸 (第225図 PL91・158)

位置 10R-1グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.96m×1.60m
下面 0.38m×0.36m

深さ 1.48m

断面形 漏斗状に掘り込まれていて、底部に近づくほど径が狭くなる。

覆土 細かい灰白色の軽石粒を含む黒褐色土が上層に入っている。

内部施設 見つからなかった。

遺物 土師器の甕が出土している。

備考 風倒木を掘り込んで造られた井戸である。

C区 2号井戸 (第225図 PL91)

位置 10S-1グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.67m×1.26m
下面 0.48m×0.48m

深さ 1.44m

断面形 漏斗状に掘り込まれていて、底部に近づくほど径が狭くなる。

覆土 細かい灰白色の軽石粒を含む黒褐色土が上層に入っている。

内部施設 見つからなかった。

遺物 土師器の坏片が出土している。

備考 平安時代時代の6号土坑と接している。

C区 3号井戸 (第225図 PL91)

位置 9R-18グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.67m×1.10m
下面 計測できなかった。

深さ (2.00)m

断面形 前述のC区1号,2号井戸ほど極端ではないが、漏斗状に掘り込まれていて、底部に近づくほど

径が狭くなる。

覆土 細かい灰白色の軽石粒を含む黒褐色土が上層に入っている。

内部施設 湧水のため底部まで掘り進めなかったの
で確認できなかった。

遺物 土師器の甕が出土している。

備考 湧水のため掘り進めなかったの
で、底部のラインは推定である。また、断面図を作成する際にも井戸の壁面が崩れてしまった。

C区 4号井戸 (第225図 PL91・158)

位置 10S-2グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.72m×(1.00)m
下面 0.34m×0.28m

深さ 1.58m

断面形 上端の一部を攪乱によって掘り込まれてい
る。漏斗状に掘り込まれていて、底部に近づくほど
径が狭くなる。

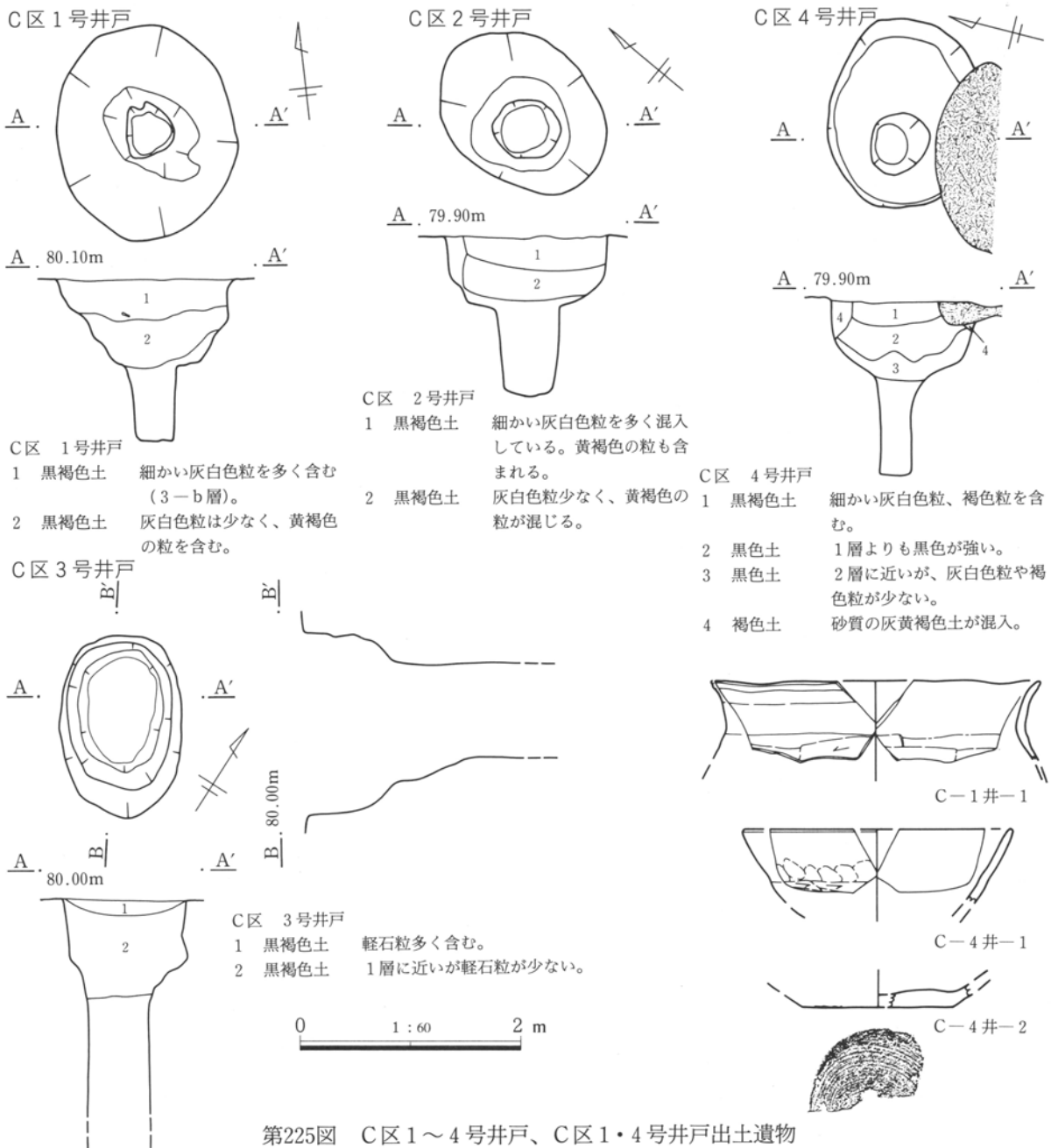
覆土 細かい灰白色の軽石粒を含む黒褐色土が上層
に入っている。

内部施設 見つからなかった。

遺物 土師器の坏、須恵器の坏が出土している。

備考 一部風倒木を掘り込みこんで造られた井戸で
ある。

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物



第225図 C区1～4号井戸、C区1・4号井戸出土遺物

C区 1号井戸

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 甕	口縁部 1/4 口径(18.0) 器高(4.7) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みをもつて屈曲する。口縁は外反。 外面 口縁は横ナデ。以下は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋ナデ。

C区 4号井戸

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 坏	口縁部片 口径(12.0) 器高(3.4) 底径—		①輝石 雲母 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。 外面 口～体部は横ナデ。腰部は篋ナデ。 内面 横ナデ。
2	須恵器 坏	底部 1/3 口径— 器高(1.0) 底径(7.0)		①細砂 ②還元焰 硬質 ③灰白色	底部から直線的に立ち上がる体部。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。

(4) 溝

A区 7号溝 (第226・231図 PL92・93・158)

位置 7J-2~4A-8グリッド

重複 近世のA区3号、4号溝に掘り込まれている。この他多くの近現代の溝にも掘り込まれている。また、近世のA区8号溝がこの溝と並行するように造られている。また、縄文時代のA区71号住居跡、古墳時代のA区5号方形周溝墓を掘り込む。

走向 北東から南西方向の走向。北東端 (N-121°-W)。中程 (N-150°-W)。南西端 (N-138°-W)。

覆土 細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土である。方形周溝墓を掘り込んでいる部分では、覆土に Hr-FA が混入している。

規模 確認全長 62.3mを測る。溝の上端80~210cm、下端18~53cm、深さ23~90cmを測る。

断面形 法面が急になっていて、V字形に近い。

遺物 須恵器片が出土している。

A区 15号溝 (第227図 PL93)

位置 3B-18~3F-9グリッド

重複 古墳時代のA区9号方形周溝墓の周溝の南東端をかすめ、10号方形周溝墓の周溝及び方台部を掘り込んでいる。また、平安時代のA区49号、50号、57号住居に掘り込まれている。

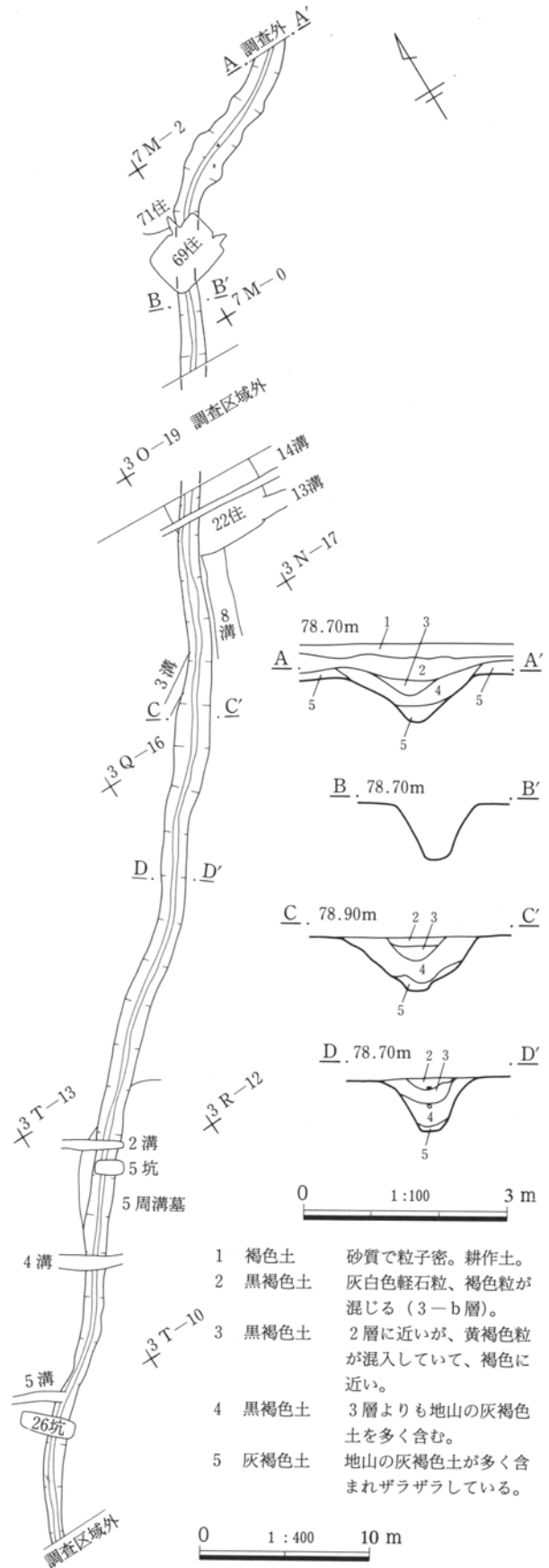
走向 北から走向 (N-178°-W)。9号周溝墓付近で南西方向に走向 (N-130°-W)。10号周溝墓付近でやや南に走向 (N-133°-W)。

覆土 細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土が上層にあり、下層は褐色土のプロックと黒褐色土の混じりである。10号方形周溝墓の周溝のセクションを見ると周溝に堆積した黒褐色土をこの溝が掘り込んでおり、この土が堆積している短期間に掘り込まれ、埋まった事がわかる。

規模 確認全長 54.8mを測る。溝の上端50~92cm、下端25~55cm、深さ11.5~42cmを測る。

断面形 法面が急になっていて逆台形に近い。

遺物 遺物なし



第226図 A区7号溝

B区 4号溝 (第227図 PL93)

位置 2J-12~2L-10グリッド

重複 古墳時代のB区3号方形周溝墓を掘り込む。
また、近現代のB区1号溝、2号溝、3号溝と交差する箇所では掘り込まれている。

走向 東から走向(N-117°-W) 中程から南西方向へ走向(N-143°-W)。

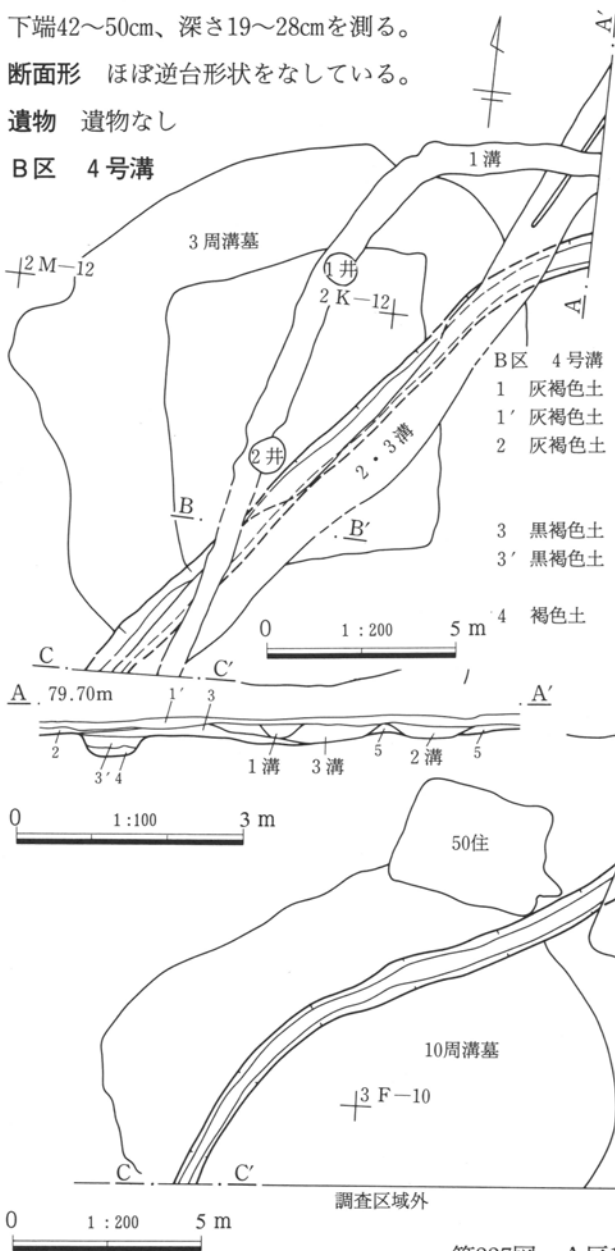
覆土 細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土である。
3号方形周溝墓上に位置していて、周溝上に堆積したHr-FAの粒がこの溝の下層に混入している。

規模 確認全長16.5mを測る。溝の上端82~88cm、
下端42~50cm、深さ19~28cmを測る。

断面形 ほぼ逆台形状をなしている。

遺物 遺物なし

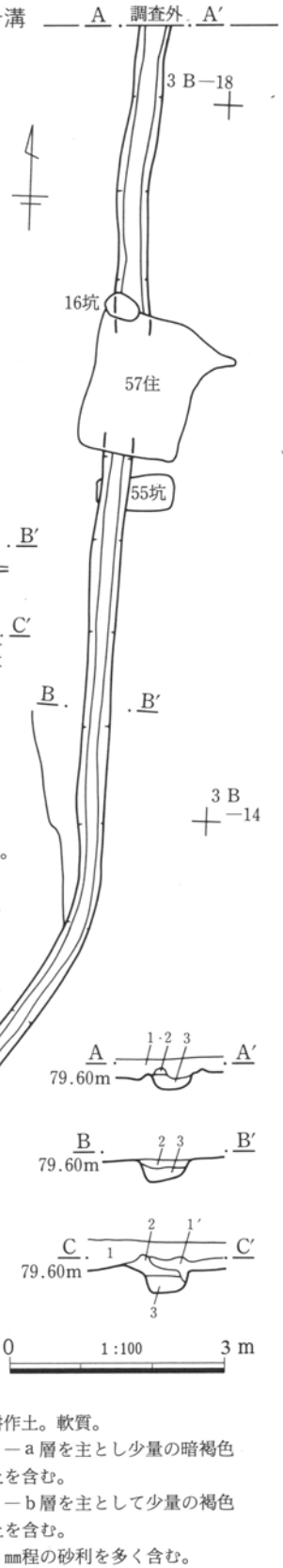
B区 4号溝



- B区 4号溝
- 1 灰褐色土
 - 1' 灰褐色土
 - 2 灰褐色土
 - 3 黒褐色土
 - 3' 黒褐色土
 - 4 褐色土

耕作土。草の根が多い。
1層とほぼ同じ。やや灰色が強い。
1'層を主として水田下に出る鉄分が多く含まれる層。やや赤色を帯びる。
3-b層に相当。
3層と古墳前期の3-c層の混入したもの。3層よりも黒い。
3'層に褐色の砂質が混入。

A区15号溝



- A区 15号溝
- 1 褐色土
 - 1' 褐色土
 - 2 黒褐色土
 - 3 明黄褐色土

耕作土。軟質。
2-a層を主とし少量の暗褐色土を含む。
3-b層を主として少量の褐色土を含む。
5mm程の砂利を多く含む。

第227図 A区15・B区4号溝

C区 1号溝 (第228・231・232図 PL94・158)

位置 10R-0～1J-14グリッド

重複 古墳時代のC区3号、13号溝をそれぞれ交差する箇所掘り込んでいる。また、近世のC区4号溝、近現代のC区5号溝に掘り込まれている。

走向 全体的には北東から南西方向の走向。しだいに走向が西に変化していく(N-157°-W)(N-127°-W)(N-101°-W)(N-72°-W)。

覆土 細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土で下層には地山の明黄褐色土が混入している。

規模 確認全長74.3mを測る。溝の上端58～130cm、下端22～87cm、深さ15～64cmを測る。

断面形 北東部は皿状であるが、全体的にはほぼ逆台形状をなしている。

遺物 土師器坏、須恵器坏、埴、砥石が出土している。

C区 14号溝 (第228図 PL94)

位置 5M-4～1L-17グリッド

重複 近現代のC区18号、19号溝に掘り込まれている。

走向 北から南東方向へ走向(N-163°-E)。途中で南西へ走向が変わる(N-175°-W)。

覆土 粘性をもつ褐色がやや強い黒褐色土で下層には1mm以下の川砂と思われる砂が混入している。

規模 確認全長31.7mを測る。溝の上端28～88cm、下端11～49cm、深さ20～41cmを測る。

断面形 法面が緩やかなややU字形をしている。

遺物 遺物なし

C区 20号溝 (第230図 PL94)

位置 6B-3～2D-17グリッド

重複 奈良・平安時代のC区26号溝を掘り込んでいるが、26号溝と合流してからの流路ははっきりしなかった。

走向 北から南へ走向(N-170°-W)。C区26号溝に注ぐあたりから南西方向へ変化する(N-154°-W)

覆土 As-B軽石粒が多く混入している黒褐色土の下層にあたり、灰白色軽石粒混じりの黒色土も見え

る。その下層は砂質の灰黄褐色土が混入した褐色土になっている。

規模 確認全長 23.7mを測る。溝の上端38～85cm、下端17～55cm、深さ48cmを測る。

断面形 法面が緩やかなU字状をしている。

遺物 遺物なし

C区 26号溝 (第230・232図 PL95・158)

位置 6C-3～2J-10グリッド

重複 古墳時代のC区28号、30号溝、奈良・平安時代の29号溝を掘り込んでいる。

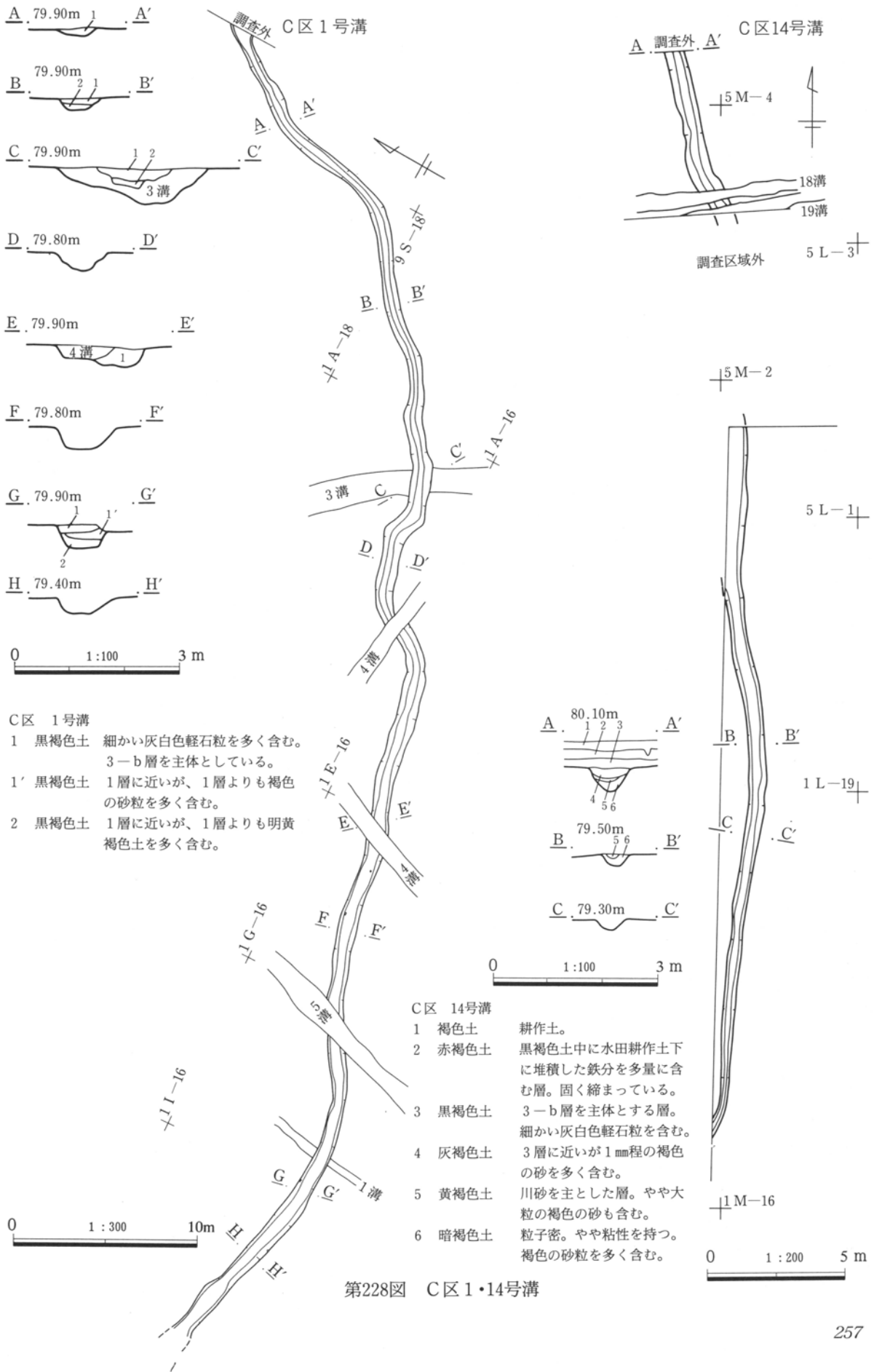
走向 北から南へ走向(N-165°-W)途中から南西方向への走向が目立つ(N-154°-W)。また、南西端で二股に分かれる(N-141°-W)(N-167°-W)。

覆土 As-B軽石粒が厚く堆積した箇所の下部から検出された溝である。この地域にAs-B軽石粒が堆積した頃には完全に溝は埋まりきっており、機能していなかったと考える。黒褐色土、砂を多く含む黄褐色土の中にHr-FAと思われる黄橙色の粒が混入していた。

規模 生活用道路が調査区内を通過しているため一部発掘調査ができない箇所があった。調査区南で2筋に分かれる。確認全長62mを測る。溝の上端162～517cm、下端98～420cm、深さ93～165cmを測る。最大9条の溝の集合体であり、洪水などで溝が埋まる度に掘削したものと思われる。底には溝を造った時の鋤跡も残っていた。

断面形 1条ごとの溝は法面が緩やかな逆台形状をしている。26号溝全体としては緩やかなU字形状をしている。

遺物 土師器坏が出土している。中には完形の坏もある。



第3章 検出された遺構と遺物

C区 29号溝 (第230・232図 PL52・158)

位置 2C-17~2D-17・2F-13グリッド
重複 古墳時代のC区28号溝を掘り込んでいて、奈良・平安時代のC区26号溝に掘り込まれている。
走向 東から西へ走向(N-67°-W)する部分と北東から南西方向へ3段階ほど変化しながら走向する部分がある(N-128°-W)(N-154°-W)(N-102°-W)。

覆土 白色軽石粒を含む、褐色の砂が全体的に多く、灰褐色土である。

規模 2C-17グリッド付近で古墳時代の28号溝に注ぎ込むのと、南西方向へ流れて28号溝を横切って26号溝に合流する二つの流路に分かれている。水源は、北東方向にあったと考え、調査したが確認できなかった。確認全長28.6mを測る。溝の上端40~75cm、下端12~52cm、深さ44cmを測る。

断面形 法面が緩やかな皿状をしている。

遺物 完形の土師器壺が出土している。

C区 31号溝 (第229・232図 PL95・159)

位置 1O-15~1Q-14グリッド
重複 古墳時代のC区24号溝を掘り込んでいる。
走向 東西方向に走向するが(N-90°-W)、西端でほぼ直角に南流する(N-180°-W)。

覆土 1mm前後の灰白色軽石粒が混入している黒褐色土。

規模 確認全長17.2mを測る。溝の上端90~220cm、下端50~168cm、深さ18cmを測る。

断面形 法面が緩やかな皿状をしている。

遺物 須恵器壺、埴が出土している。

C区 33号溝 (第230図)

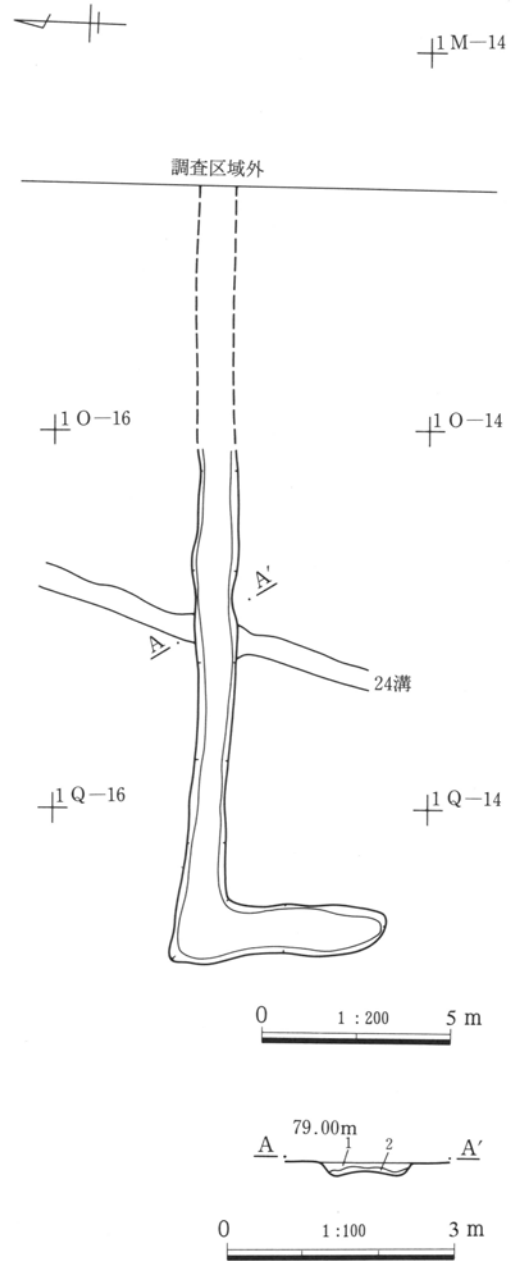
位置 2G-11~2B-11グリッド
重複 古墳時代のC区28号溝を掘り込んでいる。
走向 ほぼ西から東方向の走向(N-105°-E)東端は(N-87°-E)。

覆土 1mm前後の灰白色軽石粒が混入している暗褐色土。

規模 確認全長27mを測る。溝の上端20~42cm、下端3~20cmを測る。深さは測定できなかった。

断面形 法面が緩やかな皿状をしている。

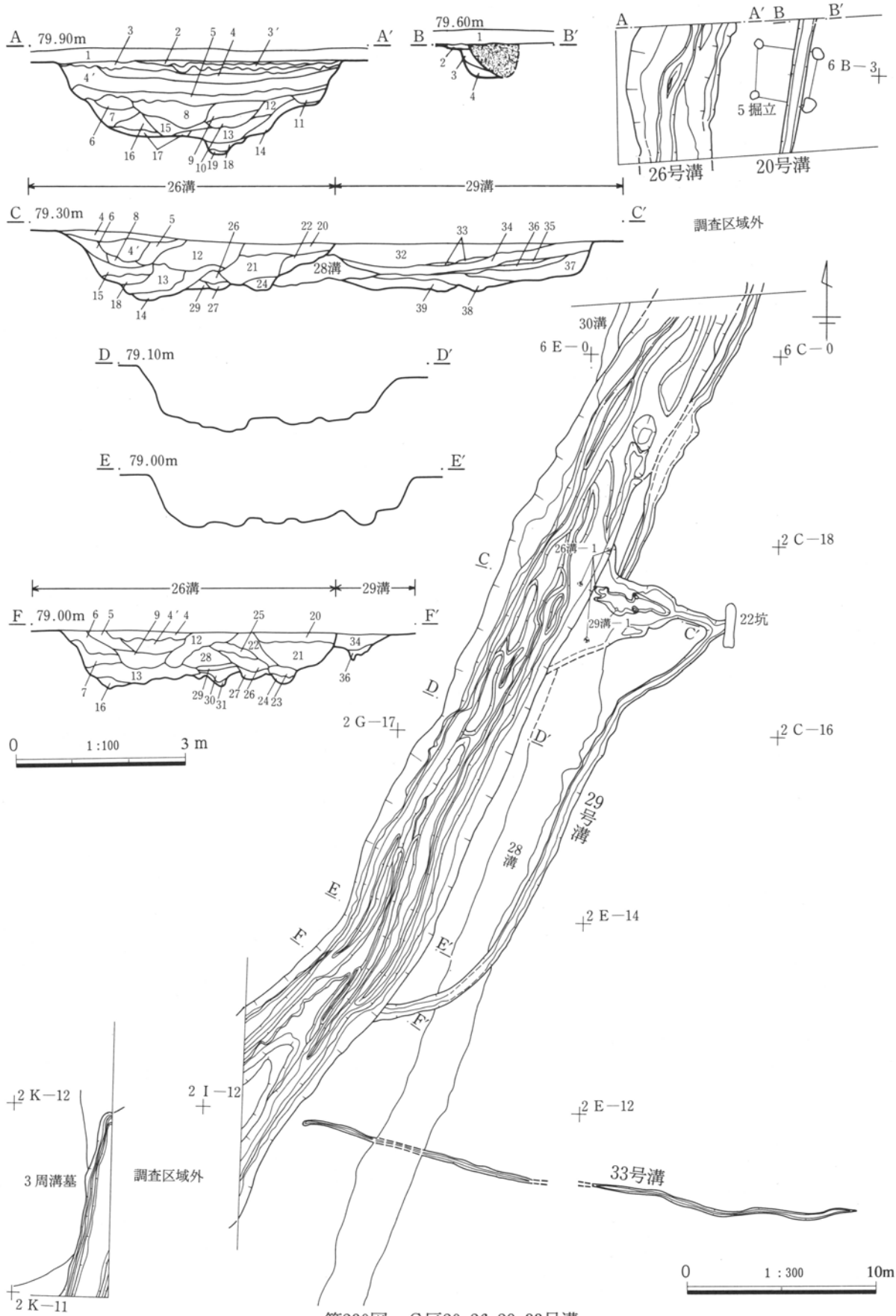
遺物 遺物なし。



- 1 黒褐色土 3-b層を主体とする。細かい灰白色軽石粒を多く含む。
- 2 黒褐色土 1層に近いが地山の明黄褐色土を多く含む。

第229図 C区31号溝

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物



第230図 C区20・26・29・33号溝

第3章 検出された遺構と遺物

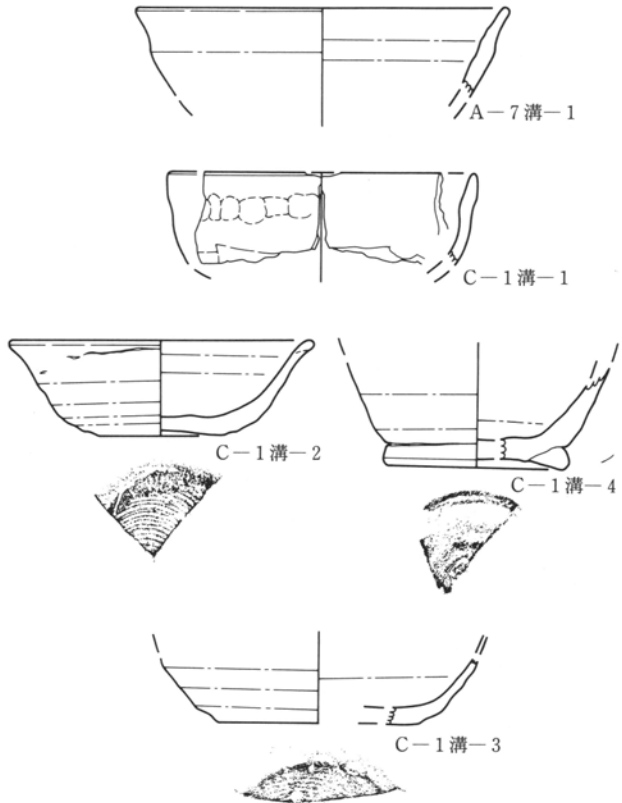
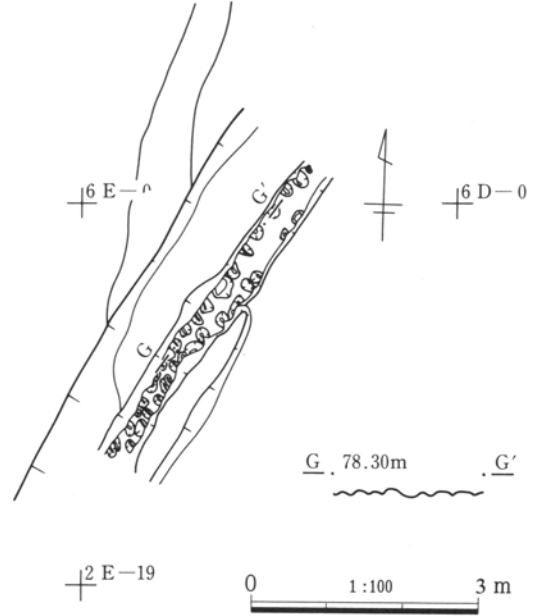
C区 20号溝

- 1 褐色土 耕作土。
- 2 黒褐色土 細かい灰白色軽石粒が混入している。
- 3 灰黄褐色土 地山の灰黄褐色土と上位の黒褐色土が混入した層。
- 4 灰黄褐色土 3層よりも灰黄褐色土が多く混入。

C区 26・29号溝

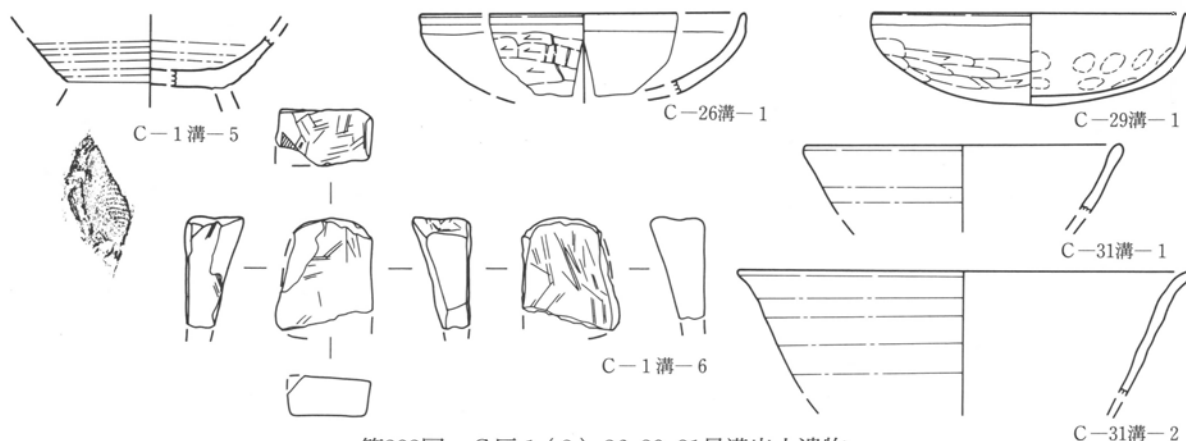
- 1 褐色土 耕作土。
- 2 赤褐色土 水田耕作土下に堆積した鉄分を多量に含む層。固く締まっている。
- 3 灰色土 As-B軽石粒を主とした層。
- 3' 灰黒色土 3層のAs-B軽石粒を主とし、多くの黒褐色土を混入している層。
- 4 黒褐色土 3-c層に相当する層と思われるが、3-c層より褐色が強く、全体にやや粘性を持つ。1~2mmの灰白色軽石粒を多く含む。
- 4' 黒褐色土 4層に近いが、4層の方がより黒色に近い。
- 5 灰褐色土 黄褐色土粒、明黄褐色砂粒を多く含む固い層。所々に砂が堆積している。
- 6 黒褐色土 4層に近いが、4層より黒色が強い。
- 7 黒褐色土 暗赤褐色に近い黒褐色。粒子密で固い。やや粘性あり。
- 8 灰褐色土 粒子1mm以下で密。水の流れによる砂を所々に含む。数回に渡る川の流が砂の堆積から確認出来る。
- 9 暗赤褐色土 7層に近く粒子密で固い。7層より赤色が強い。少量の川砂を含む。
- 10 灰褐色土 水の流れによる川砂を多く含む。砂の大きさは1~2mm。
- 11 暗褐色土 1mm内外の明黄褐色土を多く、1mm内外の明黄褐色土ブロックを少量含む。
- 12 黒褐色土 1mm内外の灰白色軽石粒を多く含む。4'層にやや近い。
- 13 灰褐色土 水の流れによる川砂を多く含む。砂の大きさは1mm内外。
- 14 黒褐色土 やや粘性を持つ黒褐色土中に多くの灰黄褐色砂層を含む。
- 15 灰褐色土 川の流による川砂を多く含む。全体に粒子が密である。
- 16 灰褐色土 川の流による川砂を多く含む。やや黒色が強い。
- 17 灰褐色土 5~15mmの砂利を多量に含む。川砂も多く含む。
- 18 灰褐色土 少量の黒褐色土を含む。
- 19 灰褐色土 17層に近いが、17層より黒色が強い。
- 20 黒褐色土 灰白色軽石粒を少量含む。
- 21 灰褐色土 粘土、砂粒が層をなしている。
- 22 黒褐色土 灰白色軽石粒、褐色粒を含む。
- 23 暗灰褐色土 粘土、砂を多く含む。
- 24 暗灰色土 地山の粘土をブロック状に含む。
- 25 灰褐色土 灰白色軽石粒と粘土が混じった層。
- 26 黒褐色土 黒褐色土、灰色粘土、黄褐色土の混じった層。
- 27 灰褐色土 灰色粘土を多く含む。
- 28 灰褐色土 灰色粘土、黄褐色土の混じった層。
- 29 灰褐色土 灰白色軽石粒を含む粘土主体の層。
- 30 黒褐色土 川砂を多く含む。
- 31 灰褐色土 27層に似ている。灰色粘土を多く含む。
- 32 灰褐色土 1mm程の灰白色軽石粒と砂を多量に含む。
- 33 灰褐色土 32層よりも黒色が強い。
- 34 黒褐色土 1mm程の灰白色軽石粒を含む。
- 35 灰褐色土 砂粒が主体で軽石粒少ない。
- 36 暗灰褐色土 灰黄褐色の砂粒多い。

- 37 灰褐色土 砂粒に地山の灰褐色粘質土が多くブロック状に混入。
- 38 灰褐色土 37層よりも灰褐色粘質土のブロックが小さい。
- 39 暗灰色土 黒紫色土(5-d層)の粘質土も含む。



第231図 C区26号溝工具痕、A区7・C区1号溝出土遺物(1)

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物



第232図 C区1(2)・26・29・31号溝出土遺物

A区 7号溝

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	口縁部片 口径(14.7) 器高(3.5) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直線的に立ち上がる。体部に稜をもつ。口縁部はやや外反する。右回転ロクロ成形。

C区 1号溝

番号	器種	残存法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調 (石 材)	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 坏	口～体部片 口径(12.0) 器高(3.6) 底径—		①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁部はやや外反する。 外面 口縁は横ナデ。体部は無調整。腰部は篋削り。 内面 横ナデ。
2	須恵器 坏	2/5 口径(11.8) 器高3.7 底径(5.0)		①緻密 ②還元焰 硬質 ③黄灰色	腰部が張り、口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
3	須恵器 坏	体下半～底部1/4 口径— 器高(2.5) 底径(4.0)		①輝石 緻密 ②還元焰 軟質 ③暗黄色	丸みを帯びて立ち上がる。 左回転ロクロ成形。底部は左回転糸切り。
4	須恵器 塊	体下半～高台部片 口径— 器高(4.2) 底径(7.0)		①細砂 ②還元焰 硬質 ③灰オリーブ色	直線的に立ちあがる。高台部は内外面ともに外傾するが、特に内面の外傾が強い。付け高台。 右回転ロクロ成形。
5	須恵器 塊	体下半～底部1/5 口径— 器高(2.1) 底径—		①細砂 輝石 ②還元焰 硬質 ③灰白色	直線的に立ちあがる。付け高台。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
6	石製品 砥石	長さ(4.4) 幅(3.8) 厚さ(2.3) 重さ 40		砥沢石	使用面は4面。研ぎ減り目立つ。直線状の擦痕多い。

C区 26号溝

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 坏	口縁部片 口径(12.9) 器高(3.2) 底径—		①細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁部は直立する。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。

C区 29号溝

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 坏	完形 口径12.3 器高3.6 底径 丸底		①緻密 輝石 雲母 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁部は直立する。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。

C区 31号溝

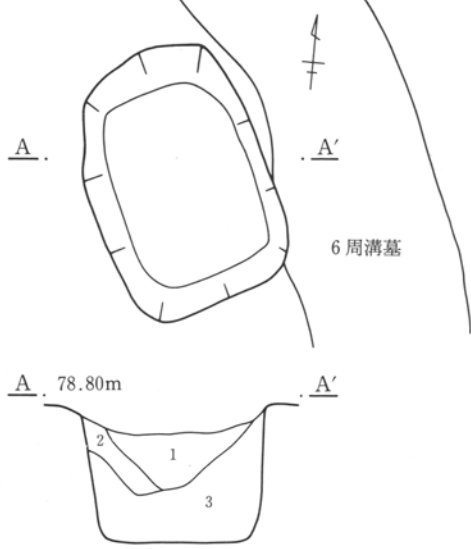
番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	口縁部片 口径(12.4) 器高(2.7) 底径—		①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁部はやや外反する。 右回転ロクロ成形。
2	須恵器 坏	口～体部片 口径(17.8) 器高(4.9) 底径—		①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。 右回転ロクロ成形。

(5) 土坑

遺構番号 (第図 PL)	平面形 グリッド	長軸方向	長軸×短軸 深さ(cm)	覆土の特徴 出土遺物	備考
A区45号土坑 (第233図 PL95)	隅丸長方形 3 M-9	N-23°-W	140×96 73	細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土。	古墳時代のA区6号方形周溝墓の周溝を掘り込む。
A区50号土坑 (第233・237図 PL96・159)	隅丸長方形 3 B-10	N-84°-E	164×127 22	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。内面黒色磨きの塊。	
A区51号土坑 (第233・237図 PL96・159)	隅丸長方形 3 G-14	N-85°-W	263×130 25	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。土釜。	
A区54号土坑 (第233図 PL96)	隅丸長方形 3 F-11	N-58°-W	154×96 44	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	古墳時代のA区8号方形周溝墓の周溝の上部を掘り込む。
A区55号土坑 (第234図 PL96)	隅丸長方形 3 B-15	N-90°	220×84 18	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	
A区56号土坑 (第234図 PL96)	隅丸長方形 3 C-16	N-90°	186×(123) 31	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	平安時代のA区56号住居を掘り込む。
A区57号土坑 (第234図 PL96)	隅丸長方形 3 C-16	N-86°-W	190×127 36	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	平安時代のA区56号住居を掘り込む。
A区60号土坑 (第234図 PL96)	隅丸長方形 3 B-16	N-75°-W	(98)×(76) (36)	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	平安時代のA区57号住居、15号溝を掘り込む。
A区61号土坑 (第234図 PL97)	円形 3 G-13		84×- 27	灰白色粒、褐色粒を含む黒褐色土。	古墳時代のA区8号方形周溝墓の周溝部を掘り込む。
A区62号土坑 (第234図 PL97)	円形 3 G-13		130×- 32	As-B軽石粒を含む黒褐色土。	A区8号方形周溝墓を掘り込んでいる。
A区65号土坑 (第235・237図 PL97・159)	隅丸長方形 3 A-13	N-3°-E	104×86 21	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。須恵器塊、羽釜出土。	攪乱によって掘り込まれている。
A区66号土坑 (第235・237図 PL97・159)	円形 3 C-10		80×- 17	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。羽釜出土。	
A区67号土坑 (第235図 PL97)	隅丸長方形 3 C-11	N-22°-E	136×71 20	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	
A区68号土坑 (第235・237図 PL97・159)	隅丸長方形 3 A-16	N-72°-W	136×131 27	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。須恵器塊出土。	
A区69号土坑 (第235図 PL97)	隅丸長方形 3 C-15	N-70°-W	164×85 20	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	
A区70号土坑 (第235図 PL97)	隅丸長方形 2 R-11	N-85°-W	157×94 38	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	
A区71号土坑 (第235図 PL98)	隅丸長方形 2 Q-17	N-5°-E	230×108 28	黄褐色土のブロックを含む黒褐色土。	古墳時代のA区14号前方後方形周溝墓の周溝部を掘り込む。
A区72号土坑 (第236図 PL98)	隅丸長方形 2 Q-17	N-84°-W	288×76 22	黄褐色土のブロックを含むやや黒色が強い黒褐色土。	古墳時代のA区14号前方後方形周溝墓の後方を掘り込む。
C区6号土坑 (第236・237図 PL98・159)	楕円形 10 T-2	N-13°-W	116×73 -	覆土の記載なし。 土師器小型甕。	C区2号井戸と接する。
C区19号土坑 (第236図 PL98)	円形と想定 9 R-15		(198)×(88) (45)	黒色土に灰白色軽石粒混入。	調査区外に接していたため半分だけ調査することができた。
C区32号土坑 (第236図 PL98)	隅丸長方形 2 C-10	N-87°-W	123×97 84	As-B軽石粒を含む黒褐色土。	
C区51号土坑 (第236図 PL98)	円形 6 B-3	N-51°-W	59×51 38	焼土粒を含むやや黒色が強い黒褐色土。	
C区59号土坑 (第236図 PL98)	不定形 2 G-16	N-13°-E	374×138 10	細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土。	
C区60号土坑 (第236図 PL98)	楕円形 1 Q-10		120×107 23	細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土。	

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物

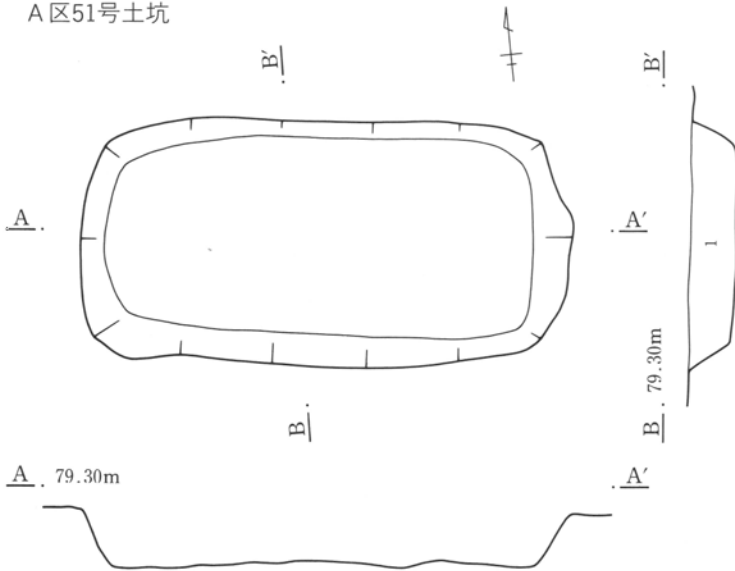
A区45号土坑



A区 45号土坑

- 1 黒褐色土 3-b層を主とし、僅かに地山の4-d層を含む。
- 2 黒褐色土 3-b層を主とし、大量に地山の4-d層の砂を含む。
- 3 黒褐色土 3-b層を主とし、やや多くの地山4-d層の砂を1cm前後のブロック状を含む。

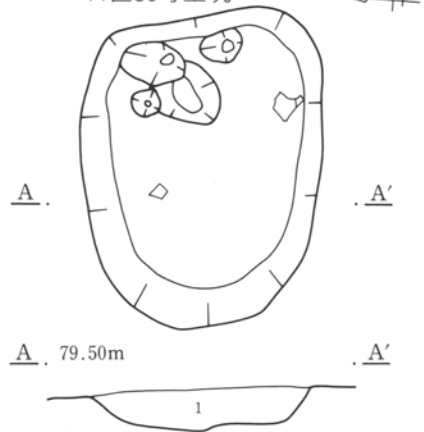
A区51号土坑



A区 51号土坑

- 1 黒褐色土 灰白色軽石粒の細かいものを含む。地山の黄褐色土のブロックも多く含む。全体的に砂質である。

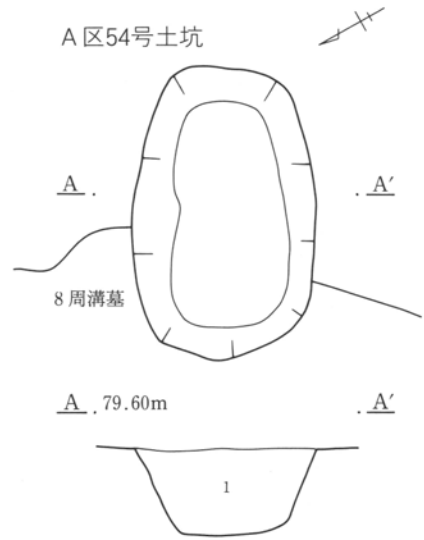
A区50号土坑



A区 50号土坑

- 1 黒褐色土 平安時代の住居49・50・51号住居覆土に近い3-b層に相当する層と思われる。ローム粒に近い少量の黄褐色粒を含む。

A区54号土坑



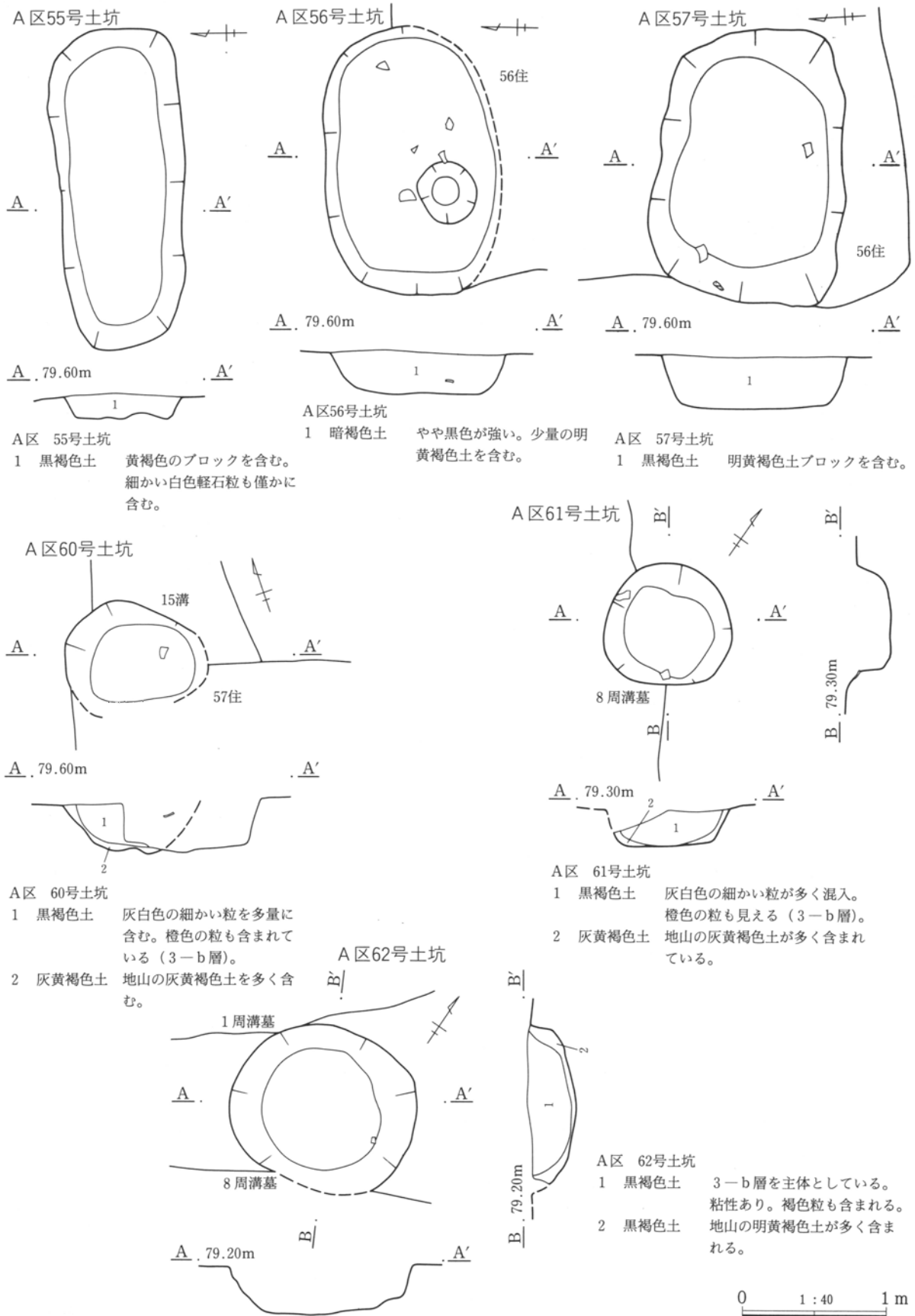
A区 54号土坑

- 1 黒褐色土 3-b層を主として、褐色土のブロック状の土を含む。軟らかい。

0 1 : 40 1 m

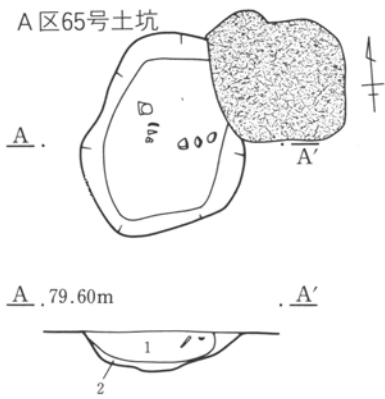
第233図 A区45・50・51・54号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



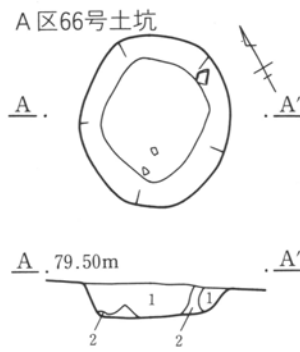
第234図 A区55~57・60~62号土坑

2. 奈良・平安時代の遺構と遺物



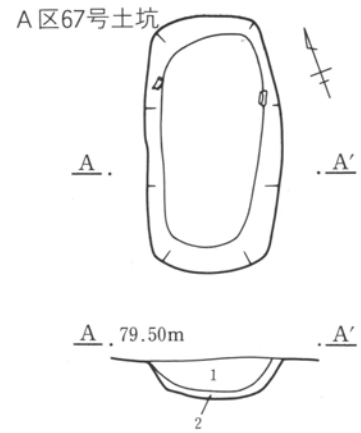
A区 65号土坑

- 1 黒褐色土 褐色の土がブロック状に混じり、斑の様に見える。細かい灰白色粒、橙色の粒が混じる。
- 2 黒褐色土 上位の層よりも、明黄褐色土が強く明るい。



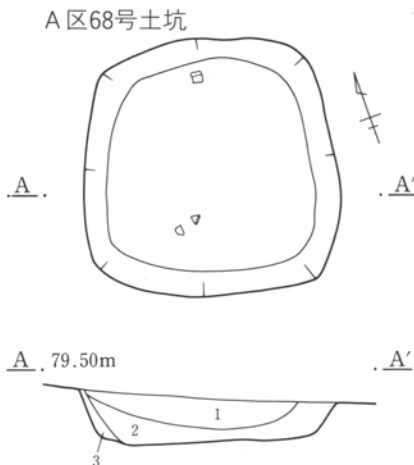
A区 66号土坑

- 1 黒褐色土 灰白色の細かい粒が多く含まれる。明黄褐色の粒、橙色の粒も含まれている。
- 2 明黄褐色土 地山の暗黄褐色土を多く含む。上位層の黒褐色混じりも入っている。



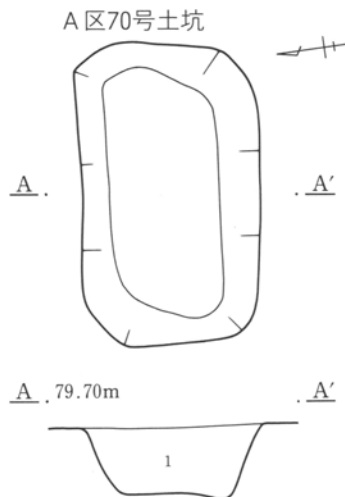
A区 67号土坑

- 1 黒褐色土 下位の2層に近い所ほど黒色を帯びてくる。細かい灰白色の粒が多量に含まれている。
- 2 明黄褐色土 地山と思われる。黒褐色の土も混じっている。



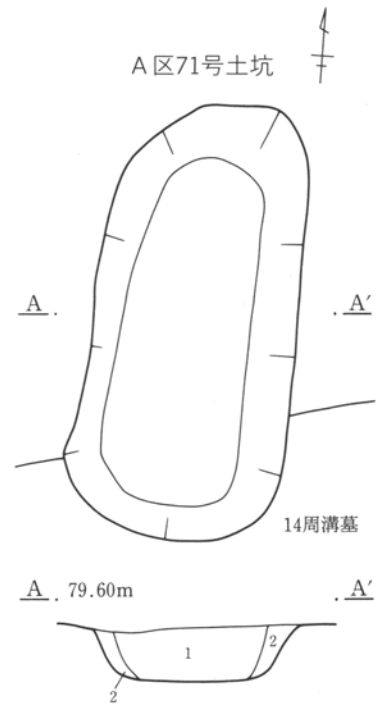
A区 68号土坑

- 1 黒褐色土 3-b層を主体として、黄褐色ブロックが混入している。
- 2 黒褐色土 1層よりも黒色が強い。
- 3 明黄褐色土 地山の明黄褐色土を多く含む。



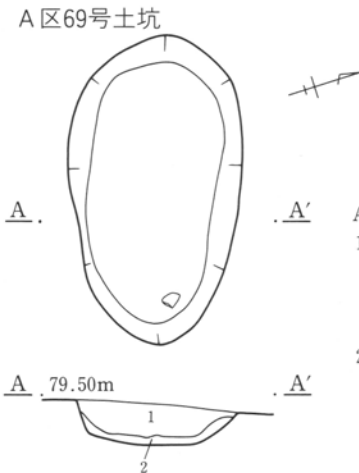
A区 70号土坑

- 1 黒褐色土 3-b層を主体として、地山の明黄褐色土ブロックを多く含む。



A区 71号土坑

- 1 黒褐色土 細かい灰白色軽石粒が大量に含まれている(3-b層)。下層の明黄褐色のブロック状の塊も混入。
- 2 明黄褐色土 地山の明黄褐色土を多く含む。

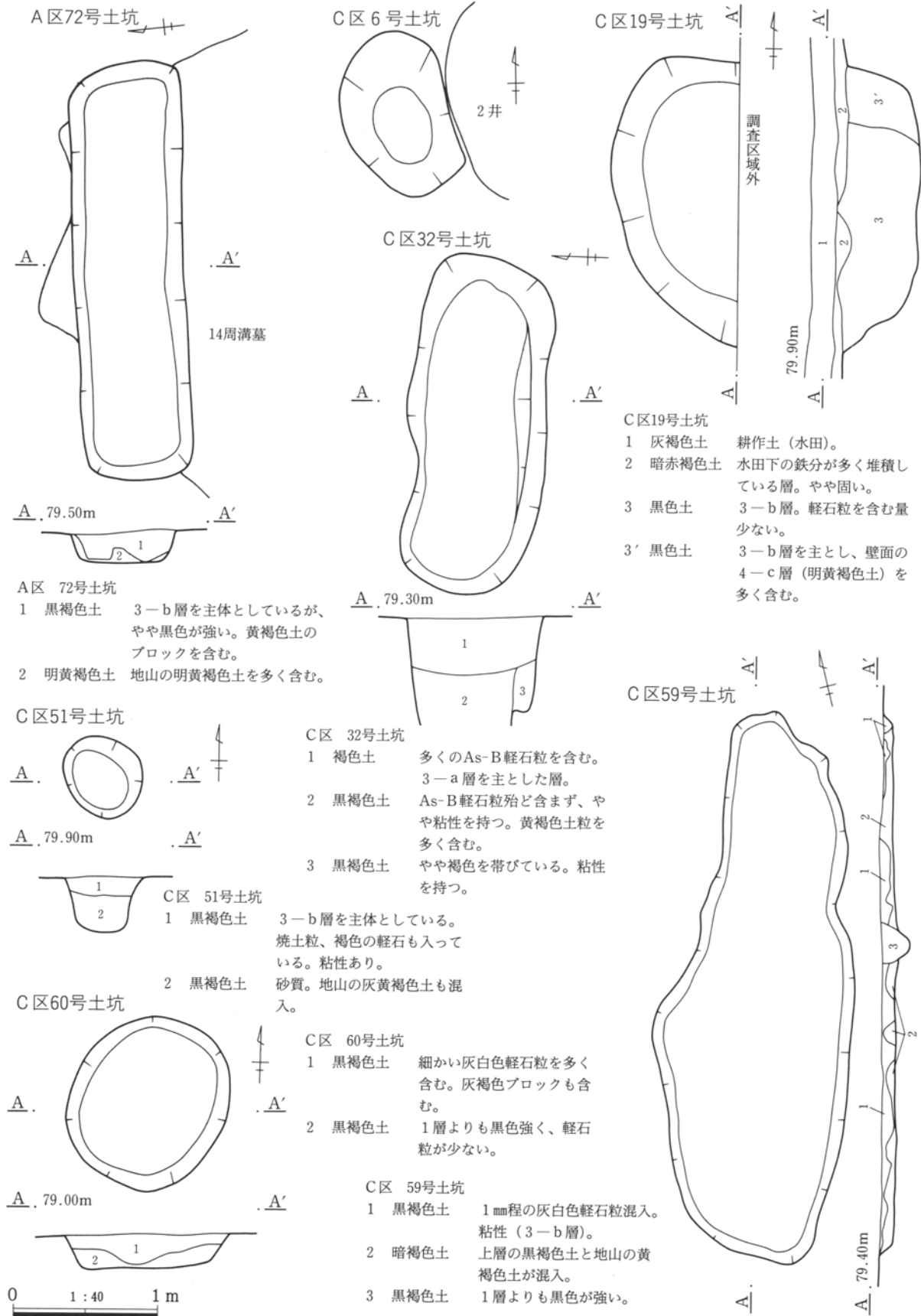


A区 69号土坑

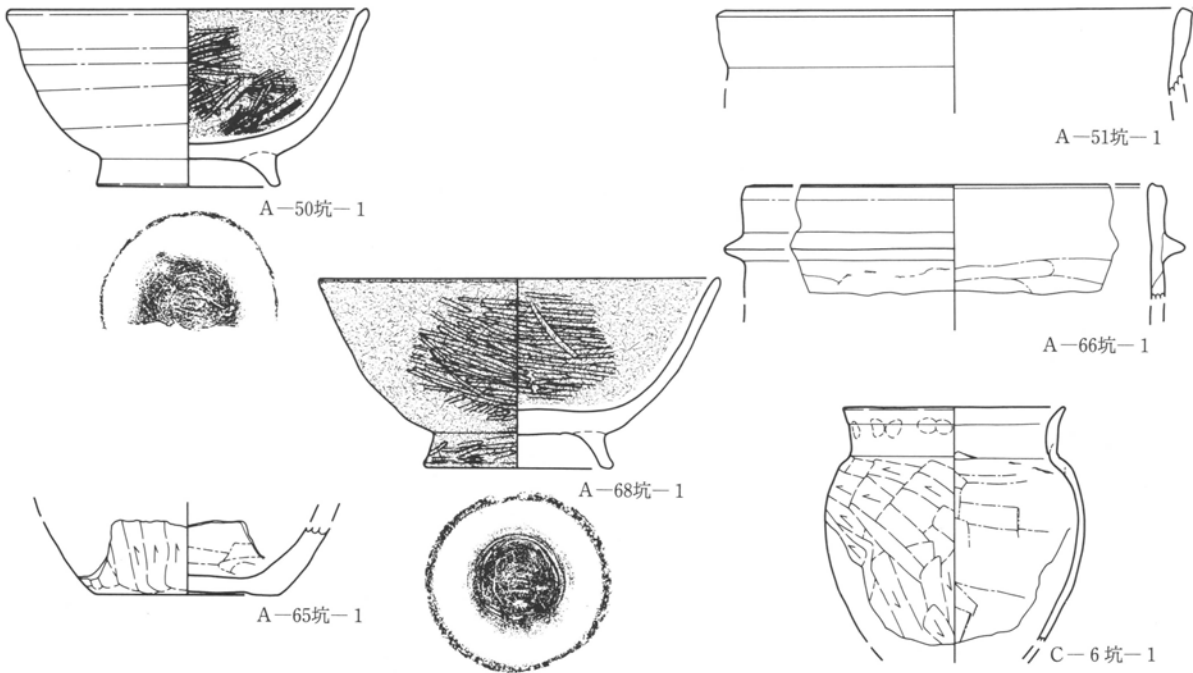
- 1 黒褐色土 3-b層を主体としている。細かい灰白色軽石粒が多く含まれている。褐色のブロックも見える。
- 2 明黄褐色土 地山の明黄褐色土を多く含む。

0 1:40 1m

第235図 A区65~71号土坑



第236図 A区72、C区6・19・32・51・59・60号土坑



第237図 A区50・51・65・66・68、C区6号土坑出土遺物

A区 50号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 碗	1/4 口径(14.2) 器高 7.0 底径(7.2)		①角閃石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	腰部が張り、口縁部は外反する。高台部は内外面ともに外傾する。付け高台。体部内面は黒色処理、篋磨き。口縁部外面も黒色処理。右回転クロコ成形。

A区 51号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土釜か	口縁部片 口径(24.0) 器高(4.6) 底径—		①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	口縁部は外反する。 外面 横ナデ。 内面 横ナデ。

A区 65号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	羽釜	底部 1/3 口径— 器高(3.9) 底径(9.6)		①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	底部からやや丸みを帯びて立ち上がる。 外面 胴部は篋削り。底部は無調整。 内面 ナデ。

A区 66号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	羽釜	口縁部片 口径(21.0) 器高(6.0) 底径—		①軽石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	鐙の断面は三角形。口縁部は直立。 外面 口縁～鐙は横ナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。

A区 68号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 碗	1/3 口径(15.8) 器高(7.5) 底径7.2		①石英 緻密 ②酸化焰 軟質 ③にぶい赤褐色	腰部が張り、口縁部は外反する。高台部は内外面ともに外傾する。付け高台。高台部外面は黒色処理、篋磨き。高台部内面は黒色処理。体部内外面は黒色処理、篋磨き。クロコ成形。

C区 6号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 甕	口～胴部 1/3 口径(11.6) 器高(12.4) 底径—		①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	肩部から直立し、外反するコの字状口縁。丸みを帯びた胴部。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下篋ナデ。

(6) 耕作溝

C区 耕作溝 (第238・239図 PL99)

位置 1 I～M-11～18グリッド

重複 古墳時代の13号溝を掘り込んでいる。

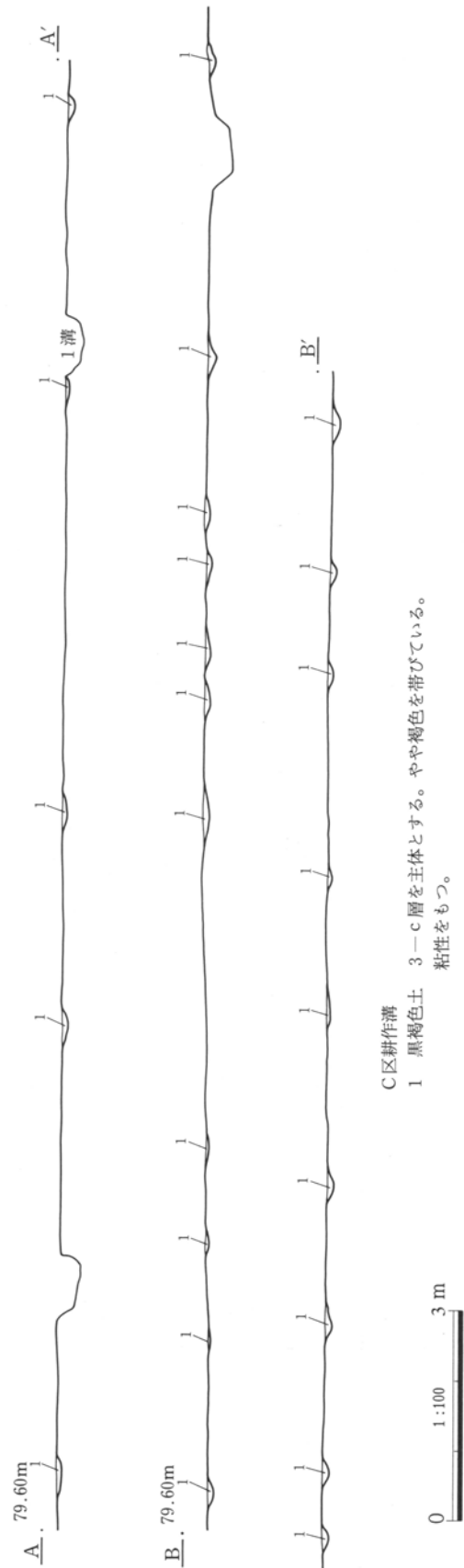
地形 北東から南西方向に緩やかに傾斜し、標高79.44～79.15mで比高差29cmほどである。

走向 耕作溝の走向はほぼ東から西の走向(N-86°-E)である。

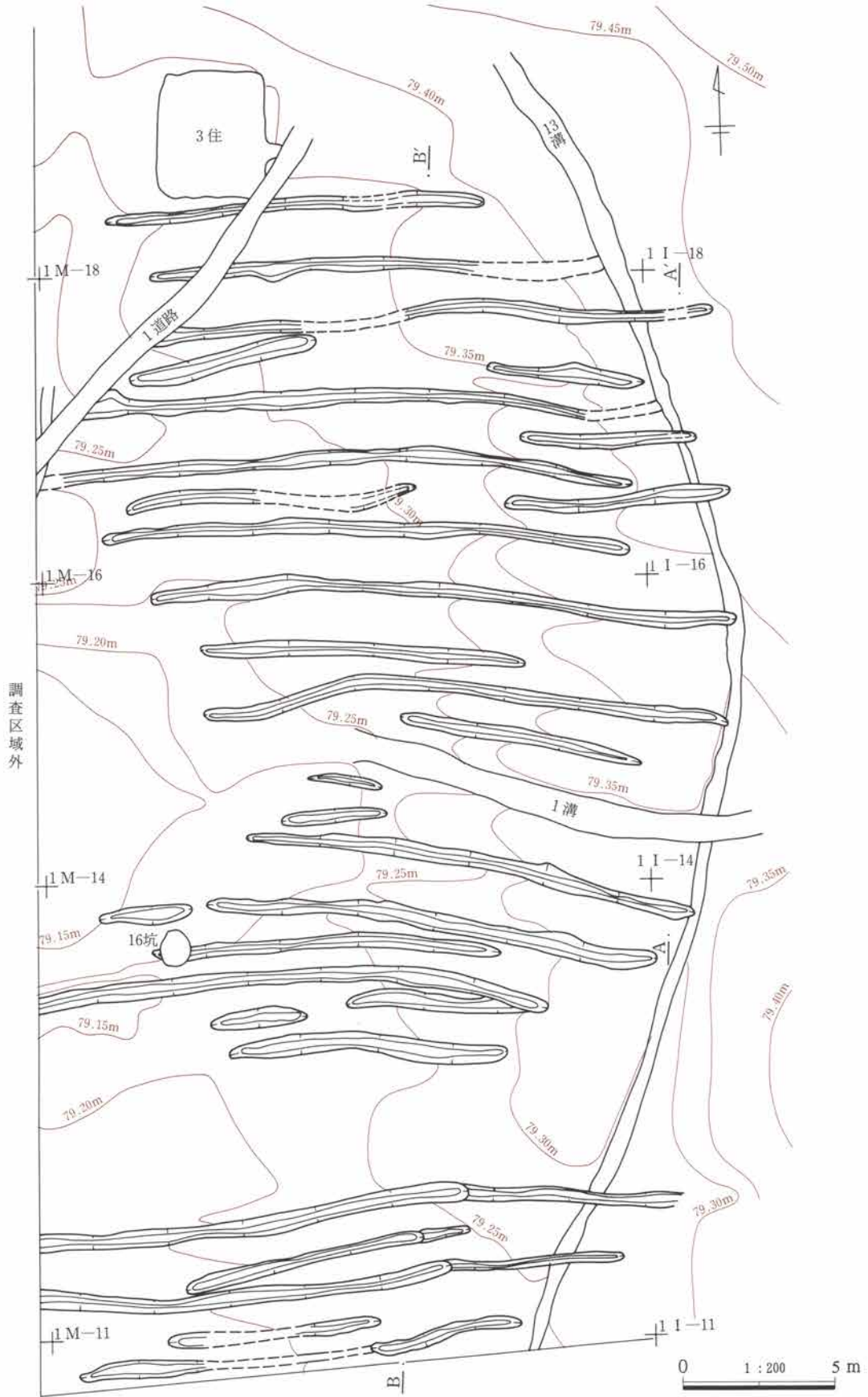
形態 耕作溝が検出されたのは南北39.0m、東西23.0mの範囲である。検出された耕作溝は27本である。耕作溝の最大長さ21.4m、最大幅80cmを測る。溝と溝の間隔は0.3～3.9mである。断面形は法面が緩やかな皿状になる。

覆土 褐色を帯びて、粘性のある黒褐色土である。本耕作溝は、As-B下水田の調査を終えて、水田面を掘り下げた所から検出された。基本土層も考慮して奈良・平安時代の耕作溝と考える。

遺物 遺物なし



第238図 C区耕作溝(1)



第239図 C区耕作溝(2)

(7) As-B 下水田跡

C区 As-B 下水田跡 (第240図 PL99・100)

位置 C区の西側部分、1 I～2 I-10～19グリッド

地形 全体に北東から南西方向に緩やかに傾斜し、標高79.65～79.17mで、比高差48cmほどである。

畦畔の走向と区画 As-B 軽石が層厚4～6cm程で堆積していた。これを除去して、水田面を確認した。畦畔については南端に検出した大畦畔をのぞいて残存は不良であった。また、水田の区画も不規則な形状であった。検出した畦畔から走向を考えるとほぼ東西・南北であると思われるが、S1・S2・S3・S4・S5・S7・S12・S13の畦畔の走向につい

ては下層から古墳・奈良時代の大溝が検出されており、その溝の地形的影響を受けたためではないかと考える。耕作面と畦畔との高低差は2～7cmであった。

水田面の面積 詳細は下記の水田計測表を参照のこと。畦畔の残存が悪く、区画が不規則なため、面積も幅広い数値になってしまった。

取配水の方法 S20を除いて明確な水口は検出できなかった。S24にも水口らしきものが検出された。

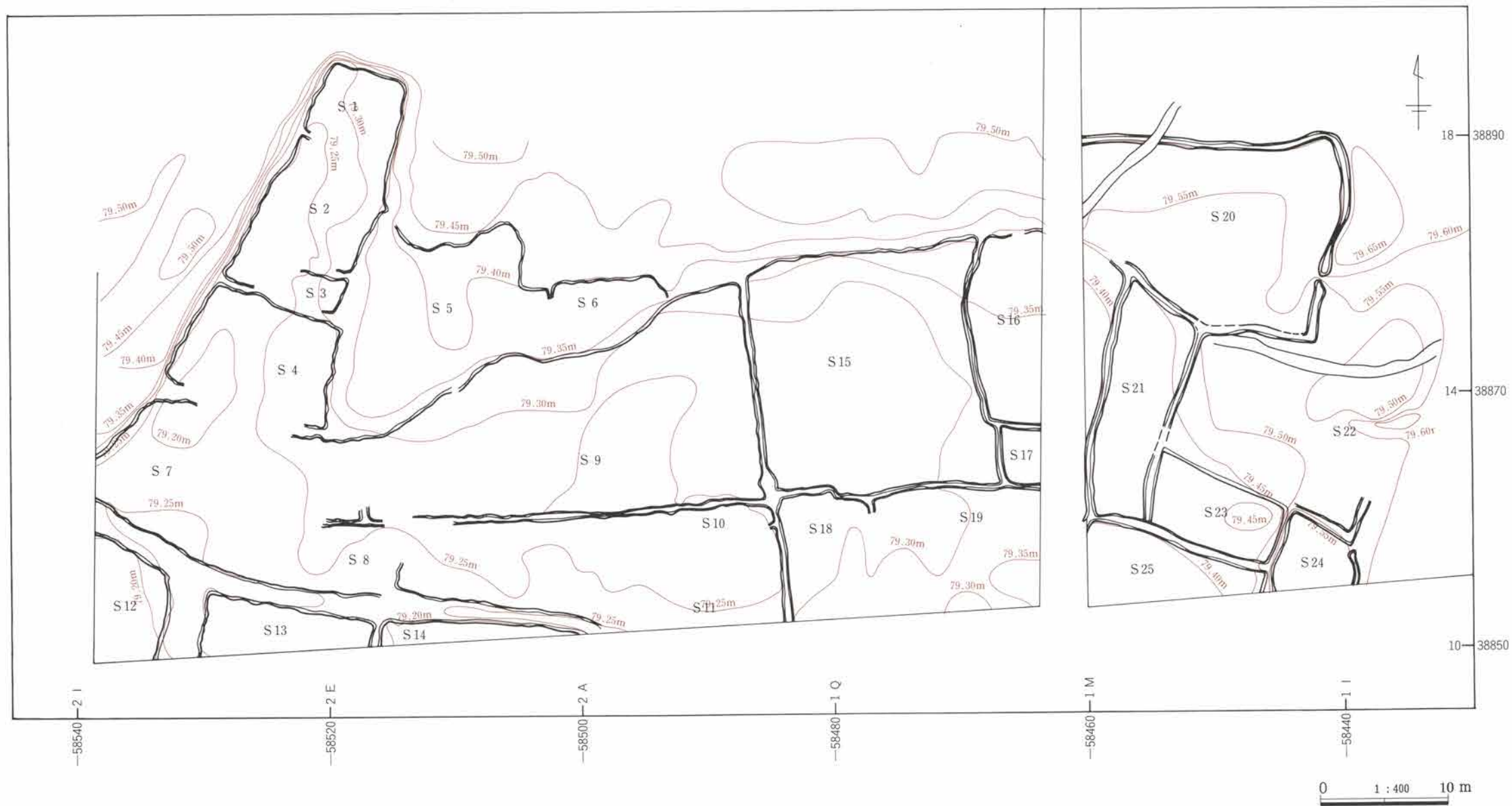
耕作土 灰白色の軽石粒を含んで粘性のある黒色土。

遺物 遺物なし

C区 As-B下 水田計測表

水田No	面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)	畦畔と耕作面の標高(m)		備 考
				畦畔部分	耕作面	
S 1	40.0	6.9	5.8	79.32	79.30	
S 2	72.0	8.8	8.4	79.34	79.31	
S 3	23.0	8.7	2.4	79.30	79.28	
S 4	94.3	11.4	8.2	79.31	79.29	
S 5	(183.3)	(17.0)	(11.7)	79.42	79.38	
S 6	(40.0)	8.0	(5.0)	79.39	79.36	
S 7	(152.4)	(19.4)	6.1	79.27	79.23	
S 8	(76.5)	—	5.4	—	79.24	
S 9	372.4	30.7	17.0	79.33	79.27	
S10	—	—	1.6	—	—	
S11	—	30.0	(7.3)	—	79.26	南側調査区外
S12	(47.3)	(9.0)	(5.8)	79.22	79.17	大畦畔に囲まれる。西側、南側調査区外
S13	(46.4)	12.9	(3.5)	79.24	79.22	北側に大畦畔あり。南側調査区外
S14	(21.3)	15.4	(1.4)	79.18	—	北側に大畦畔あり。南側調査区外
S15	308.5	18.4	15.6	79.32	79.29	
S16	(153.6)	15.1	(11.6)	79.37	79.35	
S17	(24.6)	(7.0)	(4.0)	—	79.31	
S18	(64.0)	(9.8)	5.5	—	79.30	南側調査区外
S19	(127.6)	(12.5)	(9.8)	—	79.33	南側調査区外
S20	(238.9)	(20.3)	13.6	79.60	79.55	水口あり
S21	83.7	15.6	5.4	79.50	79.43	
S22	(188.2)	16.0	12.2	79.57	79.52	
S23	(53.2)	(10.3)	5.3	79.47	79.43	
S24	(25.4)	(5.3)	(4.4)	79.54	79.51	南側調査区外 水口?
S25	(57.7)	14.2	(4.6)	79.45	79.38	南側調査区外

()は推定値、または一部分の計測値



第240图 C区As-B下水田

3. 近世以降の遺構と遺物

波志江中野面遺跡では中世の遺構はほとんどなく、近世以降のものが多い。検出された主な遺構は、井戸17基、溝36条、土坑80基、土坑墓等である。

井戸の内訳はA区1基、B区2基、C区14基である。近世以降の井戸の8割はC区から検出されている。これらの井戸の多くはAs-B下水田が広がっていた低地部ではなく、その周辺の比較的微高地にあたる地域から検出されている。17基の井戸の概要を記すと以下の様である。断面は円筒形が多く、上面の直径の平均値は1.09mである。深さは、2mを超える井戸は少なかった。湧水がでたため最後まで掘り進めることができなかつたものを含めても、2m以上の深さをもつ井戸は3基のみである。また、井桁の柱などの内部施設も検出されなかつた。

井戸からの遺物は石や石製品以外のものはあまり検出されていない。石製品については、C区5号、7号、17号井戸から、7個出土している。これらの石製品はいずれも井戸の底に近いところから検出されている。石製品のうちの5個は石製蔵骨器と考える。これらの石製蔵骨器のうち、3個はほぼ完形である。このうち、C区5号井戸から検出されたものはこの遺跡で最も大きい。大きさは68.6cm×60.8cm×35cmで、重さ108kgである。角閃石安山岩を使用し、形状は長円形で中央部に縦24cm、横29cm、深さ3cmの方形の孔をもつ。この孔の深さが浅いので、石製蔵骨器の蓋の部分にあたると考える。ただし、この石製品が重いので断定はできない。また、他の使われ方をした可能性も考えられる。C区7号井戸から出土したものは42.8cm×41.5cm×20.1cmの大きさで、重さ25.2kgである。二ツ岳軽石を使用し、形状は円形で中央部に直径15cm、深さ13cmの円形の孔をもつ。孔の周囲には蓋がはまるように帯状の造り出しが巡っている。このような形状から石製蔵骨器の身の部分にあたると考える。C区17号井戸から出土したものは、21.7cm×21.6cm×15.2cmの大きさで

重さ約4.2kgである。形状は饅頭のような形で、底部は工具で平らになるように削られている。石製蔵骨器の蓋の部分にあたると考える。他の2個の石製品は完形ではないが、いずれも中央部に方形の孔をもつ。石製蔵骨器の身の部分と思われる。

溝の内訳はA区17条、B区7条、C区11条、D区1条である。この36条の溝のうち19条は北東から南西、北西から南東のように、主に北から南へ走向する溝である。また、9条は東から西へ走向する溝である。これらの溝の中で特徴的なものを取り上げたい。A区8号溝は北東から南西へ走向し、確認全長58.6mを測る。上端幅が97cm～205cmで、深さは22cm～91cmある大きな溝である。覆土中から瀬戸・美濃の磁器が出土している。奈良・平安時代のA区7号溝と並行するように走向するが、遺跡の北側の流路が調査では見つからなかつた。その水源は遺跡の北西部を流れる神沢川と思われるが、現在の神沢川の水位との高低差があり、断定は出来ない。A区14号溝は東から西へ走向し、確認全長69.05mを測る。この時期の溝としては最も長い溝である。また、C区5号溝は北東から南西に走向し、確認全長62.5mを測る。上端幅78cm～290cmと幅が広いが、深さは22cm～25cmと浅い。堰止めるのに使用したと思われる木の杭や石が溝より検出された。また、中国青磁、肥前の磁器が覆土中より出土した。

土坑の内訳はA区41基、B区4基、C区35基である。台地部ばかりでなく、低地部からも検出されており、地形との関連はあまりないと思える。土坑を形状（形状を推定したものも含む）で分けると、長方形が46基、円形20基、楕円形13基、方形1基である。長軸の最大はA区26号土坑で2.84mを測る。長軸の平均は、1.59mである。最も深いのはC区11号土坑で0.9mを測る。深さの平均は0.24mである。土坑から出土した遺物については、ほとんどないが、B区3号土坑からは肥前青磁皿の完形が出土してい

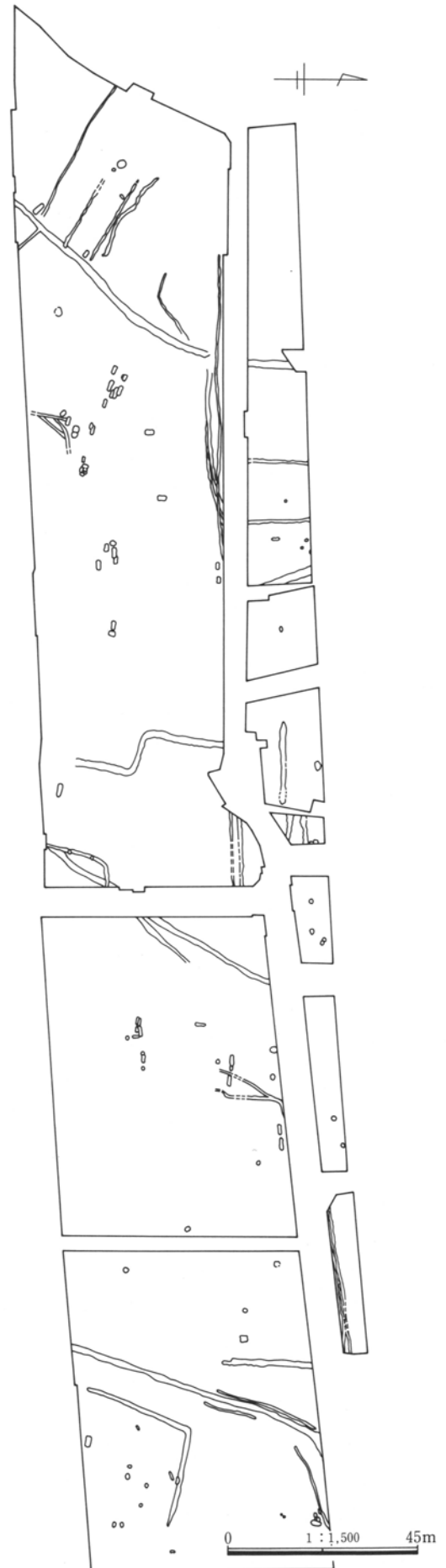
第3章 検出された遺構と遺物

る。この青磁皿は墓跡から出土することがあるので、この土坑は墓跡と関連があると考える。

D区からは土坑墓が1基見つかった。土坑墓内から北宋銭や明銭が出土していること、土層の観察から中世の遺構と考えている。この土坑墓の大きさは長軸2.1m、短軸1.37m、深さ0.8mを測る。覆土中から人歯も出土している。

本遺跡の中世以降の遺物の総量は遺物収納箱で5箱分と少ない。ただし井戸から出土した石製品については、100kgを超える大きなものもある。また、中国青磁、瀬戸・美濃の磁器、肥前の磁器で碗や皿が出土している。これらの中には焼き継ぎをして使用していた磁器や戸車など当時の人々の生活を思い起こさせる遺物も含まれている。

※ D区の中近世の遺構と遺物の詳細については「第3章 5.D区の遺構と遺物」に記載。



第241図 近世以降の遺構全体図

(1) 井戸

A区 3号井戸 (第242図 PL100)

位置 3E-13グリッド

重複 A区9号方形周溝墓の周溝を掘り込んで造られている。

規模 (長軸×短軸) 上面 1.46m×1.37m
下面 1.23m×1.05m

深さ 0.87m

断面形 円筒形

覆土 上層は褐色粒が混入した褐色土。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 土層観察から近現代の井戸と考える。

B区 1号井戸 (第242図 PL100)

位置 2K-12グリッド

重複 B区3号方形周溝墓を掘り込んで造られている。また、B区1号溝を掘り込んで造られている。

規模 (長軸×短軸) 上面 0.90m×0.83m
下面 0.60m×0.50m

深さ 1.12m

断面形 やや上部が開いた円筒形。

覆土 上層は褐色粒が混入した灰褐色土。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 土層観察中に湧水のため土層が崩れてしまった。土層観察から近現代の井戸と考える。

B区 2号井戸 (第242図 PL100)

位置 2K-11グリッド

重複 B区3号方形周溝墓を掘り込んで造られている。また、B区1号溝を掘り込んで造られている。

規模 (長軸×短軸) 上面 0.98m×0.86m
下面 0.46m×0.42m

深さ 1.36m

断面形 やや上部が開いた円筒形。

覆土 上層は褐色粒が混入した灰褐色土。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 土層観察から近現代の井戸と考える。

C区 5号井戸 (第242・245図 PL100・159)

位置 1B-13 グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.15m×1.06m
下面 0.80m×0.74m

深さ 1.70m

断面形 円筒形

覆土 上層は灰白色軽石粒と褐色粒が混入した暗褐色土が覆っていた。

内部施設 見つからなかった。

遺物 掘り進んでいく途中から石が出始め、底部に近い段階で大きな石製品が出土した。この石製品は蔵骨器ではないかと思われる。また、使用痕のある木製品が出土している。

備考 土層観察から近世の井戸と考える。

C区 6号井戸 (第242図 PL101)

位置 1B-14グリッド

重複 平安時代のC区1号住居を掘り込んでいる。

規模 (長軸×短軸) 上面 1.00m×0.92m
下面 0.80m×0.70m

深さ 1.23m

断面形 円筒形

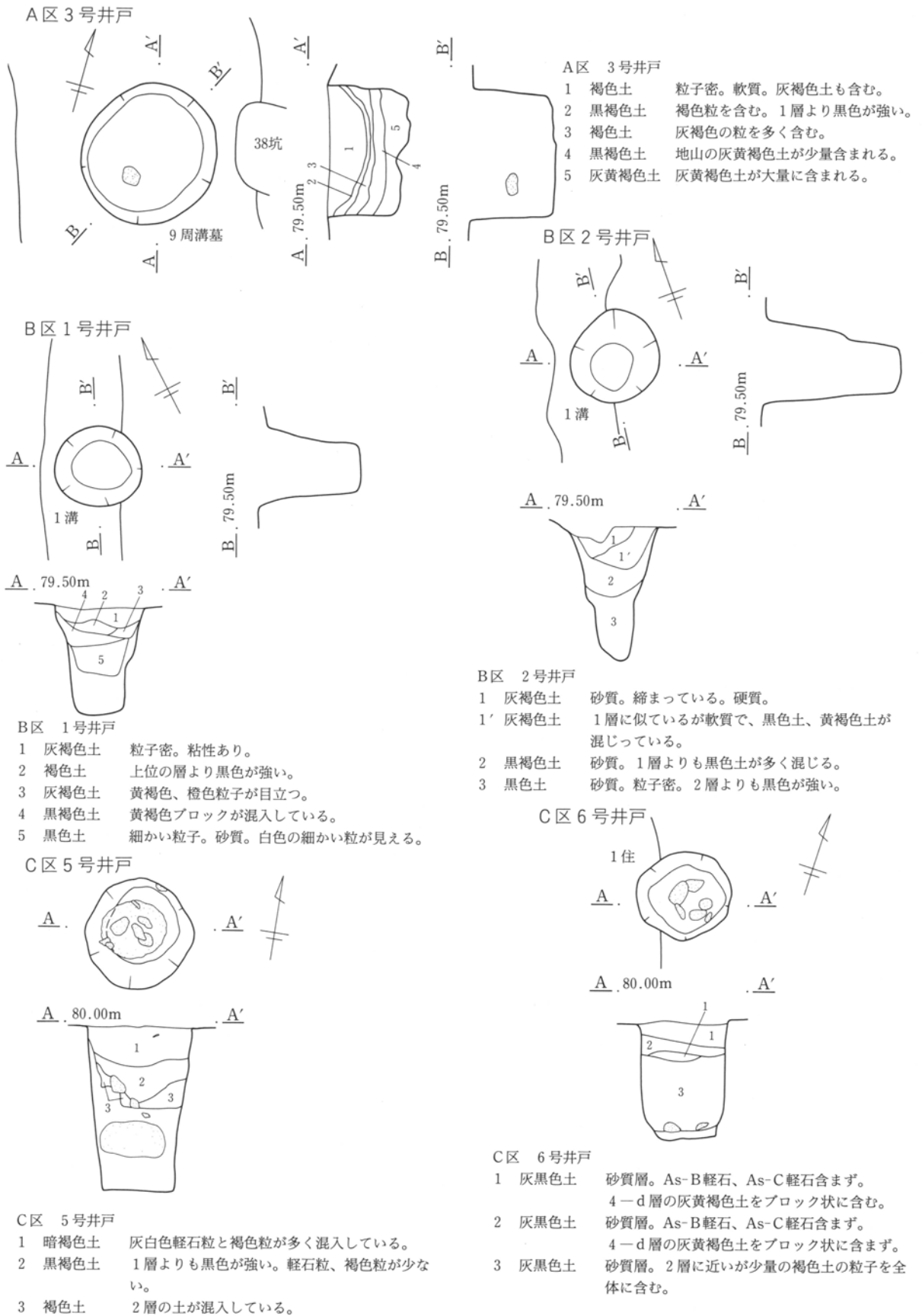
覆土 灰黄褐色土が上層に見られる。

内部施設 ほぼ底部のところに丸石が囲むように出土した。

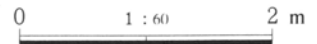
遺物 遺物なし

備考 土層観察から近世の井戸と考える。湧水のため底部が掘り込めず、深さを測定するためにスタッフを使用して確認した。

第3章 検出された遺構と遺物



第242図 A区3、B区1・2、C区5・6号井戸



3. 近世以降の遺構と遺物

C区 7号井戸 (第243・245・246図 PL101・160)

位置 9T-13グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.15m×1.10m
下面 計測できなかった。

深さ (1.55)m

断面形 円筒形

覆土 粘性のある灰褐色土が上層に見られる。

内部施設 ほぼ底部のところに石製品を含む丸石が
囲むように出土した。

遺物 蔵骨器、五輪塔の塔身と思われる石製品が出
土した。

備考 土層観察から近世の井戸と考える。湧水のため
底部まで掘り込めず、石製品を含む石が出土した
地点でエレベーション図をとった。

C区 8号井戸 (第243図 PL101)

位置 5L-0グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.30m×1.20m
下面 0.42m×0.39m

深さ 0.82m

断面形 漏斗状

覆土 粘性のある褐色土が上層に見られる。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 攪乱によって上端の一部を掘り込まれている。
土層観察から近現代の井戸と考える。

C区 9号井戸 (第243図 PL101)

位置 1N-16グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.18m×1.08m
下面 0.64m×0.57m

深さ 0.57m

断面形 円筒形

覆土 におい黄褐色土が上層に見られる。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 土層観察から近世の井戸と考える。

C区 10号井戸 (第243図 PL101)

位置 2B-13グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 0.92m×0.88m
下面 計測できなかった。

深さ (2.90)m

断面形 円筒形

内部施設 確認することができなかった。

遺物 遺物なし

備考 深さがあり、水が湧きでたため、底部まで掘
り進めることができなかった。底部に近い所から5
つ程の丸石が検出された。土層観察から近現代の井
戸と考える。

C区 11号井戸 (第243図 PL101)

位置 5Q-0グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 0.92m×0.88m
下面 0.70m×0.70m

深さ 1.02m

断面形 円筒形

覆土 におい黄褐色土が上層に見られる。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 土層観察から近世の井戸と考える。水が湧き
出たため底まで掘り進めることができなかった。

C区 12号井戸 (第243図 PL101)

位置 6B-0グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.52m×1.45m
下面 計測できなかった。

深さ (1.02)m

断面形 円筒形

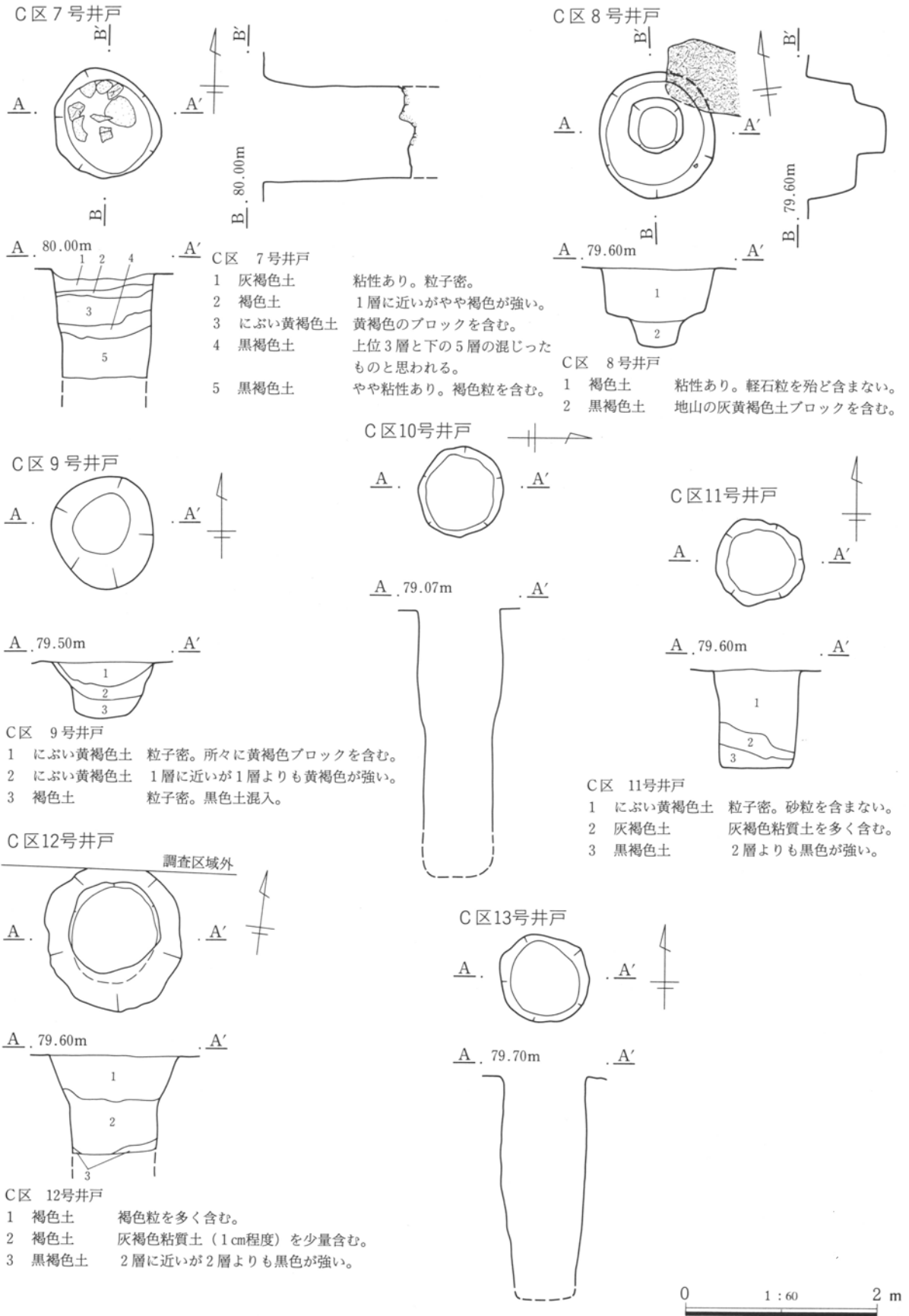
覆土 褐色粒を多く含む褐色土が上層に見られる。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 土層観察から近世の井戸と考える。水が湧き
出たため底まで掘り進めることができなかった。

第3章 検出された遺構と遺物



第243図 C区7～13号井戸

3. 近世以降の遺構と遺物

C区 13号井戸 (第243図 PL101)

位置 5Q-3グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 0.95m×0.95m
下面 計測できなかった。

深さ (2.38)m

断面形 やや上部が開いた円筒形。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 径が狭く土層断面図が作成できなかった。湧水のため、底部は掘り進めることができなかった。土層観察から近現代の井戸と考える。

C区 14号井戸 (第244図 PL102)

位置 5S-3グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.12m×1.05m
下面 1.00m×0.96m

深さ 1.80m

断面形 やや上部が開いた円筒形。

覆土 褐色粒を多く含む灰褐色土が上層に見られる

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 土層観察から近現代の井戸と考える。

C区 15号井戸 (第244図 PL102)

位置 6G-2グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.25m×1.02m
下面 0.88m×0.68m

深さ 2.73m

断面形 円筒形

内部施設 確認できなかった。

遺物 遺物なし

備考 深くて、湧水があり、底部まで掘り進めることができなかった。石が2点見つかったので、重機で井戸を壊して取り上げた。土層観察から近現代の井戸と考える。

C区 16号井戸 (第244図 PL102)

位置 6I-2グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 0.97m×0.97m
下面 0.86m×0.80m

深さ 1.80m

断面形 円筒形

覆土 灰褐色土と褐色土が層状に重なるように入っていた。

内部施設 見つからなかった。

遺物 遺物なし

備考 土層観察から近現代の井戸と考える。

C区 17号井戸 (第244・246図 PL102・160)

位置 6A-0グリッド

重複 平安時代のC区4号住居を掘り込んでいる。

規模 (長軸×短軸) 上面 1.25m×1.14m
下面 0.65m×0.62m

深さ 1.45m

断面形 上部が大きく開く円筒形。

覆土 褐色土が上層を覆っていた。

内部施設 底部から、3~23cmの石が検出された。

遺物 蔵骨器と思われる石製品が出土。

備考 土層観察から近世の井戸と考える。

C区 18号井戸 (第244図 PL102)

位置 9T-12グリッド

重複 重複なし

規模 (長軸×短軸) 上面 1.12m×1.05m
下面 0.75m×0.72m

深さ 1.36m

断面形 円筒形

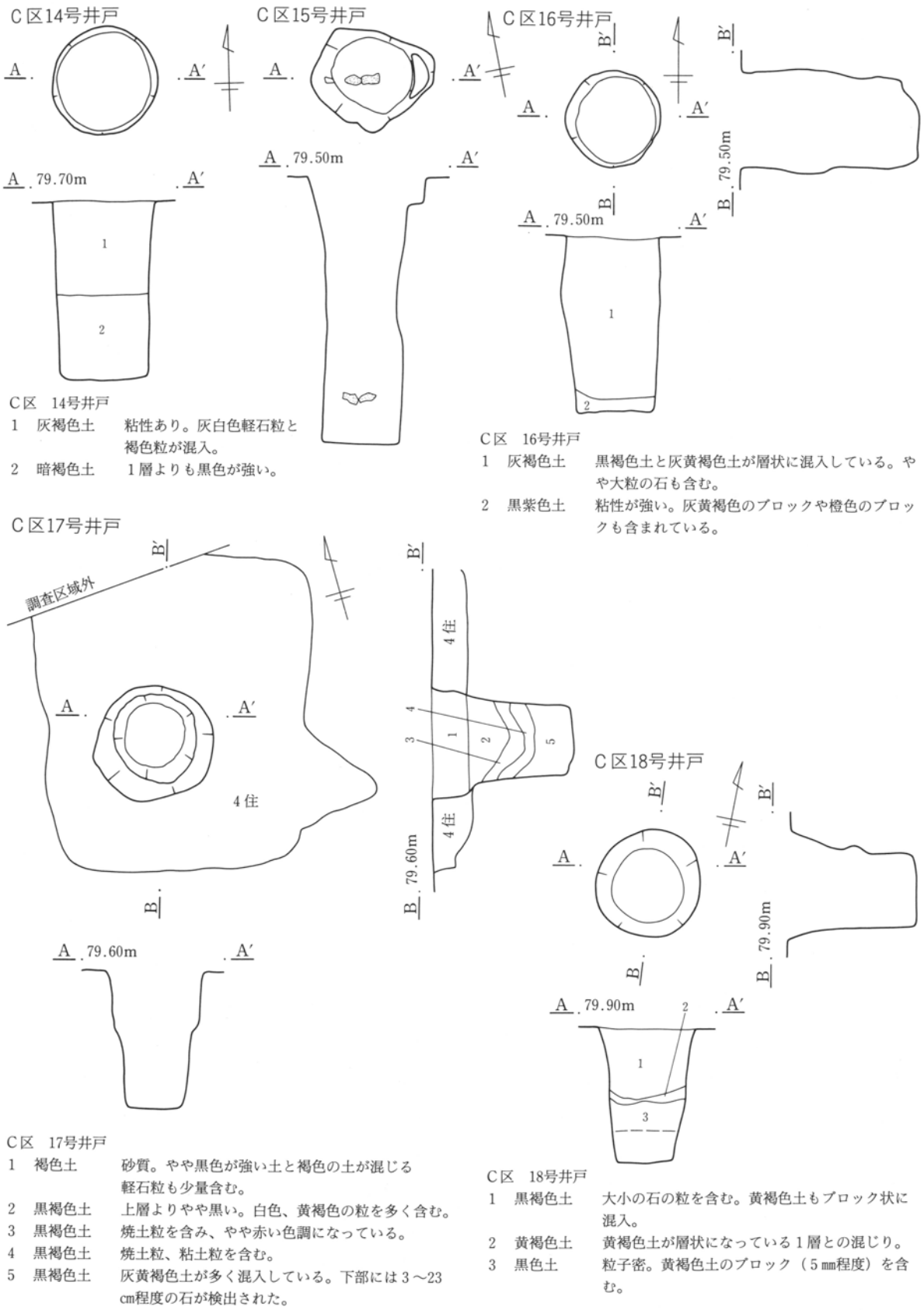
覆土 大小の石の粒を含む黒色土と黄褐色土がブロック状に入る。

内部施設 見つからなかった。

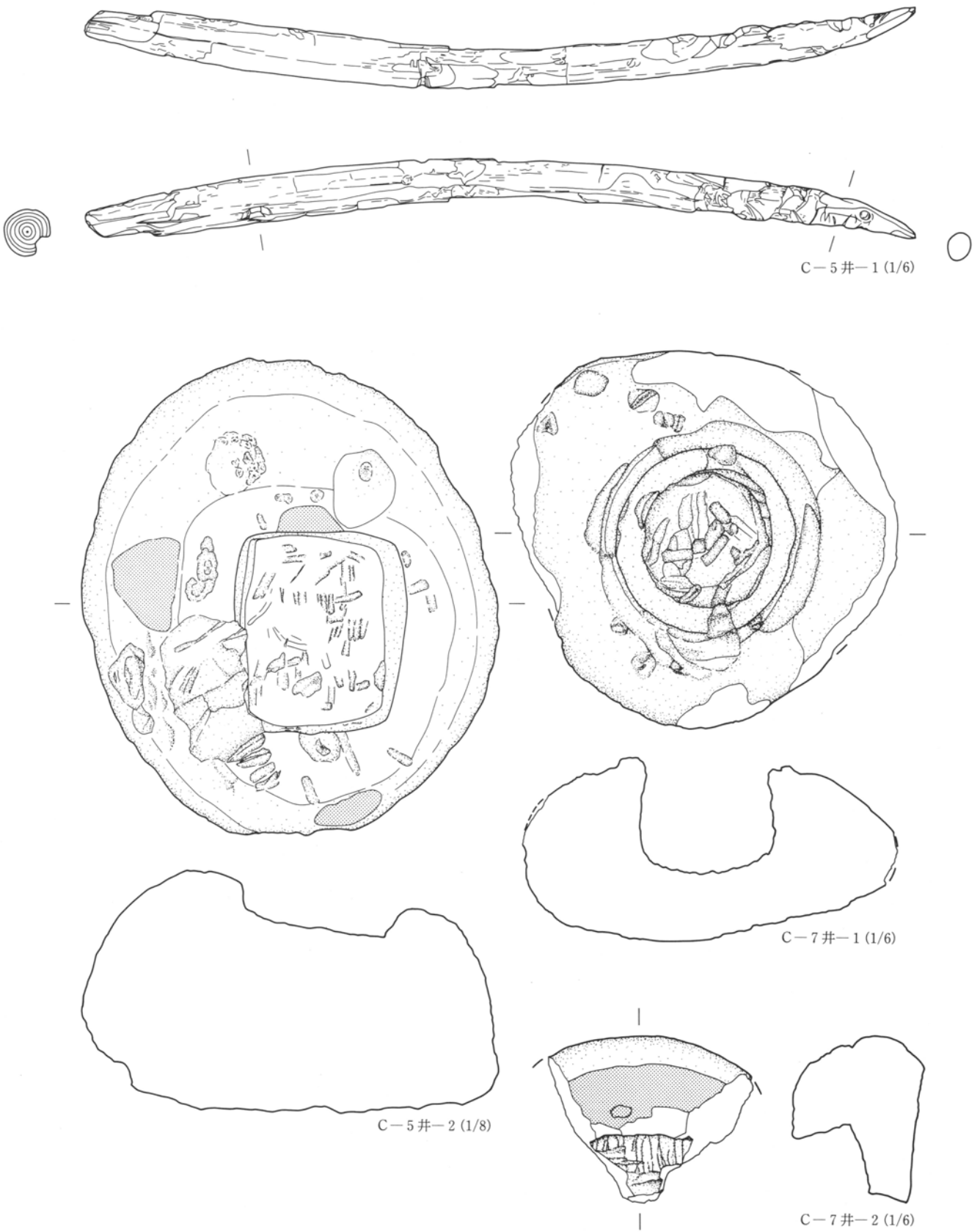
遺物 遺物なし

備考 土層観察から近現代の井戸と考える。

第3章 検出された遺構と遺物

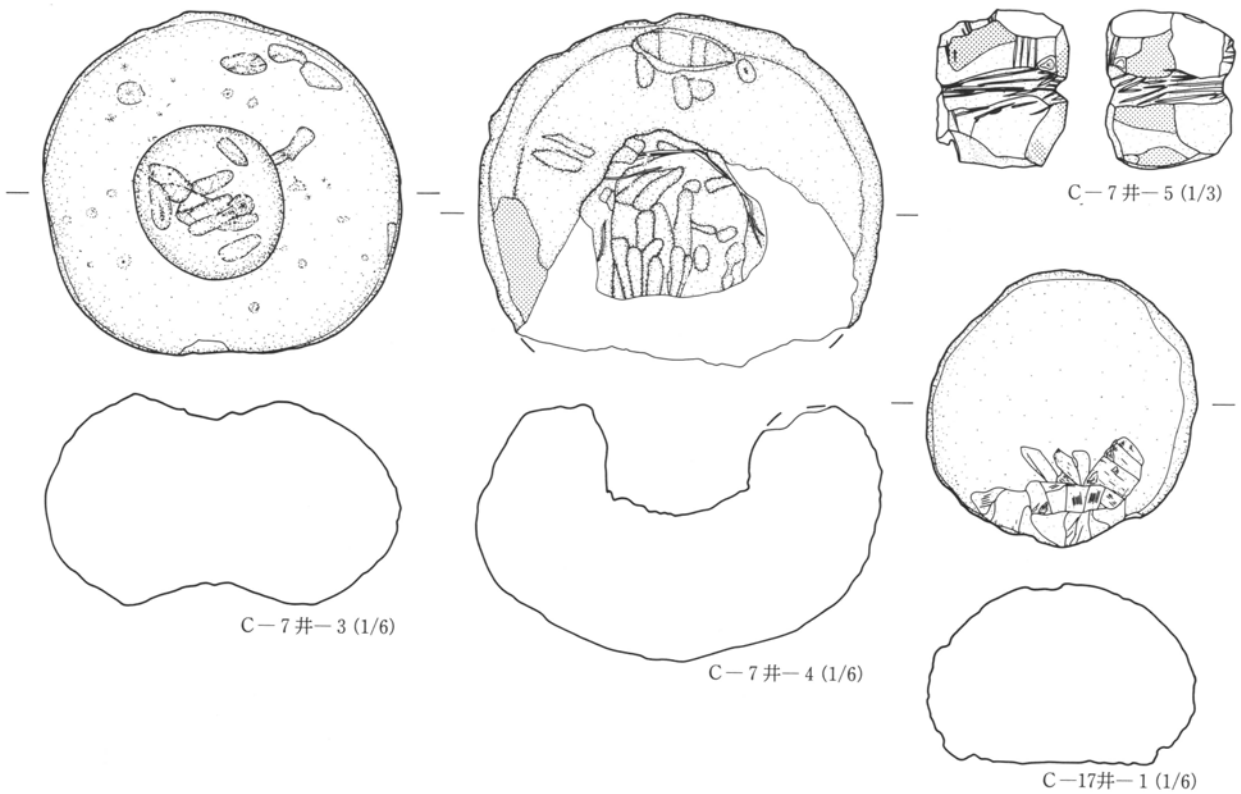


第244図 C区14~18号井戸



第245図 C区5・7(1)号井戸出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第246図 C区7(2)・17号井戸出土遺物

C区 5号井戸

番号	器種	残存法量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調(木取り、石材)	器形・整形・文様の特徴(加工形状の特徴)
1	木器 棒材	ほぼ完形 長さ91.5 幅 5.2 厚さ1.5~5.0	覆土	芯持ち	先端部が尖り、全体として日本刀のような反りをもつ。末端部に四角の孔あり。刃物で削り取られたと思われる面あり。
2	石製品 蔵骨器 蓋?	ほぼ完形 長さ68.6 幅 60.8 厚さ35 重さ108,000	覆土	角閃石安山岩	全体的に丸く整形されていて、上、下面は平滑になっている。中央に24cm×29cm×3cmの四角い孔あり。孔の中に工具跡が残る。大きく、重いので、他のものに転用された可能性あり。

C区 7号井戸

番号	器種	残存法量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調(石材)	器形・整形・文様の特徴(加工形状の特徴)
1	石製品 蔵骨器 身?	ほぼ完形 長さ42.8 幅 41.5 厚さ20.1重さ25,200	覆土	二ツ岳軽石	全体的に丸く整形されていて、下面は平滑になっている。中央に直径15cm、深さ13cm程の孔あり。孔の中に工具跡が残る。孔の周囲に帯状の造り出しあり。
2	石製品 蔵骨器 身?	1/3 長さ(18.2)幅(22.6) 厚さ14.5 重さ3,090	覆土	二ツ岳軽石	全体的に丸く整形されていて、中央に孔あり。孔の中に工具跡が残る。
3	石製品 五輪塔 塔身か?	ほぼ完形 長さ28.5 幅 26.8 厚さ16.6重さ12,700	覆土	粗粒輝石安山岩	算盤玉状に整形されており、中央部は上面下面ともに円形の窪みあり。
4	石製品 蔵骨器 身?	1/2 長さ(27.8)幅 32.4 厚さ20.1重さ9,750	覆土	二ツ岳軽石	全体的に丸く整形されていて、中央に孔あり。孔の中に工具跡が残る。孔の周囲に帯状の造り出しの一部あり。
5	石製品 砥石?	長さ6.3 幅 5.1 厚さ5.2 重さ 230	覆土	砥沢石	分銅の形状である。中央部に幾筋かの切り込みがある。良く磨られた面がある。

C区 17号井戸

番号	器種	残存法量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調(石材)	器形・整形・文様の特徴(加工形状の特徴)
1	石製品 蔵骨器 蓋?	ほぼ完形 長さ21.7 幅 21.6 厚さ15.2 重さ4,152	覆土	二ツ岳軽石	上面は丸く整形されていて、下面は平滑になっている。饅頭のような形状。

(2) 溝

A区 1号溝 (第247図 PL102)

位置 3 S-13~4 B-15グリッド

重複 重複なし

走向 南東から北西方向の走向。途中走向が変化するところもあるがほぼ(N-51°-W)。

覆土 褐色土に周辺の黒褐色土が混入した土。基本土層から考えると近現代の溝と考える。

規模 確認全長23.1m、溝の上端30~90cm、下端15~60cm、深さ4~20cmを測る。

断面形 法面が急に立ち上がる箱状の断面形を呈する。

遺物 遺物なし

A区 2号溝 (第247図 PL102)

位置 3 S-12~4 B-14グリッド

重複 古墳時代のA区5号方形周溝墓を掘り込んでいる。また平安時代のA区7号溝を掘り込んでいる。

走向 南東から北西方向(N-59°-W)。

覆土 褐色土に周辺の黒褐色土が混入した土。基本土層から考えると近現代の溝と考える。

規模 確認全長21.3m、溝の上端30~70cm、下端10~30cm、深さ1~69cmを測る。

断面形 法面が緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 3号溝 (第247図 PL102)

位置 3 O-16~3 R-15グリッド

重複 古墳時代のA区18号住居を掘り込んでいる。また、平安時代のA区7号溝を掘り込んでいる。

走向 北東から南西方向へ走向(N-127°-W)。古墳時代のA区18号住居跡付近で西へ走向(N-71°-W)。

覆土 茶色に近い黒褐色土。基本土層から考えると近世の溝と考える。

規模 確認全長18.1m、溝の上端23~62cm、下端5~40cm、深さ1~24cmを測る。

断面形 U字形状を呈する。

遺物 遺物なし

備考 走向から近世のA区13号溝や22号溝との関連も考えられるが、確認できなかった。

A区 4号溝 (第247図 PL103)

位置 3 S-11~4 B-12グリッド

重複 古墳時代のA区25号住居の北東隅を掘り込んでいる。また、平安時代のA区7号溝を掘り込んでいる。

走向 A区1号溝、2号溝と同じように南東から北西方向へ走向している(N-59°-W)。

覆土 砂粒を含まない、にぶい黄褐色土。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長14.8m、溝の上端35~70cm、下端13~52cm、深さ4.5~17.5cmを測る。

断面形 U字形状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 5号溝 (第247図 PL103)

位置 4 A-10~4 G-13グリッド

重複 古墳時代のA区27号住居の南西端を掘り込んでいる。また、平安時代のA区7号溝を掘り込んでいる。

走向 南東から北西方向(N-63°-W)。

覆土 黒色土をほとんど含まない、軟質のにぶい黄褐色土である。基本土層から近世の溝と考える。

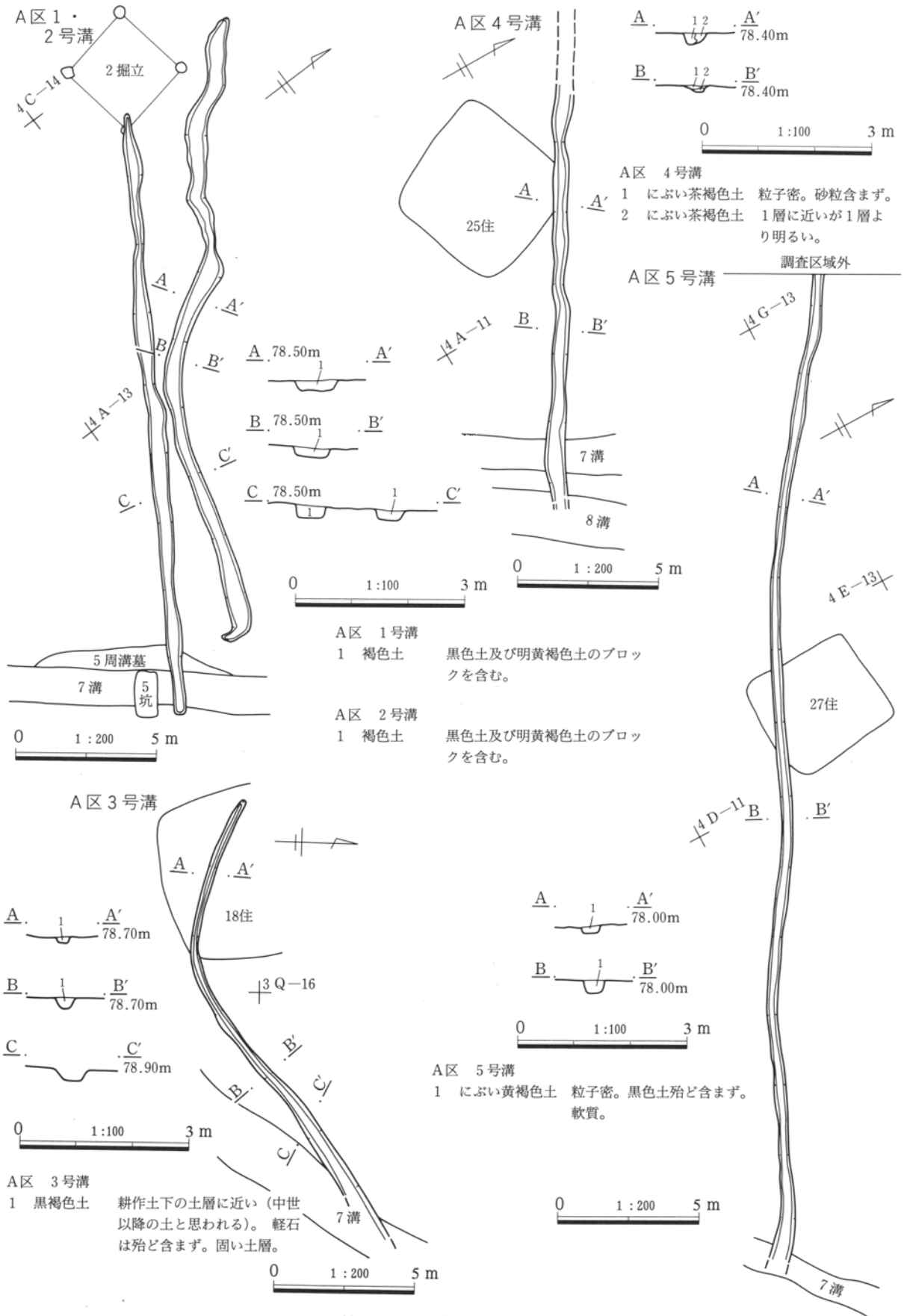
規模 確認全長34.9m、溝の上端30~73cm、下端15~45cm、深さ6.5~20cmを測る。

断面形 U字形状を呈する。

遺物 遺物なし

備考 走向、位置、土層から近世のA区12号溝との関連が想定されるが確認できなかった。

第3章 検出された遺構と遺物



第247図 A区1～5号溝

3. 近世以降の遺構と遺物

A区 8号溝 (第248・254図 PL103・160)

位置 3N-17~4A-8グリッド

重複 古墳時代のA区22号住居、24号住居、4号方形周溝墓、5号方形周溝墓の北西端を掘り込んでいる。また、近世のA区4号溝、12号溝によって掘り込まれている。

走向 北東から南西方向の走向 (N-155°-W)。途中方形周溝墓を掘り込むあたりからやや西へ走向が変化する (N-136°-W)。

覆土 にぶい黄褐色土を中心とした黒色土をあまり含まない土である。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長58.6m、溝の上端97~205cm、下端15~90cm、深さ22~91cmを測る。

断面形 法面がやや緩やかなU字形状を呈する。

遺物 瀬戸・美濃方面の磁器が出土している。

備考 本来、奈良・平安時代のA区7号溝と同様に調査区の北端から流路が確認できるものと考えられるが、古墳時代の22号住居を掘り込んでいるあたりから北側は確認できなかった。走向を推定すると近現代のA区21号溝のあたりから奈良・平安時代のA区7号溝を掘り込みながら流れるのが妥当と考える。

A区 9号溝 (第248図 PL103)

位置 3K-11~3K-9グリッド

重複 古墳時代のA区7号方形周溝墓の周溝覆土を掘り込んでいる。近世のA区10号、11号溝も掘り込んでいる。また、近世のA区22号土坑に掘り込まれている。

走向 北から南方向 (N-179°-W)。

覆土 黒色土をほとんど含まない黄褐色土とやや黒色土を含む黄褐色土である。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長7.0m、溝の上端45~60cm、下端28~48cm、深さ41~52cmを測る。

断面形 U字形状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 10号溝 (第248図 PL103)

位置 3K-10グリッド

重複 古墳時代のA区7号方形周溝墓の方台部を掘

り込んでいる。近世のA区9号、11号溝に掘り込まれている。

走向 北東から南西方向 (N-141°-W)。

覆土 黒色土をやや含む黄褐色土である。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長7.4m、溝の上端48~70cm、下端30~55cm、深さ12~47cmを測る。

断面形 U字形状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 11号溝 (第248図 PL104)

位置 3J-11~3K-10グリッド

重複 古墳時代のA区7号方形周溝墓の方台部を掘り込んでいる。近世のA区10号溝も掘り込んでいる。また、近世のA区9号溝に掘り込まれている。

走向 東から西へ走向 (N-100°-W)。

覆土 黒色土をやや含む黄褐色土である。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長7.6m、溝の上端48~77cm、下端28~53cm、深さ8~37cmを測る。

断面形 皿状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 12号溝 (第248図 PL104)

位置 3S-9~3T-9グリッド

重複 近世のA区8号溝を掘り込んでいる。

走向 南東から北西方向 (N-40°-W)。

覆土 黒色土を含まない軟質のにぶい黄褐色土である。基本土層から近世の溝と考える。

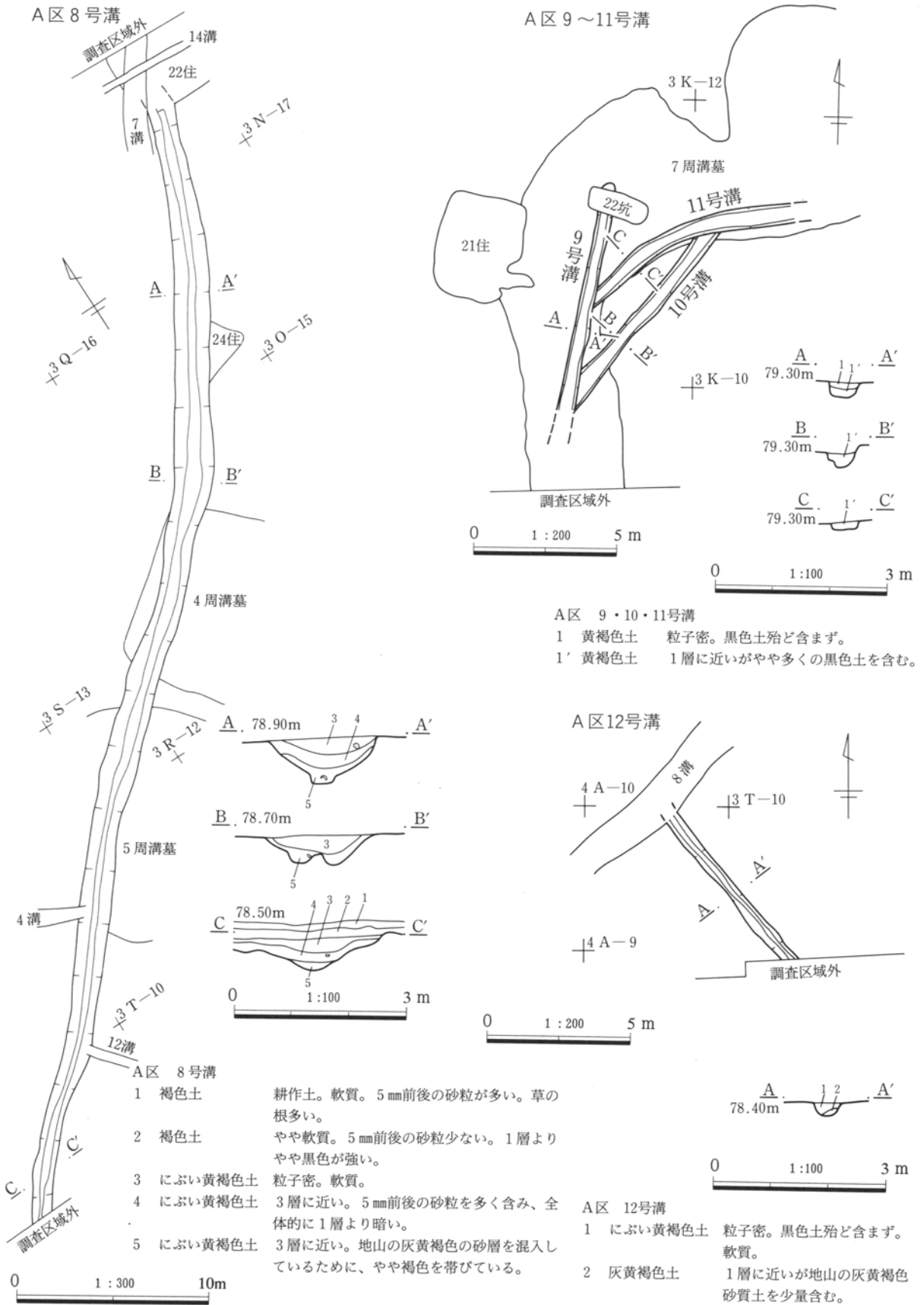
規模 確認全長6.4m、溝の上端40~54cm、下端8~20cm、深さ19~33cmを測る。

断面形 U字形状を呈する。

遺物 遺物なし

備考 標高値や走向、土層等から近世のA区5号溝との関連が想定されるが確認できなかった。

第3章 検出された遺構と遺物



第248図 A区 8~12号溝

3. 近世以降の遺構と遺物

A区 13号溝 (第249図 PL104)

位置 3G-18～3M-17グリッド

重複 縄文時代のA区47号住居、古墳時代のA区22号住居を掘り込んでいる。また、近世のA区14号溝に掘り込まれている。

走向 北東からやや南西方向の走向(N-104°-W)。途中合流するところから西へ走向が変化する(N-88°-W)。

覆土 黒色土を含み、やや灰色を帯びている黄褐色土である。基本土層から近世の溝と考える。

規模 当初2筋に流れていたものが合流する。古墳時代の22号住居内で、近世の8号溝のあたりで流路がはっきりしなくなる。確認全長32.5m、溝の上端73～130cm、下端8～40cm、深さ4.5～39cmを測る。

断面形 皿状を呈する。

遺物 遺物なし

備考 近世のA区8号溝に合流することも考えられるが、確認できなかった。

A区 14号溝 (第249図 PL104)

位置 3E-18～3R-18グリッド

重複 縄文時代のA区47号住居、古墳時代のA区22号住居、平安時代のA区7号溝を掘り込んでいる。また、近世のA区13号溝も掘り込んでいる。

走向 ほぼ東から西方向(N-89°-W)。

覆土 黒色土をやや含む黄褐色土である。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長69.05m、溝の上端30～61cm、下端10～25cm、深さ3～39.5cmを測る。

断面形 U字形状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 16号溝 (第249図 PL104・105)

位置 2P-18～2O-11グリッド

重複 古墳時代のA区14号前方後方形周溝墓の東側部分を掘り込んでいる。また、古墳時代のB区2号方形周溝墓も掘り込んでいる。

走向 北から南方向へ走向する(N-167°-W)。途中ほぼ直角に東へ流れ(N-107°-W)、さらに、曲がって南流する(N-169°-W)。

覆土 黒色土をやや含む黄褐色土で、As-B軽石と思われる粒も含む。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長39.5m、溝の上端108～182cm、下端25～75cm、深さ31～75cmを測る。

断面形 法面の緩やかなV字形状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 17号溝 (第250図 PL105)

位置 7I-2～3I-19グリッド

重複 古墳時代のA区68号住居を掘り込んでいる。

走向 北から南方向(N-177°-W)。

覆土 黒色土をやや含む褐色土で、褐色の粒子や灰白色の軽石も含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長14.35m、溝の上端50～82cm、下端18～47cm、深さ20～40cmを測る。

断面形 法面の緩やかなU字形状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 18号溝 (第250図 PL105)

位置 7F-2～3F-19グリッド

重複 重複なし

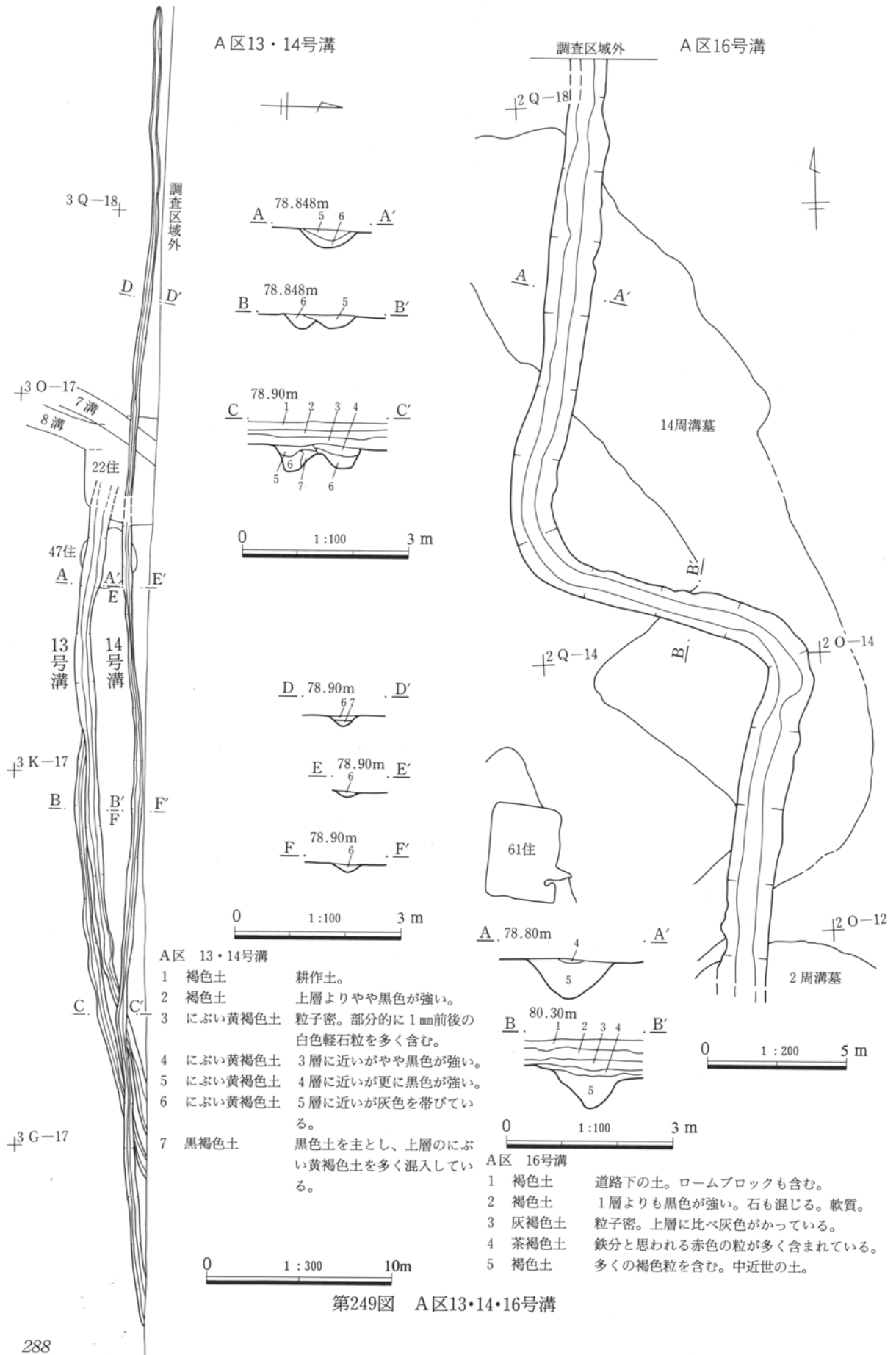
走向 北から南方向(N-179°-E)。

覆土 黒色土をやや含む褐色土で、褐色の粒子や灰白色の軽石も含む。基本土層から近現代の溝と考える。

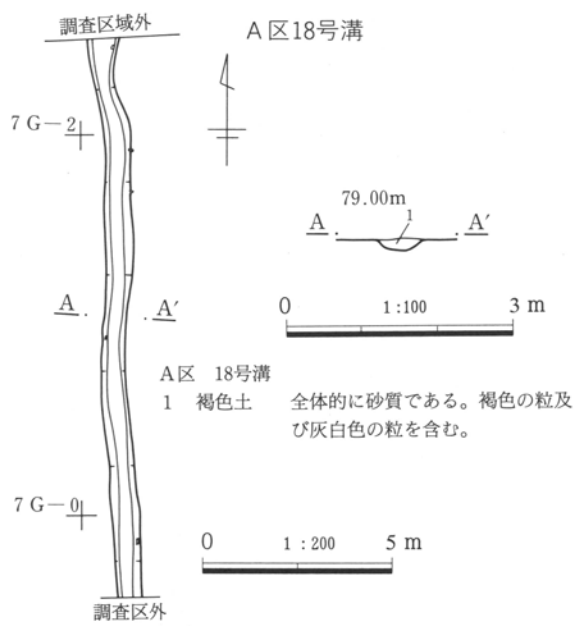
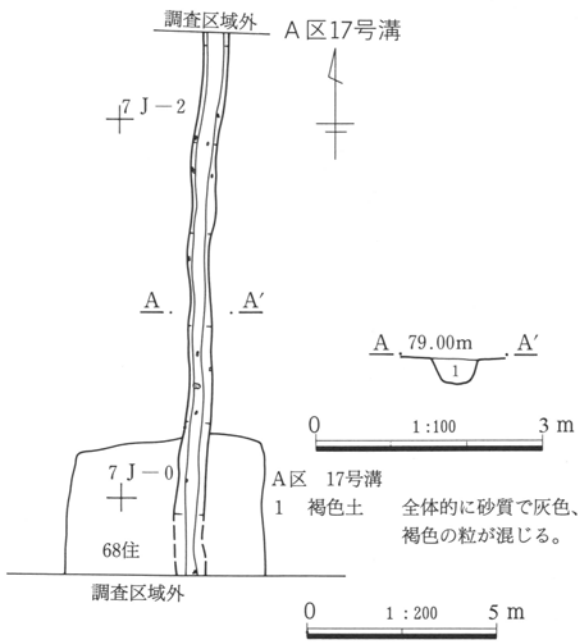
規模 確認全長14.8m、溝の上端50～75cm、下端25～60cm、深さ5～29.5cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし



第249図 A区13・14・16号溝



A区 19号溝 (第250図 PL105)

位置 7D-2～7C-0グリッド

重複 重複なし

走向 北西から南東方向 (N-165°-E)。

覆土 黒色土をやや含む褐色土で、褐色の粒子や灰白色の軽石も含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長11.3m、溝の上端142～195cm、下端33～77cm、深さ30～60cmを測る。

断面形 法面の緩やかなV字形状を呈する。

遺物 遺物なし

A区 21号溝 (第250図 PL105)

位置 7N-1～3N-19グリッド

重複 重複なし

走向 北から南方向 (N-176°-W)。

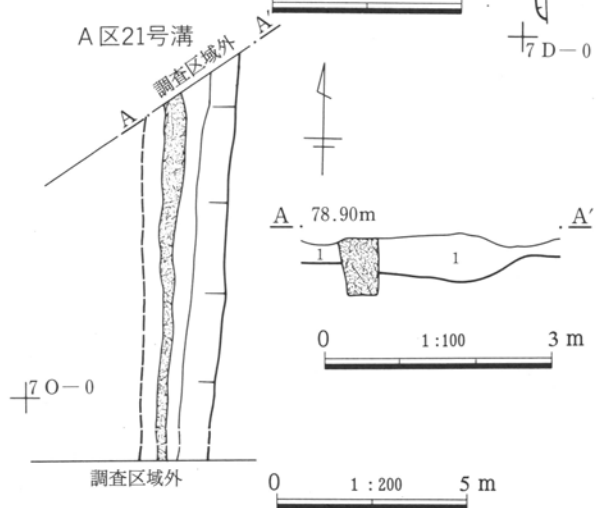
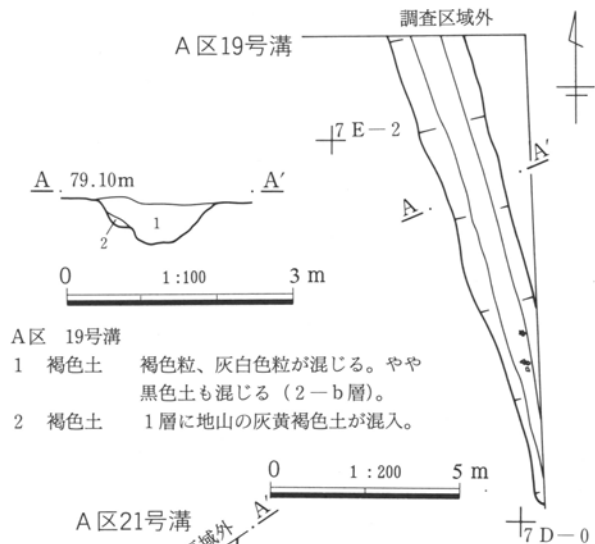
覆土 黒色土をやや含む褐色土で、褐色の粒や灰白色の軽石も含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長8.37m、溝の上端 (184～240) cm、下端 (33～60) cm、深さ12～39cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

備考 調査前まで農道として使われていた。溝の西側は排水管のために、上端・下端が確定できなかった。また、近世のA区8号溝との関連も不明である。



第250図 A区17～19・21号溝

第3章 検出された遺構と遺物

B区 1号溝 (第251図 PL106)

位置 2J-12~2K-10グリッド

重複 古墳時代のB区3号方形周溝墓を掘り込んでいる。平安時代のB区4号溝、近現代のB区2号溝、3号溝も掘り込んでいる。また、近現代のB区の1号井戸、2号井戸に掘り込まれている。

走向 東から西に走向(N-94°-W)、その後ほぼ直角におれて南へ走向(N-162°-W)。

覆土 多くの砂粒を含む灰色の強い褐色土。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長19.7m、溝の上端47~90cm、下端15~42cm、深さ3.2~15.8cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

B区 2号溝 (第251図 PL106)

位置 2J-13~2K-10グリッド

重複 古墳時代のB区3号方形周溝墓を掘り込んでいる。また、平安時代のB区4号溝を掘り込んでいる。近現代のB区1号溝に掘り込まれている。

走向 北東から南西方向(N-152°-W)、途中B区3号溝と合流している(N-143°-W)。

覆土 多くの砂粒を含む灰色の強い褐色土。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 途中B区3号溝と合流している。確認全長19.55m、溝の上端45~157cm、下端15~74cm、深さ2.7cm~22.4cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

B区 3号溝 (第251図 PL106)

位置 2J-12~2K-10グリッド

重複 古墳時代のB区3号方形周溝墓を掘り込んでいる。平安時代のB区4号溝も掘り込んでいる。また、近現代のB区1号溝に掘り込まれている。

走向 北東から南西方向に走向、途中B区2号溝と合流している(N-146°-W)。

覆土 多くの砂粒を含む灰色の強い褐色土。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長18m、溝の上端70~157cm、下端

13~74cm、深さ5.7~22.4cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

B区 5号溝 (第251図 PL106)

位置 2J-19~2L-19グリッド

重複 重複なし

走向 東から西方向(N-91°-W)。

覆土 砂質の硬く締った灰褐色土で、基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長15.4m、溝の上端55~82cm、下端37~57cm、深さ10~22.5cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

備考 圃場整備の後と思われる重機の爪痕によって寸断されている。

B区 6号溝 (第251図 PL106)

位置 2J-18~2M-18グリッド

重複 B区4号方形周溝墓の北側を掘り込んでいる。

走向 東から西方向(N-91°-W)。

覆土 砂質の硬く締った灰褐色土で、基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長15.4m、溝の上端25~71cm、下端5~35cm、深さ3.6~12.1cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

備考 圃場整備の後と思われる重機の爪痕によって寸断されている。

B区 7号溝 (第251・254図 PL106・160)

位置 6L-1~6M-1グリッド

重複 重複なし

走向 ほぼ東から西へ走向(N-79°-W)。

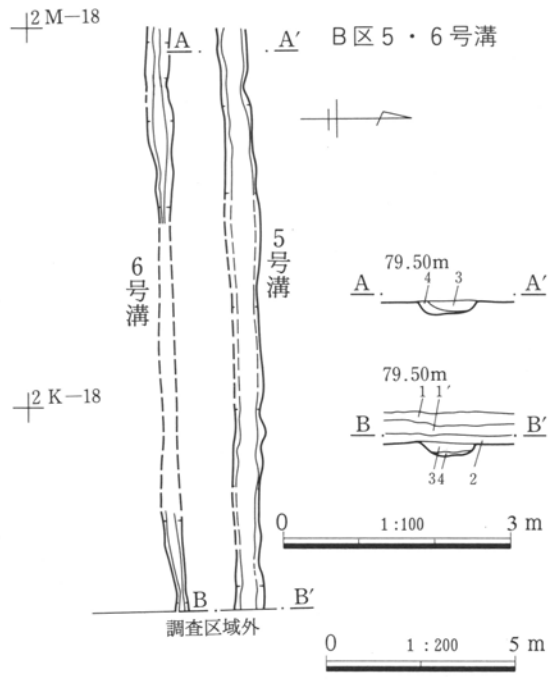
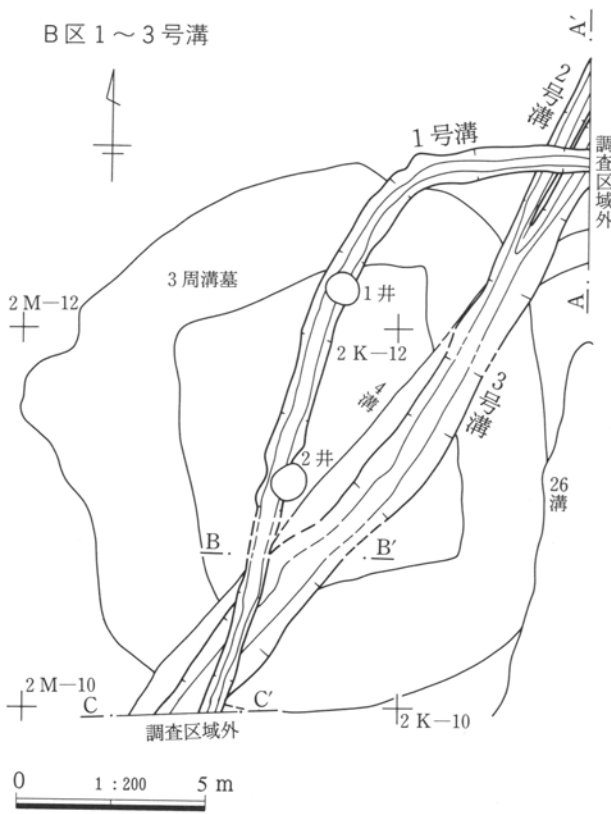
覆土 草の根や石粒を含む褐色土で、やや黒色が強い。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長6m、溝の上端80~178cm、下端42~90cm、深さ10~23cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

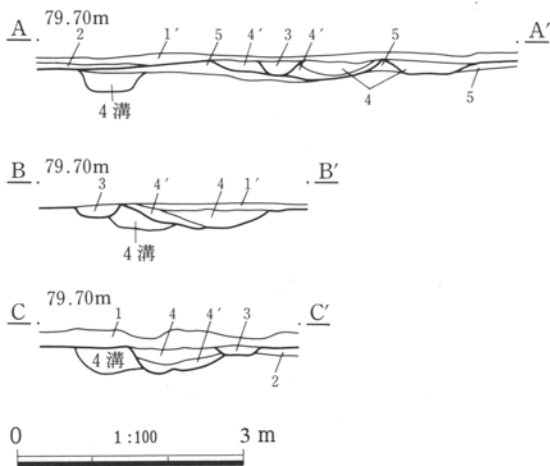
遺物 肥前、波佐見方面の青磁皿が出土している。

3. 近世以降の遺構と遺物



B区 5号溝

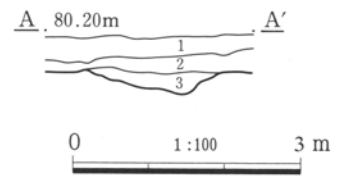
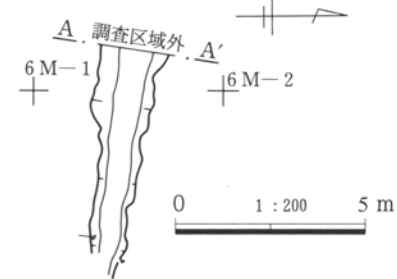
- 1 灰褐色土 耕作土。多くの草の根を含む。
- 1' 灰褐色土 耕作土。草の根は少ない。
- 2 灰褐色土 1層及び1'層の灰褐色土中に多くの赤色(鉄分)を含む層(水田耕作土下の鉄分が多く沈着した)。
- 3 褐色土 砂質。固く締まった層。
- 4 褐色土 3層中に地山の灰黄褐色土(4-d層)を少量、ブロック状に含む。



B区 1・2・3号溝

- 1 灰褐色土 耕作土。草の根多い。
- 1' 灰褐色土 1層とほぼ同じ。やや灰色が強い。
- 2 灰褐色土 1'層を主として水田下にある鉄分が多く含まれる。やや赤色を帯びる。
- 3 褐色土 固く締まっている。粒子密で多くの砂を含む。
- 4 黒褐色土 2層よりも黒色土を含む。
- 4' 黒褐色土 3層とほぼ同じであるが、黒色土が少ない。砂質。
- 5 黒褐色土 3-b層に相当する層。

B区 7号溝



B区 7号溝

- 1 黒褐色土 石や塵も混じる現代の層。
- 2 褐色土 細かい石の粒が混じる。1-b層主体。
- 3 褐色土 地山の灰黄褐色土がブロック状に混入。

第251図 B区1~3・5~7号溝

第3章 検出された遺構と遺物

B区 8号溝 (第252図 PL106)

位置 6L-2グリッド

重複 古墳時代のB区3号住居を掘り込んでいる。

走向 ほぼ東から西へ走向(N-94°-W)。

覆土 草の根や石粒を含む褐色土で、やや黒色が強い。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長6.4m、溝の上端80~135cm、下端40~72cm、深さ18.5~35.5cmを測る。

断面形 法面の緩やかなU字形状を呈する。

遺物 陶器片が出土している。

C区 2号溝 (第252図 PL106)

位置 10T-2~5C-1グリッド

重複 近現代のC区1号土坑を掘り込んでいる。

走向 北東から南西方向へ走向(N-122°-W)。

覆土 暗褐色土で、ローム粒や小石粒も含む。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長20.9m、溝の上端32~71cm、下端11~36cm、深さ17~18cmを測る。

断面形 法面が急に立ち上がる箱状を呈する。

遺物 遺物なし

C区 4号溝 (第252図 PL107)

位置 9T-15~1F-12グリッド

重複 古墳時代のC区3号溝、平安時代のC区1号、7号、8号溝を掘り込んで造られている。

走向 東西方向に走向(N-78°-W)、途中でほぼ直角に曲がり、南西方向へ走向する(N-157°-W)。

覆土 褐色土で、褐色粒や石粒も含む。全体的に砂質である。基本土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長48.1m、溝の上端70~142cm、下端38~80cm、深さ28~33cmを測る。

断面形 横に広がったようなU字形状である。

遺物 遺物なし

C区 5号溝 (第252・254図 PL107・160)

位置 5C-2~1H-11グリッド

重複 ほぼ南北に流れるので多くの溝を掘り込んでいる。古墳時代のC区3号溝、7号溝、9号溝、平安時代のC区1号溝を掘り込んでいる。

走向 北東から南西へ走向(N-162°-W)。

覆土 黒色土をやや含む褐色土で、ローム粒や石粒も含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長62.5m、溝の上端78~290cm、下端40~260cm、深さ22~25cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 堰に使用した木や石のほかに、中国青磁碗、磁器碗、鉢、皿が出土している。

C区 10号溝 (第252図 PL107)

位置 1E-19~1E-17グリッド

重複 重複なし

走向 北東から5号溝に沿ってほぼ南流する(N-165°-W)。

覆土 黒色土をやや含む褐色土で、ローム粒や石粒も含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長12.6m、溝の上端38~58cm、下端18~35cm、深さ7cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

C区 11号溝 (第252図 PL107)

位置 5D-2~1F-18グリッド

重複 古墳時代のC区3号溝を掘り込んでいる。

走向 北東からC区5号溝に沿ってほぼ南流する(N-159°-W)。

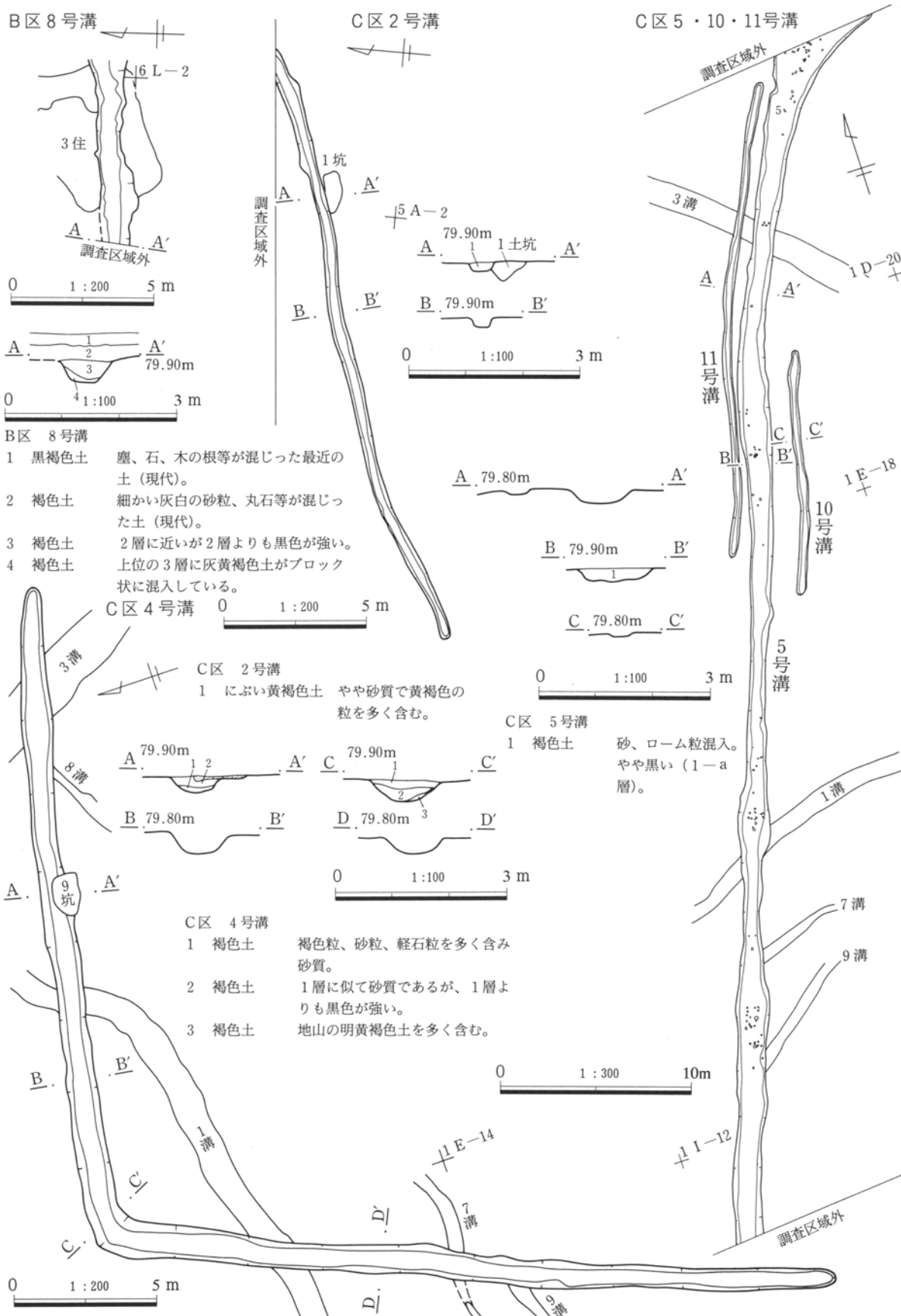
覆土 黒色土をやや含む褐色土で、ローム粒や石粒も含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長24.7m、溝の上端35~50cm、下端10~28cm、深さ8cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

3. 近世以降の遺構と遺物



第252図 B区8、C区2・4・5・10・11号溝

第3章 検出された遺構と遺物

C区 12号溝 (第253図 PL107)

位置 5G-2~1G-18グリッド

重複 重複なし

走向 北からほぼ南へ走向 (N-176°-W)。

覆土 硬質でやや砂質の褐色土で、赤褐色の砂粒を含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長20.9m、溝の上端60~175cm、下端38~135cm、深さ8cmを測る。

断面形 法面の緩やかな浅い皿状を呈する。

遺物 遺物なし

C区 15号溝 (第253図 PL107)

位置 6E-0~2H-15グリッド

重複 重複なし

走向 北東から南西方向に走向 (N-151°-W)。

覆土 黒色土をブロック状に含む褐色土で、褐色の砂粒、灰白色軽石粒も含む。近現代の溝。

規模 確認全長31.6mを測る。溝の上端70~145cm、下端35~80cm、深さ9~17cmを測る。

断面形 法面が緩やかな浅い皿状を呈している。

遺物 遺物なし

備考 走向からB区の2,3号溝との関連があると思われるが、生活道路がB区とC区の間にあったため発掘調査を行えず、確認できなかった。

C区 18号溝 (第253図 PL108)

位置 5H-3~5N-3グリッド

重複 古墳時代のC区3号溝、13号溝、16号溝、24号溝、25号溝、平安時代のC区14号溝を掘り込んでいる。

走向 C区19号溝と沿うようにほぼ東から西へ走向 (N-98°-W)。

覆土 黒色土をやや含む褐色土で石粒を多く含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長33.6m、溝の上端20~60cm、下端3~30cm、深さ12cmを測る。

断面形 法面の緩やかな皿状を呈する。

遺物 遺物なし

C区 19号溝 (第253図 PL108)

位置 5H-3~5L-3グリッド

重複 古墳時代のC区3号溝、13号溝、平安時代のC区14号溝を掘り込んでいる。

走向 C区18号溝と沿うようにほぼ東から西へ走向 (N-95°-W)。

覆土 黒色土をやや含む褐色土で、石粒を多く含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長25.4m、溝の上端28~82cm、下端10~27cm、深さ19cmを測る。18号溝に比べ、深い。

断面形 法面が急な方形状を呈する。

遺物 遺物なし

C区 21号溝 (第253図 PL108)

位置 2F-16~2H-14グリッド

重複 As-B下水田の上面に位置する。

走向 北東から南西方向。途中から二股に分かれる (N-139°-W)。

覆土 やや粘性のある褐色土が強く、褐色の砂粒、灰白色軽石粒も含まれる。下層には灰白色混じりの黒色土も見える。

規模 確認全長15.6mを測る。溝の上端45~132cm、下端8~40cm、深さ1~17cmを測る。

断面形 法面が緩やかな皿状をしている。

遺物 遺物なし

備考 経路を考えるとB区の2,3号溝との関連があると思われるが、B, C区の間生活道路があり、確認できなかった。

C区 22号溝 (第253図 PL108)

位置 5S-0~1T-18・2A-18グリッド

重複 重複なし

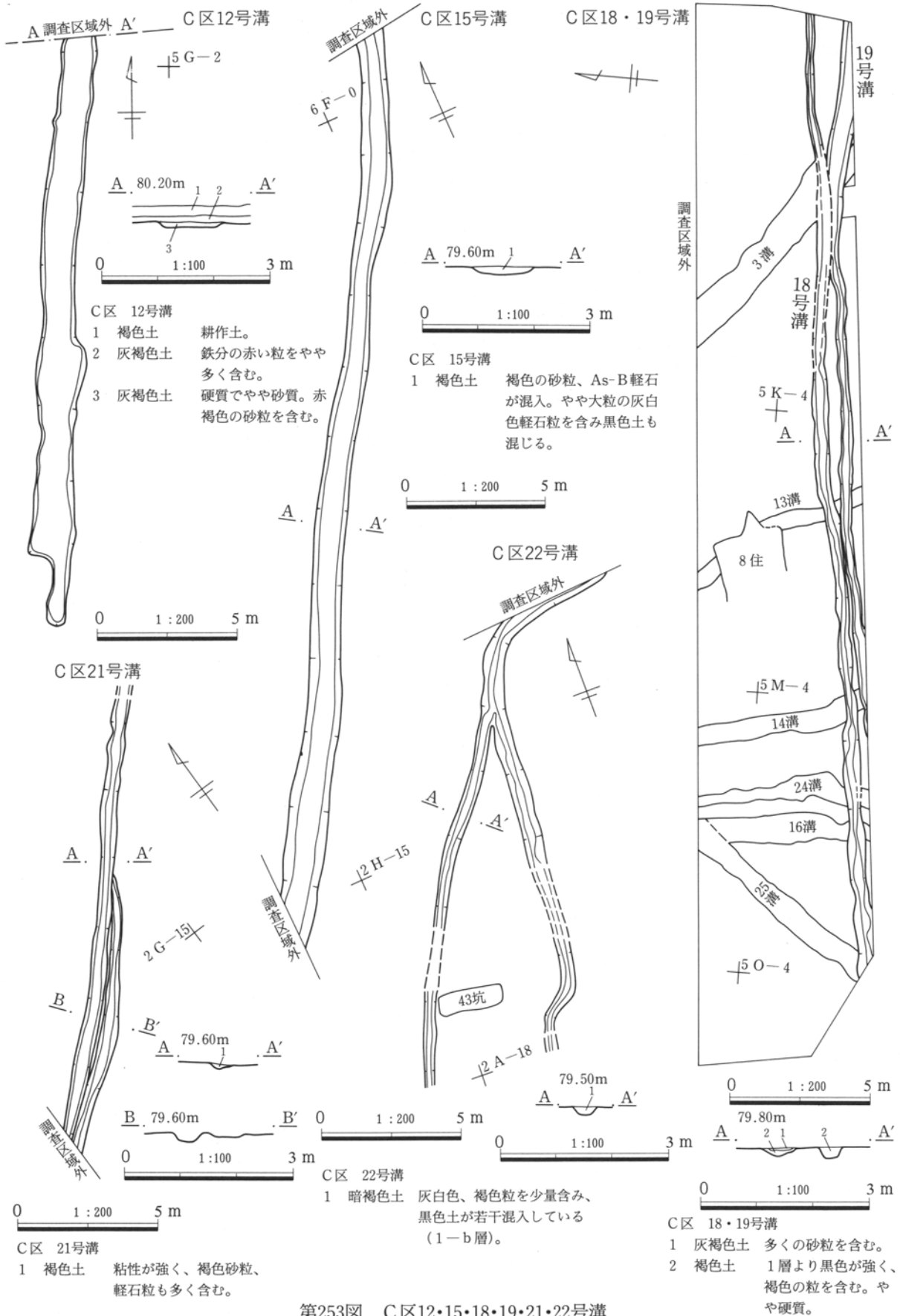
走向 北からほぼ南へ走向するものと (N-175°-W)、途中で南西方向へ走向する (N-150°-W) もの二股に分かれる。

覆土 黒色土をやや含む褐色土で、ローム粒や石粒も含む。基本土層から近現代の溝と考える。

規模 確認全長19m、溝の上端32~103cm、下端10~27cm、深さ15cmを測る。

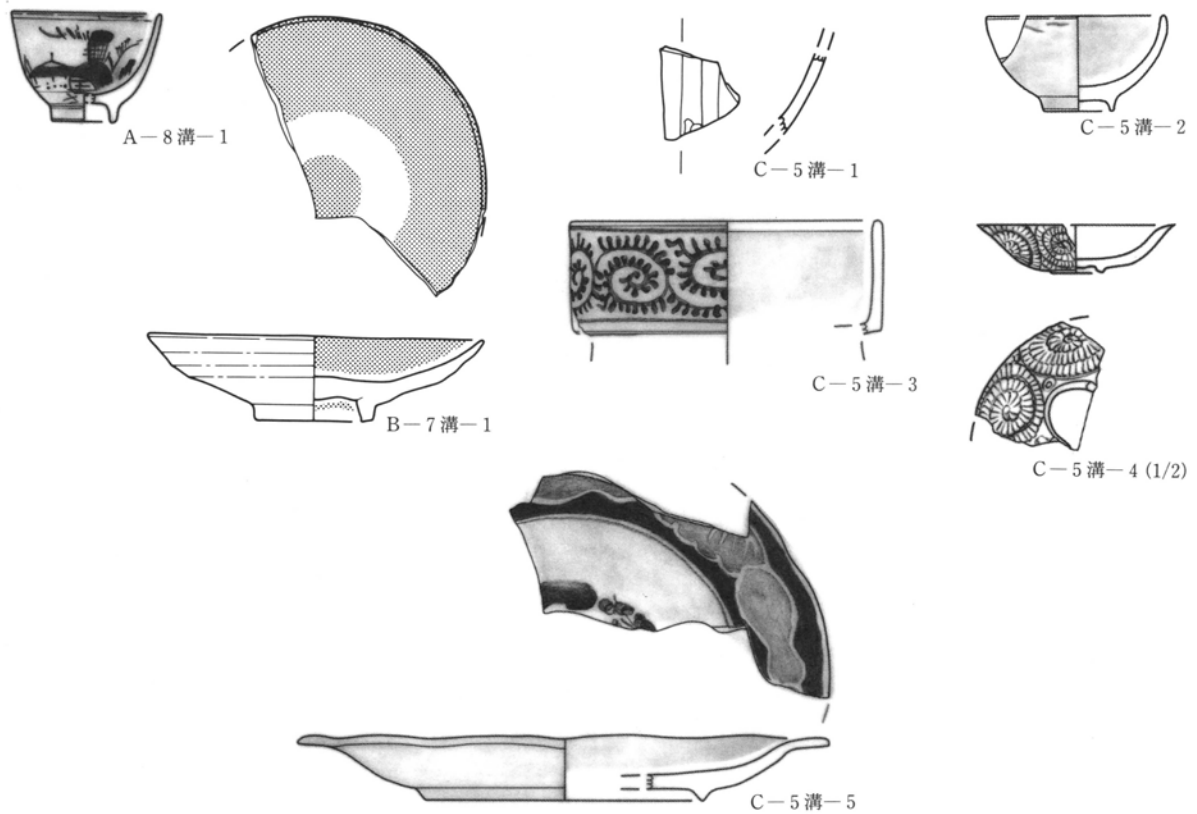
断面形 法面の緩やかな碗状を呈する。

遺物 遺物なし



第253図 C区12・15・18・19・21・22号溝

第3章 検出された遺構と遺物



第254図 A区8、B区7、C区5号溝出土遺物

A区 8号溝

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	瀬戸、美濃磁器 小碗	1/3 口径(5.9)器高4.3 底径(2.5)		①緻密 ②硬質 ③灰白	直線的に立ち上がる。高台部も直立。外面に楼閣山水文が描かれている。

B区 7号溝

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	肥前青磁 (波佐見) 皿	1/3 口径(13.3)器高3.4 底径(4.7)		①緻密 ②硬質 ③灰白	丸みを帯びて立ち上がる。高台部は直立。蛇の目軸はぎ。

C区 5号溝

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	中国青磁碗	体部片 口径- 器高- 底径-		①緻密 ②硬質 ③明オリブ灰	直線的に立ち上がる体部。龍泉窯系青磁。鎬蓮弁文碗
2	肥前白磁小碗	1/3 口径(7.0)器高4.75 底径2.8		①緻密 ② ③灰白	丸みを帯びて立ち上がる。高台部は直立気味。口縁部外面に染め付けあり、文様は不明。釉調にむらがある。良品でない。
3	肥前白磁重箱	口~体部 1/3 口径(12.2) 器高(4.4) 底径-		①緻密 ② ③灰白	直立する体部。口縁部内側は釉薬を削っている。蓋が付き、重なる。文様は鮫唐草。焼き継ぎの箇所あり。
4	肥前白磁紅皿	1/4 口径(5.3) 器高1.3 底径(1.3)		① ② ③	腰部が張り、口縁は外反する。外面に鮫唐草の型押が施されている。内面と外面の一部に施釉。
5	肥前磁器皿	1/5 口径(20.8) 器高2.5 底径(11.0)		①緻密 ② ③灰白	丸みを帯びて立ち上がる。口縁は大きく外反する。外形は輪花状。高台部断面形状は三角形。内面の文様に墨弾きの手法。

(3) 土坑

遺構番号 (第図 PL)	平面形 グリッド	長軸方向	長軸×短軸 深さ(cm)	覆土の特徴 出土遺物	備考
A区1号土坑 (第255図 PL108)	円形 4 C-13	不可	185×— 12	粒子密、砂質で赤色粒を含む茶褐色土。	近現代の土坑。
A区2号土坑 (第255図 PL108)	円形 4 C-13	N-23°-E	75×70 7.5	粒子密、砂質で赤色粒を含む茶褐色土。	近現代の土坑。
A区4号土坑 (第255図 PL108)	長方形 4 A-13	N-40°-E	107×64 14	粒子密、軟質で黒色土を含まない茶褐色土。	近世の土坑。
A区5号土坑 (第255図 PL109)	長方形 3 S-12	N-55°-W	168×86 42	大粒の黄褐色土や赤色粒を含む褐色土。	奈良平安時代のA区7号溝を掘り込んでいる。近現代の土坑。
A区6号土坑 (第255図 PL109)	長方形 3 M-13	N-69°-W	234×95 21	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。	近世の土坑。
A区7号土坑 (第255図 PL109)	長方形 3 L-13	N-68°-W	190×78 35	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。	近世の土坑。
A区8号土坑 (第255図 PL109)	長方形 3 M-13	N-70°-W	187×78 44	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。	近世の土坑。
A区9号土坑 (第256図 PL109)	長方形 3 L-13	N-74°-W	220×84 20	方形周溝墓の黒色土を含む軟質の茶褐色土。近世の土坑。	古墳時代のA区3号方形周溝墓周溝部分を掘り込んでいる。
A区10号土坑 (第256図 PL109)	長方形 3 N-13	N-72°-W	178×(67) 24	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。	A区11号土坑に掘り込まれている。近世の土坑。
A区11号土坑 (第256図 PL109)	長方形 3 N-13	N-72°-W	250×82 29	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。	近世の土坑。
A区12号土坑 (第256図 PL109)	長方形 3 K-12	N-82°-W	210×101 36	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。	A区13号土坑に掘り込まれている。近世の土坑。
A区13号土坑 (第256図 PL110)	長方形 3 K-12	N-69°-W	148×(76) 32	やや黒色が強い茶褐色土。	近世の土坑。
A区14号土坑 (第256図 PL110)	長方形 3 I-11	N-80°-W	114×72 27	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。近世の土坑。	古墳時代のA区6号方形周溝墓周溝部分を掘り込んでいる。
A区15号土坑 (第256図 PL110)	円形に近い 3 K-11	N-12°-E	166×(145) 34	少量の黒色土を含む茶褐色土。近現代の土坑。	古墳時代のA区6号方形周溝墓周溝部分を掘り込んでいる。
A区16号土坑 (第256図 PL110)	円形に近い 3 J-11	N-12°-E	145×130 44	黒色が強い茶褐色土。近現代の土坑。	6号方形周溝墓周溝部分を掘り込む。15号土坑を掘り込む。
A区17号土坑 (第257図 PL110)	楕円形 3 J-11	N-8°-E	143×116 64	土層注記なし。	A区6号方形周溝墓周溝部分を掘り込む。近現代の土坑。
A区18号土坑 (第257図 PL110)	楕円形 3 J-11	N-9°-E	(97)×(86) (59)	黄褐色砂質土を含む茶褐色土。	近現代の土坑。
A区19号土坑 (第257図 PL110)	隅丸長方形 3 J-11	N-80°-W	143×80 55	黒色土を含まない茶褐色土。近現代の土坑。	6号方形周溝墓周溝部分を掘り込む。18号土坑を掘り込む。
A区20号土坑 (第257図 PL110)	円形 3 J-11	不可	(80)×— 45	土層注記なし。	A区21号土坑を掘り込む。近現代の土坑。
A区21号土坑 (第257図 PL110)	円形 3 J-11	不可	110×— 35	土層注記なし。	近現代の土坑。
A区22号土坑 (第257図 PL110)	長方形 3 J-11	N-73°-W	214×90 33	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。近世土坑。	6号方形周溝墓周溝部分を掘り込む。近世の9号溝を掘り込む。
A区23号土坑 (第257図 PL110)	円形 3 J-11	N-63°-W	150×140 24	少量の黒色土を含む軟質の茶褐色土。近現代の土坑。	古墳時代のA区6号方形周溝墓周溝部分を掘り込んでいる。
A区24号土坑 (第257図 PL110)	長方形 3 I-11	N-65°-W	135×80 20	黒色土を含まない軟質の茶褐色土。近世土坑。	A区25号土坑を掘り込んでいる。
A区25号土坑 (第257図 PL110)	円形と想定 3 I-11	不可	73×(36) 20	黒色土を多く含む茶褐色土。	近世の土坑。
A区26号土坑 (第258図 PL110)	長方形 4 A-10	N-38°-W	284×112 45	1cm前後の黄褐色土をブロック状に含む。	平安時代のA区7号溝を掘り込んでいる。近世の土坑。
A区27号土坑 (第258図 PL111)	楕円形 3 P-10	N-80°-W	208×(187) 27	粒子密な白色軽石粒を含まない褐色土。	縄文時代のA区28号土坑を掘り込んでいる。近現代の土坑。
A区36号土坑 (第258図 PL111)	長方形 3 G-15	N-10°-E	193×110 46	粒子密な褐色土。	平安時代のA区39号住居を掘り込んでいる。近世の土坑。
A区37号土坑 (第258図 PL111)	長方形 3 E-13	N-8°-E	180×104 44	5mm前後の軽石粒を含む褐色土。近現代の土坑。	古墳時代のA区9号方形周溝墓の周溝を掘り込んでいる。

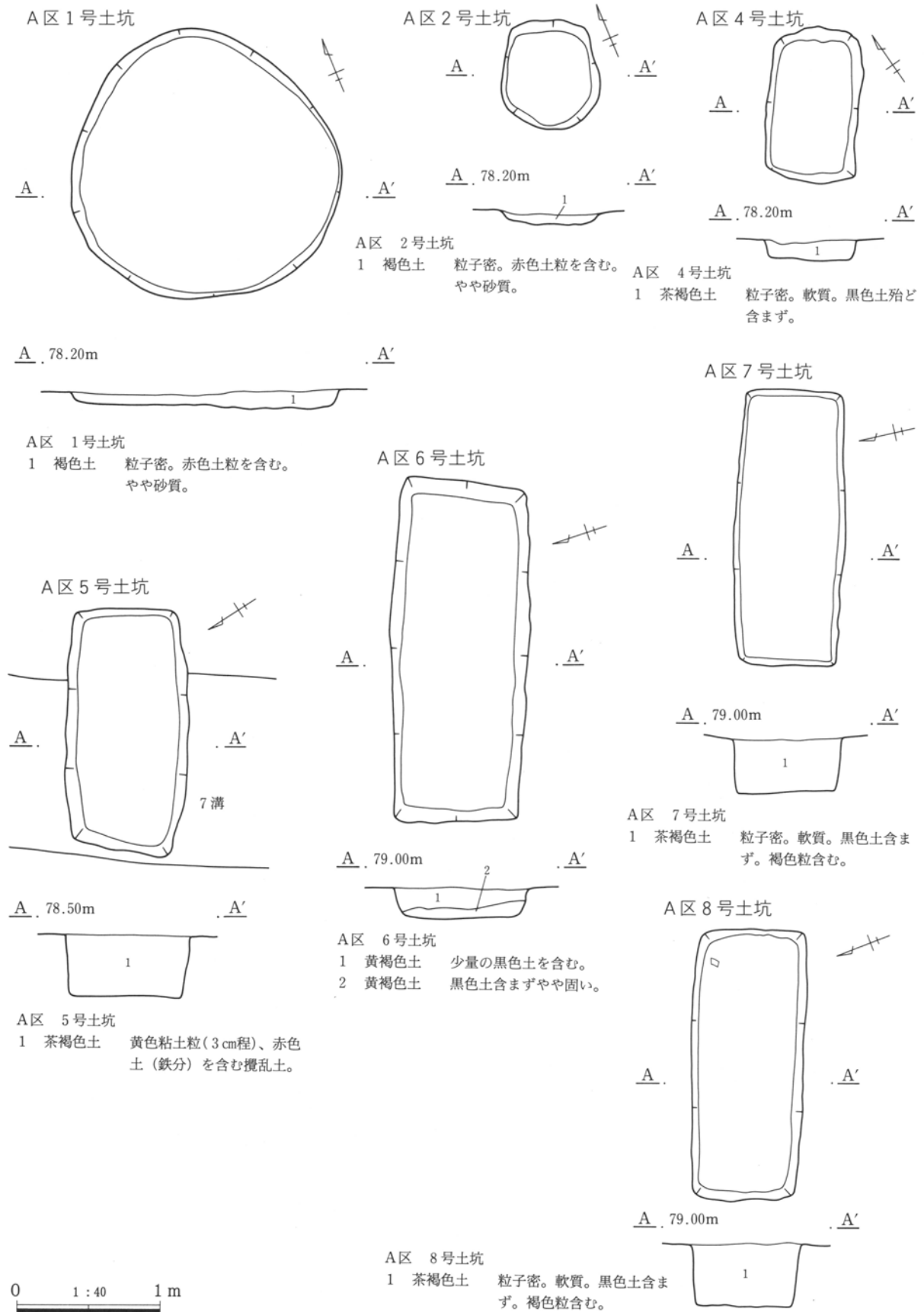
第3章 検出された遺構と遺物

遺構番号 (第図 PL)	平面形 グリッド	長軸方向	長軸×短軸 深さ(cm)	覆土の特徴 出土遺物	備考
A区38号土坑 (第258図 PL111)	長方形 3 E-13	N-90°	236×93 43	5mm前後の軽石粒を含む褐色土。炭も含む。近現代の土坑。	9号方形周溝墓を掘り込む。A区39号土坑を掘り込んでいる。
A区39号土坑 (第258図 PL111)	長方形 3 E-13	N-85°-W	179×86 32	5mm前後の軽石粒を含む褐色土。炭も含む。	A区9号方形周溝墓を掘り込む近現代の土坑。
A区47号土坑 (第259図 PL111)	長方形 3 K-15	N-90°	194×106 46	黄褐色土と黒褐色土とが混ざったような土。石や砂利も含む。	A区2号方形周溝墓を掘り込む。近世の土坑。
A区52号土坑 (第259図 PL111)	長方形 3 D-18	N-86°-W	116×78 14	粒子密な黄褐色土に黒色土がブロック状に混入。	近世の土坑。
A区53号土坑 (第259図 PL111)	長方形 3 D-18	N-90°	160×85 22	粒子密な黄褐色土に黒色土がブロック状に混入。	近世の土坑。
A区59号土坑 (第259図 PL112)	長方形 3 D-12	N-90°	232×87 33	褐色土の中に黄褐色土をブロック状に含む。	A区9号方形周溝墓を掘り込む近現代の土坑。
A区63号土坑 (第260図 PL112)	長方形 3 B-13	N-90°	218×87 14	暗褐色土の中に明黄褐色土をブロック状に含む。	近現代の土坑。
A区64号土坑 (第260図 PL112)	楕円形 3 A-13	N-5°-E	160×117 15	暗褐色土の中に明黄褐色土をブロック状に含む。	近現代の土坑。
A区73号土坑 (第260図 PL112)	円形 7 E-2	不可	76×- 28	やや黒い褐色土の中に黄褐色土の粒を含む。	近現代の土坑。
A区74号土坑 (第260図 PL112)	円形 7 E-2	不可	52×- 7	やや黒い褐色土の中に黄褐色土の粒を含む。	近現代の土坑。
A区75号土坑 (第260図 PL112)	円形と想定 7 E-2	不可	(78)×(22) (15)	やや黒い褐色土の中に黄褐色土の粒を含む。	近現代の土坑。
A区77号土坑 (第260図 PL112)	長方形 7 E-0	N-7°-W	(174)×70 5	やや黒い褐色土の中に細かい灰白色の粒を多く含む。	近現代の土坑。
A区78号土坑 (第260図 PL113)	円形 7 G-0	不可	51×- 3	暗褐色土の中に黄褐色土をブロック状に含む。	近現代の土坑。
B区2号土坑 (第261図 PL113)	長方形 2 N-10	N-78°-W	272×98 8	土層の記載はないが、形状から近現代の土坑と考える。	B区2号方形周溝墓の方台部を掘り込む。
B区3号土坑 (第261図 PL160)	長方形と想定 6 K-2	不可	(95)×(21) (28)	褐色土。黄褐色土のブロックを多く含む。近現代の土坑。	近現代の墓坑と思われる。生活用道路に接し、全部発掘できず
B区4号土坑 (第261図)	円形と想定 6 K-2	不可	(37)×(9) (70)	褐色土。黄褐色土のブロックを多く含む。近現代の土坑。	生活用道路に接し、全部発掘できず。B区3号土坑を掘り込む
B区5号土坑 (第261図)	長方形と想定 6 K-2	不可	(100)×(64) (84)	褐色土。黄褐色土のブロックを多く含む。近現代の土坑。	近現代の墓坑と思われる。生活用道路に接し、全部発掘できず
C区1号土坑 (第262図 PL113)	長方形 10 T-2	N-78°-E	136×60 33	暗褐色土に細かい白色粒が混入。	近現代のC区2号溝に掘り込まれている。形状から近世の土坑。
C区2号土坑 (第262図 PL113)	楕円形 10 T-2	N-88°-W	116×86 25	褐色土に灰白色軽石粒混入。下層には黄褐色土混じる。	近世の土坑。
C区3号土坑 (第262図 PL113)	楕円形 10 T-2	N-80°-W	(115)×83 21	暗褐色土に砂粒混入。	C区5号土坑を掘り込んでいる近世の土坑。
C区4号土坑 (第262図 PL113)	楕円形 10 T-2	不可	(65)×(52) (28)	暗褐色土に砂粒混入。	C区5号土坑に掘り込まれている。近世の土坑。
C区5号土坑 (第262図 PL113)	隅丸長方形 10 T-2	N-5°-E	240×112 21	褐色土に暗褐色土混入。	近世の土坑。
C区7号土坑 (第263図 PL113)	円形 10 T-0	N-47°-E	54×48 21	褐色土に暗褐色土混入。	近現代の土坑。
C区8号土坑 (第263図 PL113)	円形 10 T-0	N-20°-E	47×41 10	褐色土に暗褐色土混入。	近現代の土坑。
C区9号土坑 (第263図 PL113)	長方形 1 B-15	N-80°-W	145×96 9	褐色土。	近世のC区4号溝を掘り込む。近世の土坑。
C区10号土坑 (第263図 PL114)	楕円形 9 S-15	N-2°-E	102×71 13	黒褐色土に褐色土、白色粒混入。	近現代の土坑。
C区11号土坑 (第263図 PL114)	長方形 1 B-15	N-67°-E	178×50 90	褐色土に暗褐色土、白色粒混入。	近現代の土坑。
C区12号土坑 (第263図 PL114)	楕円形 1 D-13	N-54°-E	113×60 80	褐色土に暗褐色土、細かい白色粒混入。	近現代の土坑。
C区13号土坑 (第263図 PL114)	楕円形 1 A-14	N-15°-W	85×57 80	褐色土に暗褐色土、細かい白色粒混入。	近現代の土坑。
C区14号土坑 (第263図 PL114)	長方形 1 B-13	N-9°-W	98×52 15	褐色土に細かい白色粒混入。	近現代の土坑。

3. 近世以降の遺構と遺物

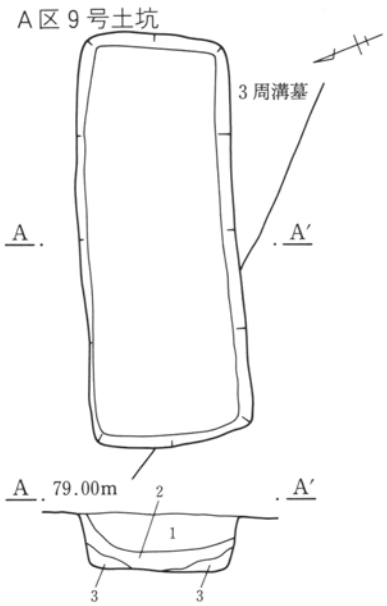
遺構番号 (第 図 PL)	平面形 グリッド	長軸方向	長軸×短軸 深さ(cm)	覆土の特徴 出土遺物	備考
C区15号土坑 (第263図 PL114)	方形 1 I-19	N-4°-W	158×143 30	砂質の褐色土に砂粒混入。	近現代の土坑。
C区16号土坑 (第263図 PL114)	楕円形 1 L-13	N-0°	118×98 23	暗褐色土に細かい灰白色軽石粒混入。	近現代の土坑。
C区20号土坑 (第264図 PL114)	円形 1 J-19	不可	90×- 31	粘性の褐色土に砂粒混入。	近現代の土坑。
C区22号土坑 (第264図 PL115)	長方形 2 C-17	N-2°-E	234×50 20	全体的ににぶい黄褐色土に褐色土が混入。	近現代の土坑。
C区24号土坑 (第264図 PL115)	楕円形 2 C-14	N-88°-E	132×(53) 22	灰褐色土に軽石粒混入。	C区25号土坑に掘り込まれている。近現代の土坑。
C区25号土坑 (第264図 PL115)	長方形 2 C-14	N-85°-E	250×70 20	褐色土に軽石粒混入。	C区24号土坑を掘り込んでいる近現代の土坑。
C区26号土坑 (第264図 PL115)	長方形 2 B-14	N-0°	147×50 16	軽石混入の灰褐色土の下層に暗褐色土。	近現代の土坑。
C区27号土坑 (第264図 PL115)	長方形 2 B-14	N-90°	(56)×(72) (44)	褐色土。細かい軽石粒混入。近現代の土坑。	C区28号土坑に掘られている。C区56号土坑に掘られている。
C区28号土坑 (第264図 PL115)	長方形 2 B-14	N-90°	195×80 25	軽石混入の褐色土。	近現代の土坑。
C区29号土坑 (第264図 PL115)	円形 2 A-14	不可	85×- 7	褐色土。細かい軽石粒混入。	近現代の土坑。
C区34号土坑 (第265図 PL115)	長方形 5 Q-0	N-4°-W	254×54 26	暗褐色土に褐色砂のブロックが混入。	近現代の土坑。
C区35号土坑 (第265図 PL115)	長方形 5 Q-0	N-80°-E	214×46 27	暗褐色土に褐色砂のブロックが混入。	近現代の土坑。
C区37号土坑 (第264図 PL116)	長方形 2 C-16	N-84°-W	152×(39) -	土層注記なし。	C区38号土坑に掘り込まれる。形状から近現代の土坑と考える
C区38号土坑 (第264図 PL116)	長方形 2 C-14	N-84°-W	(186)×63 -	土層注記なし。	形状から近現代の土坑と考える
C区40号土坑 (第265図 PL116)	楕円形 2 C-11	N-52°-W	137×57 -	土層注記なし。	形状から近現代の土坑と考える
C区41号土坑 (第265図 PL116)	長方形 2 A-18	N-87°-W	240×85 28	灰褐色土に軽石粒が混入。	C区42号土坑を掘り込む。近現代の土坑。
C区42号土坑 (第265図 PL116)	長方形 2 A-18	N-87°-W	(115)×63 -	灰褐色土に軽石粒が混入。	C区41号土坑に掘り込まれている。近現代の土坑。
C区43号土坑 (第265図 PL116)	長方形 2 A-18	N-81°-W	232×79 15	灰褐色土に軽石粒が混入。	C区41号土坑に掘り込まれている。近現代の土坑。
C区53号土坑 (第265図 PL116)	円形 6 G-2	不可	90×- 18	黒色土に地山の明黄褐色土が混入。	C区54号土坑を掘り込んでいる近現代の土坑。
C区54号土坑 (第265図 PL116)	円形 6 G-2	不可	90×- 22	黒色土に地山の明黄褐色土が混入。	C区53号土坑に掘り込まれている。近現代の土坑。
C区57号土坑 (第265図 PL116)	円形 2 A-17	不可	81×- 39	軽石粒を多く含む褐色土。	近現代の土坑。
C区61号土坑 (第265図 PL116)	長方形 1 D-11	N-80°-W	228×114 11	にぶい黄褐色土。細かい灰白色軽石粒が混入。	近世の土坑。

第3章 検出された遺構と遺物

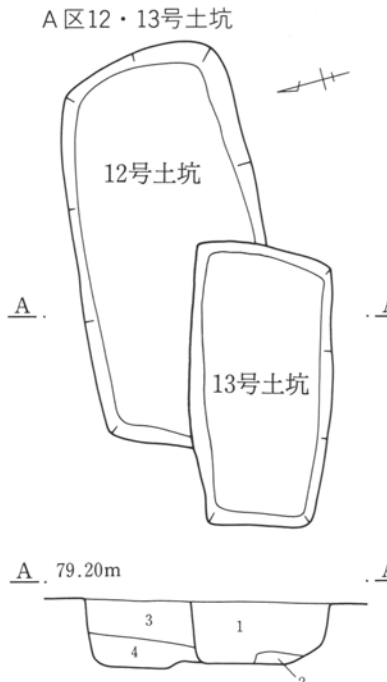


第255図 A区1・2・4～8号土坑

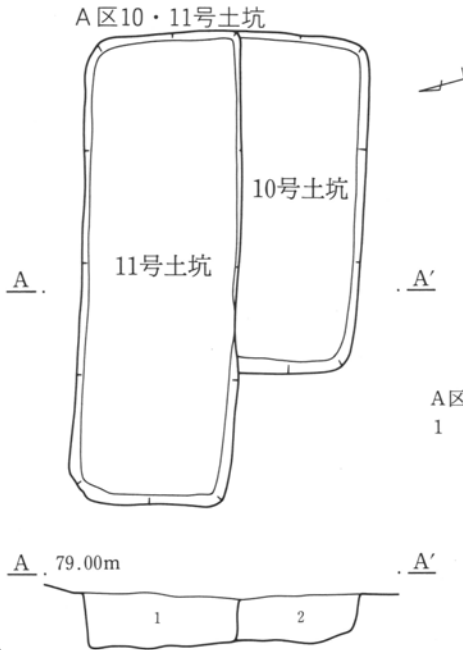
3. 近世以降の遺構と遺物



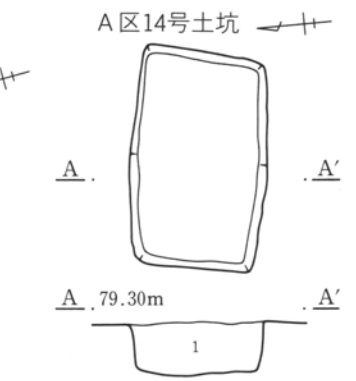
- A区 9号土坑
- 1 黒茶褐色土 茶褐色土（2-a層）と方形周溝墓覆土の黒色土が混入した層。
 - 2 黒茶褐色土 1層より多くの黒色土を含む。1cm前後の砂粒を含む。
 - 3 黒茶褐色土 1層に近いが砂粒殆ど含まず。粒子密。



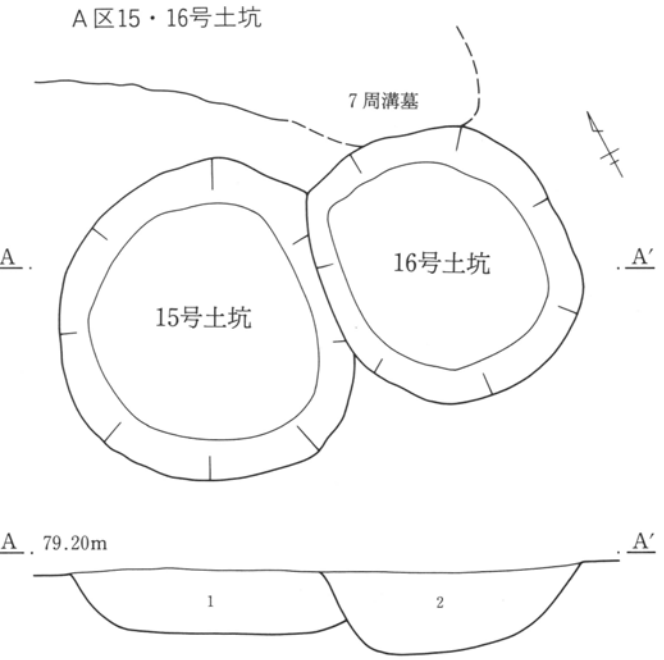
- A区 12・13号土坑
- 1 褐色土 軟質で粒子密。やや黒色が強い。
 - 2 褐色土 地山の黄褐色砂質土を多く含む。
 - 3 褐色土 1層に近いが1層よりも褐色が強い。
 - 4 褐色土 3層よりも黒色が強い。



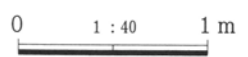
- A区 10・11号土坑
- 1 茶褐色土 粒子密。黒色土少量含む。軟質。
 - 2 茶褐色土 1層に近いが、やや褐色が強く暗い。軟質。



- A区 14号土坑
- 1 茶褐色土 粒子密。軟質。黒色土殆ど含まず。



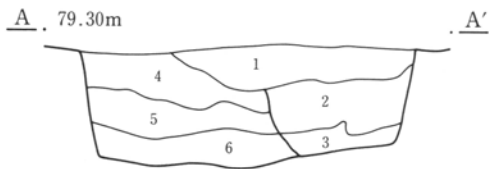
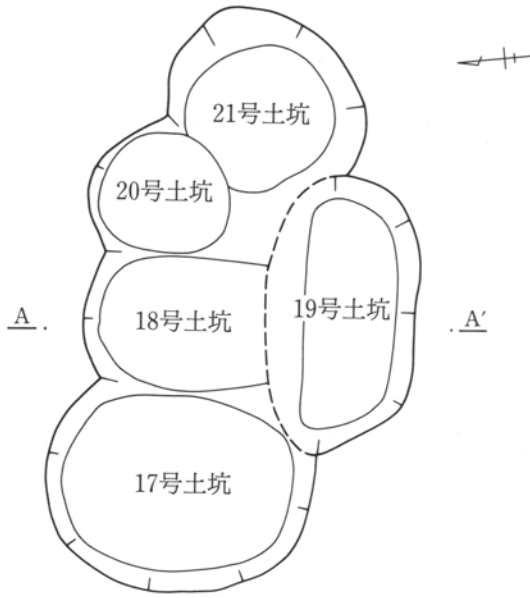
- A区 15・16号土坑
- 1 褐色土 少量の黒色土を含む。1cm前後の砂粒は含まず。
 - 2 褐色土 1層より暗く軟らかい。



第256図 A区 9～16号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

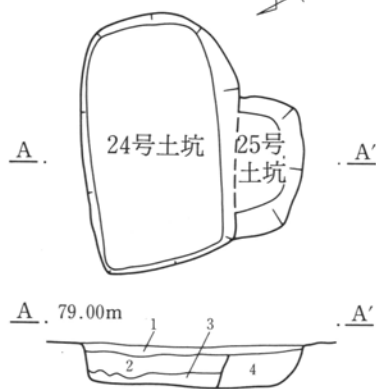
A区17~21号土坑



A区 18・19号土坑

- 1 褐色土 粒子密。黒色土含まず。軟質。
- 2 褐色土 1層に近い。1層よりやや明るい。
- 3 褐色土 地山の黄褐色砂質土をブロック状に多く含む。
- 4 褐色土 地山の黄褐色砂質土を多く含む。
- 5 褐色土 粒子密。地山の黄褐色砂質土含まず。
- 6 褐色土 4層に近い。4層より粒子密。固い。層全体が均一。

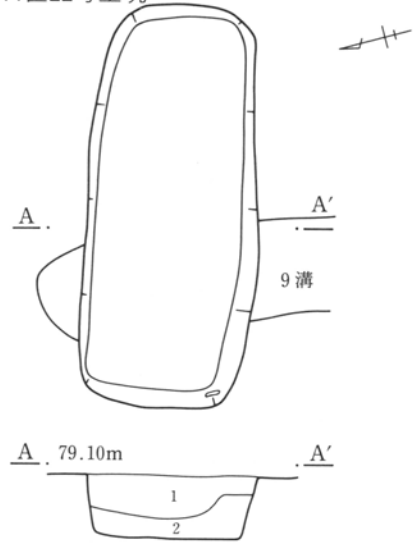
A区24・25号土坑



A区 24・25号土坑

- 1 茶褐色土 粒子密。黒色土含まず。軟質。
- 2 茶褐色土 1層にほぼ同じ。やや黒色が強い。
- 3 茶褐色土 2層に近い。やや黄色を帯びている。
- 4 茶褐色土 茶褐色土中に多くの黒色土を含む。

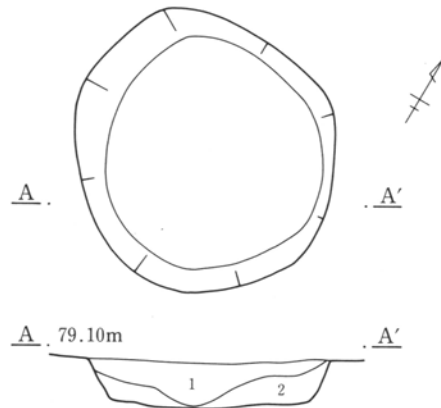
A区22号土坑



A区 22号土坑

- 1 茶褐色土 黒色土ブロックを含む。
- 2 茶褐色土 1層よりも黒色が強い。

A区23号土坑



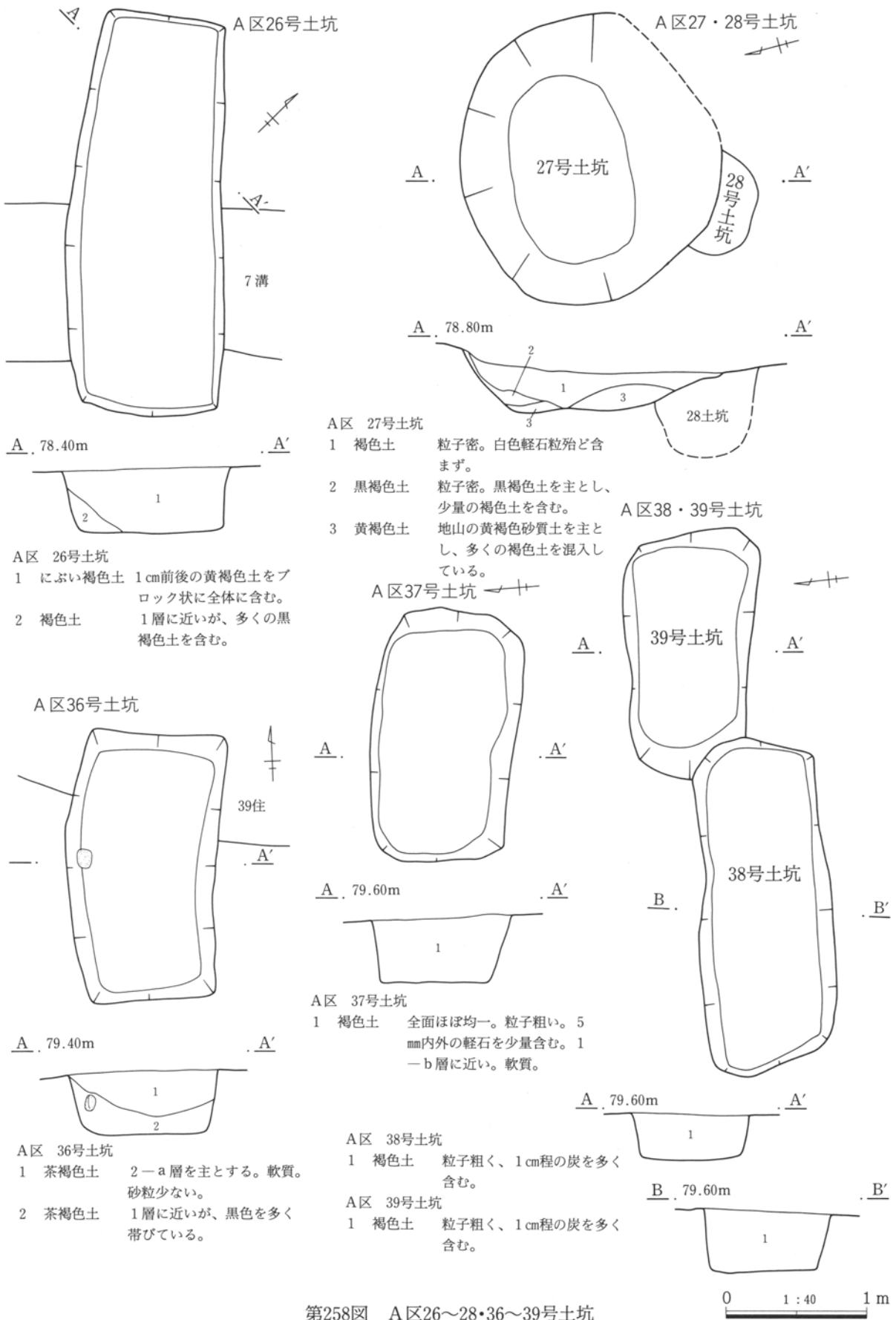
A区 23号土坑

- 1 褐色土 粒子密。少量の黒色土を含む。軟質。
- 2 褐色土 1層に近いが、多くの黒色土(古墳の周溝を埋めている土)を含む。

0 1:40 1 m

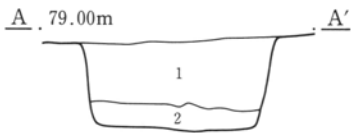
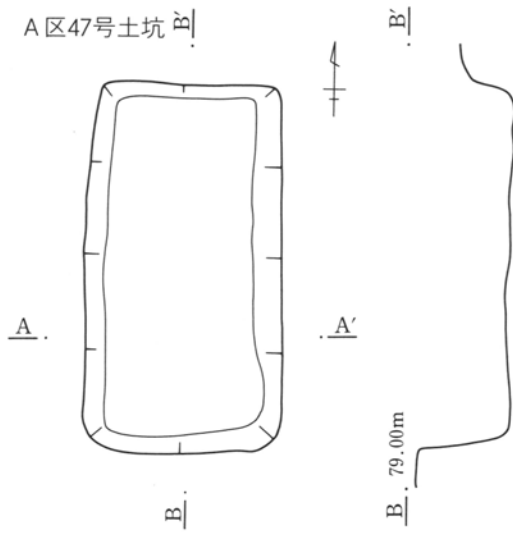
第257図 A区17~25号土坑

3. 近世以降の遺構と遺物

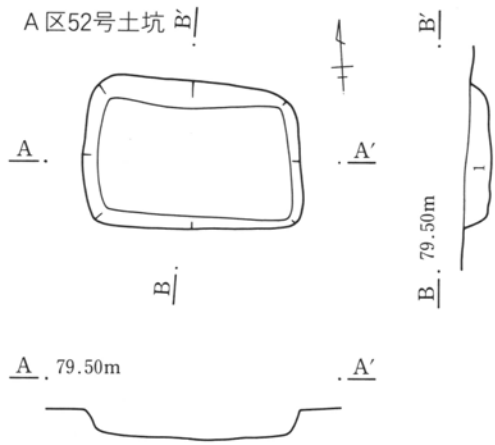


第258図 A区26~28・36~39号土坑

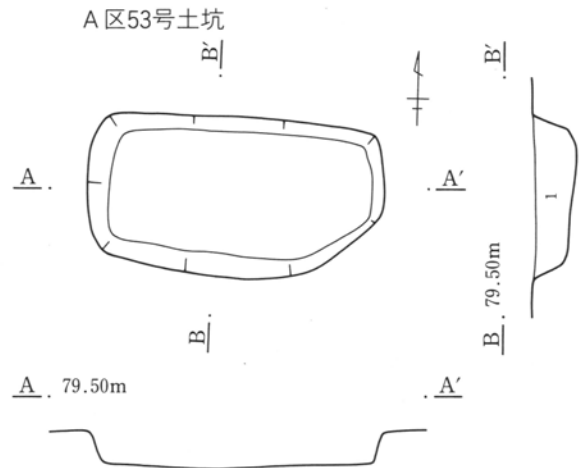
第3章 検出された遺構と遺物



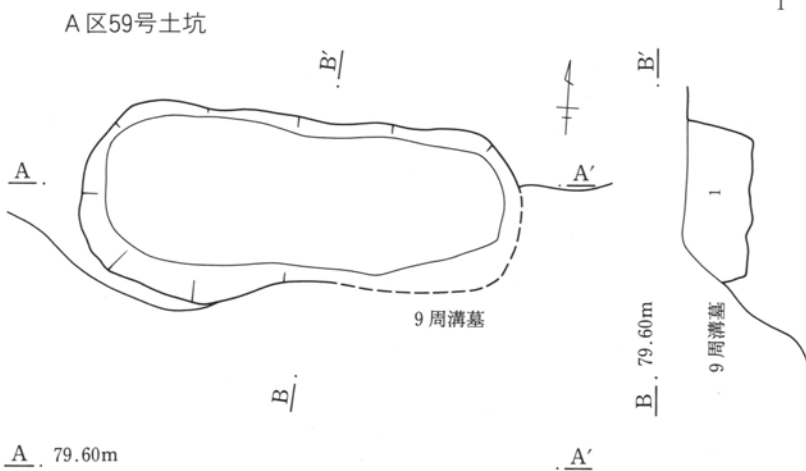
A区 47号土坑
 1 におい黄褐色土 2-a層。軟質。1mm内外の砂と1mm内外の砂利を多く含む。
 2 明黄褐色土 4-c層を主とする。1層中に多くの4-c層を含む。



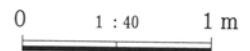
A区 52号土坑
 1 におい黄褐色土 2-a層を主体とする。やや砂質。黒褐色土がブロック状に混入。



A区 53号土坑
 1 におい黄褐色土 2-a層を主体とする。粒子密。やや砂質。黒色土ブロックを含む。

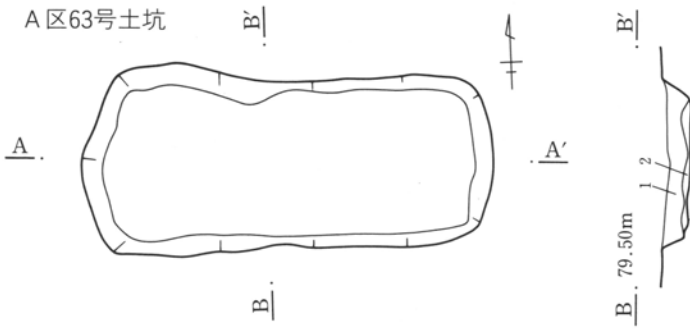


A区 59号土坑
 1 褐色土 黄褐色土ブロック、黒色土ブロックを多く含む。



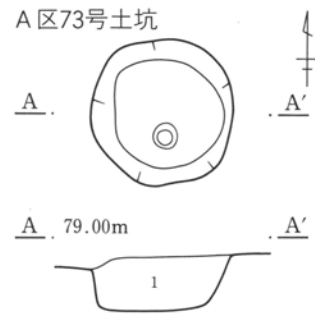
第259図 A区47・52・53・59号土坑

3. 近世以降の遺構と遺物



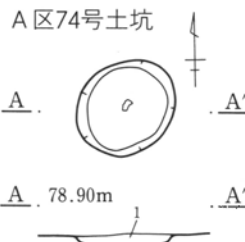
A区 63号土坑

- 1 暗褐色土 4-c層の明黄褐色土のブロック(1cm内外)を全体に含む。
- 2 暗褐色土 4-c層の明黄褐色土のブロック(1cm内外)を全体に多く含む層。



A区 73号土坑

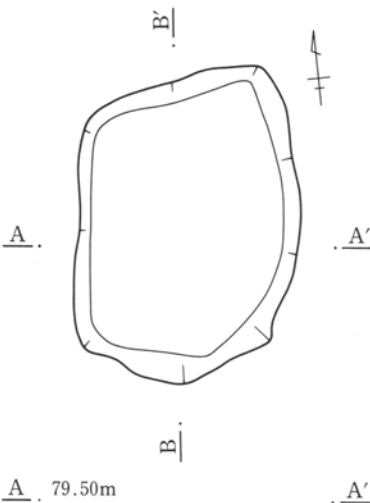
- 1 褐色土 1-b層を主体としている。大粒の黄褐色の砂粒を含む。



A区 74号土坑

- 1 褐色土 1-b層を主体としている。大粒の黄褐色の砂粒を含む。

A区64号土坑



A区 64号土坑

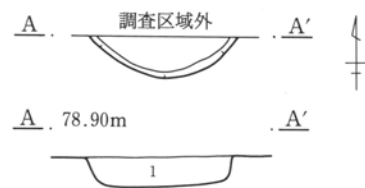
- 1 暗褐色土 4-c層の明黄褐色土のブロック(1cm内外)を全体に含む。
- 2 暗褐色土 4-c層の明黄褐色土のブロック(1cm内外)を全体に多く含む層。



A区 77号土坑

- 1 褐色土 軟質。細かい灰白色軽石粒が少量含まれる。

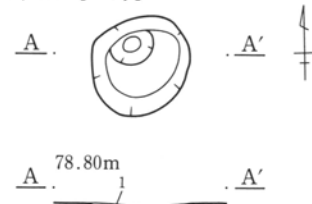
A区75号土坑



A区 75号土坑

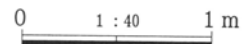
- 1 褐色土 1-b層を主体としている。大粒の黄褐色の砂粒を含む。

A区78号土坑



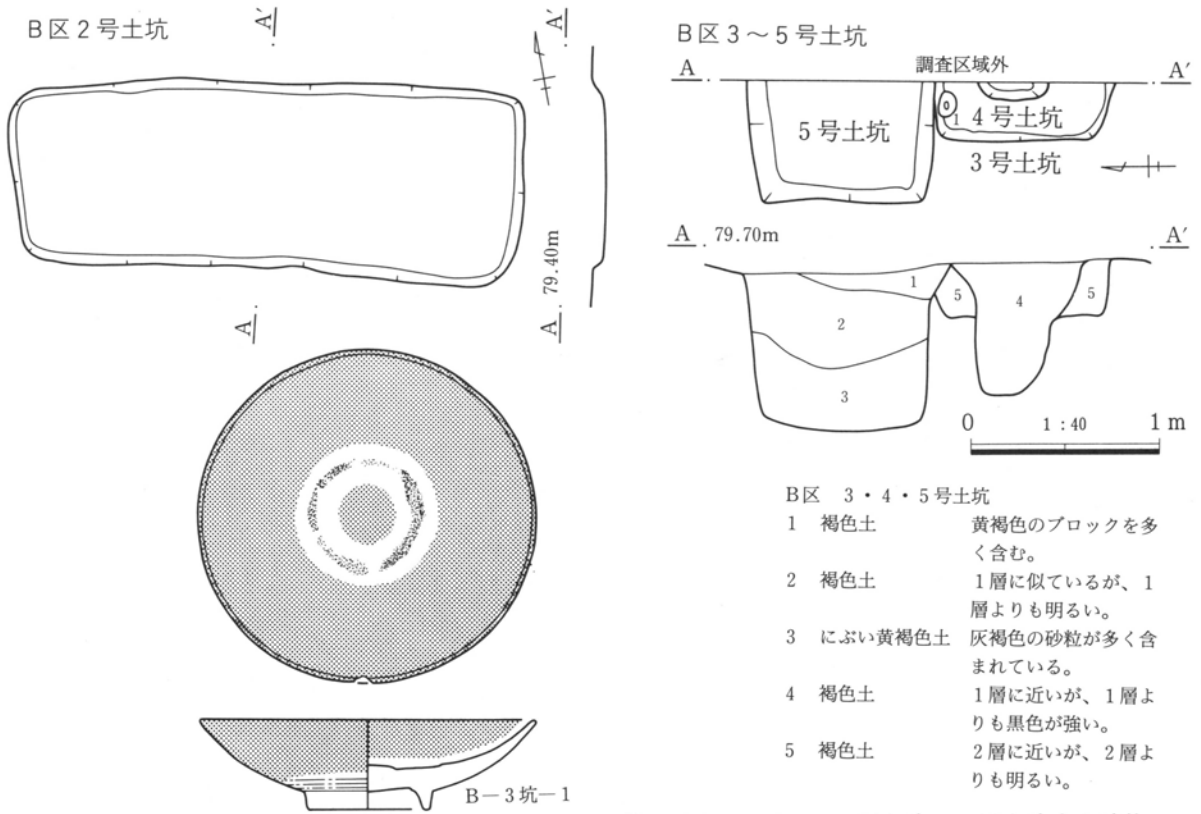
A区 78号土坑

- 1 褐色土 やや粘性有り。黄褐色粒がブロック状に混入している。



第260図 A区63・64・73~75・77・78号土坑

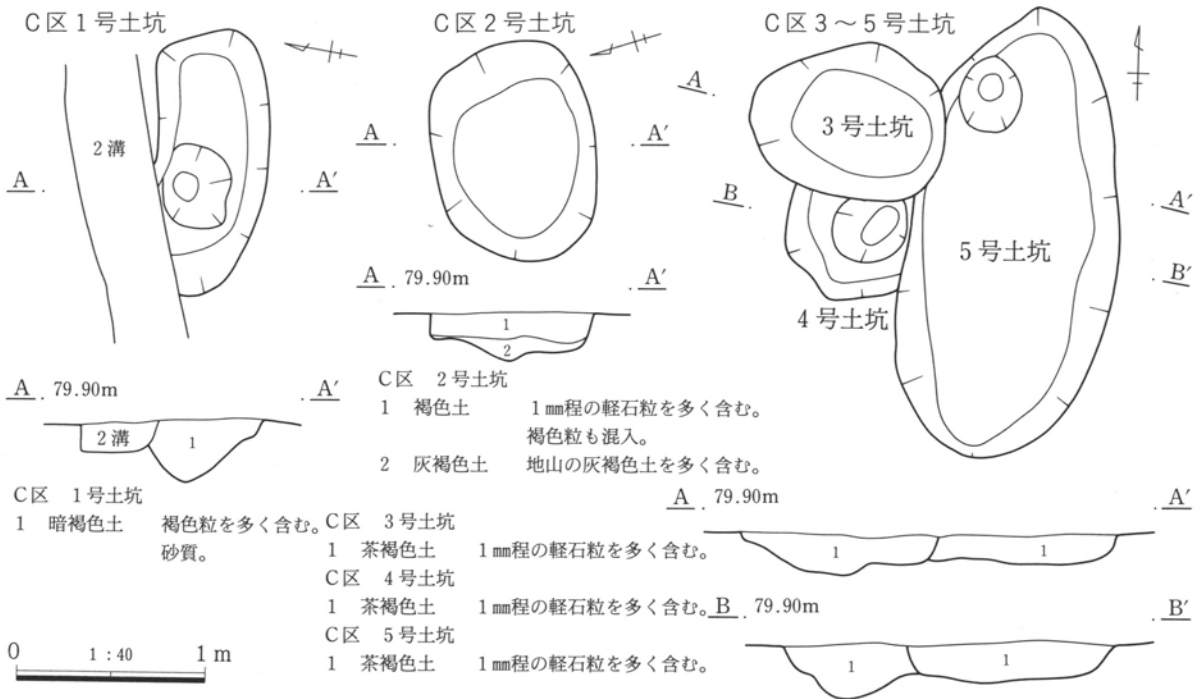
第3章 検出された遺構と遺物



第261図 B区 2～5号土坑、3号土坑出土遺物

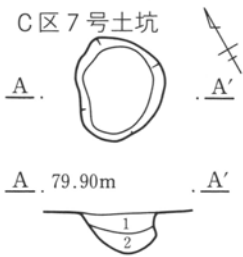
B区 3号土坑

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	肥前青磁 (波佐見) 皿	完形 口径13.3 器高3.5 底径 4.9		①緻密 ②硬質 ③灰白	丸みを帯びて立ち上がる。高台部は直立。蛇の目軸はぎ。



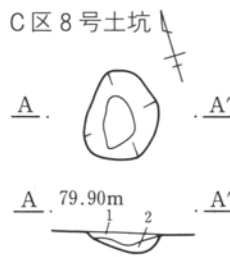
第262図 C区 1～5号土坑

3. 近世以降の遺構と遺物



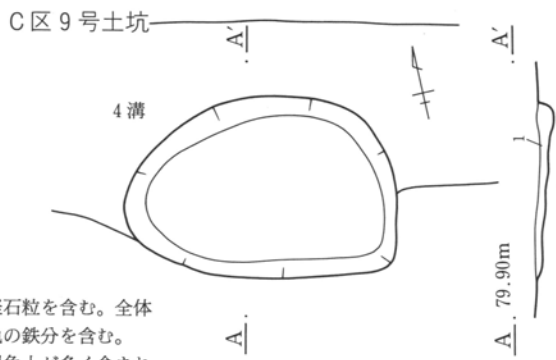
C区 7号土坑

- 1 褐色土 1mm程の軽石粒を含む。全体的に赤褐色の鉄分を含む。
2 暗褐色土 地山の灰褐色土が多く含まれている。



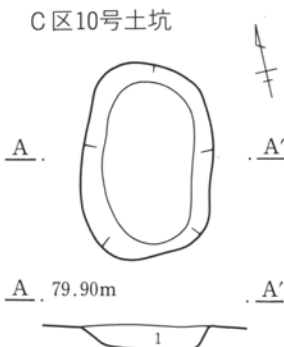
C区 8号土坑

- 1 褐色土 1mm程の軽石粒を含む。全体的に赤褐色の鉄分を含む。
2 暗褐色土 地山の灰褐色土が多く含まれている。



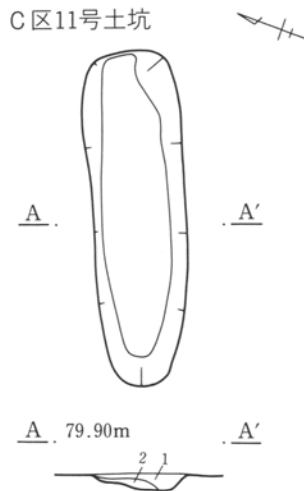
C区 9号土坑

- 1 におい黄褐色土 粒子密。軽石粒を含む。



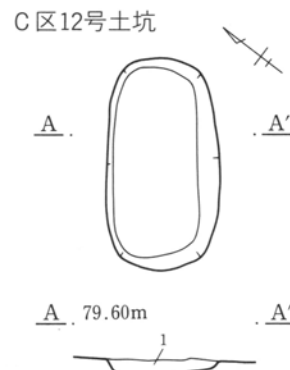
C区 10号土坑

- 1 暗褐色土 褐色ブロックと黒色土が混じったような土。細かい軽石粒も混入。



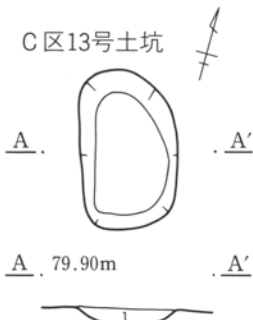
C区 11号土坑

- 1 茶褐色土 細かい軽石粒を多く含む。
2 茶褐色土 地山の明黄褐色土を多く含む。



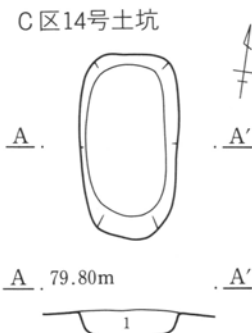
C区 12号土坑

- 1 暗褐色土 1mm程の軽石粒が混入。



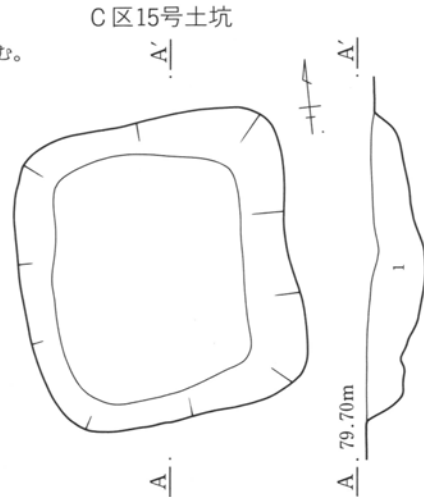
C区 13号土坑

- 1 暗褐色土 褐色土と黒色土の混じり。



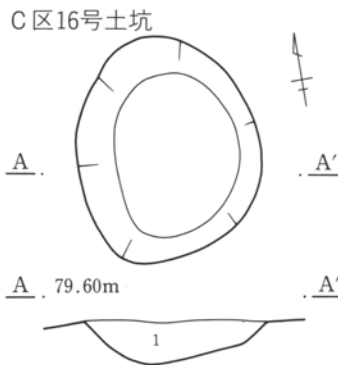
C区 14号土坑

- 1 暗褐色土 細かい軽石粒を多く含む。黄褐色ブロックも含む。



C区 15号土坑

- 1 褐色土 砂質。1mm以下の砂粒を多く含む。鉄分を含む。赤褐色の土をブロック状に含む。



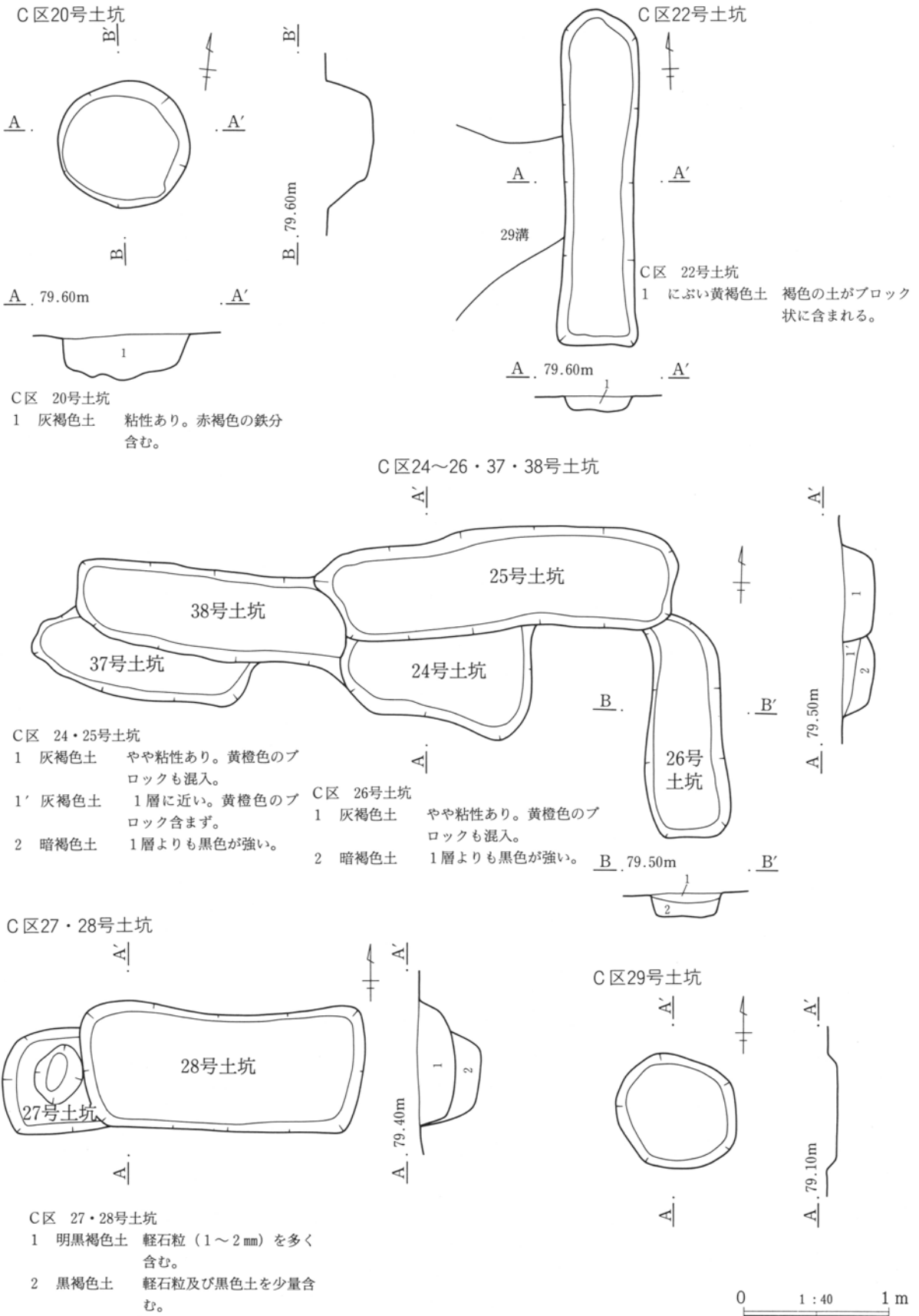
C区 16号土坑

- 1 暗褐色土 1mm以下の白色軽石粒を多く含む。全体に赤褐色の鉄分を多く含んでいる。

0 1:40 1m

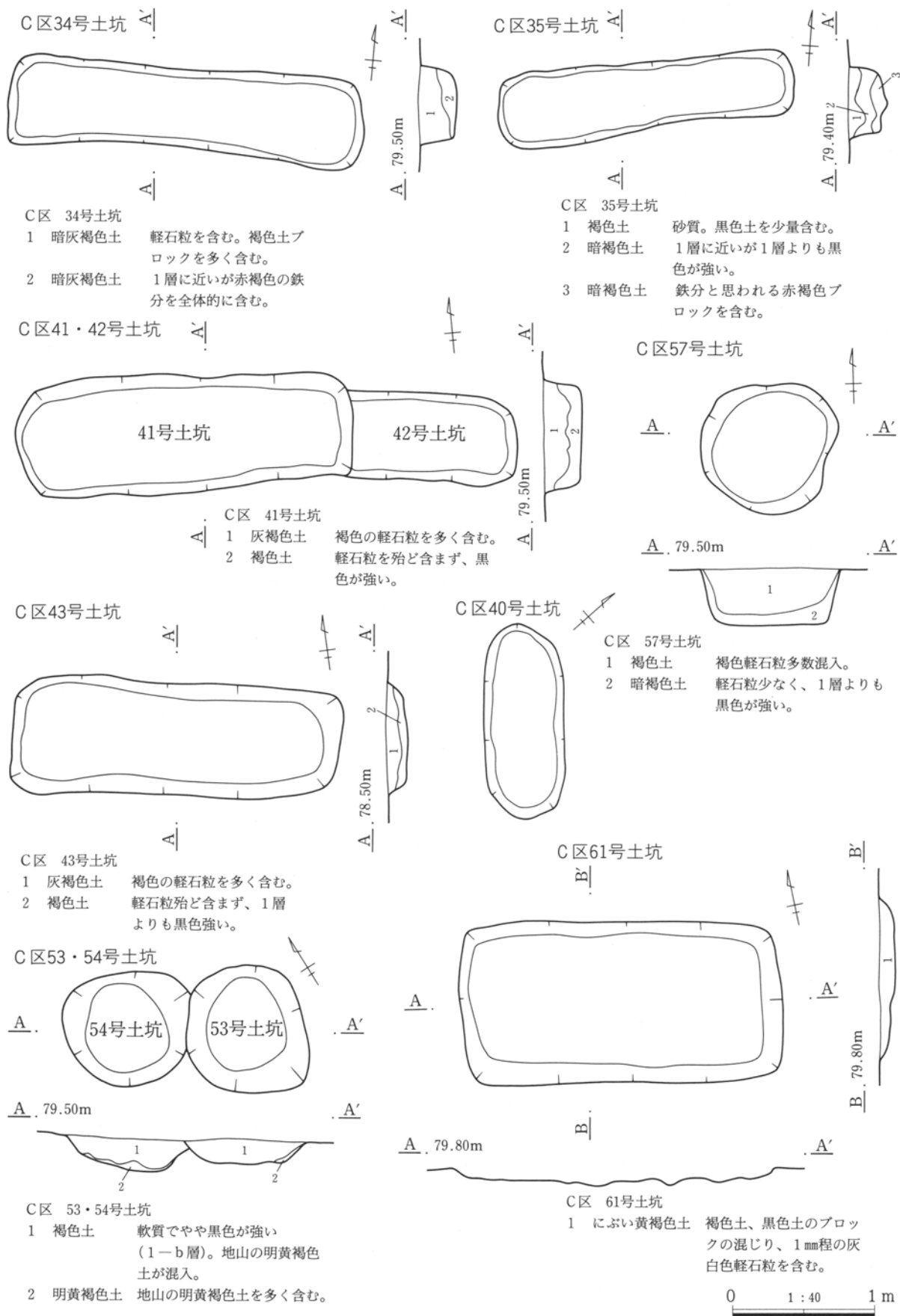
第263図 C区 7~16号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第264図 C区20・22・24~29・37・38号土坑

3. 近世以降の遺構と遺物



第265図 C区34・35・40～43・53・54・57・61号土坑

(4) 道路跡

C区 1号道路跡 (第266図)

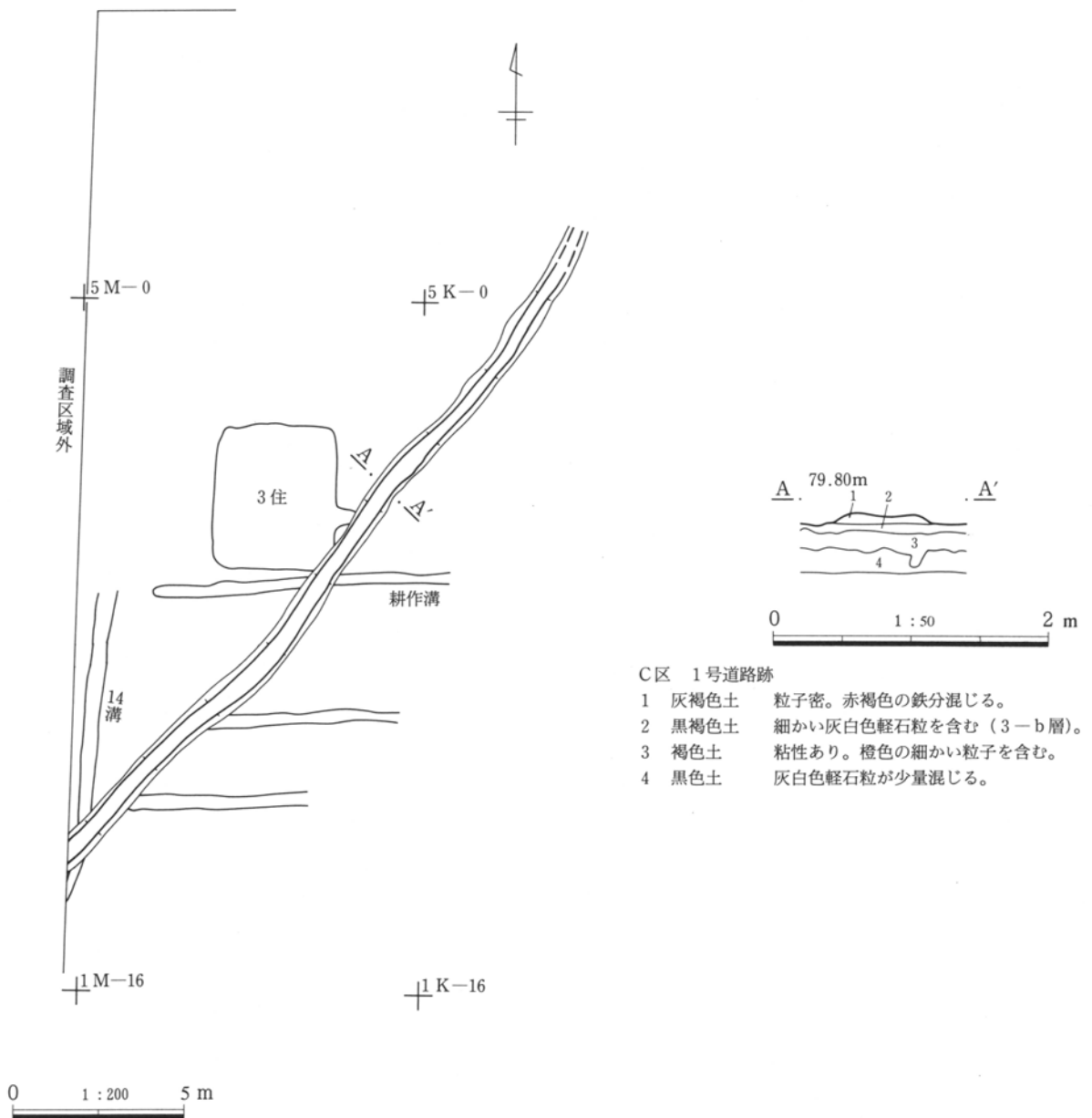
位置 5 J-0 ~ 1 M-16グリッド

重複 As-B下水田面の上で検出された。奈良・平安時代のC区3号住居は下面から検出された。

走向 地形の傾斜から北西から南東の走向と考える。(N-141°-W)。

形態 確認全長は23.6m、最大幅95cmを測る。道路面の土は赤色の鉄分が混じる灰褐色土で、固い面であった。下層にはAs-B軽石粒を多く含む黒褐色土があり。基本土層から近世以降の道路跡と考える。

遺物 遺物なし



第266図 C区1号道路跡

4. 遺構外出土遺物

(1) 弥生時代出土遺物 (第267図 PL161)

A区では、遺物番号1・2のように弥生時代中期後半の竜見町式土器の甕が出土している。また、A区では遺物番号3・4・5のように弥生時代後期の樽式土器の甕が出土している。C区でも、遺物番号6の樽式土器の甕が出土している。これらの遺物は、甕の破片であり、形状が把握できるものはなかった。また、遺物に伴う遺構は、本遺跡では検出されなかった。

(2) 古墳時代出土遺物 (第268～270図 PL161～163)

本遺跡は古墳時代前期の集落と方形周溝墓群が検出されているためか、古墳時代の出土遺物は大変多い。そこで、遺構外出土遺物は、遺存状態のよいものを中心に掲載した。

A区はこの時代の遺構外出土遺物の出土位置をみると、大グリッドの3・4・7区に集中している。これは、古墳時代前期の集落と方形周溝墓群の検出された箇所と符合する。遺物の器種としては、土師器の器台、坏、高坏、壺、甕、須恵器の甕である。壺の中には、遺物番号13のように東海東部の大廓式と思われるものも出土している。甕では遺物番号26のように肩部に横ハケメが巡っているS字状口縁台付甕も出土している。

C区の遺物の出土位置をみると、大グリッドの5区に集中している。ここには古墳時代の溝が数条検出されている所である。遺物の器種としては土師器の鉢、坏、高坏、壺、甕、須恵器の甕であるが、遺物番号40のように朝顔形埴輪の破片も出土している。壺の中には遺物番号9のようにパレススタイル壺も出土している。また、C区の遺物番号33・34・36のような古墳時代中期～後期の坏も出土しているが、本遺跡では、これらの遺物に伴う遺構は検出されなかった。

(3) 奈良・平安時代時代出土遺物 (第271～273図 PL163・164)

奈良・平安時代の遺構外出土遺物は調査区全域のなかで、竪穴住居跡が検出された区域からほとんど出土している。

A区からは、須恵器の皿、坏、埴、遺物番号19・20・22のような灰釉陶器の皿や埴も検出された。

B区からは、須恵器の坏、遺物番号21の灰釉陶器の皿、遺物番号18の須恵器の薬壺蓋が検出された。

C区からは須恵器の皿、蓋、灯明皿、遺物番号23・24の灰釉陶器の皿、埴、遺物番号25・26・27・28の緑釉陶器の埴が出土している。灰釉陶器は奈良・平安時代の竪穴住居跡からも出土しているが、緑釉陶器は本遺跡の遺構から出土していない。

(4) 中世以降出土遺物 (第274・275図 PL164・165)

中近世以降の遺構外出土遺物は、調査区ほぼ全域にわたって出土している。その中で中世の遺物はほとんどなく、A区の遺物番号18・19の銅銭を掲載するにとどまる。

近世以降の遺物は、数多く出土した。その中でも特色があるものを本報告書では掲載した。遺物番号の11は肥前磁器の皿であるが、所々に焼き継ぎの箇所が見られる。また、底部に注文を受けた際のものと思われる号が入っている。未掲載遺物も含めてこれらの遺物は17世紀に遡れるものは少なく、18世紀以降のものがほとんどである。

(5) 石製品 (第276図 PL165)

ここでは、石製品として砥石を掲載した。古墳時代の竪穴住居跡に伴って出土した砥石も遺構編で取り上げたが、ここに掲載された砥石は出土位置および使用された年代がはっきりしないものである。これらの砥石は、打ち欠けて形状のつかみにくいものもあるが、使用痕はよく残っている。砥石の石材はさまざまであった。

(1) 弥生時代出土遺物

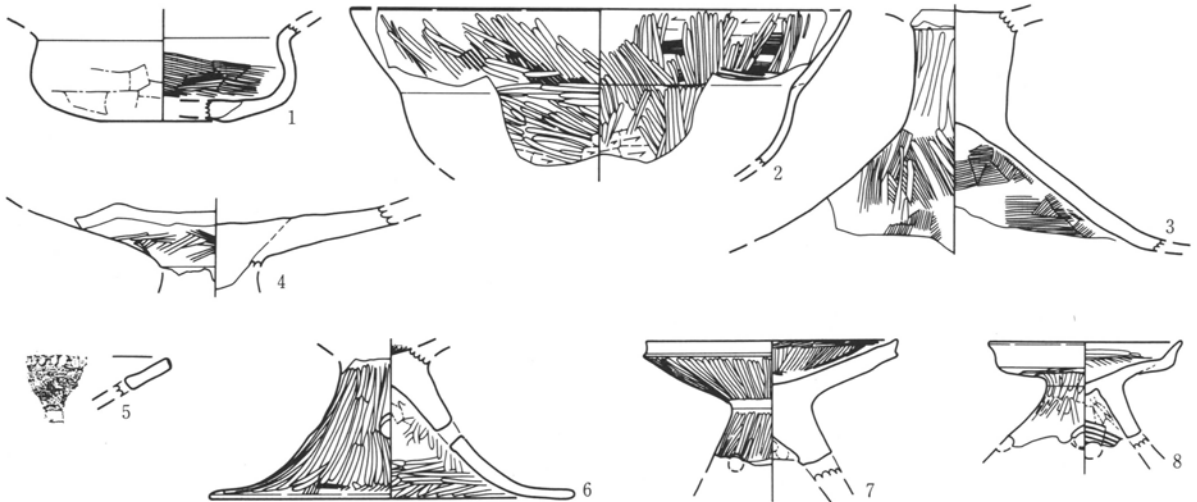


第267図 弥生時代出土遺物

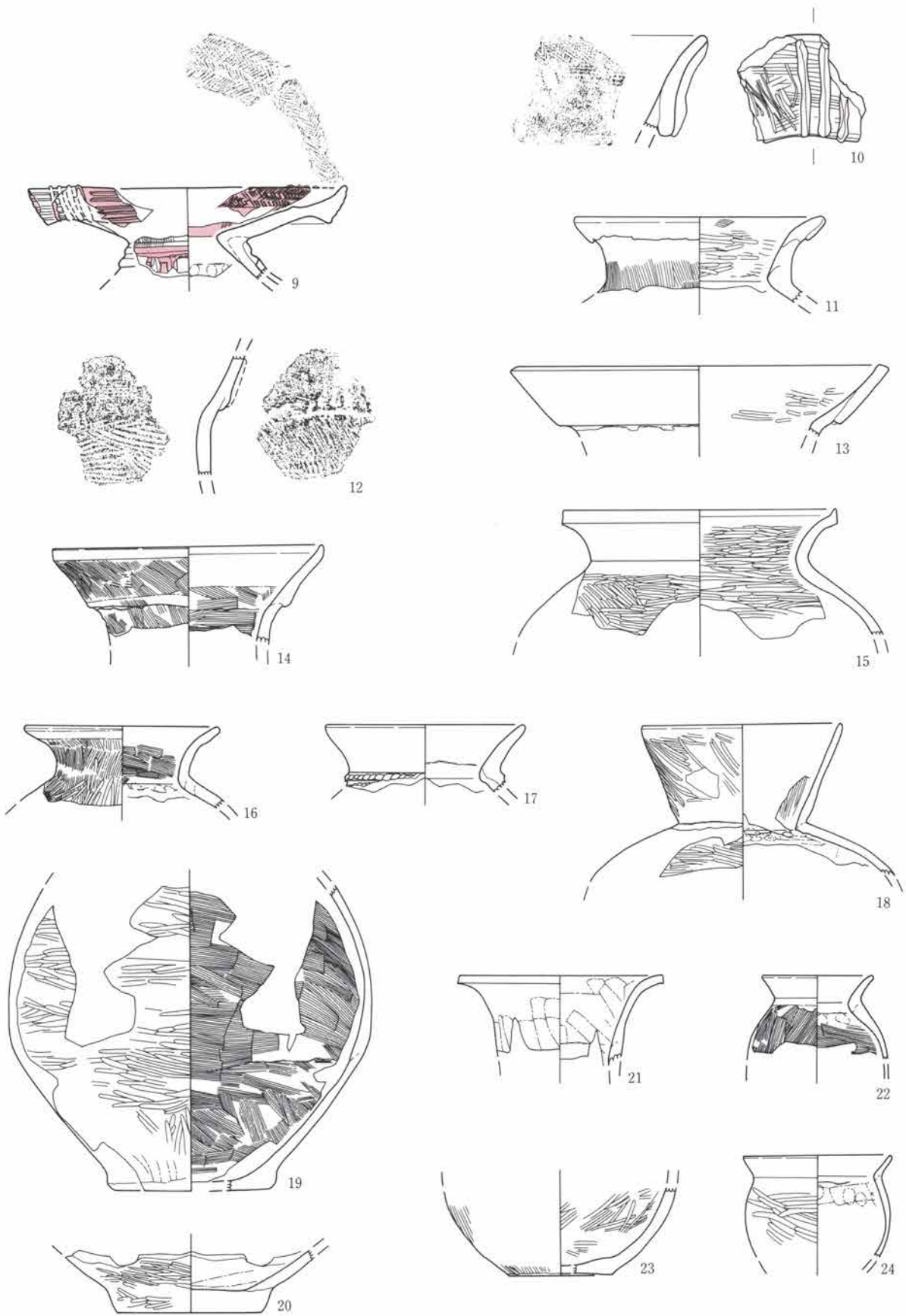
遺構外遺物 (弥生時代)

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	弥生土器甕	頸部片 口径— 器高— 底径—	A区	①輝石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	直立気味の頸部。 外面 横ナデ。列点文。羽状直線文あり。 内面 ナデ。
2	弥生土器甕	胴部片 口径— 器高— 底径—	A区	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みのある胴部。 外面 羽状直線文。 内面
3	弥生土器甕	胴部片 口径— 器高— 底径—	A区 3 L-12	①細砂 角閃石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みのある胴部。 外面 波状文。 内面 篋ナデ後篋磨き。
4	弥生土器甕	頸部片 口径— 器高— 底径—	A区 7 F-2	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	直立気味の頸部。 外面 縦位の波状文。 内面
5	弥生土器甕	胴部片 口径— 器高— 底径—	A区	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みのある胴部。 外面 波状文。 内面 篋ナデ。
6	弥生土器甕	口縁部片 口径— 器高— 底径—	C区 2 A-18	①輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	外反し、端部で折り返す。 外面 波状文。簾状文。 内面

(2) 古墳時代出土遺物

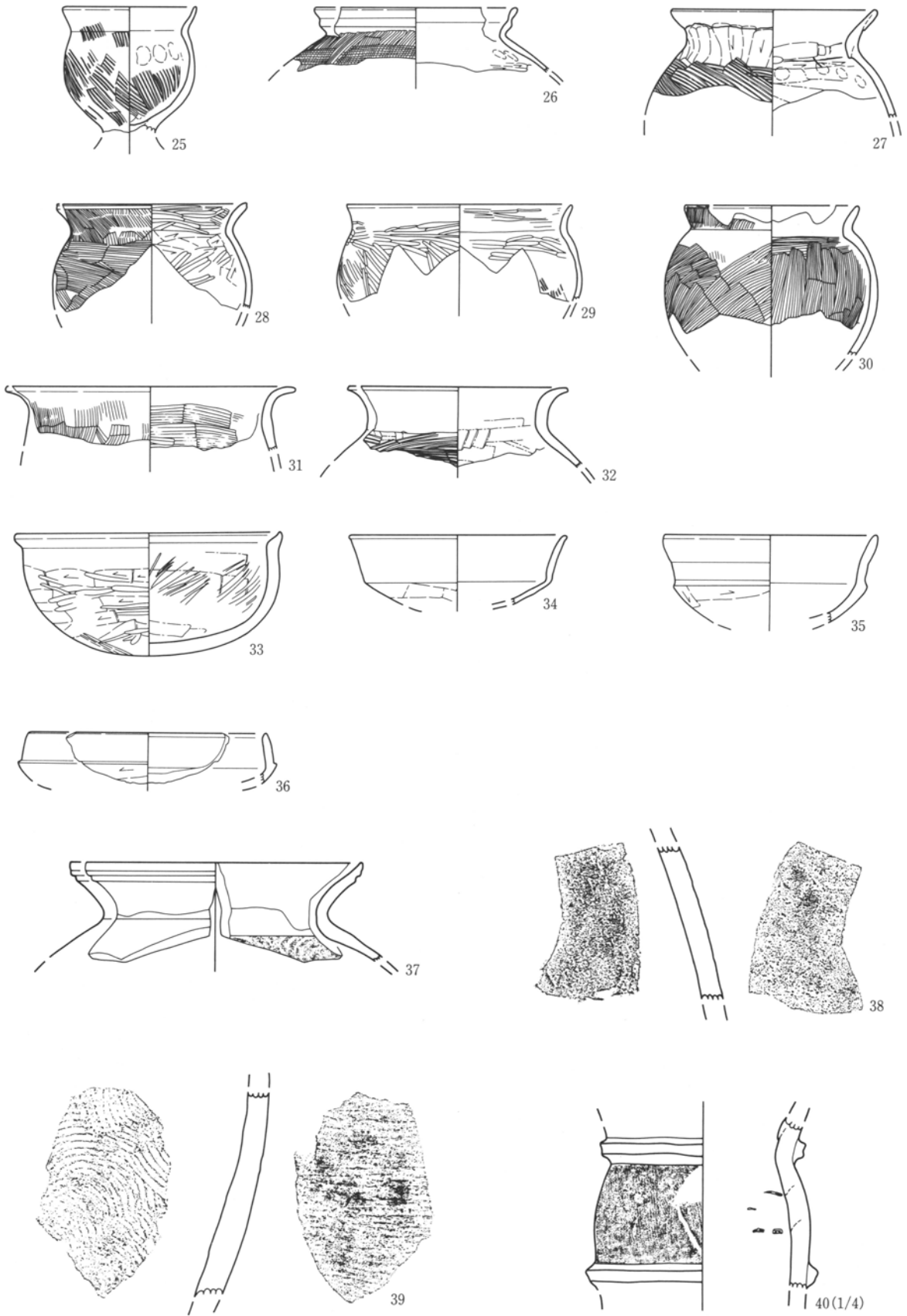


第268図 古墳時代出土遺物(1)



第269図 古墳時代出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第270図 古墳時代出土遺物(3)

遺構外遺物 (古墳時代)

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器鉢	頸～体部 1/3 口径— 器高(3.9) 底径(5.1)	C区 6 H-3	①輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	丸みのある体部から頸部でくの字に屈曲する。 外面 頸部は横ナデ。以下ナデ。 内面 頸部は横ナデ。体部はハケメ。
2	土師器鉢	口～体部 1/5 口径(26.4) 器高(8.3) 底径—	C区 5 T-3	①輝石 粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	丸みのある体部。外反し、端部でやや内湾する口縁。 外面 口縁部はハケメ後横ナデ後篋磨き。体部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁部は篋削り後篋磨き。頸部はハケメ後篋磨き。体部は篋削り後篋磨き。
3	土師器高坏	脚部、裾端部欠 口径— 器高(9.6) 底径—	C区 5 S-0	①石英 輝石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	坏底部から上半は円筒形で下半は裾野を広げるように開く脚部。 外面 脚部上半は篋磨き、下半はハケメ後篋磨き。 内面 ハケメ。
4	土師器高坏	坏底部 口径— 器高(2.2) 底径—	A区 3 O-16	①石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	水平方向に開く坏底部。 外面 篋磨き。赤色塗彩。 内面 器面の荒れが著しい。赤色塗彩。
5	土師器高坏	口縁部 口径— 器高(2.2) 底径—	A区 3 P-14	①石英 緻密 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	直線的に立ち上がる。坏部に円孔あり。 外面 口縁端部に刺突痕あり。 内面
6	土師器高坏	脚部 1/2 口径— 器高(5.7) 底径(5.3)	C区 5 S-0	①石英 細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	裾部が水平に開く脚部。裾端部は丸い。脚部中央に円孔4あり。 外面 篋磨き。 内面 坏底部は黒色処理で篋磨き。脚部上半は篋ナデ。下半は横ナデ後篋磨き。やや黒色を呈する。
7	土師器器台	器受部～脚部上半 口径10.0 器高(5.2) 底径—	A区	①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい褐色	皿状の器受部。口縁端部は外側に面をもつ。脚部に円孔3あり。 外面 口縁は横ナデ。以下篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ後横篋磨き。器受部は放射状篋磨き。脚部はナデ。
8	土師器器台	器受部～脚部上半 口径 7.6 器高(4.2) 底径—	A区 4 H-7	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	皿状の器受部。口縁は外反する。脚部に円孔3あり。 外面 口縁は横ナデ。以下篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。器受部は篋磨き。脚部はナデ。円孔の付近にハケメ痕。
9	土師器パレス壺	口～頸部片 口径(22.3) 器高(6.4) 底径—	C区 5 T-3	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部から大きく外傾する複合口縁。 外面 口縁部に5条の沈線が巡り、4本の棒状付文が貼付。頸部も2条の沈線によって2段の段があり。2本の棒状付文が貼付。頸部にはハケメ痕も見られる。赤色塗彩。 内面 口縁上半は2列の綾杉文が刻まれ、下半は篋磨き。口縁部は赤色塗彩。
10	土師器壺	口縁部片 口径— 器高— 底径—	C区 6 H-2	①白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	3本の棒状付文がつき、外反する折り返し口縁片。 外面 ハケメ後篋磨き 内面
11	土師器壺	口縁部 1/3 口径(17.2) 器高(6.0) 底径—	A区	①輝石 細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③明褐色	くの字に屈曲し、口縁は折り返す。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。 内面 ハケメ後篋磨き。
12	土師器壺	口縁部片 口径— 器高— 底径—	C区 6 A-3	①白色細粒 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	棒状付文がつき外反する口縁片。 外面 棒状付文の上位は横ナデ。下位はハケメ。 内面 上半は横ナデ。下半はハケメ。
13	土師器壺	口縁部 1/6 口径(25.0) 器高(5.0) 底径—	A区	①赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③橙色	大きめな複合口縁。端部は上側に面をもつ。大廓式の壺と思われる。 外面 横ナデか。器面が荒れている。 内面 篋磨き。
14	土師器壺	口縁部 1/4 口径(18.7) 器高(6.8) 底径—	A区	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	外傾し、端部が直立する複合口縁。 外面 口縁端部と頸部と接する部分は横ナデ。他はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。
15	土師器壺	口～肩部 1/3 口径(19.0) 器高(9.0) 底径—	A区	①1～4mmの石 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	頸部からくの字に屈曲する。口縁は外反し、端部で直立する。 外面 口縁～頸部は横ナデ。肩部は篋磨き。 内面 口縁は篋磨き。以下は篋磨き。
16	土師器壺	口縁部 口径13.5 器高(5.7) 底径—	A区 4 H-11	①石英 輝石 2～5mmの石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	くの字に屈曲し、口縁はさらに外反する。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後篋磨き。 内面 口縁端部は横ナデ。頸部はハケメ。
17	土師器壺	口縁部 1/4 口径(13.8) 器高(4.3) 底径—	A区 4 I-10	①軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に屈曲し、口縁端部は丸い。頸部に鎖状の凸帯が2列ある。 外面 器面の荒れが目立つ。 内面 器面の荒れが目立つ。

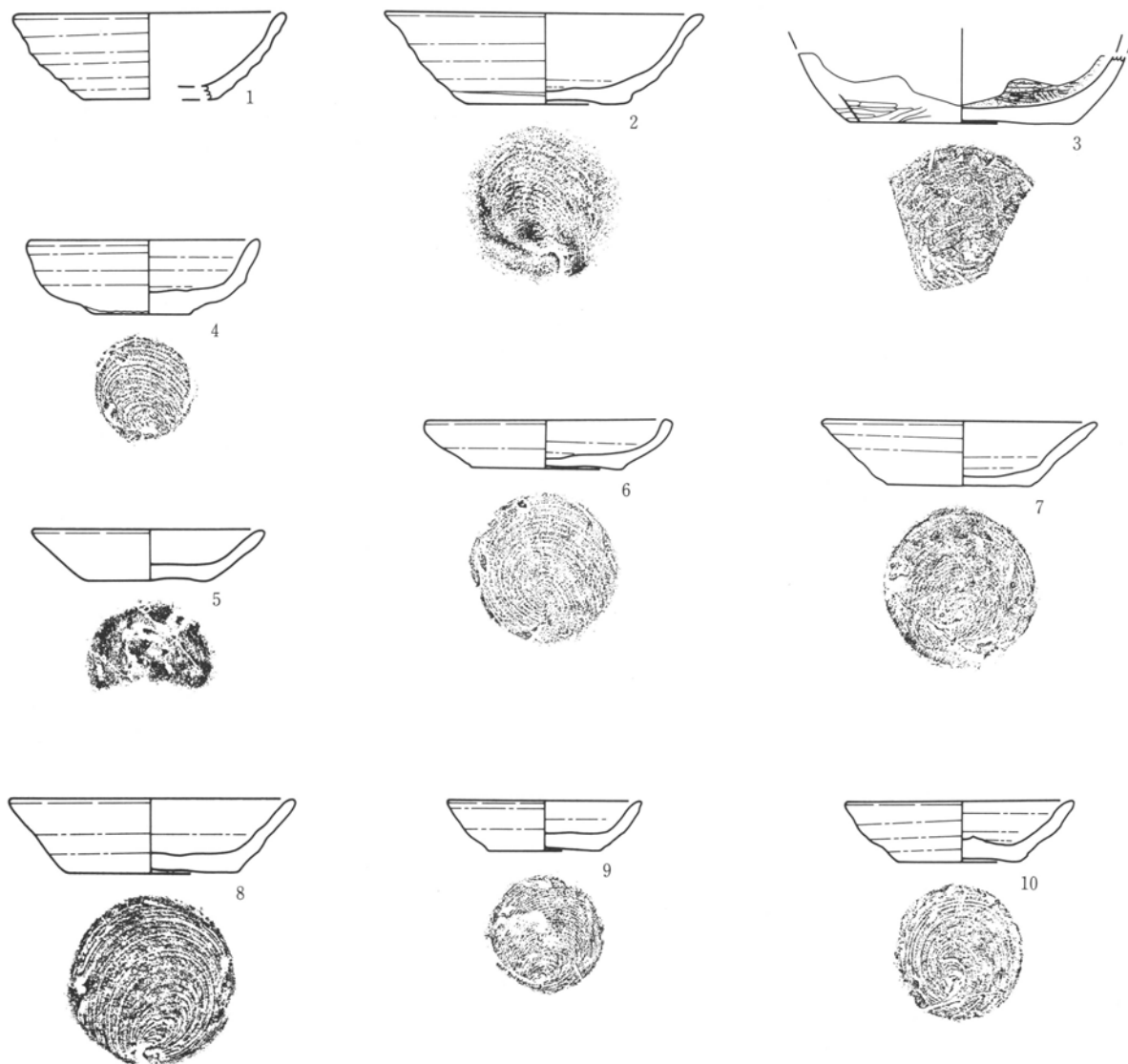
第3章 検出された遺構と遺物

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
18	土師器 壺	口～肩部 2/5 口径(13.8) 器高(10.8) 底径—	A区 4G-16	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直立気味の口縁。 外面 口縁は横ナデ後篋磨き。肩部は篋磨き。 内面 口縁は篋磨き。肩部は篋ナデ。
19	土師器 壺	胴～底部 1/4 口径— 器高(21.5) 底径(11.0)	A区	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	中央部に最大径をもつ丸みのある胴部。 外面 胴部は篋磨き。底部は篋削り後篋磨き。 内面 胴部はハケメ。底部はナデ。
20	土師器 壺	底部 口径— 器高(4.4) 底径10.0	A区 4G-11	①石英 粗砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	底部から丸みを帯びて立ち上がる胴部。 外面 胴部は篋磨き。底部は篋削り後篋磨き。 内面 ナデ。
21	土師器 壺	口縁部 1/2 口径14.2 器高(6.3) 底径—	A区 3O-12	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部は直立し、口縁は外湾する。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。以下ナデ。 内面 口縁端部は横ナデ。以下ナデ。
22	土師器 小型甕	口～胴部上半 1/2 口径(7.9) 器高(5.9) 底径—	A区 4E-16	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字に屈曲し、立ち上がる口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。
23	土師器 壺	胴下半～底部 1/3 口径— 器高(5.0) 底径7.2	A区	①石英、粗砂 ②酸化焰。硬質 ③灰黄色	丸みのある胴部。 外面 胴部は篋磨き。底部はナデか。 内面 篋磨き。
24	土師器 小型甕	口～胴部上半 2/5 口径(10.2) 器高(7.0) 底径—	A区 4E-12	①赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字に屈曲し立ち上がる口縁。丸みのある胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ。肩部はナデ
25	土師器 小型台 付甕	口～胴部 1/3 口径(9.0) 器高(8.6) 底径—	A区 7K-1	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③明褐色	くの字に屈曲し、やや内湾気味に立ち上がる口縁。丸みのある胴部。 外面 口縁は横ナデ。胴部は粗いハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴下半はハケメ。
26	土師器 台付甕	口～肩部 1/3 口径(13.7) 器高(4.2) 底径—	A区 4G-10	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直立気味のS字状口縁。口縁端部は内側に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。肩部は縦ハケメ後横ハケメ。 内面 口縁は横ナデ。肩部は篋削り。
27	土師器 甕	口～胴部上半 口径(14.0) 器高(7.3) 底径—	A区 4G-12	①粗砂 ②酸化焰。硬質 ③にぶい黄橙色	くの字に屈曲し、折り返す口縁。丸みのある胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部は篋削り。胴部上半は粗いハケメ。 内面 口縁は横ナデ。胴上半は篋ナデ。
28	土師器 小型甕	口～胴部上半 1/5 口径(13.0) 器高(7.2) 底径—	C区 2B-19	①粗砂 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	くの字に屈曲し、立ち上がる口縁。端部は外側に面をもつ。 外面 口縁端部は横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁はハケメ後篋磨き。頸部以下は篋削り後篋磨き。
29	土師器 甕	口～胴部上半 1/4 口径(15.2) 器高(6.7) 底径—	A区 4G-11	①輝石 石英 細砂 1 ～2mmの石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	やや直立気味に屈曲し、立ち上がる口縁。ゆがみのある胴部。 外面 口縁は横ナデ後篋磨き。以下は篋磨き。 内面 口縁は横ナデ後篋磨き。頸部は篋磨き。胴部はハケメ後篋磨き。
30	土師器 甕	口～胴部上半 1/3 口径(11.8) 器高(10.3) 底径—	A区 3S-10	①赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	くの字に屈曲し、立ち上がる短めな口縁。丸みのある胴部。 外面 口縁はハケメ後横ナデ。頸部以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部は横ハケメ。胴部は縦ハケメ。
31	土師器 甕	口縁部 1/5 口径(15.0) 器高(5.5) 底径—	C区 5T-3	①粗砂 大粒の石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直立しながら立ち上がり、外湾する口縁。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。 内面 口縁はハケメ後横ナデ。頸部はハケメ。
32	土師器 甕	口縁部 1/5 口径(15.0) 器高(5.5) 底径—	C区 5T-3	①粗砂 大粒の石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	丸みをもって屈曲し、外湾気味の口縁。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。頸部は篋ナデ。
33	土師器 坏	5/6 口径13.5 器高 6.3 丸底	C区	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸い底部から直立気味に立ち上がり口縁は外反する。端部は短く内湾する。 外面 口縁部は横ナデ。体部～底部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁部は横ナデ。体部は篋ナデ後放射状篋磨き。底部はナデ。
34	土師器 坏	口縁部片 口径(11.0) 器高(3.6) 底径—	C区	①緻密 ②酸化焰。硬質 ③橙色	底部に稜をもち、直線的に立ち上がる。 外面 口縁～体部は横ナデ。底部は篋削り。 内面 口縁～体部は横ナデ。
35	土師器 坏	口～体部 1/4 口径(10.8) 器高(4.5) 底径—	A区 7K-1	①赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③橙色	丸底から直立し、さらに外反する口縁。 外面 口縁は横ナデ。以下体部篋削り。 内面 横ナデ。
36	土師器 坏	口縁部 1/6 口径(12.2) 器高(2.6) 底径—	C区	①緻密 ②酸化焰 硬質 ③にぶい赤褐色	丸い底部から体部中位に段をもち、内斜する。 外面 口縁～体部は横ナデ。底部は篋削り。 内面 口縁～体部は横ナデ。

4. 遺構外出土遺物

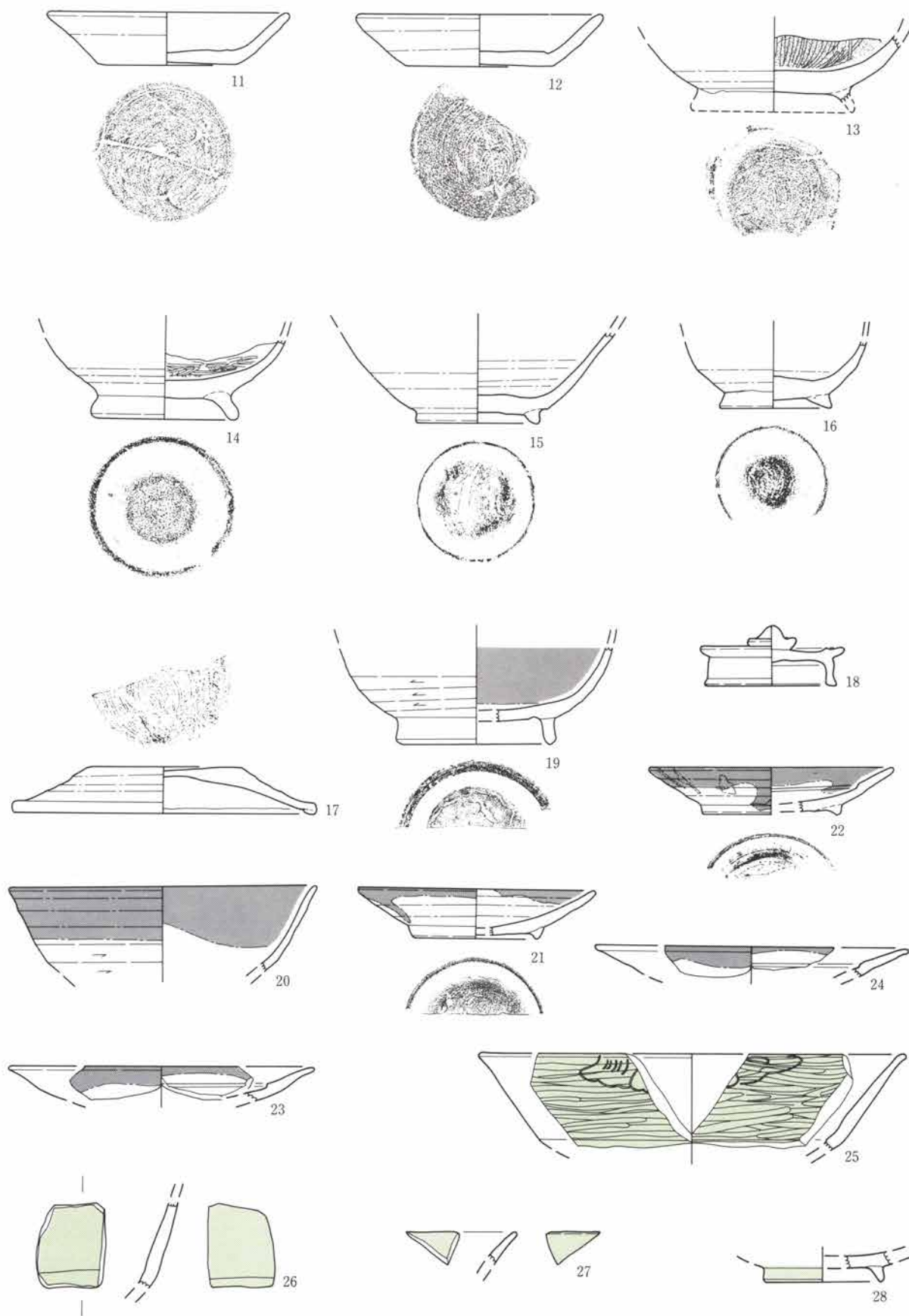
番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
37	須恵器 甕	口～肩部片 口径(19.9) 器高(6.8)底径一	A区	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰色	くの字に屈曲し、立ち上がる口縁。端部は2段になっている。 外面 肩部に自然釉あり。 内面 口縁に自然釉あり。肩部に青海波文。
38	須恵器 甕	胴部片 口径一 器高一 底径一	C区 2 C-16	①細砂 ②還元焰 硬質 ③白灰色	丸みのある胴部。 外面 自然釉が見られる。 内面 アテ目か。
39	須恵器 甕	胴部片 口径一 器高一 底径一	C区	①粗砂 軽石 ②還元焰 硬質 ③白灰色	丸みのある胴部。 外面 タタキ目。 内面 青海波文。
40	朝顔形 埴輪	頸部～肩部片 口径一 器高一 底径一	C区 1 R-15	①赤色細粒 ②酸化焰 硬質 ③橙色	頸部と肩部に2条の突帯をもつ。肩部に円形の透孔あり。粘土紐の接合痕が残る。突帯の断面形状は上稜が下稜に比して突出する。 外面 縦方向のハケメ調整。 内面 器面の荒れが目立つ。ナデ調整か。

(3) 奈良・平安時代出土遺物

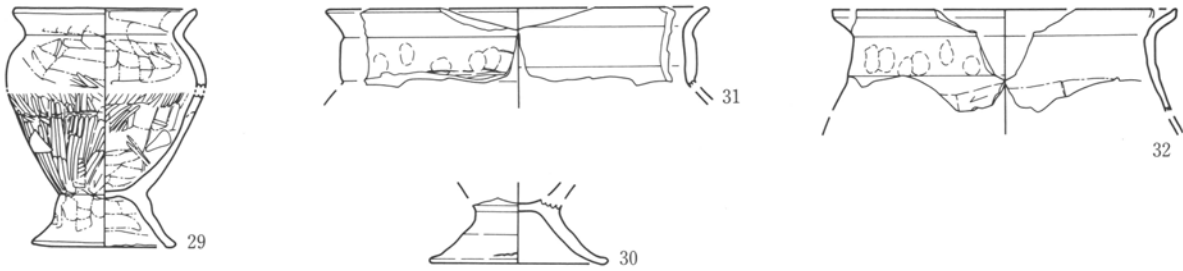


第271図 奈良・平安時代出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第272図 奈良・平安時代出土遺物(2)



第273図 奈良・平安時代出土遺物(3)

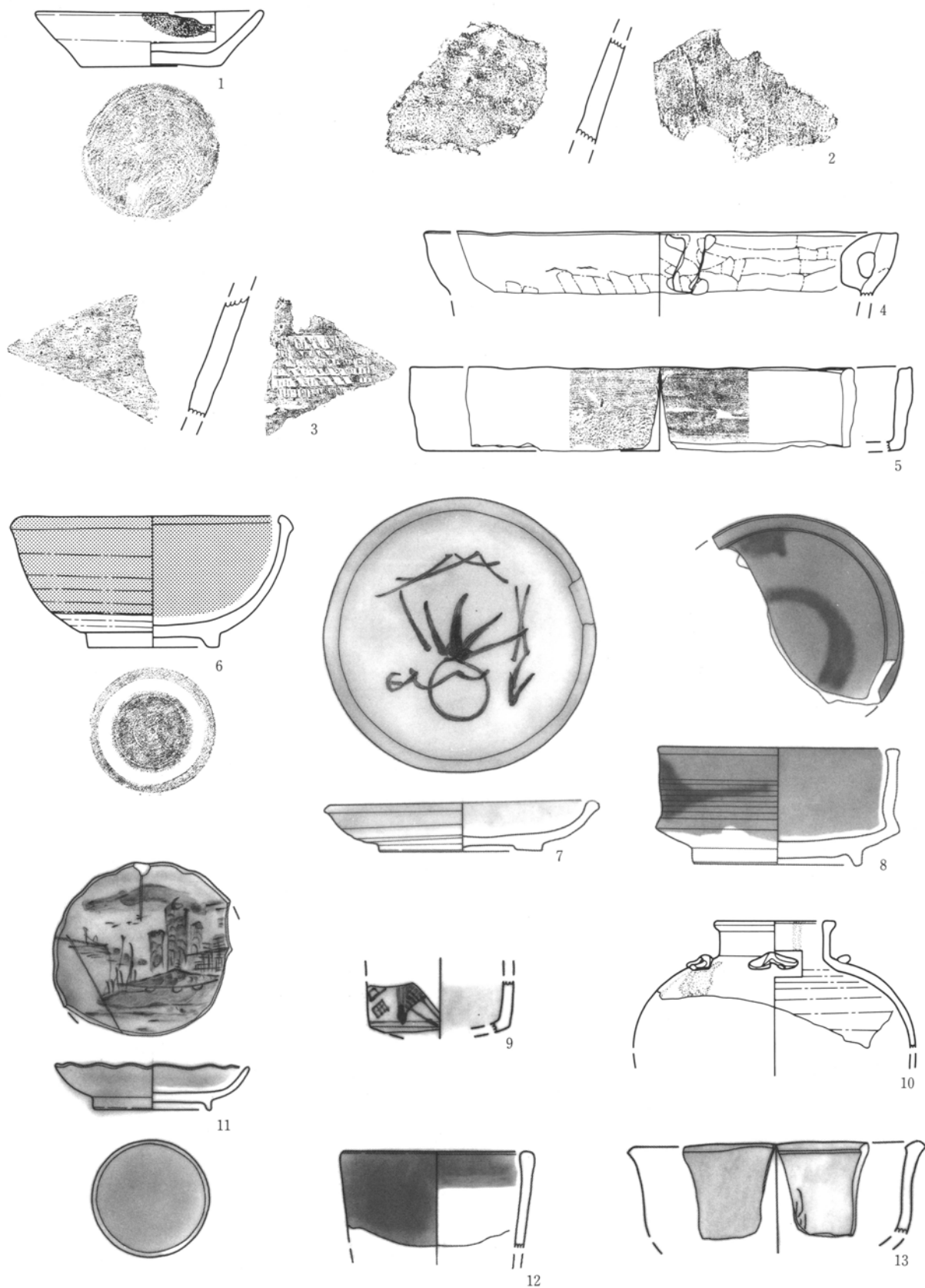
遺構外遺物(奈良・平安時代)

番号	器種	残存量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	口～体部片 口径(11.0) 器高 3.6 底径(5.7)	C区 1 K-15	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰色	腰部が張り、口縁は外反する。 右回転ロクロ成形。
2	須恵器 坏	3/5 口径(13.2) 器高 3.8 底径 6.1	C区 2 C-12	①2～3mmの石雲母 粗砂 ②還元焰 やや軟質 ③浅黄色	腰部が張り、口縁は外反する。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
3	須恵器 坏	体～底部 1/3 口径— 器高(2.8) 底径(4.5)	A区	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部内面は黒色処理で篋磨き調整。底部外面は右回転糸切り後篋磨き。
4	須恵器 皿	3/5 口径(9.4) 器高 3.1 底径3.9	A区	①輝石、細砂 ②酸化焰。硬質 ③にぶい黄橙色	腰部が張り、直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
5	須恵器 灯明皿	1/2 口径9.5 器高2.2 底径4.9	C区 2 A-16	①細砂 軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	直線的に立ち上がる。器面の荒れが著しい。 ロクロ成形。
6	須恵器 坏	2/3 口径10.2 器高 2.2 底径6.1	B区 6 M-3	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直線的に立ち上がり、口縁は内湾する。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
7	須恵器 皿	完形 口径11.2 器高 2.7 底径5.9	A区 3 M-10	①大粒の軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。 左回転ロクロ成形。底部は左回転糸切り。
8	須恵器 皿	ほぼ完形 口径11.6 器高 3.2 底径6.8	A区 3 M-10	①雲母 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。 左回転ロクロ成形。底部は左回転糸切り。
9	須恵器 皿	完形 口径8.0 器高2.0 底径4.8	A区	①軽石 ②酸化焰。硬質 ③にぶい黄橙色	やや丸みを帯びて立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
10	須恵器 皿	ほぼ完形 口径9.3 器高2.5 底径5.2	A区	①軽石 輝石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	直線的に立ち上がり、体部中位でやや内湾し、口縁は外反する。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
11	須恵器 皿	4/5 口径12.5 器高 2.8 底径7.2	A区	①軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。 左回転ロクロ成形。底部は左回転糸切り。
12	須恵器 皿	1/2 口径12.8 器高 2.7 底径7.7	A区	①軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
13	須恵器 碗	体下半～底部 口径— 器高(3.5) 底径—	A区 3 H-10	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	丸みを帯びて立ち上がる。高台部は内外面ともに外傾する。付け高台。底部内面は黒色処理で篋磨き調整。 右回転ロクロ成形。
14	須恵器 碗	体下半～底部 1/3 口径— 器高(4.2) 底径7.4	A区 3 H-14	①輝石、細砂 ②酸化焰。硬質 ③明黄褐色	丸みを帯びて立ち上がる。高台部は内外面ともに外傾する。端部は丸い。付け高台。底部内面は墨が塗られているか? 篋磨き調整。右回転ロクロ成形。

第3章 検出された遺構と遺物

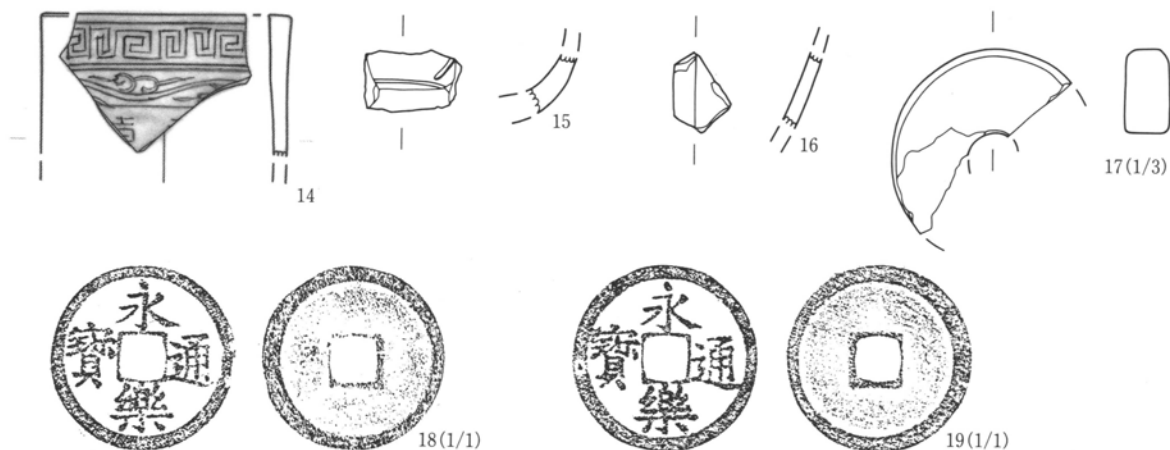
番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
15	須恵器 壺	口唇部欠3/5 口径— 器高(4.7) 底径6.3	C区 1E-18	①細砂 大粒の軽石 ②還元焰 やや軟質 ③白灰色	腰部が張り、体部は直線的に立ち上がる。高台部の断面は三角形に近い。付け高台。 右回転ロクロ成形。
16	須恵器 壺	体部～高台部1/3 口径— 器高(3.5) 底径5.7	C区	①細砂、輝石 ②酸化焰 硬質 ③におい橙色	腰部が張り、体部は直立気味に立ち上がる。高台部の断面は三角形に近い。付け高台 右回転ロクロ成形。
17	須恵器 蓋	2/5 口径(15.6) 器高 2.4 底径—	C区	①1～2mmの石 輝石 ②還元焰 硬質 ③灰色	天井部水平で口縁の方へ外反する。口縁端部は折り返す。つまみはなし。右回転ロクロ成形。天井部は右回転糸切り。
18	須恵器 葉壺蓋	2/3 口径6.6 器高3.1 底径—	B区 2M-13	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰色	天井部水平で段をもち、外側はややつまみ上げるようになっている。つまみは宝珠形に近い。
19	灰釉陶 器 壺	体～底部1/3 口径— 器高(5.0) 底径(8.0)	A区 3C-10	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	丸みを帯びて立ち上がる。高台部は直立気味。端部は丸い。付け高台。右回転ロクロ成形。体～底部は回転篋削り調整。施釉方法は漬け掛け。釉調は乳白色。
20	灰釉陶 器 壺	口縁部片 口径(16.0) 器高(4.5) 底径—	A区 3C-12	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	丸みを帯びて立ち上がり、口縁は外反する。右回転ロクロ成形。体～底部は篋削り調整。施釉方法は漬け掛け。釉調は乳白色。
21	灰釉陶 器高台 付皿	1/3 口径(12.3) 器高 2.5 底径(6.3)	B区 2M-11	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	直線的に立ち上がる。高台部の断面形状は三角形に近い。付け高台。右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉調は乳白色。
22	灰釉陶 器段皿	1/3 口径(12.7) 器高 2.5 底径(7.1)	A区 3E-10	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	直線的に立ち上がる。体部内面中に段をもつ。高台部外面は直立気味、内面は外傾する。付け高台。右回転ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉調は乳白色。
23	灰釉陶 器段皿	口～体部片 口径(15.6) 器高(1.8) 底径—	C区	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	やや丸みを帯びて立ち上がる。口縁部は短く外反する体部内面中に段をもつ。ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉調は乳白色。
24	灰釉陶 器段皿	口～体部片 口径(16.4) 器高(1.8) 底径—	C区	①緻密 ②還元焰 硬質 ③白灰色	直線的に立ち上がる。口縁部は短く外反する。体部内面中に段をもつ。ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉調は乳白色。
25	緑釉陶 器 壺	口～体部1/6 口径(22.2) 器高(5.0) 底径—	C区 1N-14	①緻密 ②やや軟質 ③灰白色	直線的に立ち上がり、口縁は短く外反する。体部下端に段あり。内外面ともに篋磨き調整。口縁部付近に陰刻花文あり。
26	緑釉陶 器 壺	体部片 口径— 器高— 底径—	C区 1P-15	①緻密 ②やや軟質 ③浅黄橙色	直線的に立ち上がる。器面の荒れが著しい。内外面ともに篋磨き調整か。
27	緑釉陶 器 壺	口縁部片 口径(7.0) 器高(1.5) 底径—	C区 1N-14	①緻密 ②やや軟質 ③におい黄橙色	外反する口縁。
28	緑釉陶 器 壺	底～高台部片 口径— 器高(1.5) 底径(6.0)	A区 3E-18	①緻密 ②硬質 ③褐灰色	内外面ともに外傾する高台部。付け高台。釉調は他の3点の緑釉陶器のものより濃い。重ね焼きの痕跡あり。
29	土師器 小型台 付甕	口～肩部片、胴下半 ～上部 口径(9.6) 器高(12.6) 底径 7.5	C区	①軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	くの字に屈曲し、立ち上がる口縁。やや肩の張る胴部。裾部が外湾する上部。 外面 口縁は横ナデ。胴部上半はナデ。下半は篋削り後篋磨き。上部はナデ。裾部は横ナデ。 内面 胴中位は篋ナデ後篋磨き。裾部は横ナデ。他はナデ。
30	土師器 小型台 付甕	脚部 口径— 器高(3.3) 底径(9.4)	C区 1K-15	①細砂 雲母 輝石 ②酸化焰 硬質 ③におい橙色	外湾する脚部。 外面 横ナデ。 内面 横ナデ。
31	土師器 甕	口縁部片 口径(20.0) 器高(5.2) 底径—	C区 1L-14	①細砂 輝石 雲母 ②酸化焰 硬質 ③橙色	肩部から直立し口縁部は外反するコの字状を呈する。 外面 口縁～頸部は横ナデ。 内面 口縁～頸部は横ナデ。
32	土師器 甕	口縁部片 口径(18.1) 器高(5.5) 底径—	C区 1K-15	①細砂 輝石 ②酸化焰 硬質 ③におい橙色	直立気味の頸部。口縁部は外反する。 外面 口縁～頸部は横ナデ。以下篋削り。 内面 口縁～頸部は横ナデ。以下篋ナデ。

(4) 中世以降出土遺物



第274図 中世以降出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第275図 中世以降出土遺物(2)

遺構外遺物 (中世以降)

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	カワラケ皿	口縁部一部欠損 口径11.7 器高2.85 底径 7.2	A区 3 N-9	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直線的に立ち上がる。口縁部外面、対称の位置の内面に煤附着。灯明皿として使用したものか。左回転ロクロ成形。底部は左回転糸切り。
2	焼締陶器(常滑)甕	胴下部片 口径— 器高一 底径—	B区 6 N-2	① ② ③灰白色	直線的に立ち上がる。 外面 ナデ。 内面 ナデ
3	焼締陶器(常滑)甕	胴部片 口径— 器高一 底径—	A区 7 C-0	①細砂 ②還元焰 硬質 ③褐灰色	直線的に立ち上がる。 外面 タタキ目痕、ナデ。 内面 ナデ
4	軟質陶器焙烙	口~体 1/5 口径(32.3) 器高(4.4) 底径—	C区 2 B-11	①細砂 ②硬質 ③黒褐色	外反する口縁。耳が底部に付いていない。 外面 口縁は横ナデ。以下ナデ。 内面 ナデ
5	軟質陶器焙烙	口~体 1/6 口径(34.6) 器高(5.8) 底径—	C区 2 B-11	①細砂 ②硬質 ③黒褐色	直立気味に立ち上がる口縁。
6	陶器(益子?) 小型片口鉢	1/3 口径(13.5) 器高6.8 底径 6.8	A区 3 F-16	① ② ③にぶい黄色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁は内湾する。削り出し高台。施釉。内面に窯道具を使用して重ね焼きをした痕跡あり。左回転ロクロ成形。
7	陶器(益子)皿	完形 口径13.0 器高2.5 底径 8.4	A区 3 O-13	① ② ③にぶい黄橙色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁端部は丸い。削り出し高台。高台の幅が広い。底部外面は回転斫削り調整。施釉。文様はコバルトで描かれる。右回転ロクロ成形。
8	瀬戸・美濃陶器香炉	1/3 口径(12.1) 器高6.0 底径(8.6)	C区 10 N-3	① ② ③にぶい黄橙色	腰部が外に突き出し、体部は直立する。施釉は鉄釉に灰釉または薬灰を流す。
9	瀬戸・美濃陶器筒型碗	体部 1/4 口径— 器高(2.6) 底径—	C区	①緻密 ②不良 ③灰白色	直立する体部。菊の花、菱形、格子の染め付けあり。
10	瀬戸・美濃陶器四耳壺	胴上半部 1/2 口径8.1 器高(8.7) 底径—	A区 3 G-18	① ② ③灰白色	肩が張り口縁部は直立する。肩部に四耳あり。鉄釉が施されている。鉄釉が変色している箇所があるので、二次的な火を受けている可能性あり。また、所々に自然釉と思われる部分あり。
11	肥前磁器(志田)皿	口縁部 2/3 欠損 口径(9.8) 器高2.3 底径 5.9	A区 3 G-18	①緻密 ②硬質 ③灰白色	腰部が張り、直線的に立ち上がる。高台内面はやや外傾する。外形は輪花状。楼閣山水文。所々に焼き継ぎの跡あり。底部に注文を受けた際のものと思われる号あり。
12	肥前青磁香炉または火入れ	口~体部 1/4 口径(9.8) 器高(4.8) 底径—	C区	①緻密 ②硬質 ③灰白色	直立し、口縁はやや内湾する。施釉は外面と内面の口縁部。
13	肥前青磁鉢	口縁部片 口径(14.4) 器高(5.3) 底径—	A区 3 E-16	① ② ③灰白色	直線的に立ち上がり、口縁は外反する。口縁部は所々面取りがしてあり。八角形を意識したものと思われる。内面には染め付けあり。

4. 遺構外出土遺物

番号	器種	残存法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
14	肥前白磁 火入れ	口縁片 口径(9.7)器高(5.5) 底径—	C区	①緻密 ②不良 ③灰白色	直立し、口縁はやや内湾する。外面に素書きの雷門帯あり。また外面文字部は面取りしている。施釉は外面と内面の口縁部。
15	中国青 磁碗	体部片 口径— 器高— 底径—	C区 1 F-12	①緻密 ②不良 ③灰色	丸みを帯びて立ち上がる。龍泉窯系青磁。貫入。内面に文様の一部と思われる刻みあり。
16	中国青 磁碗	体部片 口径— 器高— 底径—	C区 2 G-14	① ② ③灰色	直線的に立ち上がる。内外面施釉。鎊蓮弁文碗。龍泉窯系青磁。
17	磁器 戸車	1/3 縦(7.3) 横(7.1) 厚さ1.8	A区 8 C-0	① ② ③白色	施釉された外面が良く磨れている。
18	銅銭	完形 外径2.48 孔径0.50 厚さ1.05~1.26 重さ3.17	A区 2 Q-13		「永樂通寶」。初鑄年 明 1408年。
19	銅銭	完形 外径2.50~2.51 孔径0.50 厚さ1.21 ~1.37 重さ3.56	A区 2 Q-13		「永樂通寶」。初鑄年 明 1408年。

(5) 石製品



第276図 石製品

第3章 検出された遺構と遺物

遺構外遺物（石製品）

番号	器種	残存 法 量(cm・g)	出土位置	①胎土②焼成③色調 (石 材)	器形・整形・文様の特徴
1	石製品 砥石	ほぼ完形 長さ11.0 幅 3.3 厚さ 2.7 重さ 172	A区	流紋岩	四角柱のような形状。使用面は5面。そのうち1面は砥ぎ減り目立つ。他は平滑。4条の深くて太い擦痕あり。
2	石製品 砥石	長さ(7.2) 幅 (3.6) 厚さ(1.3) 重さ 32	A区	珪質粘板岩	打ち欠けている箇所多く、形状不明。使用面は2面。浅い、直線状の擦痕あり。
3	石製品 砥石	長さ(5.6) 幅 3.3 厚さ 3.1 重さ 27	A区	軽石	形状は三角柱に近い。使用面は4面。深い擦痕は認められず。
4	石製品 砥石	ほぼ完形 長さ(9.4) 幅 3.9 厚さ 2.6 重さ 117	A区	変質デイサイト	四角柱のような形状。使用面は4面。使用面全体に砥ぎ減り目立ち、撥状をしている。
5	石製品 砥石	長さ(9.4) 幅 4.8 厚さ 3.1 重さ 27	C区	流紋岩	円柱を割ったような形状。使用面は4面。そのうち1面は砥ぎ減り目立つ。他は平滑。
6	石製品 砥石	1/3 長さ5.9 幅 2.7 厚さ2.2 重さ 35	C区 5L-4	砥沢石	欠損部が目立ち、形状が把握出来ない。使用面として2面あり。いずれも直線上の擦痕目立つ。

5. D区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

D区 1号住居跡 (第277・278図 PL167・174)

位置 6P-2グリッド

重複 なし

形状 南東コーナー部を攪乱によって壊されている。南北方向を長軸にもつ長方形である。東西2.46m、南北3.22m。北壁の一部を除いて幅20cm深さ16cmの周溝が巡る。

面積 8.15m²

方位 N-96°-E

床面 全体的に残りが悪い。残りの良いところで10cm掘り込んで床面になる。床高79.38mを測る。床面

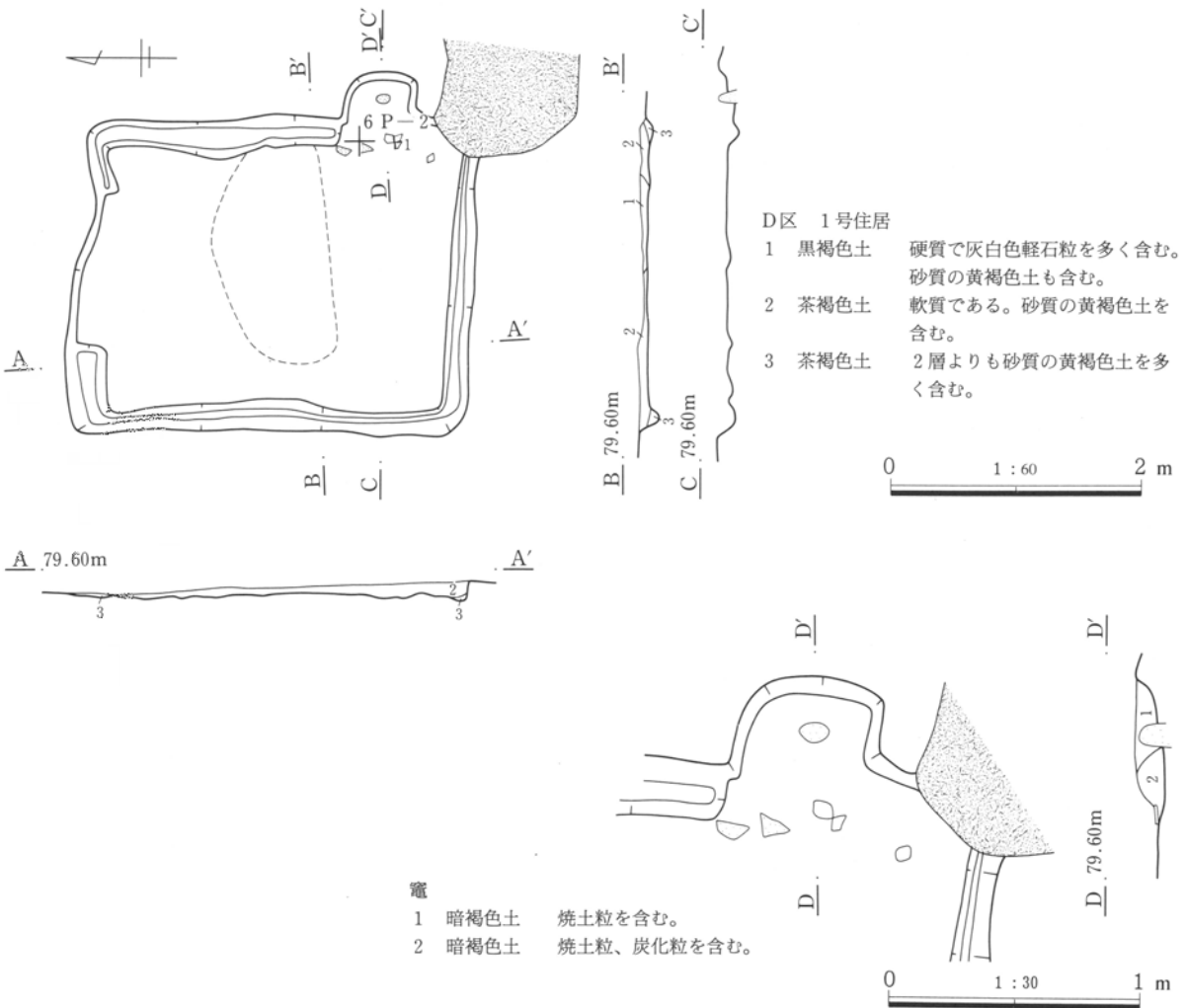
は黄褐色砂質土を主体に黒褐色土が混じる土で造られている。中央部に固い床面が検出された。

柱穴 なし

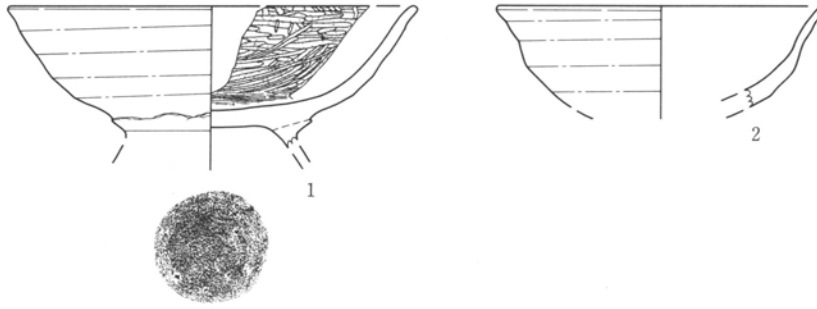
貯蔵穴 なし

竈 東壁の南寄りに造られている。燃烧部に支脚石出土。竈の残存が悪く、焼土もあまり見られない。竈前から塊片、甕片が出土。左袖前から石が2個見つかっており、袖石に使用された可能性が高い。煙道方向53cm、両袖方向48cmを測る。

遺物 須恵器塊が出土している。



第277図 D区1号住居跡、竈



第278図 D区1号住居跡出土遺物

D区 1号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の 特徴
1	須恵器 埴	1/4、高台欠 口径(16.0) 器高(5.1) 底径—	床直	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③明黄褐色	丸みを帯びて立ち上がる体部。口縁は外反。付け高台。ロクロ成形。 外面 体部外面に黒色塗彩か? 内面 体部内面は黒色処理、篋磨き。
2	須恵器 埴	口~体部1/4 口径(12.8) 器高(4.0) 底径—	覆土	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	丸みを帯びて立ち上がり、体部上半から外反する。 ロクロ成形。

D区 2号住居跡 (第279・280図 PL167・174)

位置 6Q-2グリッド

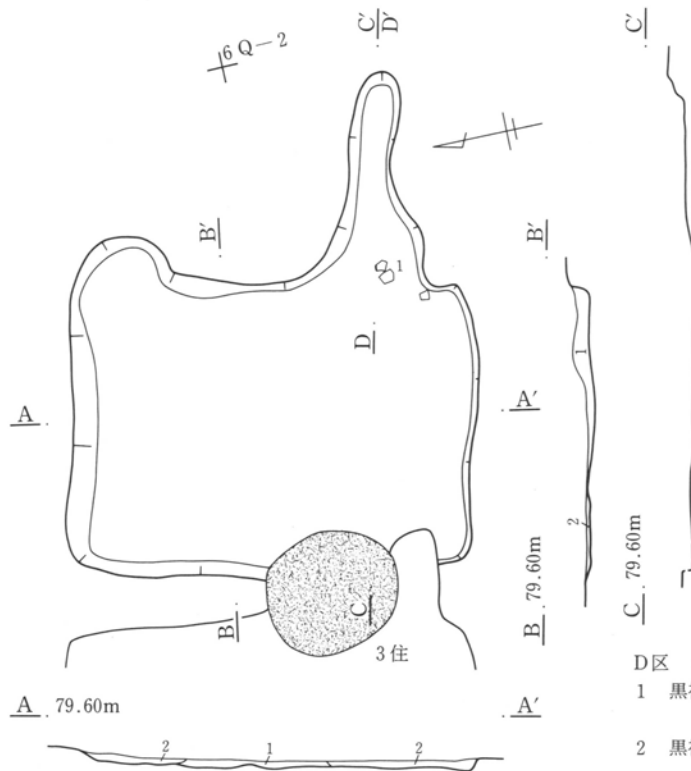
重複 平安時代のD区3号住居に南西コーナー部を掘り込まれている。

形状 南西部分で円形の攪乱に掘り込まれている箇

所がある。南北方向を長軸にもち、ほぼ長方形である。北東部に張り出している部分あり。東西2.32m、南北3.18m。周溝は見つからなかった。

面積 8.4㎡

方位 N-104°-E



床面 住居の残りがあまり良くない。残りの良いところで9cm掘り込んで床面になる。床高79.20mを測る。床面は砂質の黄褐色土を主体に造られていて、あまり締まりが良くない。特に固い箇所も見つからなかった。

柱穴 なし

貯蔵穴 なし

竈 東壁の南寄りに造られている。煙道部が長く、煙道方向182cm、両袖方向56cmを測る。焼土の量はあまり多くない。竈前から羽釜が出土。

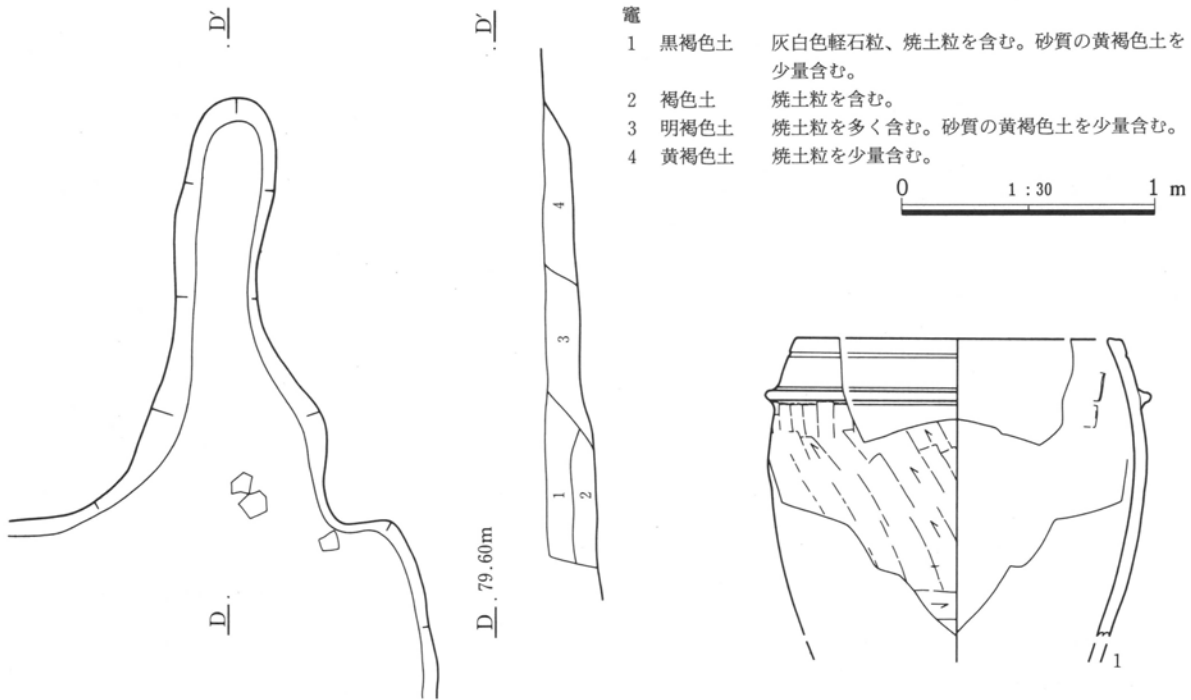
遺物 羽釜が出土している。

D区 2号住居

- 1 黒褐色土 灰白色軽石粒を均一に含む。砂質の黄褐色土も含む。
- 2 黒褐色土 1層よりも黄褐色土を多く含む。

第279図 D区2号住居跡

5. D区の遺構と遺物



- 竈
- 1 黒褐色土 灰白色軽石粒、焼土粒を含む。砂質の黄褐色土を少量含む。
 - 2 褐色土 焼土粒を含む。
 - 3 明褐色土 焼土粒を多く含む。砂質の黄褐色土を少量含む。
 - 4 黄褐色土 焼土粒を少量含む。

0 1 : 30 1 m

第280図 D区2号住居跡竈、出土遺物

D区 2号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	羽釜	口～胴上半1/8 口径(17.2) 器高(15.7) 底径—	床直	①粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	長めの胴部。口縁は内傾する。罎の断面は三角形に近く、小さい。 外面 口縁端部から罎まで横ナデ。胴部は篋削り。 内面 口縁は横ナデ。以下は篋ナデ。

D区 3号住居跡 (第281図 PL167・168・174)

位置 6R-2グリッド

重複 平安時代のD区2号住居を本住居の竈部分が掘り込んでいる。また、D区4号住居を掘り込んでいる。北西コーナー部を平安時代のD区2号溝が掘り込んでいる。

形状 南西コーナー部を攪乱に掘り込まれている。また、竈の左袖付近も攪乱に掘り込まれている。南北方向を長軸にもつ長方形である。東西2.74m、南北3.50m。

面積 9.35㎡

方位 N-113°-E

床面 住居の残りが良くなく、8cm程掘り込むと床面になってしまう。床高79.13mを測る。床面は黄褐色砂質土を主とし黒褐色土を含む土で造られている。床面の北西部は風倒木の上に造られていて、他の床面よりも黒色が強い。固い箇所はなく、締め

がみられない床面である。

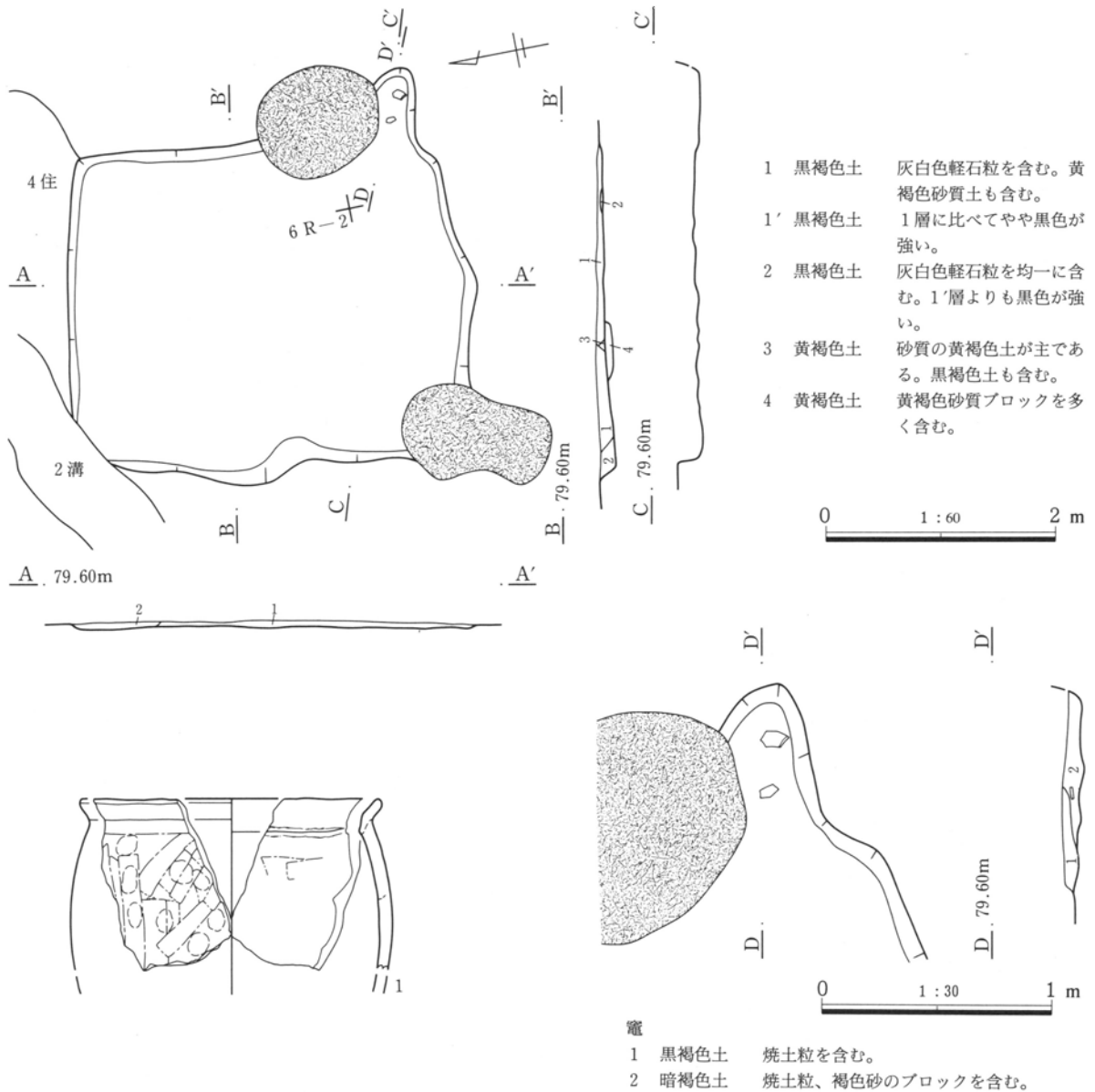
柱穴 なし

貯蔵穴 なし

竈 東壁の南寄りに造られている。攪乱のために残りが良くない。竈内から甕片が出土している。煙道方向60cm、両袖方向は攪乱によって壊されているため計測できなかった。

遺物 土釜が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物



第281図 D区3号住居跡、竈、出土遺物

D区 3号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 土釜	口～胴部 1/8 口径(17.4) 器高(9.9) 底径—	+12	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③淡黄色	丸みのある胴部。口縁は短く、外反する。端部は丸い。 外面 口縁は横ナデ。胴部は指頭痕が残る、粗雑なナデ。 内面 口縁は横ナデ。以下はナデ。

D区 4号住居跡 (第282図 PL168)

位置 6R-2グリッド

重複 本住居の北から北西部にかけて、平安時代の2号溝に掘り込まれている。また、南側は平安時代のD区3号住居に掘り込まれている。

形状 竈付近しかはつきりせず、形状は不明である。

東西方向、南北方向いずれも計測不可。周溝も不明。

面積 (2.50) m²

方位 N-103°-E

床面 全体的に削平されていて、竈と床面の一部しか残っていなかった。床高79.27mを測る。床面は

5. D区の遺構と遺物

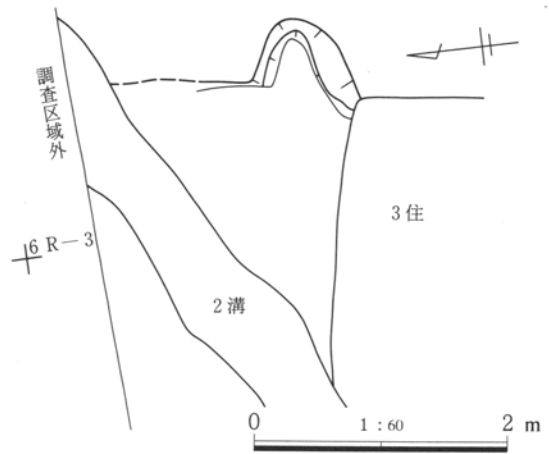
黄褐色砂質土と黒色土で造られている。竈の前がやや締まっていた。

柱穴 不明

貯蔵穴 不明

竈 残りが悪い。東壁に造られている。煙道方向55cm、両袖方向42cmを測る。

遺物 なし



第282図 D区4号住居跡

はない。攪乱が中央部から西壁にかけて床面も掘り込んでいる。

柱穴 なし

貯蔵穴 なし

竈 東壁の南端に造られている。焼土の残りが良い。竈内から支脚石に使用したと思われる石、羽釜片などが出土している。煙道方向103cm、両袖方向38cmを測る。

遺物 須恵器皿、壺、ほぼ完形の壺、羽釜、男瓦が出土している。

D区 5号住居跡(第283・284図 PL168・169・174)

位置 7A-1グリッド

重複 重複なし

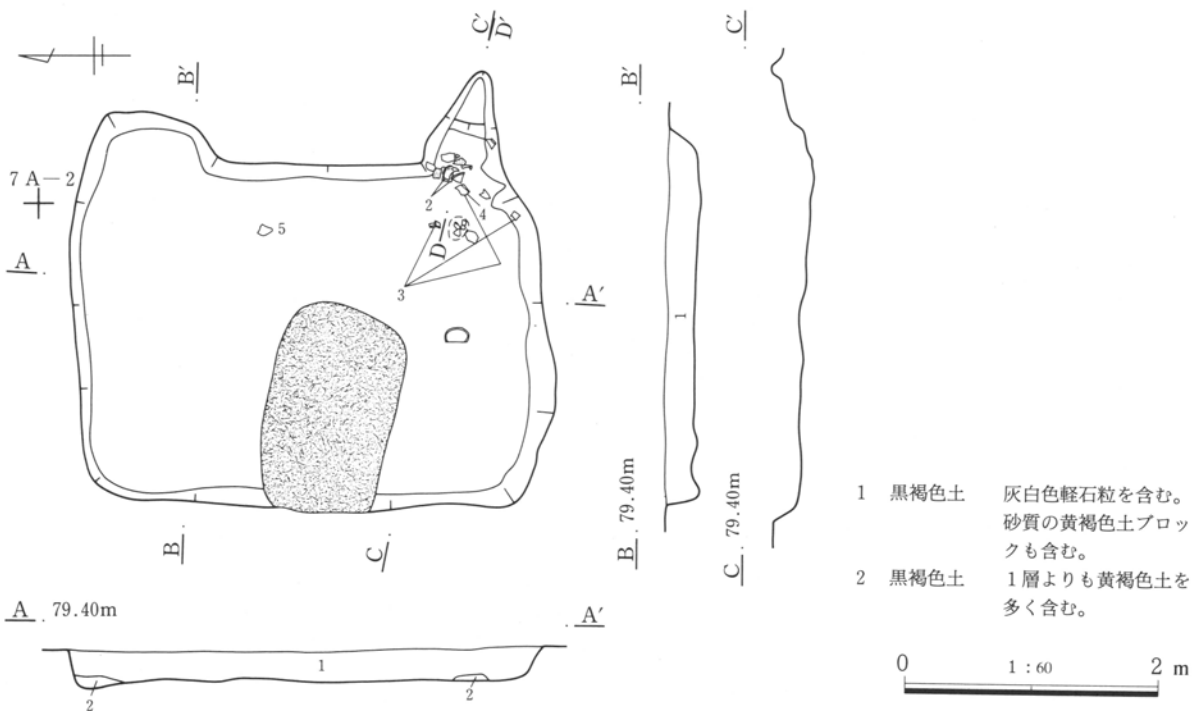
形状 本住居の中央部から西壁に懸けて攪乱が掘り込んでいる。南北方向を長軸にもつ長方形である。

D区2号住居と同じように北東部に張り出した箇所あり。東西2.70m、南北3.74m。周溝はなかった。

面積 10.55m²

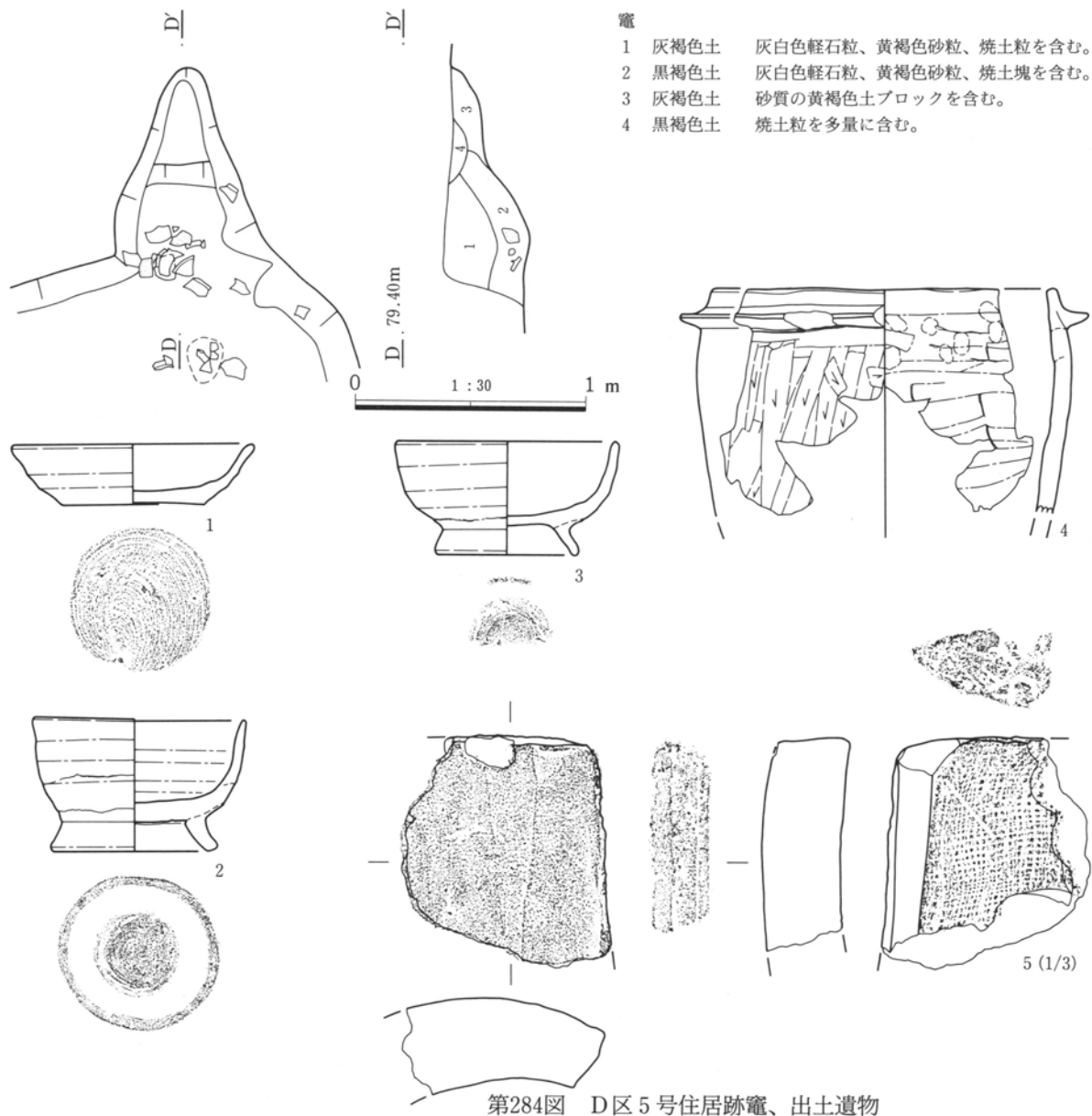
方位 N-91°-E

床面 残りの良いところで20cm掘り込んで床面になる。床高は78.94mを測る。床面は黄褐色砂質土と黒色土が混入した土で造られている。全体的に締まり



第283図 D区5号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 竈
- 1 灰褐色土 灰白色軽石粒、黄褐色砂粒、焼土粒を含む。
 - 2 黒褐色土 灰白色軽石粒、黄褐色砂粒、焼土塊を含む。
 - 3 灰褐色土 砂質の黄褐色土ブロックを含む。
 - 4 黒褐色土 焼土粒を多量に含む。

第284図 D区5号住居跡竈、出土遺物

D区 5号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	3/5 口径(10.4) 器高 2.6 底径 6.2	覆土	①輝石 軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③明赤褐色	腰部に丸みをもつ。体部上半から直線的に立ち上がる。 右回転ロクロ成形。底部は右回転糸切り。
2	須恵器 塊	ほぼ完形 口径 9.2 器高 5.7 底径 6.7	床直	①細砂 石英 3mmの石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	体部がほぼ垂直に立ち上がる。口縁端部に近づくほど薄くなる。 ロクロ成形。付け高台。高台の内外面は横ナデ。底部は糸切り後 ナデ調整。
3	須恵器 塊	1/5 口径(9.4) 器高 4.9 底径(6.0)	床直	①輝石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	厚手の体部が直上方向に立ち上がる。 ロクロ成形。付け高台。高台の内外面は横ナデ。
4	羽釜	口~胴部 1/5 口径(19.6) 器高(13.1) 底径—	竈	①細砂 石英 輝石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	厚手の胴部。口縁はやや内傾する。鏝の断面は三角形で端部は上 方に反る。 外面 口縁部~鏝は横ナデ。鏝下部に篋押え痕あり。胴部は篋削り 内面 口縁は横ナデ。以下粗雑な横ナデ。
5	瓦 男瓦	破片 縦(9.9)横(7.6) 厚さ(3.9)	床直	①細砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄褐色	作りは半截。成形は縦ナデ。布目は並。狭端面と側部に面あり。 D区6号住居の5の瓦と同一の可能性あり。

D区 6号住居跡 (第285・286図 PL169・170・174)

位置 7B-1グリッド

重複 なし

形状 東西方向を長軸にもつ長方形である。東西3.82m、南北2.70m。周溝はなかった。

面積 10.81m²

方位 N-86°-E

床面 残りの良いところで28cm掘り込んで床面になる。床高78.89mを測る。床面は黄褐色砂質土と黒色土が混入した土で造られている。全体的に締まりは

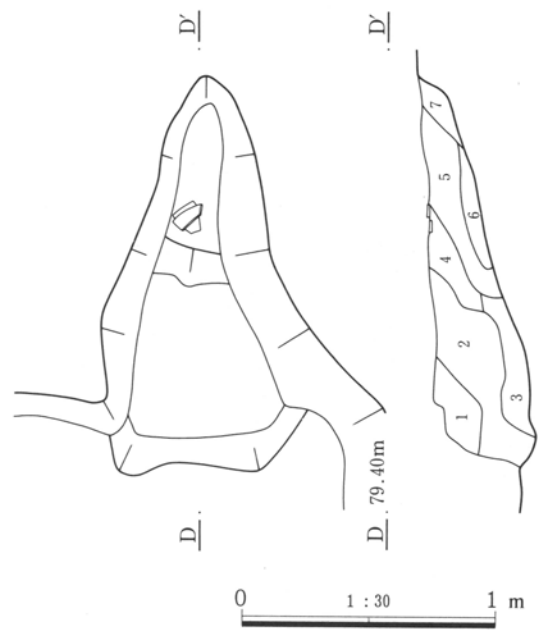
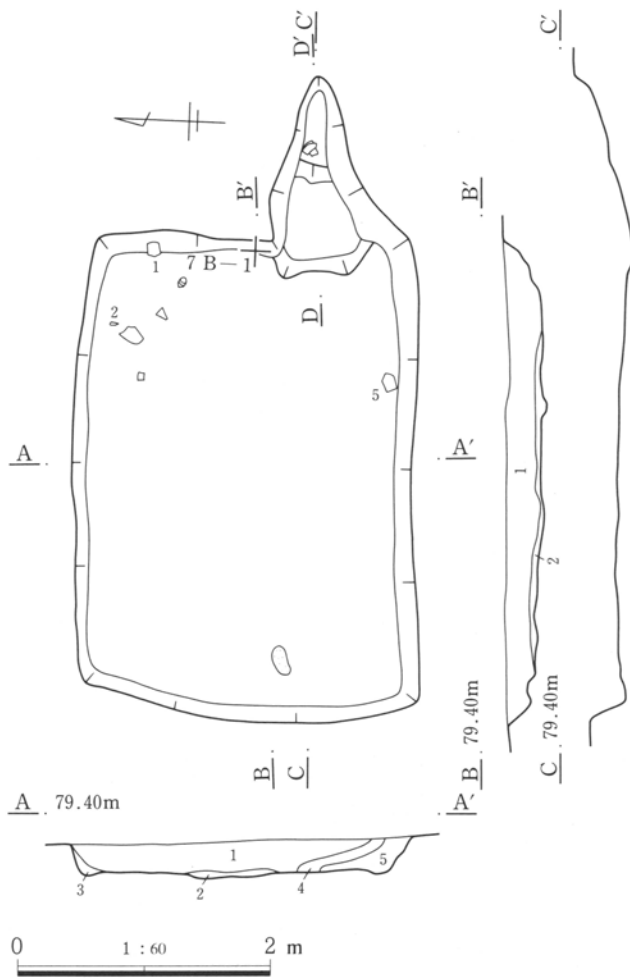
なく、固い箇所は見られなかった。

柱穴 なし

貯蔵穴 なし

竈 東壁の南端に造られている。焼土の残りも良い。竈内から甕片が出土している。煙道方向153cm、両袖方向62cmを測る。

遺物 灰釉陶器壺、羽釜、土錘、男瓦が出土している。



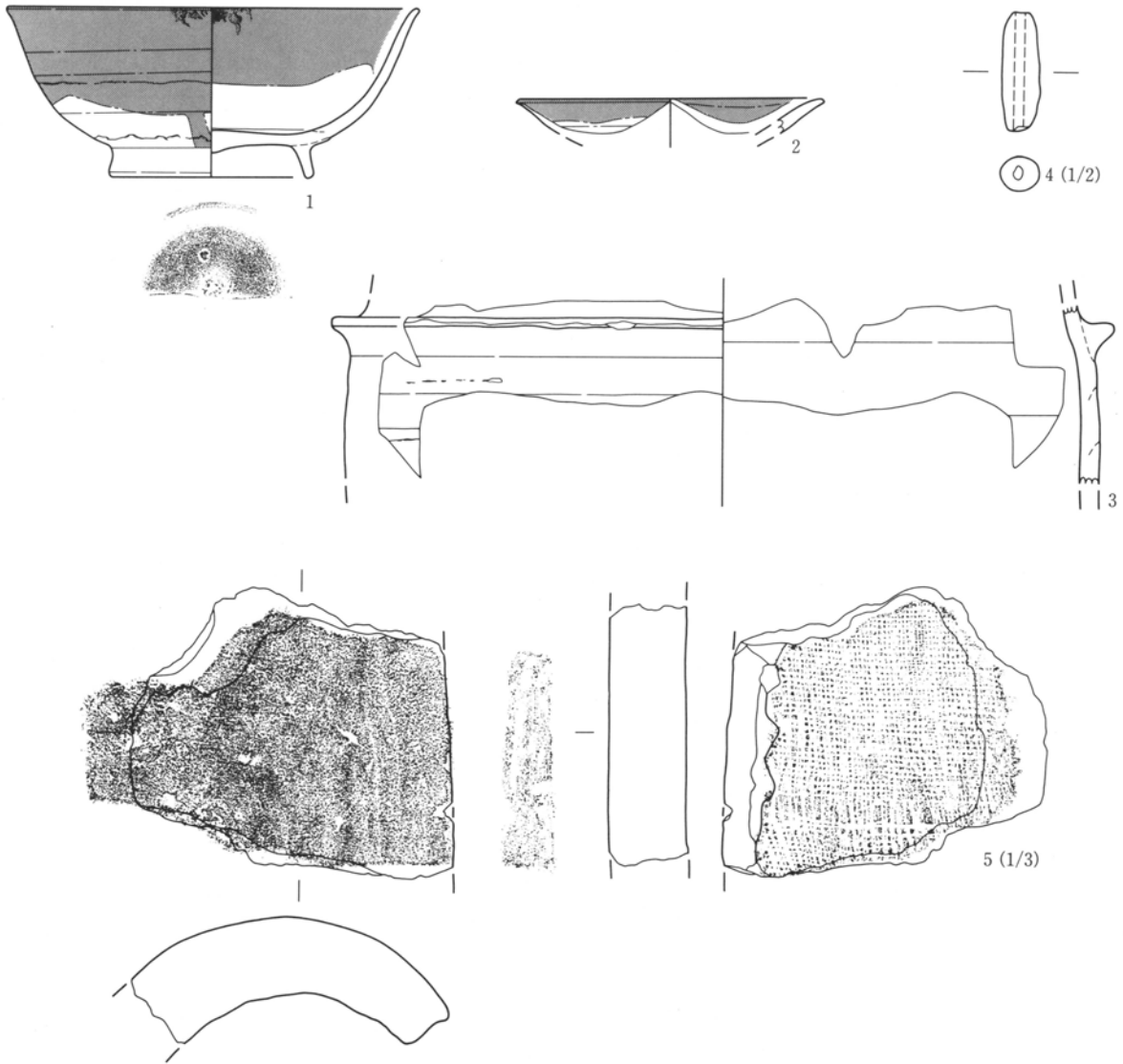
竈

- | | |
|--------|----------------------|
| 1 褐色土 | 黄褐色土粒、焼土塊を含む。締まりあり。 |
| 2 黒褐色土 | 褐色土塊、焼土塊、黄褐色砂質土塊を含む。 |
| 3 黒褐色土 | 焼土粒を多く含む。 |
| 4 暗褐色土 | 褐色土塊、焼土塊を含む。 |
| 5 暗褐色土 | 焼土粒を多く含む。 |
| 6 灰褐色土 | 焼土粒、黄褐色砂粒を含む。 |
| 7 灰褐色土 | 焼土粒を少量含む。 |

- | | |
|--------|------------------------|
| 1 黒褐色土 | 灰白色軽石粒、砂質の黄褐色土ブロックを含む。 |
| 2 黒色土 | 1層に似ているが、1層よりも黒色が強い。 |
| 3 黒褐色土 | 黄褐色砂質土が多く含まれている。 |
| 4 黄褐色土 | 黄褐色砂質土が主体である。黒褐色土を含む。 |
| 5 暗褐色土 | 黒褐色土に黄褐色砂質土、焼土粒を含む。 |

第285図 D区6号住居跡、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第286図 D区6号住居跡出土遺物

D区 6号住居

番号	器種	残存 法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	灰釉陶 器塊	1/3 口径(17.0) 器高7.0 底径(8.0)	+6	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	丸みを帯びて立ち上がる。口縁は短く外反する。付け高台。高台の外側は直立気味。内面は外傾。ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。口縁部の一部に煤と思われる黒色の付着物あり。灯明の容器として使用した痕跡と思われる。
2	灰釉陶 器皿	口縁部片 口径(12.4) 器高(1.4) 底径—	床直	①緻密 ②還元焰 硬質 ③灰白色	直線的に立ち上がる。口縁はやや外反する。ロクロ成形。施釉方法は漬け掛け。釉薬は乳白色。
3	羽釜	鏝部1/8 口径— 器高(7.4) 底径—	覆土	①粗砂 石英 軽石 ②酸化焰 硬質 ③橙色	鏝の端部は上方に反る。ロクロ成形。 外面 鏝は横ナデ。 内面
4	土製品 土錘	完形 縦3.3 横1.1 厚さ1.0	覆土	①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	中央部がやや膨らむ管状の土錘。
5	瓦 男瓦	破片 縦(11.2) 横(13.3) 厚さ(3.5)	+8	①軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	作りは半截。成形は縦ナデ。布目は並。側部に面あり。D区5号住居の5の瓦と同一の可能性あり。

D区 7号住居跡 (第287図 PL170・175)

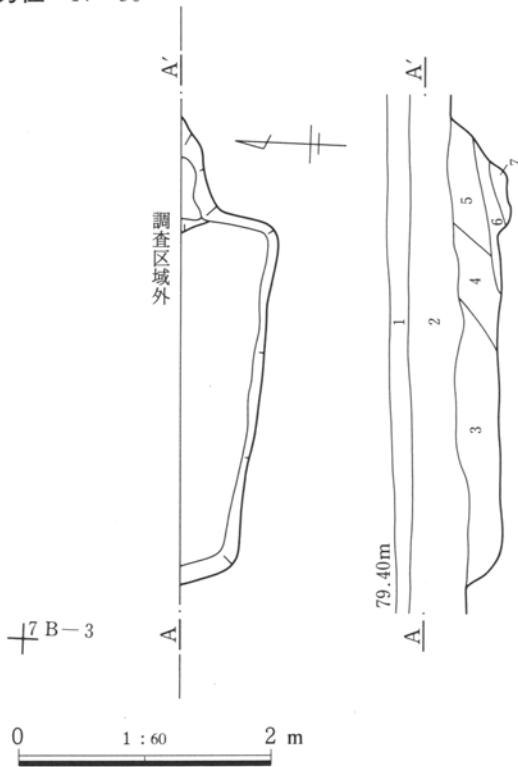
位置 7A-2グリッド

重複 なし

形状 本住居の北側は調査区外にあたり、住居の全貌を調査することが出来なかった。形状は長方形になると思われるが、長軸をどちらの方向にもつかは不明。東西3.70m、南北方向は不明である。調査区外の壁までは0.64mを測る。

面積 (1.90) m²

方位 N-90°



床面 残りの良いところで35cm掘り込んで床面になる。床高は78.80mを測る。床面は黄褐色砂質土を主体とした土で造られている。やや縮まりがある。

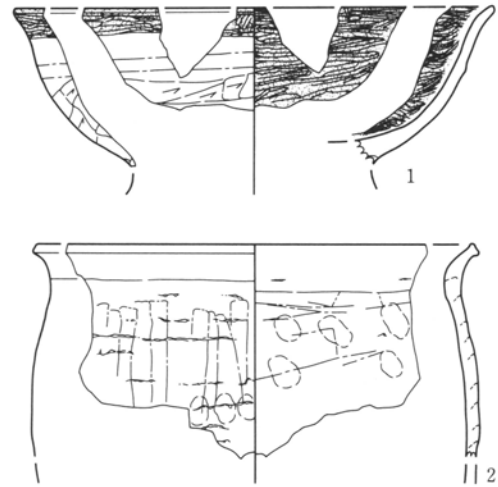
柱穴 不明

貯蔵穴 不明

竈 東壁に造られている。竈の半分ほど検出することができた。燃烧部はやや窪んでいる。煙道方向92cm、両袖方向は不明。

遺物 須恵器壺、土釜が出土している。

- 1 褐色土 客土した層。
- 2 暗褐色土 灰白色軽石粒、褐色土を含む。
- 3 黒褐色土 灰白色軽石粒、褐色土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 灰白色軽石粒、褐色土ブロック、焼土粒を含む。
- 5 茶褐色土 灰白色軽石粒を含む。黄褐色砂質土ブロック、焼土粒を多く含む。
- 6 茶褐色土 焼土粒を多く含む。
- 7 褐色土 黄褐色砂粒、焼土塊を含む。



第287図 D区7号住居跡、出土遺物

D区 7号住居

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器壺	1/3、高台穴 口径(18.8) 器高(6.2) 底径—	覆土	①軽石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	腰部が張り、丸みを帯びて立ち上がる。口縁は外反する。ロクロ成形。 外面 口縁は黒色処理、篋磨き。体部上半は無調整。下半は篋削り。 内面 黒色処理、篋磨き。
2	土師器土釜	口~胴上位 1/8 口径(23.0) 器高(11.2) 底径—	覆土	①大粒の軽石 石英 ②酸化焰 硬質 ③橙色	口縁は緩やかに屈曲する。端部に面をもつ。 外面 口縁は横ナデ。胴部は無調整に近い粗雑なナデ。 内面 口縁は横ナデ。胴部はナデ。

(2) 方形周溝墓

D区 1号方形周溝墓 (第288・289図 PL170・171・175)

位置 6M-2~6N-0グリッド

重複 本周溝墓の西側周溝は近世のD区1号溝に掘り込まれている。

形状 本周溝墓の南側は市道が通っており、調査を行うことが出来なかった。周溝を含めた平面の規模は不明である。方台部の規模も不明である。形状についても方形と推定。

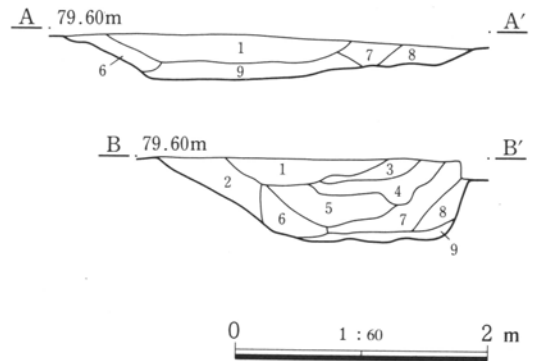
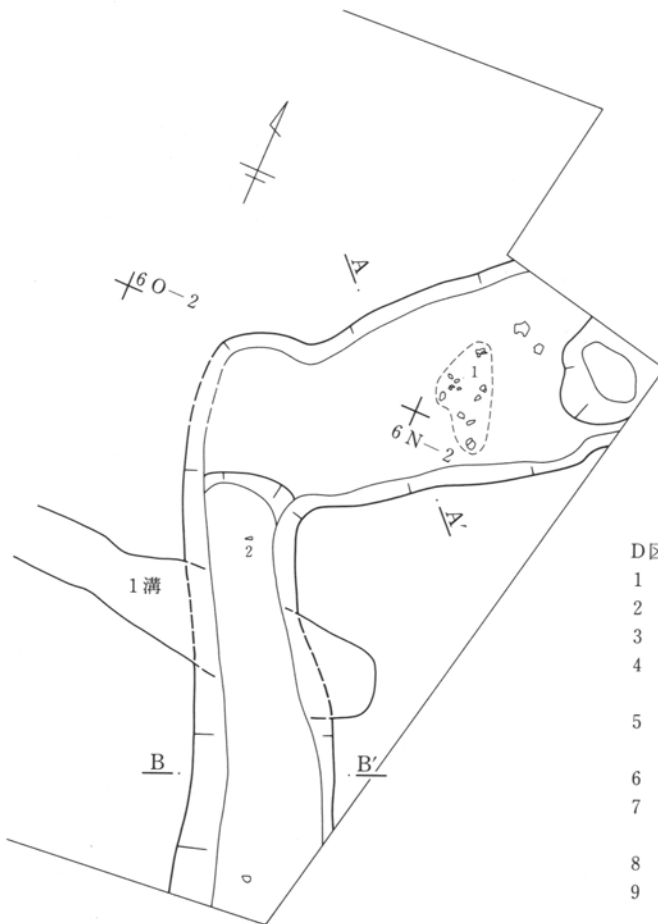
周溝 周溝は方台部の隅がくびれる形になっていて、上端幅は1.76~3.28m、下端幅は1.00~2.84m、周溝の掘り込みの深さは12~64cmを測る。周溝の断面形は、外周への立ち上がりも、方台部への立ち上がりもほぼ同様で、皿状を呈する。これは本周溝墓

の上部が削平されているためと考える。周溝の覆土は灰白色軽石粒を多く含む黒色土が上位にあり、他は地山の黄褐色砂質土を含む暗褐色土が主である。

主体部 不明

遺物 ほぼ完形の土師器壺、台付甕が出土している。

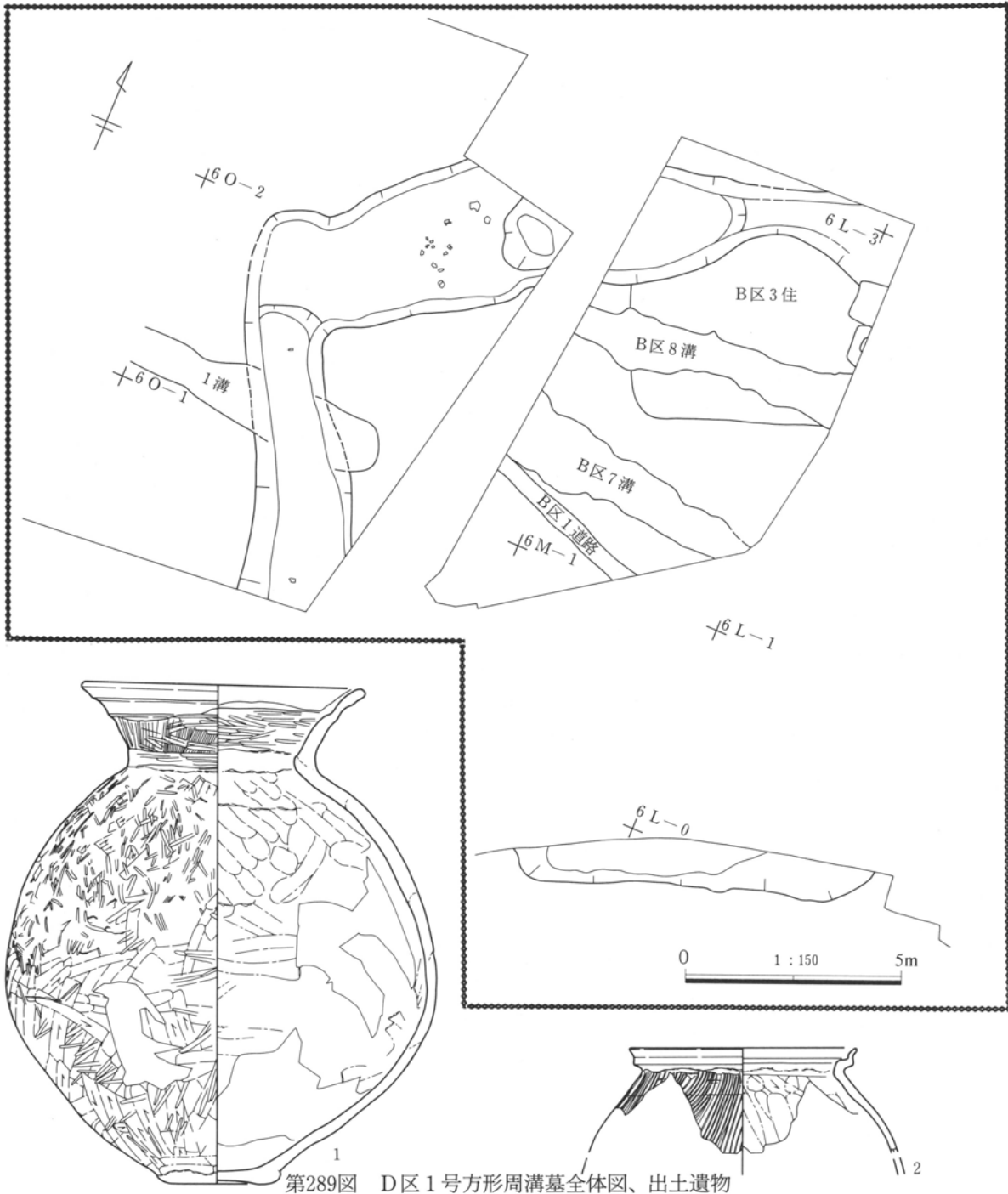
備考 本周溝墓が見つかったことにより、B区1号方形周溝墓と同一の周溝墓であると考えられる。個々の平面図を見比べると周溝の形状などやや異なる点もあるが、位置的に同一のものと断定して問題はないと考える。そこで本周溝墓とB区1号方形周溝墓を合体した平面図を記載しておく。周溝を含めたこの周溝墓の南北方向は16.8mを測る。



D区 1号方形周溝墓

- 1 黒色土 少量の灰白色軽石粒、黄褐色砂粒を含む。
- 2 黒褐色土 暗褐色土ブロック、黄褐色粘質土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 砂質である。数mmの小石、黄褐色砂粒を含む。
- 4 暗褐色土 砂質である。褐色砂粒を多く含む。5~10mmの小石を含む。
- 5 暗褐色土 砂質である。1,2mmの小石、少量の黄褐色砂粒を含む。
- 6 暗褐色土 砂質である。黄橙色軽石粒を含む。
- 7 明暗褐色土 砂質である。数mmの小石、褐色砂ブロック、少量の黄橙色軽石粒を含む。
- 8 明暗褐色土 褐色砂粒を含む。
- 9 暗褐色土 黄褐色砂ブロック、褐色砂ブロックを含む。

第288図 D区1号方形周溝墓



第289図 D区1号方形周溝墓全体図、出土遺物

D区 1号方形周溝墓

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 壺	4/5 口径(18.0) 器高30.8 底径 6.3	周溝	①石英 軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい橙色	頸部から大きく外反する複合口縁。胴部は最大径をやや下方にもつ。底部は凹底。 外面 口縁は横ナデ後篋磨き。頸部は縦方向のハケメ後篋磨き。胴部との接合部は横ナデ後篋磨き。胴部～底部は篋削り後篋磨き。 内面 口縁は横ナデ後篋磨き。頸部は篋磨き。胴部上半は指ナデ。下半は篋ナデ。
2	土師器 台付甕	口～肩部 1/2 弱 口径(13.9) 器高(6.5) 底径—	周溝	①軽石 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	2段目が横へ突き出すS字状口縁。肩の張らない胴部。 外面 口縁は横ナデ。頸部はハケメ後横ナデ。以下はハケメ。 内面 口縁は横ナデ。肩部は篋削り後ナデか?以下はナデ。

(3) 溝

D区 1号溝 (第290図 PL171)

位置 6N-1~6Q-1グリッド

重複 古墳時代のD区1号方形周溝墓を掘り込む。

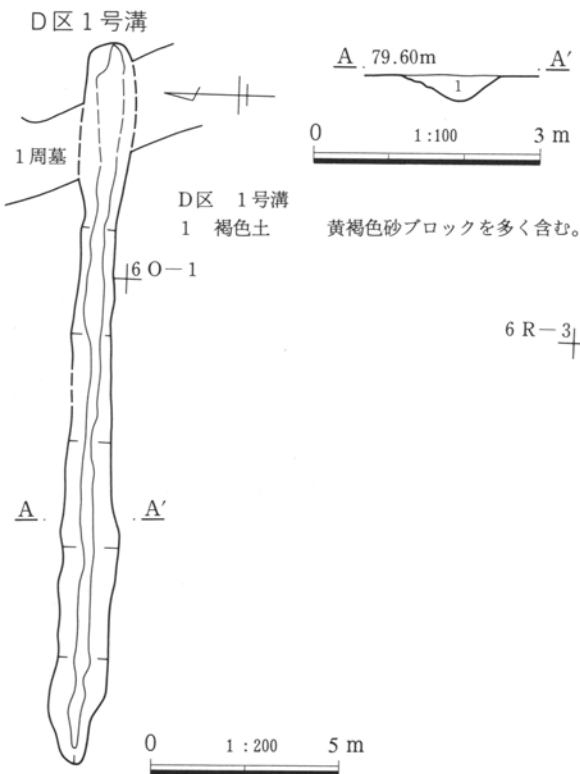
走向 東から西方向の走向。(N-88°-W)。

覆土 黄褐色砂質ブロックを多く含む褐色土である。覆土の土層から近世の溝と考える。

規模 確認全長18.96mを測る。溝の上端80~160cm、下端6~26cm、深さ2~32cmを測る。

断面形 東端は法面がやや急になっていて、V字形に近い。しかし、西端では浅くなり、あまり角度がない状態で立ち上がる。

遺物 なし



D区 2号溝

- 1 褐色土 灰白色軽石粒を含む。砂質である。
- 2 黒褐色土 灰白色軽石粒を含む。やや粘質である。1層よりも黒色が強い。
- 3 黒褐色土 2層よりも黄褐色砂質土を多く含む。

D区 2号溝 (第290図 PL171・172)

位置 6R-2~7A-0グリッド

重複 平安時代のD区3号、4号竪穴住居跡を掘り込む。

走向 D区の調査にあたり、個人住宅への進入路を確保するため、調査できなかった箇所があり、この溝も東側と西側に分断されることになった。全体としては北東から南西方向の走向。東側部分(N-120°-W)。西側部分(N-134°-W)。

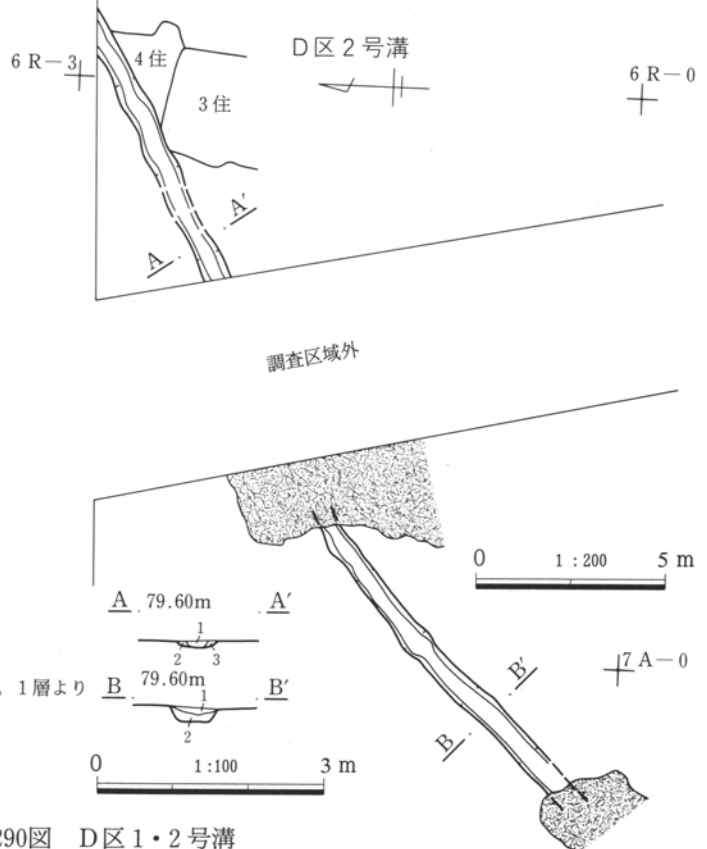
覆土 細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土が主である。上層は褐色が強い。

規模 確認全長16.48mを測る。溝の上端48~80cm、下端24~56cm、深さ6~27cmを測る。

断面形 法面が丸みを帯びたような碗状になっている。

遺物 なし

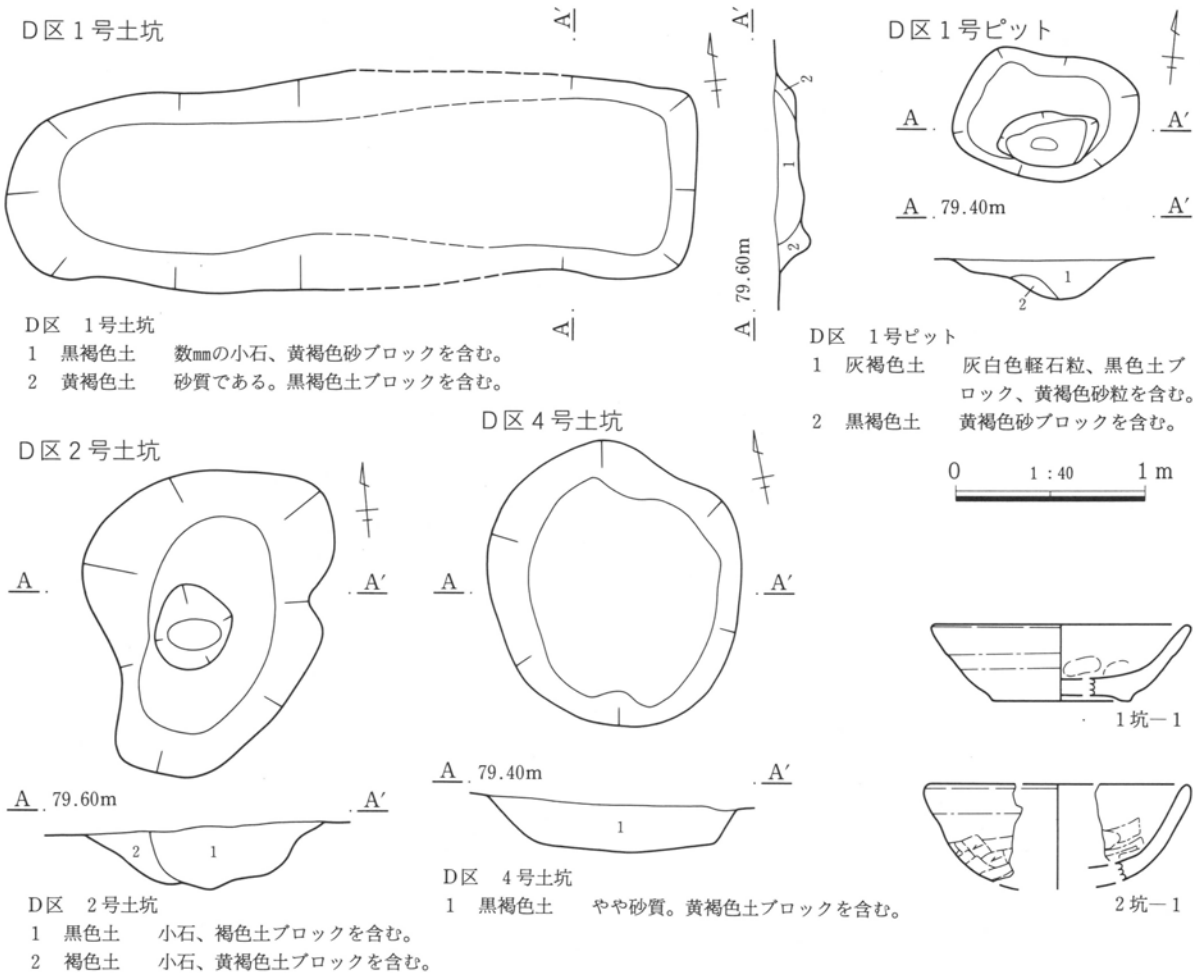
備考 この溝は走向、覆土から、平安時代のA区15号溝と同一と考える。



第290図 D区1・2号溝

(4) 土坑

遺構番号 (第図PL)	平面形 グリッド	長軸方向	長軸×短軸 深さ(cm)	覆土の特徴 出土遺物	備考
D区1号土坑 (第291図 PL172・175)	楕円形 6O-1	N-90°	370×117 10	数mmの小石を含む黒褐色土。 須恵器塊出土。	平安時代の土坑と考える。
C区2号土坑 (第291図 PL172・175)	楕円形 6Q-0	N-15°-E	162×130 36	数mmの小石を含む黒色土。 須恵器塊出土。	平安時代の土坑と考える。
C区4号土坑 (第291図 PL172)	ほぼ円形 7B-0	N-15°-E	148×135 28	黄褐色砂質土を含む黒褐色土。	平安時代の土坑と考える。
C区1号ピット (第291図 PL173)	楕円形 7A-1	N-90°	98×65 20	細かい灰白色軽石粒、黄褐色土 を含む灰褐色土が主体。	中世以降のピットと考える。



第291図 D区1・2・4号土坑、1号ピット、1・2号土坑出土遺物

D区1号土坑

番号	器種	残存 法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	須恵器 坏	1/8 口径(10.2) 器高3.0 底径(5.4)		①軽石 細砂 ②酸化焰 硬質 ③赤褐色	直線的に立ち上がる体部。口縁端部は丸い。 ロクロ成形。底部は右回転糸切り。

D区2号土坑

番号	器種	残存 法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器? 塊	1/4、高台欠 口径(10.2) 器高(3.7) 底径-		①細砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	直線的に立ち上がる体部。口縁端部は丸い。 外面 口縁～体部上半は横ナデ。以下は篋削り。 内面 体部下半～底部はナデ。

(5) 土坑墓

D区 1号土坑墓 (第292図 PL173・175・176)

位置 60-2グリッド

重複 なし

形状 東西方向を長軸にもつ楕円形である。

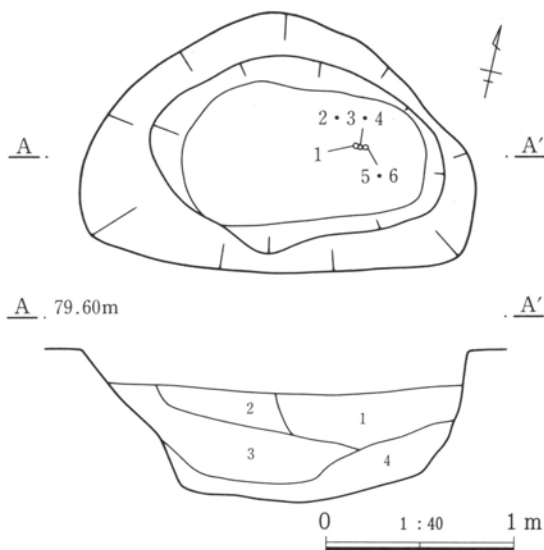
方位 N-90° (長軸方向)

覆土 全体的に砂質の黄褐色土を含む暗褐色土と細かい灰白色軽石粒を含む黒褐色土が主体である。

規模 長軸210cm、短軸137cm、最大深さ80cmを測る。

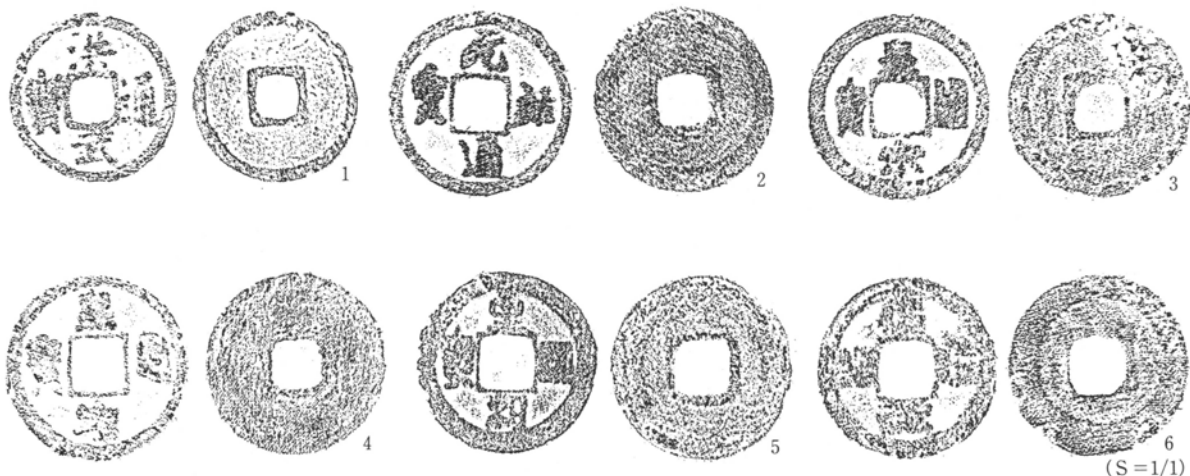
遺物 洪武通寶、元祐通寶、皇宋通寶、至和通寶、治平通寶、人歯が出土している。

備考 覆土の土層、出土遺物から中世以降の遺構と考える。



D区 1号土坑墓

- 1 暗褐色土 砂質である。黄褐色砂粒を含む。
- 2 黒褐色土 黄褐色砂粒を含む。
- 3 黒色土 暗褐色土ブロック、黄褐色砂ブロックを含む。
- 4 灰黄褐色土 黒色土を含む。



(S=1/1)

第292図 D区 1号土坑墓、出土遺物

D区 1号土坑墓

番号	器種	銭名 初 鑄 年	残 存	外径 (cm) 縦 × 横	孔径 (cm) 縦 × 横	厚さ (mm) 最小～最大	重さ (g)	備 考
1	銅銭	洪武通寶 明 1368年	完形	2.30×2.28	0.56×0.57	1.49～1.76	3.24	
2	銅銭	元祐通寶 北宋 1093年	完形	2.49×2.45	0.65×0.67	1.23～1.53	3.64	字体は行書体。字体から折二銭と思われる。
3	銅銭	皇宋通寶 北宋 1038年	完形	2.50×2.46	0.65×0.65	1.15～1.49	3.20	字体は真書体。
4	銅銭	皇宋通寶 北宋 1038年	完形	2.45×2.44	0.65×0.65	1.25～1.65	2.86	字体は真書体。
5	銅銭	至和通寶 北宋 1054年	完形	2.43×2.42	0.69×0.72	1.05～1.41	2.68	字体は篆書体。
6	銅銭	治平通寶 北宋 1064年	完形	2.45×2.45	0.73×0.75	1.15～1.55	2.89	字体は篆書体。

(6) 竪穴状遺構

D区 1号竪穴状遺構 (第293・294図 PL173・176)

位置 2Q-0グリッド

重複 なし

形状 壁面と思われるものが東西方向に走り、方形の掘り込みと想定される。また、この遺構の中央部には標高79.12mの高さがほぼ一定に保たれている部分がある。覆土の観察や出土遺物から、古墳時代の竪穴住居跡ではないかという想定も出来る。しかし、上層部から攪乱を受けていて、西端には大きな攪乱穴がある。また東端には性格不明な土坑状のものもある。なお、南側部分は住民が生活する上で使用する市道があり、調査することが出来なかった。

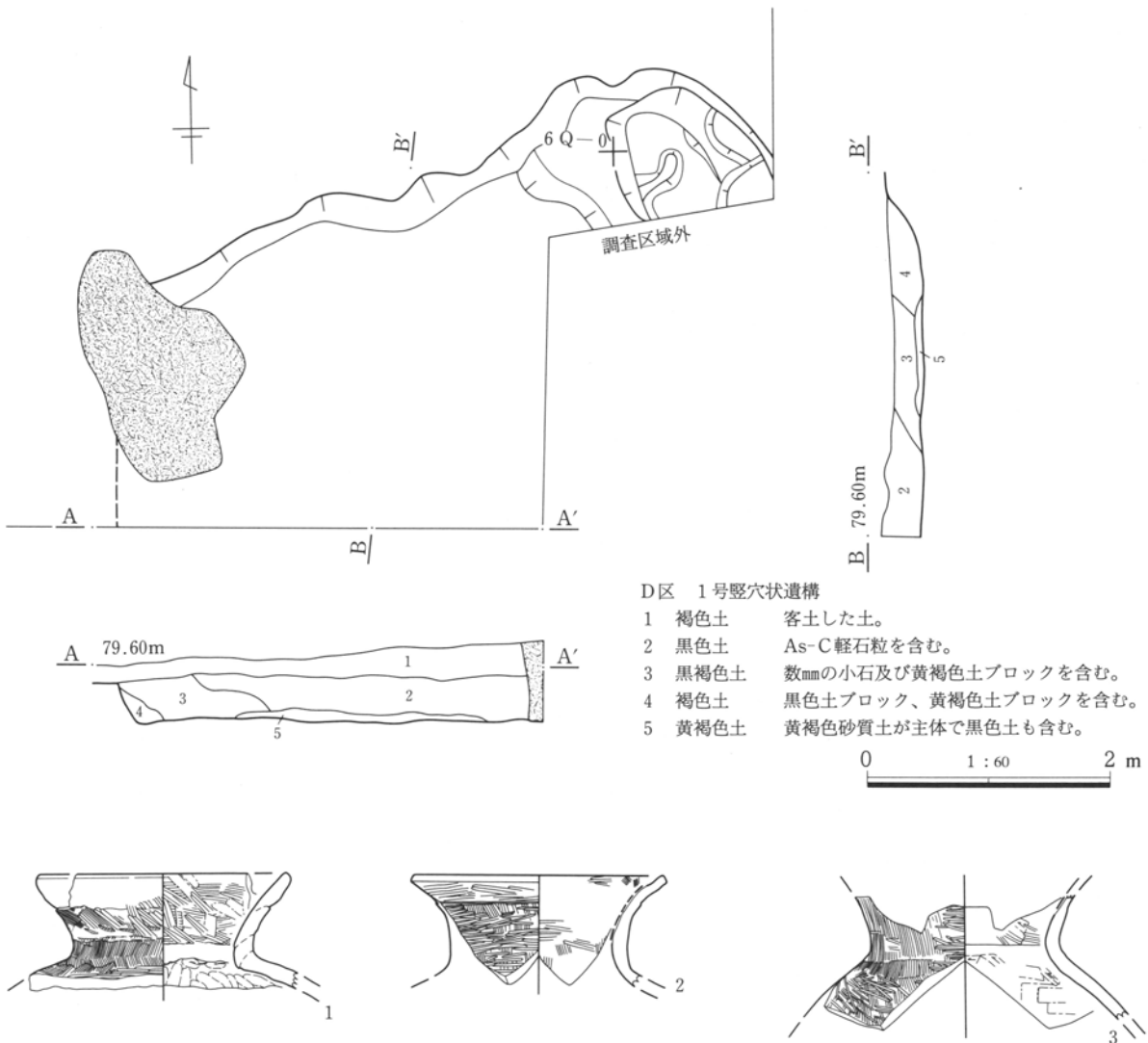
さらに、南東部には電柱があり、やはり調査できなかった。このようなことから竪穴住居跡の可能性を残しつつも断定は出来ない。本書では竪穴状遺構と記載しておくことにする。

面積 (11.52) m²

方位 計測不能

覆土 覆土の主体は、As-C軽石を多く含む黒色土と黄褐色砂質土を含む黒褐色土である。覆土からも古墳時代の遺構と考えられる。

遺物 土師器壺、台付甕が出土している。

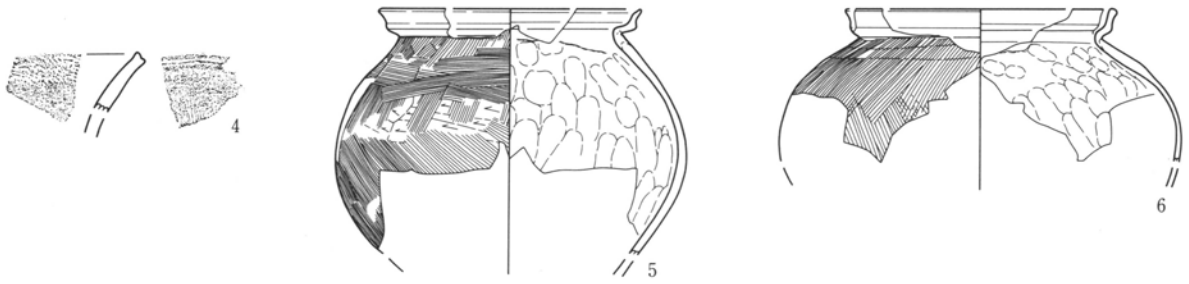


D区 1号竪穴状遺構

- 1 褐色土 客土した土。
- 2 黒色土 As-C軽石粒を含む。
- 3 黒褐色土 数mmの小石及び黄褐色土ブロックを含む。
- 4 褐色土 黒色土ブロック、黄褐色土ブロックを含む。
- 5 黄褐色土 黄褐色砂質土が主体で黒色土も含む。

0 1:60 2 m

第293図 D区1号竪穴状遺構、出土遺物(1)



第294図 D区1号竪穴状遺構出土遺物(2)

D区 1号竪穴状遺構

番号	器種	残存法 量(cm)	出土位置	①胎土②焼成③色調	器形・整形・文様の特徴
1	土師器 壺	口～肩部 1/4 口径(13.6) 器高(6.4) 底径—	覆土	①粗砂 輝石 軽石 ②酸化焰 硬質 ③浅黄橙色	頸部からくの字に屈曲する折り返し口縁。 外面 口縁は横ナデ。頸部は縦ハケメ後篋磨き。 内面 口縁は横ハケメ、一部ナデ後篋磨き。肩部は指ナデ。
2	土師器 壺	口縁部 1/8 口径(13.6) 器高(6.1) 底径—	覆土	①粗砂 輝石 石英 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	頸部から緩やかに屈曲し、外反する口縁。端部は面を外向きにもつ。 外面 口縁は横ナデ後篋磨き。頸部はハケメ後篋磨き。 内面 ハケメ後篋磨き。
3	土師器 壺	頸部片 口径— 器高(6.9) 底径—	覆土	①1～3mmの石 石英 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	肩部から直立気味に立ち上がる。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 頸部は篋削り後篋磨き。胴部は篋削り後横ナデ。
4	土師器 壺	口縁部片 口径— 器高(2.0) 底径—	覆土	①石英 細砂 ②酸化焰 硬質 ③橙色	外反する口縁。端部は面をもつ。 外面 ハケメ後篋磨き。 内面 口縁は櫛状工具による波状文のような施文。
5	土師器 台付甕	口～胴部 2/3 口径12.8 器高(13.0) 底径—	覆土	①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③浅黄色	2段目が大きく外反するS字状口縁。肩は張らない。 外面 口縁は横ナデ。肩部に横方向のハケメ。胴中央部に篋削り痕が残る。頸部から下方へハケメ。胴下部から上方へハケメ。 内面 指ナデ。
6	土師器 台付甕	口～胴上位 1/5 口径(14.2) 器高(8.0) 底径—	覆土	①石英 粗砂 ②酸化焰 硬質 ③にぶい黄橙色	体部が歪みをもって立ち上がる。口縁は外反する。 外面 口縁は横ナデ。胴部はハケメ。肩部にハケメ後横ナデあり。 内面 指ナデ。

第4章 自然科学分析

1. 自然科学分析の目的

本遺跡の調査において、次の5つの自然科学分析を行った。以下、その主な目的を記す。

- 竪穴住居跡や方形周溝墓群が見つかったA区において、遺構の年代及び土層の堆積年代に関する資料(特に、縄文時代中期の遺構の下位にある砂層の堆積年代に関する資料)を収集するために、地質調査、テフラの検出分析、屈折率測定を行った。
- 低地部にあたるC区からは、台地部のA区と異なり、溝や水田跡が見つかった。地形的に異なるだけでなく、A区と違う層位も見られるので、遺構の年代及び示標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集するために、地質調査を行い、テフラ検出分析を行った。
- C区からAs-B下水田跡が見ついている。この水田跡の下層からは、これ以前の水田跡は検出されなかった。しかし、A区では古墳時代前期の集落跡、C区では古墳時代の溝が見ついているので、As-B降下以前にも本遺跡で稲作が行われていた可能性は十分あると考える。また、地質調査やテフラ検出において、Hr-FAやAs-Cの層位が確認されている。そこでC区のAs-Bの直上層からAs-Cの下層までの試料を採集し、プラント・オパール分析を行い、本遺跡における稲作の可能性を探る。
- A区23号住居跡は古墳時代前期の焼失住居である。数多くの炭化材や焼土、灰が出土した。炭化材の中には垂木と思われる放射状に検出されたものもある。また、屋根材の灰ではないかと思われるものも出土した。そこで、炭化材等の樹種同定を行い、竪穴住居の構造材として当時はどのようなものが使用されていたか調べ、古墳時代前期の竪穴住居跡の構造に迫りたい。
- 伊勢崎市北部地域の近年の発掘調査では粘土採掘坑の発見が目につく。中でも波志江中野面遺跡では66基もの採掘坑が検出され、話題を呼んだ。また、採掘坑の数の多さばかりでなく、採掘坑内部から完形のS字状口縁台付甕が出土し、採掘坑の粘土と出土した土器の胎土の分析が注目を集めている。波志江中野面遺跡においても、A区17号住居を中心に多くのS字状口縁台付甕が出土している。また、奈良・平安時代の竪穴住居跡の竈の構造材として多くの粘土が使用されている。住居内の床下土坑からも粘土が検出されている。しかし、本遺跡内からは粘土の土層はほとんどない。そこでS字状口縁台付甕を含めた甕類の胎土分析と住居内から出土している粘土の分析を行い、どのような粘土を基に甕類がつくられているのか、また、住居内から検出された粘土との相関関係はあるのか等について調べる。

2. 波志江中野面遺跡の土層とテフラ (A区)

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬地域の後期更新世以降に形成された土壌中には、浅間火山や榛名火山をはじめとする関東地方とその周辺に分布する火山のほか、九州地方など遠方の火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

波志江中野面遺跡の発掘調査では、堆積年代の不明な土層が認められた。そこで、遺構の年代および土層

第4章 自然科学分析

の堆積年代に関する資料を収集するために、地質調査を行い土層の層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を合わせて行うことになった。テフラ調査分析の対象となった地点は、第1地点(3H-17グリッド)、第2地点(7S-0グリッド)、第3地点(3I-9グリッド)、第4地点(3H-9グリッド)、第5地点(17号住居址)の5地点である。

2. 土層の層序

(1) 第1地点(3H-17グリッド)

第1地点では、遺跡の土層のうち、比較的下部の良好な土層の断面が認められた(図1)。この地点では、下位より亜円礫層(層厚10cm以上、礫の最大径53mm)、礫を多く含む葉理の発達した灰色砂層(層厚28cm、礫の最大径12mm)、灰色砂層(層厚32cm)、亜円礫混じり灰色砂層(層厚12cm、礫の最大径18mm)、砂混じり暗灰色土(層厚15cm)、砂混じりでマンガンに富む暗褐色土(層厚18cm)、灰色砂層(層厚13cm)、黄灰色砂層(層厚19cm)、若干黄色味を帯びた灰褐色土(層厚21cm)、暗褐色土(層厚22cm)、白色軽石および炭化物を含む褐色砂質土(層厚16cm、軽石の最大径16mm)が認められた。

発掘調査では、少なくとも黄灰色砂層の上位に、縄文時代中期の遺構の層位が確認されている。

(2) 第2地点(7S-0グリッド)

この地点では、下位より灰色砂層(層厚5cm)、黄灰色砂質シルト層(層厚8cm)、褐色砂層(層厚9cm)、砂混じり暗灰色土(層厚21cm)、黄白色軽石混じり灰色砂層(層厚25cm、軽石の最大径11mm)、若干色調の暗い灰色砂質土(層厚14cm)が認められる(図2)。これらのうち、黄白色軽石混じり灰色砂層は、3H-17グリッドの灰色砂層およびその上位の黄灰色砂層に対比される。

(3) 第3地点(3I-9グリッド)

第3地点では、下位より暗褐色土(層厚24cm)、黒灰色土(層厚14cm)、黄色軽石に富む灰色土(層厚5cm、軽石の最大径6mm)、黒灰色土(層厚6cm)、暗褐色土(層厚12cm)が認められる(図3)。

(4) 第4地点(3H-9グリッド)

この地点では、下位より褐色砂層(層厚10cm以上)、暗灰褐色土(層厚11cm)、黒灰色土(層厚21cm)、暗灰色砂質土(層厚9cm)、亜円礫混じり灰褐色砂質土(層厚23cm、礫の最大径13mm)、暗褐色砂質土(層厚17cm)が認められる(図4)。

(5) 第5地点(17号住居址)

17号住居址の覆土は、下位より黒灰色土(層厚10cm以上)、白色軽石混じり黄灰色火山灰層(層厚2cm、軽石の最大径36mm)、黒灰色土(層厚0.5cm以上)からなる(図5)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

土層の堆積年代に関する試料を得るためにテフラ検出分析を行い、示標テフラの降灰層準を求めることにした。分析の対象となった試料は、第1～第5地点において採取された19点の試料である。なお、第1地点第2地点、第4地点の試料は、基本的に5cmごとに採取された試料のうち、5cmおきの試料である。分析は次の手順で行われた。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。第1地点では、試料番号5および3に、スポンジ状によく発泡した灰白色軽石(最大径2.9mm)が比較的多く認められた。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その岩相から浅間火山から4世紀中葉に噴出した浅間C軽石(As-C,新井,1979)に由来すると考えられる。軽石の産状から、試料番号5や3付近にAs-Cの降灰層準があると考えられる。

試料番号1には、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径3.1mm)のほか、発泡のあまり良くない白色軽石(最大径1.8mm)が少量認められた。後者の班晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、その特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA,新井,1979,坂口,1986,早田,1989,町田・新井,1992)に由来すると考えられる。また、前者の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その特徴から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B,新井,1979)に由来すると考えられる。したがって、Hr-FAおよびAs-Bの降灰層準は、最上位の土層中にあると考えられる。

第2地点では、試料番号2にスポンジ状によく発泡した灰白色軽石(最大径2.3mm)が比較的多く認められた。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その岩相からAs-Cに由来すると考えられる。軽石の産状から、試料番号2付近にAs-Cの降灰層準があると考えられる。

第3地点の試料番号1には、スポンジ状によく発泡した灰白色軽石(最大径3.7mm)が多く認められた。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その岩相からAs-Cに由来すると考えられる。軽石の産状から、試料番号1付近にAs-Cの降灰層準があると考えられる。

第4地点では、試料番号9から5にかけて、スポンジ状によく発泡した灰白色軽石(最大径2.9mm)が少量ずつ認められた。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その岩相からAs-Cに由来すると考えられる。軽石の産状から、試料番号9付近にAs-Cの降灰層準があると考えられる。

また、試料番号9から5にかけては、発泡のあまり良くない白色軽石(最大径2.0mm)も少量含まれている。軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、その特徴からHr-FAに由来すると考えられる。したがって、軽石の産状から、試料番号9付近にはHr-FAの降灰層準もあると考えられる。また、試料番号3および1には、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径3.0mm)が比較的多く認められた。その班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その特徴からAs-Bに由来すると考えられる。As-Bの降灰層準は、試料番号3付近にあると考えられる。

第5地点の試料番号1の火山灰層中には、発泡のあまり良くない白色軽石(最大径3.2mm)が多く含まれている。軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。したがって、試料番号1の火山灰層中はHr-FAに同定される。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

縄文時代中期の遺構の下位にある砂層の堆積年代に関する資料を収集するために、さらに第2地点の資料番号8および4の2試料中に含まれる粒子の屈折率測定を試みた。屈折率の測定は、位相差法(新井,1972)による。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を表2に示す。試料番号8では、火山ガラスは検出されなかった。重鉱物としては、斜方輝石のほか、単斜輝石や少量の角閃石が認められた。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.704-1.710である。ま

第4章 自然科学分析

た、試料番号4でも、火山ガラスは検出されなかった。重鉱物としては、斜方輝石のほか、単斜輝石や角閃石が認められた。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.705-1.710である。このように、試料番号8と試料番号4の間で顕著な違いは認められず、噴出年代が明らかにされている特徴的なテフラは検出されなかった。

5. 小結

波志江中野面遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)に由来するテフラ粒子を検出することでできた。石田川式土器が検出された17号住居址の構築年代は、Hr-FA 降灰より前である。

なお、最近では、放射性炭素(^{14}C)をごくわずかしか含まない試料や、年代の比較的古い(約6万年前以降)の試料についても精度よく測定できる、加速器質量分析(AMS)法による放射性炭素年代測定が容易にできるようになってきた。また、 ^{14}C 年代の暦年代への補正も可能である。浅間火山起源の縄文時代のテフラについては、鉱物組成やテフラ粒子の屈折率などで顕著な特徴をもつものはまだ知られておらず、互いによく似ている(早田, 1996, 早田・新井, 未公表資料)。そのため、示標テフラとの同定は簡単なことではない。今後、腐植質の土層が認められる場合には、以前に増して放射性炭素年代測定の利用が望まれる。

文献

- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定-テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
 早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, VII, p.256-267.

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	最大径
第1地点		++	淡褐>白	3.1, 1.8
	3	++	灰白	2.9
	5	++	灰白	2.3
	7	-	-	-
	9	-	-	-
	11	-	-	-
	13	-	-	-
	15	-	-	-
第2地点	2	++	灰白	2.3
	4	-	-	-
	6	-	-	-
	8	-	-	-
第3地点	1	+++	灰白	3.7
第4地点	1	++	淡褐	3.0
	3	++	淡褐	2.3
	5	+	灰白>白	2.9, 1.4
	7	+	灰白>白	1.7, 2.0
	9	+	灰白>白	1.3, 2.2
第5地点	1	+++	白	3.2

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度,
 +: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm.

表2 屈折率測定結果

地点	試料	重鉱物	屈折率
第2地点	4	opx>cpx, ho	opx(γ): 1.705-1.710
第2地点	8	opx>cpx, (ho)	opx(γ): 1.704-1.710

opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石. 重鉱物の()は量の少ないことを示す. 屈折率は, 位相差法(新井, 1972)による.

2. 土層とテフラ (A区)

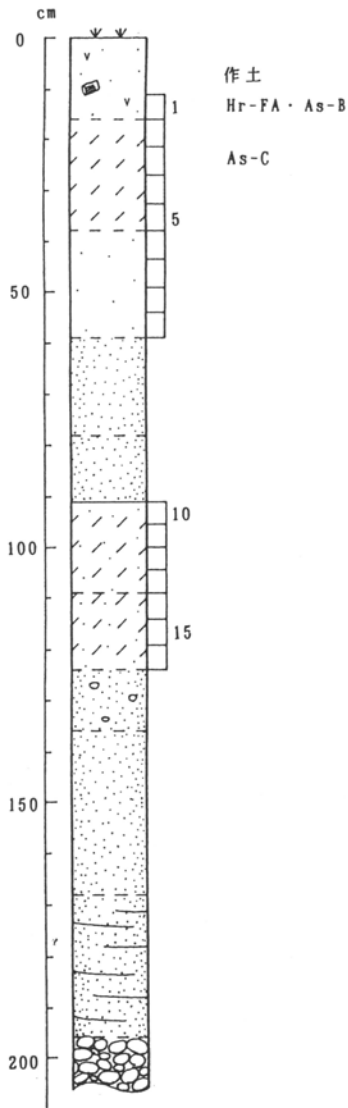


図1 第1地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

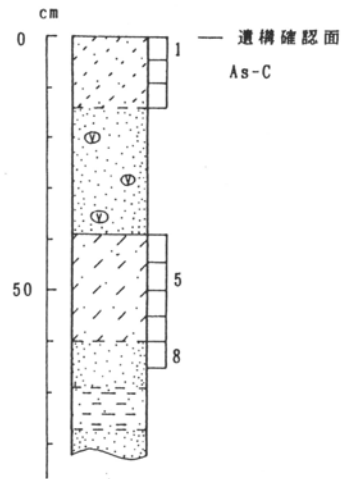


図2 第2地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

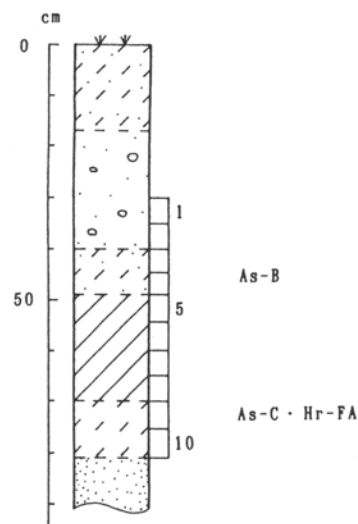


図4 第4地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

- v v 軽石
- 粗粒火山灰
- 細粒火山灰
- 黒灰色土
- 暗灰～暗褐色土
- 灰色土
- 褐～灰褐色土
- 礫
- 砂
- シルト
- 炭化物

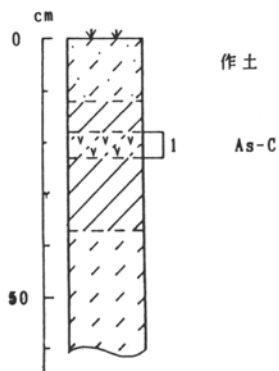


図3 第3地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号



図5 第5地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

第295図 波志江中野面遺跡A区土層柱状図

3. 波志江中野面遺跡の土層とテフラ（C区）

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、浅間、榛名、赤城など北関東地方とその周辺の火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになってきている。

そこで、年代の不明な遺構や土層が検出された中野面遺跡C区においても、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、採取された試料を対象にテフラ検出分析を行って示標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、A地点、B地点、C地点の3地点である。

2. 土層の層序

(1) A地点

A地点では、下位より灰色砂質シルト層（層厚28cm以上）、黄灰色土（層厚15cm）、暗灰色土（層厚14cm）、黄灰色細粒軽石に富む暗灰色土（層厚5cm、軽石の最大径2mm）、白色粗粒軽石（最大径6mm）および黄灰色細粒軽石（最大径2mm）混じり黄灰褐色土（層厚6cm）、暗灰褐色土（層厚8cm）、黄色粗粒火山灰混じり暗灰褐色土（層厚4cm）、成層したテフラ層（層厚6.3cm）、暗褐色砂質土（層厚2cm）、若干灰色がかった褐色砂質土（層厚22cm）、灰色表土（層厚13cm）が認められる（図1）。発掘調査では、成層したテフラ層の直下から水田遺構が検出されている。このテフラ層は、下部の灰色細粒火山灰層（層厚0.3cm）と上部の成層した黄灰色粗粒火山灰層（層厚6cm）からなる。このテフラ層は、層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B, 新井, 1979）に同定される。

(2) B地点

B地点では、下位より暗灰色土（層厚10cm以上）、灰色細粒軽石に富む暗褐色土（層厚6cm、軽石の最大径3mm）、白色粗粒軽石混じり暗褐色土（層厚10cm、軽石の最大径11mm）、灰色粗粒火山灰混じり暗褐色土（層厚7cm）、暗褐色土（層厚5cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚4cm）、若干灰色がかった褐色砂質土（層厚27cm）、灰色表土（層厚17cm）が認められる（図2）。発掘調査では、黄灰色粗粒火山灰層の直下から水田遺構が検出されている。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。

(3) C地点

C地点（28号溝）では、白色軽石混じり黄褐色砂質火山灰層（軽石の最大径11mm）が認められた。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

A地点において基本的に5cmごとに採取された5点の試料、およびC地点の火山灰層（試料1）についてテフラ検出分析を行い、テフラの降灰層準およびテフラ粒子の特徴の把握を行った。分析の手順は次の通りである。

1) 試料15gを秤量。

2) 超音波洗浄により泥分を除去。

3) 80°Cで恒温乾燥。

4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。A地点では、試料5にスポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石(最大径1.8mm)が比較的多く含まれている。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められ、4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 新井, 1979)に由来すると考えられる。また試料4には、As-Cに由来する軽石のほかに、あまり発泡の良くない白色軽石(最大径4.9mm)が含まれている。この軽石の班晶としては、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、その特徴から6世紀初頭に浅間火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。以上のことから、B地点の灰色軽石はAs-Cに、白色粗粒軽石はHr-FAに各々由来すると考えられる。

試料1には、比較的よく発泡した淡褐色軽石(最大径4.1mm)が多く含まれており、班晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、その特徴からAs-Bに由来すると考えられる。これらの軽石は、As-B降灰初期に堆積した可能性が考えられる。

4. まとめ

中野面遺跡C区において、地質調査とテフラ検出分を行った。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間A軽石(As-A, 1783年)を検出することができた。発掘調査により検出された水田は、As-Bにより覆われている。

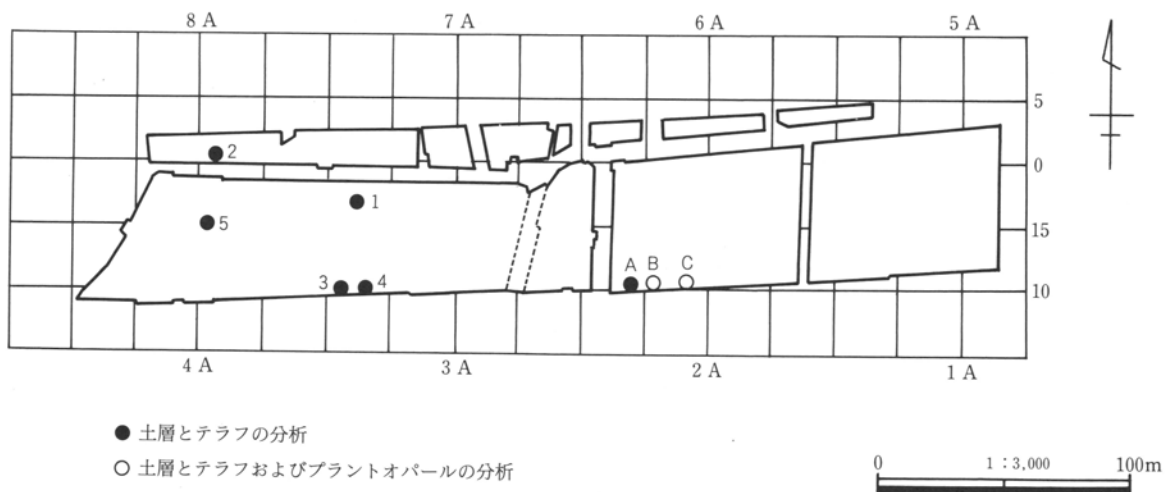
文献

新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.

町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.

坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.

早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.



第296図 自然科学分析試料採取地点

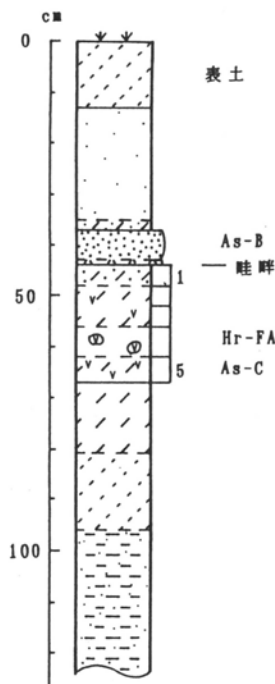


図1 A地点の土層柱状図

数字はテフラ分析の試料番号

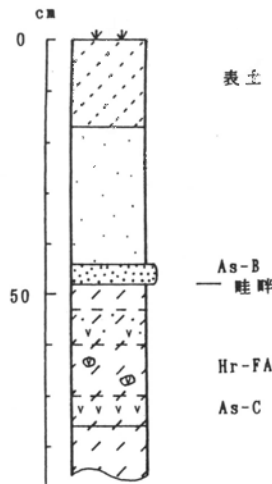


図2 B地点の土層柱状図

表1 中野面遺跡C区におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
A	1	+++	淡褐	4.1
	3	++	灰白>白	2.7,1.8
	4	++	白, 灰白	2.2,2.1
	5	++	灰白	1.8
C	1	+++	白	5.0

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm.



第297図 波志江中野面遺跡C区土層柱状図

4. 波志江中野面遺跡C区におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO₂) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (藤原・杉山, 1984)。

2. 試料

試料は、A地点とB地点の2地点から採取された計13点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1g に対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g 添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550°C・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成

7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5} g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、タケ亜科は0.48である。

4. 分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1、図2に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) A地点（図1）

As-B直上層（試料1）からAs-Cの下層（試料8）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直上層（試料1）からAs-C直下層（試料6）までの各層からイネが検出された。

このうち、As-B直下層（試料2）では密度が6,100個/gと高い値であり、明瞭なピークが認められた。また、As-B直上層（試料1）、As-Bの下層（試料3）、Hr-FA混層（試料4）、As-C混層（試料5）でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-C直下層（試料6）では密度が700個/gと低い値であることから、直上のAs-C混層（試料5）からの混入の可能性が考えられる。

2) B地点（図2）

As-B直下層（試料1）からAs-Cの下層（試料5）までの層準について分析を行った。その結果、これらのすべての試料からイネが検出された。

このうち、As-B直下層（試料2）では密度が4,500個/gと比較的高い値であり、As-Bの下層（試料2）、Hr-FA混層（試料3）、As-C混層（試料4）でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-C直下層（試料6）では密度が800個/gと低い値であることから、直上のAs-C混層（試料4）からの混入の可能性が考えられる。

植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真
(倍率はすべて400倍)

No.	分類群	地点	資料名
1	イネ	A	5
2	キビ族型	A	6
3	ヨシ属	A	2
4	ススキ属型	A	8
5	ウシクサ族B	B	3
6	ネザサ節型	B	2

第4章 自然科学分析

表1 群馬県、波志江中野面遺跡C区におけるプラント・オパール分析結果
検出密度 (単位: $\times 100/g$)

分類群	学名	A地点								B地点				
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5
イネ	Oryza (domestic rice)	30	61	38	38	37	7			45	38	30	38	8
ヨシ属	Phragmites (reed)	15	23		8	52	22	83	106	30		22	15	53
ススキ属型	Miscanthus type	15	38	69		30	15	23	15	22	38	7	15	30
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	23	15	53	53	52	82	68	30	52	46	45	68	84

推定生産量 (単位: $kg/m^2 \cdot cm$)

イネ	Oryza (domestic rice)	0.89	1.79	1.12	1.10	1.10	0.22			1.32	1.12	0.88	1.12	0.22
ヨシ属	Phragmites (reed)	0.95	1.44		0.47	3.29	1.42	5.21	6.67	1.89		1.41	0.96	3.36
ススキ属型	Miscanthus type	0.19	0.47	0.85		0.37	0.19	0.28	0.19	0.28	0.47	0.09	0.19	0.38
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.11	0.07	0.26	0.25	0.25	0.40	0.32	0.14	0.25	0.22	0.21	0.33	0.40

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

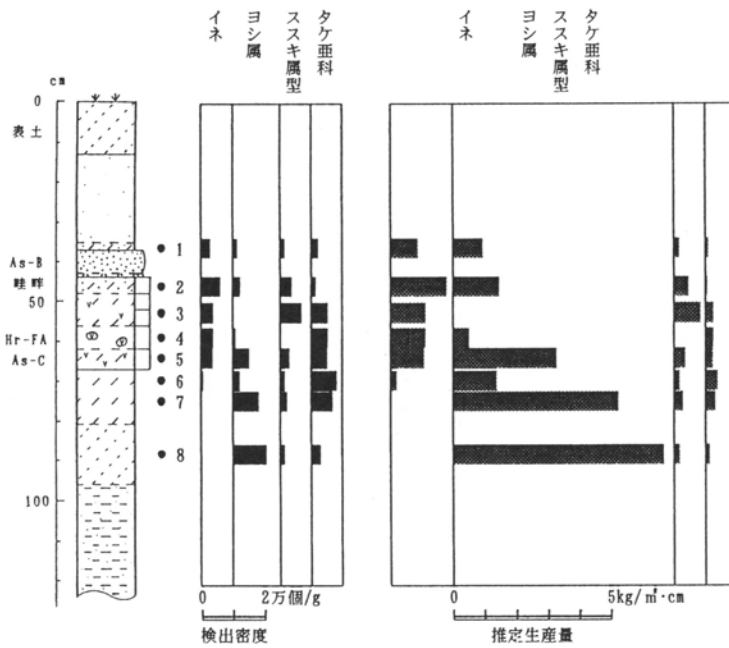


図1 中野面遺跡C区、A地点におけるプラント・オパール分析結果

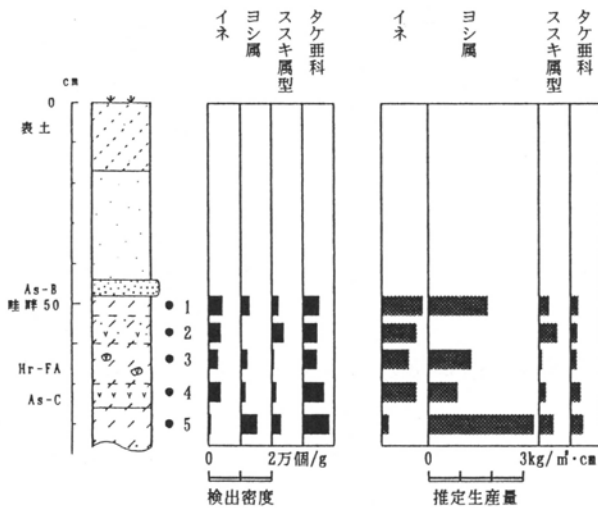


図2 中野面遺跡C区、B地点におけるプラント・オパール分析結果

第298図 波志江中野面遺跡C区プラント・オパール分析結果図

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は比較的湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、As-C直下層より下位ではヨシ属が圧倒的に卓越しており、As-C混層より上位ではイネが優勢となっていることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、As-C混層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことが考えられる。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、水田遺構が検出された浅間Bテフラ（As-B, 1108年）直下層からはイネが多量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、As-B直上層、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）混層、浅間C軽石（As-C, 4世紀中葉）混層などでも稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、As-C混層の時期に、そこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。

文献

藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

5. 波志江中野面遺跡 A 区23号住居跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

当遺跡は伊勢崎市波志江町二丁目に所在し、神沢川左岸の標高約79mの高台に立地している。縄文時代中期以来集落が営まれており生活の場であったことが発掘で明らかにされている。ここでは古墳時代前期の23号住居跡から出土した炭化材No.1～92の樹種同定結果を報告する。

2. 炭化材樹種同定の方法

試料は湿気を含み脆い状態であったのでまず自然乾燥した。次に炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で分類群のおおよその目安をたて分類し、横断面だけでは同定できない試料（アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリ以外）については、3方向の破断面の組織を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定する。またコナラ節やクヌギ節などでも、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い試料などは実体顕微鏡下では晩材部の特徴が識別しにくいことがありこのような試料も走査電子顕微鏡で同定を確認した。走査電子顕微鏡用の試料は、横断面の他に接線断面（板目）と放射断面（柁目）の平滑面を作り、この3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子製 JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

なおNo.48は2袋あり、その一つの（草?）と記されたビニール袋の試料中からは草本性のものは見あたらず、かろうじてコナラ節と判定できるものであった。

3. 結果

第4章 自然科学分析

同定結果を表1と表2に、産状を図1と図2に示した。表1と図1に示した試料は、住居跡の上面に分布していた炭化材であり、表2と図2は更に掘り下げた段階で出土した炭化材である。また、表3に出土した各分類群の試料数とその比率を比較した。

樹種同定結果は、コナラ節が最も多く66点(71.1%)であり、クヌギ節が19点(20.7%)、コナラ節またはクリが1点(1.1%)、コナラ節やクヌギ節とは異なるが保存が悪く同定できなかった広葉樹材が1点(1.1%)、保存が悪くまったく同定出来なかった試料(不可)が4点(5.4%)であった。コナラ節またはクリと同定されたNo44は、横断面の接線方向の幅が5mmしかなくその範囲では広放射組織が見られなかったためコナラ節とは確定できずクリである可能性もあるため、コナラ節またはクリと表示した。コナラ節とクヌギ節の材の出土状況は特に偏りは見られず、互いに近いところから双方が出土している。

以下に同定の根拠とした材組織の観察結果を記述し、代表的試料の電子顕微鏡写真をPL179に掲載した。

1)コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Q.* sect. *Prinus* ブナ科 PL179 1a.-1c.(No26)

年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、晩材部は薄壁で孔口が多角形の非常に小型管孔が火炎状に配列する環孔材。散在状、接線状の柔組織が顕著である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースが顕著である。放射組織はほぼ同性、単列と複合状のものがある。コナラ節はクリの材構造と類似するが、クリの放射組織は単列のみで複合状のものはない点で識別できる。試料No44には複合状放射組織が認められなかったが、微破片で横断面を広く観察できなかったため複合状の放射組織が無いとは言えずコナラ節とクリの識別ができなかった試料である。コナラ節は暖帯から温帯の山野や二次林に普通の落葉高木で、コナラ・カシワ・ナラガシワ・ミズナラがある。なおクリも北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。

2)コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Quercus* subgen. *Q.* sect. *Cerris* ブナ科 PL179 2a.-2c.(No28)

年輪の始めに大型の管孔が1～3層配列し、晩材部は厚壁で孔口が円形の非常に小型の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。散在状・短接線状の柔組織がある。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、チロースがある。放射組織は同性、単列と複合状のものがある。

クヌギ節は暖帯から温帯の山野や二次林に普通の落葉性高木で、クヌギとアベマキが含まれる。関東ではクヌギ、瀬戸内海沿岸地方にはアベマキが多い。

3)広葉樹材 broad-leaved wood PL179 3a.-3c.(No1)

試料は脆く組織の保存状況は悪い。年輪の始めに中型の管孔からなる孔圏部が見られ、晩材部では小型の管孔2～数個が複合し分布している。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～4細胞幅ほどである。ケヤキの可能性が高いが状況が悪く確定はできなかった。ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。

4. まとめ

古墳時代前期の23号住居から出土した炭化材は92試料中、コナラ節が最も多く66点で全体の71.1%を占め次にクヌギ節が19点(20.7%)で、この2分類群が全体の92.4%を占めていた。

このようにコナラ節が最優占し、クヌギ節も多い住居跡炭化材の構成は広く知られている。しかし、関東地方の古墳時代の住居建築材をまとめた資料を通覧すると、からなずしもコナラ節やクヌギ節ばかりではなく複数の落葉広葉樹が出土する住居跡もあり、またコナラ節が圧倒的に優占する住居跡とクヌギ節が最優占する住居跡の明瞭な違いも見られる(千野、1991)。鈴木ほか(1996)は現時点でのデータにもとづく推論であるがと断ったうえで、関東地域の住居建築材の樹種利用を考察した。そして、武蔵野台地東部地域ではク

ヌギ節が優占するが、関東平野内奥部の群馬県では総じてコナラ節が卓越し武蔵野台地東部とは建築部材の選択傾向が異なる可能性が考えられと記している。また、群馬県の場合はクヌギ節は、鋤や鋤などの農具用材に多用されていることが付け加え記されている。コナラ節が最優占する当遺跡の結果は、まさに鈴木ほか(1996)の指摘と一致する。しかし、当遺跡からほど近い光仙房遺跡(D区1号住、伊勢崎市三和町)や小八木志志貝戸遺跡(2区80号住、高崎市小八木町)の古墳時代前期の住居跡炭化材は、コナラ節よりクヌギ節が最優占する結果が得られている。近い地域でかつ同時期の住居跡の炭化材であっても利用樹種が随分と異なる例が明らかになってきた。コナラ節とクヌギ節は同じコナラ属コナラ亜属に属し材構造も生育地も類似しているため、この2つの分類群の間には特別な樹種選択は働いておらず、伐採する時に利用可能なものが多かった同一の分類群をその時どきを選択していたのかも知れない。住居建築材ではコナラ節もクヌギ節も使用されておりその利用割合は一つの住居内ではどちらかが最優占している場合が多いのに対し、群馬県下の農具の調査ではコナラ節はほとんど使われておらずクヌギ節が圧倒的に多く(山田、1986)明らかにクヌギ節が選択利用されているのとは対照的である。鈴木ほか(1996)は、竪穴住居址の樹種構成は一様であり方を示すわけではなく、むしろその差異こそが重要な事実を示唆すると記しているが、今後はこのような差異の意味する点を明らかにするにはどのような調査が必要であるかが課題として見えてきたように思われる。



図1 波志江中野面遺跡23号住居上面出土炭化材の産状と樹種
○はクヌギ節、△は広葉樹材、□は保存が悪く同定不可、
そのほかはコナラ節。

引用文献
千野裕道、1991、縄文時代に二次林はあったか-遺跡出土の植物性遺物からの検討-「研究論集 X」、214-249、東京都埋蔵文化財センター。
鈴木三男・能城修一・車崎正彦、1996、炭化材の樹種同定、「下戸塚遺跡の調査 弥生時代から古墳時代前期」、693-707、図版117-186、早稲田大学。
山田昌久、1993、「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史」、242p、植生史研究特別 第1号。

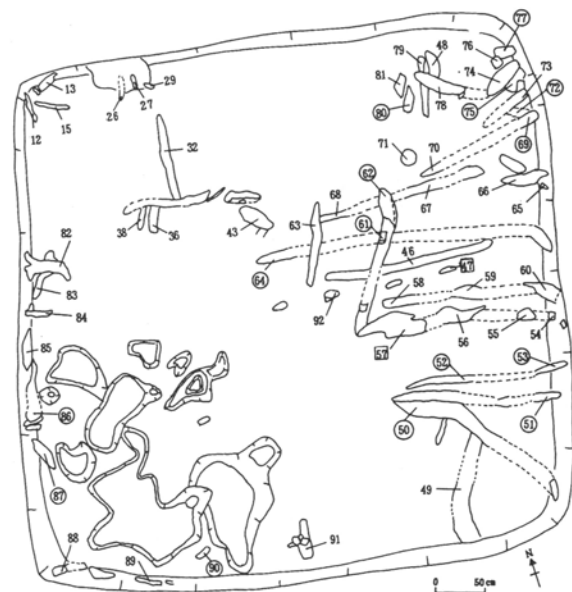


図2 波志江中野面遺跡23号住居下面出土炭化材の産状と樹種
○はクヌギ節、□は保存が悪く同定不可、そのほかはコナラ節。

第299図 波志江中野面遺跡A区23号住居跡炭化材の産状と樹種

第4章 自然科学分析

表1 波志江中野面遺跡23号住居(古墳時代前期)出土炭化材の樹種同定(平成9年度調査)

試料No	樹種	試料No	樹種	試料No	樹種
1	広葉樹材	17	コナラ節	33	コナラ節
2	コナラ節	18	コナラ節	34	コナラ節
3	コナラ節	19	不可	35	コナラ節
4	コナラ節	20	不可	36	コナラ節
5	クヌギ節	21	コナラ節	37	コナラ節
6	クヌギ節	22	コナラ節	38	コナラ節
7	コナラ節	23	コナラ節	39	不可
8	コナラ節	24	コナラ節	40	コナラ節
9	コナラ節	25	コナラ節	41	コナラ節
10	クヌギ節	26	コナラ節	42	コナラ節
11	コナラ節	27	クヌギ節	43	コナラ節
12	コナラ節	28	コナラ節	44	コナラ節またはクリ
13	コナラ節	29	コナラ節	45	コナラ節
14	コナラ節	30	コナラ節	46	コナラ節
15	コナラ節	31	コナラ節	47	不可
16	コナラ節	32	コナラ節	48	コナラ節

表3 検出された各分類群の試料点数と比率

分類群	試料点数	比率
コナラ節	66	71.7%
クヌギ節	19	20.7%
コナラ節またはクリ	1	1.1%
広葉樹	1	1.1%
不可	5	5.4%
合計	92	100.0%

表2 波志江中野面遺跡23号住居(古墳時代前期)出土炭化材の樹種同定(平成10年度調査)

試料No	樹種	試料No	樹種	試料No	樹種
49	コナラ節	64	クヌギ節	79	コナラ節
50	クヌギ節	65	コナラ節	80	クヌギ節
51	クヌギ節	66	コナラ節	81	コナラ節
52	クヌギ節	67	コナラ節	82	コナラ節
53	クヌギ節	68	コナラ節	83	コナラ節
54	コナラ節	69	クヌギ節	84	コナラ節
55	コナラ節	70	コナラ節	85	コナラ節
56	コナラ節	71	コナラ節	86	クヌギ節
57	不可	72	クヌギ節	87	クヌギ節
58	コナラ節	73	コナラ節	88	コナラ節
59	コナラ節	74	コナラ節	89	コナラ節
60	コナラ節	75	クヌギ節	90	クヌギ節
61	クヌギ節	76	コナラ節	91	コナラ節
62	クヌギ節	77	クヌギ節	92	コナラ節
63	コナラ節	78	コナラ節		

6. 波志江中野面遺跡出土土器および粘土類の材料分析

藤根 久・今村美智子 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

波志江中野面遺跡は、伊勢崎市波志江地内に所在する古墳時代の遺構などからなる台地上遺跡である。調査では、周溝墓や住居跡とともに東海系のS字状口縁台付甕や南関東系の単口縁台付甕なども出土している。一般的に、土器や埴輪などの胎土材料は、粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、材料粘土は元の粘土に含まれていた微化石類がそのまま保存されることから、顕微鏡を用いた微化石類の記載により粘土の種類について検討することができる(車崎ほか、1996)。また、混和材についても砂粒物の岩石学的な記載のほか、その他の混入物についても検討することができる。こうした材料の検討は、土器製作の基本的な材料情報を得ると同時に、製作技法の一端を知る手がかりになると考えられる。

ここでは、甕類や土釜あるいは甕材などの粘土類について、粘土あるいは砂粒の特徴について検討した。

2. 試料と方法

検討した試料は、古墳時代前期の甕14試料、平安時代の土釜2試料、甕材粘土など6試料である(表1)。

ここでは、土器胎土や粘土、甕材の特徴を最大限に引き出すために、薄片を作成し、偏光顕微鏡による観察による方法を行った。各試料は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片(プレパラート)を作成した。なお、甕と土釜は、予め実体顕微鏡を用いて表面や断面あるいは切断面について砂粒物などについて観察した。また、甕材などの粘土類は、電気炉において750°Cで6時間焼成した。

(1)試料は、岩石カッターなどで2×3cm程度の大きさに整形し、恒温乾燥機により乾燥した。乾燥後、スライドガラスに貼り付け、平面全体にエポキシ樹脂を含浸させ固化処理を行った。

(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドガラスに接着した。

(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

各薄片試料は、偏光顕微鏡下300倍で分類群ごとに同定・計数した。同定・計数は、100 μ m格子目盛を用いて任意の位置における約50 μ m(0.5mm)以上の鉱物や複合鉱物類(岩石片)あるいは微化石類(50 μ m前後)を対象とし、微化石以外の粒子が約100個以上になるまで同定・計数した。また、この計数とは別に、薄片全面について微化石類(放散虫化石、珪藻化石、骨針化石、孢子化石)や大型粒子などの特徴についても観察・記載した。

3. 分類群の記載

細礫～砂サイズ以下の粒子を偏光顕微鏡により同定する場合、粒子が細粒であるため同定が困難である場合が多い。特に、岩石片については、岩石片中に含まれる鉱物数がきわめて少ないため、岩石名を決定することが事実上不可能である場合が多い。ここでは岩石名を付けず、岩石片を構成する鉱物や構造的な特徴に基づいて分類する(菱田ほか、1993)。なお、埴輪胎土の特徴を抽出するために、鉱物や岩石片以外の生物起源の粒子(微化石類)も同時に計数した。ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。なお、各鉱物の光学的性質についてはその記述を省略する。

[放散虫化石]

放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊性珪藻化石とともに外洋性堆積物中によく見られる。

第4章 自然科学分析

[骨針化石]

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

[珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10～数百 μm 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉(1988)や安藤(1990)によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石(海水種)・珪藻化石(汽水種)・珪藻化石(淡水種)と分類し、同定できないものは珪藻化石(?)とした。なお、各胎土中の珪藻化石の詳細については、計数外の特徴とともに記載した。

[植物珪酸体化石]

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10～50 μm 前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

[孢子化石]

孢子状粒子は、珪酸質と思われる直径10～30 μm 程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

[石英・長石類]

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類(含雲母類)は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

[長石類]

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などの $\text{SiO}_2\%$ の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などの $\text{SiO}_2\%$ の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼的にビールびんのような淡褐

色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO₂%が少ない深成岩、SiO₂%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石(主に普通輝石)は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主として SiO₂%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO₂%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

[角閃石類]

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような SiO₂%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

[ザクロ石類]

薄片では、無色透明でころころとした形状の鉱物である。ザクロ石類は、結晶片岩や片麻岩などの変成岩類中に含まれ、酸性の安山岩中にも含まれる。

[ガラス]

透明の非結晶の物質で、電球ガラスの破片のような薄くて湾曲したガラス(バブル・ウォール型)や小さな泡をたくさんもつガラス(軽石型)などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

[複合鉱物類]

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類(含雲母類)、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類(含輝石類)、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類(角閃石類)とした。

[斑晶質・完晶質]

斑晶質は斑晶(鉱物の結晶)状の部分と石基状のガラス質の部分とが明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

[凝灰岩質]

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山砕屑物が固化したものであり、非晶質でモザイクな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変化する。溶結凝灰岩とは、高温で固結した凝灰岩で流理構造状の組織が見られる。

[複合石英類]

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質(マトリックス)の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細とし、0.01~0.05mmのものを小型、0.05~0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類(等粒)として分類した。この複合石英類(等粒)は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

[片理複合鉱物類]

複合石英類で、個々の石英あるいは長石類が一定方向に伸びたように平行に配列しているものをいう。なお、これら石英などの粒子の隙間に黄色などの二次的な鉱物(主に雲母類)が見られるものを片理複合鉱物類(含雲母類)とする。

[砂岩質・泥岩質]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの中に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

[不透明・不明]

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

4. 各胎土の特徴および計数の結果

胎土中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した(表2)。また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

No.1 : 60~800 μ mが多い(最大粒径2.1mm)。斑晶質>角閃石類>斜長石(双晶)>複合石英類(微細)、斜方輝石、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質、珪藻化石(淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Cymbella aspera*、*Eunotia pectinalis* var.undulata、*Stauroneis phoenicenteron*、*Eunotia pectinalis* var.minor、*Eunotia praerupta* var.bidens、湖沼浮遊生指標種群 *Melosira granulata*、淡水種 *Navicula americana*、*Amphora ovalis*、*Caloneis silicula*、*Cymbella minuta*、*Eunotia monodon*、*Eunotia biareofera*、*Surirella* 属、*Pinnularia* 属多産、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Navicula* 属、*Cymbella* 属、不明種多産)、骨針化石、孢子化石多産、植物珪酸体化石

No.2 : 80 μ m~1.2mmが多い(最大粒径2.2mm)。片理複合石英類>複合石英類>砂岩質>石英・長石類>斜長石(双晶)、斜方輝石、単斜輝石、斑晶質、ガラス質、珪藻化石(淡水種 *Pinnularia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.3 : 50~700 μ mが多い(最大粒径1.2mm)。片理複合石英類>石英・長石類>複合石英類>砂岩質>斜長石(双晶)、斜方輝石、ガラス質、凝灰岩質、珪藻化石(淡水種 *Pinnularia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.4 : 90~800 μ mが多い(最大粒径1.5mm)。斑晶質>複合石英類(微細)>斜長石(双晶)>角閃石類、斜方輝石、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質(軽石型含む)、珪藻化石(淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Pinnularia viridis*、*Cymbella aspera*、*Eunotia praerupta* var.bidens、淡水種 *Rhopalodis gibberula*、*Surirella* 属、*Pinnularia* 属多産、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種多産)、骨針化石、孢子化石多産、植物珪酸体化石

No.5 : 60~800 μ mが多い(最大粒径950 μ m)。複合石英類(微細)>砂岩質>石英・長石類>片理複合石英類>複合石英類、斜長石(双晶)、斜方輝石、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質(軽石型含む)、放散虫化石(1個体)、珪藻化石(淡水種 *Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種)、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.6 : 100 μ m~1.2mmが多い(最大粒径1.8mm)。斑晶質>斜長石(双晶)>複合石英類(微細)>斜方輝石、角閃石類、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質(軽石型)、珪藻化石(淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Pinnularia viridis*、*Neidium iridis*、*Cymbella aspera*、*Eunotia pectinalis* var.undulata、*Stauroneis phoenicenteron*、湖沼浮遊生指標種群 *Melosira ambigua*、淡水種 *Navicula americana*、*Amphora ovalis*、*Pinnularia* 属多産、*Surirella* 属、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Navicula* 属、*Cymbella* 属、不明種極多産)、孢子化石多産、骨針化石、植物珪酸体化石

No.7 : 80 μ m~1.0mmが多い(最大粒径1.6mm)。斑晶質>複合石英類(微細)>斜長石(双晶)-ガラス付着

石英・長石類〉角閃石類、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質（軽石型）、珪藻化石（淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Pinnularia viridis*、*Neidium iridis*、*Cymbella aspera*、*Stauroneis phoenicenteron*、淡水種 *Surirella* 属、*Pinnularia* 属多産、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種極多産）、骨針化石、孢子化石多産、植物珪酸体化石

No.8：70～800 μm が多い（最大粒径1.5mm）。複合石英類（微細）〉石英・長石類〉砂岩質〉片理複合石英類〉複合石英類、斜長石（双晶）、斜方輝石、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質、放散虫化石（4個体）、珪藻化石（海水種 *Coscinodiscus* 属/*Thalassiosira* 属、淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Eunotia pectinalis* var. *undulata*、淡水種 *Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種）、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.9：90～700 μm が多い（最大粒径1.6mm）。砂岩質〉複合石英類（微細）〉石英・長石類〉複合石英類〉斑晶質、片理複合石英類、斜長石（双晶）、斜方輝石、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質（軽石型含む）、放散虫化石（7個体）、珪藻化石（淡水種 *Pinnularia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種）、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.10：90～800 μm が多い（最大粒径1.5mm）。斑晶質〉角閃石類〉斜長石（双晶）〉凝灰岩質、斜方輝石、単斜輝石、ガラス質（軽石型）、斜長石（累帯）、珪藻化石（淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Cymbella aspera*、*Eunotia praerupta* var. *bidens*、*Stauroneis phoenicenteron*、淡水種 *Rhopalodia gibberula*、*Stauroneis acuta*、*Pinnularia* 属多産、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種多産）、孢子化石多産、骨針化石、植物珪酸体化石

No.11：80～900 μm が多い（最大粒径2.3mm）。斜長石（双晶）〉斑晶質〉複合石英類（微細）〉斜方輝石、角閃石類、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質、珪藻化石（淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Pinnularia viridis*、*Cymbella aspera*、*Eunotia praerupta* var. *bidens*、*Stauroneis phoenicenteron*、淡水種 *Cymbella cuspidata*、*Amphora ovalis*、*Pinnularia* 属多産、*Surirella* 属、*Nitzschia* 属、*Eunotia* 属、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、不明種極多産）、孢子化石多産、骨針化石、植物珪酸体化石

No.12：80～700 μm が多い（最大粒径1.2mm）。斜長石（双晶）〉斑晶質〉斜方輝石〉角閃石類、複合石英類（微細）、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質、珪藻化石（淡水種 *Diploneis yatukaensis*、*Diploneis* 属、*Pinnularia* 属、*Cymbella* 属、*Eunotia* 属、不明種多い）、孢子化石、植物珪酸体化石、植物珪酸体塊

No.13：70～800 μm 前後が多い（最大粒径1.5mm）。単斜輝石〉斜長石（双晶）〉斑晶質〉複合石英類（微細）〉斜長石（累帯）、角閃石類、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質、珪藻化石（淡水種 *Synedra ulna*、*Pinnularia* 属、*Cymbella* 属、不明種）、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No.14：60～700 μm が多い（最大粒径2.6mm）。斑晶質〉斜長石（双晶）〉角閃石類〉複合石英類（微細）斜方輝石、単斜輝石、凝灰岩質、ガラス質（軽石型含む）、珪藻化石（淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Pinnularia viridis*、*Cymbella aspera*、*Eunotia pectinalis* var. *undulata*、淡水種 *Rhopalodia gibberula*、*Pinnularia* 属、*Cymbella* 属、不明種多産）、孢子化石、植物珪酸体化石

No.15：80～700 μm が多い（最大粒径1.6mm）。ガラス質〉斜長石（双晶）〉単斜輝石、斜方輝石、斑晶質、珪藻化石（淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Cymbella aspera*、*Neidium iridis*、*Cymbella ehrenbergii*、淡水種 *Opephora martii*、*Surirella* 属、*Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、*Cymbella* 属、不明種多産）、孢子化石、植物珪酸体化石

No.16：60～800 μm が多い（最大粒径1.2mm）。ガラス質〉斜長石（双晶）〉斑晶質〉複合石英類（微細）〉単斜

第4章 自然科学分析

輝石、斜方輝石、珪藻化石（淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Cymbella aspera*、*Stauroneis phoenicenteron*、陸域指標種群 *Pinnularia borealis*、淡水種 *Rhopalodia gibberula*、*Pinnularia cardinaliculus*、*Diploneis yatukaensis*、*Eunotia* 属、*Pinnularia* 属、不明種極多産）、孢子化石多い、植物珪酸体化石

No17：200～400 μm が多い（最大粒径4.3mm）。斑晶質〉斜長石（双晶）〉斜方輝石、角閃石類、単斜輝石、珪藻化石（不明種）、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No18：100～250 μm が多い（最大粒径3.1mm）。斑晶質〉斜長石（双晶）〉斜方輝石、単斜輝石、角閃石類、ガラス、珪藻化石（淡水種 *Synedra ulna*、*Rhopalodia gibberula*、*Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、*Melosira* 属、不明種）、骨針化石、孢子化石、植物珪酸体化石

No19：100～200 μm が多い（最大粒径3.8mm）。斑晶質〉斜方輝石〉単斜輝石〉斜長石（双晶）〉角閃石類、ガラス質（軽石型含む）、珪藻化石（淡水種 *Synedra ulna*、*Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、*Surirella* 属、不明種多産）、孢子化石、植物珪酸体化石

No20：100～500 μm が多い（最大粒径7.6mm）。斑晶質〉斜長石（双晶）〉単斜輝石〉角閃石類、ガラス質、発泡斑晶質、完晶質、複合石英類（微細）、珪藻化石（陸域指標種群 *Navicula mutica*、淡水種 *Diploneis yatukaensis*、*Synedra ulna*、*Eunotia* 属、*Melosira* 属、*Cymbella* 属、不明種多産）、孢子化石、植物珪酸体化石

No21：200～400 μm が多い（最大粒径3mm）。斑晶質〉単斜輝石〉斜長石（双晶）〉斜方輝石、角閃石類、珪藻化石（淡水沼沢湿地付着生指標種群 *Cymbella aspera*、淡水種 *Synedra ulna*、*Eunotia* 属、不明種多い）、孢子化石、植物珪酸体化石

No22：50～350 μm が多い（最大粒径3mm）。斑晶質〉斜長石（双晶）〉単斜輝石〉斜方輝石、角閃石類、ガラス質（軽石質）、珪藻化石（淡水種 *Synedra ulna*、*Pinnularia* 属、*Eunotia* 属、不明種）、孢子化石、植物珪酸体化石

5. 化石による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10～数100 μm （実際観察される珪藻化石は大きいもので150 μm 程度）、骨針化石が10～100 μm 前後である（植物珪酸体化石が10～50 μm 前後）。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μm 以下、シルトが約3.9～62.5 μm 、砂が62.5 μm ～2mmである（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は土器胎土、竈材の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれていること、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

検討した胎土は、微化石類により、a)淡水成粘土、b)水成粘土に分類される。以下では、分類された粘土についてその特徴を述べる。

a)淡水成を用いた胎土および粘土類（No.1～16、No.18～22）

これらの胎土あるいは粘土類中は、淡水種珪藻化石が特徴的に含まれていた。特に、No.1、No.4、No.6、No.7、No.10、No.11、No.16の胎土では、沼沢湿地付着生指標種群 *Pinnularia viridis* や *Eunotia pectinalis* var. *undulata* などの珪藻化石が特徴的に含まれ、沼沢湿地環境で堆積した粘土質堆積物の特徴を示している。

なお、これら沼沢湿地成粘土を用いた胎土中には、球状やラグビーボール状の孢子化石が特徴的に多く含まれていた。これ以外の胎土では、沼沢湿地などで見られる *Pinnularia* 属の珪藻化石が含まれていることから、類似した環境で堆積した粘土（表3では沼沢湿地類とした）と推定される。

b)水成粘土 (No.8)

この粘土中には、少ないものの不明種珪藻化石や骨針化石が含まれていた。

6. 砂粒組成による分類

甕胎土および粘土類中には、比較的大きな岩石片が含まれている。これら岩石片を対象として起源岩石を推定した。岩石の推定は、砂岩質と複合石英類（微細）を堆積岩類、斑晶質と完晶質を火山岩類、複合鉍物類（含輝石類）や複合石英類（大型）などを深成岩類、凝灰岩質を凝灰岩類、ガラス質をテフラ、として推定した。

推定した岩石群から、片岩類を主体として堆積岩類などを含むA群、堆積岩類を主体として片岩類や火山岩類などを含むB群、火山岩類を主体として堆積岩類などを含むC群（粘土類はC 0群とした）、に分類された。なお、堆積岩類を主体として片岩類を含むB群は、片岩類を特徴的に含むA群に近い組成と考えられる。また、火山岩類とした粒子は、軽石やスコリアなどのテフラ起源の粒子である可能性もある。

S字状口縁台付甕では、片岩類を特徴的に含むA群が2胎土、堆積岩類を特徴的に含むB群が3胎土、火山岩類を特徴的に含むC群が6胎土であった。その他の甕類および土釜は、いずれも火山岩類を特徴的に含むC群であった。一方、粘土類は、いずれも火山岩類を特徴的に含むC 0群に分類された（表3）。

7. 考察

ここで検討したS字状口縁台付甕は、肉眼的に輝石類・角閃石類が特徴的に含まれる胎土とそうでない胎土とが見られた。これら輝石類・角閃石類を特徴的に含む胎土は、顕微鏡観察により火山岩類を特徴的に含む胎土であり、含まれる輝石類はこれら火山岩類に由来する鉍物群であることが推定される。また、こうした特徴をもつ胎土は、沼沢湿地付着生指標種群の珪藻化石を特徴的に多く含む粘土であることが分かった。一方、輝石類・角閃石類を特徴的には含まない胎土は、砂粒組成においてA群やB群に属する片岩類を含む胎土であった。また、これらは淡水種珪藻化石を含むことから淡水成粘土を利用した土器であった。なお、No.5やNo.8あるいはNo.9の胎土中には、放散虫化石を特徴的に含んでいたことから、外洋成粘土層が分布する地域であることが推定される。

その他の甕類は、S字状口縁台付甕と同様に火山岩類を特徴的に含むC群であるが、含まれる珪藻化石はS字状口縁台付甕のように特によくはない。No.15やNo.16の土釜胎土は、ガラス質を多く含む火山岩類を主体とした組成を示し、淡水成粘土あるいは沼沢湿地成粘土である。

最近、波志江中宿遺跡の発掘調査において、古墳時代の粘土採掘坑が多数検出された（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会、1999）。これら採掘の対象粘土層は、AT火山灰降灰以前の水成堆積した黒色土であることが分かった。こうした堆積物中には沼沢湿地付着生指標種群の珪藻化石が多量に含まれていた。少なくとも肉眼的に輝石類・角閃石類が多く含まれ、沼沢湿地指標種群の珪藻化石を特徴的に多く含まれる土器群は、同様の地質条件を持つ地域において採掘された粘土を利用したことが推定される。なお、砂粒組成において、火山岩類を主体としたC群の組成を示す土器においても、その組成から比較的近い地域の材料が予想される。

波志江中宿遺跡の粘土採掘坑においては、対象とした粘土層の上位に浅間火山の粘土化したテフラ層（軽石層As-BPなど）が見られた。これらテフラ層中には輝石類が多く含まれ、粘土化により単体鉍物として見られる。No.1やNo.4などの沼沢湿地成粘土を用いた土器は、対象とした粘土層中では砂粒物が少なく、輝石類がほとんど含まれていないことから、これら粘土化したテフラ層を混和した可能性が考えられる。

なお、砂粒として片岩類を含む胎土や放散虫化石を含む胎土は、赤城山麓周辺では地層として分布しないこ

第4章 自然科学分析

とから、他地域の材料である。こうした地質特性を示す地域は、県内において藤岡から富岡地域に分布する前期～中期中新世（中新世は約520～2,300万年前）の富岡層群が予想される（新井、1964；松丸、1977）。この富岡層群は、下位から牛伏層・小幡層・井戸沢層・原田篠層・庭谷層・吉井層・板鼻層に区分され、小幡層・井戸沢層・原田篠層・庭谷層・吉井層は、有孔虫化石の産出により外洋域で堆積した海成層である（松丸、前出）。これら海成層中には、放散虫化石が入り得る。一方、この富岡層群が分布する南側地域では、片岩類から構成される三波川変成帯が隣接している（第301図）。こうしたことから、放散虫化石の出現と片岩類の出現は、相関が高いと考えられ、Na.5やNa.8あるいはNa.9の土器は、こうした地域の材料の特徴を示していると言える。

竈材などの粘土類は、概ね淡水種珪藻化石を特徴的に含むことから淡水成粘土である。なお、火山岩類からなる砂粒物から構成されるが、台地を形成するローム質物中の砂粒物が混入しているものとする。

なお、12号および17号住居跡から出土したS字状口縁台付甕は、輝石類・角閃石類を特徴的に含む沼沢湿地成粘土を用いた胎土、片岩類を特徴的に含む淡水成粘土を用いた胎土の2種類の土器が同時に出土しているが、これらは明らかに異なった地域において作られた土器であることから、少なくとも2箇所の異なった地域で作られた土器が存在することとなる。

8. おわりに

ここでは、出土土器および住居跡から出土した粘土類について、粘土の種類や含まれる砂粒について検討した。その結果、輝石類・角閃石類を特徴的に含む沼沢湿地成粘土を用いた胎土、片岩類を特徴的に含む淡水成粘土を用いた胎土、片岩類や放散虫化石を特徴的に含む淡水成粘土を用いた胎土などが分かった。輝石類・角閃石類を特徴的に含む沼沢湿地成粘土を用いたS字状口縁台付甕は、近接する波志江中宿遺跡のような地質条件を持つ地域において採掘された材料である可能性が推定された。こうした点については、類似した粘土採掘坑の実例を待ちたい。一方、片岩類や放散虫化石を含む土器は、藤岡・富岡周辺域の特徴を示していると考えられる。

こうしたことから、12号および17号住居跡から出土したS字状口縁台付甕は、少なくとも2箇所の異なった地域で作られた土器が同時に存在することとなる。

引用文献

- 新井房夫(1964)群馬県の地質と地下資源。20万分1 群馬県地質図解説書64p、内外地図株式会社。
安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理、42, 2, 73-88。
地学団体研究会・地学事典編集委員会編(1981)「増補改訂 地学事典」、平凡社、1612p。
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県教育委員会(1999)波志江西宿遺跡・波志江中宿遺跡現場説明会資料。
菱田 量・車崎正彦・松本 完・藤根 久(1993)岩石学的方法に基づく胎土分析について-弥生時代後期の土器を例にして-。日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集、34-35。
小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究、27, 1-20。
車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子(1996) (39)土器胎土の材料-粘土の起源を心中に-。日本考古学協会第62回大会研究発表要旨、153-156。
松丸国照(1977)関東山地北縁～北東縁の新第三系の層序。地質学雑誌、83、4、213-225。

表1 土器および粘土とその肉眼的特徴

No.	器種および種類	遺構	遺物No.	色相、明度/彩度	色	表面の特徴	切断面の特徴
1	S字状口縁台付甕	A区12号住居	4	2.5Y 7/3	浅黄	輝石・角閃石類多い	中黒層有り
2	S字状口縁台付甕	A区12号住居	5	2.5Y 7/4	浅黄	黒灰、白色粒子含む	
3	S字状口縁台付甕	A区12号住居	6	10YR 6/4	にぶい黄橙	細粒雲母類多い	
4	S字状口縁台付甕	A区14号住居	7	2.5Y 7/1	灰白	黒色粒子、輝石・角閃石類目立つ	
5	S字状口縁台付甕	A区17号住居	34	2.5Y 7/4	浅黄	黒灰、乳白、透明色粒子	中黒層有り
6	S字状口縁台付甕	A区17号住居	35	2.5Y 7/3	浅黄	輝石・角閃石類多い	中黒層有り
7	S字状口縁台付甕	A区17号住居	36	2.5Y 7/2	灰黄	輝石・角閃石類多い	中黒層有り
8	S字状口縁台付甕	A区17号住居	37	10YR 7/6	明黄褐	黒灰、乳白色粒子	中黒層有り
9	S字状口縁台付甕	A区17号住居	43	2.5Y 6/1	浅灰	黒灰、乳白色粒子	中黒層有り
10	S字状口縁台付甕	A区24号住居	2	10YR 6/4	にぶい黄橙	輝石・角閃石類多い、白色粒子	
11	S字状口縁台付甕	A区24号住居	3	2.5Y 8/3	浅黄	輝石・角閃石類多い、白色粒子、軽石様	中黒層有り
12	単口縁台付甕	A区7号周溝墓	29	7.5YR 7/2	明褐灰	輝石・角閃石類目立つ	中黒層有り
13	複合口縁甕	A区7号周溝墓	33	7.5YR 6/2	灰褐	輝石・角閃石類多い	乳白色粒子
14	千種甕	A区7号周溝墓	32	5YR 6/4	にぶい橙	輝石・角閃石類目立つ	
15	土釜	A区3号住居	3	10YR 8/4	浅黄橙	輝石・角閃石類多い	
16	土釜	A区7号住居	4	7.5YR 7/4	にぶい橙	輝石・角閃石類多い	
17	床下粘土	A区3号住居床下	—	2.5Y 5/4	黄褐	—	砂質
18	甕材粘土	A区7号住居	—	10YR 7/4	にぶい黄橙	—	砂質
19	床下粘土	A区7号住居床下	—	2.5Y 5/3	黄褐	—	砂質
20	床下粘土	A区8号住居床下	—	2.5Y 6/1	黄灰	—	砂質
21	床下粘土	A区53号住居床下	—	2.5Y 6/2	黄灰	—	砂質
22	甕材粘土	A区57号住居	—	2.5Y 4/4	オリーブ褐	—	砂質

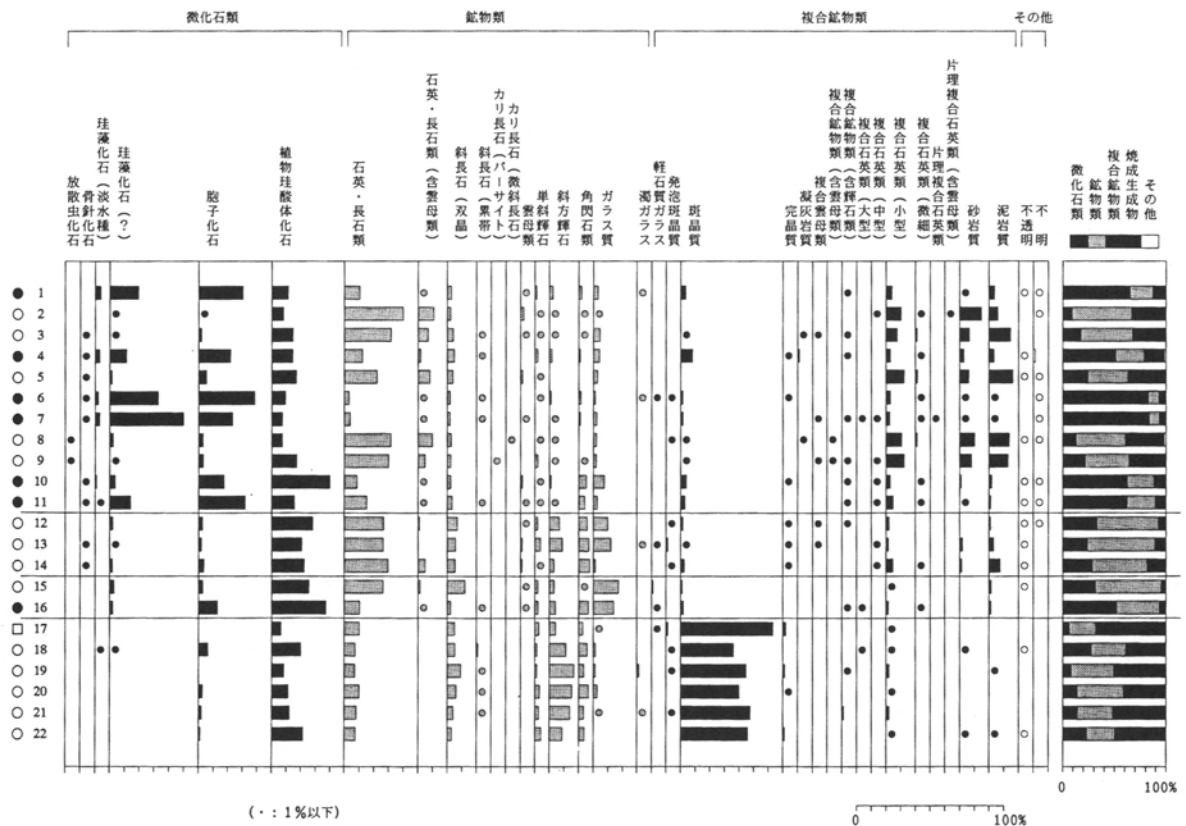
表2 土器胎土および粘土類中の粒子組成

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
微化石類																							
放射虫化石	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
骨針化石	—	—	1	1	1	1	1	—	—	1	1	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
珪藻化石(淡水種)	19	—	—	12	—	18	29	—	—	4	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	
珪藻化石(?)	93	1	1	43	3	263	455	5	2	14	69	6	1	5	8	6	—	1	—	—	—	—	
胞子化石	144	1	5	84	11	309	213	7	8	68	156	8	5	10	8	39	—	12	—	4	3	2	
植物珪酸体化石	54	18	36	56	36	75	65	17	43	156	77	82	52	64	70	112	9	39	12	17	18	35	
鉱物類																							
石英・長石類	48	89	78	46	47	26	35	74	75	33	73	78	66	84	72	31	14	14	10	15	12	12	
石英・長石類(含雲母類)	2	24	17	7	17	5	5	23	12	1	4	3	—	14	4	3	—	—	—	—	—	—	
斜長石(双晶)	13	5	10	18	8	16	17	6	6	9	16	20	14	15	33	7	7	10	13	9	6	5	
斜長石(累帯)	—	—	1	1	—	2	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	2	—	2	1	1	—	
カリ長石(パーサイト)	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
カリ長石(微斜長石)	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
雲母類	1	5	2	—	3	—	1	—	5	1	2	3	3	2	1	—	—	—	—	—	—	—	
単斜輝石	6	2	2	8	1	3	—	1	5	1	3	6	10	1	6	7	4	3	2	5	4	7	
斜斜輝石	12	1	1	7	—	10	2	2	4	4	20	22	9	9	13	6	22	24	23	21	14	—	
角閃石類	9	2	1	4	—	12	10	—	1	20	20	17	17	21	2	4	11	5	10	5	6	—	
ガラス質	15	1	11	16	6	10	20	5	5	29	13	29	30	4	47	42	1	3	2	4	1	—	
濁ガラス	1	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	2	—	—	
複合鉱物類																							
軽石質ガラス	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	3	1	1	—	—	—	—	
発泡班晶質	—	—	—	—	—	2	—	1	—	—	—	1	3	1	—	—	2	1	1	—	1	—	
班晶質	16	—	2	31	—	12	15	1	2	15	14	5	1	7	3	6	89	70	64	60	71	74	
完晶質	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—	1	1	1	—	—	3	—	2	1	—	2	
凝灰岩質	—	—	1	4	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
複合雲母類	—	—	2	—	—	—	1	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
複合鉱物類(含雲母類)	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
複合鉱物類(含輝石類)	1	—	1	2	—	—	1	—	1	1	1	—	—	—	1	—	—	—	1	—	2	—	
複合石英類(大型)	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	
複合石英類(中型)	—	1	—	—	—	—	1	—	1	1	1	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
複合石英類(小型)	19	23	19	11	26	23	23	25	31	11	23	6	4	13	1	5	1	1	3	1	3	1	
複合石英類(微細)	—	2	3	2	3	3	2	3	—	1	1	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	
片理複合石英類	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
片理複合石英類(含雲母類)	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
砂岩質	2	33	16	11	13	2	3	24	20	4	1	—	5	4	—	—	—	1	—	—	—	1	
泥岩質	17	13	36	13	34	6	6	32	32	7	6	3	8	21	4	4	—	—	1	—	—	1	
その他																							
不透明	1	—	—	1	1	—	—	2	—	1	1	1	1	2	1	—	—	1	—	—	—	1	
不明	3	1	—	5	1	3	3	2	—	3	3	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総ポイント数	476	223	246	384	211	806	911	234	250	390	490	292	249	283	273	302	141	193	143	150	149	161	

第4章 自然科学分析

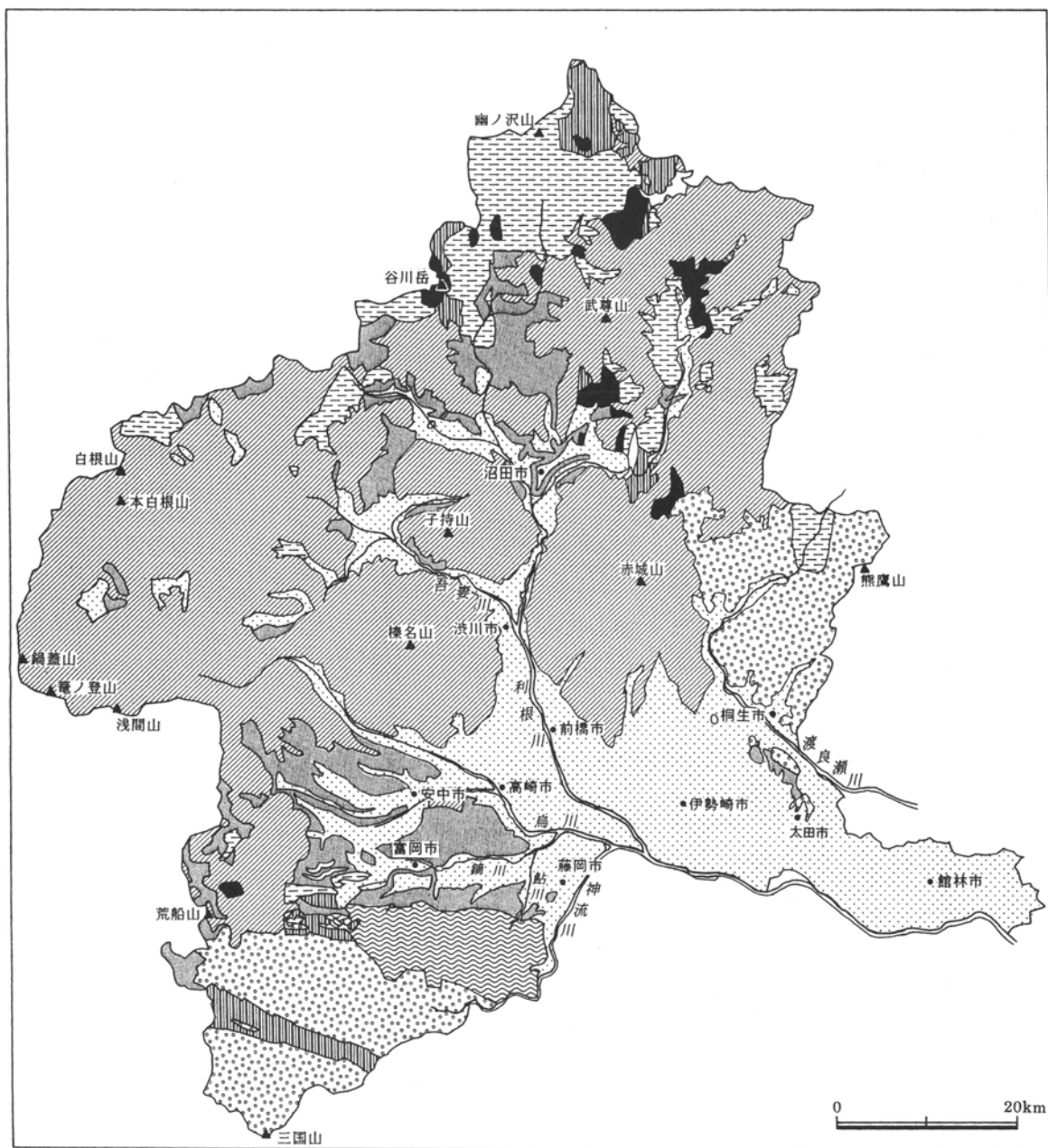
表3 出土土器胎土および粘土類の粘土と砂粒の特徴(粘土の種類)の書きは珪藻化石が少ないことを示す)

No.	器種および種類	遺構	遺物No.	粘土の特徴			砂粒の特徴		材料の在地性
				分類	種類	特徴	分類	砂粒の組成(硬質)は稀な場合、□は稀	
1	S字状口縁台付甕	A区12号住居	4	●	淡水成	沼沢湿地成	C	火山岩類>堆積岩類>テフラ、凝灰岩類	波志江中宿的材料
2	S字状口縁台付甕	A区12号住居	5	○	(淡水成)	沼沢湿地類	A	片岩類>堆積岩類、火山岩類、テフラ	藤岡・富岡地域
3	S字状口縁台付甕	A区12号住居	6	○	(淡水成)	沼沢湿地類	A	片岩類>堆積岩類>火山岩類、凝灰岩類、テフラ	藤岡・富岡地域
4	S字状口縁台付甕	A区14号住居	7	●	淡水成	沼沢湿地成	C	火山岩類>堆積岩類>テフラ、凝灰岩類	波志江中宿的材料
5	S字状口縁台付甕	A区17号住居	34	○	淡水成	沼沢湿地類	B	堆積岩類>片岩類>火山岩類、凝灰岩類、テフラ	藤岡・富岡地域
6	S字状口縁台付甕	A区17号住居	35	●	淡水成	沼沢湿地成	C	火山岩類>堆積岩類>テフラ、凝灰岩類	波志江中宿的材料
7	S字状口縁台付甕	A区17号住居	36	●	淡水成	沼沢湿地成	C	火山岩類>堆積岩類>テフラ、凝灰岩類	波志江中宿的材料
8	S字状口縁台付甕	A区17号住居	37	○	淡水成	沼沢湿地類	B	堆積岩類>片岩類>火山岩類、凝灰岩類、テフラ	藤岡・富岡地域
9	S字状口縁台付甕	A区17号住居	43	○	淡水成	沼沢湿地類	B	堆積岩類>火山岩類>片岩類、凝灰岩類、テフラ	藤岡・富岡地域
10	S字状口縁台付甕	A区24号住居	2	●	淡水成	沼沢湿地成	C	火山岩類>堆積岩類、凝灰岩類、テフラ	波志江中宿的材料
11	S字状口縁台付甕	A区24号住居	3	●	淡水成	沼沢湿地成	C	火山岩類>堆積岩類>凝灰岩類、テフラ	波志江中宿的材料
12	単口縁台付甕	A区7号周溝墓	29	○	淡水成	沼沢湿地類	C	火山岩類>テフラ>堆積岩類、凝灰岩類	在地材料
13	複合口縁甕	A区7号周溝墓	33	○	淡水成	沼沢湿地類	C	火山岩類>テフラ>堆積岩類、凝灰岩類	在地材料
14	千種甕	A区7号周溝墓	32	○	淡水成	沼沢湿地類	C	火山岩類>テフラ>堆積岩類、凝灰岩類	在地材料
15	土釜	A区3号住居	3	○	淡水成	沼沢湿地類	C	テフラ>火山岩類>[堆積岩類、凝灰岩類]	在地材料
16	土釜	A区7号住居	4	●	淡水成	沼沢湿地成	C	テフラ>火山岩類>堆積岩類、凝灰岩類	波志江中宿的材料
17	床下粘土	A区3号住居床下	—	□	(水成)		CO	火山岩類>テフラ	
18	甕材粘土	A区7号住居	—	○	淡水成	沼沢湿地類	CO	火山岩類>テフラ	
19	床下粘土	A区7号住居床下	—	○	淡水成	沼沢湿地類	CO	火山岩類>テフラ	
20	床下粘土	A区8号住居床下	—	○	淡水成	沼沢湿地類	CO	火山岩類>堆積岩類、テフラ	
21	床下粘土	A区53号住居床下	—	○	淡水成	沼沢湿地類	CO	火山岩類>テフラ	
22	甕材粘土	A区57号住居	—	○	淡水成	沼沢湿地類	CO	火山岩類>テフラ	



第300図 土器胎土および粘土類中の粒子組成図

No.1~11; S字口縁台付甕、No.17~22; 粘土類〔粘土の種類〕
 ●; 淡水成 (沼沢湿地成)、○; 淡水成 (沼沢湿地類)、□; 水成



第301図 群馬県の概要地質図(新井(1964)を改変)

7. 自然科学分析の成果と課題

以上のような自然科学分析をおこなった結果、以下のような成果及び課題が確認できた。

- A区の自然科学分析の成果としては、土層の層序に関する地質調査の結果、また、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)等の示標テフラ検出によって、遺構の年代観及び基本土層の作成の資料を収集することができた。しかし、縄文時代中期の遺構の下位にある砂層の堆積年代に関する資料の収集のために行った屈折率分析では、堆積年代を決定づけるような噴出年代が明らかになっている特徴的なテフラの検出はできなかった。
- C区の自然科学分析の成果としては、土層の層序に関する地質調査の結果、また、浅間A軽石(As-A, 1783年)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)等の示標テフラ検出によって、C区においても土層の層序及びその年代についての資料を収集することができた。また、A区の土層の層序とほぼ同様であることもわかった。
- プラント・オパール分析の成果としては、As-B下水田跡が検出された浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下層からはイネが多量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、As-B直上層、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)混層、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)混層などでも稲作が行われていた可能性が高いことがわかった。今回の発掘調査ではそれぞれの水田跡は検出できなかったため、今後の調査の進展に期待したい。
- 古墳時代前期のA区23号住居跡から出土した炭化材は、コナラ節が最も多く、全体の71.1%を占め、次にクヌギ節が20.7%で、この2分類群が全体の92.4%を占めていることがわかった。これらの材は山野に生育していた普通の落葉高木である。近くに生育していた材を竪穴住居の構造材として使用したものと思われる。また、屋根材の灰ではないかと分析の成果を期待していたものは、コナラ節であり、当方の見当違いであった。この住居跡の本文でも述べたが、柱穴の残りがよく、中空な状態で検出されたので石膏を流し込んで柱を復元しようと試みた。その結果、柱は丸太材を使用したのではなく、面取りをした加工材を使っていることがわかった。
- 土器の胎土分析と竈、床下土坑から検出された粘土の材料分析の結果、器種、使用された時代等に関係なく、粘土の特徴としては、両者にあまり大きな違いがないことがわかった。しかし、含まれている砂粒の特徴から見ると、住居跡から検出された粘土は土器の胎土よりも粒子が大きく、台地を形成するローム質物中の砂粒物が混入していると考えられ、土器の胎土との違いが浮かび上がってきた。

また、16個体の土器の胎土中に含まれている砂粒の特徴から、火山岩類を特徴的に含むものと片岩類を含むものとの2つに大別する事が出来る。その結果、材料の産地の予想についても2ヶ所以上にわたる可能性がでてきた。しかし、同時期、同器種の甕類においてそれぞれの器形、成形にあまり大きな差はなく、材料の産地の違いがつくりの違いにそのまま反映しているとは言い難い。土器の胎土の分析結果とそのつくりとの関係は、今回の結果だけでは判断出来かねるので、今後の研究の成果を待ちたい。

第5章 調査の成果とまとめ

群馬県における前方後方形周溝墓の調査結果に基づいて、本遺跡から検出された前方後方形周溝墓に検討を加え、整理すること及び本遺跡から検出された竪穴住居跡の集成表を掲載することによって調査の成果とまとめをしたい。

1. 前方後方形周溝墓について

(1) はじめに

本遺跡では19基の方形周溝墓が調査された。これらの周溝墓は古墳時代前期の竪穴住居跡群に隣接して見つかった。このうち18基の形状は方形で、周溝の四隅がやや浅くなっているが、掘り残しはなく周溝が全周するタイプである。残りの1基は、A区14号周溝墓で、前方部を南東に向ける前方後方形周溝墓である。その規模は方台部全長23.2m、後方部長15.4mを測り、本遺跡最大の周溝墓である。周溝内からは、二重口縁壺や完形の広口壺等が出土している。このA区14号周溝墓について県内の前方後方形周溝墓の調査結果から検討を加え、整理したいと思う。ここでは、主に方台部全長30m以下の前方後方形周溝墓を扱いたい¹⁾。

(2) 分布と立地

前方後方形周溝墓は調査例が少なく、本遺跡の周溝墓を含めても17遺跡で21基である(第2表 群馬県の前方後方形周溝墓一覧表に掲載)。これは、方形周溝墓が144遺跡534基²⁾(2000年3月末現在)確認されているのと比べるとかなり少ない。前方後方形周溝墓が検出された遺跡の分布を「第302図 県内の前方後方形周溝墓の分布」から見ていくと、県南の平野部に大きく偏っている事が分かる。特に、高崎市周辺の前橋台地や前橋市東部の赤城山南麓地域にその検出が目立つ。この地域は方形周溝墓が数多く検出された地域でもある。この地域に方形周溝墓が多

く検出された理由として、小島敦子氏は「これは、発掘調査の密度にもよると考えられるが、この地域には水田農耕に適した地形が展開しており、弥生時代から古墳時代前期の集落が立地しやすい地点が多くあることにも起因していると考えられる。」³⁾と述べている。以上のことから、県南部の方形周溝墓が数多く検出された地域から、前方後方形周溝墓も検出されており、その分布と集落の立地傾向とを関連づけて考慮しなくてはならない。

次に、前方後方形周溝墓の立地をみていくことにする。本遺跡は神沢川左岸で標高79mに位置し、伊勢崎台地上に立地している。遺跡内には微高地と低地部が連続している。微高地部の西端に居住域があり、その東側に墓域がつくられていた。A区14号周溝墓はこの墓域から検出された。墓域の東側は低地部になり、古墳時代前期の水田面を検出できなかったが、As-B下水田が検出されている。微高地部と低地部との比高が2m程である。県内の前方後方形周溝墓の立地をみると⁴⁾、標高では34m~169mの違いがあるが、沖積地との比高が5m以下の台地、微高地(河岸段丘も含む)に造られている。

(3) 規模と形状

県内の前方後方形周溝墓の方台部全長⁵⁾の計測値をもとに規模の小さい順に並べたのが「第303図 県内の前方後方形周溝墓」⁶⁾である。この図をみると大きさや前方部や後部の形状の違いに気づく。

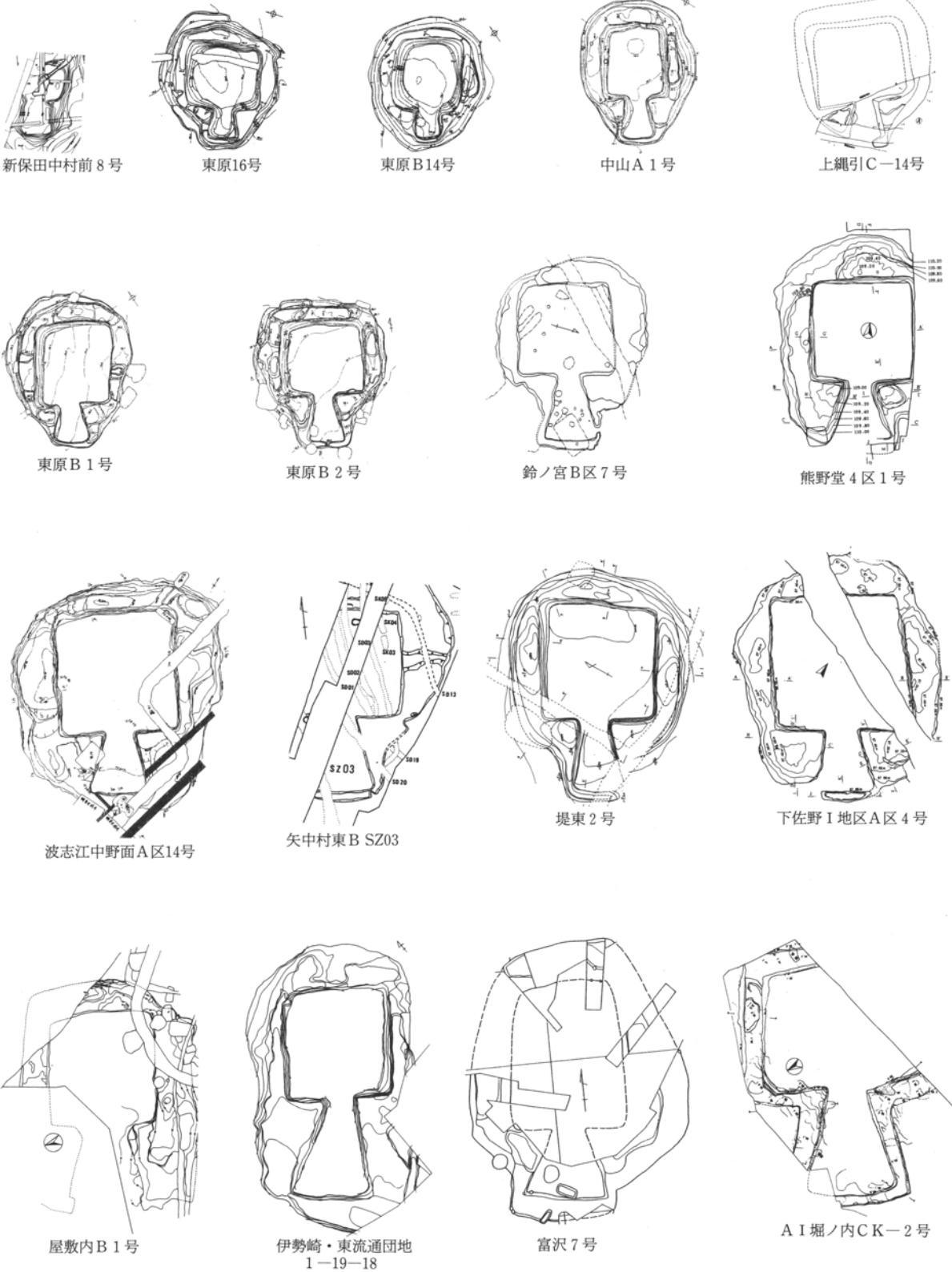
まず、規模の違いについて着目していきたい。県内の前方後方形周溝墓の方台部全長の計測値をメートル単位にその墓数を見たのが「第304図 前方後方形周溝墓の規模 グラフ1」である。グラフ1をみると15m前後、20m前後、25m前後に大きなまとまりがある事が分かる。特に25m前後に集中する様子が見受けられる。方台部長25mを測るのは、堤東2号、屋敷内B1号、舞台9号等である。



第302図 県内の前方後方形周溝墓の分布

(図中の番号は第2表の遺跡番号を示す)

1. 前方後方形周溝墓について



0 1 : 800 20 m

第303図 県内の前方後方形周溝墓

第5章 調査の成果とまとめ

第2表 群馬県の前方後方形周溝墓一覽表
計測値は報告書等地蔵の数値を参考にしながら、遺構図の上端を計測した数値。()は推定値を示す

遺跡番号	遺跡名	遺構名	所在地	方台部長さ(m)		方台部幅(m)		周溝を含めた規模		主体部	主な出土遺物	同時期の住居跡と周溝墓の検出総数	備考	文献
				全長	前方部	後方部	前方部	くびれ部	後方部					
1	波志江中野面遺跡	A区14号周溝墓	伊勢崎市波志江町	23.2	7.8	15.4	(7.6)	3.6	15.2	無	鉢、二重口縁蓋、完形の広口壺	28 19	後方にAs-Cの溜まり有り。	1
2	舞台遺跡	1号周溝墓	伊勢崎市三和町	20.6	5.6	15.0	5.3	1.9	13.5	無	赤彩の二重口縁底部穿孔壺、直口壺、高坏、S字甕	多数	前方部右に土橋状の残りあり。	2
2	舞台遺跡	9号周溝墓	伊勢崎市三和町	25.9	11.4	14.5	(9.2)	(4.9)	15.1	無	赤彩の二重口縁底部穿孔壺、直口壺、高坏、S字甕	10	前方部右に土橋状の残りあり。	2
3	伊勢崎・東流通団地遺跡	1-19-18前方後方状周溝墓	佐波郡東村小保方	26.8	13.0	13.8	10.0	3.2	12.8	無	二重口縁底部穿孔壺、在地壺	多数	前方部左に土橋状の残り有り。	3
4	上細引遺跡	C-14号周溝墓	前橋市西大室町	(15.0)	(5.0)	(10.0)	(4.0)	2.28	(12.0)	不明	赤井戸系壺、棒系台付壺、高坏	11	前方部左に土橋状の残り有り。	4
5	阿久山遺跡	1号墳	前橋市西大室町	17.6	6.0	11.6	4.4	2.7	9.4	無	S字甕、単口縁台付壺、埴、器台	1	前方部左に土橋状の残り有り。	5
6	中山A遺跡	1号周溝墓	前橋市下大屋町	15.0	5.8	9.2	3.9	1.8	7.0	無	小型壺、器台	4	後方に高まり有り。後方にAs-Cの溜まり有り。	6
7	東原B遺跡	1号周溝墓	前橋市下大屋町	15.8	5.3	10.5	4.6	2.7	9.0	無	赤彩の二重口縁底部穿孔壺	35 17	周溝の形状が前方後方形に近い。	6
7	東原B遺跡	2号周溝墓	前橋市下大屋町	15.9	6.7	8.9	4.7	2.4	10.2	無	赤彩の二重口縁底部穿孔壺、壺、埴、器台	6	後方に盛土。後方にAs-Cの層有り。	6
7	東原B遺跡	14号周溝墓	前橋市下大屋町	12.7	4.5	8.2	3.2	2.9	7.1	無	壺、高坏	4	後方に盛土。後方にAs-Cの層有り。	6
7	東原B遺跡	16号周溝墓	前橋市下大屋町	11.8	4.2	7.6	3.0	1.4	8.6	無	遺物少ない	2	後方に盛土。後方にAs-Cの層有り。	6
8	堤東遺跡	2号周溝墓	前橋市荒子町	25.2	9.8	15.4	(6.5)	(3.3)	14.4	無	赤彩の二重口縁底部穿孔壺、高坏、三角透窓をもつ器台、S字甕	3	前方部右に土橋状の残り有り。	7
9	下庄司原遺跡	1号方形周溝墓	勢多郡富士見村下庄司原	(19.1)	(7.1)	12.0	5.7	3.0	9.3	無	厚手の広口壺	不明	前方部左に土橋状の残り有り。周溝も前方後方形。	8
10	熊野堂遺跡	II地区4区1号周溝墓	高崎市大八木町	(20.8)	(8.0)	(12.8)	8.0	3.0	13.2	無	直口壺、ミニチュアの壺、和泉朝の高坏	6	周溝土層にAs-C層H-F-A層あり。前方部左に土橋状の残り有り。	9
11	新保田中村前遺跡	8号周溝墓	高崎市新保田中町	9.1	4.2	4.9	3.8	2.7	(5.2)	後方部中央に2基、長楕円の堀込有り。	無	周溝の外周は重複や削平のため、形状がはっきりせず。	10	
12	鈴ノ宮遺跡	B区7号周溝墓	高崎市矢島町	20.6	8.8	11.8	7.0	3.0	12.6	無	S字甕、埴、高坏、器台、壺	54 4	前方部右に土橋状の残り有り。	11
13	矢中村東B遺跡	SZ03(3号周溝墓)	高崎市矢中町	(24.0)	(10.0)	(14.0)	(8.8)	(3.2)	(12.0)	不明	広口壺、S字甕、高坏、器台	無	後方部東中央に土橋状の遺構有り。	12
14	下佐野遺跡	I地区A区4号前方後方形周溝墓	高崎市下佐野町	25.9	8.4	17.5	8.0	4.2	17.6	無	小形仿製内行文鏡、ガラス小玉、二重口縁壺、広口壺、S字甕、高坏	36 26	前方部左に土橋状の残り有り。	13
15	A1堀ノ内遺跡群	CK-2号墳	藤岡市小林字堀ノ内	30.6	14.3	16.3	(11.2)	5.3	(20.6)	不明	赤彩の二重口縁底部穿孔壺、高坏、器台、埴、S字甕	21 6	周溝の形状も前方後方形。	14
16	富沢古墳群	7号墳	太田市富沢	(28.0)	(8.6)	(19.4)	(10.5)	(5.0)	(14.5)	不明	S字甕、埴、器台	不明	周溝も前方後方形に近い。	15
17	屋敷内B遺跡	1号方形周溝墓	太田市浜町	(25.0)	9.5	15.5	(9.8)	(6.0)	14.4	無	赤彩の二重口縁底部穿孔壺、広口底部穿孔壺、高坏	無	前方部に土橋状の残り有り。方向は不明。	16

1. 前方後方形周溝墓について

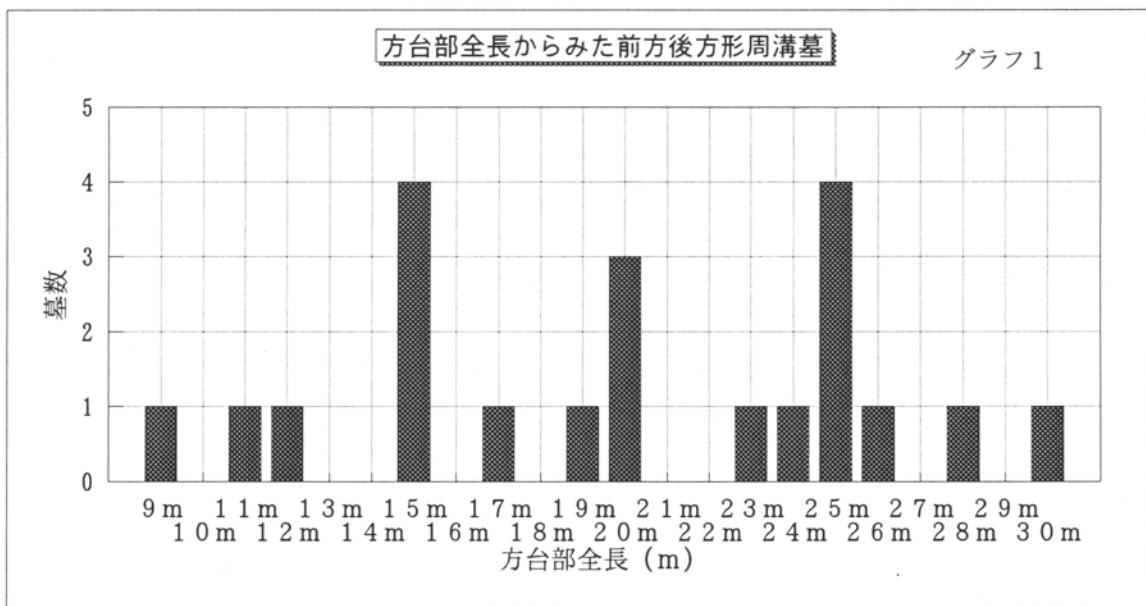
前述したように、A区14号周溝墓は、方台部全長23.2mを測る。これは、県内の前方後方形周溝墓の規模との比較において、やや前方部長は短めで、方台部全長25mにみたないが、方台部全長25m前後のまともに加えてもよいと考えている。

次に、前方後方形周溝墓の形状をみていきたい。後方が正方形（後方部長と幅の差が1m未満のものとする）になっているものは6基ある。残り15基のうち縦長タイプの長方形になっているものは11基あり、横長タイプは4基ある。前方部の形状は撥状になっている。

前方部前面に着目すると掘り残し部があるものとならないもの分けられる。掘り残し部があるものについて、その箇所に分けると以下ようになる。前方部右隅にあるものは、鈴ノ宮B区7号、堤東2号、舞台9号である。前方部左隅にあるものは、上縄引C-14号、下庄司原1号、熊野堂II地区4区1号、下佐野I地区A区4号である。屋敷内B1号は前方部前面に広く掘り残し部があると推定される。掘り残し部がなく周溝が全周するものとして、本遺跡A区14号をはじめ11基⁷ある。この中でも東原2号、矢中村東BSZ03、伊勢崎・東流通団地1-19-8などは前方部付近の周溝が狭くなっている箇所がある。掘り残し部があることの意義、あるいはない場合の理

由として、堤東遺跡の報告書では「ブリッジは祭祀の場と外界とをつなぐ道であり、祭祀終了後に掘り上げてしまう場合もあったとみられ、矢中村東3号墓の突出部などはこの可能性がある。」⁸と述べている。また、矢中村東BSZ03には後方部東中央部にあるブリッジ状の遺構にふれ、報告書の中で「これは、SZ13の重複による影響も考えられるが、それ以上に「渡り」的な機能を中断させるという、人為的な作用の存在が窺えるようでもある。」⁹と述べている。両報告書によると、掘り残し部は祭祀を含めた「人為的な作用」のため、意図的に掘り残し、その行為が終了した時点で掘り上げてしまう場合もあったと見ている。本遺跡のA区14号周溝墓は掘り残し部がないタイプである。上記のような考え方で周溝墓の形状を考える時に、それを証明するのは難しいと思った。

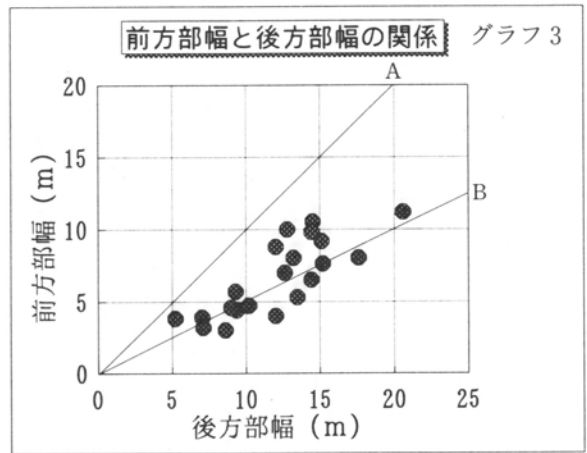
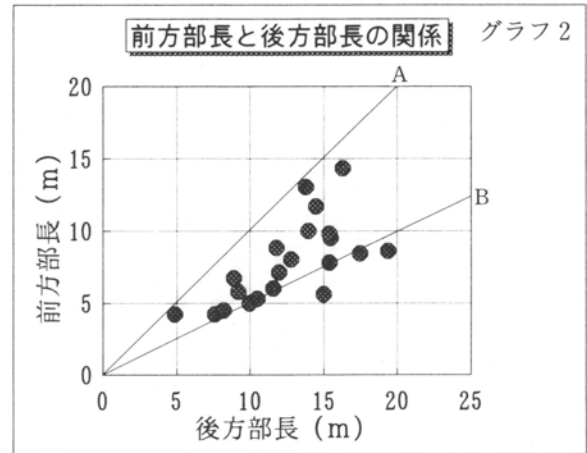
前方部や後方部の大きさに着目してみると、前方部と後方部のバランスの違いに気づく。本遺跡のA区14号周溝墓について前方部と後方部の関係をみると以下のようにになっている。前方部長と後方部長の比は1:2.0になっている。また、くびれ部幅と前方部幅と後方部幅の比は1:2.1:4.2になる。前方部と後方部の長さや幅において1:2という比が関係している。同様に、県内の前方後方形周溝墓の前方



第304図 前方後方形周溝墓の規模

部と後方部との関係を見ていく。まず、前方部長と後方部長の関係をグラフ化したのが「第305図 前方部と後方部の関係 グラフ2」である。ドットが前方後方形周溝墓を表している。グラフ2の直線Aは $y = x$ (前方部長と後方部長の比が1:1にあたる)、直線Bは $y = 1/2x$ (前方部長と後方部長の比が1:2にあたる) を示す。これを見ると本遺跡の14号周溝墓のように前方部長と後方部長の比が1:2に近いものもあるが、そうでないものも多い。特に後方部長が15m前後でそのばらつきが多い。中には前方部長と後方部長の比が1:1に近いものもある。これは、伊勢崎・東流通団地1-19-8や堀ノ内CK-2号のように30m前後のものにその傾向が強い。前方部幅と後方部幅の関係を見たのが「第305図 前方部と後方部の関係 グラフ3」である。グラフ中の直線A、Bはグラフ2と同じである。グラフ3をみると、前方部長と後方部長との関係よりもばらつきが少なく、直線B付近に集まっていることが分かる。前方部幅と後方部幅の比は1:2に近いといえる。以上の事から前方部と後方部との関係において幅よりも長さのばらつきが多いこと、それが前方部と後方部のバランスの違いにあらわれていることが分かった。

最後に周溝の平面形についてみていきたい。推定が半分以上の上縄引C-14号、周溝の外形がはっきりしない新保田中村前8号は除いて考える。19基の前方後方形周溝墓の周溝の平面形を次の3つのタイプに分けてみる。後方部に沿って方形に周溝も掘られているタイプは7基ある。その中で前方部までその形状に沿って掘られているものを相似形とする。周溝が相似形をしていると思われるものに堀ノ内CK-2号、富沢7号、下庄司原1号がある。また、後方部に沿って円形に近く掘られているタイプが3基ある。その典型的な例として堤東2号¹⁰がある。3つめとして、くびれ部の付近も掘りこんで全体的に周溝が楕円形をしているタイプがある。これは9基あり、本遺跡の14号もこのタイプといえる。



第305図 前方部と後方部の関係

1. 前方後方形周溝墓について

(4) 出土遺物

21基の前方後方形周溝墓の出土遺物を器種で分けると、壺が40.8%、甕が29.6%を占めていることが分かった¹¹。出土遺物の多くを占めている壺、甕から前方後方形周溝墓の出土状況をみていくことにする。壺の54.9%は二重口縁壺であり、甕の40.5%はS字口縁付甕（以下S字甕と略す）であることから、この2つの出土状況および上縄引C-14号から出土している樽式系や赤井戸式の甕を取り上げたい。

①二重口縁壺が出土している前方後方形周溝墓は10基ある。頸部から口縁にかけての特徴から畿内型と「伊勢型二重口縁壺」¹²に分けることができる。前者が出土しているものとして舞台1号、9号、伊勢崎・東流通団地1-19-8、東原B1号、2号、堤東2号がある。後者が出土しているものとして本遺跡14号、堀ノ内CK-2号、下佐野A区4号、屋敷内B1号がある。これらの二重口縁壺うち、本遺跡と下佐野A区4号以外の8基は底部穿孔が行われている。さらに、底部穿孔二重口縁壺のうち伊勢崎・東流通団地1-19-8をのぞいた7基は赤彩されている。特に東原B2号、堤東2号、堀ノ内CK-2号、舞台1号、9号では多くの赤彩された底部穿孔二重口縁壺が方台部をとり囲むように、出土している。二重口縁壺の器形に違いがあるが、いずれも焼成前穿孔であることや出土状況に似通った点が多いことから、きまったやり方に則して土器が供献されたと思われる。

②S字甕が出土しているものは6基ある。阿久山1号、堤東2号、鈴ノ宮B区7号、矢中村東B SZ03下佐野A区4号、堀ノ内CK-2である。このうち下佐野A区4号では8個体のS字甕¹³が出土しており、その数において壺よりも多い。残念ながらS字甕の出土状況がわかっていない。矢中村東B SZ03はS字甕が3個体出土している。そのうちの個体について「遺物No.1のS字甕は、・・・同一個体の破片が、周溝内の離れた数ヶ所の地点より出土するという特異性を示す。」¹⁴と述べている。堤東2号では他

の甕と一緒に周溝内から出土している。前方後方形周溝墓から出土するS字甕の出土状況については類例が少ないので方形周溝墓全体から検討していく必要がある。

③上縄引C-14号は樽式系台付甕や赤井戸式甕が出土していると報告されている。これらの土器が前方後方形周溝墓に伴うものであるとすると、県内の前方後方形周溝墓の中では古い時期¹⁵に造られたと考えられる。しかし、断面での出土位置があいまいなため、やや疑問の余地も残る。報告書では上縄引C-14号の出土遺物はAs-C層が周溝内に見られないことや土器の型式的特徴から古墳時代初頭に考えられている。

このように①～③の土器の出土状況をみて、感じたことをまとめてみたい。まず、二重口縁壺の器形から畿内型と伊勢型に分けられる。畿内型が出土している地域は東原B2号、堤東2号、舞台1号などが検出された赤城山南麓地域および伊勢崎市北部地域にあたる。伊勢型は本遺跡14号もふくまれているが、堀ノ内CK-2号、屋敷内B1号、下佐野A区4号などの藤岡、太田、高崎地区になる。次にS字甕が出土しているのは鈴ノ宮B区7号、矢中村東B3号、下佐野I地区A区4号、堀ノ内CK-2号などの藤岡、高崎地区である。これは、S字甕を伴った文化をいち早く取り込んだ地域とそうでない地域との差であるかもしれない。東原B遺跡から出土している土器についてその報告書に「古墳前期の土器は樽式系が主体を成し、石田川式は少量である。」¹⁶とある。出土遺物の違いを解明していくためには、県内の古墳時代前期における土器編年の確立が急務と考える。

(5) 集落と墓群

調査した遺跡において、前方後方形周溝墓と同時期の住居跡や周溝墓群が伴って検出されるとは一概にいえない。「第2表 群馬県の前方後方形周溝墓一覧表」をみても、同時期の竪穴住居跡が検出されなかったり、前方後方形周溝墓が1基のみ検出されている遺跡がある。これは発掘調査の期間や規模、そ

第5章 調査の成果とまとめ

の他様々な制約によって調査区域が限られてしまうことにもよる。そこで、本遺跡の集落と前方後方形周溝墓の関係及び他の方形周溝墓との関係を中心に見ていきたい。

28軒検出されている竪穴住居跡は、その形状にあまり大きな差はない。また、竪穴住居跡同士の重複関係が2ヶ所で見られるが、出土遺物から時期差は認められない。多くの竪穴住居跡は方形周溝墓群と区域を分けるように微高地の西側から北側にかけて立地している。しかし、竪穴住居のうち2軒は墓域から検出され、方形周溝墓に掘り込まれていた。どちら住居も床面近くにAs-Cが主体の層が検出されているが、方形周溝墓と出土遺物の時期差は認められない。

19基の方形周溝墓は接近して造られているものもあるが、重複関係はない。東原B遺跡では前方後方形をふくめた大型のものが外側に、小型周溝墓が内側にまるで馬蹄形のように位置しているが、本遺跡の周溝墓群からはそのような傾向は見られない。本遺跡では微高地の東側部分に墓域が造られている。前方後方形周溝墓はこの墓域の中程に前方部を南東に向けて位置している。(ただし墓域は遺跡の南へ広がるのが予想されていて、最終的にはどのような位置になるかはわからない。)A区14号周溝墓は古墳時代前期の住居との重複関係はない。規模では本遺跡で一番大きく、形状もただ一つの前方後方形である。にも関わらず、それ以外の違いは見いだせない。出土遺物量からみても他の方形周溝墓と比べてさほど多くない。また、近くの周溝墓付近からはパレススタイル壺が出土しているが、この前方後方形周溝墓との関連は今のところはっきりしない。

墓域の東側は低地部で古墳時代の水田は検出されなかったが、As-B下水田が見つかった。この低地部が当時も水田として使われたのではないかと分析の結果から考えられる。

(6)おわりに

以上、県内の調査結果をもとに、本遺跡の前方後方形周溝墓に検討を加えてきた。しかし、内容的

は踏み込みがたらず、違いを認識したのみに終わってしまった。また、当初から前方後方形周溝墓を区分して集成したことなど、進め方にも問題があったのではないかと今になって感じている次第である。不明、不備な点については今後の課題とし、お許し願いたい。

今回の集成にあたり、貴重なご意見やご助言をしてくださった方々、資料をご提供いただいた関係諸機関、諸氏の皆様にはこの場を借りて篤く御礼を申し上げます。

註

- 1 本書において取り上げた前方後方形周溝墓は、本遺跡のA区14号周溝墓のように前方部の前面まで周溝がめぐるタイプおよび前方部の一部に土橋状に掘り残しがあるタイプに限定した。また、前方後方墳との区別が難しく、周溝墓であるか古墳であるか意見が分かれ、集成した年にもよるが、県内の前方後方形周溝墓の数も取り上げ方によって違いがある。小島敦子氏は「群馬県の方形周溝墓一群のバターン分類を通して―」『荒砥北原遺跡、今井神社古墳群、荒砥青柳遺跡』群埋文1986年の中でb3類(いわゆる前方後方形周溝墓)として6遺跡6基の前方後方形周溝墓を掲載している。また、氏は「墓域からみた集落論研究の基礎操作―弥生時代から古墳時代にかけての方形周溝墓群の分類―」『古代』第90号早稲田大学考古学会1990年の中でb3類として13遺跡17基を載せている。梅沢重昭氏は「“毛野”形成期の地域相―前方後方墳及び周溝墓の分布を中心に―」『駿台史学』第91号1994年のP117に「表4 群馬県地域前方後方形周溝墓一覧」として15遺跡20基の前方後方形周溝墓を掲載している。また、氏は「毛野の周溝と前方後方形周溝墓」『駿台史学』第92号1994年のB-c類周溝墓(前方後方形周溝墓)の説明においてP39で「実際のところ、B-c類周溝墓に分類できる前方後方形周溝墓と前方後方墳との間に厳密な一線を引くことは難しい。」と述べている。そして「本論においては、一応墳丘全長30m以上を基準において、周溝幅の拡大・定形化という傾向を示すものを前方後方墳に位置づけることにした。」と述べ、この論文の中でと限定しながらも一つの区分を示している。赤塚次郎氏は「前方後方墳から見た初期古墳時代」『前方後方墳を考える』第3回東海考古学フォーラム資料1995年のP753で「……、C型、つまり30m以上の規模を有し、前方部長が後部の1/2以上に発達したものを前方後方墳とし、……」と述べている。そこで本書においては、本遺跡の前方後方形周溝墓に近い規模を取り上げる事にして、梅沢、赤塚両氏の示した30mの規模を一つ

1. 前方後方形周溝墓について

の区分とする。また、筆者は前方後方墳は前方部の発達にその特徴を見いだせると考えている。前方部長だけでなく、前方部幅が後方部幅に近づくものが多いと考える。例えば八幡山古墳は92%、將軍塚古墳は82%をしめる。そこで、本書では全長30m以上の規模を持っていても前方部幅において、後方部幅と大きく違うものについては前方後方形周溝墓として掲載した。

- 2 小島敦子氏による前掲書の論文「墓域からみた集落論研究の基礎操作—弥生時代から古墳時代にかけての方形周溝墓群の分類—」のP144に「群馬県で検出された方形周溝墓は、八九遺跡三五五基にのぼる」とある。この数値をベースに1991年以降の方形周溝墓発掘調査事例を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報より拾い出した数値である。
- 3 小島敦子氏 前掲書 P144
- 4 「前方後方墳を考える」第3回東海考古学フォーラム資料1995年
- 5 前方後方形周溝墓の全長を示す言葉に「墳丘長」もあるが、本書においては、前方後方墳と意識の上で区別を付けるために「方台部全長」という言葉を使用した。また、計測値は報告書やシンポジウム資料等で数値がまちまちであるので、報告書等を参考にしながら、方台部の上端を計測した。長さは主軸方向、幅とは長さと同直交する方向とした。
- 6 「第303図 県内の前方後方形周溝墓」に図を掲載するに際して上掲引C-14号は「内堀遺跡群V」前橋市教委 1993年の「VI 成果と問題点」P26、27に推定ラインが入った形状で図が掲載されており、筆者が報告書本文中の図に推定ラインが入った全体図を組み合わせる形で本書に掲載した。また、阿久山1号墳は全体図に掲載されているのみで、詳細な図がないので本書には掲載しなかった。舞台遺跡の2基の前方後方形周溝墓は現在整理作業中なので、図を掲載することを控え、計測値のみとした。下庄司原1号については近藤義郎編「前方後円墳集成東北・関東編」山川出版1994年に全体図が掲載されているが、報告書としては刊行されていないので、全体図を掲載することを控え、計測値のみとした。
- 7 周溝のはっきりしない新保田中村前8号、前方部が全部掘られていない堀ノ内CK-2号を除く
- 8 「堤東遺跡」群馬県教委 1985年「VII まとめと今後の課題」P54
- 9 「矢中村東B遺跡」高崎市教委 1985年「V 結びにかえて」P29
- 10 註8と同じ
- 11 前方後方形周溝墓の出土遺物うち、器種や個体数が確認でき、50%以上の遺存があるものを数えた。
- 12 田口一郎氏が「元島名將軍塚古墳」高崎市教委 1981年の中で命名している。
- 13 個体数の数え方は註11と同じ。
- 14 註9と同じ
- 15 熊野堂4区1号は周溝土層中に浅間C軽石の層を検出している。他の前方後方形周溝墓は周溝土層中に浅間C軽石の層をもたない。その点からすると、県内で一番古い前方後方形周溝墓と考えられる。しかし、周溝内から長脚高坏(和泉期)が数多く出土している。これについて報告書の中で、「築造時期は浅間C軽石の降下以前であり、…。これらは浅間C軽石と二ツ岳FA層との間にある5層中にあった土器溜りのもので周溝墓との直接の関係はない。しかし、前代の墳墓というタブーを意識しての供献土器なのか、単に居住地に隣接した凹地形を利用した土器すて場なのか判断はつかない。」(P352「熊野堂遺跡(2)」群埋文1990年)と述べている。供献土器とすれば、100年以上後に供献したことになり、不自然な感じをもつ。浅間C軽石の降下年代が古く見直されつつある現在、熊野堂4区1号の築造年代と出土遺物の関係について再検討する時期に来ているのではないかと思う。
- 16 「昭和62年度 荒砥北部遺跡群発掘調査概報」荒砥北部遺跡群調査会他 1988年 P11

その他の参考文献

- 『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県 1990年
 山岸良二編『関東の方形周溝墓』同成社 1996年
 「前方後方墳を考える」第3回東海考古学フォーラム1995年
 近藤義郎編「前方後円墳集成東北・関東編」山川出版 1994年
 平野進一「北関東における弥生時代周溝墓の諸相」『駿台史學』第84号 駿台史学会 1992年
 友廣哲也「櫛形文化圏の弥生時代終末から古墳時代初頭期の墓制」『古代』第100号 早稲田大学考古学会1995年

表・図作成に使用した参考文献

- 1 本書
- 2 「舞台遺跡現地説明会資料」群埋文 1997年 計測値、出土遺物については整理中の図面や遺物を見せていただいて、筆者が、整理担当者の了解を得て、筆者が図面をもとに計測をし、遺物の確認をして、本書に掲載した。
- 3 「伊勢崎東流通団地遺跡」群馬県企業局 1982年
- 4 「内堀遺跡群V」前橋市教委 1993年
- 5 「下境I・天神」群馬県教委 1990年 計測値、出土遺物については、県教委の協力をえて図面や遺物を見せていただいた。筆者が図面をもとに計測し、遺物を確認して本書に掲載した。
- 6 「昭和62年度 荒砥北部遺跡群発掘調査概報」荒砥北部遺跡群調査会他 1988年
- 7 「堤東遺跡」群馬県教委 1985年
- 8 富士見村教委の協力をえて、未報告の図面や遺物を見せていただいた。筆者が図面をもとに計測し、遺物を確認して本書に掲載した。
- 9 「熊野堂遺跡(2)」群埋文 1990年
- 10 「新保田中村前遺跡III」群埋文 1993年
- 11 「鈴ノ宮遺跡」高崎市教委 1978年
- 12 「矢中村東B遺跡」高崎市教委 1985年
- 13 「下佐野遺跡」群埋文 1989年
- 14 「A1堀ノ内遺跡群」藤岡市教委 1982年
- 15 橋本博文・宮田 毅・島田孝雄「富沢7号墳」『前方後円墳集成東北関東編』山川出版 1994年
- 16 宮田 毅「屋敷内B遺跡」『出現期古墳の地域性』第5回三県シンポジウム資料 1984年

第3表 古墳・奈良・平安時代整穴住居跡一覧表(古墳時代)

調査区	住居No	グリッド	規模 (東西m×南北m)	面積㎡	壁高cm	主軸方向	電		周溝		貯蔵穴		柱				穴								
							数	方位	幅cm	深さcm	数	形状	径cm	深さcm	数	①径cm	深さcm	②径cm	深さcm	③径cm	深さcm	④径cm	深さcm		
A	4	3M-1	4.15 × 4.63	17.46	32	N-19°-E	0	N-	-	-	0	-	4	34	36	38	49	40	50	35	38				
A	9	3I-16	4.86 × 3.89	(17.85)	35	N-20°-E	0	N-	-	-	0	-	4	39	45	46	38	63	40	79	45				
A	10	3L-16	6.06 × 5.30	30.73	24	N-44°-E	0	N-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
A	12	4B-18	4.49 × 4.40	20.00	19	N-6°-W	0	N-	-	5	13	円形	46.50	-	22	4	26	18	27	10	34	13	45	20	
A	14	4E-15	5.48 × 5.57	29.84	30	N-9°-W	0	N-	-	-	-	1	ほぼ円形	70	42	4	61	39	55	45	68	19	60	24	
A	16	4E-13	5.48 × 4.91	26.96	12	N-28°-E	0	N-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	17	3T-15	5.36 × 5.14	26.93	34	N-25°-W	0	N-	-	4	7	1	楕円形	85×61	40	4	33	42	36	38	48	41	30	35	
A	18	3Q-15	6.10 × 6.18	34.25	35	N-24°-W	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	4	85	40	64	46	57	41	39	24	
A	22	3N-18	5.67 × 3.80	(18.50)	22	N-0°	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	23	4C-9	5.43 × 5.31	28.12	39	N-13°-W	0	N-	-	-	1	1	楕円形	89×53	31	4	51	81	60	80	35	74	51	76	
A	24	3O-15	(2.87)×(1.63)	(2.54)	27	不可	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	25	4A-11	4.84 × 4.84	19.69	30	N-18°-W	0	N-	-	-	1	1	円形	64	38	4	28	15	32	17	39	16	30	19	
A	27	4D-12	3.77 × 4.26	15.25	9	N-8°-W	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	30	8B-0	3.29 × 3.20	8.97	17	N-3°-W	0	N-	-	7	8	1	円形	43	27	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	31	8B-1	6.16 × 5.59	31.29	16	N-30°-W	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	4	45	15	60	22	46	23	75	20	
A	32	7T-0	4.57 × 4.51	18.30	9	N-26°-W	0	N-	-	28	6	1	円形	65	22	4	25	25	50	33	42	26	43	41	
A	34	7R-1	3.66 × (3.39)	(8.16)	15	N-20°-W	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	35	3P-19	3.93 × (2.22)	(7.90)	12	N-9°-E	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	2	46	30	48	35	-	-	-	-	-
A	36	7O-0	5.78 × (3.43)	(26.63)	11	不可	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	2	47	39	62	46	-	-	-	-	-
A	37	8D-0	不可 × 不可	(15.36)	18	不可	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	1	38	21	-	-	-	-	-	-	-
A	40	4D-9	不可 × (2.92)	(9.56)	18	不可	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	41	4D-9	5.48 × (4.20)	(16.87)	33	N-24°-W	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	2	68	35	61	32	-	-	-	-	-
A	43	3J-14	5.33 × 5.16	(27.81)	30	N-6°-W	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	44	3T-8	5.02 × (1.71)	(6.37)	26	N-14°-W	0	N-	-	25	9	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	68	3I-19	5.13 × (3.88)	(19.18)	36	N-7°-W	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	2	55	44	65	40	-	-	-	-	-
B	3	6L-2	4.36 × 不可	(18.46)	11	不可	0	N-	-	-	-	0	-	-	-	2	48	41	78	56	-	-	-	-	-
C	6	2H-19	(5.03) × 4.54	(17.46)	19	N-43°-W	0	N-	-	-	-	1	1	円形	54	43	3	61	37	48	39	44	40	-	-
C	12	6H-2	5.10 × 4.93	(16.70)	24	N-47°-E	0	N-	-	-	-	1	1	円形	71	26	3	38	31	47	26	38	34	-	-

2. 竪穴住居跡一覧表

第3表 古墳・奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表 (奈良・平安時代)

調査区	住居No	グリッド	規模 (東西m×南北m)	面積m ²	壁高cm	主軸方向	竪		周溝		貯蔵穴		柱				穴			
							数	方位	幅cm	深さcm	数	形状	径cm	深さcm	①径cm	深さcm	②径cm	深さcm	③径cm	深さcm
A	1	3N-11	2.44 × 3.48	8.09	23	N-103°-E	1	N-97°-E	24	4	1	円形	55	29	0					
A	2	3N-12	2.76 × 3.28	9.43	47	N-78°-E	1	N-81°-E			0									
A	3	3N-12	3.54 × 2.44	8.91	38	N-99°-E	1	N-86°-E			1	円形	68	14	0					
A	5	3K-13	3.46 × 2.73	9.27	32	N-98°-E	1	N-98°-E			1	円形	39	23	0					
A	6	3I-16	3.12 × 3.12	10.37	38	N-113°-E	1	N-119°-E			0									
A	7	3K-15	2.76 × 3.29	9.27	25	N-94°-E	1	N-90°-E			0									
A	8	3M-15	3.45 × 3.48	11.85	30	N-79°-E	1	N-83°-E			0									
A	11	4A-17	2.93 × 3.25	9.50	30	N-6°-W	1	N-6°-E			0									
A	21	3L-10	2.95 × 3.67	10.19	3	N-101°-E	1	N-102°-E			0									
A	33	7T-1	2.70 × 2.62	7.11	11	N-66°-E	1	N-77°-E			3	円形 楕円形	41.46 76×38	15.21 17	0					
A	38	8C-1	2.79 × 2.95	8.31	10	N-95°-E	1	N-90°-E			1	円形	69	24	0					
A	39	3G-15	3.37 × 4.12	(13.46)	29	N-91°-E	1	N-102°-E			0									
A	42	3B-12	4.21 × 2.94	12.21	13	N-95°-E	1	N-94°-E			0									
A	45	3B-11	4.21 × 3.29	14.45	36	N-92°-E	1	N-92°-E			1	円形	68	33	0					
A	48	3R-19	2.30 × 2.54	(5.05)	26	N-64°-E	1	N-32°-E			0									
A	49	3D-11	2.34 × 3.57	8.46	38	N-109°-E	1	N-112°-E			2	円形	50.32	19.23	0					
A	50	3E-11	3.82 × 2.90	11.21	26	N-99°-E	1	N-106°-E			0									
A	51	3C-9	2.58 × (3.76)	(8.30)	36	N-109°-E	1	N-113°-E			2	円形	65.37	34.20	0					
A	52	3F-15	2.72 × 3.64	10.61	32	N-78°-E	1	N-31°-E			1	円形	57	10	0					
A	53	3F-13	3.88 × 2.92	11.89	35	N-108°-E	1	N-89°-E			1	楕円形	63×48	10	0					
A	54	3E-16	4.93 × 2.95	(14.76)	28	N-102°-E	1	N-93°-E			0									
A	55	3D-16	2.63 × 3.72	11.46	31	N-102°-E	2	N-100°-E N-105°-E			0									
A	56	3B-16	(2.84) × 3.54	(10.90)	24	不可	0	N- --			0									
A	57	3B-16	2.92 × 3.98	12.20	35	N-101°-E	1	N-93°-E	37	5	1	円形	60	18	0					
A	58	2S-9	3.64 × (2.22)	(6.12)	20	不可	0	N- --			1	円形	65	24	0					
A	59	2R-9	(1.61) × (0.96)	(1.33)	32	不可	0	N- --			0									
A	60	2R-10	2.42 × 3.93	11.17	34	N-117°-E	1	N-124°-E			2	円形	78.62	38	8	0				

報告書抄録

ふりがな	はしえなかのめんいせき
書名	波志江中野面遺跡(1)―古墳時代以降編―
副書名	北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域埋蔵文化財調査報告書
巻次	第5集
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第281集
編集者名	角田芳昭
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2 TEL 0279(52)2511
発行年月日	西暦2001年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はしえなかのめん 波志江中野面	ぐんまけんいせきし 群馬県伊勢崎市 はしえまち 波志江町	10204		36° 20′ 55″	139° 11′ 52″	19970704～ 19980331 19980401～ 19990331 19990817～ 19990921	20,954	北関東自動車道建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
波志江中野面	集落 田畑 墓	古墳時代前期	竪穴住居跡28軒 掘立柱建物2棟 方形周溝墓19基 井戸2基、溝10条 その他 土坑等	土師器・勾玉・ 砥石	前方後方形周溝墓 パレススタイル壺
		古代	竪穴住居跡52軒 掘立柱建物跡6棟 As-B下水田跡 井戸4基、溝10条 その他 土坑等	土師器・須恵器 緑釉陶器・灰釉 陶器・土製品・ 刀子	墨書土器 土錘
		中世	土坑墓 1基	古銭・人歯	
		近世	井戸17基、溝35条 その他 土坑等	陶磁器・石製品	井戸から出土した蔵骨器と 思われる石製品

写 真 图 版



1. A区西侧全景



2. A区东侧全景

PL2



1. A区北侧全景



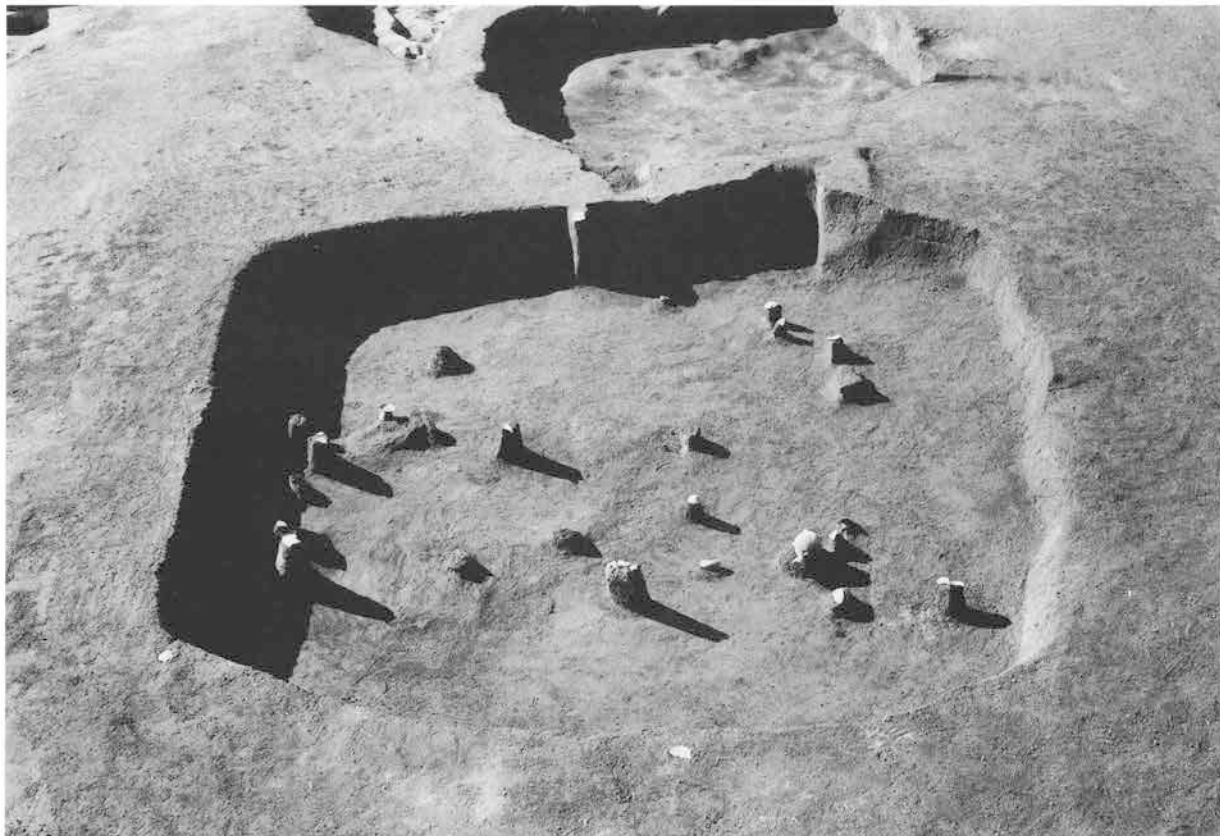
2. B区全景



1. C区西侧全景



2. C区东侧全景



1. A区4号住居跡全景 東から



2. A区4号住居跡遺物出土状況 南から



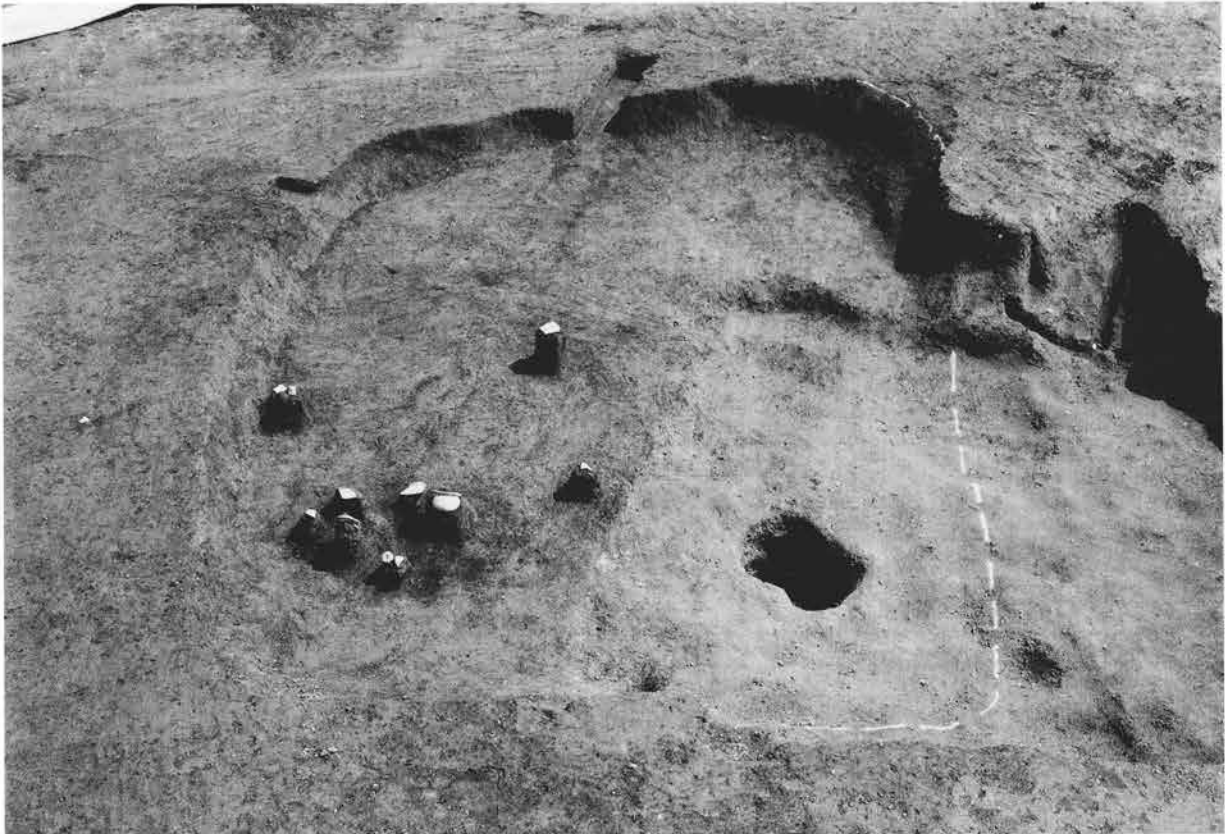
3. A区4号住居跡柱穴3セクション 西から



4. A区4号住居跡柱穴1セクション 東南から



5. A区4号住居跡掘り方全景 南から



1. A区9号住居跡遺物出土状況全景 西から



2. A区9号住居跡遺物出土状況 東から



3. A区9号住居跡柱穴2セクション 西から



4. A区9号住居跡柱穴4遺物出土状況 南から



5. A区9号住居跡掘り方全景 西から



1. A区10号住居跡全景 南西から



2. A区10号住居跡東西セクション 南から



3. A区10号住居跡南北セクション 西から



4. A区10号住居跡中央部遺物出土状況 東から



5. A区10号住居跡掘り方全景 西から



1. A区12号住居跡全景 東から



2. A区12号住居跡東西セクション 南から



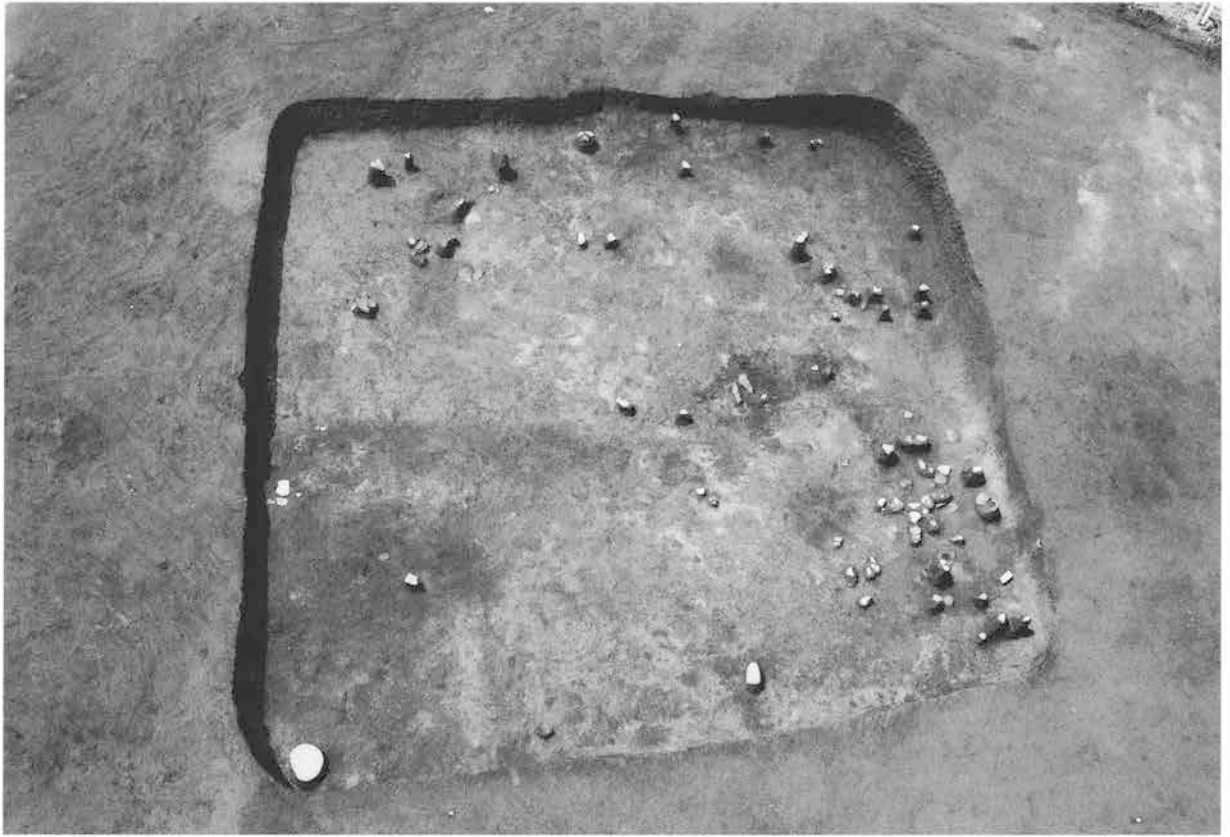
3. A区12号住居跡貯蔵穴セクション 北から



4. A区12号住居跡北側遺物出土状況 南から



5. A区12号住居跡掘り方全景 南から



1. A区14号住居跡全景 東から



2. A区14号住居跡東西セクション 南から



3. A区14号住居跡北東部分 南から



4. A区14号住居跡南壁付近出土遺物勾玉 北から



5. A区14号住居跡炉全景 南から



1. A区14号住居跡柱穴1セクション 南から



2. A区14号住居跡貯蔵穴 北から



3. A区14号住居跡掘り方全景 北から



4. A区16号住居跡掘り方全景 南から



5. A区16号住居跡全景 南から



1. A区17号住居跡全景(住居ライン入り) 南から



2. A区17号住居跡セクション 南から



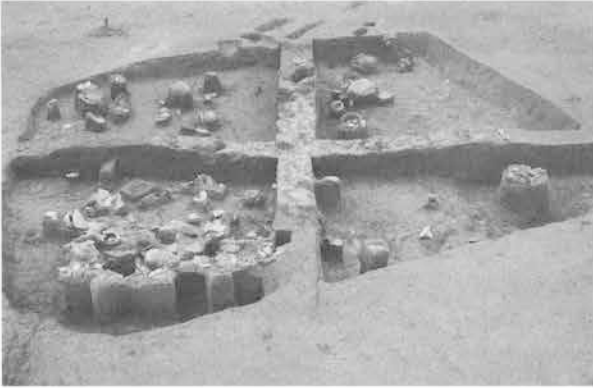
3. A区17号住居跡遺物出土状況 南から



4. A区17号住居跡遺物出土状況 北から



5. A区17号住居跡遺物出土状況 西から



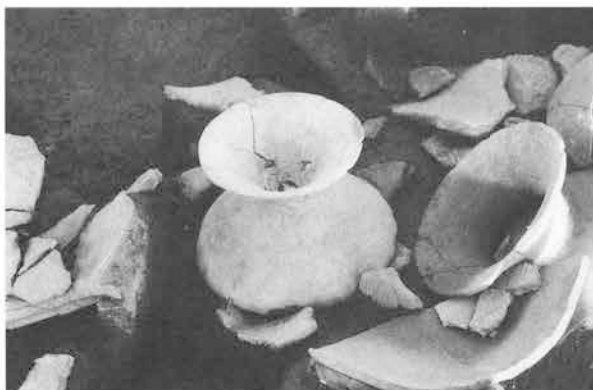
1. A区17号住居跡東西セクション 南から



2. A区17号住居跡南西端遺物出土状況 東から



3. A区17号住居跡全景 南から



4. A区17号住居跡南西端遺物出土状況 西から



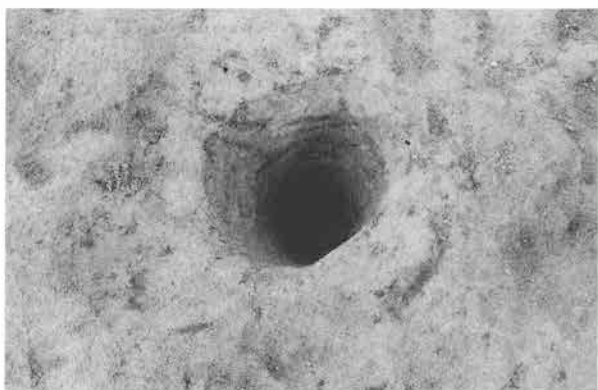
5. A区17号住居跡北東端遺物出土状況 西から



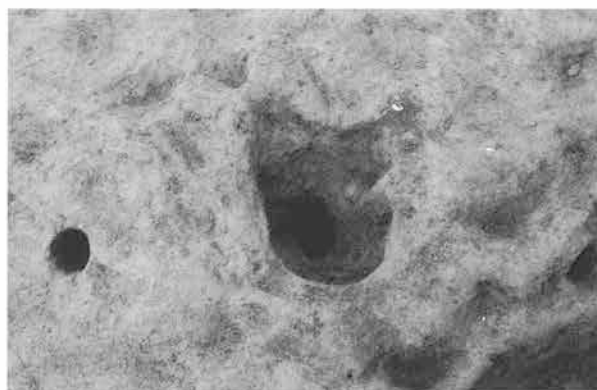
1. A区17号住居跡炉跡全景 南から



2. A区17号住居跡柱穴3セクション 南から



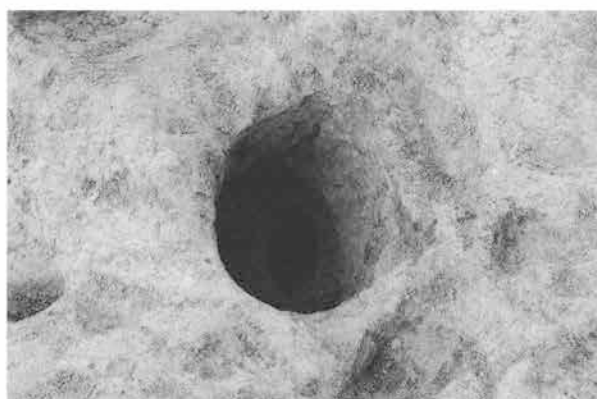
3. A区17号住居跡柱穴1 南から



4. A区17号住居跡柱穴2 南から



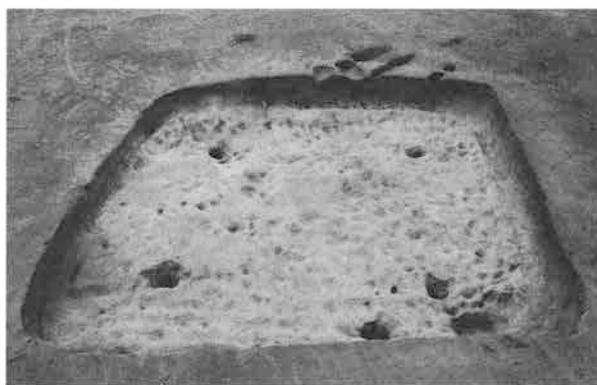
5. A区17号住居跡柱穴3 南から



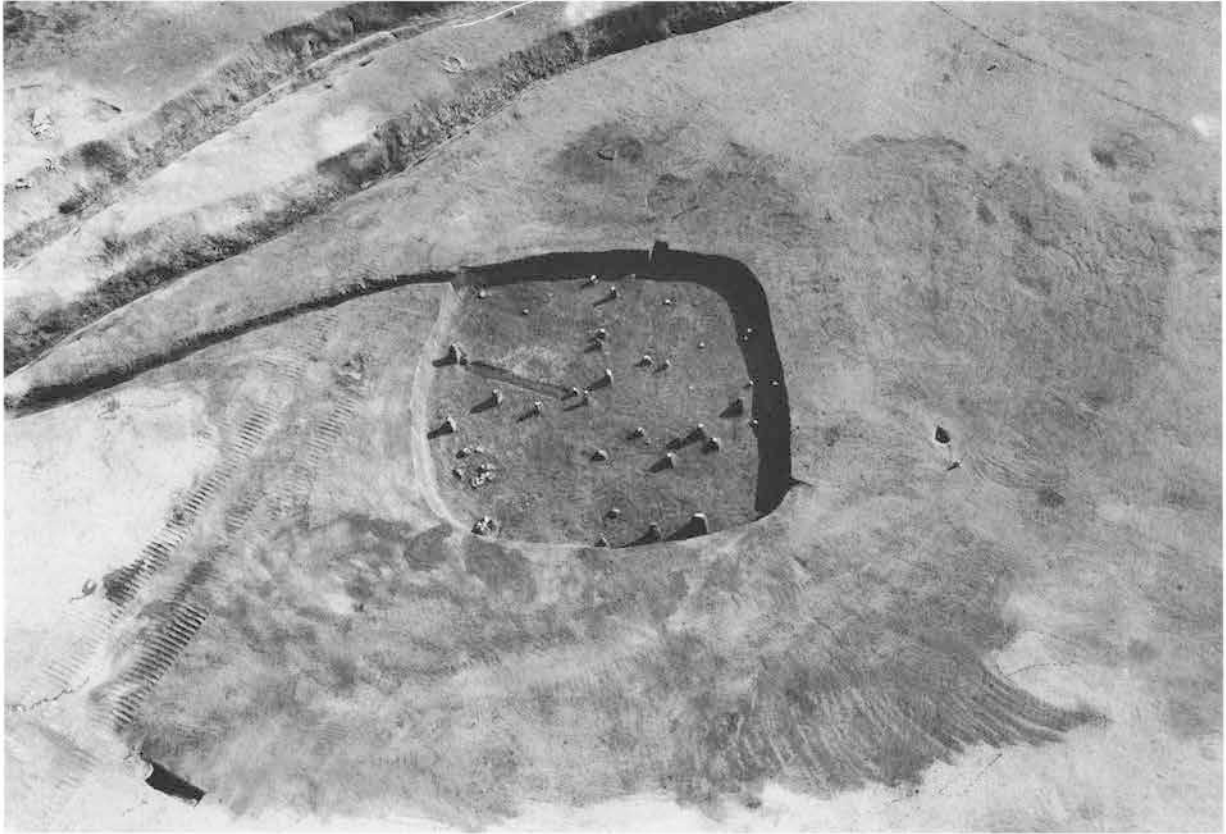
6. A区17号住居跡柱穴4 南から



7. A区17号住居跡貯蔵穴 南から



8. A区17号住居跡掘り方全景 南から



1. A区18号住居跡全景 北から



2. A区18号住居跡南北セクション 西から



3. A区18号住居跡柱穴1セクション 東から



4. A区18号住居跡北側遺物出土状況 東から



5. A区18号住居跡掘り方全景 西から



1. A区22号住居跡全景 東から



2. A区22号住居跡東西セクション 南から



3. A区22号住居跡、7号溝セクション 南から



4. A区22号住居跡ピット1 南から



5. A区22号住居跡掘り方全景 西から



1. A区23号住居跡全景 東から



2. A区23号住居跡全景 北から



3. A区23号住居跡炭化材出土状況 西から



4. A区23号住居跡炭化材出土状況 北から



5. A区23号住居跡炭化材出土状況 南西から



1. A区23号住居跡遺物出土状況 西から



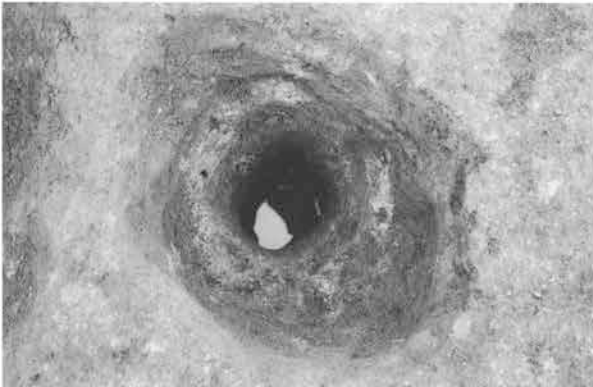
2. A区23号住居跡焼土・炭化材出土状況 北から



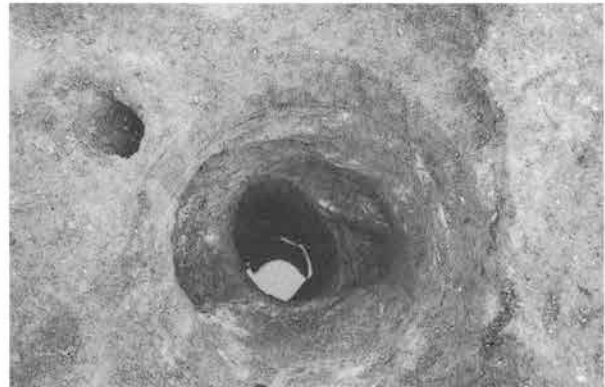
1. A区23号住居跡柱穴1 上から



2. A区23号住居跡柱穴2 上から



3. A区23号住居跡柱穴3 上から



4. A区23号住居跡柱穴4 上から



5. A区23号住居跡貯蔵穴 上から



6. A区23号住居跡掘り方全景 北から



7. A区23号住居跡柱穴1 石膏流し込み 南から



8. A区23号住居跡柱穴2 石膏流し込み 南から



1. A区24号住居跡全景 南東から



2. A区24号住居跡セクション 西から



3. A区24号住居跡全景 西から



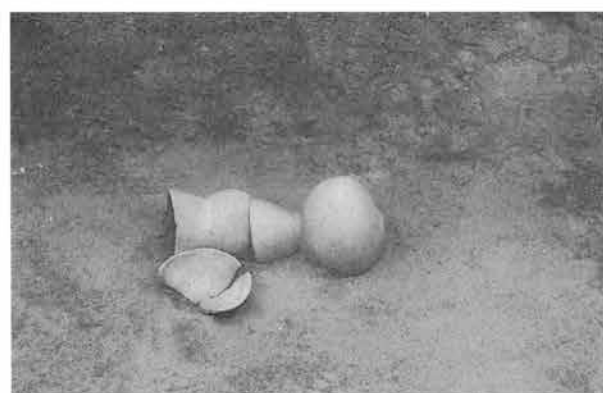
4. A区25号住居跡東西セクション 南から



5. A区25号住居跡南東部分遺物出土状況 西から



1. A区25号住居跡全景 南から



2. A区25号住居跡南東部分遺物出土状況 西から



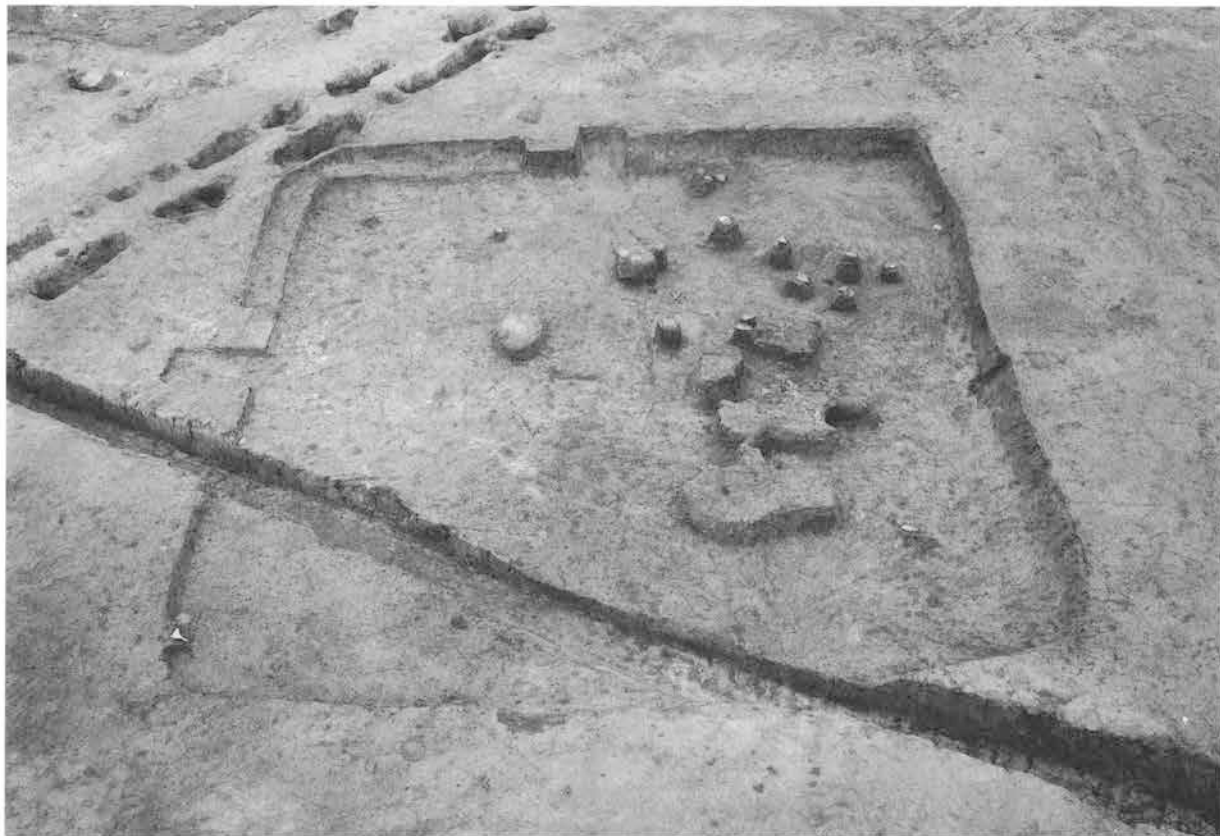
3. A区25号住居跡遺物2出土状況 北から



4. A区25号住居跡貯蔵穴 南から



5. A区25号住居跡掘り方全景 西から



1. A区27号住居跡全景 南から



2. A区27号住居跡セクション 西から



3. A区27号住居跡掘り方全景 南から



4. A区30号住居跡セクション 南から



5. A区30号住居跡貯蔵穴セクション 南から



1. A区30号住居跡全景 西から



2. A区30号住居跡掘り方全景 南から



3. A区31号住居跡セクション 南から



4. A区31号住居跡全景 南から



5. A区31号住居跡柱穴2セクション 南から



1. A区31号住居跡掘り方全景 西から



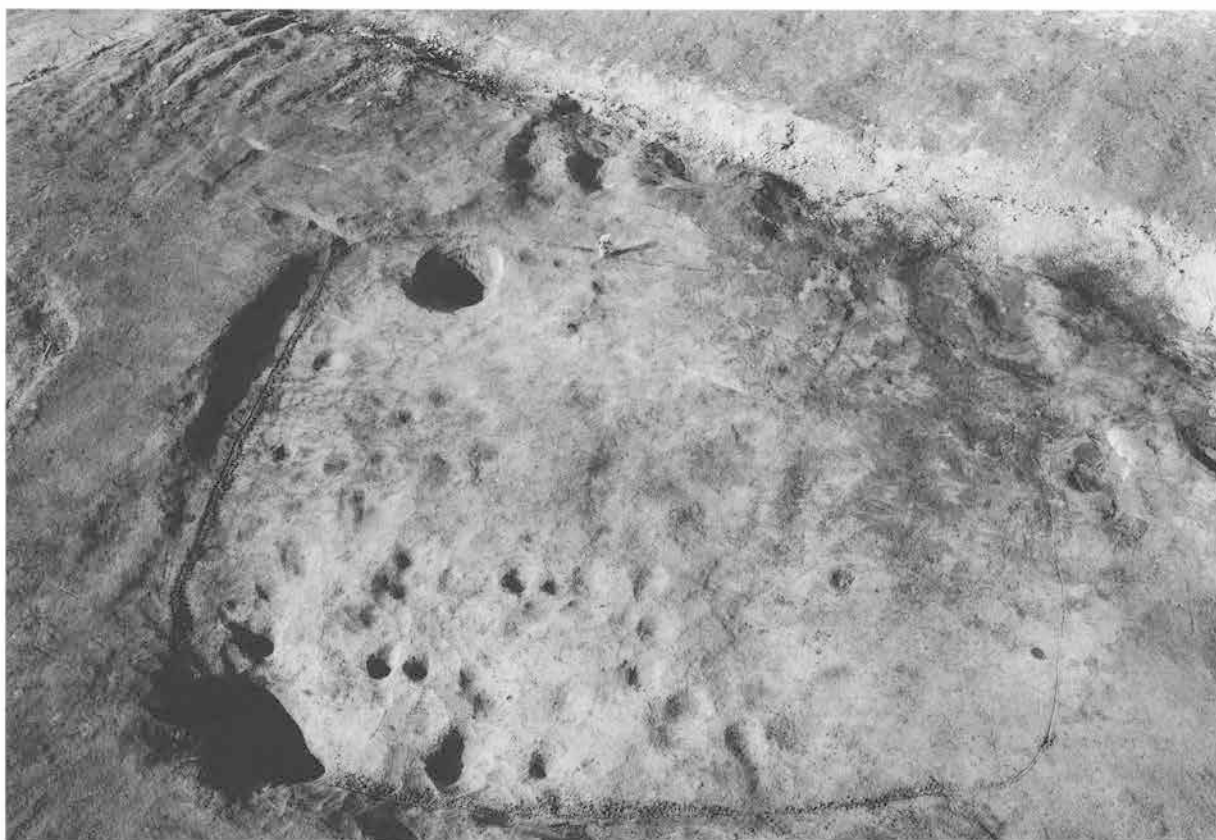
2. A区32号住居跡掘り方全景 西から



1. A区34号住居跡セクション 南から



2. A区34号住居跡全景 西から



3. A区34号住居跡掘り方全景 南から



4. A区35号住居跡東西セクション 北から



5. A区35号住居跡南北セクション 西から



1. A区35号住居跡全景 西から



2. A区35号住居跡柱穴2セクション 南から



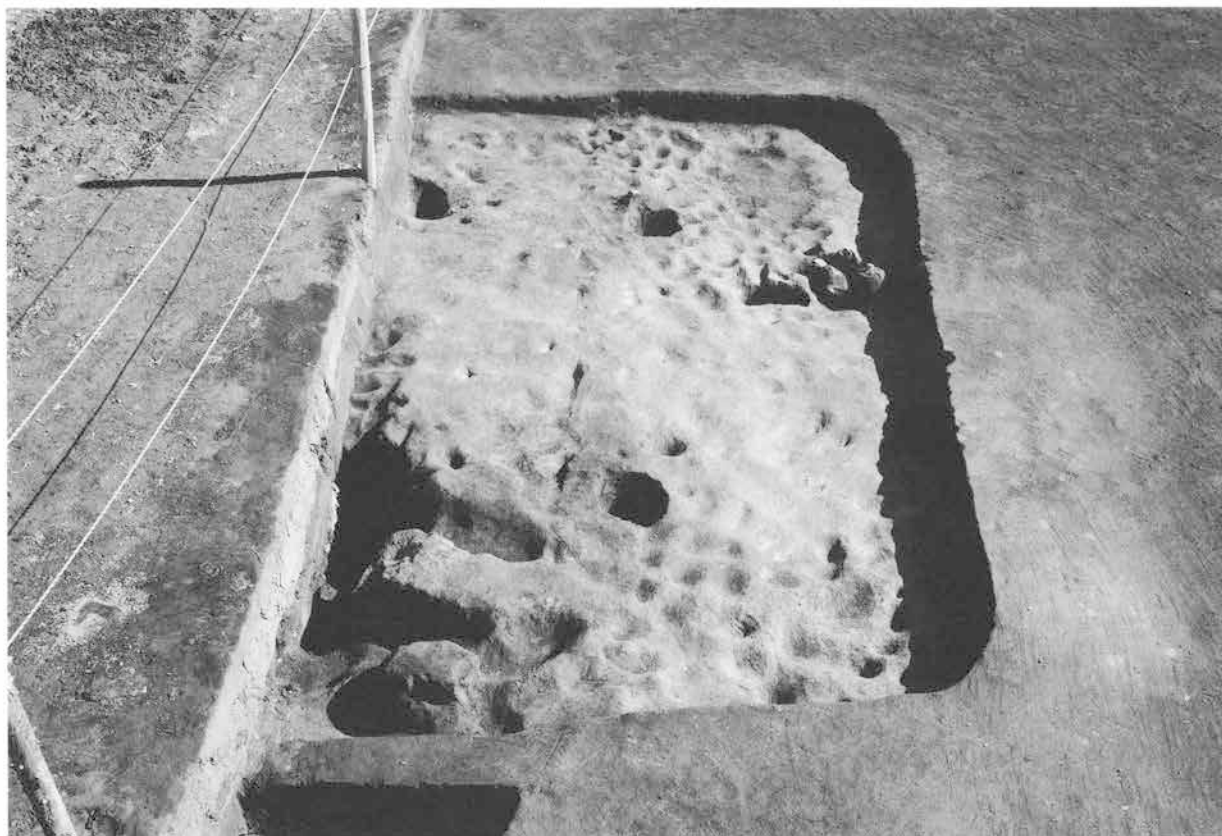
3. A区35号住居跡掘り方全景 西から



4. A区36号住居跡全景 西から



5. A区36号住居跡柱穴1セクション 南から



1. A区36号住居跡掘り方全景 西から



2. A区37号住居跡東西セクション 南から



3. A区37号住居跡全景 南から



4. A区37号住居跡柱穴セクション 南から



5. A区37号住居跡掘り方全景 北から



1. A区40号住居跡全景 西から



2. A区40号住居跡東西セクション 南から



3. A区40号住居跡南北セクション 西から



4. A区41号住居跡FA全景 北から



5. A区41号住居跡東西セクション 北から



1. A区41号住居跡南北セクション 西から



2. A区41号住居跡全景 北から



3. A区41号住居跡掘り方全景 北から



4. A区43号住居跡南北セクション 西から



5. A区43号住居跡掘り方全景 南から



1. A区43号住居跡全景 南から



2. A区44号住居跡全景 北から



1. A区44号住居跡東西セクション 北から



2. A区44号住居跡掘り方全景 北から



3. A区68号住居跡全景 西から



4. A区68号住居跡遺物1 出土状況 南から



5. A区68号住居跡遺物出土状況 南から



1. A区68号住居跡柱穴1セクション 南から



2. A区68号住居跡掘り方全景 西から



3. B区3号住居跡全景 南から



4. B区3号住居跡東西セクション 南から



5. B区3号住居跡掘り方全景 南から



1. C区6号住居跡全景 北から



2. C区6号住居跡東西セクション 南から



3. C区6号住居跡遺物出土状況 南から



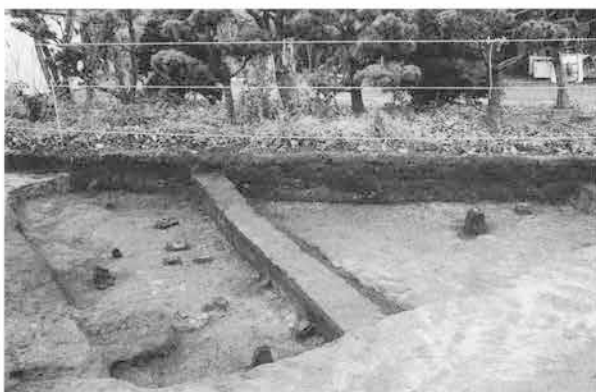
4. C区6号住居跡柱穴1セクション 西から



5. C区6号住居掘り方全景 東から



1. C区12号住居跡全景 西から



2. C区12号住居跡東西セクション 南から



3. C区12号住居跡南北セクション 西から



4. C区12号住居跡貯蔵穴 東から



5. C区12号住居跡掘り方全景 西から



1. A区1号方形周溝墓全景 北から



2. A区1号方形周溝墓E-E'セクション 西から



3. A区1号方形周溝墓A-A'セクション 南から



4. A区1号方形周溝墓北溝 西から



5. A区1号方形周溝墓西溝 北から



1. A区2号方形周溝墓全景 北から



2. A区2号方形周溝墓A-A'セクション 西から



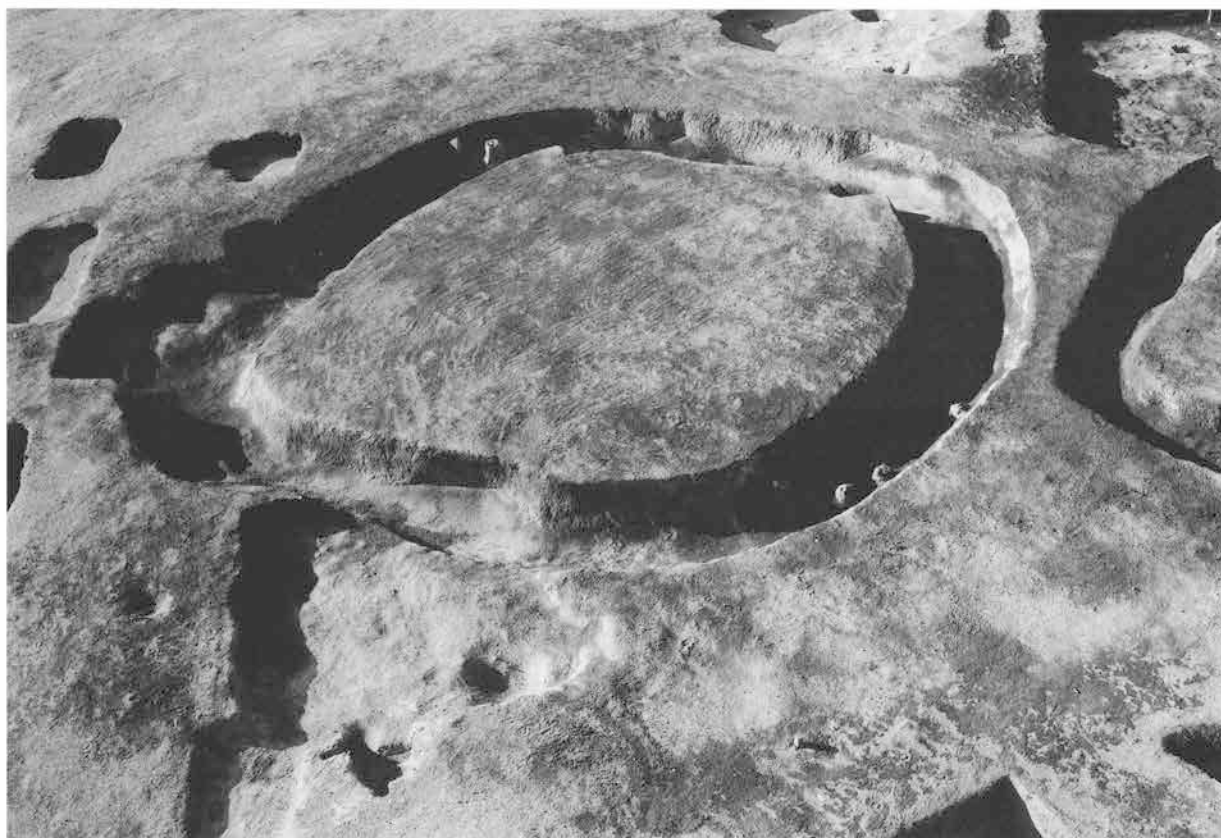
3. A区2号方形周溝墓B-B'セクション 東から



4. A区2号方形周溝墓遺物出土状況 南から



5. A区2号方形周溝墓周溝部 西から



1. A区3号方形周溝墓全景 南から



2. A区3号方形周溝墓A-A'セクション 北から



3. A区3号方形周溝墓B-B'セクション 西から



4. A区3号方形周溝墓遺物出土状況 西から



5. A区3号方形周溝墓遺物出土状況 西から



1. A区4号方形周溝墓全景 西から



2. A区4号方形周溝墓D-D'セクション 東から



3. A区4号方形周溝墓B-B'セクション 南から



4. A区4号方形周溝墓周溝部 東から



5. A区4号方形周溝墓周溝部 西から



1. A区5号方形周溝墓全景 南から



2. A区5号方形周溝墓遺物出土状況 南から



3. A区5号方形周溝墓D-D'セクション 南から



4. A区5号方形周溝墓遺物出土状況 西から



5. A区5号方形周溝墓遺物出土状況 東から



1. A区6号方形周溝墓全景 北西から



2. A区6号方形周溝墓西側周溝セクション 北から



3. A区6号方形周溝墓東側周溝セクション 北から



4. A区7号方形周溝墓I-I'セクション 北から



5. A区7号方形周溝墓E-E'セクション 南から



1. A区7号方形周溝墓全景 北から



2. A区7号方形周溝墓遺物出土状況 西から



3. A区7号方形周溝墓遺物出土状況 南から



4. A区7号方形周溝墓遺物出土状況 南西から



5. A区7号方形周溝墓C軽石土坑 南から



1. A区8号方形周溝墓全景 北から



2. A区8号方形周溝墓B-B'セクション 南から



3. A区8号方形周溝墓D-D'セクション 西から



4. A区9号方形周溝墓D-D'セクション 西から



5. A区9号方形周溝墓B-B'セクション 南から



1. A区9号方形周溝墓全景 北から



2. A区9号方形周溝墓遺物出土状況 南から



3. A区9号方形周溝墓遺物出土状況 南から



4. A区10号方形周溝墓全景 北から



5. A区10号方形周溝墓B-B'セクション 西から



1. A区10号方形周溝墓A-A'セクション 北から



2. A区11号方形周溝墓全景 東から



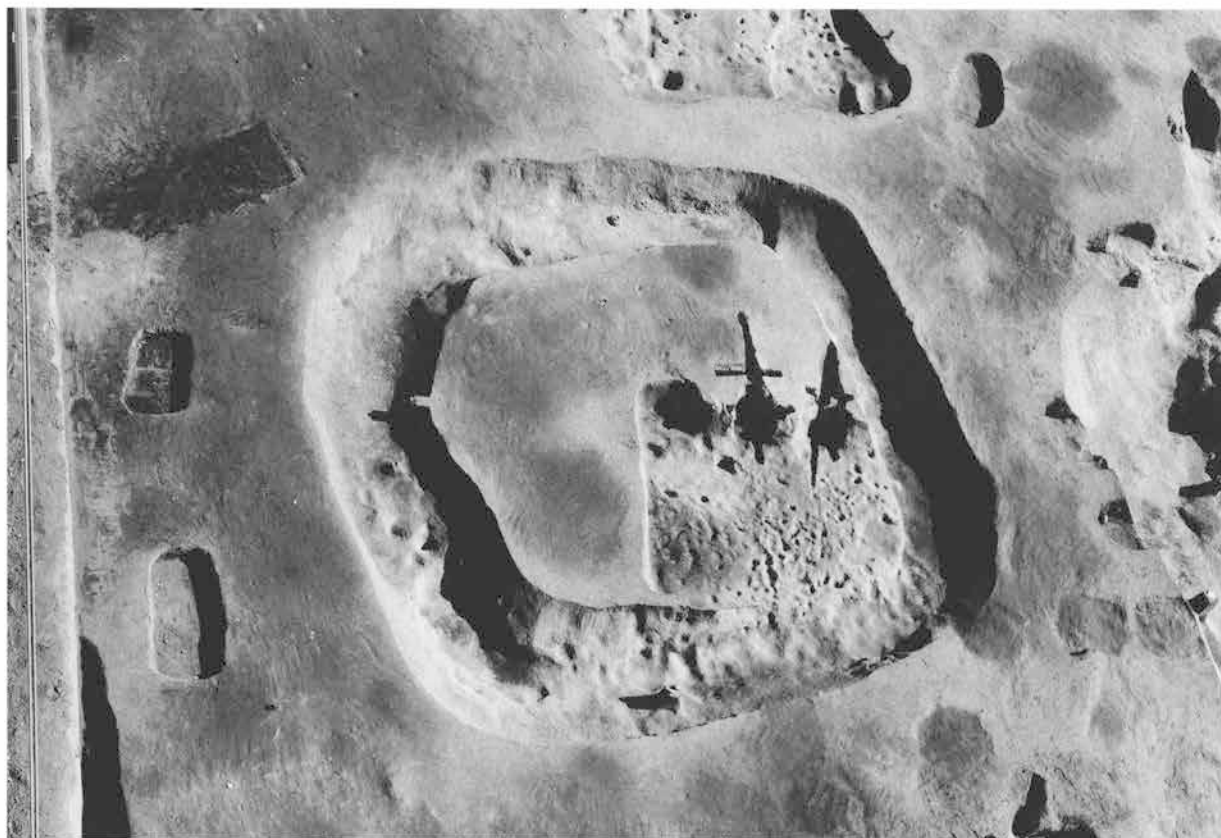
3. A区12号方形周溝墓全景 西から



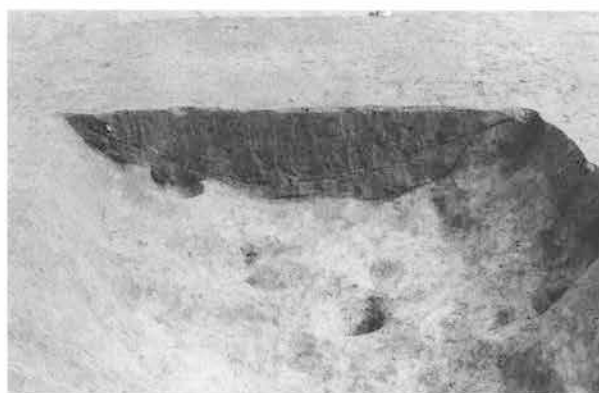
4. A区12号方形周溝墓C-C'セクション 西から



5. A区12号方形周溝墓A-A'セクション 南から



1. A区13号方形周溝墓全景 西から



2. A区13号方形周溝墓D-D'セクション 西から



3. A区13号方形周溝墓B-B'セクション 南から



4. A区13号方形周溝墓遺物出土状況 西から



5. A区13号方形周溝墓遺物出土状況 西から



1. A区14号方形周溝墓全景 東から



2. A区14号方形周溝墓C-C'セクション 南から



3. A区14号方形周溝墓A-A'セクション 西から



4. A区14号方形周溝墓遺物2出土状況 北から



5. A区14号方形周溝墓遺物出土状況 東から



1. B区1号方形周溝墓全景 西から



2. B区1号方形周溝墓南北セクション 西から



3. B区2号方形周溝墓FA出土状況 北から



4. B区2号方形周溝墓A-A'セクション 東から



5. B区2号方形周溝墓B-B'セクション 北から



1. B区2号方形周溝墓全景 南から



2. B区3号方形周溝墓全景 東から



1. B区3号方形周溝墓FA全景 北から



2. B区3号方形周溝墓南北セクション 西から



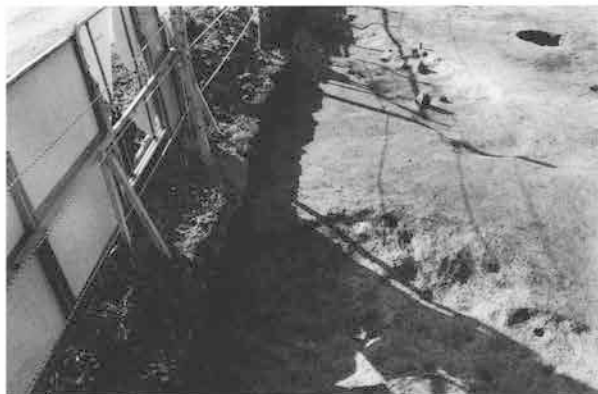
PL 47 3. B区4号方形周溝墓全景 西から



4. B区4号方形周溝墓C-C'セクション 南から



5. B区4号方形周溝墓遺物出土状況 南から



1. C区1号方形周溝墓全景 東から



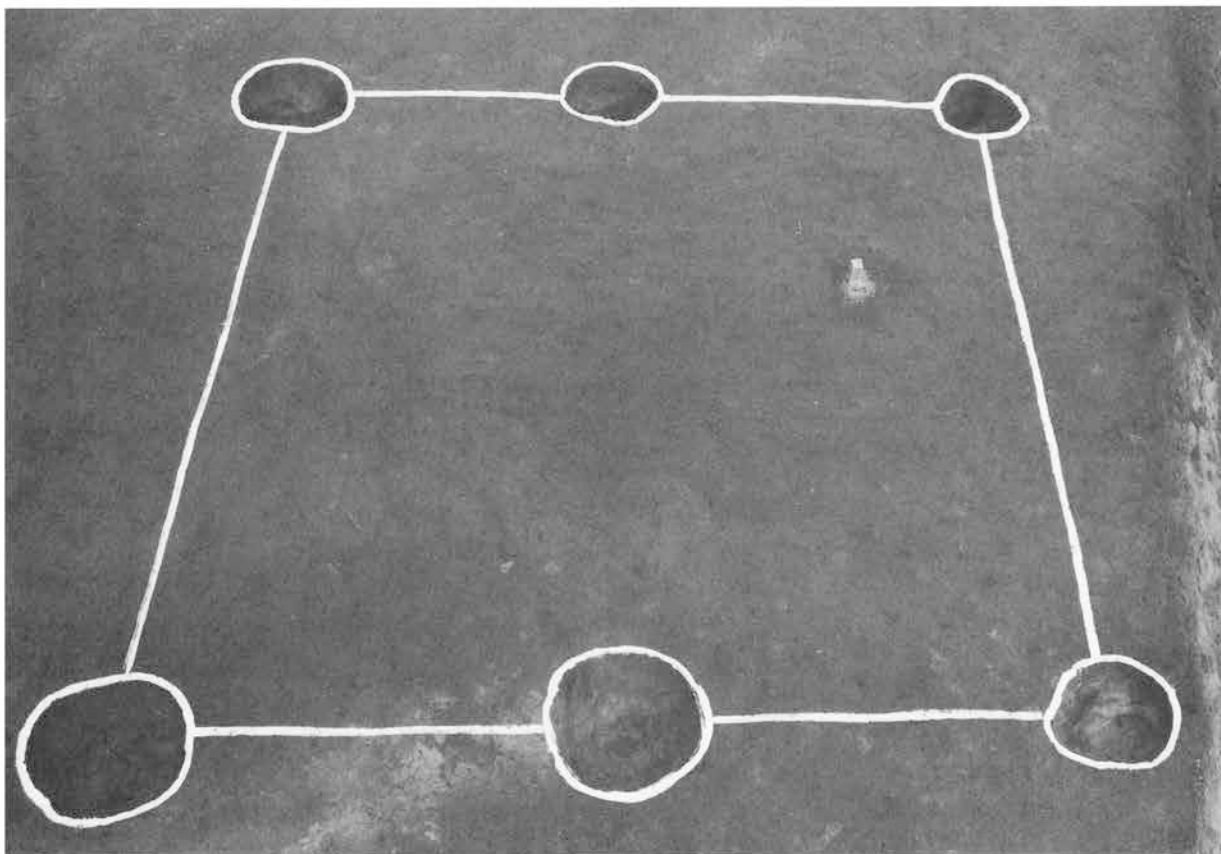
2. C区1号方形周溝墓全景 南から



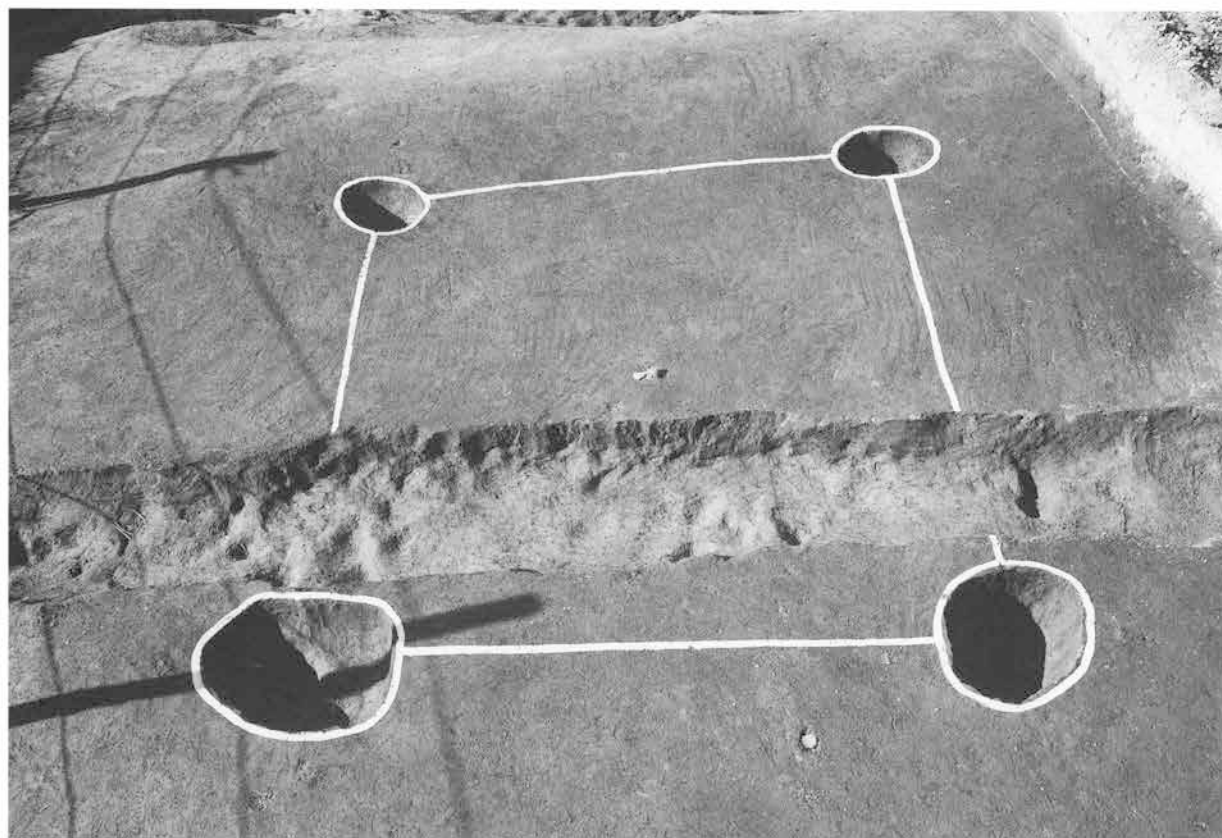
3. C区1号方形周溝墓北側周溝 北から



4. C区1号方形周溝墓B-B'セクション 東から



5. C区4号掘立柱建物跡全景 南から



1. C区5号掘立柱建物跡全景 東から



2. A区1号井戸全景 南から



3. A区2号井戸全景 西から



4. C区3号溝全景 南東から



1. C区3号溝セクション 北から



2. C区6号溝全景 南から



3. C区7号溝全景 東から



4. C区9号溝全景 東から



5. C区13号溝全景 北から



1. C区16・24・25号溝セクション 南から



2. C区25号溝全景 北から



3. C区16・24号溝 北から



4. C区23号溝セクション 南から



5. C区27号溝全景 南から



6. C区28号溝セクション 北から



7. C区28号溝遺物出土状況 西から



1. C区26・28・29・30号溝全景 南西から



2. A区1号焼土坑全景 西から



3. A区30号土坑セクション 西から



4. A区46号土坑全景 南から



5. A区48号土坑全景 西から



1. A区76号土坑セクション 南から



2. A区82号土坑全景 西から



3. B区1号土坑セクション 西から



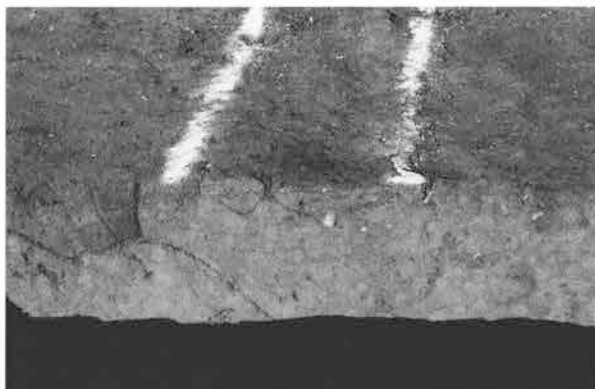
4. A区1号竪穴状遺構セクション 南から



5. A区1号竪穴状遺構全景 西から



1. A区古墳時代耕作溝全景 北から



2. A区1号道路跡C-C'セクション 南から



3. B区1号道路跡セクション 北から



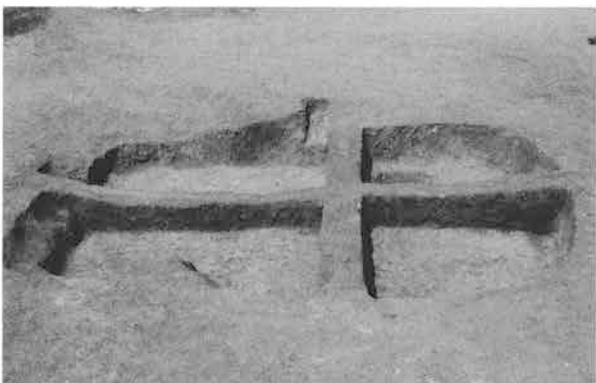
4. A区1号土器群全景 北から



5. B区1号土器群遺物出土状況 西から



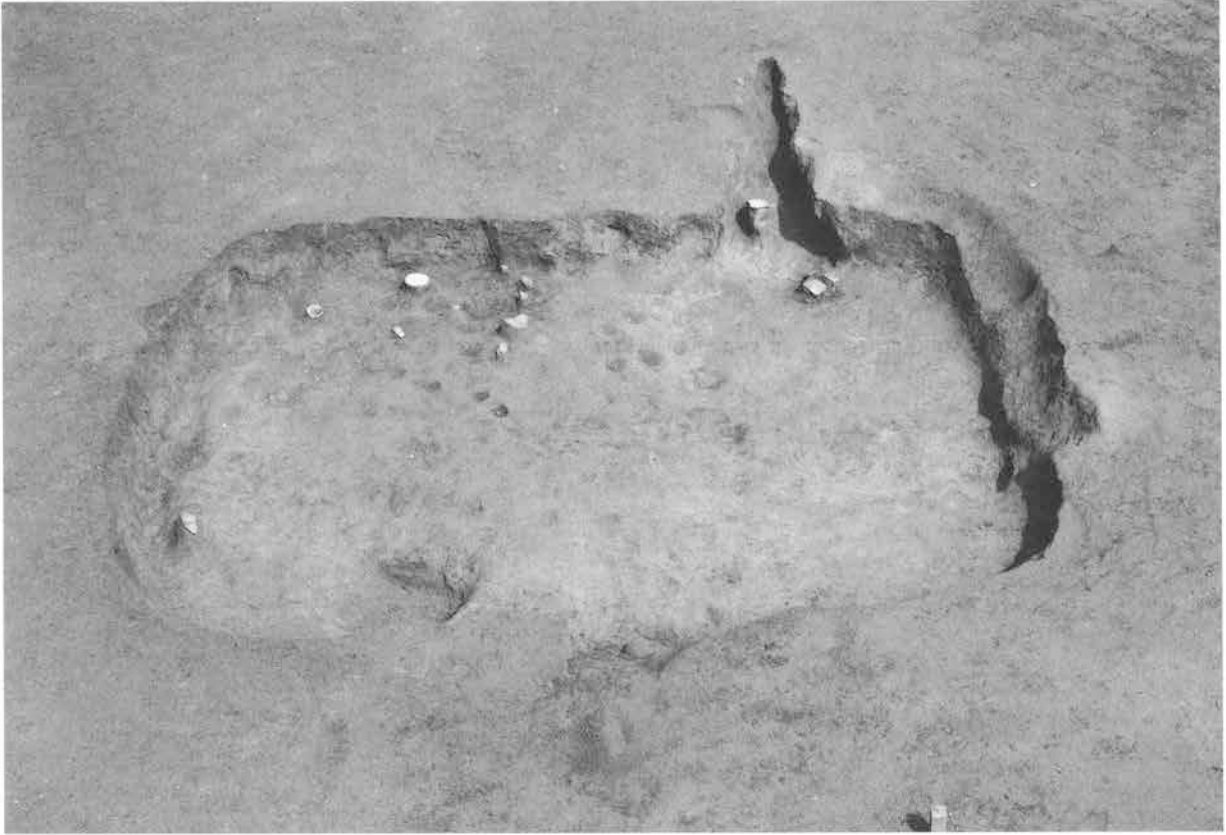
6. B区1号土器群遺物出土状況 西から



7. A区1号住居跡南北セクション 東から



8. A区1号住居跡竈付近 西から



1. A区1号住居跡全景 西から



2. A区2号住居跡全景 西から



1. A区2号住居跡竈セクション 西から



2. A区2号住居跡掘り方全景 西から



3. A区3号住居跡全景 西から



4. A区3号住居跡竈全景 西から



5. A区3号住居跡掘り方全景 西から



1. A区5号住居跡全景 西から



2. A区5号住居跡南北セクション 西から



3. A区5号住居跡竈断ち割りセクション 西から



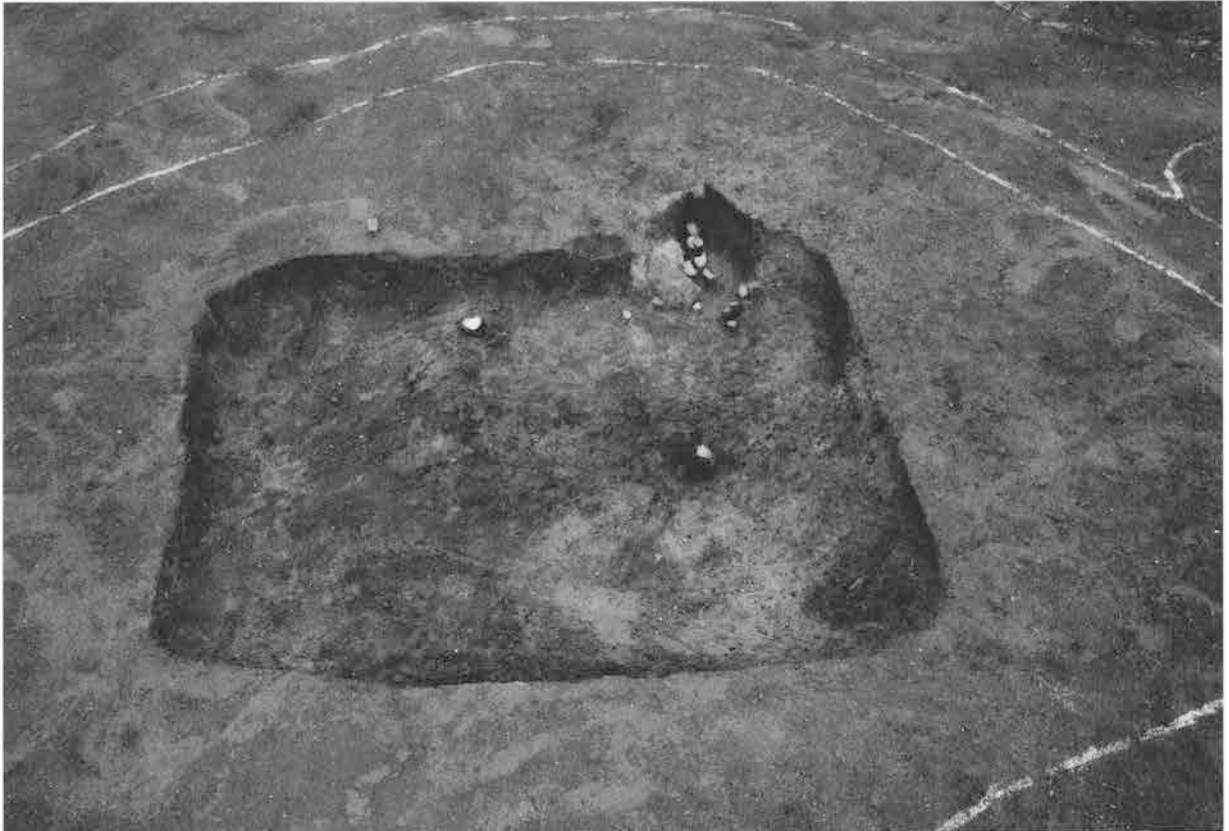
4. A区6号住居跡東西セクション 南から



5. A区6号住居跡竈断ち割りセクション 西から



1. A区6号住居跡掘り方全景 西から



2. A区7号住居跡全景 西から



1. A区7号住居跡南北セクション 西から



2. A区7号住居跡竈全景 西から



3. A区8号住居跡全景 西から



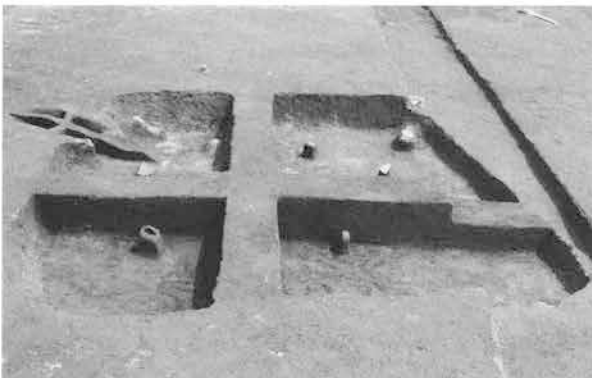
4. A区8号住居跡東西セクション 南から



5. A区8号住居跡竈全景 西から



1. A区11号住居跡全景 南から



2. A区11号住居跡南北セクション 西から



3. A区11号住居跡竈全景 南から



4. A区11号住居跡掘り方全景 南から



5. A区11号住居跡竈断ち割りセクション 南から



1. A区21号住居跡全景 西から



2. A区21号住居跡セクション 西から



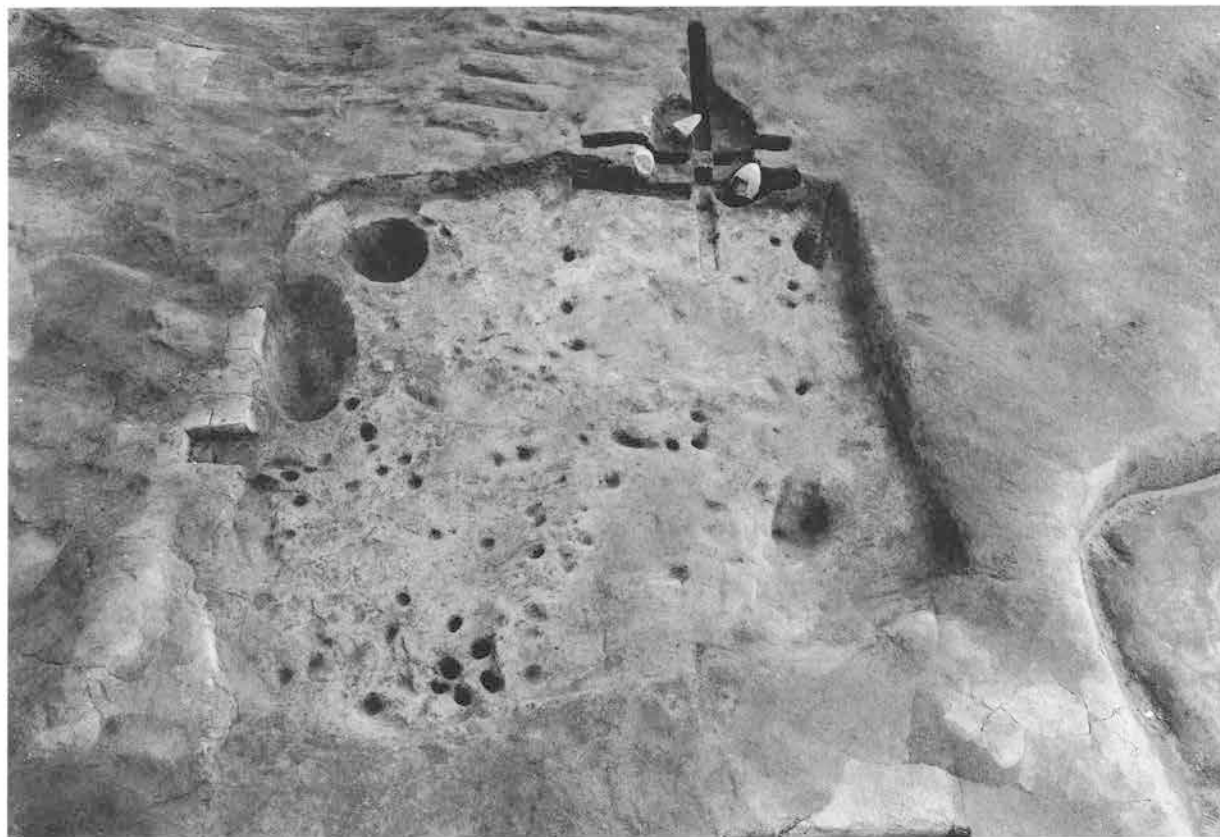
3. A区21号住居跡竈全景 西から



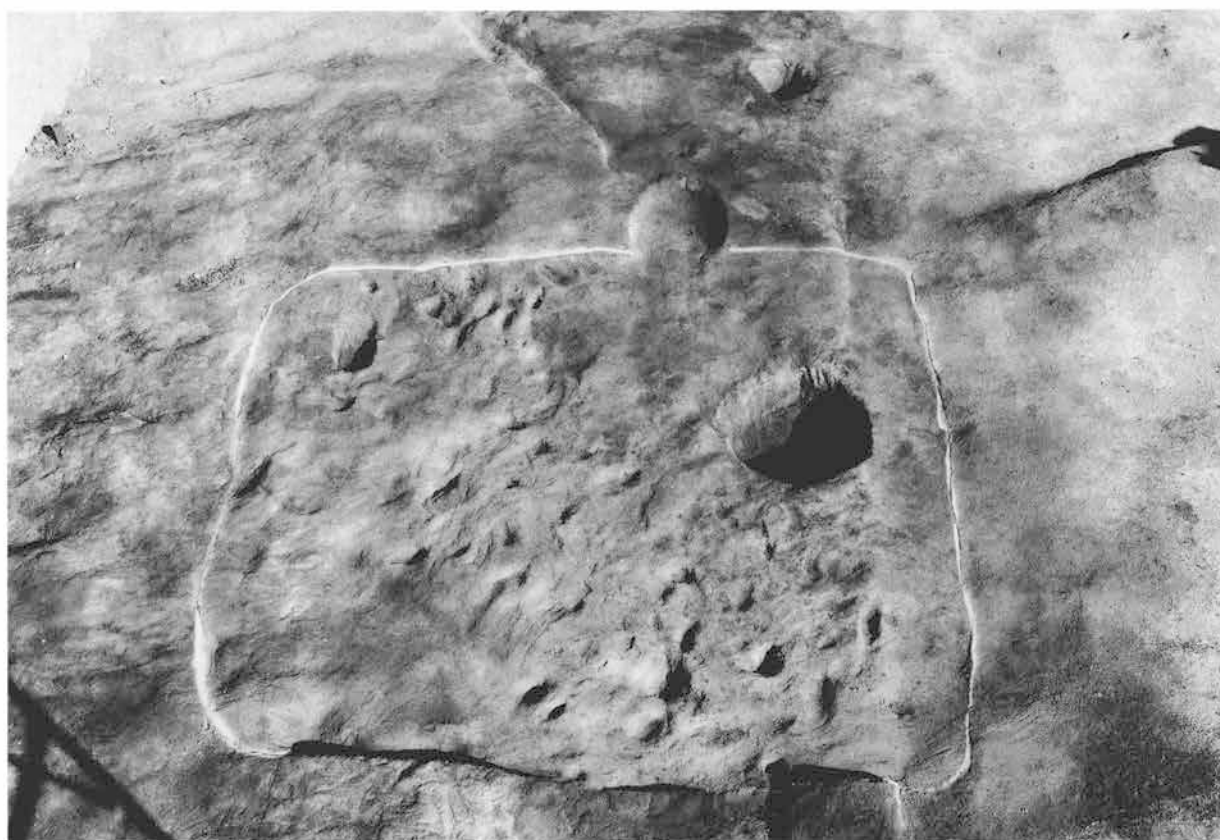
4. A区33号住居跡南北セクション 西から



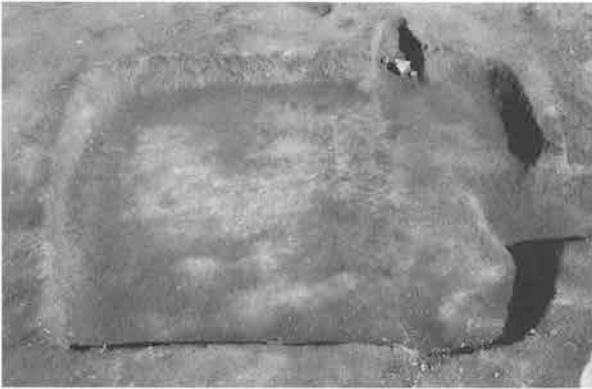
5. A区33号住居跡竈全景 西から



1. A区33号住居跡掘り方全景 西から



2. A区38号住居跡掘り方全景 西から



1. A区39号住居跡全景 西から



2. A区39号住居跡竈全景 西から



3. A区39号住居跡掘り方全景 西から



4. A区42号住居跡遺物出土状況 北から



5. A区42号住居跡竈全景 西から



1. A区42号住居跡掘り方全景 西から



2. A区45号住居跡南北セクション 西から



3. A区45号住居跡遺物出土状況 南から



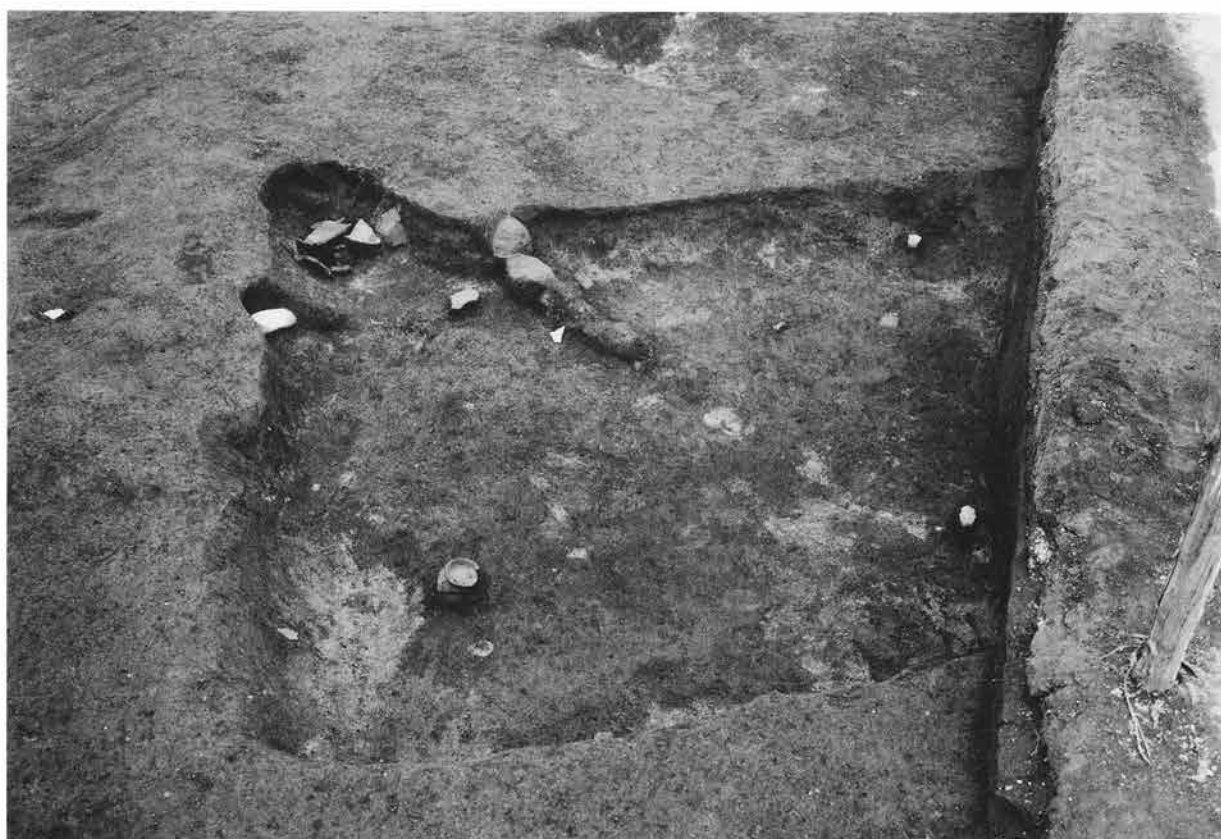
4. A区45号住居跡竈全景 西から



5. A区45号住居跡貯蔵穴 北から



1. A区45号住居跡全景 西から



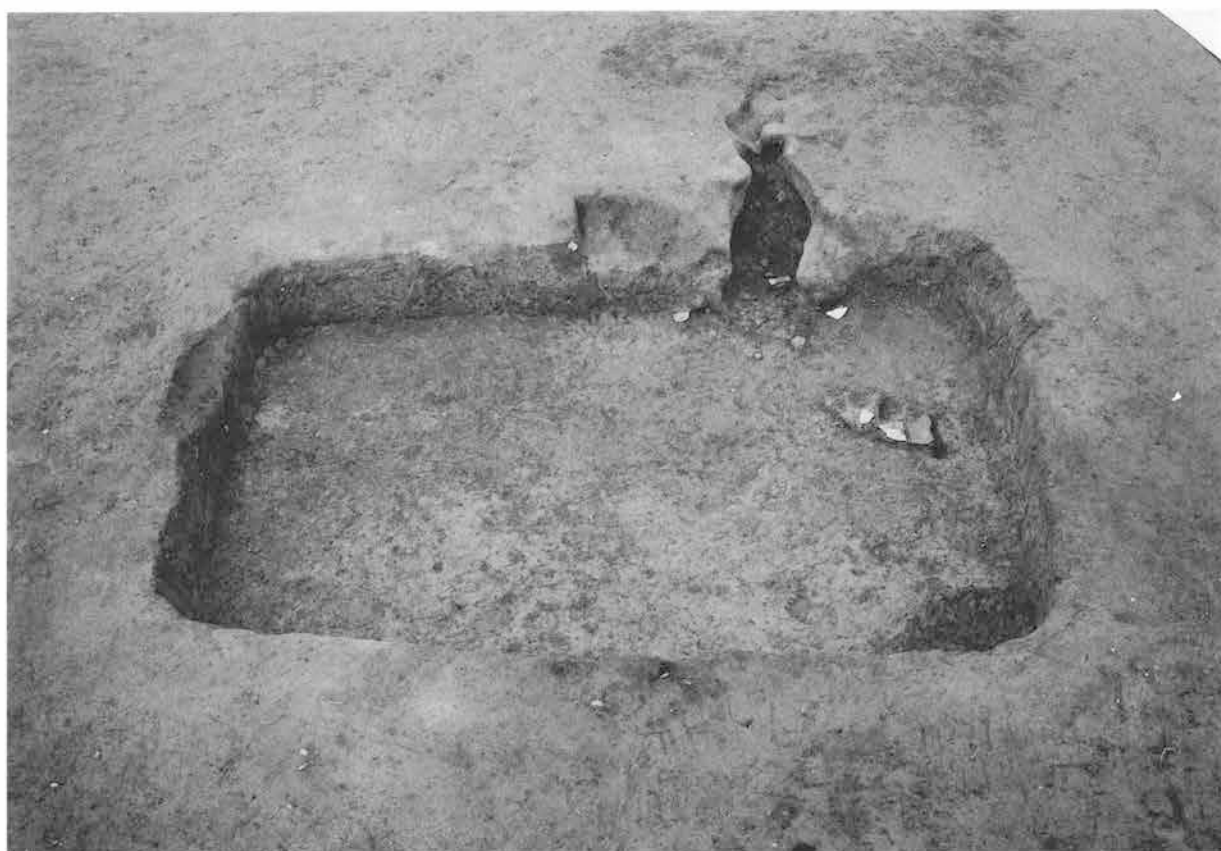
2. A区48号住居跡全景 西から



1. A区48号住居跡竈全景 南西から



2. A区48号住居跡掘り方全景 西から



3. A区49号住居跡全景 西から



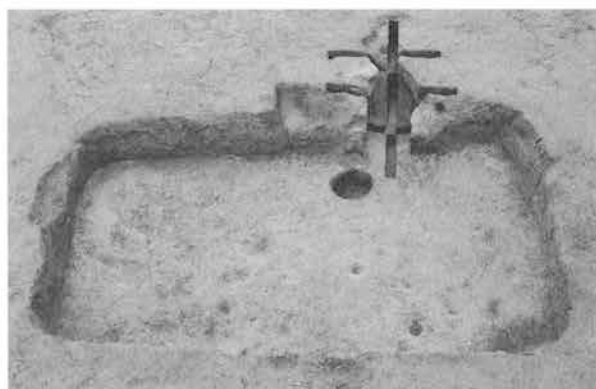
4. A区49号住居跡南北セクション 西から



5. A区49号住居跡竈南北セクション 西から



1. A区49号住居跡貯蔵穴2セクション 西から



2. A区49号住居跡掘り方全景 西から



3. A区50号住居跡全景 西から



4. A区50号住居跡竈全景 西から



5. A区50号住居跡掘り方全景 西から



1. A区51号住居跡全景 西から



2. A区51号住居跡南北セクション 西から



3. A区51号住居跡竈全景 西から



4. A区51号住居跡遺物出土状況(土錘) 南から



5. A区51号住居跡貯蔵穴セクション 東から



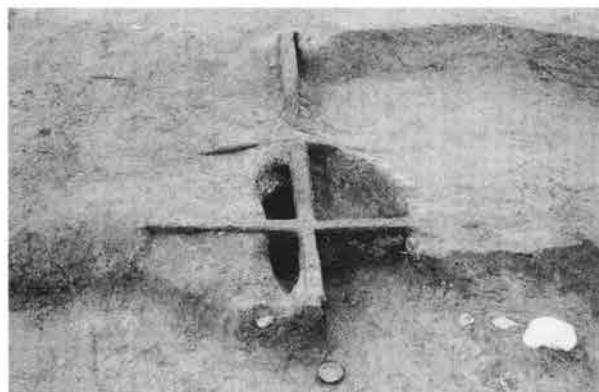
1. A区52号住居跡全景 西から



2. A区52号住居跡全景 西から



3. A区52号住居跡床下土坑セクション 南から



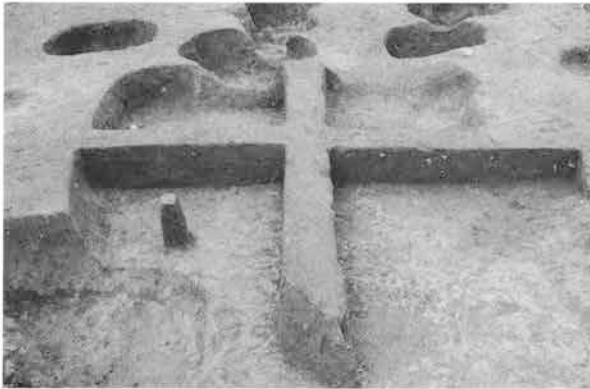
4. A区53号住居跡竈南北セクション 西から



5. A区53号住居跡竈全景 西から



1. A区53号住居跡全景 西から



2. A区54号住居跡南北セクション 西から



3. A区54号住居跡竈南北セクション 西から



4. A区54号住居跡竈全景 西から



5. A区54号住居跡掘り方全景 西から



1. A区55号住居跡南北セクション 西から



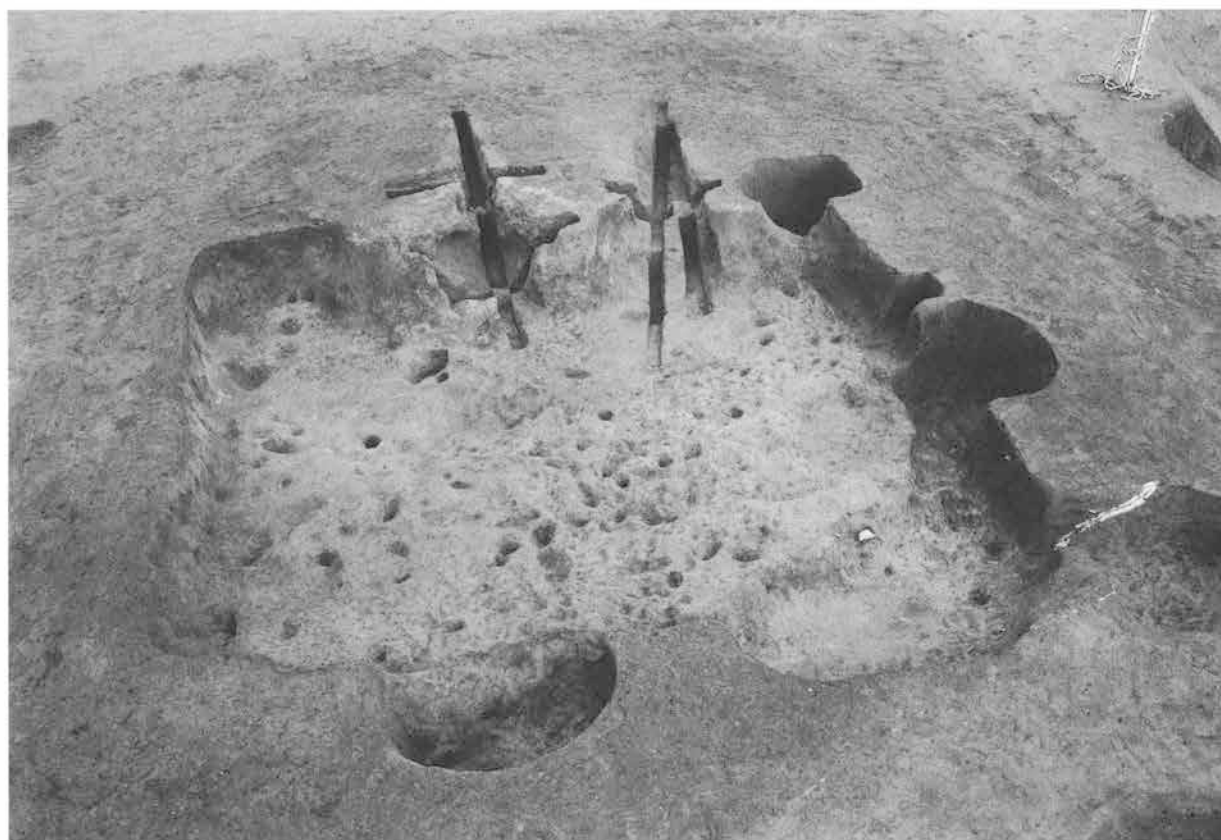
2. A区55号住居跡遺物出土状況 西から



3. A区55号住居跡全景 西から



4. A区55号住居跡新旧電全景 西から



5. A区55号住居跡掘り方全景 西から



1. A区56・57号住居跡掘り方全景 西から



2. A区56・57号住居跡東西セクション 北から



3. A区57号住居跡竈全景 西から



4. A区58号住居跡南北セクション 西から



5. A区58号住居跡貯蔵穴セクション 西から



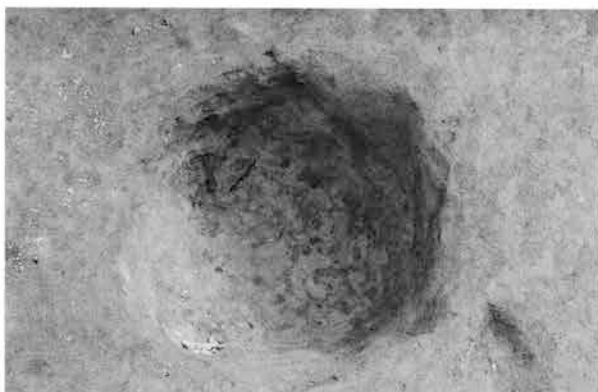
1. A区58・59号住居跡全景 東から



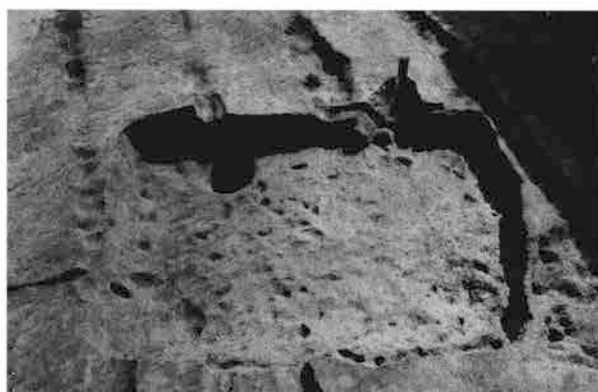
2. A区60号住居跡南北セクション 西から



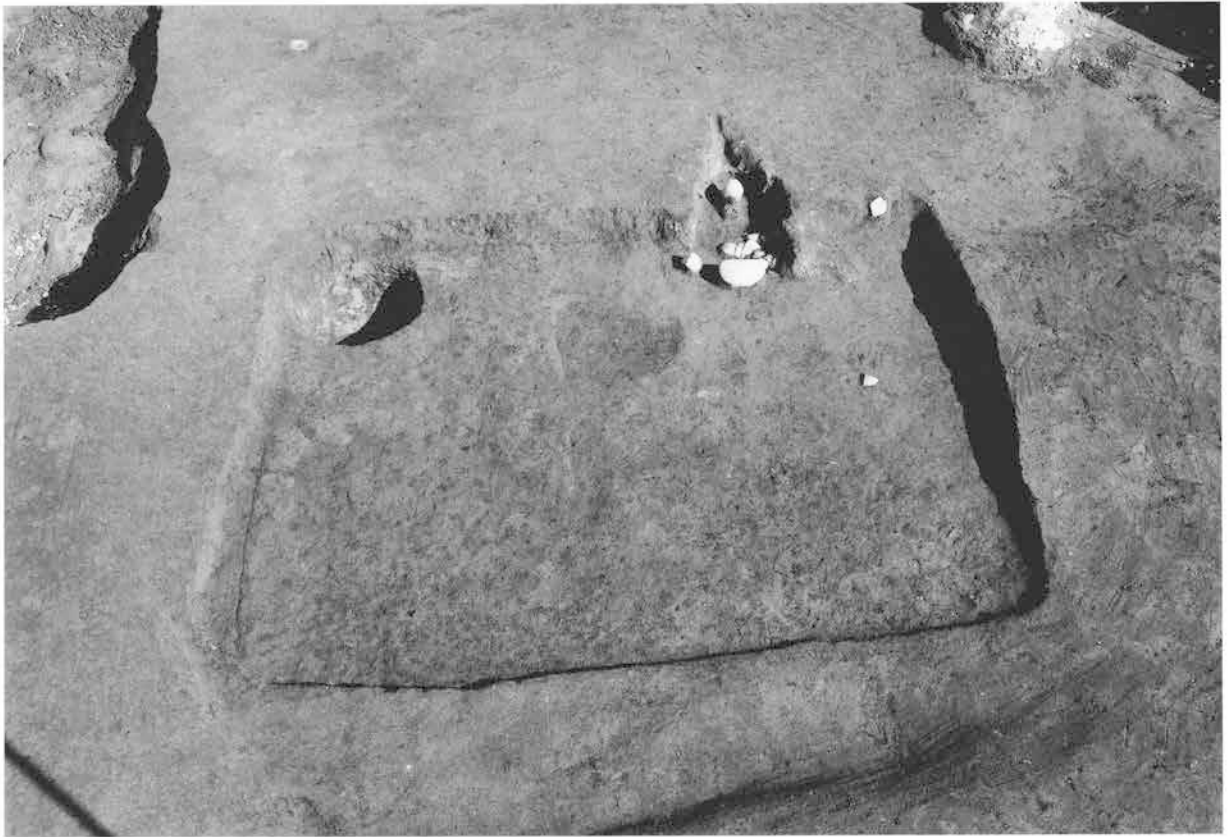
3. A区60号住居跡竈全景 西から



4. A区60号住居跡貯蔵穴 西から



5. A区60号住居跡掘り方全景 西から



1. A区61号住居跡全景 西から



2. A区61号住居跡竈セクション 西から



3. A区61号住居跡竈全景 西から



4. A区62号住居跡全景 西から



5. A区62号住居跡竈全景 西から



1. A区62号住居跡遺物出土状況 西から



2. A区62号住居跡貯蔵穴1 南から



3. A区62号住居跡貯蔵穴2 西から



4. A区62号住居跡掘り方全景 西から



5. A区63号住居跡全景 西から



1. A区63号住居跡竈全景 西から



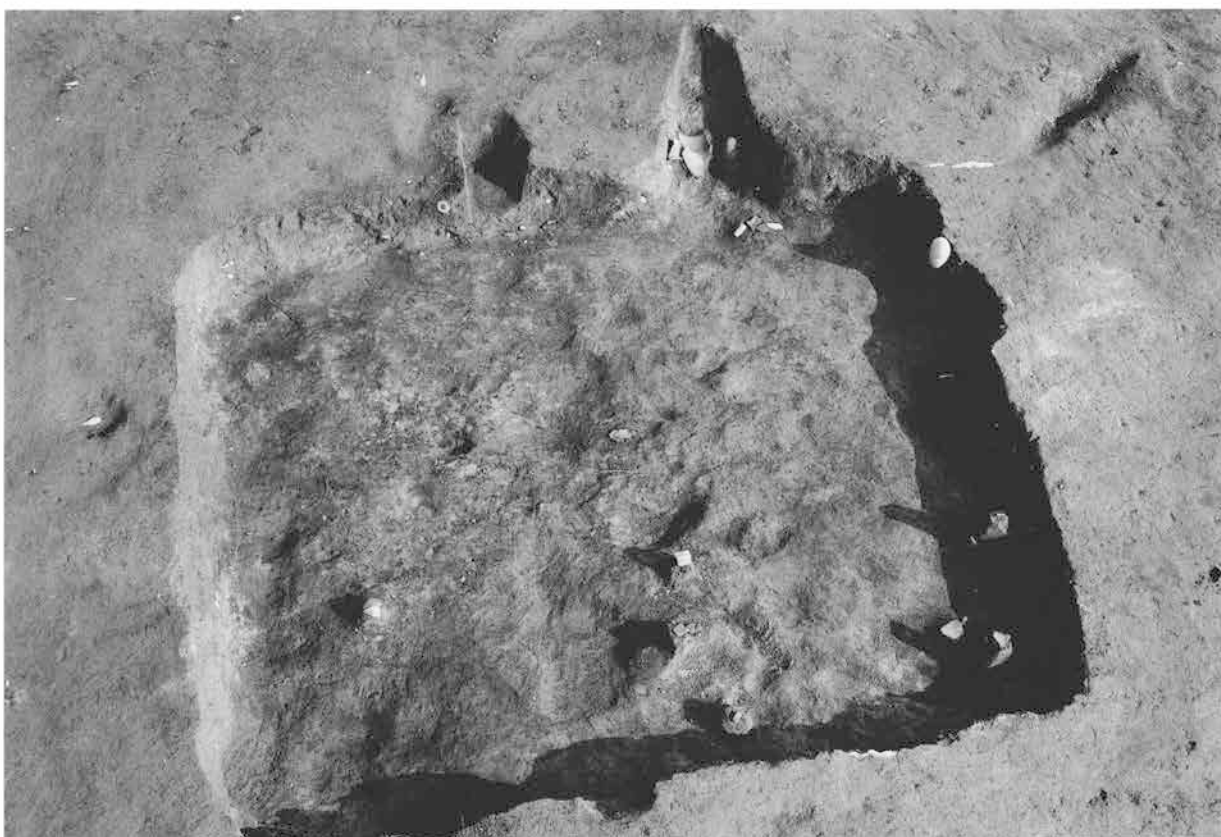
2. A区63号住居跡貯蔵穴セクション 南から



3. A区63号住居跡墨書土器出土貯蔵穴 西から



4. A区63号住居跡刀子出土状況 南から



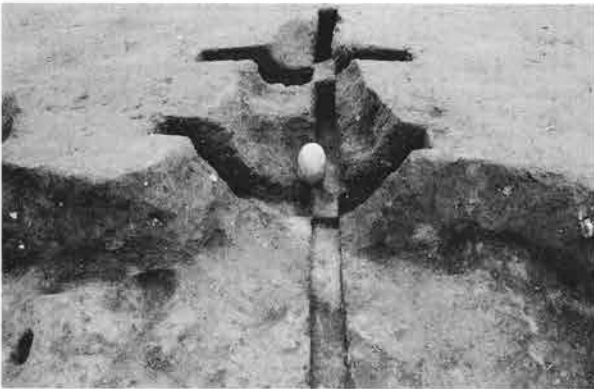
5. A区64号住居跡全景 西から



1. A区64号住居跡南北セクション 西から



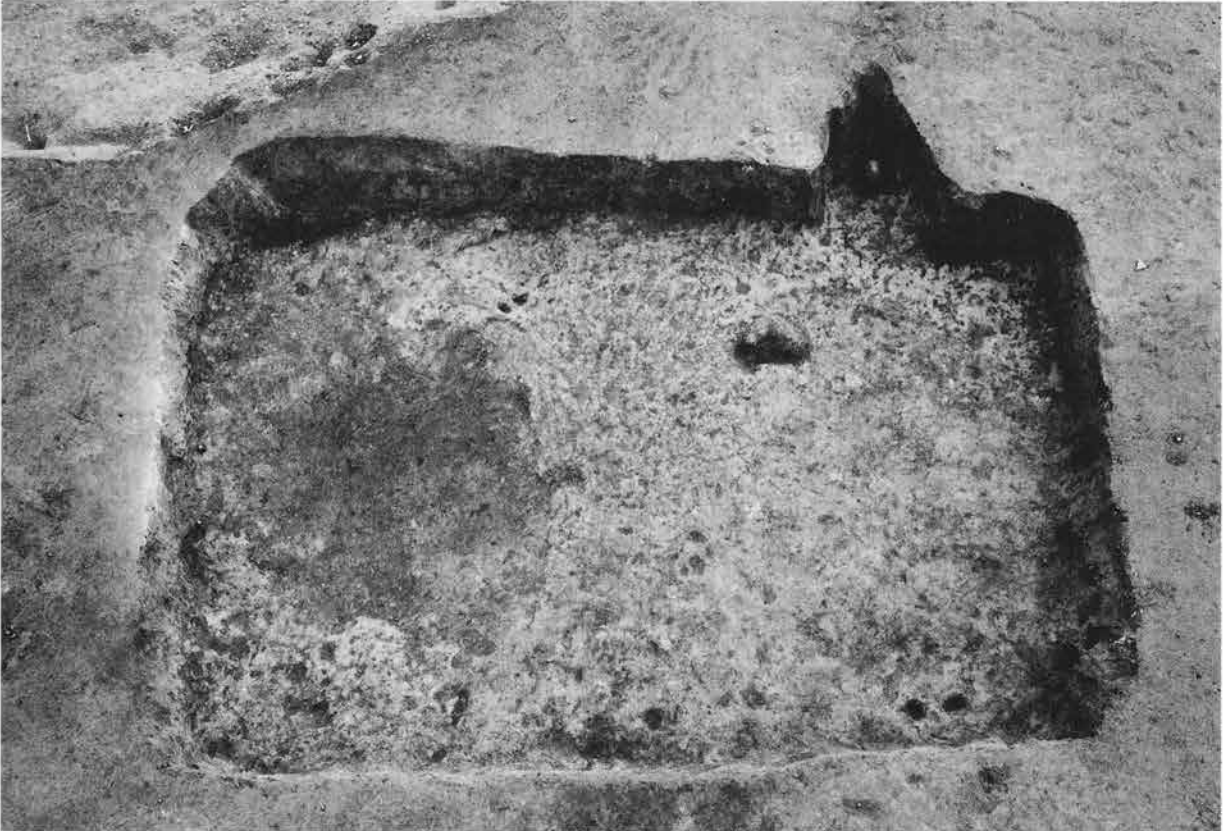
2. A区64号住居跡竈全景 西から



3. A区64号住居跡竈断ち割りセクション 南から



4. A区64号住居跡掘り方全景 西から



5. A区65号住居跡全景 西から



1. A区65号住居跡南北セクション 西から



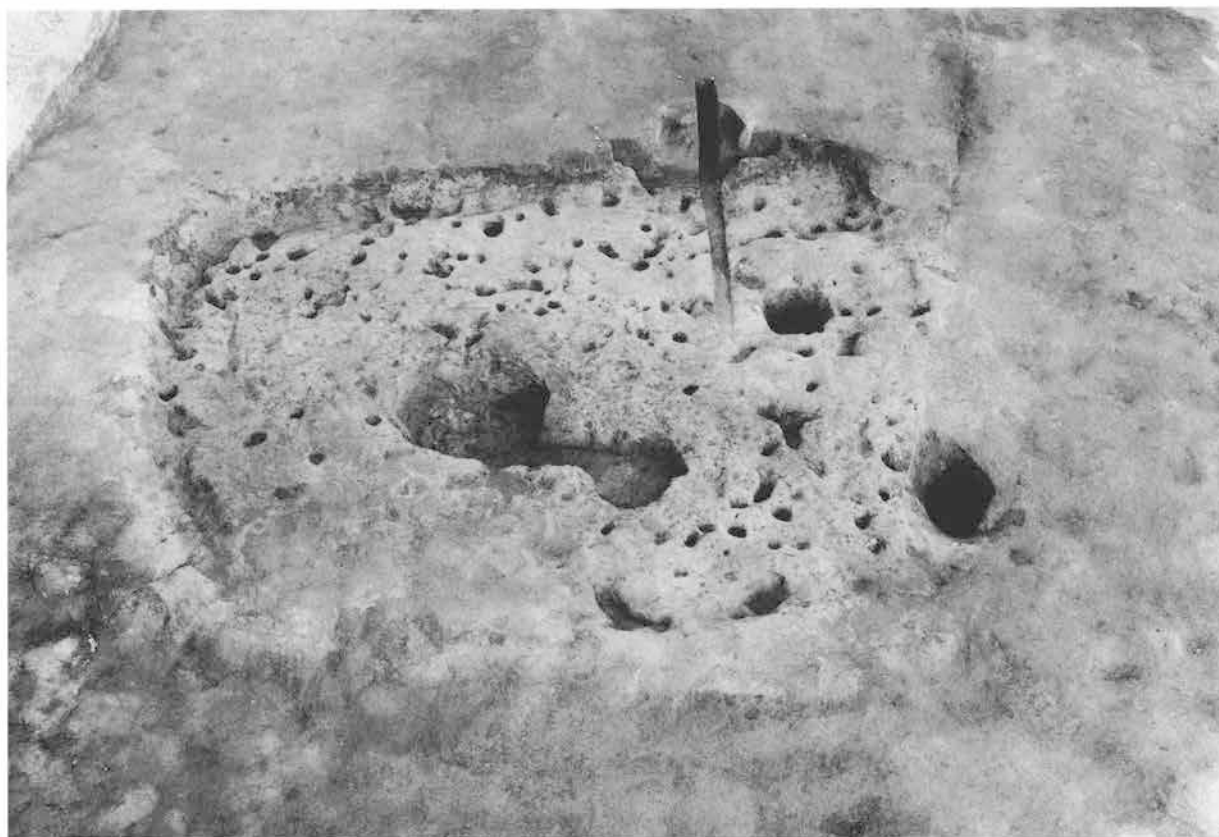
2. A区65号住居跡竈全景 西から



3. A区66号住居跡竈全景 西から



4. A区66号住居跡ピット1 南から



5. A区66号住居跡掘り方全景 西から



1. A区69号住居跡全景 西から



2. A区69号住居跡南北セクション 西から



3. A区69号住居跡新北竈全景 南から



4. A区69号住居跡旧東竈全景 西から



5. A区69号住居跡掘り方全景 西から



1. B区1号住居跡全景 南から



2. B区1号住居跡竈全景 南から



3. B区1号住居跡竈全景 西から



4. B区2号住居跡東西セクション 南から



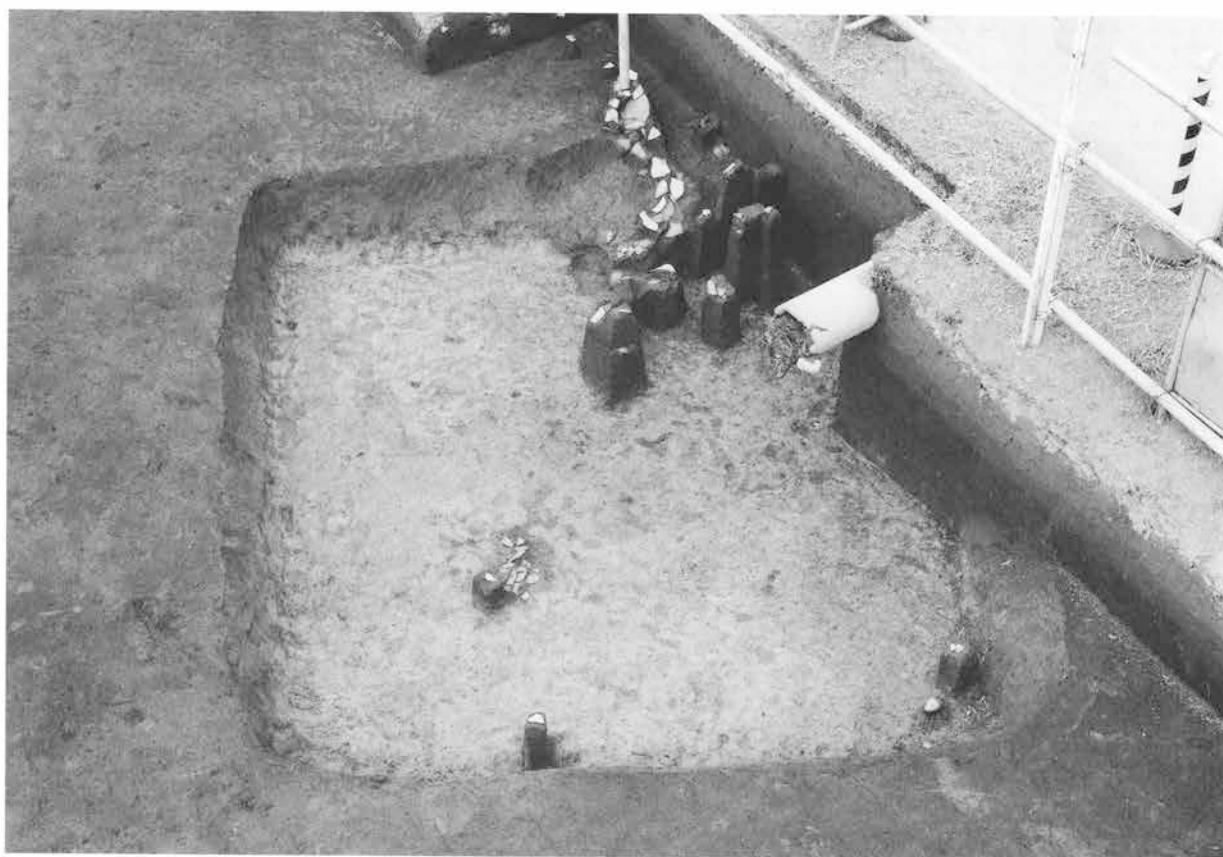
5. B区2号住居跡南北セクション 西から



1. B区2号住居跡竈付近遺物出土状況 南から



2. B区2号住居跡竈全景 南から



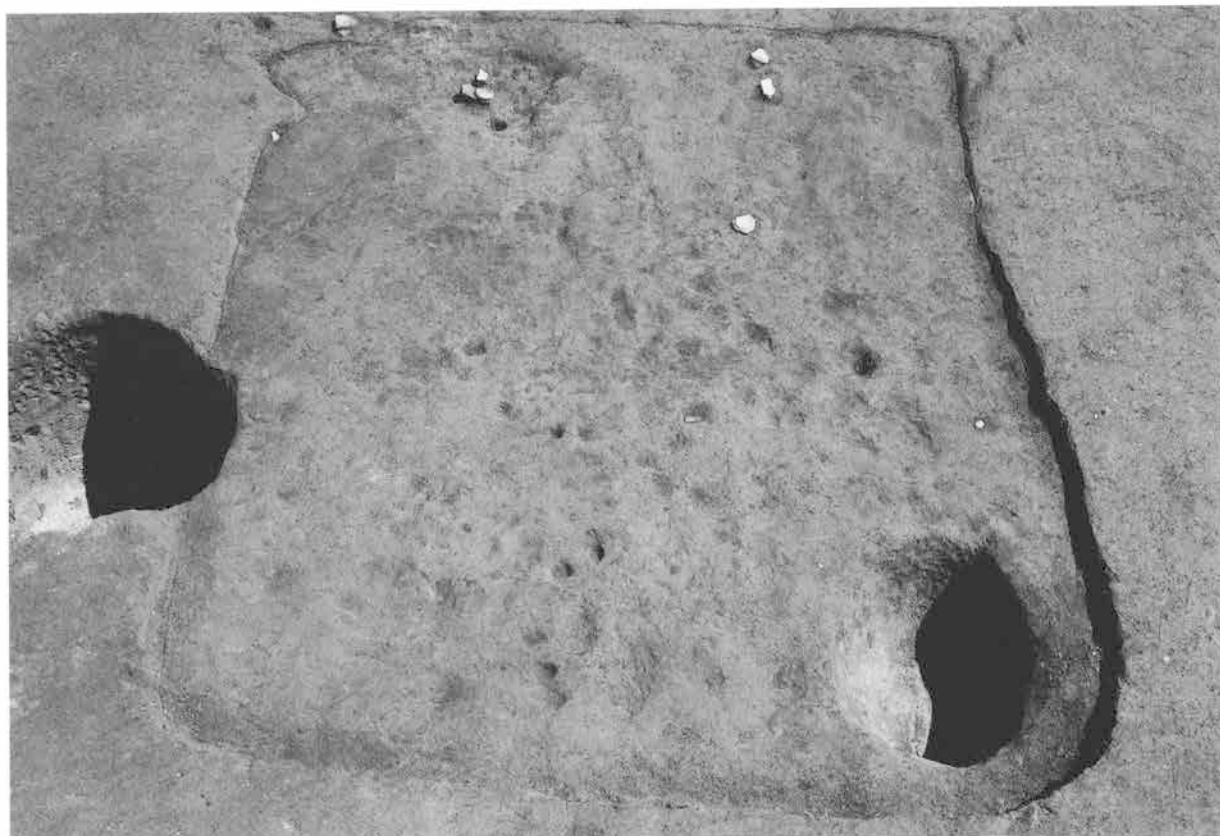
3. B区2号住居跡全景 南西から



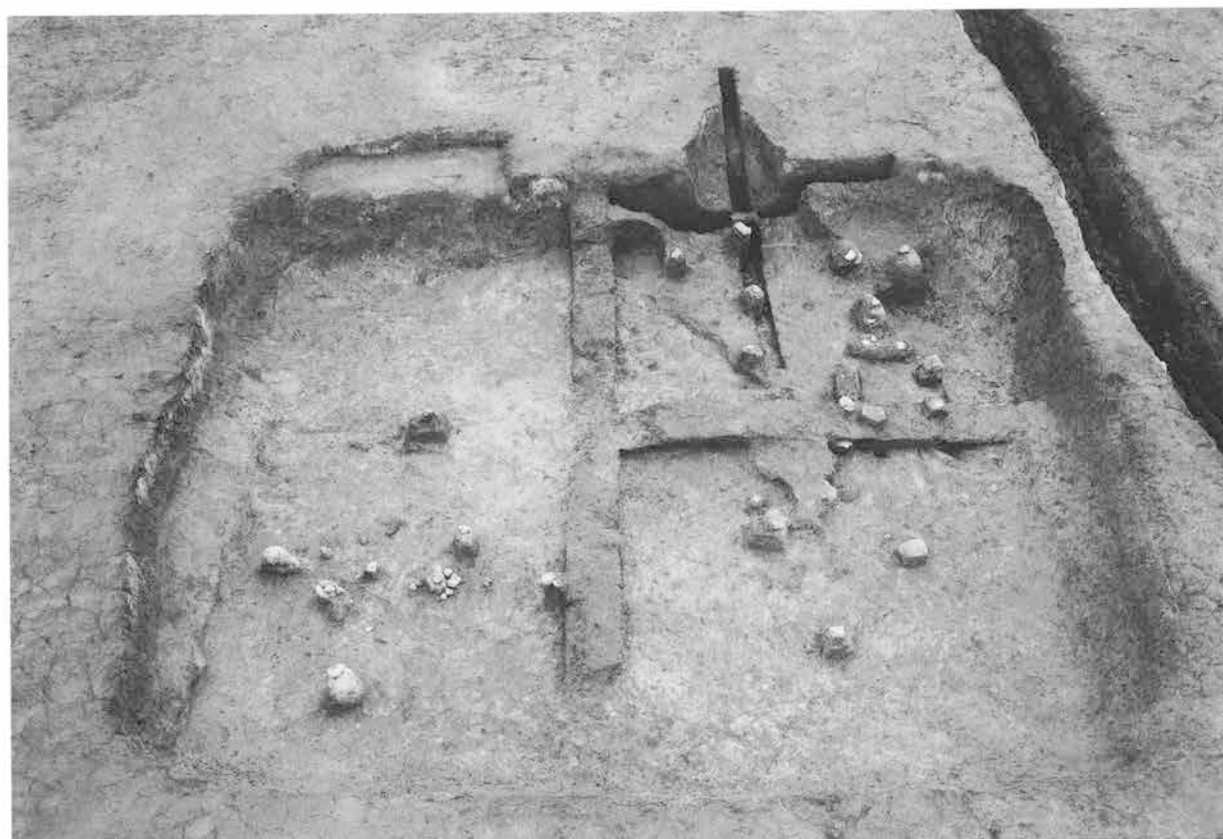
4. C区1号住居跡竈全景 西から



5. C区1号住居跡遺物出土状況 上から



1. C区1号住居跡全景 北から



2. C区3号住居跡全景 西から



1. C区3号住居跡南北セクション 東から



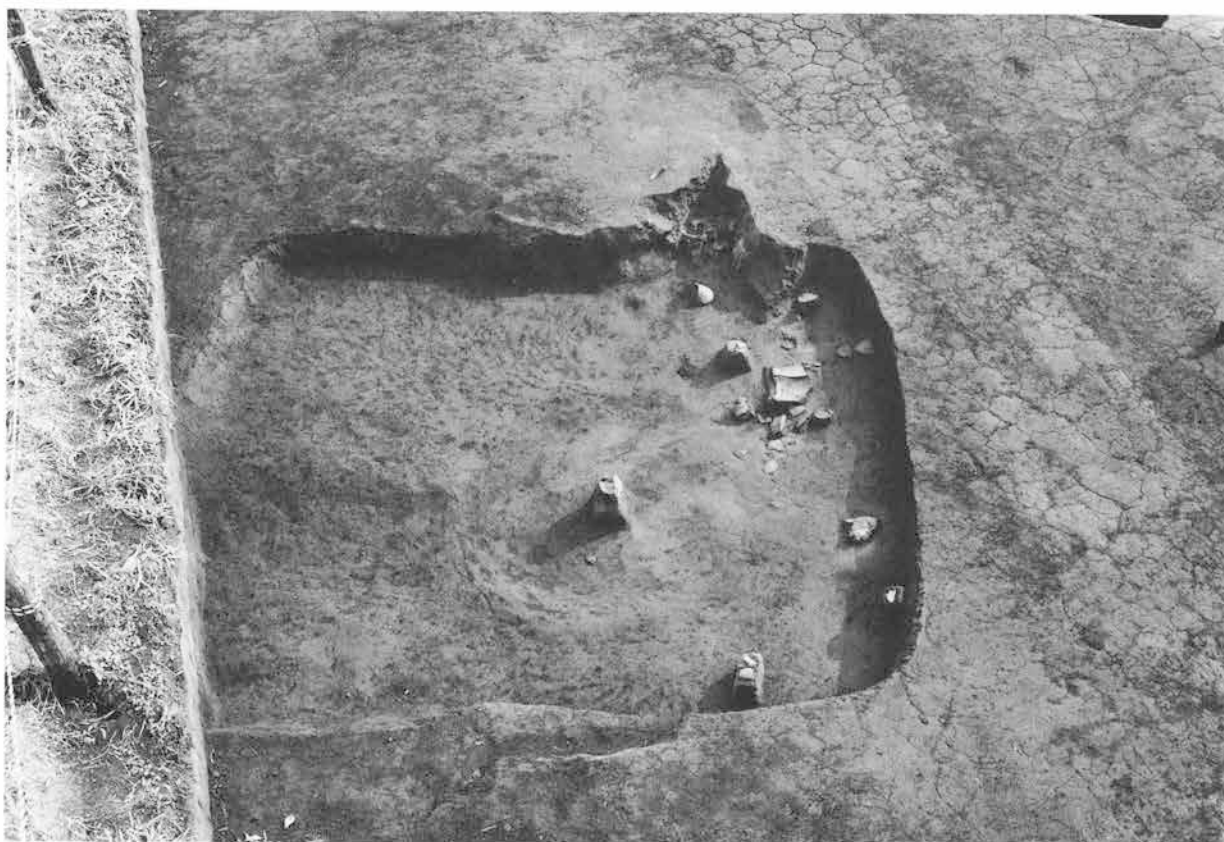
2. C区3号住居跡全景 西から



3. C区3号住居跡竈全景 西から



4. C区3号住居跡掘り方全景 西から



5. C区4号住居跡全景 西から



1. C区4号住居跡東西セクション 南から



2. C区4号住居跡遺物出土状況 西から



3. C区4号住居跡竈全景 西から



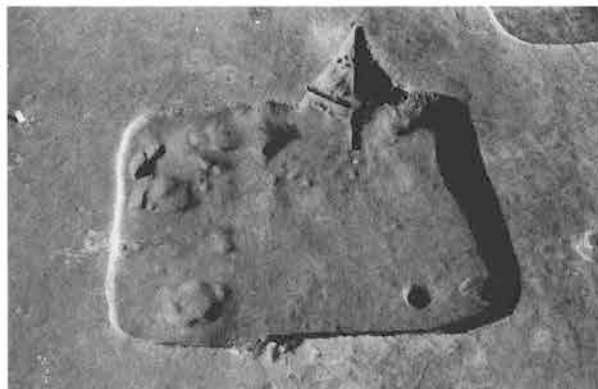
4. C区4号住居跡掘り方全景 西から



5. C区5号住居跡全景 西から



1. C区5号住居跡竈全景 西から



2. C区5号住居跡掘り方全景 西から



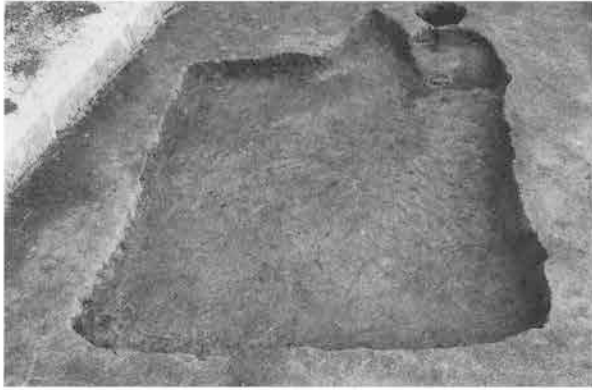
3. C区7号住居跡全景 西から



4. C区7号住居跡竈全景 西から



5. C区7号住居跡竈支脚石除去後 西から



1. C区8号住居跡全景 西から



2. C区8号住居跡竈セクション 南から



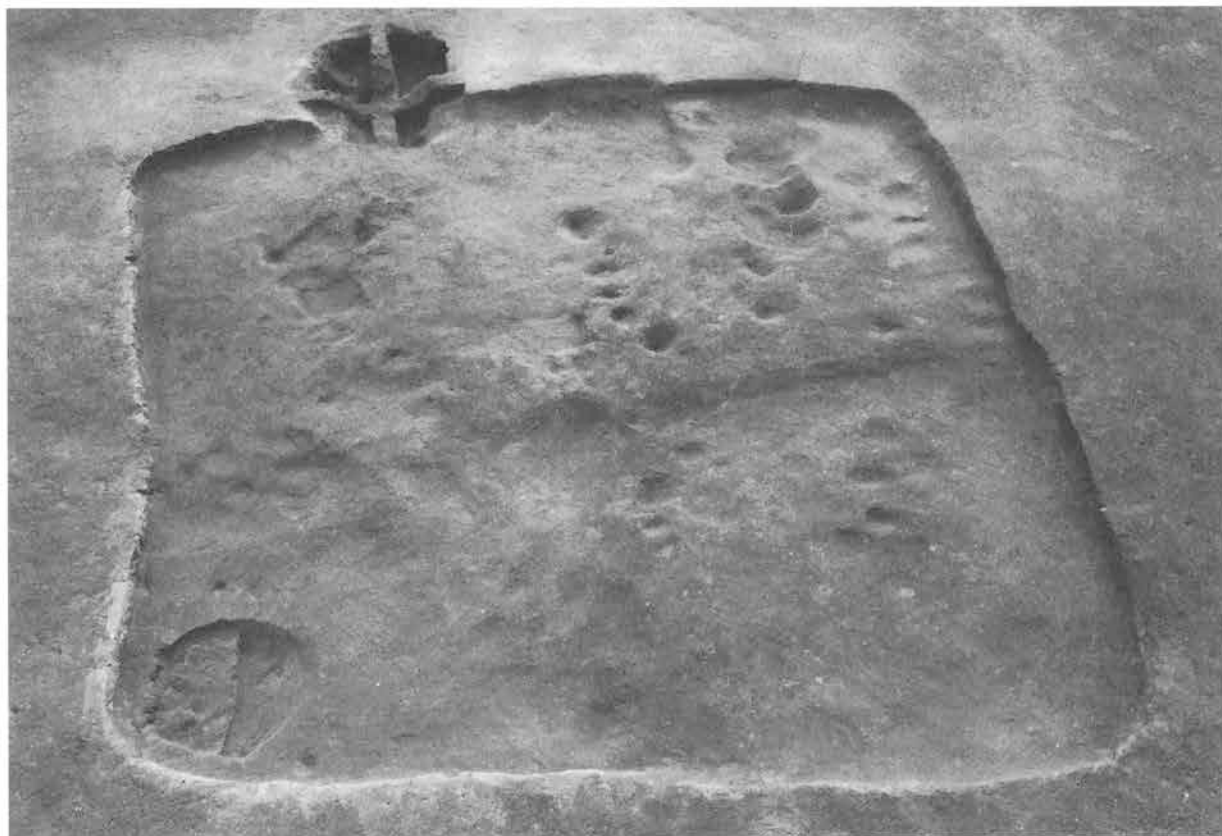
3. C区9号住居跡全景 西から



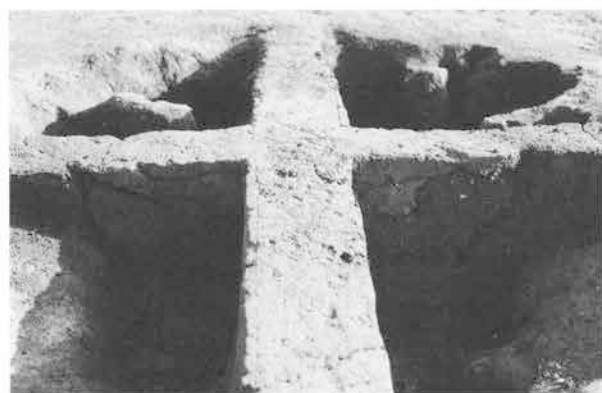
4. C区9号住居跡竈掘り方全景 西から



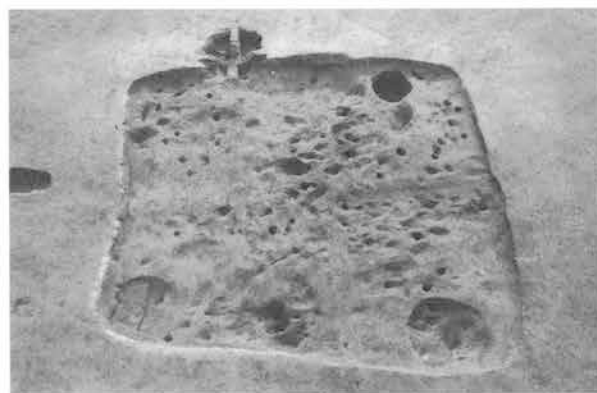
5. C区9号住居跡遺物出土状況 南から



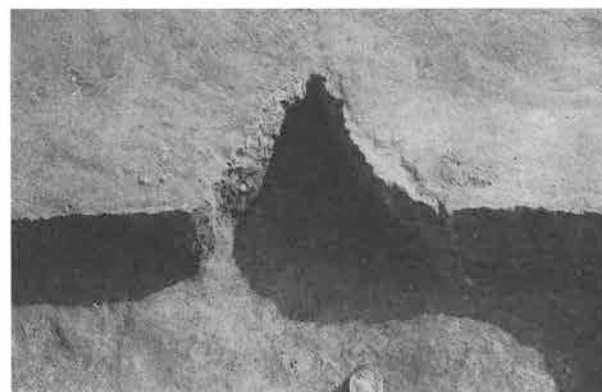
1. C区10号住居跡全景 西から



2. C区10号住居跡竈セクション 西から



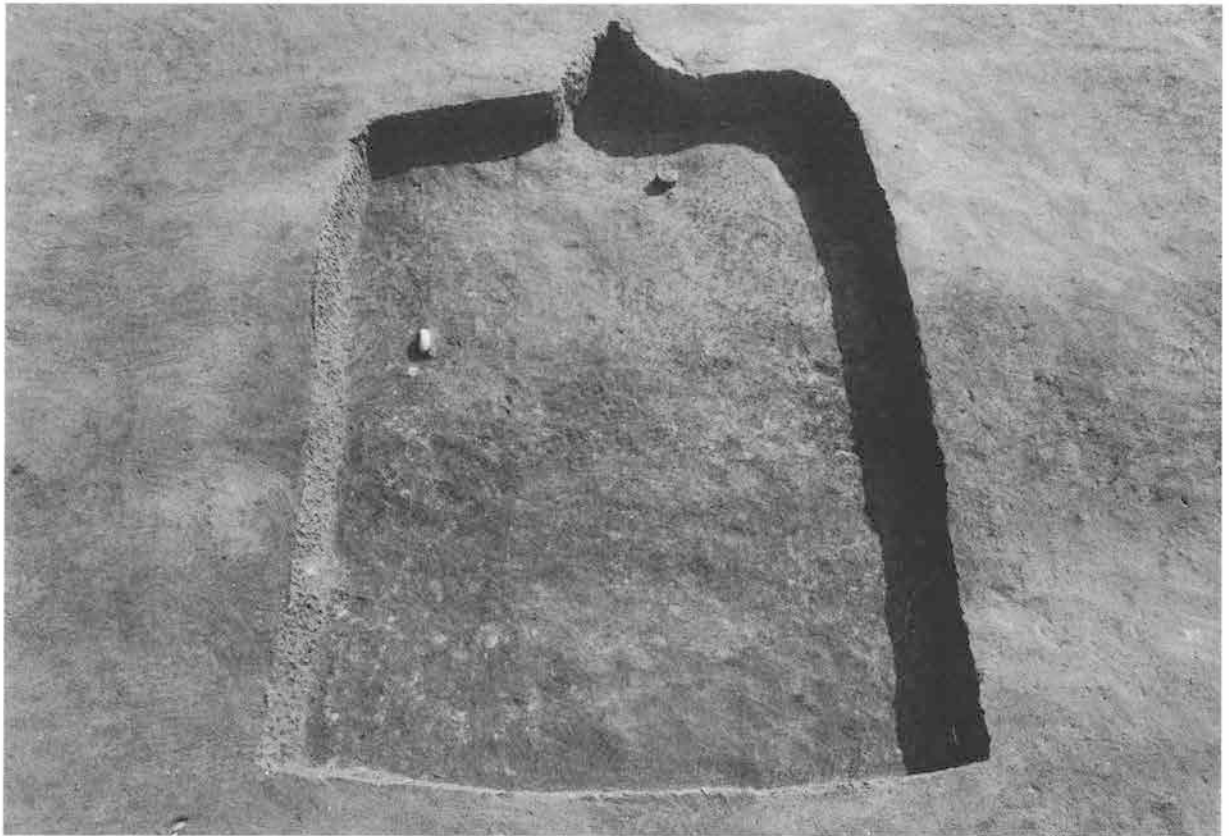
3. C区10号住居跡掘り方全景 西から



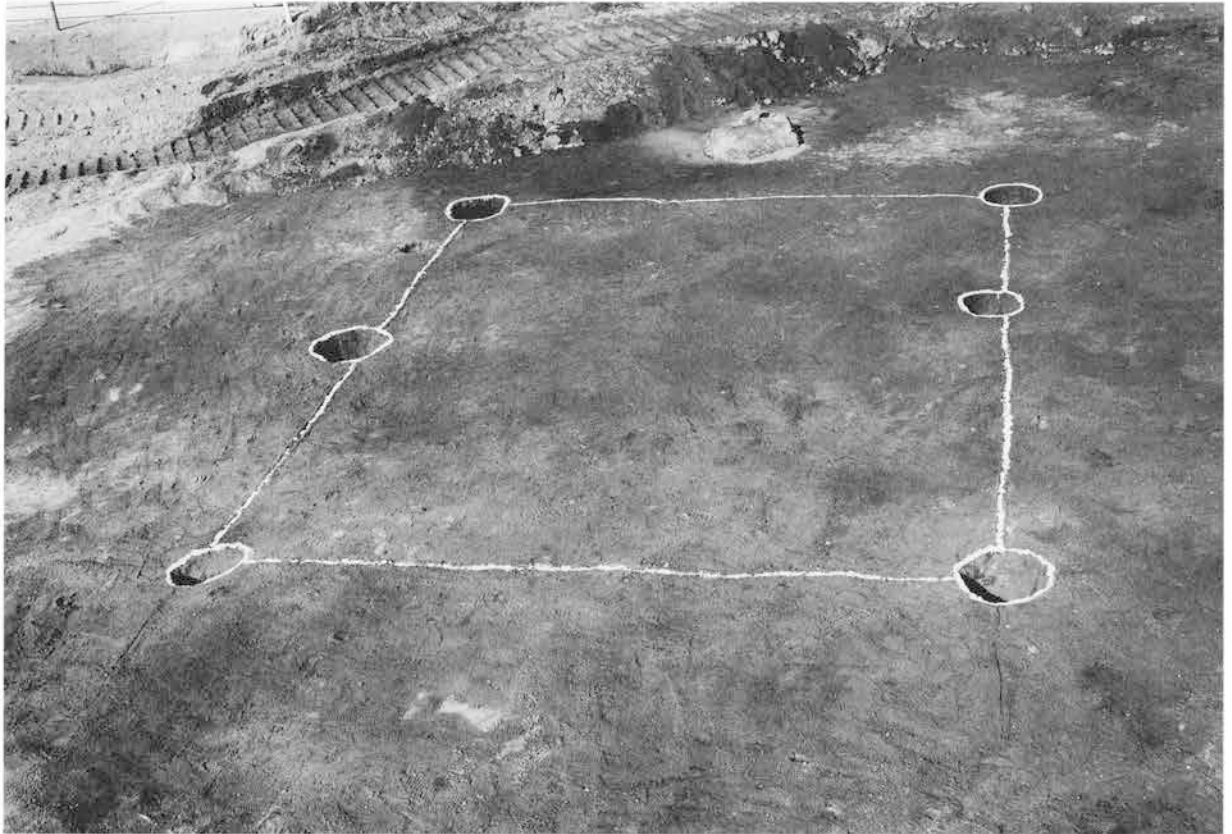
4. C区11号住居跡竈全景 西から



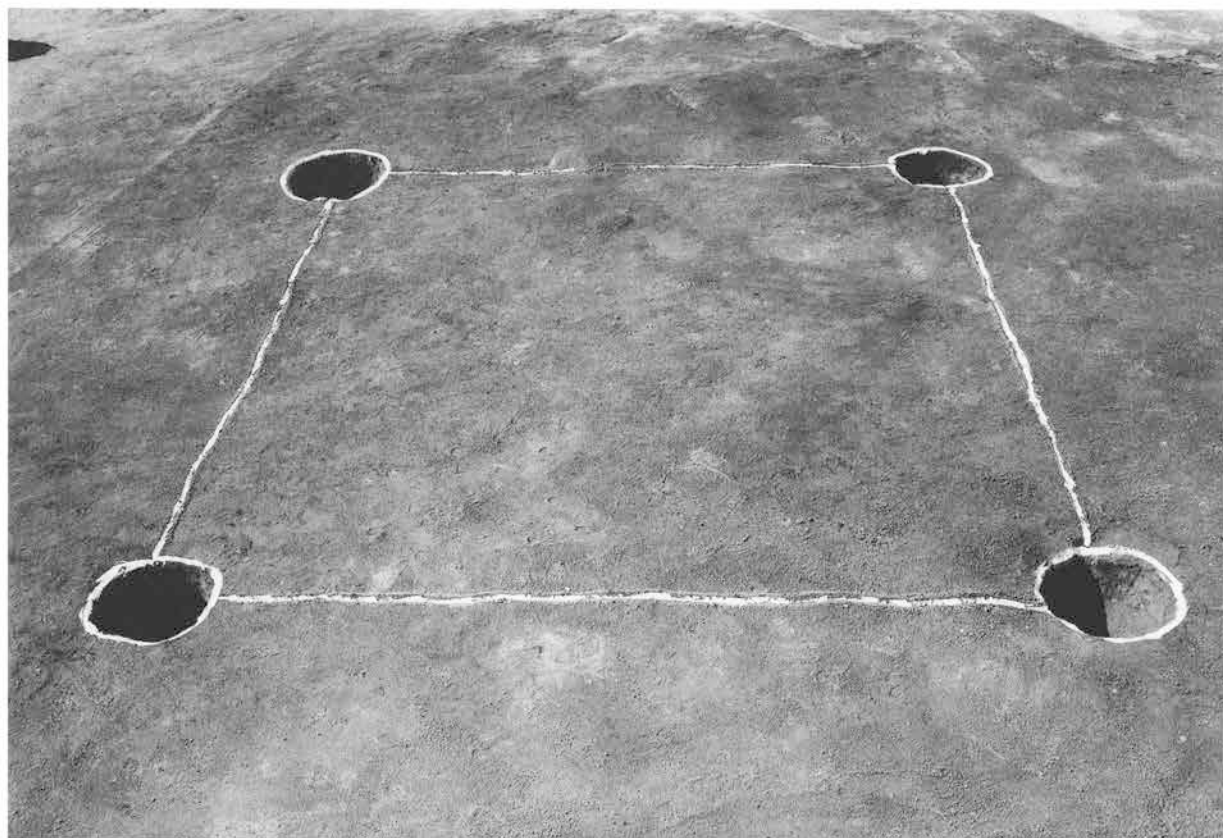
5. C区11号住居跡掘り方全景 西から



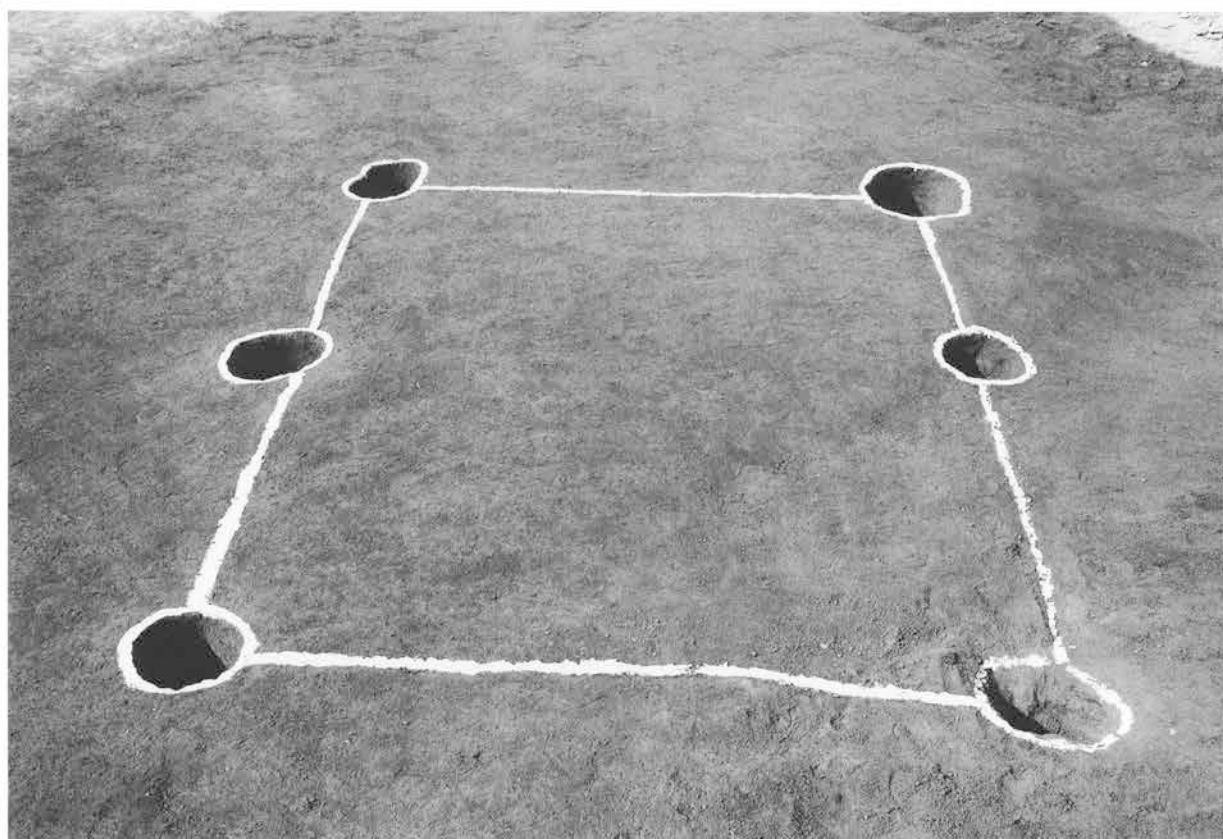
1. C区11号住居跡全景 西から



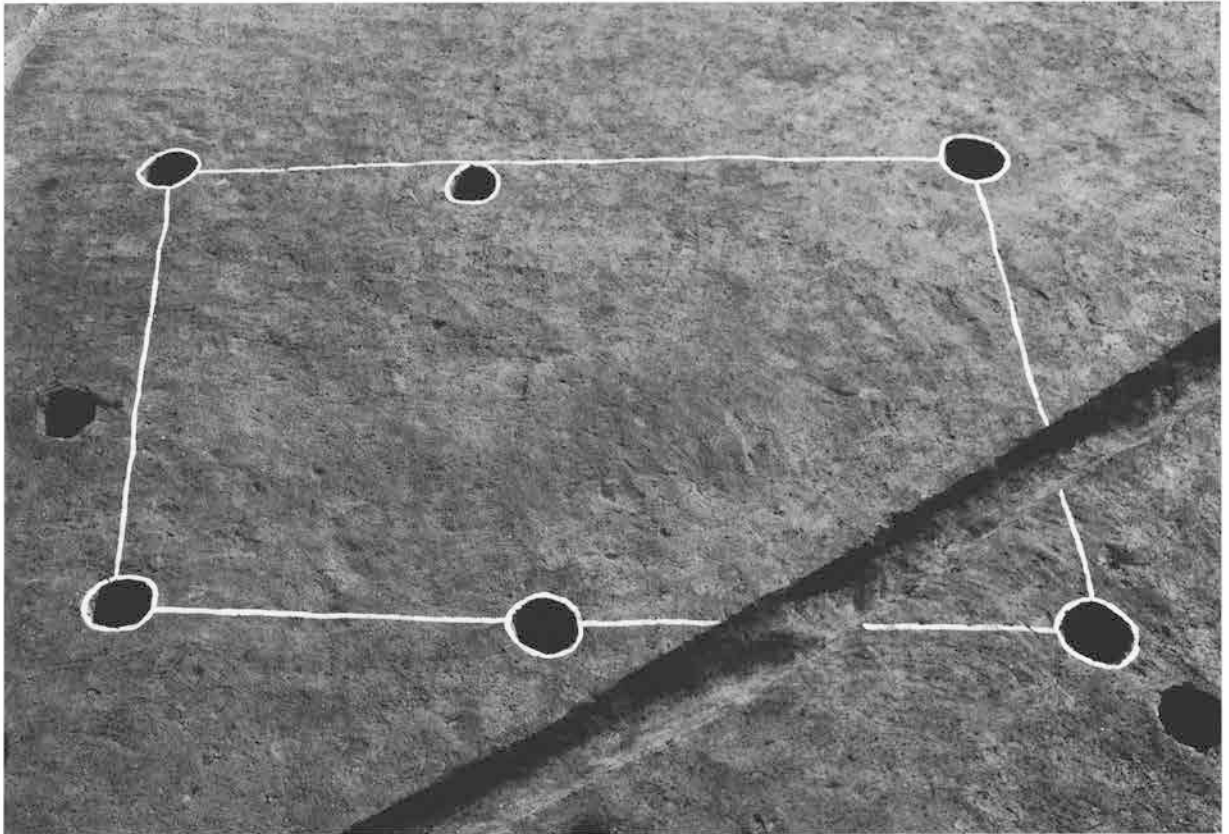
2. A区1号掘立柱建物跡全景 南から



1. A区2号掘立柱建物跡全景 東から



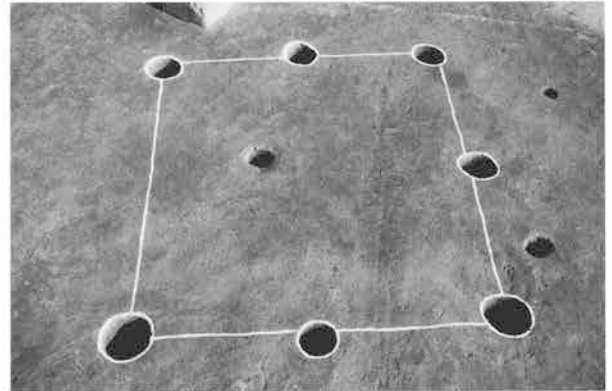
2. A区3号掘立柱建物跡全景 東から



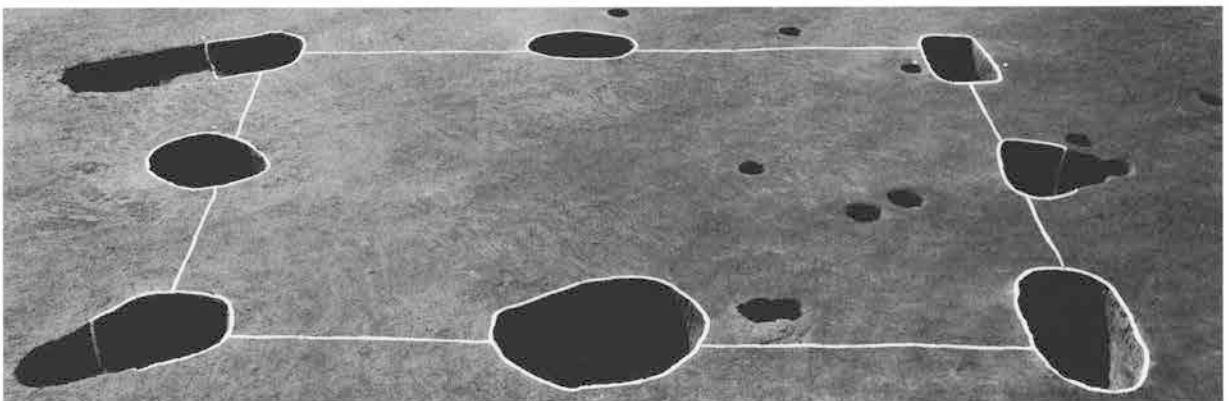
1. C区1号掘立柱建物跡全景 北から



2. C区1号掘立柱建物跡P6遺物出土状況 北から



3. C区2号掘立柱建物跡全景 西から



4. C区3号掘立柱建物跡全景 北から



1. C区1号井戸全景 南から



2. C区1号井戸セクション 南から



3. C区2号井戸全景 東から



4. C区2号井戸セクション 西から



5. C区3号井戸全景 西から



6. C区3号井戸セクション 南から



7. C区4号井戸全景 東から



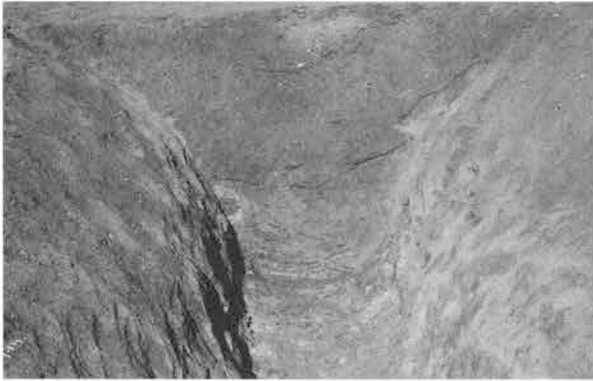
8. C区4号井戸セクション 東から



1. A区7号溝全景 南から



2. A区7・8号溝全景 北から



1. A区7号溝D-D'セクション 南から



2. A区15号溝セクション 北から



4. A区15号溝全景 南から



3. A区15号溝全景 南から



5. A区15号溝全景 北から



6. B区4号溝全景 南から



7. B区2~4号溝セクション 南西から



1. C区1号溝全景 西から



2. C区14号溝セクション 南から



3. C区14号溝全景 南から



4. C区20号溝全景 南から



1. C区26号溝セクション 南西から



2. C区26号溝遺物出土状況 北から



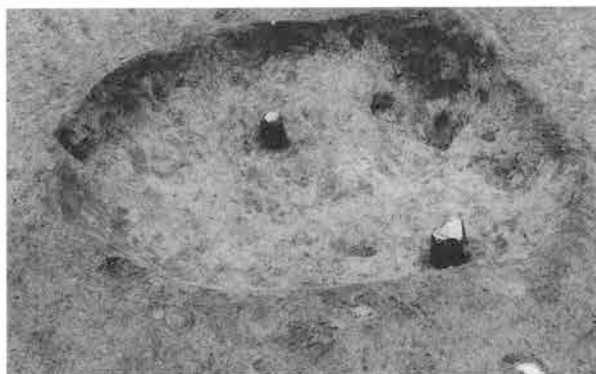
3. C区26号溝全景 南から



4. C区31号溝全景 西から



5. A区46号土坑全景 北から



1. A区50号土坑全景 南から



2. A区50号土坑遺物出土状況 北から



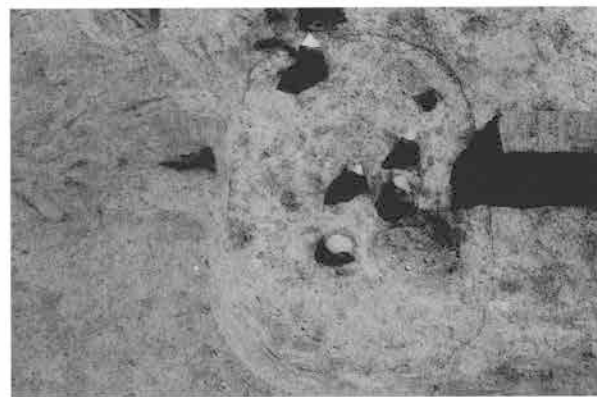
3. A区51号土坑全景 北から



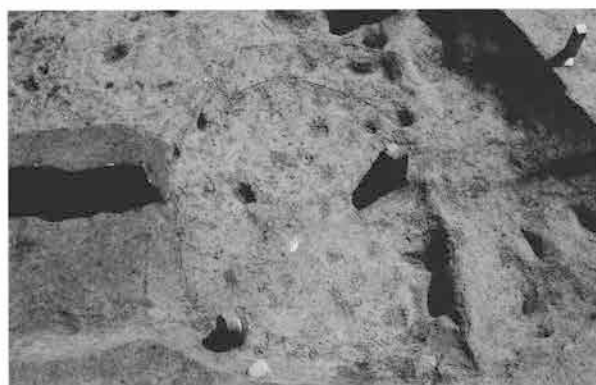
4. A区54号土坑全景 南から



5. A区55号土坑全景 西から



6. A区56号土坑遺物出土状況 西から



7. A区57号土坑全景 西から



8. A区60号土坑全景 西から



1. A区61号土坑全景 南から



2. A区62号土坑全景 西から



3. A区65号土坑全景 西から



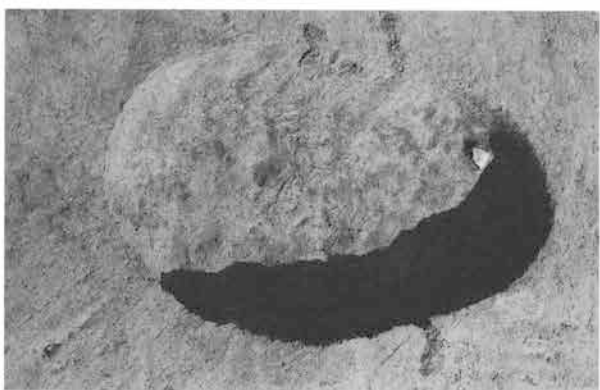
4. A区66号土坑全景 西から



5. A区67号土坑全景 南から



6. A区68号土坑全景 西から



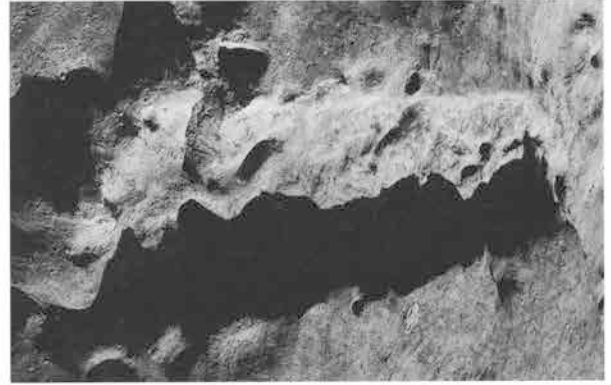
7. A区69号土坑全景 西から



8. A区70号土坑全景 西から



1. A区71号土坑全景 北から



2. A区72号土坑全景 南から



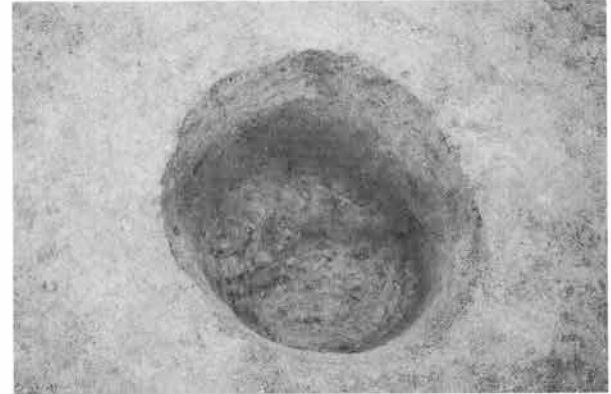
3. C区6号土坑全景 南から



4. C区19号土坑セクション 西から



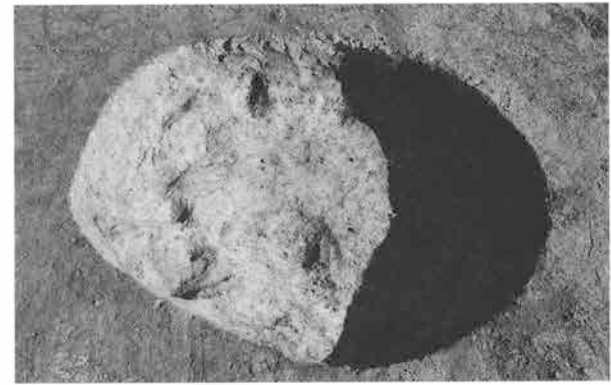
5. C区32号土坑全景 西から



6. C区51号土坑全景 南から



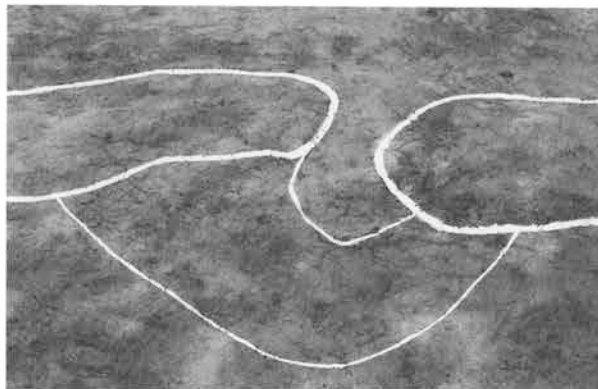
7. C区59号土坑全景 東から



8. C区60号土坑全景 西から



1. C区耕作溝全景 北から



2. C区AS-B下水田、水口 東から



3. C区AS-B下水田 東から



4. C区AS-B下水田 東から



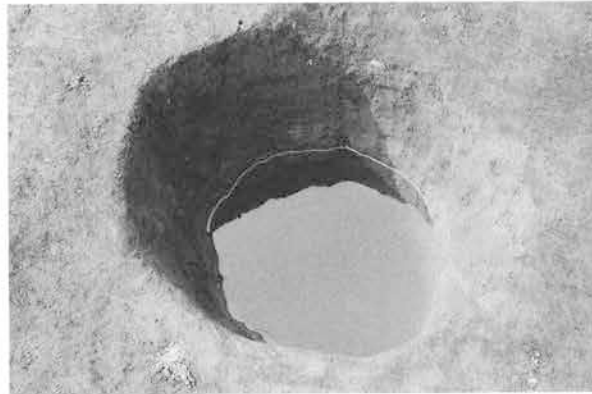
5. C区AS-B下水田 南から



1. C区AS-B下水田 西から



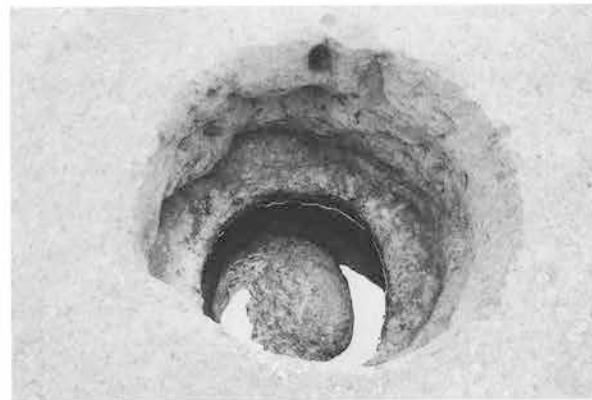
2. A区3号井戸全景 西から



3. B区1号井戸全景 南から



4. B区2号井戸全景 南から



5. C区5号井戸全景 西から



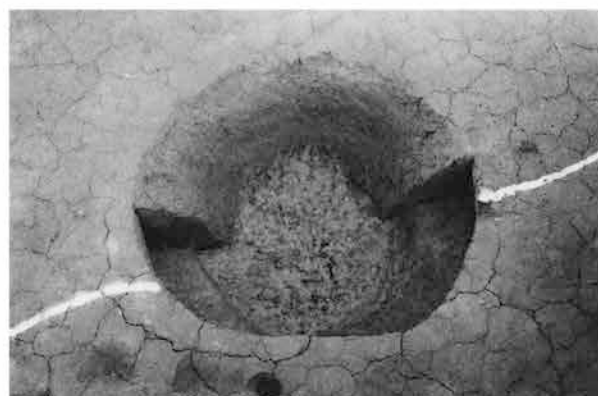
1. C区6号井戸全景 東から



2. C区7号井戸全景 西から



3. C区8号井戸全景 南から



4. C区9号井戸全景 南から



5. C区10号井戸全景 西から



6. C区11号井戸全景 南から



7. C区12号井戸全景 南から



8. C区13号井戸全景 南から



1. C区14号井戸全景 南から



2. C区15号井戸全景 東から



3. C区16号井戸セクション 南から



4. C区17号井戸セクション 西から



5. C区17号井戸全景 西から



6. C区18号井戸全景 西から



7. A区1・2号溝全景 北西から



8. A区3号溝全景 西から



1. A区4号溝全景 東から



2. A区5号溝全景 東から



3. A区7・8号溝全景 北から



4. A区9号溝全景 南から



5. A区10号溝全景 南から



1. A区11号溝全景 西から



2. A区12号溝全景 東から



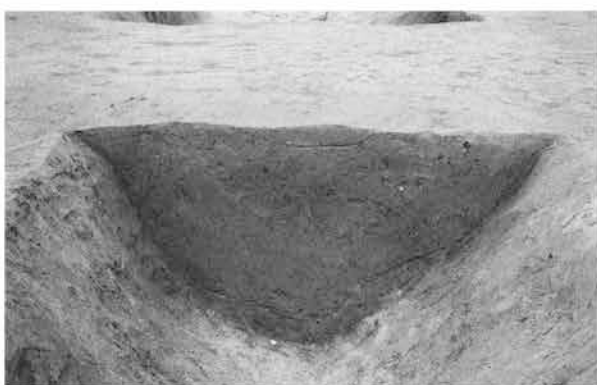
3. A区12号溝南端追加部分全景 北西から



5. A区13・14号溝全景 西から



4. A区13・14号溝全景 西から



6. A区16号溝東西セクション 南から



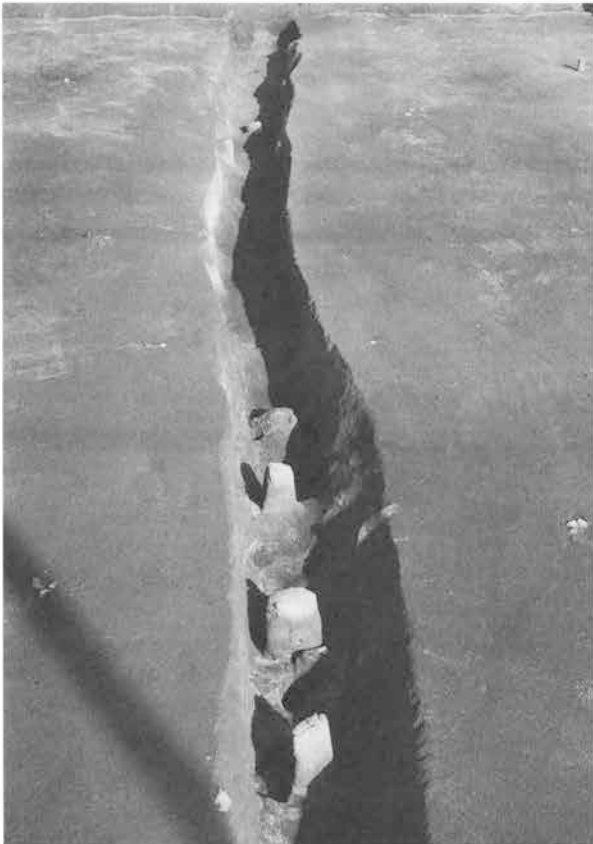
7. A区16号溝全景 南から



1. A区16号溝全景 南から



2. A区18号溝全景 南から



3. A区17号溝全景 南から



5. A区19号溝全景 南から



4. A区21号溝全景 南から



1. B区1～4号溝A-A'セクション 南西から



2. B区1～4号溝全景 南から



3. B区5・6号溝全景 東から



4. B区7号溝全景 東から



5. B区8号溝全景 西から



6. C区2号溝全景 西から



1. C区4・6～9号溝全景 東から



2. C区5・10・11号溝全景 南から



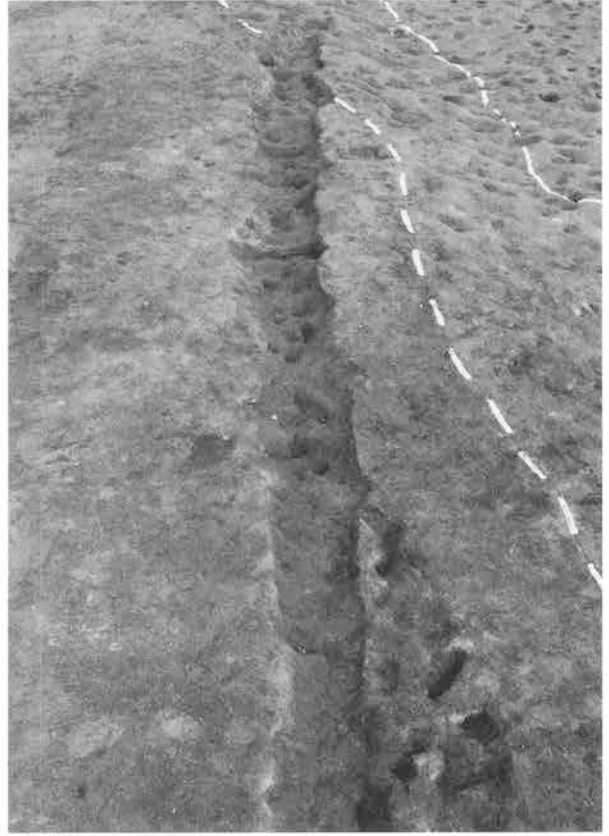
3. C区12号溝セクション 南から



4. C区15号溝全景 南西から



1. C区18・19号溝全景 東から



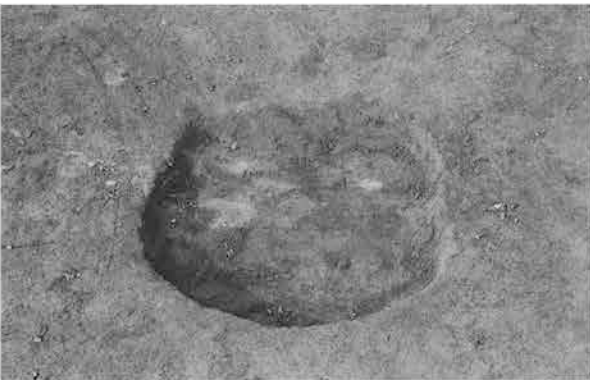
2. C区21号溝全景 南から



3. C区22号溝全景 南から



4. A区1号土坑全景 南から



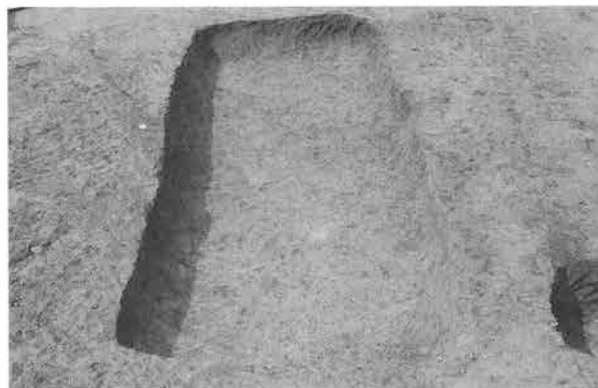
5. A区2号土坑全景 南から



6. A区4号土坑全景 南から



1. A区5号土坑全景 東から



2. A区6号土坑全景 東から



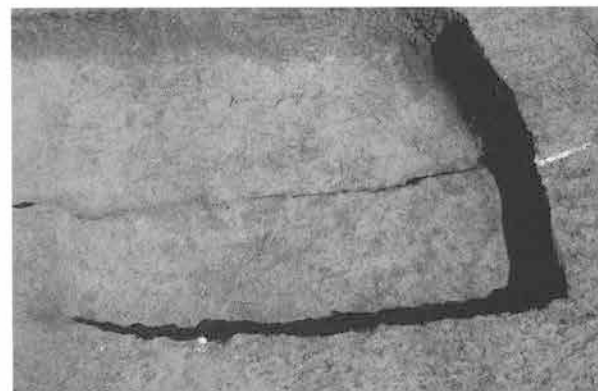
3. A区7号土坑全景 東から



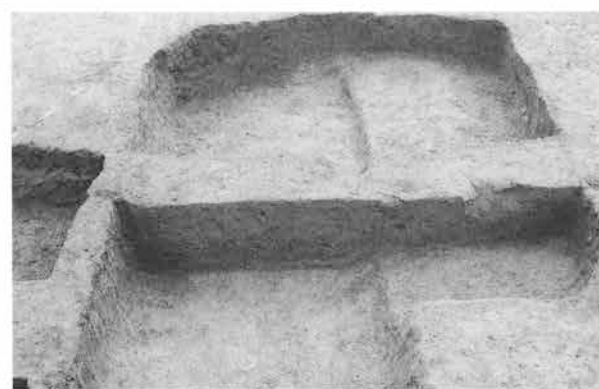
4. A区8号土坑全景 東から



5. A区9号土坑全景 北から



6. A区10号土坑全景 南から



7. A区11号土坑セクション 西から



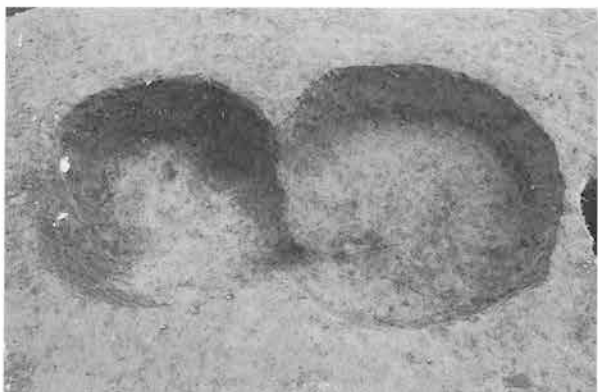
8. A区12号土坑全景 北から



1. A区13号土坑全景 西から



2. A区14号土坑セクション 西から



3. A区15・16号土坑全景 北から



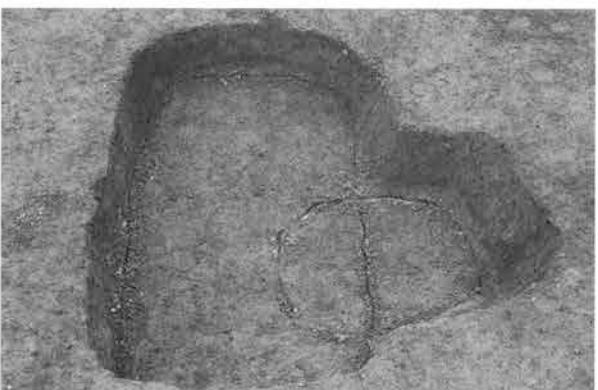
4. A区17~21号土坑全景 西から



5. A区22号土坑セクション 西から



6. A区23号土坑セクション 南から



7. A区24・25号土坑全景 西から



8. A区26号土坑全景 東から



1. A区27号土坑全景 西から



2. A区36号土坑全景 西から



3. A区37号土坑セクション 西から



4. A区38号土坑セクション 西から



5. A区39号土坑セクション 西から



6. A区47号土坑全景 西から



7. A区52号土坑全景 南から



8. A区53号土坑全景 南から



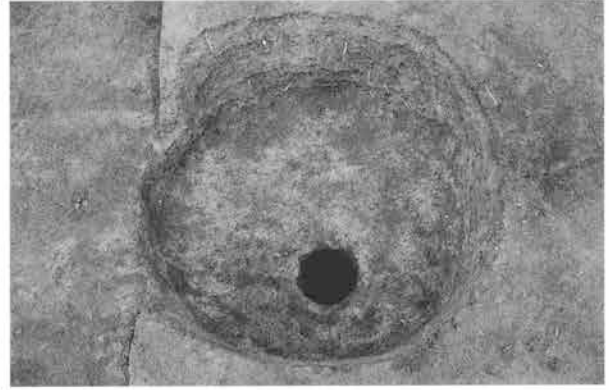
1. A区59号土坑全景 東から



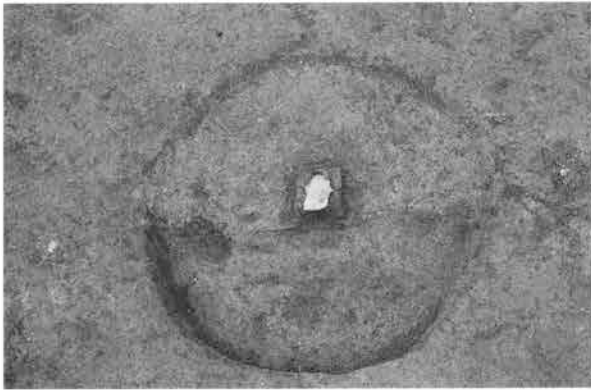
2. A区63号土坑全景 北から



3. A区64号土坑全景 北から



4. A区73号土坑全景 南から



5. A区74号土坑全景 南から



6. A区75号土坑全景 南から



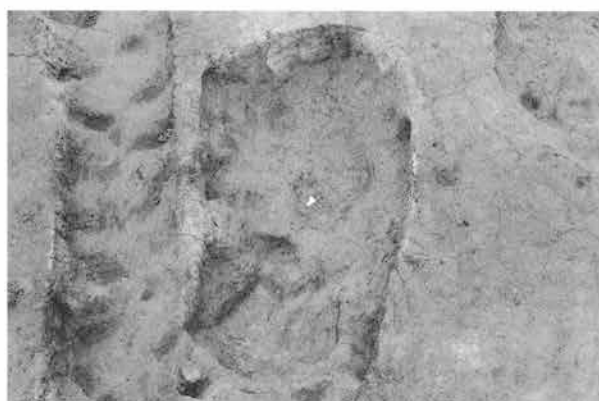
7. A区77号土坑セクション 南から



1. A区78号土坑セクション 南から



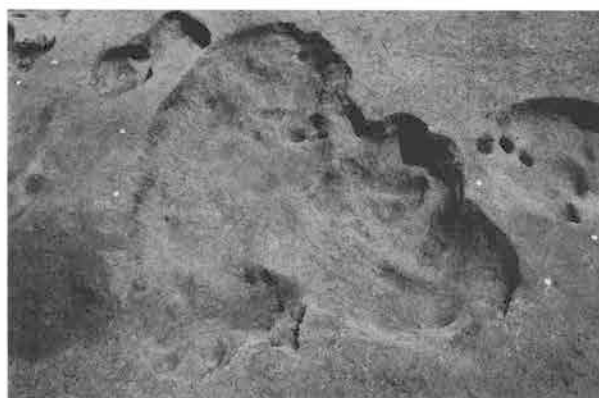
2. B区2号土坑全景 西から



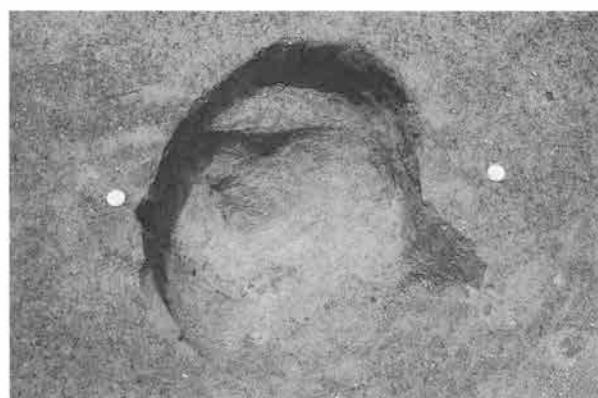
3. C区1号土坑全景 西から



4. C区2号土坑全景 西から



5. C区3～5号土坑全景 北から



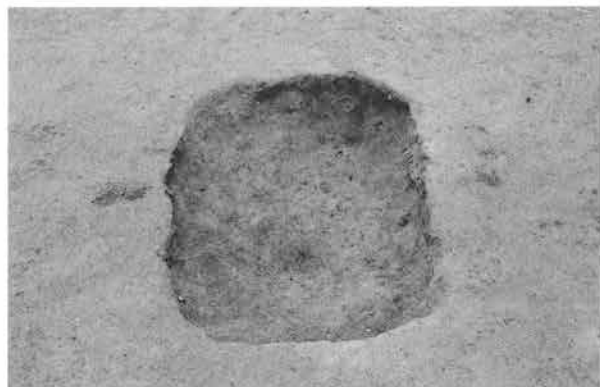
6. C区7号土坑全景 北から



7. C区8号土坑全景 北から



8. C区9号土坑、4号溝セクション 東から



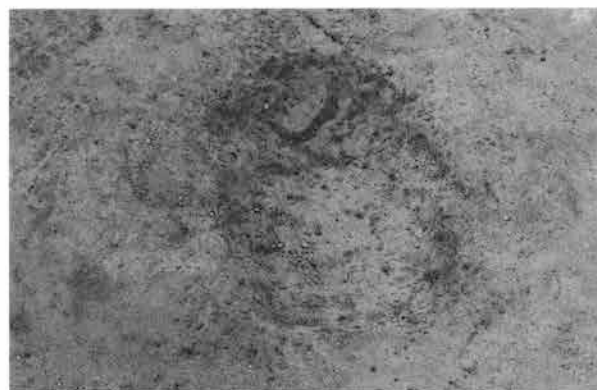
1. C区10号土坑全景 南から



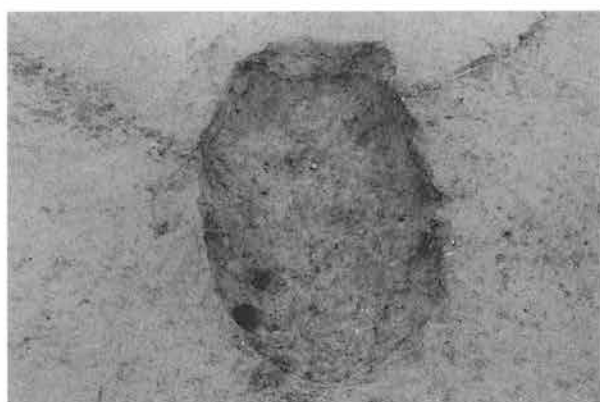
2. C区11号土坑全景 西から



3. C区12号土坑全景 西から



4. C区13号土坑全景 南から



5. C区14号土坑全景 南から



6. C区15号土坑セクション 西から



7. C区16号土坑全景 南から



8. C区20号土坑全景 南から



1. C区22号土坑全景 南から



2. C区24~26号土坑セクション 西から



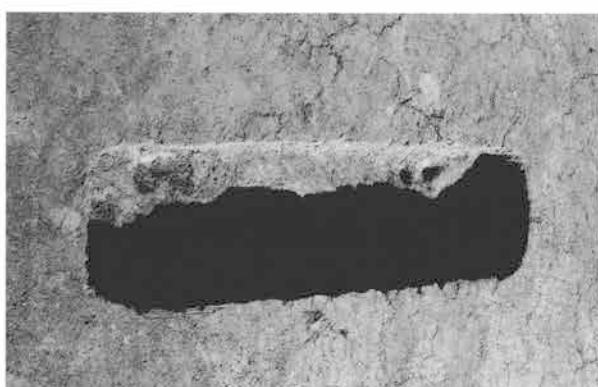
3. C区27・28号土坑セクション 西から



4. C区29号土坑全景 南から



5. C区34号土坑セクション 西から



6. C区35号土坑全景 西から



1. C区37号土坑全景 南から



2. C区38号土坑全景 南から



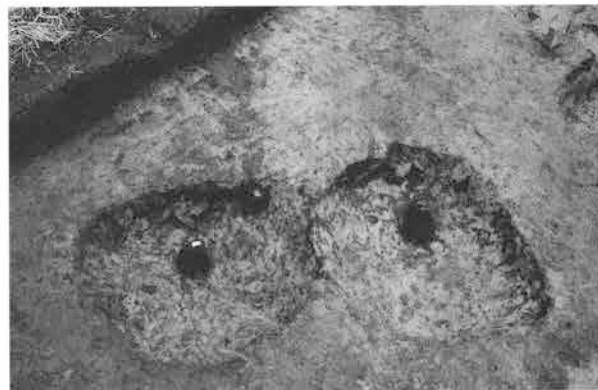
3. C区40号土坑全景 南から



4. C区41・42号土坑全景 西から



5. C区43号土坑全景 西から



6. C区53・54号土坑全景 南から



7. C区57号土坑全景 北から



8. C区61号土坑全景 南から

1. 古墳時代の出土遺物





A-10住-4



A-10住-6



A-10住-8



A-10住-9



A-10住-5



A-10住-10



A-10住-11



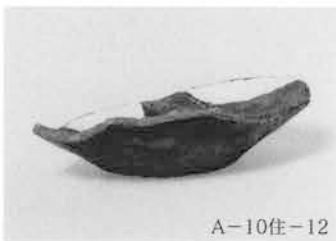
A-10住-13



A-10住-7



A-12住-1



A-10住-12



A-12住-3



A-12住-2



A-12住-4



A-12住-5



A-12住-6



A-12住-7



A-14住-I



A-14住-3



A-14住-2



A-14住-4



A-14住-5



A-14住-6



A-14住-8



A-14住-7



A-14住-9



A-14住-12



A-14住-10



A-14住-11



A-14住-14



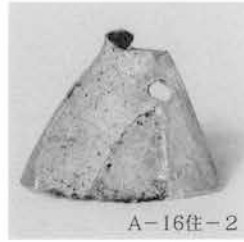
A-14住-13



A-14住-15



A-16住-1



A-16住-2



A-16住-3



A-16住-4



A-16住-5



A-16住-6



A-17住-1



A-17住-2



A-17住-4



A-17住-3



A-17住-5



A-17住-6



A-17住-7



A-17住-8



A-17住-9



A-17住-10



A-17住-11



A-17住-13



A-17住-14



A-17住-12



A-17住-16



A-17住-18



A-17住-15



A-17住-17



A-17住-19



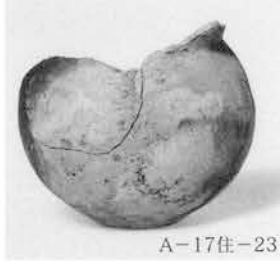
A-17住-20



A-17住-22



A-17住-21



A-17住-23



A-17住-25



A-17住-24



A-17住-27



A-17住-26



A-17住-28



A-17住-29



A-17住-30



A-17住-32



A-17住-31



A-17住-33



A-17住-34



A-17住-35



A-17住-36



A-17住-38



A-17住-37



A-17住-40



A-17住-39



A-17住-41



A-17住-42



A-17住-43



A-17住-44



A-17住-49



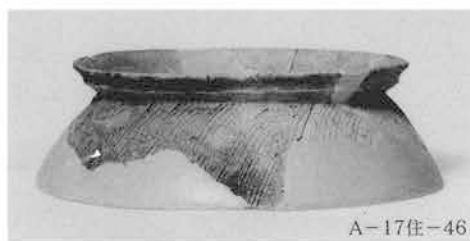
A-17住-45



A-17住-47



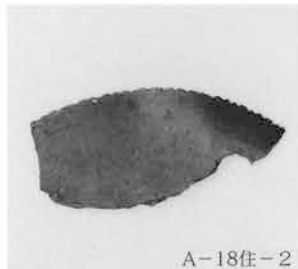
A-17住-50



A-17住-46



A-18住-1



A-18住-2



A-18住-5



A-18住-3



A-18住-4



A-18住-7



A-18住-8



A-18住-6



A-18住-9



A-18住-10



A-18住-11



A-22住-1



A-22住-3



A-22住-4



A-22住-5



A-22住-6



A-22住-2



A-23住-1



A-23住-2



A-23住-3



A-23住-4



A-23住-5



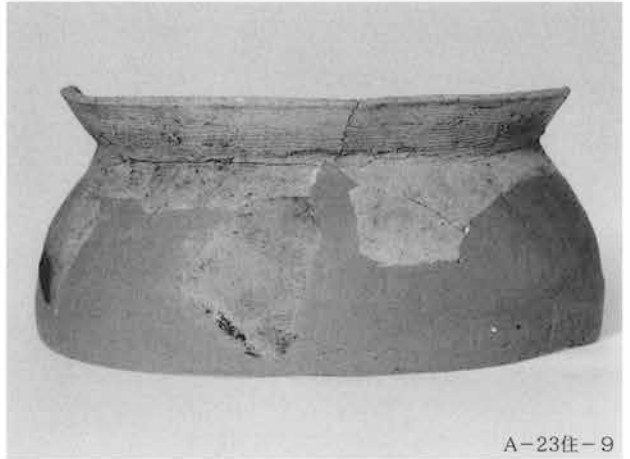
A-23住-6



A-23住-7



A-23住-8



A-23住-9



A-23住-10



A-24住-1

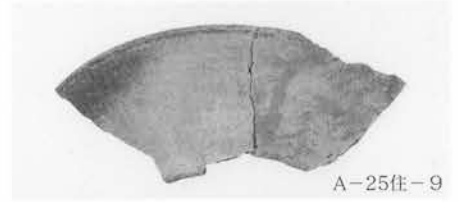
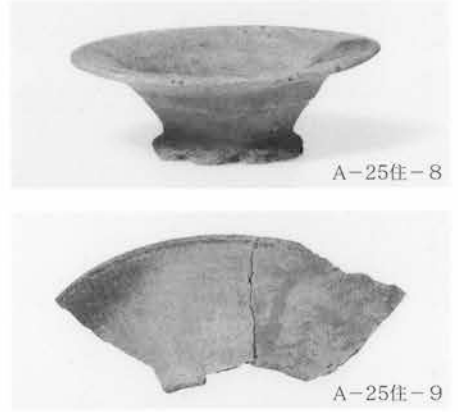


A-24住-2



A-24住-3







A-27住-1



A-30住-1



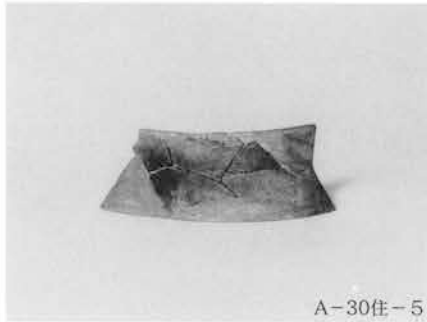
A-30住-2



A-30住-4



A-30住-3



A-30住-5



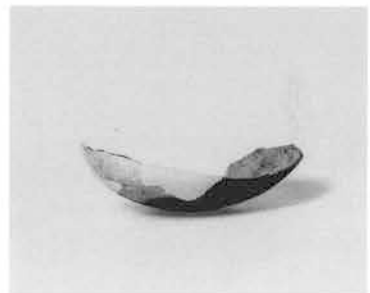
A-31住-1



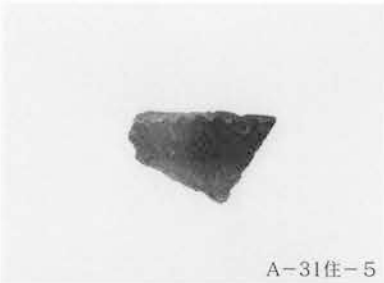
A-31住-2



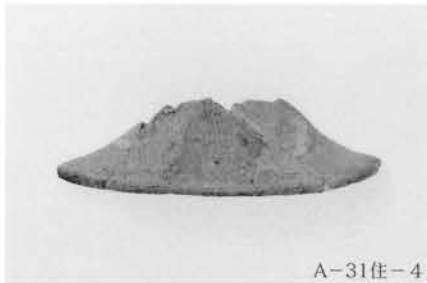
A-31住-3



A-31住-4



A-31住-5



A-31住-6



A-32住-2



A-32住-1



A-34住-1



A-34住-3



A-34住-5



A-34住-2



A-34住-4



A-35住-1



A-35住-2



A-36住-1



A-36住-2



A-36住-3



A-36住-4



A-36住-5



A-36住-6



A-37住-1



A-37住-3



A-41住-1



A-43住-2



A-43住-1



A-44住-1



A-44住-2



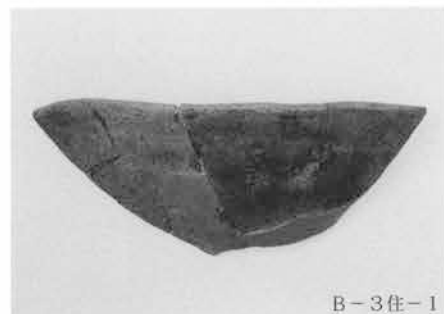
A-41住-2



A-68住-1



A-68住-2



B-3住-1



B-3住-2



B-3住-3



C-6住-1



C-6住-2



C-6住-3



C-6住-4



C-12住-1



C-12住-3



C-12住-4



C-12住-2



C-12住-6



C-12住-7



C-12住-5



A-1周-1



A-1周-2



A-1周-4



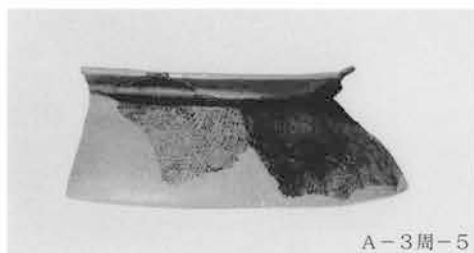
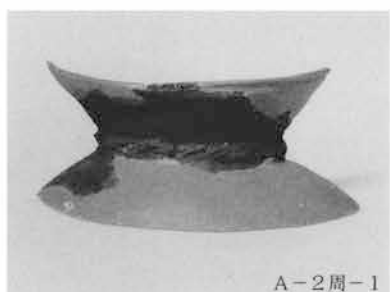
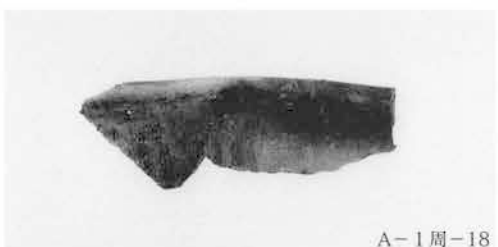
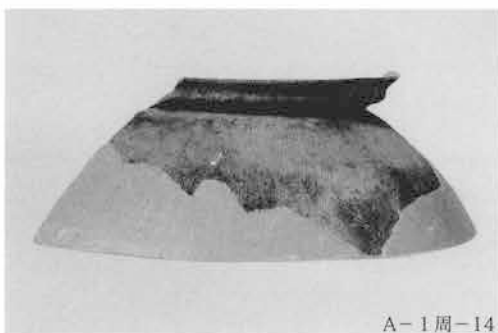
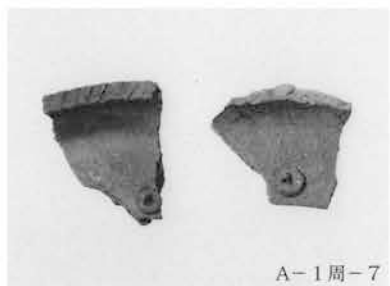
A-1周-3



A-1周-5



A-1周-6





A-4周-3



A-4周-4



A-5周-1



A-5周-2



A-5周-4



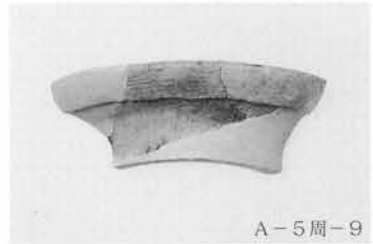
A-5周-3



A-5周-5



A-5周-7



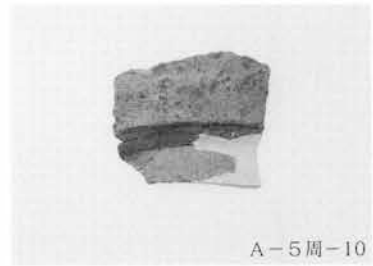
A-5周-9



A-5周-6



A-5周-5



A-5周-10



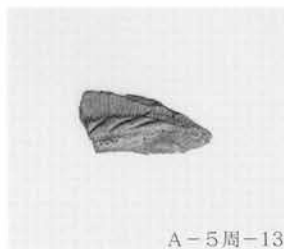
A-5周-8



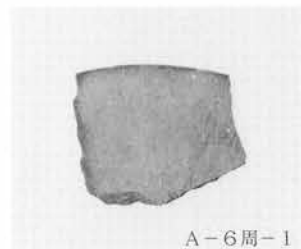
A-5周-11



A-5周-12



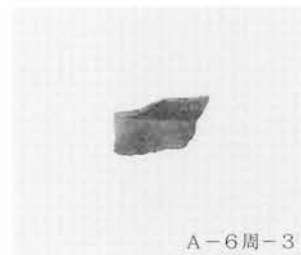
A-5周-13



A-6周-1



A-6周-2



A-6周-3



A-7周-1



A-7周-2



A-7周-3



A-7周-4



A-7周-5



A-7周-6



A-7周-7



A-7周-8



A-7周-9



A-7周-10



A-7周-11



A-7周-12



A-7周-14



A-7周-13



A-7周-15



A-7周-16



A-7周-20



A-7周-21



A-7周-17



A-7周-18



A-7周-19



A-7周-22



A-7周-23



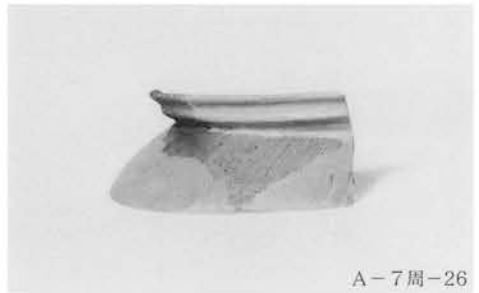
A-7周-25



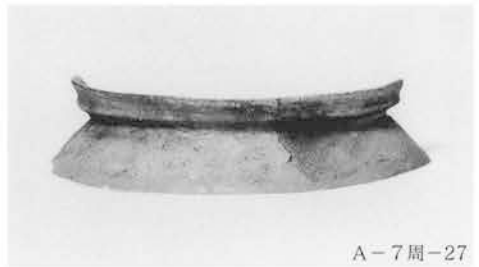
A-7周-24



A-7周-29



A-7周-26



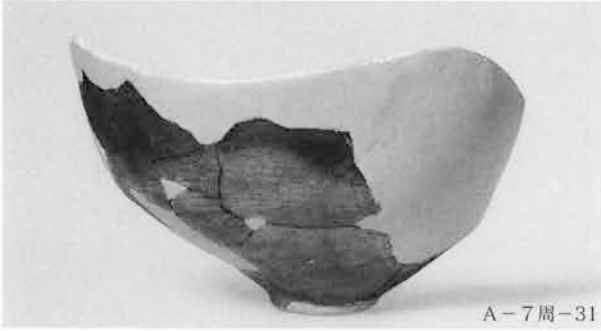
A-7周-27



A-7周-28



A-7周-30



A-7周-31



A-7周-33



A-7周-32



A-8周-3



A-9周-1



A-8周-1



A-8周-2



A-9周-2



A-9周-3



A-10周-1



A-13周-2



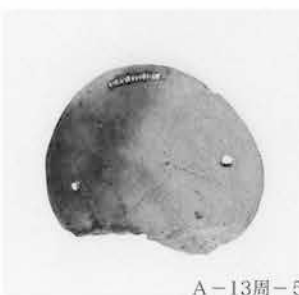
A-13周-1



A-13周-3



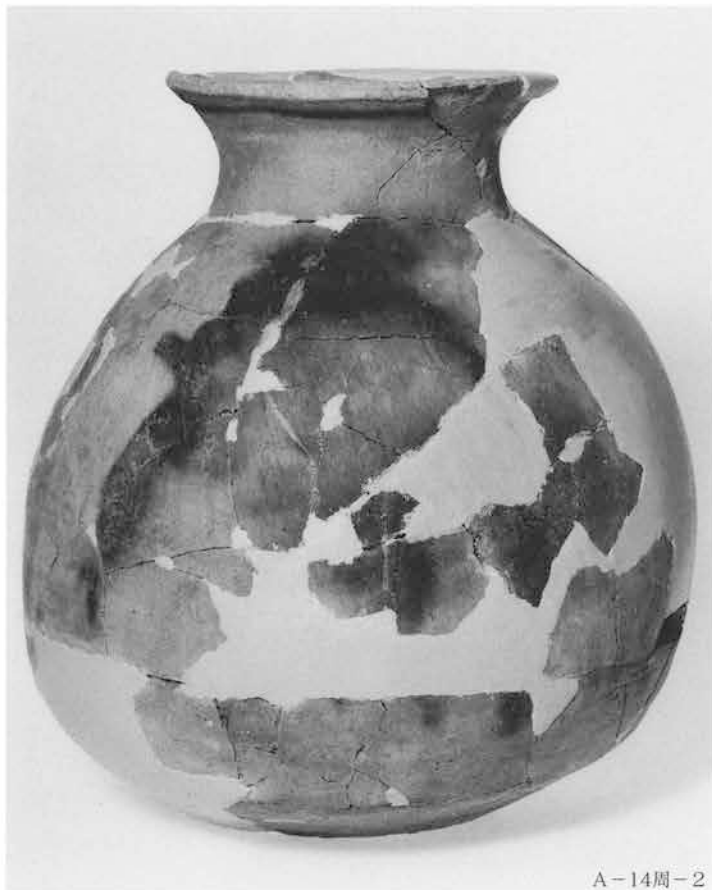
A-13周-4



A-13周-5



A-14周-1



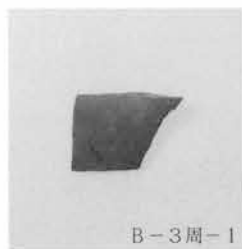
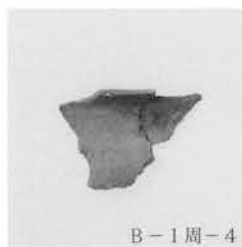
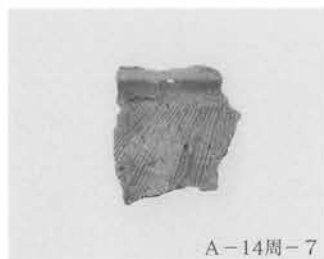
A-14周-2

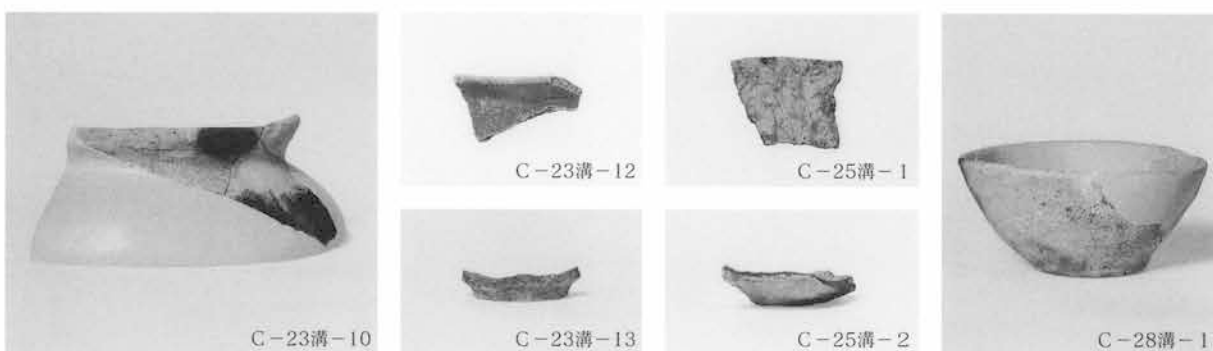
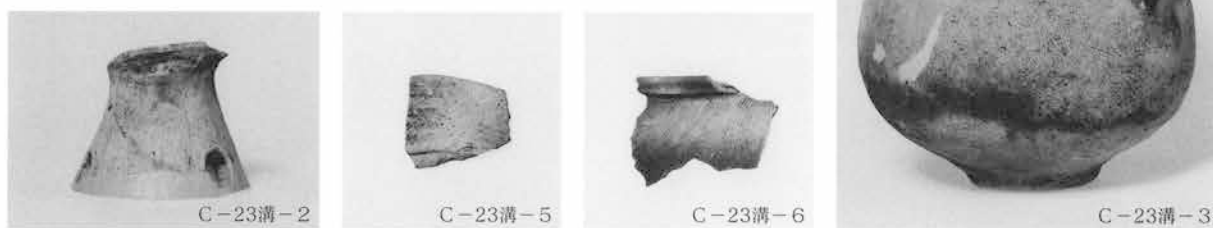
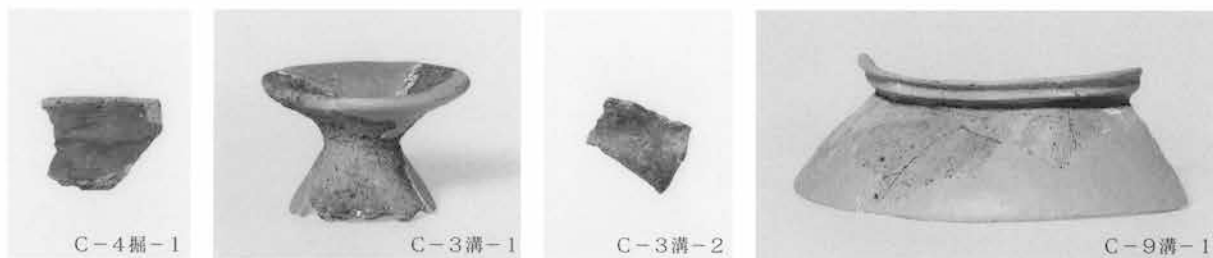


A-14周-3



A-14周-4







C-28溝-6



C-28溝-7



C-28溝-10



C-28溝-11



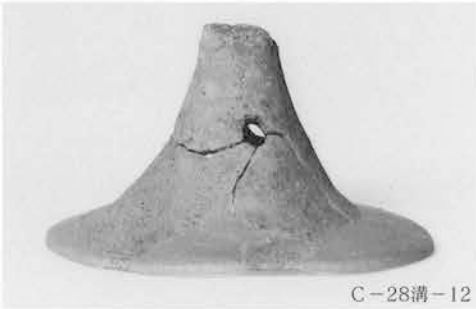
C-28溝-8



C-28溝-9



C-28溝-14



C-28溝-12



C-28溝-13



C-28溝-15



C-28溝-16



C-28溝-17



C-28溝-18



C-28溝-19



C-28溝-20



C-28溝-22



C-28溝-21



C-28溝-23



C-28溝-24



C-28溝-25



C-28溝-26



C-28溝-27



C-28溝-28



C-28溝-29



C-28溝-30



C-28溝-31



C-28溝-32



C-28溝-33



C-28溝-34



C-28溝-35



C-28溝-36



C-28溝-37



C-28溝-38



C-28溝-40



C-28溝-39



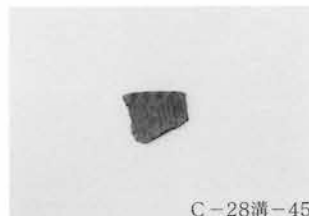
C-28溝-42



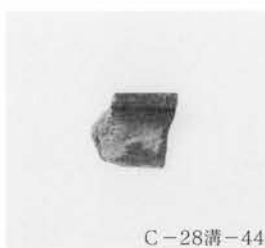
C-28溝-41



C-28溝-43



C-28溝-45



C-28溝-44



C-28溝-46



C-28溝-47



C-28溝-48



C-28溝-49



C-28溝-50



C-28溝-51



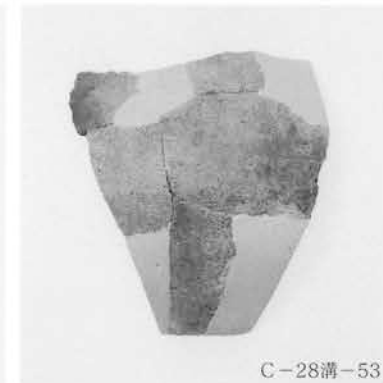
C-28溝-52



C-28溝-54

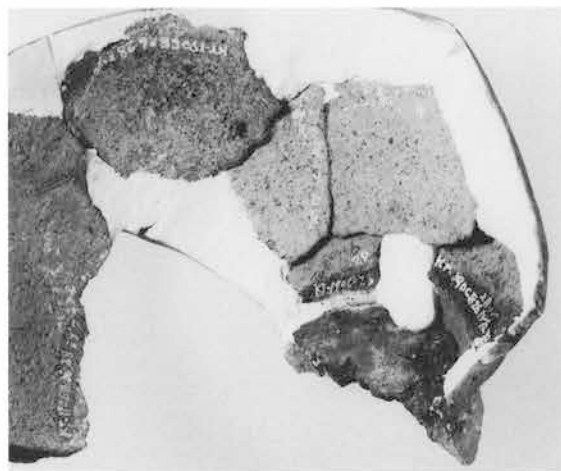
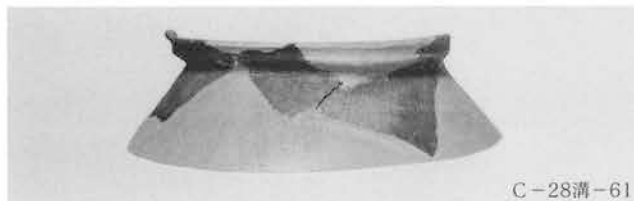
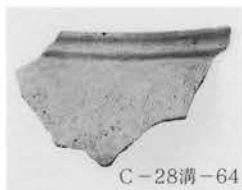
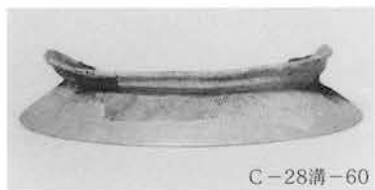


C-28溝-55



C-28溝-53







C-28溝-69



C-28溝-71



C-28溝-74



C-28溝-73



C-28溝-75



C-28溝-76



C-28溝-77



C-28溝-78



C-28溝-79



C-28溝工具跡



C-28溝-80



C-28溝-82



C-28溝-81



A-48坑-1



A-1 焼土坑-1



A-76坑-1



B-1坑-1



A-1 竖穴状-3



A-1 竖穴状-2



A-1 竖穴状-5



A-1 竖穴状-1



A-1 竖穴状-4



A-1 竖穴状-8



A-1 竖穴状-6



A-1 土群-1



A-1 土群-3



A-1 竖穴状-7



A-1 土群-2



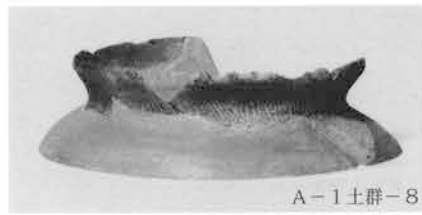
A-1 土群-4



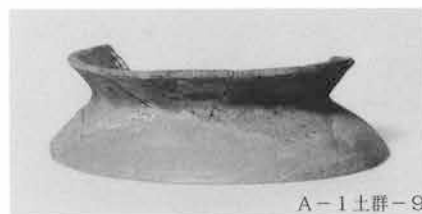
A-1 土群-5



A-1 土群-6



A-1 土群-8



A-1 土群-9



A-1 土群-10



B-1 土群-1



B-1 土群-3



A-1 土群-7



B-1 土群-2

PL148

2. 奈良・平安時代の出土遺物



A-1住-1



A-1住-2



A-1住-6



A-1住-5



A-2住-4



A-2住-2



A-3住-1



A-3住-3



A-2住-3



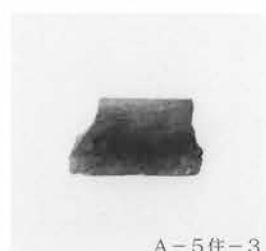
A-3住-2



A-5住-1



A-5住-2



A-5住-3



A-6住-1



A-6住-2



A-6住-3



A-7住-1



A-7住-2



A-7住-3



A-7住-4



A-8住-1



A-8住-2



A-11住-3



A-11住-2



A-11住-1



A-11住-4



A-11住-5



A-11住-6



A-11住-7



A-11住-8



A-21住-1



A-21住-2



A-21住-3



A-33住-1



A-33住-2



A-33住-3



A-33住-5



A-33住-6



A-33住-4



A-33住-7



A-39住-1



A-39住-4



A-39住-5



A-39住-6



A-42住-1



A-42住-2



A-42住-3



A-45住-1



A-45住-2



A-42住-3



A-42住-4



A-45住-3



A-45住-4



A-42住-4



A-45住-5



A-45住-6



A-49住-1



A-45住-7



A-48住-1



A-45住-9



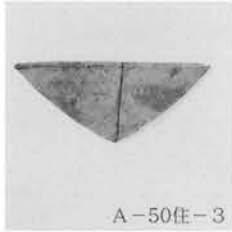
A-48住-2



A-49住-2



A-50住-1



A-50住-3



A-51住-1



A-51住-2



A-50住-2



A-51住-3



A-51住-5



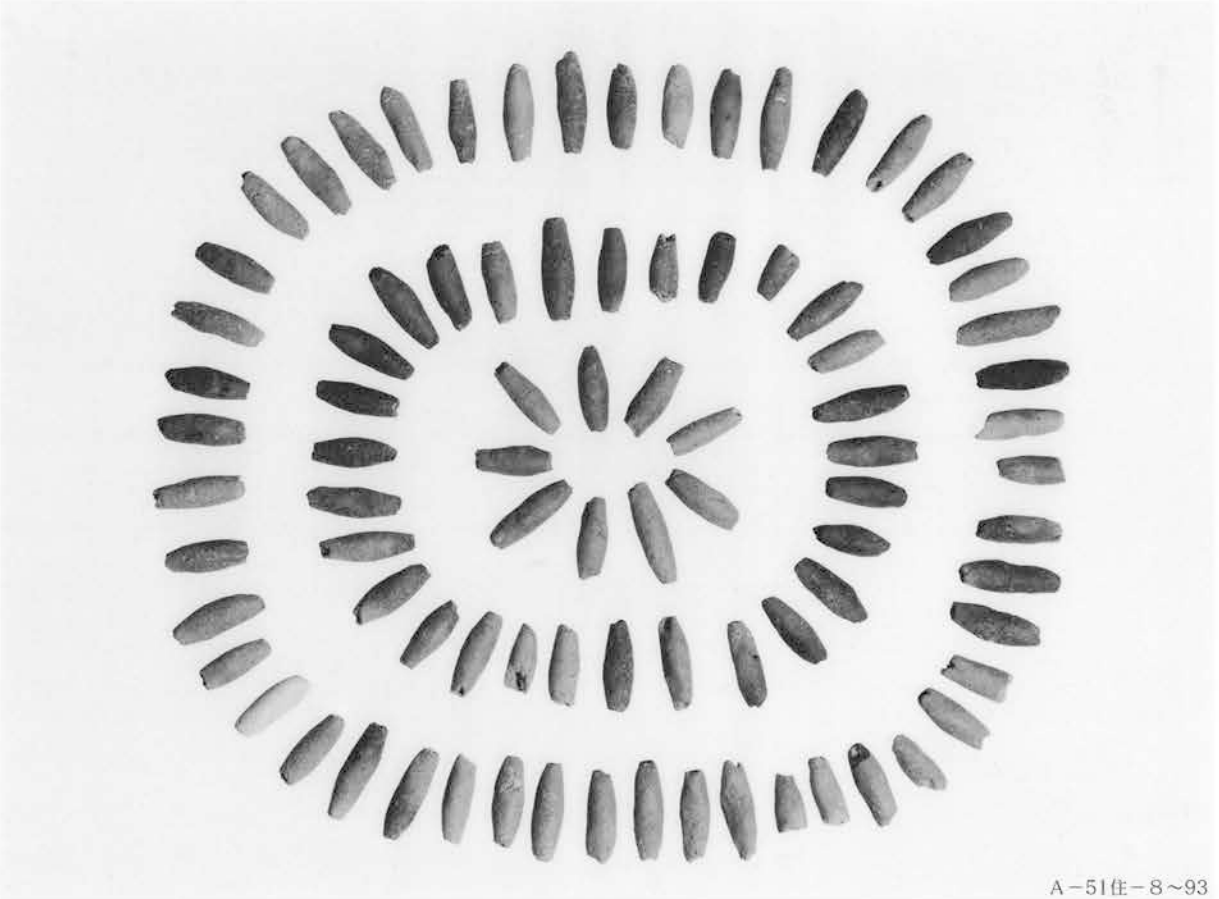
A-51住-4



A-51住-6



A-51住-7



A-51住-8~93



A-52住-1



A-52住-2



A-53住-1



A-53住-2



A-52住-3



A-53住-4



A-54住-1



A-54住-2



A-54住-4



A-55住-1



A-55住-2



A-55住-3



A-55住-5



A-55住-6



A-55住-7



A-55住-9



A-55住-11



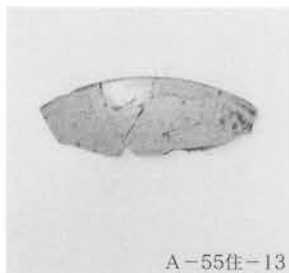
A-55住-8



A-55住-10



A-55住-12



A-55住-13



A-55住-14



A-55住-16



A-55住-15



A-55住-17



A-56住-1



A-57住-1



A-57住-2



A-57住-3



A-57住-5



A-57住-7



A-60住-2



A-57住-4



A-57住-6



A-62住-1



A-60住-1



A-62住-2



A-62住-9



A-62住-3



A-62住-10



A-62住-4



A-62住-5



A-62住-11



A-63住-1



A-63住-2



A-62住-12



A-63住-3



A-63住-4



A-63住-5



A-63住-7



A-63住-6



A-64住-2



A-64住-3



A-64住-5



A-64住-4



A-65住-2



A-65住-1



A-65住-3



A-65住-4



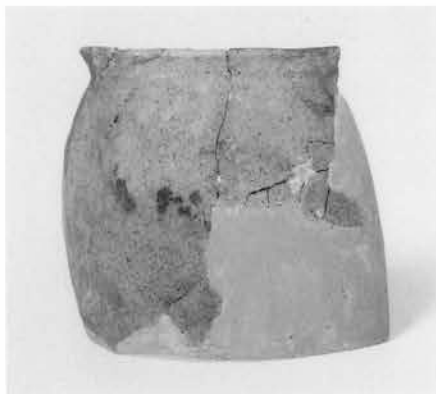
A-66住-1



A-66住-2



A-66住-3



A-66住-4



A-66住-7



A-66住-5



A-69住-1



A-69住-2



A-69住-4



A-69住-3



B-1住-4



A-69住-5



B-1住-1



B-1住-5



B-1住-6



B-1住-9





C-4住-3



C-4住-4



C-4住-7



C-4住-5



C-4住-6



C-5住-1



C-5住-3



C-5住-2



C-5住-5



C-7住-1



C-7住-5



C-7住-2



C-7住-6



C-9住-1



C-7住-3



C-7住-4



C-9住-2



C-9住-3



C-9住-4



C-9住-6



C-9住-5



C-9住-7



C-10住-1



C-10住-2



C-10住-4



C-10住-5



C-10住-3



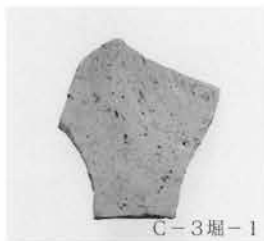
C-10住-6



C-11住-1



C-1堀-1



C-3堀-1



C-1井-1



C-4井-1



C-4井-2



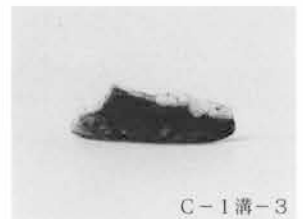
C-7溝-1



C-1溝-1



C-1溝-2



C-1溝-3



C-1溝-4



C-1溝-5



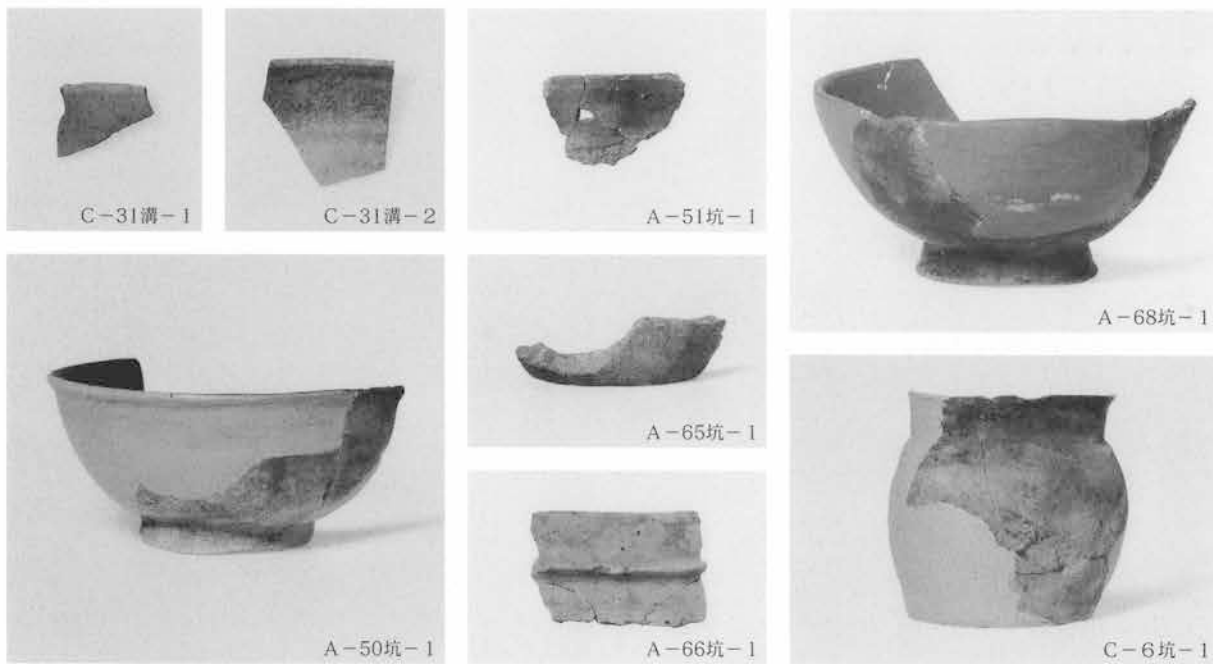
C-1溝-6



C-26溝-1

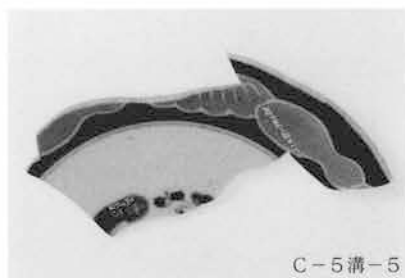
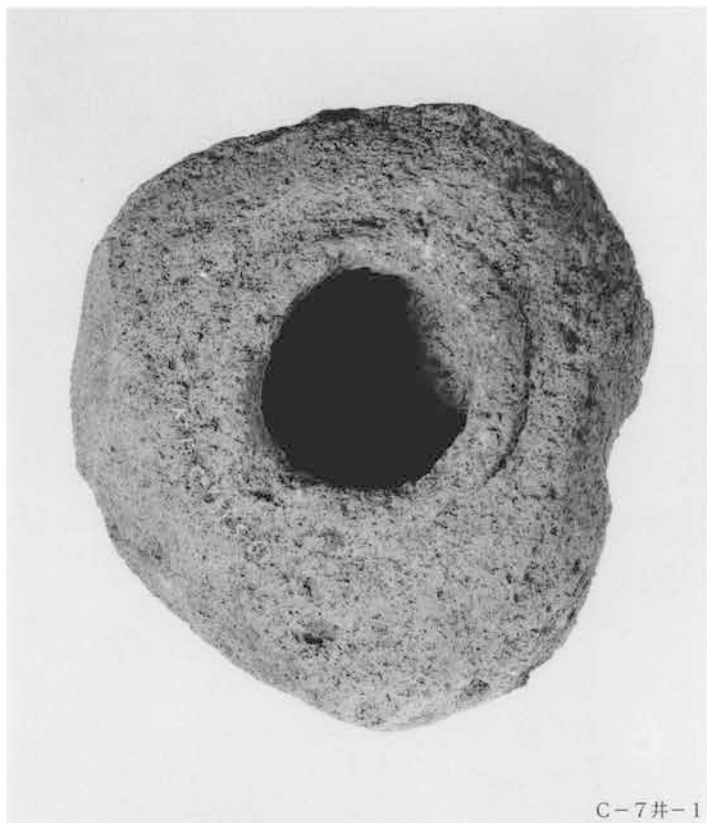


C-29溝-1



3. 近世以降の出土遺物





4. 遺構外出土遺物



弥-1



弥-2



弥-3



弥-4



弥-5



弥-6



古-1



古-3



古-5



古-2



古-7



古-4



古-6



古-8



古-9



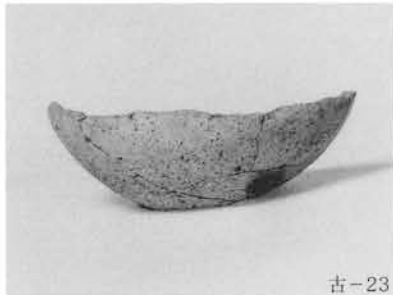
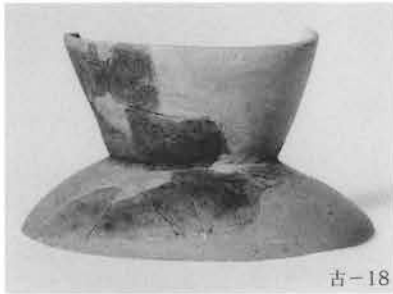
古-10



古-11



古-12





古-32



古-33



古-34



古-35



古-36



古-37



古-38



古-39



古-40



奈・平-1



奈・平-2



奈・平-3



奈・平-4



奈・平-5



奈・平-6



奈・平-9



奈・平-10



奈・平-7



奈・平-8



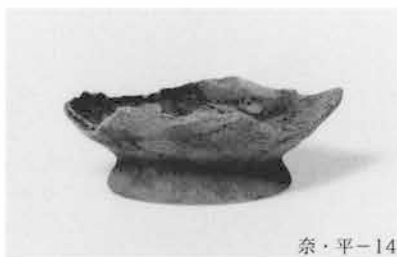
奈・平-11



奈・平-12



奈・平-13



奈・平-14



奈·平-15



奈·平-16



奈·平-17



奈·平-18



奈·平-19



奈·平-20



奈·平-22



奈·平-21



奈·平-23



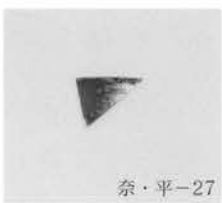
奈·平-24



奈·平-25



奈·平-26



奈·平-27



奈·平-31



奈·平-32



奈·平-28



奈·平-30



奈·平-29



中-1



中-2



中-3



中-4



中-5



中-6



中-7



中-8



中-9



中-10



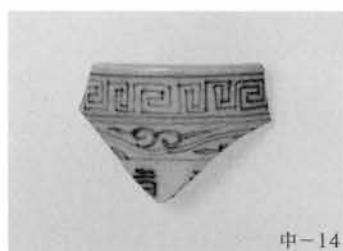
中-11



中-12



中-13



中-14



中-15



中-16



中-17



中-18



中-19



石-1



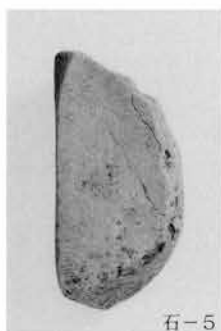
石-2



石-3



石-4



石-5



石-6



1. D区全景 北から



2. D区全景 西から



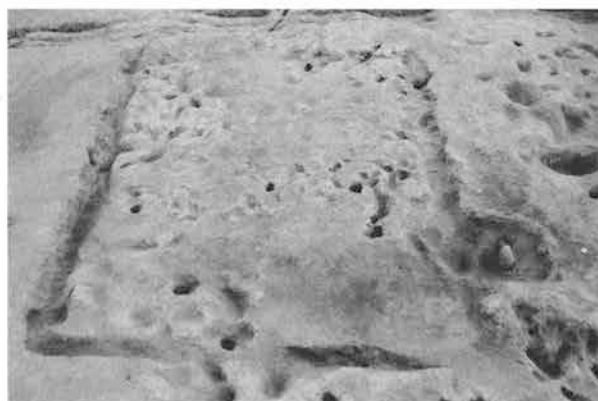
1. D区1号住居跡全景 南から



2. D区1号住居跡竈セクション 南から



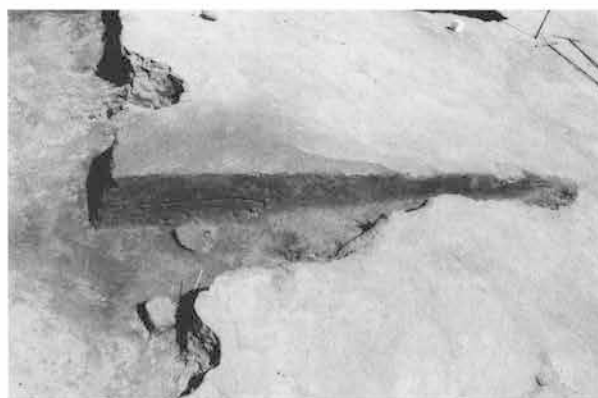
3. D区1号住居跡竈全景 南から



4. D区1号住居跡掘り方全景 南から



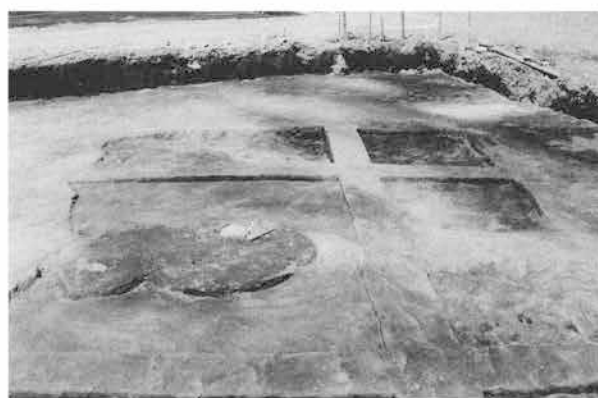
5. D区2号住居跡全景 南から



6. D区2号住居跡竈セクション 南から



7. D区2号住居跡掘り方全景 南から



8. D区3号住居跡セクション 東から



1. D区3号住居跡全景 南から



2. D区3号住居跡竈セクション 南から



3. D区3号住居跡掘り方全景 南から



4. D区4号住居跡全景 北から



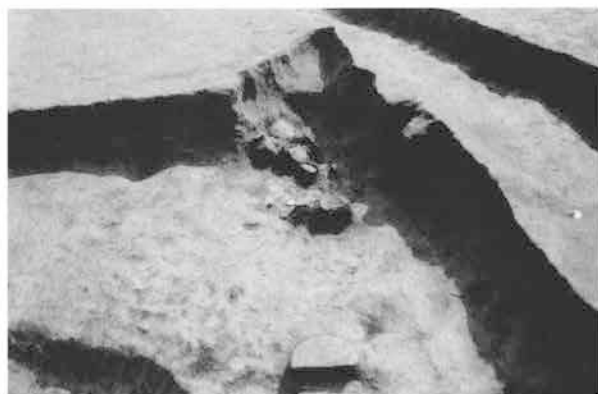
5. D区5号住居跡セクション 南から



6. D区5号住居跡全景 西から



7. D区5号住居跡竈セクション 南から



8. D区5号住居跡竈全景 西から



1. D区5号住居跡竈掘り方全景 西から



2. D区5号住居跡掘り方全景 西から



3. D区6号住居跡セクション 南から



4. D区6号住居跡セクション 西から



5. D区6号住居跡全景 西から



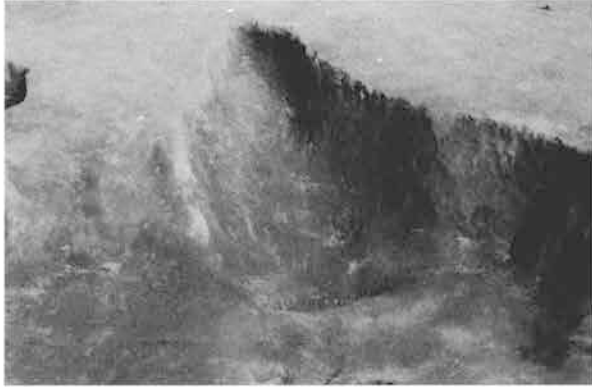
6. D区6号住居跡遺物出土状況 西から



7. D区6号住居跡竈セクション 南から



8. D区6号住居跡竈全景 西から



1. D区6号住居跡竈掘り方全景 西から



2. D区6号住居跡掘り方全景 西から



3. D区7号住居跡セクション 南から



4. D区7号住居跡全景 南から



5. D区7号住居跡掘り方全景 西から



6. D区1号方形周溝墓セクション 南から



7. D区1号方形周溝墓セクション 南西から



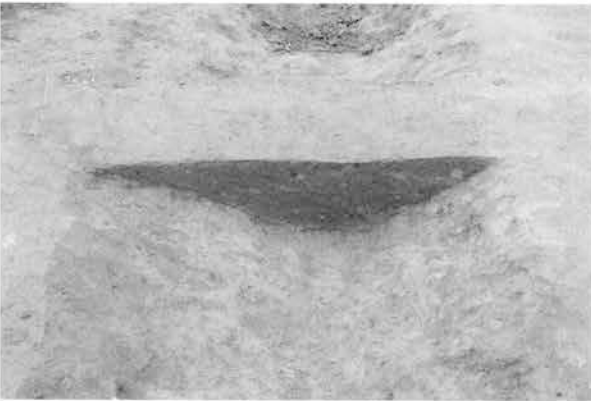
8. D区1号方形周溝墓全景 南から



1. D区1号方形周溝墓全景 北西から



2. D区1号方形周溝墓遺物出土状況 北から



3. D区1号溝セクション 東から



4. D区1号溝全景 西から



5. D区2号溝セクション 南西から



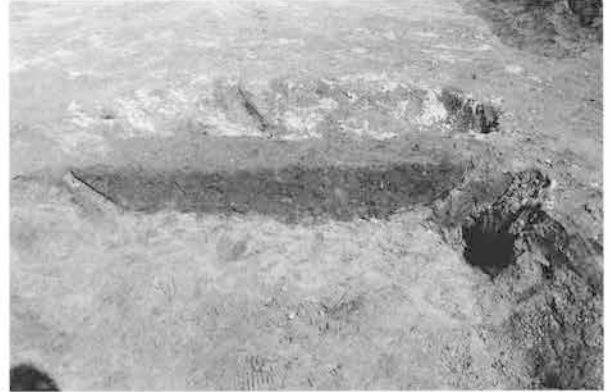
6. D区2号溝セクション 北東から



7. D区2号溝全景 西から



1. D区2号溝全景 東から



2. D区1号土坑セクション 西から



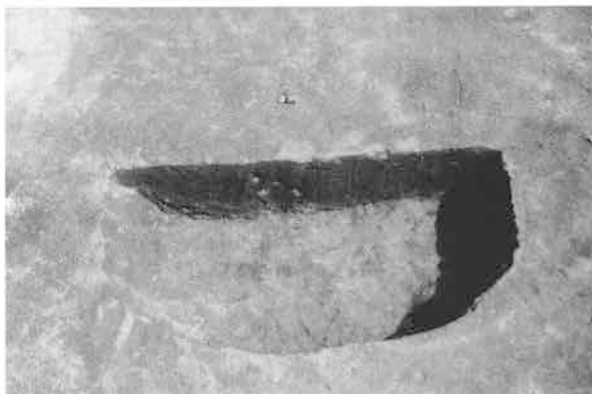
3. D区1号土坑全景 南から



4. D区2号土坑セクション 南から



5. D区2号土坑全景 東から



6. D区4号土坑セクション 南から



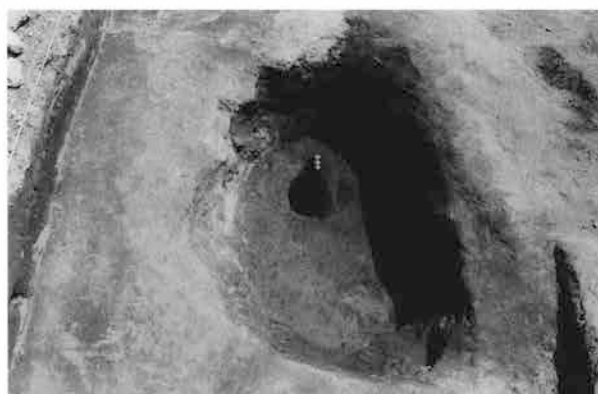
7. D区4号土坑全景 南から



1. D区1号ピットセクション 南から



2. D区1号土坑墓全景 南から



3. D区1号土坑墓全景 西から



4. D区1号土坑墓セクション 北から



5. D区1号竪穴状遺構全景 北から



6. D区1号竪穴状遺構セクション 西から

PL174

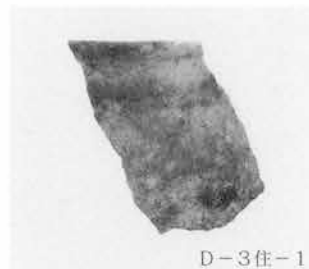
5. D区の出土遺物



D-1住-1



D-2住-1



D-3住-1



D-1住-2



D-5住-1



D-5住-2



D-5住-3



D-5住-5



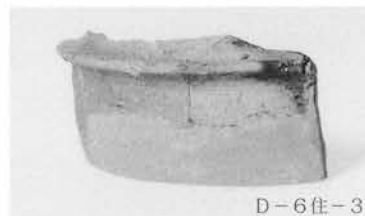
D-5住-4



D-6住-1



D-6住-2



D-6住-3



D-6住-4



D-6住-5



D-7住-1



D-7住-2



D-1周-2



D-1周-1



D-1坑-1



D-2坑-1



D-1墓-1



D-1墓-2



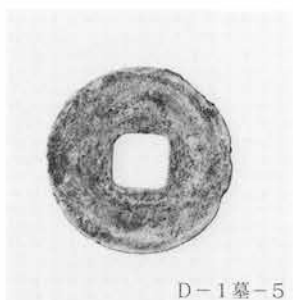
D-1墓-3



D-1墓-4



D-1墓-5



D-1墓-6



D-1 墓一人甬



D-1 鑿穴状-1



D-1 鑿穴状-3



D-1 鑿穴状-2



D-1 鑿穴状-4



D-1 鑿穴状-4



D-1 鑿穴状-5

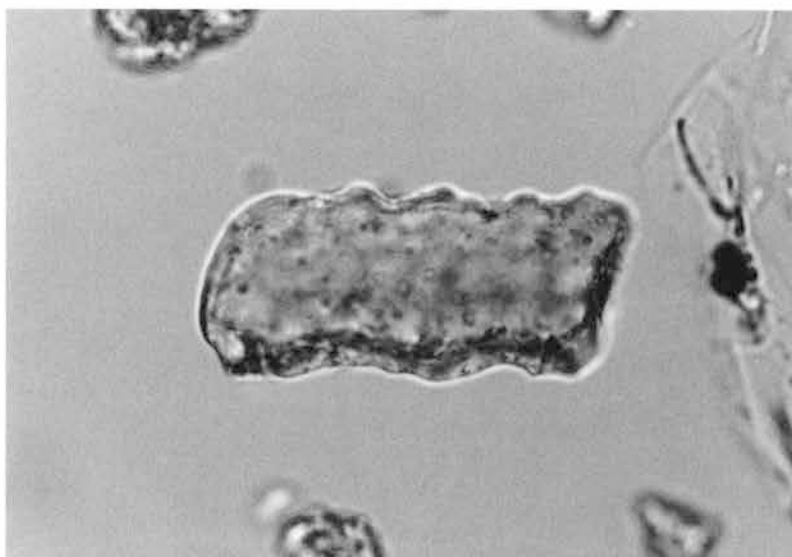


D-1 鑿穴状-6

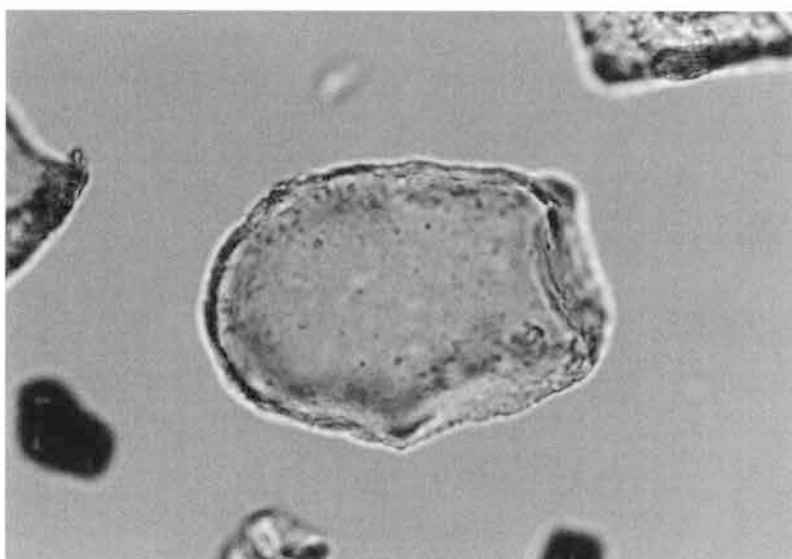
植物珪酸体の顕微鏡写真(1)



1 イネ

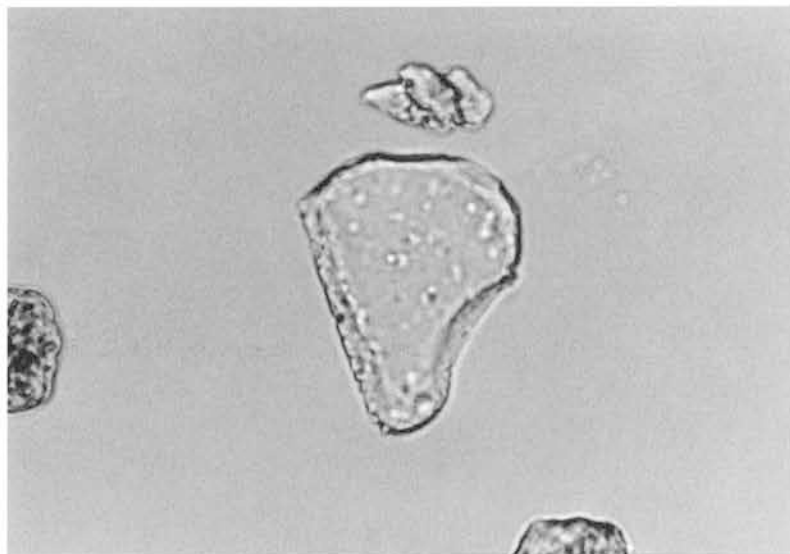


2 キビ族型



3 ヨシ属

0 50 100 μm



4 ススキ属型

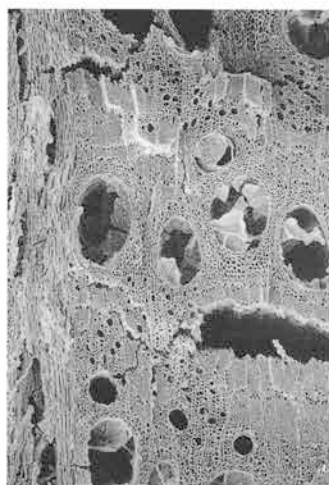


5 ウシクサ属B



6 ネザサ節型

波志江中野面遺跡23号住居跡出土炭化材



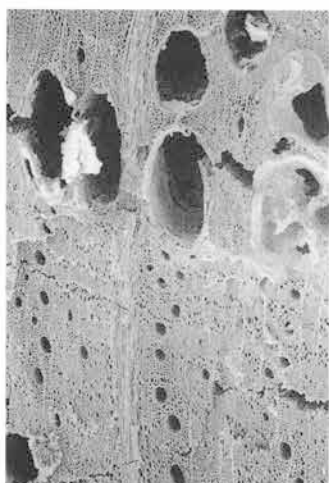
1 a. コナラ節 (横断面)
No26 bar:0.5mm



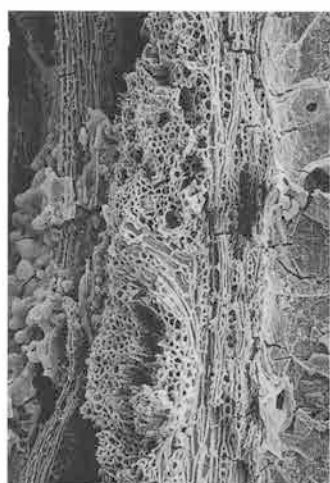
1 b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



1 c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



2 a. クヌギ節 (横断面)
No28 bar:0.5mm



2 b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



2 c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



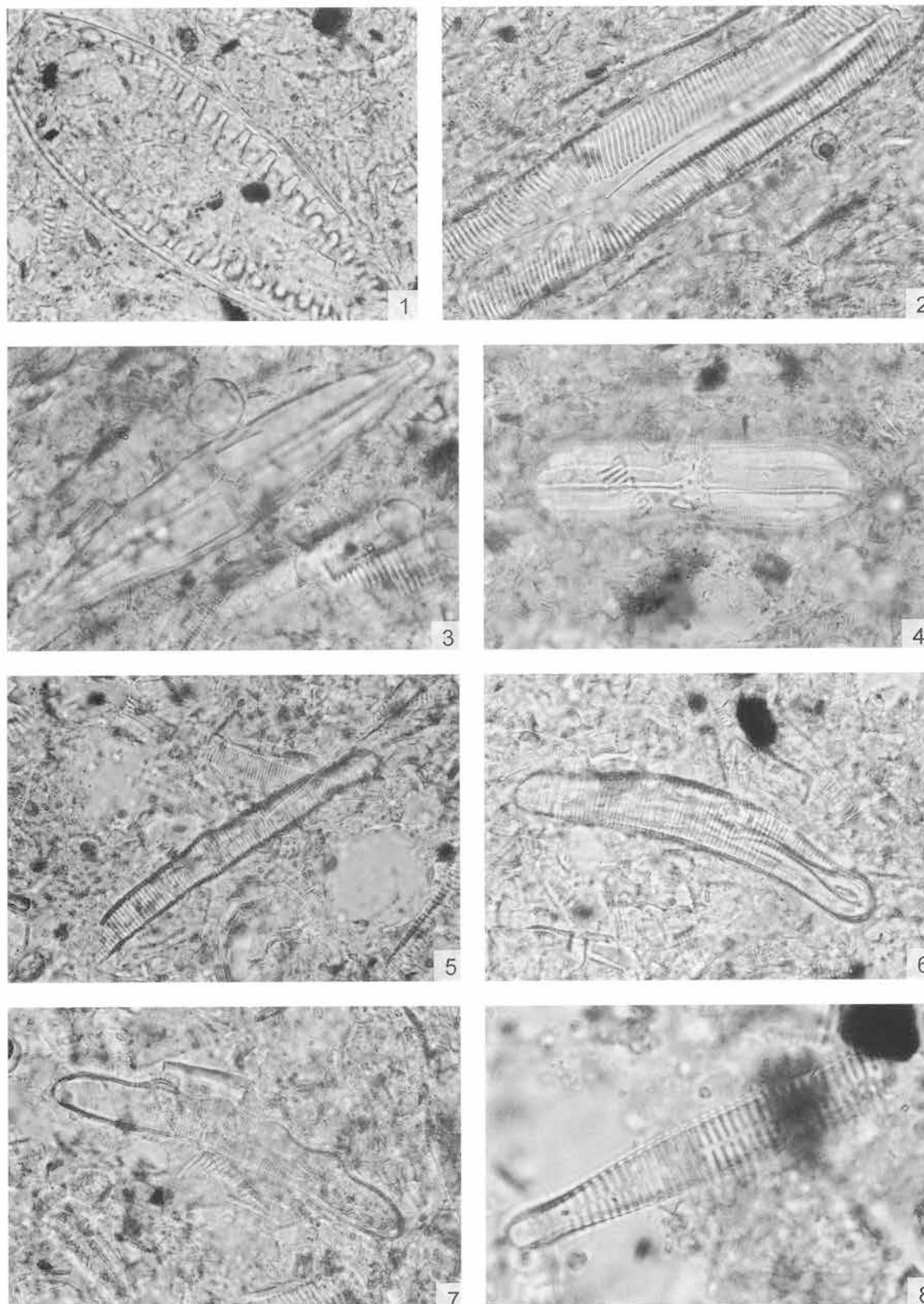
3 a. 広葉樹 (横断面)
No1 bar:0.5mm



3 b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



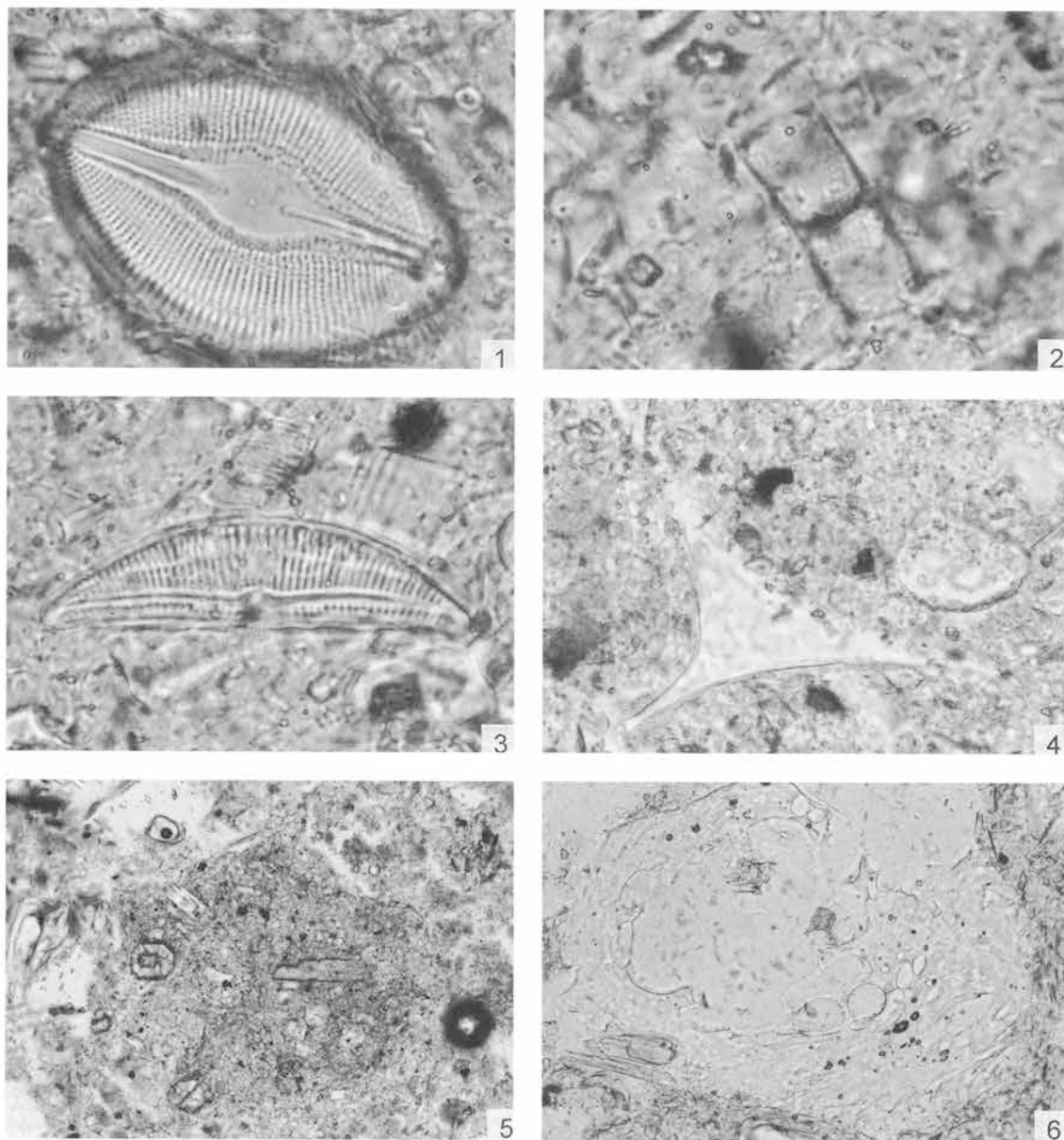
3 c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



土器胎土および粘土類中の微化石類(1)

(スケール; No.1: 50 μm, No.2-7: 40 μm, No.8: 20 μm)

- | | |
|---|--|
| 1. 珪藻化石 (<i>Surirella tenera</i>) No.7 | 2. 珪藻化石 (<i>Pinnularia viridis</i>) No.6 |
| 3. 珪藻化石 (<i>Stauroneis phoenicenteron</i>) No.6 | 4. 珪藻化石 (<i>Navicula americana</i>) No.6 |
| 5. 珪藻化石 (<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>undulata</i>) No.6 | 6. 珪藻化石 (<i>Eunotia monodon</i>) No.6 |
| 7. 珪藻化石 (<i>Eunotia monodon</i>) No.7 | 8. 珪藻化石 (<i>Synedra ulna</i>) No.20 |



土器胎土および粘土類中の微化石類(2) (スケール: No.1-3: 40 μ m, No.4: 50 μ m, No.5: 200 μ m, No.6: 100 μ m,)

1.珪藻化石 (*Diploneis yatukaensis*) No.7 2.珪藻化石 (*Melosira ambigua*) No.6

3.珪藻化石 (*Amphora ovalis*) No.6 4.ガラス質 No.16

5.凝灰岩質 No.18 6.軽石型ガラス No.6

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第281集

波志江中野面遺跡(1)

—古墳時代以降編—

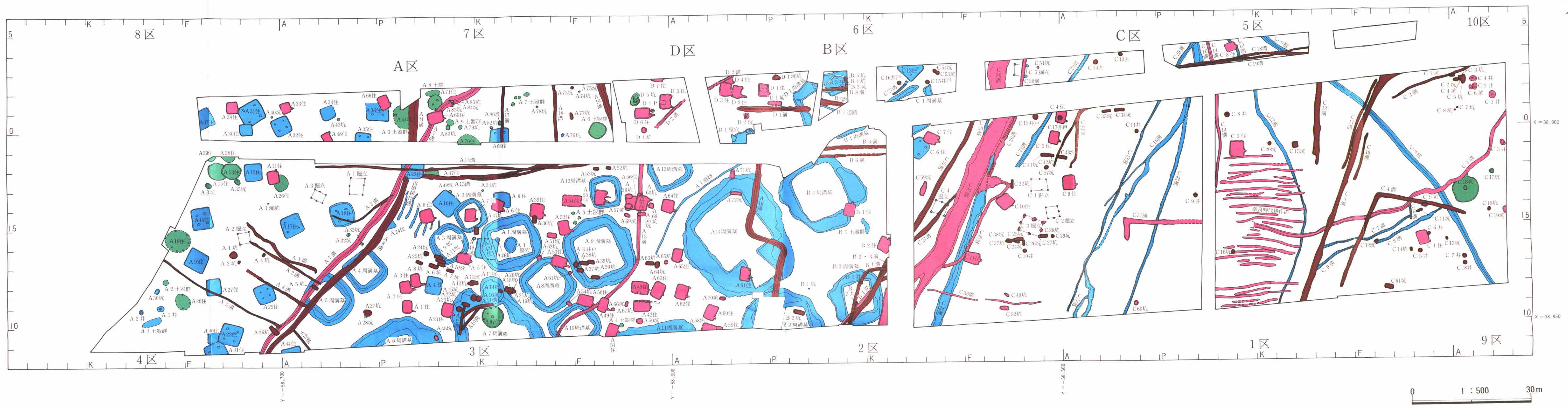
北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集

平成13年3月19日印刷
平成13年3月26日発行

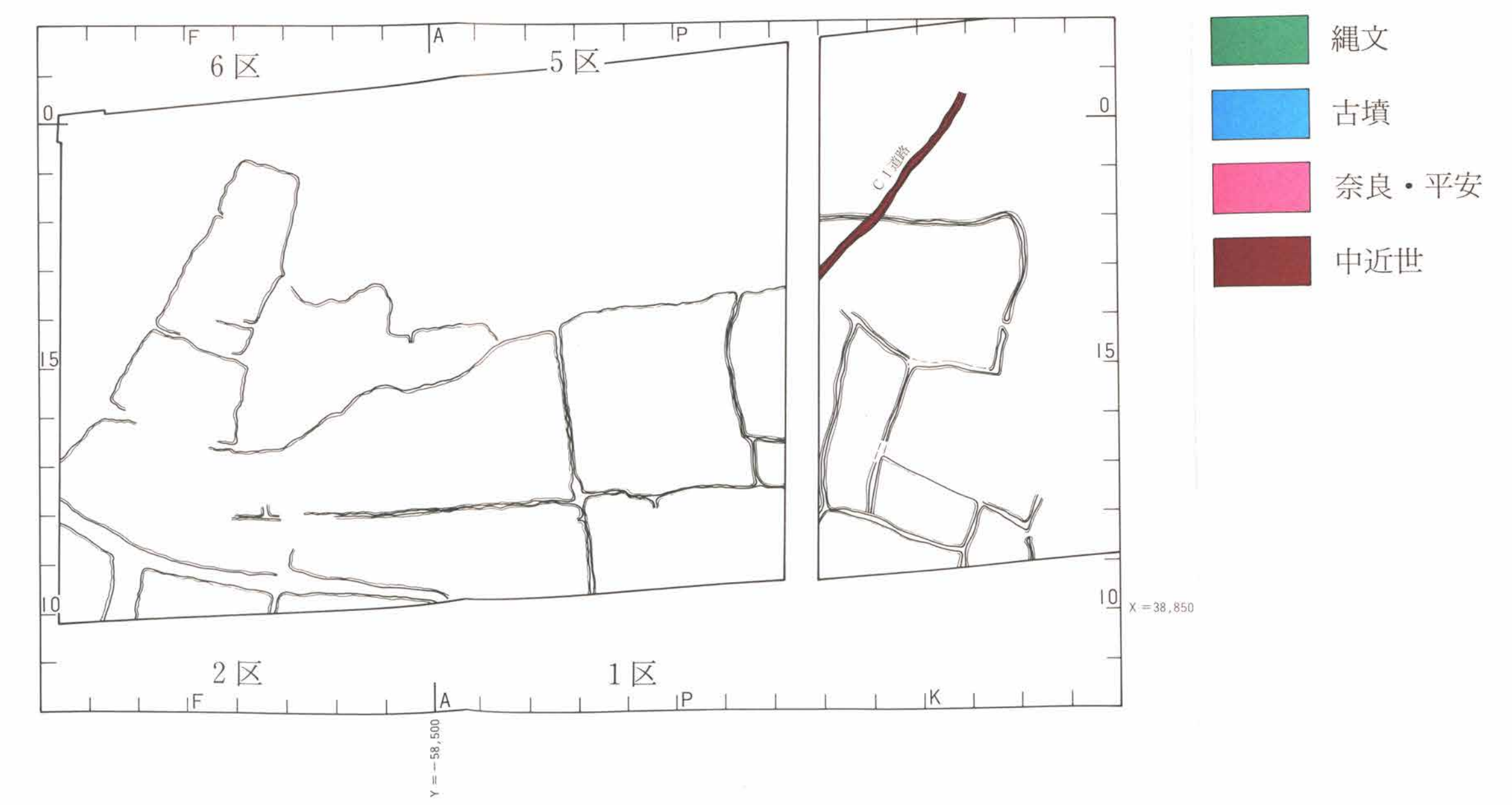
編集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社



As-B下水田面 (C区)



付図 波志江中野面遺跡全体図